預言者伝（スィーラ）全集

第2集

ヒジュラとマディーナの建設

第7〜14巻



Hj Che Alim Hj Che Haron

AK (Kelantan)

quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY

この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売はできません。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）全集

第 2 集

ヒジュラとマディーナの建設

第 7〜14 巻：クルアーンと真正なハディースに基づく、マディーナへのヒジュラからイフク（中傷）事件まで

وَقُل رَّبِّ أَدْخِلْنِي مُدْخَلَ صِدْقٍ وَأَخْرِجْنِي مُخْرَجَ صِدْقٍ وَاجْعَل لِّي مِن لَّدُنكَ سُلْطَانًا نَّصِيرًا

「（祈って）言え、『主よ、わたしを正しい入り方で入らせ、また正しい出方で出させ、あなたの御許から、助けとなる権威をわたしに授けて下さい。』」

夜の旅章 17:80

Hj Che Alim Hj Che Haron

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売はできません。

謝辞

私たち自身の中から一人の使徒を遣わされたアッラーに、すべての称賛あれ。その使徒は私たちの苦しみを心に痛め、私たちの幸福を強く願われた。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、そのご家族と教友たちに祝福と平安あれ。教友たちはかれの生涯を目撃し、それを守り、完全な誠実さをもって私たちに伝えてくれた。

この電子書籍を、愛する妻

Zaharah Mohd Latif、

愛する子どもたち

Muhammad Hafiz, Noor Hazwani, Abdul Hakim, Noor Hidayah, Nor Aqila と **Nor Atiqah**、

そして義理の息子・娘たち

Fazilah, Malek, Hanin, Fairizal と **Firwan** に捧げます。

本書は『預言者伝（スィーラ）』第 7 巻から第 14 巻までを一冊にまとめたものである。アッラーの使徒 ﷺ のマディーナへのヒジュラ、マディーナ社会の建設、バドルとウフドの戦い、ムスリムを次々と襲った試練、ハンダクの戦い、クライザ族の件、そしてイフク（中傷）事件までを収める。各巻の参考文献はそのまま残している。本書が私たちをアッラーの使徒 ﷺ により近づけ、制作に協力し、読み、広めるすべての人にとって、絶えることのない施し（サダカ・ジャーリヤ）となりますように。

本書の表紙について

本書の表紙には、人間も動物も描かれていない。描かれているのは、星の輝く夜空の下に広がる砂漠である。うねる砂丘、そこを横切る一本の道、そして道の先にはナツメヤシの並ぶオアシスがあり、地平線にはやわらかな光が差し始めている。

砂漠の道は、アッラーの使徒 ﷺ のマッカからのヒジュラを象徴している。夜の砂漠を越え、ナツメヤシの林に緑なすマディーナにたどり着かれた。そこで最初のムスリム社会を築き、バドルからハンダクまで、試練に次ぐ試練に向き合われた。

下部の紺色の帯は細い金の線に縁取られ、そこに著者名が記されている。この全集の五冊の表紙の題字は、同じ書体・大きさ・金色でそろえてあり、並べると一つのセットに見えるようになっている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

第一部：第 7 巻 — マディーナへのヒジュラ

マディーナへのヒジュラ — 序論

1. アカバの後：なぜヒジュラなのか — 婦人章 4:100；蜜蜂章 16:41

2. 先に旅立った人びと — スィーラの注

3. 待ち続けたアブー・バクル — 『サヒーフ・ブハーリー』3905

4. ダール・アン＝ナドワの陰謀 — 戦利品章 8:30

5. 包囲の夜：寝床のアリー — 伝承の評価

6. いつもと違う真昼 — 『サヒーフ・ブハーリー』3905

7. 「二本の帯の人」アスマー — 『サヒーフ・ブハーリー』3907

8. サウルの洞窟：「アッラーはわたしたちと共に」 — 悔悟章 9:40；ブハーリー 3653

9. クモとハト：何が真正か — 伝承の評価

10. ヒジュラのチーム — 図；表

11. 海岸の道と羊飼い — 『サヒーフ・ブハーリー』3615

12. スラーカ・ブン・マーリク — 『サヒーフ・ブハーリー』3906

13. ウンム・マアバドの天幕 — 伝承の評価

14. ハッラでの待ちわび — 『サヒーフ・ブハーリー』3906

15. 「この人が私に道を示してくれる」 — 『サヒーフ・ブハーリー』3911

16. クバー：最初のモスク — 悔悟章 9:108

17. アブー・アイユーブの家 — 『サヒーフ・ブハーリー』3932

18. 預言者のモスクの建設 — 表

19. マディーナの熱病と預言者の祈り — 『サヒーフ・ブハーリー』3926

20. ヒジュラ暦 — 『サヒーフ・ブハーリー』3934

21. 有名な物語とその位置づけ — 図；表

22. イスラーム以前のヤスリブ — イムラーン家章 3:103；『サヒーフ・ブハーリー』3777

23. ヒジュラの道筋の場所 — 距離の表

24. ヒジュラの人物 — 表

25. ヒジュラの年表 — 表

26. ヒジュラについてのよくある質問 — 12 の質問

27. 教訓と結び

第 7 巻の参考文献

第二部：第 8 巻 — マディーナ社会の建設

マディーナ社会の建設 — はじめに

1. マディーナの新しい社会 — 図；イムラーン家章 3:103

2. モスク：社会の中心 — スィーラの注

3. アナスの家での兄弟の契り — 『サヒーフ・ブハーリー』2294

4. 「市場を教えてください」 — 『サヒーフ・ブハーリー』3780

5. 兄弟の組み合わせ — 表

6. 兄弟の相続とその廃止 — 女性章 4:33

7. 兄弟を優先したアンサール — 『サヒーフ・ブハーリー』3798

8. アンサールへの愛は信仰のしるし — 『サヒーフ・ブハーリー』17

9. アザーン：鐘からビラールの呼びかけへ — 『サヒーフ・ブハーリー』604

10. アブドゥッラー・ブン・ザイドの夢 — 『スナン・アビー・ダーウード』499

11. ビラール：アザーンの最初の声 — スィーラの注

12. マディーナ憲章 — 表；スィーラの注

13. 聖域としてのマディーナ — 『サヒーフ・ブハーリー』1870

14. マディーナの祝福 — 『サヒーフ・ブハーリー』1885、1876、1880

15. ユダヤ教徒の隣人とアーシューラーの斎戒 — 『サヒーフ・ブハーリー』2004

16. アブドゥッラー・ブン・ウバイと偽信の芽 — 『サヒーフ・ブハーリー』4566

17. ムハージルーン最初の赤子 — 『サヒーフ・ブハーリー』3909

18. キブラがカアバへ — 雌牛章 2:144；ブハーリー 4486

19. 礼拝中に向きを変える — 『サヒーフ・ブハーリー』403

20. ラマダーンの斎戒とザカート・アル＝フィトル — 雌牛章 2:183

21. 話とその評価 — 図；表

22. 社会の四つの基本的な教え — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2485；『サヒーフ・ブハーリー』12

23. 戦いの許可 — 巡礼章 22:39–40；『サヒーフ・ブハーリー』3950

24. バドル以前のガズワとサリーヤ — 表；『サヒーフ・ブハーリー』3949、3728

25. ナフラのサリーヤと聖月 — 雌牛章 2:217

26. ヒジュラ暦 1〜2 年の年表 — 表

27. マディーナ社会についてのよくある質問 — 12 の質問

28. 教訓と結び

第 8 巻の参考文献

第三部：第 9 巻 — バドルの戦い

バドルの戦い — はじめに

1. なぜバドルなのか — 巡礼章 22:39

2. サアド・ブン・ムアーズとウマイヤ・ブン・ハラフ — 『サヒーフ・ブハーリー』3950

3. アブー・スフヤーンの隊商 — 戦利品章 8:7

4. クライシュ族の傲慢 — 戦利品章 8:47–48

5. 三百十数人 — 『サヒーフ・ブハーリー』3957

6. ウスマーンとルカイヤ — 『サヒーフ・ブハーリー』3130

7. 協議：ミクダードの言葉 — 『サヒーフ・ブハーリー』3952

8. バドルの戦場 — 戦利品章 8:42；地図

9. 雨とまどろみ — 戦利品章 8:11

10. バドルでのアッラーの使徒 ﷺ の祈り — 『サヒーフ・ムスリム』1763

11. ジブリールと天使たち — 『サヒーフ・ブハーリー』3995

12. 最初の一騎打ち — 『サヒーフ・ブハーリー』3966

13. 「楽園へ向かって立ち上がれ」 — 『サヒーフ・ムスリム』1901

14. 一握りの砂 — 戦利品章 8:17

15. 二人の若者とアブー・ジャフル — 『サヒーフ・ブハーリー』3141

16. この共同体のファラオの最期 — 『サヒーフ・ブハーリー』3962

17. ビラールとウマイヤ・ブン・ハラフ — 『サヒーフ・ブハーリー』2301

18. バドルの殉教者たち — 『サヒーフ・ブハーリー』2809

19. バドルの井戸のほとりで — 『サヒーフ・ブハーリー』3976

20. 捕虜と身代金 — 戦利品章 8:67–69

21. バドルの民の位置 — 『サヒーフ・ブハーリー』3992

22. 勝利の知らせ — 戦利品章 8:70

23. バドルの物語の典拠 — 図；表

24. バドルについてのクルアーンの節 — 戦利品章；イムラーン家章 3:123–127；月章 54:45

25. 戦利品と戦利品章の啓示 — 戦利品章 8:1、8:41；『サヒーフ・ムスリム』1748

26. バドルの戦場の人物たち — 両陣営の表

27. 捕虜の陰にある家族の物語 — 『スナン・アブー・ダーウード』2692；『サヒーフ・ブハーリー』3008

28. ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月の年表 — 表

29. バドルの戦いについてよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

第 9 巻の参考文献

第四部：第 10 巻 — ウフドの戦い

ウフドの戦い — はじめに

1. バドルの後：クライシュ族の復讐心 — イムラーン家章 3:140

2. 夢と協議 — 『サヒーフ・ブハーリー』4081

3. アブドゥッラー・ブン・ウバイの離脱 — 『サヒーフ・ブハーリー』4050

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

4. 怯みかけた二つの集団 — イムラーン家章 3:122

5. 丘の上の弓兵たち — 『サヒーフ・ブハーリー』4043

6. アブー・ドゥジャーナの剣 — 『サヒーフ・ムスリム』2470

7. アッラーの獅子ハムザ — 『サヒーフ・ブハーリー』4072

8. 序盤の勝利と試練 — イムラーン家章 3:152

9. 背後からの叫び — 『サヒーフ・ブハーリー』4065

10. 「ムハンマドは殺された！」 — イムラーン家章 3:144

11. ウフドの向こうの楽園の香り — 『サヒーフ・ブハーリー』4048

12. 砦で囲まれたアッラーの使徒 ﷺ — 『サヒーフ・ブハーリー』4064

13. 「射よ、サアドよ！」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4055

14. 傷を負われたアッラーの使徒 ﷺ — 『サヒーフ・ブハーリー』4075

15. 悲しみの後のまどろみ — イムラーン家章 3:154

16. 丘の上のアブー・スフヤーン — 『サヒーフ・ブハーリー』4043

17. ムスアブ・ブン・ウマイル — 『サヒーフ・ブハーリー』4047

18. 殉教者たちの埋葬 — 『サヒーフ・ブハーリー』1343

19. ジャービルの父と天使の陰 — 『サヒーフ・ブハーリー』1244

20. ウフドの戦場の女性たち — 『サヒーフ・ブハーリー』2881

21. ハムラー・アル＝アサド — 『サヒーフ・ブハーリー』4077

22. 「ウフドは私たちを愛する」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4083

23. ウフドの物語の典拠 — 図；表

24. 戦いを望んだ若者と障害のある者 — 『サヒーフ・ブハーリー』2664；『ムスナド・アフマド』22553

25. ウフドの殉教者たち — 表；ハンザラ、ウサイリム、サアド・ブン・アッ＝ラビーウ

26. 戒めと赦し — イムラーン家章 3:152、155；『サヒーフ・ブハーリー』4066

27. 今日のウフド山と弓兵の丘 — 地理と墓参の作法

28. ヒジュラ暦 3 年シャウワール月の年表 — 表

29. ウフドの戦いについてよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

第 10 巻の参考文献

第五部：第 11 巻 — 試練に次ぐ試練

試練に次ぐ試練 — はじめに

1. ウフドの後：敵が大胆になる — スィーラ書

2. ラジーウの出来事 — 『サヒーフ・ブハーリー』3045

3. フバイブと一房のブドウ — 『サヒーフ・ブハーリー』3045

4. 殉教前のニラクアの礼拝 — 『サヒーフ・ブハーリー』3045

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. アースィムと守護の蜂 — 『サヒーフ・ブハーリー』3045

6. マウーナの井戸：七十人のクッラー — 『サヒーフ・ブハーリー』4090

7. 「カアバの主にかけて、私は勝利した！」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4092

8. 災難時のクヌート — 『サヒーフ・ブハーリー』1003

9. 「私たちの民に伝えてください」 — イムラーン家章 3:169–170

10. 酒の禁止 — 『サヒーフ・ブハーリー』2464

11. ナディール族の裏切りの企て — 食卓章 5:11

12. 包囲と追放 — 『サヒーフ・ブハーリー』4028

13. ナディール族のナツメヤシ — 『サヒーフ・ブハーリー』4031

14. 偽信者たちの偽りの約束 — 集合章 59:11

15. ファイ（戦わずに得た財） — 『サヒーフ・ブハーリー』2904

16. 集合章（スーラ・アル＝ハシュル） — 集合章 59:2

17. ウンム・サラマと災難の祈り — 『サヒーフ・ムスリム』918

18. ザイド・ブン・サービト、ユダヤ文字を学ぶ — 『スナン・アビー・ダーウード』3645

19. ザート・アッ＝リカーウ — 『サヒーフ・ブハーリー』4128

20. 「誰がお前を救えるのか？」 — 『サヒーフ・ブハーリー』2910

21. 恐怖時の礼拝 — 『サヒーフ・ブハーリー』942

22. 約束のバドル — イムラーン家章 3:175

23. 本巻の物語の典拠 — 図；表

24. ハサンとフサインの誕生 — 『サヒーフ・ブハーリー』3749、3753、2704；ティルミズィー 3768

25. ヒジュラ暦 4 年の遠征隊（サリーヤ） — 表；『スナン・アビー・ダーウード』1249

26. 本巻の人物 — 表

27. 出来事の場所 — 地理の表

28. 年表：ヒジュラ暦 3 年ラマダーンから 4 年シャウワールまで — 表

29. 「試練に次ぐ試練」についてのよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

第 11 巻の参考文献

第六部：第 12 巻 — ハンダクの戦い

ハンダクの戦い — はじめに

1. 部族連合の同盟 — 部族連合章 33:10

2. 塹壕を掘る提案 — スィーラ書

3. 寒い朝の塹壕掘り — 『サヒーフ・ブハーリー』2834

4. お腹を覆った土ぼこり — アッラーの使徒 ﷺ — 『サヒーフ・ブハーリー』4104

5. 砂に変わった大きな岩 — 『サヒーフ・ブハーリー』4101

6. ジャービルのもてなし — 『サヒーフ・ブハーリー』4102

7. 部族連合の到着 — 部族連合章 33:10

8. 心臓は喉もとまで — 部族連合章 33:11

9. 偽信者たちの言い訳 — 部族連合章 33:12–13

10. 「これはアッラーが約束されたもの」 — 部族連合章 33:22

11. クライザ族とハワーリー、アッ＝ズバイル — 『サヒーフ・ブハーリー』2846

12. アリーとアムル・ブン・アブド・ウッド — スィーラ書

13. 逃した礼拝 — 『サヒーフ・ブハーリー』4111

14. サアド・ブン・ムアーズの負傷 — 『サヒーフ・ブハーリー』4122

15. ヌアイム・ブン・マスウード — 『サヒーフ・ブハーリー』3030

16. 部族連合への祈り — 『サヒーフ・ブハーリー』2933

17. フザイファの夜 — 『サヒーフ・ムスリム』1788

18. 風と目に見えぬ軍勢 — 部族連合章 33:9

19. アッラーただ独りがかれらを打ち破られた — 『サヒーフ・ブハーリー』4114

20. 「今度はわれらがかれらを攻める」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4109

21. 立派な模範 — 部族連合章 33:21

22. ジブリールはまだ武器を置いていない — 『サヒーフ・ブハーリー』4117

23. ハンダクの物語の典拠 — 図；表

24. ハンダクについての部族連合章の節 — 部族連合章 33:9–27；『サヒーフ・ブハーリー』4784

25. 女性、若者、負傷者 — 『サヒーフ・ブハーリー』2664、463

26. ハンダクの人物とガタファーン族との交渉 — 表；スィーラ書

27. 今日のハンダクの戦場 — 地理の表；『アル＝アダブ・アル＝ムフラド』704

28. ハンダクの戦いの年表 — 表

29. ハンダクの戦いについてのよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

第 12 巻の参考文献

第七部：第 13 巻 — クライザ族

クライザ族の遠征 — はじめに

1. クライザ族とは誰か — スィーラ書

2. マディーナ憲章と相互の約束 — 食卓章 5:1

3. 引き裂かれた盟約 — スィーラ書

4. 知らせを確かめる使者 — スィーラ書；『ティルミズィー』3743

5. ジブリールはまだ武器を置いていない — 『サヒーフ・ブハーリー』4122

6. ジブリールの行軍の砂ぼこり — 『サヒーフ・ブハーリー』4118

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

7. クライザ族の地でのアスルの礼拝 — 『サヒーフ・ブハーリー』4119

8. アスルかズフルか？ 意見の違いの作法 — 『サヒーフ・ムスリム』1770

9. 砦の包囲 — 部族連合章 33:26

10. カアブ・ブン・アサドの三つの提案 — スィーラ書

11. アブー・ルバーバと悔悟の柱 — 戦利品章 8:27；スィーラ書

12. イスラームを選んだ人々 — 『サヒーフ・ブハーリー』4028

13. 「あなた方の長のために立ちなさい」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4121

14. サアド・ブン・ムアーズの裁定 — 『ティルミズィー』1582

15. 戦った者だけ — 『ティルミズィー』1584

16. かれらの人数はどれほどか — 『ティルミズィー』1582；スィーラ書

17. アッラーはかれらを砦から降ろされた — 部族連合章 33:26–27

18. アンサールのナツメヤシの返還 — 『サヒーフ・ブハーリー』4120

19. 「ジブリールがあなたと共にいる」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4123–4124

20. サアドの祈りと逝去 — 『サヒーフ・ブハーリー』4122

21. 慈悲深き御方の玉座が揺れた — 『サヒーフ・ブハーリー』3803

22. 敵に対しても公正に — 食卓章 5:8

23. クライザ族の物語の典拠 — 図；表

24. 約束と裏切りについてのクルアーンの節 — 戦利品章 8:55–58；『サヒーフ・ブハーリー』34、3186

25. 三つの部族、三つの盟約、三つの結末 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』4028

26. クライザ族の出来事の人物 — 表；スィーラ書

27. クライザ族の子孫から生まれた学者 — アティーヤ・アル＝クラズィー；ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィー

28. クライザ族の出来事の年表 — 表

29. クライザ族についてのよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

第 13 巻の参考文献

第八部：第 14 巻 — イフク（中傷）事件

イフク（中傷）事件 — はじめに

1. ムスタリク族とアル＝ムライスィーウの泉 — 『サヒーフ・ブハーリー』2541

2. この出来事はいつ起きたのか — 『サヒーフ・ブハーリー』；スィーラ書

3. ジュワイリーヤ：一族を解放した花嫁 — 『スナン・アビー・ダーウード』3931

4. 泉のそばのジャーヒリーヤの呼びかけ — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3315

5. アッラーに正しさを認められたザイド・ブン・アルカム — 『サヒーフ・ブハーリー』4900

6. 失われた首飾り — 『サヒーフ・ブハーリー』4141

7. 砂漠に残されて — 『サヒーフ・ブハーリー』4141

8. 中傷が広まり始める — 光章 24:11

9. 病の中の一か月 — 『サヒーフ・ブハーリー』4141

10. 知らせがアーイシャに届く — 『サヒーフ・ブハーリー』4143

11. アッラーの使徒 ﷺ の協議 — 『サヒーフ・ブハーリー』7370

12. モスクでの緊張 — 『サヒーフ・ブハーリー』4141

13. 「美しい忍耐」 — ユースフ章 12:18

14. 啓示が下る：天からの潔白 — 光章 24:11

15. 良い推測と四人の証人 — 光章 24:12–13

16. 知らせを受け取る舌 — 光章 24:15–16

17. 中傷（カザフ）の刑罰 — 光章 24:4；『スナン・アビー・ダーウード』4474

18. アブー・バクルとミスタフ：赦し — 光章 24:22

19. ハッサーン・ブン・サービトとアーイシャ — 『サヒーフ・ブハーリー』4146

20. 二度目の首飾りとタヤンムムの節 — 『サヒーフ・ブハーリー』334

21. アーイシャの栄誉 — 『サヒーフ・ブハーリー』3768、4753

22. ソーシャルメディア時代の舌 — 『サヒーフ・ブハーリー』6478；部屋章 49:6

23. イフク事件の物語の典拠 — 図；表

24. 潔白の節：光章 24:11–26 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』2766

25. 光章：社会の名誉を守る砦 — 光章 24:27–31；『サヒーフ・ブハーリー』6241、6245

26. イフク事件の人物 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』4141

27. 試練の後のアーイシャ：ウンマの師 — 『サヒーフ・ブハーリー』3772、3775；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3883

28. イフク事件の年表 — 表

29. イフク事件についてのよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

第 14 巻の参考文献

支援と寄付

色の案内：緑の枠＝クルアーンの節、金色の枠＝ハディース、茶色の枠＝注（弱い伝承または補足説明）、青い表＝比較。青い下線付きの伝承者名をクリックすると、sunnah.com のその伝承者のページが開きます。

第一部

マディーナへのヒジュラ

預言者伝（スィーラ）— 第 7 巻

サウルの洞窟からクバーへ：歴史を変えた旅 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

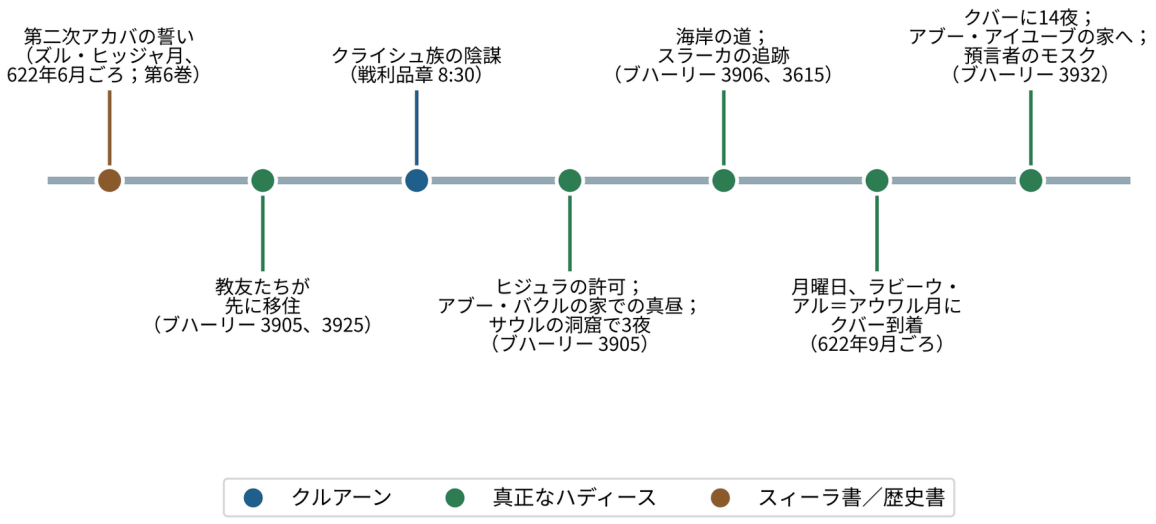
© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナへのヒジュラ

『預言者伝（スィーラ）』第 6 巻は、**第二次アカバの誓い**で終わりました。ヤスリブの人びとは、自分の家族を守るのと同じようにアッラーの使徒 ﷺ を守ると誓ったのです。扉は開かれました。この第 7 巻は、**ヒジュラ**――アッラーの使徒 ﷺ と教友たちがマッカからマディーナへ移った出来事――を語ります。それは**イスラーム暦の始まり**となった旅です。

ヒジュラの物語は、『**サヒーフ・ブハーリー**』に非常に詳しく記録されています。とりわけ、父アブー・バクルの家での出来事を自ら目撃したアーイシャ رضي الله عنها の長いハディースによってです。そのほかにも、クモ、ハト、ウンム・マアバド、そして歌「ターラアル・バドル」など多くの有名な物語があり、本書ではその伝承の位置づけを**一つずつ評価**しています。

マディーナへのヒジュラの年表（622年）



正確な日付には諸説がある。多くのスィーラ学者は、使徒がラビーウ・アル＝アウワル月8日または12日にクバーに着いたとする。

図 1：マディーナへのヒジュラの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

アカバの後：なぜヒジュラなのか

マッカでの十三年間、ムスリムは拷問され、ボイコットされ、侮辱されました。多くの人がすでにアビシニアへ移住していました（第 4 巻）。第二次アカバの誓いの後、アッラーはイスラームとその使徒を受け入れる用意のある**一つの故郷**を開かれました。ヒジュラは逃亡ではなく、**築くための移住**なのです。

アッラーは移住する者について仰せられます。「**アッラーの道のために移住する者は**」（イスラームを守り、打ち立てるために）、地上に多くの避難所と豊かな糧を見いだすであろう、と『タフスィール・イブン・カスィール』4:100。

アッラーはまた、現世と来世での報いを約束されています。「**われは現世で、必ず良い住まいを与える**」。イブン・カスィールは、この節がマッカで迫害された後に移住した教友たちについて啓示されたと述べています『タフスィール・イブン・カスィール』16:41。

ヒジュラの意味

アッラーの使徒 ﷺ は、ヒジュラの価値は**意図**によって決まると教えられました。「**行いはすべて意図によるものである……アッラーとその使徒のために移住した者の移住は、アッラーとその使徒のためのものである**」（『サヒーフ・ブハーリー』1）。また、こうも言われました。「**移住者とは、アッラーが禁じたものを捨てる者である**」（『サヒーフ・ブハーリー』10）。

ヒジュラの種類	説明
場所のヒジュラ	崇拝を妨げられる場所から安全な場所へ移ること――アビシニアやマディーナへの移住のように。
行いのヒジュラ	罪とアッラーが禁じたものを捨てること――いつの時代のどのムスリムにも開かれている。

ヒジュラの種類	説明
心のヒジュラ	アッラー以外のものに向けていた愛と希望を、アッラーへと移すこと。

先に旅立った人びと

アッラーの使徒 ﷺ は、一人で移住されたのでも、最初に移住されたのでもありません。教友たちに、少人数の集団で、ひそかに先に出発するよう命じられたのです。アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضي الله عنهما はこう伝えています。最初にマディーナに着いたのは**ムスアブ・ブン・ウマイルとイブン・ウンム・マクトゥーム**で、次に**ビラール、サアド、アンマール・ブン・ヤースィル**、次に**ウマル・ブン・アル＝ハッターブが二十人の教友とともに**到着し、その後にようやく預言者 ﷺ が来られた（『サヒーフ・ブハーリー』3925）。

スィーラの注：ウンム・サラマ――アブタフで泣いた一年

イブン・イスハークは**ウンム・サラマ** رضي الله عنها からこう伝えています。夫アブー・サラマが彼女と子どもを連れて移住しようとしたとき、彼女の一族（マフズーム族のムギーラ家）が彼女を奪い取り、アブー・サラマの一族は子どもを奪い取りました。アブー・サラマは一人で移住を続けました。

ウンム・サラマは、毎朝アブタフの地へ出て夕方まで泣き続け、それが**一年近く**続いたので、ついに一族が哀れんで彼女の旅立ちを許した、と語っています。子どもは返され、当時まだイスラームに入っていなかった**ウスマーン・ブン・タルハ**が、礼儀正しく彼女をクバーまで送り届け、マッカへ戻っていきました。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』、教友たちのヒジュラの章。

スィーラの注：スハイブ・アッ＝ルーミー――「よい取引をした」

スィーラ書やタフスィール書によれば、**スハイブ・ブン・スィナーン**は、財産を持って移住することをクライシュ族に阻まれました。かれは自分の身の代として全財産をかれらに差し出しました。マディーナに着くと、アッラーの使徒 ﷺ は「**よい取引をしたな、アブー・ヤフヤーよ**」と言われたといいます。

一部の注釈者は、これを「アッラーの御喜びを願って、自分を売った者」（雌牛章 2:207）という節と結びつけています。この話の伝承経路には異論がありますが、スィーラ書ではよく知られています。

参照：

イブン・カスィール『タフスィール』2:207。https://tafsir.app/ibn-katheer/2/207

教訓：指導者は**まず従う者たちの安全を確保**します。アッラーの使徒 ﷺ は、教友の大半が出発するまで、最も危険な場所であるマッカにとどまられました。

待ち続けたアブー・バクル

アーイシャ رضى الله عنها のハディースによれば、アッラーの使徒 ﷺ は**夢の中で移住の地を見せられました**。それは二つの黒い岩地（ハッラ）のあいだにある、ナツメヤシの茂る土地でした。これこそマディーナで、東と西を二つの黒い溶岩原に挟まれています。

アブー・バクル رضى الله عنه は移住の支度をしましたが、アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「**待ちなさい。わたしも許しが与えられることを望んでいるのだから**」。アブー・バクルはその意味を悟りました――自分が使徒のお供をするのだ、と。かれは**出発を控え**、**四か月**のあいだ、長旅に耐えられるよう二頭のラクダにサムルの木の葉を食べさせ続けました。

真の教友の備え

アブー・バクルの行動	教訓
自分の移住を延期した	自分の安全よりもアッラーの使徒 ﷺ を優先した。
二頭のラクダに四か月えさを与えた	その時が来る前の周到な準備。
ラクダを無償で差し出した	頼まれる前からの気前のよさ。
家族を手伝いに備えさせた	家族全員が宣教に関わった。

アッラーの使徒 ﷺ は、そのラクダを**代金を払って**受け取られました。学者たちは、使徒がヒジュラの報奨を完全なものとするため、**すべて自分の財産で**移住したいと望まれたのだと説明しています――アブー・バクルが財産によって使徒に最も尽くした人物であったにもかかわらず（『サヒーフ・ブハーリー』3654）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：19 / 567

ダール・アン＝ナドワの陰謀

教友たちが次々と移住していき、マディーナが避難所になったことを知ると、クライシュ族は恐れを抱きました。クルアーンは、かれらが話し合った三つの選択肢を記録しています。

アッラーは仰せられます。「**かれらは策謀したが、アッラーもまた計略をめぐらせられた**」。アッラーこそ最も優れた計略者であられるからです『タフスィール・イブン・カスィール』8:30。

クライシュ族の案（8:30）	意味
「拘禁し」	使徒を投獄し、鎖につなぐ。
「殺害し」	使徒を殺す――最終的に選ばれた案。
「放逐しよう」	使徒をマッカから追放する。

スィーラの注：ダール・アン＝ナドワでの会議

イブン・イスハークによれば、クライシュ族の有力者たちは、かれらの会議所である**ダール・アン＝ナドワ**に集まりました。投獄と追放の案が退けられた後、**アブー・ジャフル**は、各部族から屈強な若者を一人ずつ選び、全員で一斉に使徒を打つことを提案しました。そうすれば使徒の血は**すべての部族に分散され**、アブド・マナーフ家は報復を求められなくなる、というのです。

イブン・イスハークはまた、**イブリースがナジュド出身の老人に化けて現れ**、その案を支持したと述べています。この詳細はスィーラ書にのみあり、**真正なハディース集には見られません。**

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』、アッラーの使徒 ﷺ のヒジュラの章。

イブン・カスィール『タフスィール』8:30。https://tafsir.app/ibn-katheer/8/30

教訓：人間の策略は常に**アッラーの計画のもとに**あります。クライシュ族が暗殺を企てていたとき、アッラーは**一つの国**を計画しておられたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

包囲の夜：寝床のアリー

非常によく知られた話によれば、包囲の夜、**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضي الله عنه がアッラーの使徒 ﷺ の寝床で、使徒の布をかぶって眠り、そのあいだクライシュ族の若者たちは家の外で待ち構えていました。アッラーの使徒 ﷺ はかれらに気づかれずに外へ出られました。

スィーラの注：寝床のアリーの伝承の評価

この話は、**イマーム・アフマドが『ムスナド』に**、イブン・アッバース رضي الله عنهما から、戦利品章 8:30 の注釈として伝えています。同じ伝承には洞窟の入口の**クモ**も出てきます（第 9 章参照）。

評価： イブン・ハジャル（『ファトフ・アル＝バーリー』）とイブン・カスィール（『始まりと終わり』）は、その伝承経路を**ハサン（良好）**と評価しています。アフマド・シャーキルは伝承経路に異論があると述べ、アルバーニーと『ムスナド』の校訂者たちは**ダイーフ（弱い）**と評価しています。したがって、これは**見解が分かれる**伝承です。

スィーラ書（イブン・イスハーク）はまた、アリーが**三日間**マッカにとどまり、人びとがアッラーの使徒 ***memulangkan barang-barang amanah*** に預けていた預かり物を返してから、マディーナへ後を追ったと述べています。

参照：
『ムスナド・アフマド』3251；イブン・カスィール『始まりと終わり』3/222。

敵への誠実

この話で最も心を打つのは、**預かり物**のくだりです。使徒に敵対していたマッカの人びとは、それでも**自分たちの財産を使徒に預けていました。**使徒が**アル＝アミーン（信頼できる者）**であることを知っていたからです（第 2 巻）。かれらが使徒の暗殺を企てたその夜、使徒はかれらの財産が確実に返されるよう手配されたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

スィーラの注：砂とヤースィーン章

イブン・イスハークによれば、アッラーの使徒 ﷺ は若者たちのあいだを通り抜けながら、かれらの頭に砂をまき、ヤースィーン章の冒頭から第 9 節「そのうえかれらに覆いをした。それでかれらは見ることも出来ない」までを読誦されました。この話は**スィーラ書にのみ**あり、伝承経路は確かではありません。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』。=

いつもと違う真昼

ヒジュラについて**最も真正で詳しい**話は、アーイシャ رضى الله عنها が伝えたものです。当時かのじょはアブー・バクルの家の少女で、アッラーの使徒 ﷺ が重大な知らせを持って来られた瞬間を自ら目撃しました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3905 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ عُقَيْلٍ، قَالَ ابْنُ شِهَابٍ فَأَخْبَرَنِي عُرْوَةُ بْنُ الزُّبَيْرِ، أَنَّ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ زَوْجَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَتْ لَمْ أَعْقِلْ أَبَوَىَّ قَطُّ إِلاَّ وَهُمَا يَدِينَانِ الدِّينَ، وَلَمْ يَمُرَّ عَلَيْنَا يَوْمٌ إِلاَّ يَأْتِينَا فِيهِ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم طَرَفَىِ النَّهَارِ بُكْرَةً وَعَشِيَّةً، فَلَمَّا ابْتُلِيَ الْمُسْلِمُونُ خَرَجَ أَبُو بَكْرٍ مُهَاجِرًا نَحْوَ أَرْضِ الْحَبَشَةِ، حَتَّى بَلَغَ بَرْكَ الْغِمَادِ لَقِيَهُ ابْنُ الدَّغِنَةِ وَهْوَ سَيِّدُ الْقَارَةِ. فَقَالَ أَيْنَ تُرِيدُ يَا أَبَا بَكْرٍ فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ أَخْرَجَنِي قَوْمِي، فَأُرِيدُ أَنْ أَسِيحَ فِي الأَرْضِ وَأَعْبُدَ رَبِّي. قَالَ ابْنُ الدَّغِنَةِ فَإِنَّ مِثْلَكَ يَا أَبَا بَكْرٍ لاَ يَخْرُجُ وَلاَ يُخْرَجُ، إِنَّكَ تَكْسِبُ الْمَعْدُومَ، وَتَصِلُ الرَّحِمَ وَتَحْمِلُ الْكَلَّ، وَتَقْرِي الضَّيْفَ، وَتُعِينُ عَلَى نَوَائِبِ الْحَقِّ، فَأَنَا لَكَ جَارٌ، ارْجِعْ وَاعْبُدْ رَبَّكَ بِبَلَدِكَ. فَرَجَعَ وَارْتَحَلَ مَعَهُ ابْنُ الدَّغِنَةِ، فَطَافَ ابْنُ الدَّغِنَةِ عَشِيَّةً فِي أَشْرَافِ قُرَيْشٍ، فَقَالَ لَهُمْ إِنَّ أَبَا بَكْرٍ لاَ يَخْرُجُ مِثْلُهُ وَلاَ يُخْرَجُ، أَتُخْرِجُونَ رَجُلاً يَكْسِبُ الْمَعْدُومَ، وَيَصِلُ الرَّحِمَ، وَيَحْمِلُ الْكَلَّ، وَيَقْرِي الضَّيْفَ، وَيُعِينُ عَلَى نَوَائِبِ الْحَقِّ فَلَمْ تُكَذِّبْ قُرَيْشٌ بِجِوَارِ ابْنِ الدَّغِنَةِ، وَقَالُوا لاِبْنِ الدَّغِنَةِ مُرْ أَبَا بَكْرٍ فَلْيَعْبُدْ رَبَّهُ فِي دَارِهِ، فَلْيُصَلِّ فِيهَا وَلْيَقْرَأْ مَا شَاءَ، وَلاَ يُؤْذِينَا بِذَلِكَ، وَلاَ يَسْتَعْلِنْ بِهِ، فَإِنَّا نَخْشَى أَنْ يَفْتِنَ نِسَاءَنَا وَأَبْنَاءَنَا. فَقَالَ ذَلِكَ ابْنُ الدَّغِنَةِ لأَبِي بَكْرٍ، فَلَبِثَ أَبُو بَكْرٍ بِذَلِكَ يَعْبُدُ رَبَّهُ فِي دَارِهِ، وَلاَ يَسْتَعْلِنُ بِصَلاَتِهِ، وَلاَ يَقْرَأُ فِي غَيْرِ دَارِهِ، ثُمَّ بَدَا لأَبِي بَكْرٍ فَابْتَنَى مَسْجِدًا بِفِنَاءِ دَارِهِ وَكَانَ يُصَلِّي فِيهِ وَيَقْرَأُ الْقُرْآنَ، فَيَنْقَذِفُ عَلَيْهِ نِسَاءُ الْمُشْرِكِينَ وَأَبْنَاؤُهُمْ، وَهُمْ يَعْجَبُونَ مِنْهُ، وَيَنْظُرُونَ إِلَيْهِ، وَكَانَ أَبُو بَكْرٍ رَجُلاً بَكَّاءً، لاَ يَمْلِكُ عَيْنَيْهِ إِذَا قَرَأَ الْقُرْآنَ، وَأَفْزَعَ ذَلِكَ أَشْرَافَ قُرَيْشٍ مِنَ الْمُشْرِكِينَ، فَأَرْسَلُوا إِلَى ابْنِ الدَّغِنَةِ، فَقَدِمَ عَلَيْهِمْ. فَقَالُوا إِنَّا كُنَّا أَجَرْنَا أَبَا بَكْرٍ بِجِوَارِكَ، عَلَى أَنْ يَعْبُدَ رَبَّهُ فِي دَارِهِ،

فَقَدْ جَاوَزَ ذَلِكَ، فَابْتَنَى مَسْجِدًا بِفِنَاءِ دَارِهِ، فَأَعْلَنَ بِالصَّلاَةِ وَالْقِرَاءَةِ فِيهِ، وَإِنَّا قَدْ خَشِينَا أَنْ يَفْتِنَ نِسَاءَنَا وَأَبْنَاءَنَا فَانْهَهُ، فَإِنْ أَحَبَّ أَنْ يَقْتَصِرَ عَلَى أَنْ يَعْبُدَ رَبَّهُ فِي دَارِهِ فَعَلَ، وَإِنْ أَبَى إِلاَّ أَنْ يُعْلِنَ بِذَلِكَ فَسَلْهُ أَنْ يَرُدَّ إِلَيْكَ ذِمَّتَكَ، فَإِنَّا قَدْ كَرِهْنَا أَنْ نُخْفِرَكَ، وَلَسْنَا مُقِرِّينَ لأَبِي بَكْرٍ الاِسْتِعْلاَنَ. قَالَتْ عَائِشَةُ فَأَتَى ابْنُ الدَّغِنَةِ إِلَى أَبِي بَكْرٍ فَقَالَ قَدْ عَلِمْتَ الَّذِي عَاقَدْتُ لَكَ عَلَيْهِ، فَإِمَّا أَنْ تَقْتَصِرَ عَلَى ذَلِكَ، وَإِمَّا أَنْ تَرْجِعَ إِلَىَّ ذِمَّتِي، فَإِنِّي لاَ أُحِبُّ أَنْ تَسْمَعَ الْعَرَبُ أَنِّي أُخْفِرْتُ فِي رَجُلٍ عَقَدْتُ لَهُ. فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ فَإِنِّي أَرُدُّ إِلَيْكَ جِوَارَكَ وَأَرْضَى بِجِوَارِ اللَّهِ عَزَّ وَجَلَّ. وَالنَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَوْمَئِذٍ بِمَكَّةَ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لِلْمُسْلِمِينَ إِنِّي أُرِيتُ دَارَ هِجْرَتِكُمْ ذَاتَ نَخْلٍ بَيْنَ لاَبَتَيْنِ. وَهُمَا الْحَرَّتَانِ، فَهَاجَرَ مَنْ هَاجَرَ قِبَلَ الْمَدِينَةِ، وَرَجَعَ عَامَّةُ مَنْ كَانَ هَاجَرَ بِأَرْضِ الْحَبَشَةِ إِلَى الْمَدِينَةِ، وَتَجَهَّزَ أَبُو بَكْرٍ قِبَلَ الْمَدِينَةِ، فَقَالَ لَهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى رِسْلِكَ، فَإِنِّي أَرْجُو أَنْ يُؤْذَنَ لِي. فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ وَهَلْ تَرْجُو ذَلِكَ بِأَبِي أَنْتَ قَالَ نَعَمْ. فَحَبَسَ أَبُو بَكْرٍ نَفْسَهُ عَلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لِيَصْحَبَهُ، وَعَلَفَ رَاحِلَتَيْنِ كَانَتَا عِنْدَهُ وَرَقَ السَّمُرِ وَهُوَ الْخَبَطُ أَرْبَعَةَ أَشْهُرٍ. قَالَ ابْنُ شِهَابٍ قَالَ عُرْوَةُ قَالَتْ عَائِشَةُ فَبَيْنَمَا نَحْنُ يَوْمًا جُلُوسٌ فِي بَيْتِ أَبِي بَكْرٍ فِي نَحْرِ الظَّهِيرَةِ قَالَ قَائِلٌ لأَبِي بَكْرٍ هَذَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مُتَقَنِّعًا - فِي سَاعَةٍ لَمْ يَكُنْ يَأْتِينَا فِيهَا - فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ فِدَاءٌ لَهُ أَبِي وَأُمِّي، وَاللَّهِ مَا جَاءَ بِهِ فِي هَذِهِ السَّاعَةِ إِلاَّ أَمْرٌ. قَالَتْ فَجَاءَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَاسْتَأْذَنَ، فَأُذِنَ لَهُ فَدَخَلَ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لأَبِي بَكْرٍ أَخْرِجْ مَنْ عِنْدَكَ. فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ إِنَّمَا هُمْ أَهْلُكَ بِأَبِي أَنْتَ يَا رَسُولَ اللَّهِ. قَالَ فَإِنِّي قَدْ أُذِنَ لِي فِي الْخُرُوجِ. فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ الصَّحَابَةُ بِأَبِي أَنْتَ يَا رَسُولَ اللَّهِ. قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم نَعَمْ. قَالَ أَبُو بَكْرٍ فَخُذْ بِأَبِي أَنْتَ يَا رَسُولَ اللَّهِ إِحْدَى رَاحِلَتَىَّ هَاتَيْنِ. قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِالثَّمَنِ. قَالَتْ عَائِشَةُ فَجَهَّزْنَاهُمَا أَحَثَّ الْجِهَازِ، وَصَنَعْنَا لَهُمَا سُفْرَةً فِي جِرَابٍ، فَقَطَعَتْ أَسْمَاءُ بِنْتُ أَبِي بَكْرٍ قِطْعَةً مِنْ نِطَاقِهَا فَرَبَطَتْ بِهِ عَلَى فَمِ الْجِرَابِ، فَبِذَلِكَ سُمِّيَتْ ذَاتَ النِّطَاقِ - قَالَتْ - ثُمَّ لَحِقَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبُو بَكْرٍ بِغَارٍ فِي جَبَلِ ثَوْرٍ فَكَمَنَا فِيهِ ثَلاَثَ لَيَالٍ،

يَبِيتُ عِنْدَهُمَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أَبِي بَكْرٍ وَهُوَ غُلاَمٌ شَابٌّ ثَقِفٌ لَقِنٌ، فَيُدْلِجُ مِنْ عِنْدِهِمَا بِسَحَرٍ، فَيُصْبِحُ مَعَ قُرَيْشٍ بِمَكَّةَ كَبَائِتٍ، فَلاَ يَسْمَعُ أَمْرًا يُكْتَادَانِ بِهِ إِلاَّ وَعَاهُ، حَتَّى يَأْتِيَهُمَا بِخَبَرِ ذَلِكَ حِينَ يَخْتَلِطُ الظَّلاَمُ، وَيَرْعَى عَلَيْهِمَا عَامِرُ بْنُ فُهَيْرَةَ مَوْلَى أَبِي بَكْرٍ مِنْحَةً مِنْ غَنَمٍ، فَيُرِيحُهَا عَلَيْهِمَا حِينَ يَذْهَبُ سَاعَةٌ مِنَ الْعِشَاءِ، فَيَبِيتَانِ فِي رِسْلٍ وَهُوَ لَبَنُ مِنْحَتِهِمَا وَرَضِيفِهِمَا، حَتَّى يَنْعِقَ بِهَا عَامِرُ بْنُ فُهَيْرَةَ بِغَلَسٍ، يَفْعَلُ ذَلِكَ فِي كُلِّ لَيْلَةٍ مِنْ تِلْكَ اللَّيَالِي الثَّلاَثِ، وَاسْتَأْجَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبُو بَكْرٍ رَجُلاً مِنْ بَنِي الدِّيلِ، وَهُوَ مِنْ بَنِي عَبْدِ بْنِ عَدِيٍّ هَادِيًا خِرِّيتًا ـ وَالْخِرِّيتُ الْمَاهِرُ بِالْهِدَايَةِ ـ قَدْ غَمَسَ حِلْفًا فِي آلِ الْعَاصِ بْنِ وَائِلٍ السَّهْمِيِّ، وَهُوَ عَلَى دِينِ كُفَّارِ قُرَيْشٍ فَأَمِنَاهُ، فَدَفَعَا إِلَيْهِ رَاحِلَتَيْهِمَا، وَوَاعَدَاهُ غَارَ ثَوْرٍ بَعْدَ ثَلاَثِ لَيَالٍ بِرَاحِلَتَيْهِمَا صُبْحَ ثَلاَثٍ، وَانْطَلَقَ مَعَهُمَا عَامِرُ بْنُ فُهَيْرَةَ وَالدَّلِيلُ فَأَخَذَ بِهِمْ طَرِيقَ السَّوَاحِلِ.

訳：

預言者 رضى الله عنها の妻アーイシャ ﷺ は語った。物心ついたときから両親はすでにイスラームを信仰しており、アッラーの使徒 ﷺ が朝と夕方にかれらの家を訪れない日は一日もなかった。（アブー・バクルがアビシニアへ移住しようとしたことと、イブン・アッ＝ドゥグンナの保護についての冒頭部分は要約する。）アッラーの使徒 ﷺ はムスリムたちに言われた。**「あなたがたの移住の地をわたしは見せられた。二つの黒い岩地のあいだにある、ナツメヤシの茂る土地である」**。そこで多くの人がマディーナへ移住した。アブー・バクルも移住の支度をしたが、アッラーの使徒 ﷺ はかれに言われた。**「待ちなさい。わたしも許しが与えられることを望んでいるのだから」**。アブー・バクルは使徒のお供をするために出発を控え、四か月のあいだ二頭のラクダにサムルの葉を食べさせた。アーイシャは言った。ある日、私たちが灼熱の真昼にアブー・バクルの家に座っていると、ある人が言った。「アッラーの使徒 ﷺ が顔を覆って来られます。いつもは来られない時刻です」。アブー・バクルは言った。「アッラーにかけて、このような時刻に来られるのは重大な用件があるからに違いない」。使徒は許しを求めて入り、言われた。**「あなたのところにいる者を外に出しなさい」**。アブー・バクルは答えた。「ここにいるのはあなたの家族だけです、アッラーの使徒よ」。使徒は言われた。

「**わたしは（移住のために）出発することを許された**」。アブー・バクルは尋ねた。「お供させていただけますか、アッラーの使徒よ」。使徒は答えられた。「**よろしい**」。アブー・バクルは言った。「この二頭のラクダのうち一頭をお受け取りください」。使徒は言われた。「**代金を払って**」。アーイシャは言った。私たちは急いでかれらの旅の支度を整え、革袋に食べ物を入れた。**アスマー・ビント・アビー・バクル**が自分の帯の一部を切り取って袋の口を縛ったので、かのじょは「**帯の人（ザート・アン＝ニターク）**」と呼ばれるようになった。それからアッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルは**サウル山**の洞窟にたどり着き、そこに**三夜**とどまった。聡明な若者**アブドゥッラー・ブン・アビー・バクル**はかれらのもとで夜を過ごし、夜明け前に出て行ったので、朝にはマッカでクライシュ族とともにいて、まるでそこで夜を過ごしたかのようであった。かれは二人に対するあらゆる策略を聞きつけ、暗くなるとそれを伝えた。アブー・バクルが解放した奴隷**アーミル・ブン・フハイラ**は二人の近くで羊を放牧し、イシャーの礼拝の後に羊を連れて来たので、二人は搾りたての乳を飲んで夜を過ごした。アッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルは、ディール族の一人の男を**熟練した道案内**として雇った。かれはまだクライシュ族の不信仰の宗教を奉じていた。二人はかれを信頼して二頭のラクダを預け、三夜の後にサウルの洞窟で落ち合う約束をした。二人はアーミル・ブン・フハイラとその道案内とともに出発し、道案内は**海岸沿いの道を通ってかれらを導いた**。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← ライス ← ウカイル ← イブン・シハーブ ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、預言者 ﷺ と教友たちのマディーナへのヒジュラの章、ハディース第 3905 番。冒頭部分は要約している。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3905

注目すべき細部

ハディースの細部	教訓
灼熱の真昼、人びとが休む時刻に来られた	道が人けのない時刻を選んだ――賢明な計画。
顔を覆って来られた	クライシュ族の見張りの目から身を隠した。
「あなたのところにいる者を外に出しなさい」	秘密を守る――知る必要のある者だけに知らせる。
アブー・バクルが喜びのあまり泣いた（イブン・イスハークの伝承）	犠牲を払う機会を、重荷ではなく恵みと受け止めた。
「代金を払って」	自分の財産で移住し、他人に負担をかけない。
多神教徒の道案内	誠実で熟練した非ムスリムの助けを借りてよい。

アーイシャは日付を述べていませんが、スィーラ書によれば、使徒は預言者としての使命の第 14 年**サファル月の終わり**に出発し、**ラビーウ・アル＝アウワル月**にクバーに到着されました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「二本の帯の人」アスマー

アブー・バクルの家族には、一人ひとりに役割がありました。アーイシャの姉**アスマー・ビント・アビー・バクル** رضى الله عنها は、旅の食料を用意する係でした。食料の袋を縛るひもがなかったとき、かのじょはすばやく行動しました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3907 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، حَدَّثَنَا هِشَامٌ، عَنْ أَبِيهِ، وَفَاطِمَةَ، عَنْ أَسْمَاءَ، رضى الله عنها صَنَعْتُ سُفْرَةً لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَأَبِي بَكْرٍ حِينَ أَرَادَا الْمَدِينَةَ، فَقُلْتُ لأَبِي مَا أَجِدُ شَيْئًا أَرْبُطُهُ إِلاَّ نِطَاقِي. قَالَ فَشُقِّيهِ. فَفَعَلْتُ، فَسُمِّيَتْ ذَاتَ النِّطَاقَيْنِ.

訳：

アスマー رضى الله عنها は言った。「**預言者 ﷺ とアブー・バクルがマディーナへ向かおうとしたとき、私は二人の旅の食料を用意した。私は父に言った。『これを縛るものが、私の帯のほかに何もありません』。父は言った。『それを（二つに）裂きなさい』。私がそのとおりにしたので、私は『二本の帯の人（ザート・アン＝ニターカイン）』と呼ばれるようになった**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・アビー・シャイバ ← アブー・ウサーマ ← ヒシャーム ← 父ウルワ と ファーティマ・ビント・ムンズィル ← アスマー رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ハディース第 3907 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3907

アーイシャのハディース（第 3905 番）は「**帯の人（ザート・アン＝ニターク）**」と言い、アスマー自身は「**二本の帯の人（ザート・アン＝ニターカイン）**」と言っています。帯の**二本**とは、一本は身に着けるもの、もう一本は食料を縛るためのものです。どちらも正しく、表現の違いにすぎません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：28 / 567

スィーラの注：アスマーの勇気

イブン・イスハークはアスマーからこう伝えています。使徒とアブー・バクルが出発した後、**アブー・ジャフル**を含むクライシュ族の一団がかのじょの家に来ました。父の居場所は知らないとアスマーが答えると、アブー・ジャフルは**かのじょの顔を平手で打ち**、耳飾りが飛んだといいます。

イブン・イスハークはまた、目が見えずまだイスラームに入っていなかった祖父**アブー・クハーファ**が、アブー・バクルが全財産を持ち出したのではないかと心配したと述べています。アスマーは金の置き場に**石**を置いて布で覆い、祖父の手をその上に置かせて安心させたのです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』。=

教訓：イスラーム史上最大の出来事において、女性は**重要な役割**を担いました。スィーラ書によれば、アスマーは当時身ごもっていましたが、それでも食料を持ってサウルの洞窟まで登ったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サウルの洞窟：「アッラーはわたしたちと共に」

アッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルは、まっすぐ北（マディーナの方向）へ向かったのではなく、**南**の**サウル山**へ向かいました。クライシュ族の追っ手は、まずマディーナへの道を捜すはずだからです。二人はそこで洞窟に**三夜**身を隠しました。アッラーはその瞬間をクルアーンに記録されています。

悔悟章 9:40

إِلَّا تَنصُرُوهُ فَقَدْ نَصَرَهُ ٱللَّهُ إِذْ أَخْرَجَهُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ثَانِىَ ٱثْنَيْنِ إِذْ هُمَا فِى ٱلْغَارِ إِذْ يَقُولُ لِصَٰحِبِهِۦ لَا تَحْزَنْ إِنَّ ٱللَّهَ مَعَنَا ۖ فَأَنزَلَ ٱللَّهُ سَكِينَتَهُۥ عَلَيْهِ وَأَيَّدَهُۥ بِجُنُودٍ لَّمْ تَرَوْهَا وَجَعَلَ كَلِمَةَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ٱلسُّفْلَىٰ ۗ وَكَلِمَةُ ٱللَّهِ هِىَ ٱلْعُلْيَا ۗ وَٱللَّهُ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ﴿٤٠﴾

仮令あなたがたがかれ（使徒）を助けず、不信心の者たちが、かれを追放しても、アッラーは必ずかれを助けられる。かれは、只 1 人（の同僚）と、2 人で洞窟にいた時、その同僚に向かって『心配してはならない。アッラーはわたしたちと共におられる。』と言ったその時アッラーは かれの安らぎを、かれ（アブー・バクル）に与え、あなたがたには見えないが、（天使の）軍勢でかれを強められた。また不信者たちの言葉を最も低いものになされ、アッラーの御言葉をも高められた。本当にアッラーは偉力ならびなく英明であられる。

訳：三田了一 — quran.com/9:40

「二人の三人目がアッラーである者を、どう思うのか」

追っ手は洞窟の入口までやって来ました。アブー・バクル自身が、その緊迫した瞬間を語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3653 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ سِنَانٍ، حَدَّثَنَا هَمَّامٌ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسٍ، عَنْ أَبِي بَكْرٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قُلْتُ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَأَنَا فِي الْغَارِ لَوْ أَنَّ أَحَدَهُمْ نَظَرَ تَحْتَ قَدَمَيْهِ لأَبْصَرَنَا. فَقَالَ مَا ظَنُّكَ يَا أَبَا بَكْرٍ بِاثْنَيْنِ اللَّهُ ثَالِثُهُمَا.

訳：

アブー・バクル رضى الله عنه は言った。洞窟の中にいたとき、私は預言者 ﷺ に言った。「もしかれらの一人が自分の足もとを見下ろせば、私たちが見えてしまうでしょう」。預言者は言われた。**「アブー・バクルよ、二人の三人目がアッラーである、その二人をあなたはどう思うのか」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・スィナーン ← ハンマーム ← サービト ← アナス ← アブー・バクル رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友たちの美徳の書、ハディース第 3653 番。ムスリム（第 2381 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3653

使徒の言葉は、**「心配してはならない。アッラーはわたしたちと共におられる」**という節と一致しています。イブン・カスィールは、ここでの**アッラーが共におられること**とは特別な同伴——援助、保護、支え——であり、ご自分の使徒とその同僚に向けられたものだと説明しています『タフスィール・イブン・カスィール』9:40。

アブー・バクルの心配

アブー・バクルは**自分の身を案じていたのではありません**。学者たちによれば、かれが心配していたのは**アッラーの使徒** ﷺ の安全と宣教の将来でした。この節の「**その同僚**」という呼び名は、アブー・バクルが**洞窟でのアッラーの使徒** ﷺ **の同僚**であったことのクルアーン上の証拠であり、クルアーンの中で教友であることがはっきり述べられている唯一の人物なのです。

9:40 の言葉	教訓
「2 人で洞窟にいた時」（二人のうちの一人）	わずか二人がクライシュ族全体に立ち向かった――しかしアッラーが共におられた。
「心配してはならない」	指導者の落ち着きが、従う者を落ち着かせる。
「アッラーはかれの安らぎを与え」	安らぎ（サキーナ）はアッラーの賜物であり、人間の策略の産物ではない。
「あなたがたには見えないが、（天使の）軍勢」	アッラーの助けは、予想もしない形でやって来る。
「アッラーの御言葉をも高められた」	ヒジュラの最終的な結果：イスラームの勝利。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クモとハト：何が真正か

ほとんどすべてのムスリムの子どもが、サウルの洞窟の入口で**クモが巣を張り**、**つがいのハトが卵を産んだ**ので、クライシュ族は中に誰もいないと思った、という話を聞いたことがあるでしょう。この話の位置づけはどうなのでしょうか。

物語	出典と評価
洞窟の入口にクモが巣を張った	『ムスナド・アフマド』3251（イブン・アッバース）。イブン・ハジャルとイブン・カスィール：伝承経路はハサン。アルバーニーと『ムスナド』の校訂者：ダイーフ。**見解が分かれる。**
洞窟の入口で二羽のハトが卵を産んだ	イブン・アサーキル。イブン・カスィールは、この伝承経路では「ガリーブ・ジッダン」（非常に孤立した伝承）と述べた。**弱い。**
アブー・バクルの言葉：「もしかれらが足もとを見下ろせば……」	『サヒーフ・ブハーリー』3653；『サヒーフ・ムスリム』2381。**真正（サヒーフ）。**

アルバーニーは、その話がどれほど有名であっても、洞窟のクモとハトについて**真正なハディースはない**と書いています。一方、イブン・ハジャルとイブン・カスィールはクモの伝承をハサンとして受け入れています。したがって、クモの話は**その位置づけを説明したうえで**語ることができますが、ハトの話を事実として語るべきではありません。

確かなこと：アッラーの守り

確かなのは、クルアーンと真正なハディースが述べていることです。追っ手は**洞窟の真上に立ち**、足もとを見下ろせば見えるほどだったのに、**アッラーがかれらの目をふさがれた**のです。本当の奇跡は、アッラーの使徒 ﷺ の落ち着きと、アッラーの約束「**アッラーはわたしたちと共におられる**」にあります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラのチーム

アーイシャのハディースは、ヒジュラが**綿密に計画されたチームワーク**であったことを示しています。一人ひとりに、その能力に合った任務が与えられました。

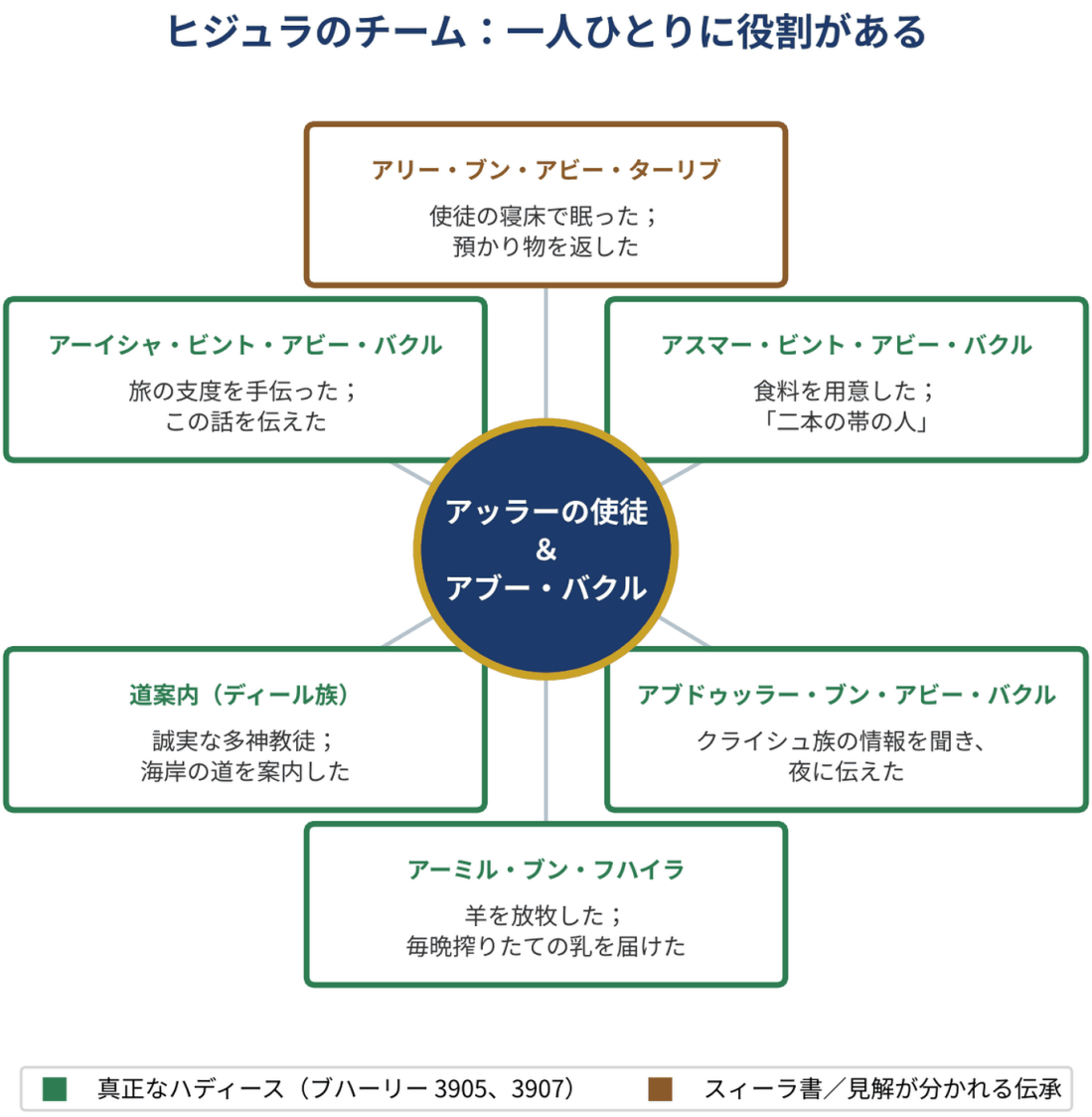


図 2：ヒジュラのチームとそれぞれの役割。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

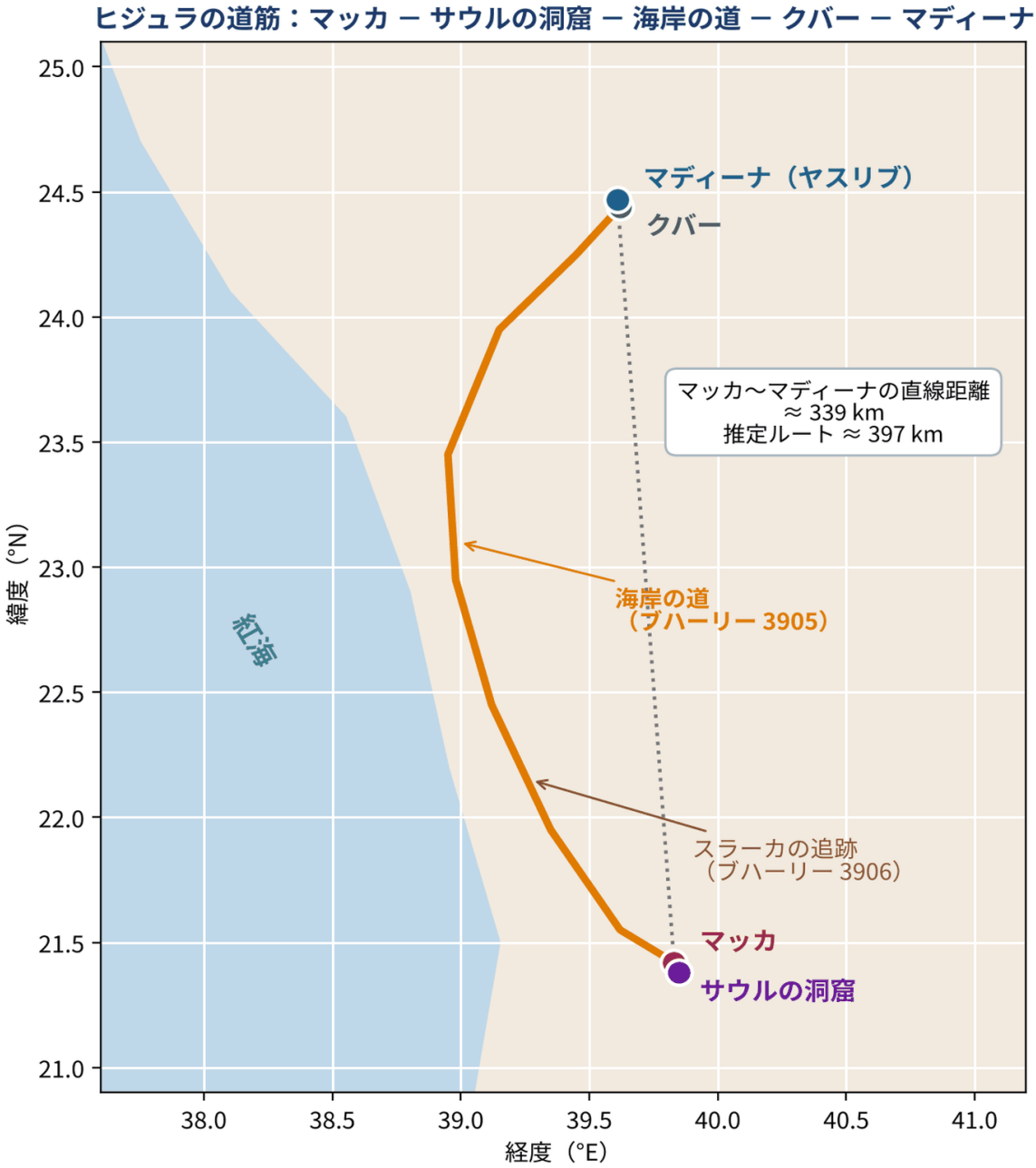
人物	役割と出典
アブドゥッラー・ブン・アビー・バクル	聡明な若者。洞窟で夜を過ごし、夜明け前に帰った。クライシュ族の策略を聞き、夜に伝えた（ブハーリー 3905）。
アーミル・ブン・フハイラ	アブー・バクルが解放した奴隷。羊を洞窟まで放牧し、搾りたての乳を届けた（ブハーリー 3905）。スィーラ書：羊がアブドゥッラーの足跡を消した。
アスマー・ビント・アビー・バクル	食料を用意した。二本の帯（ブハーリー 3905、3907）。
ディール族の道案内	誠実で熟練した多神教徒。ラクダを預かり、海岸の道を案内した（ブハーリー 3905）。スィーラ書はかれをアブドゥッラー・ブン・ウライキトと呼ぶ。
アリー・ブン・アビー・ターリブ	使徒の寝床で眠り、預かり物を返した（伝承は見解が分かれる。スィーラ書）。

教訓：**タワックル（アッラーへの信頼）は計画しないことを意味しません。**アッラーの使徒 ﷺ は誰よりもアッラーを信頼していた人でしたが、時刻、方角、食料、情報収集、足跡の隠蔽、道案内と、あらゆる細部を計画されました。すべての努力を尽くした後に、はじめて言われたのです。「**アッラーはわたしたちと共におられる**」

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

海岸の道と羊飼い

三夜の後、道案内が二頭のラクダを連れて来て、四人は出発しました――アッラーの使徒 ﷺ、アブー・バクル、アーミル・ブン・フハイラ、そして道案内です。かれらはふつうの隊商路ではなく、めったに人の通らない**海岸沿いの道**を進みました。



概略図。実際の道筋は確定できない。座標と海岸線は概算。

図 3：マッカからマディーナへのヒジュラの道筋（概略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

岩陰と羊飼いの乳

アブー・バクルは、その旅で起きた出来事をアーズィブとその息子アル＝バラーに語りました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3615 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ يُوسُفَ، حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ يَزِيدَ بْنِ إِبْرَاهِيمَ أَبُو الْحَسَنِ الْحَرَّانِيُّ، حَدَّثَنَا زُهَيْرُ بْنُ مُعَاوِيَةَ، حَدَّثَنَا أَبُو إِسْحَاقَ، سَمِعْتُ الْبَرَاءَ بْنَ عَازِبٍ، يَقُولُ جَاءَ أَبُو بَكْرٍ ـ رضى الله عنه ـ إِلَى أَبِي فِي مَنْزِلِهِ، فَاشْتَرَى مِنْهُ رَحْلاً فَقَالَ لِعَازِبٍ ابْعَثِ ابْنَكَ يَحْمِلْهُ مَعِي. قَالَ فَحَمَلْتُهُ مَعَهُ، وَخَرَجَ أَبِي يَنْتَقِدُ ثَمَنَهُ، فَقَالَ لَهُ أَبِي يَا أَبَا بَكْرٍ حَدِّثْنِي كَيْفَ صَنَعْتُمَا حِينَ سَرَيْتُمَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ نَعَمْ أَسْرَيْنَا لَيْلَتَنَا، وَمِنَ الْغَدِ حَتَّى قَامَ قَائِمُ الظَّهِيرَةِ، وَخَلاَ الطَّرِيقُ لاَ يَمُرُّ فِيهِ أَحَدٌ، فَرُفِعَتْ لَنَا صَخْرَةٌ طَوِيلَةٌ، لَهَا ظِلٌّ لَمْ تَأْتِ عَلَيْهِ الشَّمْسُ فَنَزَلْنَا عِنْدَهُ، وَسَوَّيْتُ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مَكَانًا بِيَدِي يَنَامُ عَلَيْهِ، وَبَسَطْتُ فِيهِ فَرْوَةً، وَقُلْتُ نَمْ يَا رَسُولَ اللَّهِ، وَأَنَا أَنْفُضُ لَكَ مَا حَوْلَكَ. فَنَامَ وَخَرَجْتُ أَنْفُضُ مَا حَوْلَهُ، فَإِذَا أَنَا بِرَاعٍ مُقْبِلٍ بِغَنَمِهِ إِلَى الصَّخْرَةِ يُرِيدُ مِنْهَا مِثْلَ الَّذِي أَرَدْنَا فَقُلْتُ لِمَنْ أَنْتَ يَا غُلاَمُ فَقَالَ لِرَجُلٍ مِنْ أَهْلِ الْمَدِينَةِ أَوْ مَكَّةَ. قُلْتُ أَفِي غَنَمِكَ لَبَنٌ قَالَ نَعَمْ. قُلْتُ أَفَتَحْلُبُ قَالَ نَعَمْ. فَأَخَذَ شَاةً. فَقُلْتُ انْفُضِ الضَّرْعَ مِنَ التُّرَابِ وَالشَّعَرِ وَالْقَذَى. قَالَ فَرَأَيْتُ الْبَرَاءَ يَضْرِبُ إِحْدَى يَدَيْهِ عَلَى الأُخْرَى يَنْفُضُ، فَحَلَبَ فِي قَعْبٍ كُثْبَةً مِنْ لَبَنٍ، وَمَعِي إِدَاوَةٌ حَمَلْتُهَا لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم يَرْتَوِي مِنْهَا، يَشْرَبُ وَيَتَوَضَّأُ، فَأَتَيْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَكَرِهْتُ أَنْ أُوقِظَهُ، فَوَافَقْتُهُ حِينَ اسْتَيْقَظَ، فَصَبَبْتُ مِنَ الْمَاءِ عَلَى اللَّبَنِ حَتَّى بَرَدَ أَسْفَلُهُ، فَقُلْتُ اشْرَبْ يَا رَسُولَ اللَّهِ ـ قَالَ ـ فَشَرِبَ، حَتَّى رَضِيتُ ثُمَّ قَالَ أَلَمْ يَأْنِ لِلرَّحِيلِ. قُلْتُ بَلَى ـ قَالَ ـ فَارْتَحَلْنَا بَعْدَ مَا مَالَتِ الشَّمْسُ، وَاتَّبَعَنَا سُرَاقَةُ بْنُ مَالِكٍ، فَقُلْتُ أُتِينَا يَا رَسُولَ اللَّهِ. فَقَالَ لاَ تَحْزَنْ، إِنَّ اللَّهَ مَعَنَا. فَدَعَا عَلَيْهِ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَارْتَطَمَتْ بِهِ فَرَسُهُ إِلَى بَطْنِهَا ـ أُرَى فِي جَلَدٍ مِنَ الأَرْضِ، شَكَّ زُهَيْرٌ ـ فَقَالَ إِنِّي أُرَاكُمَا قَدْ دَعَوْتُمَا عَلَيَّ فَادْعُوَا لِي، فَاللَّهُ لَكُمَا أَنْ أَرُدَّ عَنْكُمَا الطَّلَبَ. فَدَعَا لَهُ النَّبِيُّ صلى الله عليه

وسلم فَنَجَا فَجَعَلَ لاَ يَلْقَى أَحَدًا إِلاَّ قَالَ كَفَيْتُكُمْ مَا هُنَا. فَلاَ يَلْقَى أَحَدًا إِلاَّ رَدَّهُ. قَالَ وَوَفَى لَنَا.

訳：

アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضى الله عنهما は言った。アブー・バクルが私の父のところに来て、鞍を一つ買った……。父は言った。「アブー・バクルよ、あなたがアッラーの使徒 ﷺ と夜に旅をしたとき、二人がどうしたのか話してください」。アブー・バクルは言った。**「私たちは一晩中、そして翌日の昼まで進み、道が静まりかえって誰一人通らなくなった。すると、まだ日の当たっていない陰のある長い岩が見えた。私たちはそこに降りた。私は預言者 ﷺ が眠れるよう場所を平らにならし、毛皮を一枚敷いて言った。『お休みください、アッラーの使徒よ。私があたりを見張ります』。預言者が眠り、私は見張りに出た。すると一人の羊飼いが羊を連れてやって来た……。私は尋ねた。『あなたの羊は乳が出るか』。かれは答えた。『はい』。『私たちのために搾ってくれるか』。『はい』。私はかれに羊の乳房のほこりを払わせ、かれは器に少し乳を搾った。私は預言者 ﷺ が飲んだり清めをしたりするための水の器を持っていた。私が預言者のもとへ行くと、起こすのは忍びなかったが、預言者はすでに目を覚ましておられた。私は乳に水を注いで底まで冷やしてから言った。『お飲みください、アッラーの使徒よ』。預言者が飲まれたので、私は満ち足りた気持ちになった……。それから私たちは出発し、スラーカ・ブン・マーリクが私たちを追って来た。私は言った。『追いつかれました、アッラーの使徒よ』。預言者は言われた。『悲しむな。アッラーはわたしたちと共におられる』」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ユースフ ← アフマド・ブン・ヤズィード ← ズハイル ← アブー・イスハーク ← アル＝バラー・ブン・アーズィブ ← アブー・バクル رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』美徳の書、預言者性のしるしの章、ハディース第 3615 番。訳は要約している。スラーカの部分は次の章で扱う。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3615

このハディースは、**アブー・バクルの愛情と奉仕**をよく表しています。かれは寝場所をならし、見張りをし、乳のほこりを払い、水で冷やしました。眠っているアッラーの使徒ﷺを起こすことさえ忍びなかったのです。

学者たちは、他人の羊の乳をどうして飲めたのかを論じています。イブン・ハジャルによれば、当時のアラブには**旅人に家畜の乳を飲ませる習慣があり**、羊飼い自身も二人のために搾ることに同意していました。

スラーカ・ブン・マーリク

クライシュ族は、アッラーの使徒 ***seratus ekor unta*** とアブー・バクルの一人につき、生死を問わずラクダ百頭の懸賞をかけました。ムドリジ族の熟練した追跡者**スラーカ・ブン・マーリク・ブン・ジュウシュム**が二人の跡を追いました。かれ自身が、何が起きたかを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3906 番

قَالَ ابْنُ شِهَابٍ وَأَخْبَرَنِي عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَالِكٍ الْمُدْلِجِيُّ ـ وَهُوَ ابْنُ أَخِي سُرَاقَةَ بْنِ مَالِكِ بْنِ جُعْشُمٍ ـ أَنَّ أَبَاهُ، أَخْبَرَه أنه، سَمِعَ سُرَاقَةَ بْنَ جُعْشُمٍ، يَقُولُ جَاءَنَا رُسُلُ كُفَّارِ قُرَيْشٍ يَجْعَلُونَ فِي رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبِي بَكْرٍ دِيَةَ كُلِّ وَاحِدٍ مِنْهُمَا، مَنْ قَتَلَهُ أَوْ أَسَرَهُ، فَبَيْنَمَا أَنَا جَالِسٌ فِي مَجْلِسٍ مِنْ مَجَالِسِ قَوْمِي بَنِي مُدْلِجٍ أَقْبَلَ رَجُلٌ مِنْهُمْ حَتَّى قَامَ عَلَيْنَا وَنَحْنُ جُلُوسٌ، فَقَالَ يَا سُرَاقَةُ، إِنِّي قَدْ رَأَيْتُ آنِفًا أَسْوِدَةً بِالسَّاحِلِ ـ أُرَاهَا مُحَمَّدًا وَأَصْحَابَهُ. قَالَ سُرَاقَةُ فَعَرَفْتُ أَنَّهُمْ هُمْ، فَقُلْتُ لَهُ إِنَّهُمْ لَيْسُوا بِهِمْ، وَلَكِنَّكَ رَأَيْتَ فُلاَنًا وَفُلاَنًا انْطَلَقُوا بِأَعْيُنِنَا. ثُمَّ لَبِثْتُ فِي الْمَجْلِسِ سَاعَةً، ثُمَّ قُمْتُ فَدَخَلْتُ فَأَمَرْتُ جَارِيَتِي أَنْ تَخْرُجَ بِفَرَسِي وَهْيَ مِنْ وَرَاءِ أَكَمَةَ فَتَحْبِسَهَا عَلَيَّ، وَأَخَذْتُ رُمْحِي، فَخَرَجْتُ بِهِ مِنْ ظَهْرِ الْبَيْتِ، فَخَطَطْتُ بِزُجِّهِ الأَرْضَ، وَخَفَضْتُ عَالِيَهُ حَتَّى أَتَيْتُ فَرَسِي فَرَكِبْتُهَا، فَرَفَعَتْهَا تُقَرِّبُ بِي حَتَّى دَنَوْتُ مِنْهُمْ، فَعَثَرَتْ بِي فَرَسِي، فَخَرَرْتُ عَنْهَا فَقُمْتُ، فَأَهْوَيْتُ يَدِي إِلَى كِنَانَتِي فَاسْتَخْرَجْتُ مِنْهَا الأَزْلاَمَ، فَاسْتَقْسَمْتُ بِهَا أَضُرُّهُمْ أَمْ لاَ فَخَرَجَ الَّذِي أَكْرَهُ،

فَرَكِبْتُ فَرَسِي، وَعَصَيْتُ الأَزْلاَمَ، تُقَرِّبُ بِي حَتَّى إِذَا سَمِعْتُ قِرَاءَةَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَهْوَ لاَ يَلْتَفِتُ، وَأَبُو بَكْرٍ يُكْثِرُ الالْتِفَاتَ سَاخَتْ يَدَا فَرَسِي فِي الأَرْضِ حَتَّى بَلَغَتَا الرُّكْبَتَيْنِ، فَخَرَرْتُ عَنْهَا ثُمَّ زَجَرْتُهَا فَنَهَضَتْ، فَلَمْ تَكَدْ تُخْرِجُ يَدَيْهَا، فَلَمَّا اسْتَوَتْ قَائِمَةً، إِذَا لأَثَرِ يَدَيْهَا عُثَانٌ سَاطِعٌ فِي السَّمَاءِ مِثْلُ الدُّخَانِ، فَاسْتَقْسَمْتُ بِالأَزْلاَمِ، فَخَرَجَ الَّذِي أَكْرَهُ، فَنَادَيْتُهُمْ بِالأَمَانِ فَوَقَفُوا، فَرَكِبْتُ فَرَسِي حَتَّى جِئْتُهُمْ، وَوَقَعَ فِي نَفْسِي حِينَ لَقِيتُ مَا لَقِيتُ مِنَ الْحَبْسِ عَنْهُمْ أَنْ سَيَظْهَرُ أَمْرُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقُلْتُ لَهُ إِنَّ قَوْمَكَ قَدْ جَعَلُوا فِيكَ الدِّيَةَ. وَأَخْبَرْتُهُمْ أَخْبَارَ مَا يُرِيدُ النَّاسُ بِهِمْ، وَعَرَضْتُ عَلَيْهِمِ الزَّادَ وَالْمَتَاعَ، فَلَمْ يَرْزَآنِي وَلَمْ يَسْأَلاَنِي إِلاَّ أَنْ قَالَ أَخْفِ عَنَّا. فَسَأَلْتُهُ أَنْ يَكْتُبَ لِي كِتَابَ أَمْنٍ، فَأَمَرَ عَامِرَ بْنَ فُهَيْرَةَ، فَكَتَبَ فِي رُقْعَةٍ مِنْ أَدِيمٍ، ثُمَّ مَضَى رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم. قَالَ ابْنُ شِهَابٍ فَأَخْبَرَنِي عُرْوَةُ بْنُ الزُّبَيْرِ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَقِيَ الزُّبَيْرَ فِي رَكْبٍ مِنَ الْمُسْلِمِينَ كَانُوا تِجَارًا قَافِلِينَ مِنَ الشَّأْمِ، فَكَسَا الزُّبَيْرُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبَا بَكْرٍ ثِيَابَ بَيَاضٍ، وَسَمِعَ الْمُسْلِمُونَ بِالْمَدِينَةِ مَخْرَجَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنْ مَكَّةَ، فَكَانُوا يَغْدُونَ كُلَّ غَدَاةٍ إِلَى الْحَرَّةِ فَيَنْتَظِرُونَهُ، حَتَّى يَرُدَّهُمْ حَرُّ الظَّهِيرَةِ، فَانْقَلَبُوا يَوْمًا بَعْدَ مَا أَطَالُوا انْتِظَارَهُمْ، فَلَمَّا أَوَوْا إِلَى بُيُوتِهِمْ، أَوْفَى رَجُلٌ مِنْ يَهُودَ عَلَى أُطُمٍ مِنْ آطَامِهِمْ لأَمْرٍ يَنْظُرُ إِلَيْهِ، فَبَصُرَ بِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَصْحَابِهِ مُبَيَّضِينَ يَزُولُ بِهِمُ السَّرَابُ، فَلَمْ يَمْلِكِ الْيَهُودِيُّ أَنْ قَالَ بِأَعْلَى صَوْتِهِ يَا مَعَاشِرَ الْعَرَبِ هَذَا جَدُّكُمُ الَّذِي تَنْتَظِرُونَ. فَثَارَ الْمُسْلِمُونَ إِلَى السِّلاَحِ، فَتَلَقَّوْا رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِظَهْرِ الْحَرَّةِ، فَعَدَلَ بِهِمْ ذَاتَ الْيَمِينِ حَتَّى نَزَلَ بِهِمْ فِي بَنِي عَمْرِو بْنِ عَوْفٍ، وَذَلِكَ يَوْمَ الاِثْنَيْنِ مِنْ شَهْرِ رَبِيعٍ الأَوَّلِ، فَقَامَ أَبُو بَكْرٍ لِلنَّاسِ، وَجَلَسَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم صَامِتًا، فَطَفِقَ مَنْ جَاءَ مِنَ الأَنْصَارِ مِمَّنْ لَمْ يَرَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يُحَيِّي أَبَا بَكْرٍ، حَتَّى أَصَابَتِ الشَّمْسُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَقْبَلَ أَبُو بَكْرٍ حَتَّى ظَلَّلَ عَلَيْهِ بِرِدَائِهِ، فَعَرَفَ النَّاسُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عِنْدَ ذَلِكَ، فَلَبِثَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي بَنِي عَمْرِو بْنِ عَوْفٍ بِضْعَ عَشْرَةَ لَيْلَةً وَأَسَّسَ الْمَسْجِدَ الَّذِي أُسِّسَ عَلَى

التَّقْوَى، وَصَلَّى فِيهِ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، ثُمَّ رَكِبَ رَاحِلَتَهُ فَسَارَ يَمْشِي مَعَهُ النَّاسُ حَتَّى بَرَكَتْ عِنْدَ مَسْجِدِ الرَّسُولِ صلى الله عليه وسلم بِالْمَدِينَةِ، وَهْوَ يُصَلِّي فِيهِ يَوْمَئِذٍ رِجَالٌ مِنَ الْمُسْلِمِينَ، وَكَانَ مِرْبَدًا لِلتَّمْرِ لِسُهَيْلٍ وَسَهْلٍ غُلاَمَيْنِ يَتِيمَيْنِ فِي حَجْرِ أَسْعَدَ بْنِ زُرَارَةَ، فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حِينَ بَرَكَتْ بِهِ رَاحِلَتُهُ هَذَا إِنْ شَاءَ اللَّهُ الْمَنْزِلُ. ثُمَّ دَعَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْغُلاَمَيْنِ، فَسَاوَمَهُمَا بِالْمِرْبَدِ لِيَتَّخِذَهُ مَسْجِدًا، فَقَالاَ لاَ بَلْ نَهَبُهُ لَكَ يَا رَسُولَ اللَّهِ، ثُمَّ بَنَاهُ مَسْجِدًا، وَطَفِقَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَنْقُلُ مَعَهُمُ اللَّبِنَ فِي بُنْيَانِهِ، وَيَقُولُ وَهُوَ يَنْقُلُ اللَّبِنَ هَذَا الْحَمَالُ لاَ حَمَالَ خَيْبَرْ هَذَا أَبَرُّ رَبَّنَا وَأَطْهَرْ. وَيَقُولُ اللَّهُمَّ إِنَّ الأَجْرَ أَجْرُ الآخِرَهْ فَارْحَمِ الأَنْصَارَ وَالْمُهَاجِرَهْ. فَتَمَثَّلَ بِشِعْرِ رَجُلٍ مِنَ الْمُسْلِمِينَ لَمْ يُسَمَّ لِي. قَالَ ابْنُ شِهَابٍ وَلَمْ يَبْلُغْنَا فِي الأَحَادِيثِ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم تَمَثَّلَ بِبَيْتِ شِعْرٍ تَامٍّ غَيْرِ هذه الآيات

訳：

スラーカ・ブン・ジュウシュムは言った。「**クライシュ族の不信者の使者たちが私たちのところに来て、アッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルを殺すか捕らえた者には、一人につき血の代償（ラクダ百頭）に相当する懸賞を与えると告げた。私が一族ムドリジ族の集まりに座っていると、一人の男が来て言った。『スラーカよ、私はたった今、海岸にいくつかの人影を見た。ムハンマドとその仲間たちだと思う』。私はまさしくかれらだとわかったが、こう言った。『かれらではない。あなたが見たのは、私たちの前を出て行った誰それと誰それだ』。私はしばらく座ってから家に戻り、女奴隷に命じて丘の陰で私の馬を用意させた。私は槍を取り、裏口から出た……。私は馬を駆って二人に近づいたが、馬がつまずき、私は落ちた。私は占いの矢を引いて、二人に危害を加えるべきかどうかを占ったが、気に入らない答えが出た。私は再び馬に乗り、アッラーの使徒 ﷺ の読誦が聞こえるところまで近づいた――使徒は振り返らず、アブー・バクルはしきりに振り返っていた――すると突然、**私の馬の前脚が二本とも膝まで地面にめり込み、**私は落ちた……。馬が起き上がると、その足跡から煙のような砂ぼこりが空へ立ちのぼった。私は再び占ったが、気に入らない答えが出た。そこで私は安全を保証すると二人に呼びかけ、二人は止まった。私は馬で近づいた。二人に近づくのを阻まれたとき、私**

の心にアッラーの使徒 ﷺ の事業は勝利する**という思いがよぎった。私は使徒に、かれの一族がかけた懸賞とかれらの計画を知らせ、食料を差し出したが、二人は何も受け取らなかった。使徒はただ言われた。『私たちのことを秘密にしておきなさい』。私は安全保障の書状を書いてほしいと願い、使徒はアーミル・ブン・フハイラに命じて革の切れ端に書かせた**」。イブン・シハーブは言った。ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルは次のように伝えた。アッラーの使徒 ﷺ は、シリアから戻るムスリム商人の隊商の中にいた**アッ＝ズバイル**に出会い、アッ＝ズバイルは使徒とアブー・バクルに白い衣を贈った。マディーナのムスリムたちは、使徒がマッカを出たと聞くと、**毎朝ハッラへ出て使徒を待ち**、真昼の暑さに追われて帰るのだった。ある日、ユダヤ教徒の男が自分の砦の上から、白い衣をまとったアッラーの使徒 ﷺ とその同僚が蜃気楼の中から現れるのを見て叫んだ。「アラブの人びとよ。あなたがたが待ちわびていた大人物が来たぞ」。ムスリムたちはハッラで使徒を迎えようと急いだ。使徒は右に曲がり、**アムル・ブン・アウフ家**のもとに降り立たれた。それは**ラビーウ・アル＝アウワル月の月曜日**であった。アブー・バクルは立って人びとを迎え、アッラーの使徒 ﷺ は黙って座っておられた。使徒を見たことのない人びとはアブー・バクルにあいさつしたが、日差しが使徒に当たり、アブー・バクルが自分の衣で使徒に陰を作ったので、人びとはようやくアッラーの使徒 ﷺ がどなたかわかった。使徒はアムル・ブン・アウフ家のもとに十数夜とどまり、**敬虔さの上に建てられたモスク**を建て、そこで礼拝された。それから使徒はラクダに乗り、人びとがともに歩いた。そして**ラクダはマディーナのアッラーの使徒 ﷺ のモスクの場所でひざまずいた**。そこはアスアド・ブン・ズラーラの後見のもとにある二人の孤児**サフルとスハイル**のナツメヤシの乾燥場であった。使徒は言われた。**「ここが、アッラーが望まれるなら、（われわれの）住まいである」**。使徒は二人の少年を呼んで値段を交渉しようとされたが、かれらは言った。「これはあなたに差し上げます、アッラーの使徒よ」。それから使徒はそこにモスクを建てた。使徒は自ら**日干しれんがを運び**ながら詠われた。**「アッラーよ、真の報いは来世の報い。援助者たちと移住者たちに慈悲をお与えください」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーが前のハディース（第 3905 番）と同じ伝承経路でイブン・シハーブまで伝える：アブドゥッラフマーン・ブン・マーリク ← 父マーリク ← ス

ラーカ・ブン・ジュウシュム رضي الله عنه。後半は イブン・シハーブ ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、預言者ﷺと教友たちのマディーナへのヒジュラの章、ハディース第 3906 番。訳の一部は要約している。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3906

スラーカについての三つの伝承

伝承	主な細部
ブハーリー 3906（スラーカ自身）	馬がつまずき、次に前脚が膝までめり込んだ。占いの矢。アーミル・ブン・フハイラによる安全保障の書状。
ブハーリー 3615（アブー・バクル）	使徒が祈ると、馬は腹までめり込んだ。スラーカは祈りを求め、追っ手をよそへ向けると約束した。
ブハーリー 3911（アナス）	「その日の初めにはアッラーの預言者の敵であったが、その日の終わりにはかれの守り手となった」

これらの伝承は互いに補い合っています。最も驚くべきは、スラーカの変化です。かれは使徒を**捕らえる**ために出かけたのに、他の追っ手を引き返させる**守り手**となって戻りました。スィーラ書によれば、スラーカは数年後、マッカ征服とフナインの戦いの後にイスラームに入りました。

スィーラの注：ホスローの腕輪

有名な話によれば、アッラーの使徒 ﷺ はスラーカに「ホスローの腕輪をはめたら、あなたはどうなるだろう」と言われ、ウマルの時代に、そのペルシア王の腕輪がスラーカにはめられたといいます。この話は**ムルサル**（伝承経路が途切れている）として伝えられ、**真正なハディース集には見られません。**位置づけを説明したうえで、スィーラの伝承として語ることはできます。

参照：
イブン・ハジャル『イサーバ』、スラーカ・ブン・マーリクの伝記。

ウンム・マアバドの天幕

スィーラ書によれば、旅の途中、ヒジュラの一行はフザーア族の年配の女性**ウンム・マアバド**の天幕に立ち寄りました。売ってもらえる食べ物はないかと尋ねましたが、干ばつの季節で、かのじょには何もありませんでした。

スィーラの注：ウンム・マアバドの羊の話

アッラーの使徒 ﷺ は、弱って群れについて行けない一頭の羊に目を留められました。使徒は許しを求め、アッラーの御名を唱えて祈りながらその乳房をなでられると、**乳が流れ出ました。**使徒はまずウンム・マアバドに満腹するまで飲ませ、次に教友たちに飲ませ、ご自身は最後に飲まれ、さらにかのじょのために器がいっぱいになるまで搾られました。

夫のアブー・マアバドが帰って来て尋ねると、ウンム・マアバドは客人の様子を語りました。それはアラブ文学で**最も有名な預言者 ﷺ の容姿の描写**となりました――輝く顔、美しい人柄、よく通る声、整った話しぶり。

評価：ハーキム（『ムスタドラク』）、タバラーニー、バイハキーが伝えています。ハーキムは伝承経路を真正と評価し、イブン・カスィールはこの話が**互いに補強し合う多くの経路**で伝えられていると述べています。一方、伝承経路を弱いとする研究者もいます。したがって**見解が分かれます**が、スィーラの章で語ることは受け入れられています。

参照：

HadithAnswers「The famous description of Nabi ﷺ by Ummu Ma'bad」。https://hadithanswers.com/the-famous-description-of-nabi-sallallahu-alayhi-wa-sallam-by-ummu-mabad-radiyallahu-anha/

教訓：追われている最中でさえ、アッラーの使徒 ﷺ は**許しなく取ることはなく、最後に飲まれました。**別のハディースで使徒が言われたとおりです。「**人に飲み物を配る者は、最後に飲む者である**」（『サヒーフ・ムスリム』681）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：45 / 567

ハッラでの待ちわび

マディーナには、アッラーの使徒 ﷺ がマッカを出たという知らせが先に届いていました。ブハーリー 3906 の後半は、住民たちの**待ちこがれる思い**を描いています。毎朝かれらは町はずれの黒い岩地**ハッラ**へ出て、真昼の暑さに追われて帰るまで待ち続けました。

ある日、人びとが帰った後、**一人のユダヤ教徒**が自分の砦の上から、白い衣の二人が蜃気楼の中から現れるのを見て叫びました。「**アラブの人びとよ。あなたがたが待ちわびていた大人物が来たぞ**」。ムスリムたちはすぐに武器を取り、使徒を迎えに出ました。

月曜日

使徒は**月曜日**、ラビーウ・アル＝アウワル月にクバーに到着されました（ブハーリー 3906）。月曜日は使徒の生涯で特別な日です。月曜日の断食について尋ねられたとき、使徒は言われました。「**それはわたしが生まれた日であり、わたしが（使徒として）遣わされた――あるいは啓示が下された――日である**」（『サヒーフ・ムスリム』1162）。

使徒に陰を作ったアブー・バクル

マディーナの人びとの多くは、アッラーの使徒 ﷺ を見たことがありませんでした。かれらは年長のアブー・バクルを預言者だと思ってあいさつしました。日差しが使徒に当たると、**アブー・バクルは立ち上がり、自分の衣で使徒に陰を作りました。**そこで人びとは、誰がアッラーの使徒 ﷺ なのかを知ったのです。アブー・バクルは、人びとの思い違いを一瞬たりとも長引かせませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「この人が私に道を示してくれる」

当時マディーナの少年だったアナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ の到着の様子と、アブー・バクルの非常に賢い答えを語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3911 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدٌ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الصَّمَدِ، حَدَّثَنَا أَبِي، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ بْنُ صُهَيْبٍ، حَدَّثَنَا أَنَسُ بْنُ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ أَقْبَلَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى الْمَدِينَةِ وَهْوَ مُرْدِفٌ أَبَا بَكْرٍ، وَأَبُو بَكْرٍ شَيْخٌ يُعْرَفُ، وَنَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم شَابٌّ لاَ يُعْرَفُ، قَالَ فَيَلْقَى الرَّجُلُ أَبَا بَكْرٍ فَيَقُولُ يَا أَبَا بَكْرٍ، مَنْ هَذَا الرَّجُلُ الَّذِي بَيْنَ يَدَيْكَ فَيَقُولُ هَذَا الرَّجُلُ يَهْدِينِي السَّبِيلَ. قَالَ فَيَحْسِبُ الْحَاسِبُ أَنَّهُ إِنَّمَا يَعْنِي الطَّرِيقَ، وَإِنَّمَا يَعْنِي سَبِيلَ الْخَيْرِ، فَالْتَفَتَ أَبُو بَكْرٍ، فَإِذَا هُوَ بِفَارِسٍ قَدْ لَحِقَهُمْ، فَقَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ، هَذَا فَارِسٌ قَدْ لَحِقَ بِنَا. فَالْتَفَتَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ اللَّهُمَّ اصْرَعْهُ. فَصَرَعَهُ الْفَرَسُ، ثُمَّ قَامَتْ تُحَمْحِمُ فَقَالَ يَا نَبِيَّ اللَّهِ مُرْنِي بِمَا شِئْتَ. قَالَ فَقِفْ مَكَانَكَ، لاَ تَتْرُكَنَّ أَحَدًا يَلْحَقُ بِنَا. قَالَ فَكَانَ أَوَّلَ النَّهَارِ جَاهِدًا عَلَى نَبِيِّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، وَكَانَ آخِرَ النَّهَارِ مَسْلَحَةً لَهُ، فَنَزَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم جَانِبَ الْحَرَّةِ، ثُمَّ بَعَثَ إِلَى الأَنْصَارِ، فَجَاءُوا إِلَى نَبِيِّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَسَلَّمُوا عَلَيْهِمَا، وَقَالُوا ارْكَبَا آمِنَيْنِ مُطَاعَيْنِ. فَرَكِبَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبُو بَكْرٍ، وَحَفُّوا دُونَهُمَا بِالسِّلاَحِ، فَقِيلَ فِي الْمَدِينَةِ جَاءَ نَبِيُّ اللَّهِ، جَاءَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم. فَأَشْرَفُوا يَنْظُرُونَ وَيَقُولُونَ جَاءَ نَبِيُّ اللَّهِ، جَاءَ نَبِيُّ اللَّهِ. فَأَقْبَلَ يَسِيرُ حَتَّى نَزَلَ جَانِبَ دَارِ أَبِي أَيُّوبَ، فَإِنَّهُ لَيُحَدِّثُ أَهْلَهُ، إِذْ سَمِعَ بِهِ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ سَلاَمٍ وَهْوَ فِي نَخْلٍ لأَهْلِهِ يَخْتَرِفُ لَهُمْ، فَعَجِلَ أَنْ يَضَعَ الَّذِي يَخْتَرِفُ لَهُمْ فِيهَا، فَجَاءَ وَهْىَ مَعَهُ، فَسَمِعَ مِنْ نَبِيِّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم ثُمَّ رَجَعَ إِلَى أَهْلِهِ، فَقَالَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَىُّ بُيُوتِ أَهْلِنَا أَقْرَبُ. فَقَالَ أَبُو أَيُّوبَ أَنَا يَا نَبِيَّ اللَّهِ، هَذِهِ دَارِي، وَهَذَا بَابِي. قَالَ فَانْطَلِقْ فَهَيِّئْ لَنَا مَقِيلاً. قَالَ قُومَا عَلَى بَرَكَةِ اللَّهِ. فَلَمَّا جَاءَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم جَاءَ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ سَلاَمٍ فَقَالَ أَشْهَدُ أَنَّكَ رَسُولُ اللَّهِ، وَأَنَّكَ جِئْتَ بِحَقٍّ، وَقَدْ

عَلِمَتْ يَهُودُ أَنِّي سَيِّدُهُمْ وَابْنُ سَيِّدِهِمْ، وَأَعْلَمُهُمْ وَابْنُ أَعْلَمِهِمْ، فَادْعُهُمْ فَاسْأَلْهُمْ عَنِّي قَبْلَ أَنْ يَعْلَمُوا أَنِّي قَدْ أَسْلَمْتُ، فَإِنَّهُمْ إِنْ يَعْلَمُوا أَنِّي قَدْ أَسْلَمْتُ قَالُوا فِيَّ مَا لَيْسَ فِيَّ. فَأَرْسَلَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَقْبَلُوا فَدَخَلُوا عَلَيْهِ. فَقَالَ لَهُمْ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَا مَعْشَرَ الْيَهُودِ، وَيْلَكُمُ اتَّقُوا اللَّهَ، فَوَاللَّهِ الَّذِي لاَ إِلَهَ إِلاَّ هُوَ إِنَّكُمْ لَتَعْلَمُونَ أَنِّي رَسُولُ اللَّهِ حَقًّا، وَأَنِّي جِئْتُكُمْ بِحَقٍّ فَأَسْلِمُوا. قَالُوا مَا نَعْلَمُهُ. قَالُوا لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَهَا ثَلاَثَ مِرَارٍ. قَالَ فَأَىُّ رَجُلٍ فِيكُمْ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ سَلاَمٍ. قَالُوا ذَاكَ سَيِّدُنَا وَابْنُ سَيِّدِنَا، وَأَعْلَمُنَا وَابْنُ أَعْلَمِنَا. قَالَ أَفَرَأَيْتُمْ إِنْ أَسْلَمَ. قَالُوا حَاشَا لِلَّهِ، مَا كَانَ لِيُسْلِمَ. قَالَ أَفَرَأَيْتُمْ إِنْ أَسْلَمَ. قَالُوا حَاشَا لِلَّهِ، مَا كَانَ لِيُسْلِمَ. قَالَ يَا ابْنَ سَلاَمٍ، اخْرُجْ عَلَيْهِمْ. فَخَرَجَ فَقَالَ يَا مَعْشَرَ الْيَهُودِ، اتَّقُوا اللَّهَ، فَوَاللَّهِ الَّذِي لاَ إِلَهَ إِلاَّ هُوَ إِنَّكُمْ لَتَعْلَمُونَ أَنَّهُ رَسُولُ اللَّهِ، وَأَنَّهُ جَاءَ بِحَقٍّ. فَقَالُوا كَذَبْتَ. فَأَخْرَجَهُمْ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は言った。**アッラーの預言者 ﷺ は、アブー・バクルを後ろに乗せてマディーナに来られた。アブー・バクルは人に知られた年配者で、アッラーの預言者 ﷺ は（見た目が）若く、知られていなかった。誰かがアブー・バクルに会うと、こう尋ねた。『アブー・バクルよ、あなたの前にいるこの人は誰ですか』。アブー・バクルは答えた。『この人は私に道を示してくれる人です』。**聞いた人はふつうの道のことだと思ったが、アブー・バクルが意味していたのは**善の道**であった。（スラーカの話は簡単に触れられている。）それからアッラーの預言者 ﷺ はハッラの端に降り立ち、援助者たちに使いを送られた。かれらはやって来てあいさつし、言った。「**お二人とも、安心して、従われる者としてお乗りください**」。かれらは武器を持って使徒を取り囲んだ。マディーナじゅうに「**アッラーの預言者が来られた。アッラーの預言者が来られた**」という声が広がった。人びとは見ようと外へ出て来た。使徒は進み、**アブー・アイユーブの家**のそばに降りられた……。使徒は尋ねられた。「**わたしたちの親族の家で、どれがいちばん近いか**」。アブー・アイユーブは言った。「私の家です、アッラーの預言者よ。これが私の家で、これが私の戸口です」。（このハディースは、その

日にイスラームに入ったユダヤ教の学者**アブドゥッラー・ブン・サラーム**の話へと続く。）

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド ← アブドゥッサマド ← 父アブドゥルワーリス ← アブドゥルアズィーズ ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ハディース第 3911 番。訳は要約している。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3911

真実で賢い答え

アブー・バクルは「**この人は私に道を示してくれる人です**」と答えました。この答えは**真実**です――アッラーの使徒 ﷺ はまさに善の道を示す方なのですから。しかし聞き手はふつうの道案内のことだと受け取ったので、旅の途中で使徒の正体は守られました。学者たちはこれを**タアリード**と呼びます。二つの意味をもつ真実の言葉で、うそをつかずに必要に応じて用いるものです。

アブドゥッラー・ブン・サラームの入信

同じハディースは、マディーナのユダヤ教徒の長であり学者でもあった**アブドゥッラー・ブン・サラーム**が、摘んだばかりのナツメヤシの実を持って急いで使徒に会いに来たことを語っています。かれは使徒の話を聞いて**信仰告白をしました**。かれは、自分がイスラームに入ったことをかれらが知る前に、自分について一族に尋ねてほしいと使徒に頼みました。かれらは「われわれの長であり長の息子、最も学識ある者であり最も学識ある者の息子」とかれを称えました。ところが、かれが出て来て入信を表明すると、かれらはすぐさま言いました。「おまえはうそつきだ」。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓：真理は、誰が語るかではなく**根拠**によって量られます。アブドゥッラー・ブン・サラームを入信前に称えていた人びとは、かれが真理を選んだとたんにかれを非難したのです。

クバー：最初のモスク

アッラーの使徒 ﷺ は、マディーナの高地（南部）にあるクバーの**アムル・ブン・アウフ家**の集落に滞在されました。そこで使徒はイスラームの**最初のモスクを建てられました**。ウルワは使徒がそこに**十数夜**とどまったと述べ（ブハーリー 3906）、アナスは**十四夜**と述べています（ブハーリー 3932）。「十数夜」には十四夜も含まれるので、両者は一致しています。

アッラーは「**最初の日から敬虔に礎えを定めて建立されたマスジド**」を称えておられます。イブン・カスィールは、この節の文脈（クバーのディラール・モスク）から、これは**クバー・モスク**を指していると説明しています。また真正なハディースでは、アッラーの使徒 ﷺ が**預言者のモスク**についても同じことを述べておられます（『サヒーフ・ムスリム』1398）。どちらも敬虔さの上に建てられたモスクなのです『タフスィール・イブン・カスィール』9:108。

クバー・モスクの徳はその後も続きました。イブン・ウマル رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ は**毎週土曜日にクバー・モスクを訪れ**、歩いて行かれることも、乗って行かれることもありました（『サヒーフ・ブハーリー』1193）。

> **スィーラの注：最初の金曜礼拝**
>
> スィーラ書によれば、クバーからマディーナへ向かう途中、使徒はラーヌーナーの谷にある**サーリム・ブン・アウフ家**の集落でムスリムたちとともに**最初の金曜礼拝**を行い、そこで最初の金曜の説教をされました。
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝』；ムバーラクフーリー『封印された蜜』。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ が新しい土地で最初に建てられたのは**モスク**でした。モスクはイスラーム共同体の中心――崇拝、学び、兄弟愛の場――なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

アブー・アイユーブの家

アッラーの使徒 ﷺ はクバーからラクダに乗ってマディーナへ入られ、**ナッジャール家**の有力者たちがその周りを囲みました。ナッジャール家は、使徒の祖父アブドゥルムッタリブの母方の一族です。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه はその光景をよく覚えていました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3932 番

حَدَّثَنَا مُسَدَّدٌ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَارِثِ،. وَحَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مَنْصُورٍ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ الصَّمَدِ، قَالَ سَمِعْتُ أَبِي يُحَدِّثُ، حَدَّثَنَا أَبُو التَّيَّاحِ، يَزِيدُ بْنُ حُمَيْدٍ الضُّبَعِيُّ قَالَ حَدَّثَنِي أَنَسُ بْنُ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا قَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْمَدِينَةَ، نَزَلَ فِي عُلْوِ الْمَدِينَةِ فِي حَيٍّ يُقَالُ لَهُمْ بَنُو عَمْرِو بْنِ عَوْفٍ ـ قَالَ ـ فَأَقَامَ فِيهِمْ أَرْبَعَ عَشْرَةَ لَيْلَةً، ثُمَّ أَرْسَلَ إِلَى مَلإِ بَنِي النَّجَّارِ ـ قَالَ ـ فَجَاءُوا مُتَقَلِّدِي سُيُوفِهِمْ، قَالَ وَكَأَنِّي أَنْظُرُ إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى رَاحِلَتِهِ، وَأَبُو بَكْرٍ رِدْفُهُ، وَمَلأُ بَنِي النَّجَّارِ حَوْلَهُ حَتَّى أَلْقَى بِفِنَاءِ أَبِي أَيُّوبَ، قَالَ فَكَانَ يُصَلِّي حَيْثُ أَدْرَكَتْهُ الصَّلاَةُ، وَيُصَلِّي فِي مَرَابِضِ الْغَنَمِ، قَالَ ثُمَّ إِنَّهُ أَمَرَ بِبِنَاءِ الْمَسْجِدِ، فَأَرْسَلَ إِلَى مَلإِ بَنِي النَّجَّارِ، فَجَاءُوا فَقَالَ يَا بَنِي النَّجَّارِ، ثَامِنُونِي حَائِطَكُمْ هَذَا. فَقَالُوا لاَ، وَاللَّهِ لاَ نَطْلُبُ ثَمَنَهُ إِلاَّ إِلَى اللَّهِ. قَالَ فَكَانَ فِيهِ مَا أَقُولُ لَكُمْ كَانَتْ فِيهِ قُبُورُ الْمُشْرِكِينَ، وَكَانَتْ فِيهِ خِرَبٌ، وَكَانَ فِيهِ نَخْلٌ، فَأَمَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِقُبُورِ الْمُشْرِكِينَ فَنُبِشَتْ، وَبِالْخِرَبِ فَسُوِّيَتْ، وَبِالنَّخْلِ فَقُطِعَ، قَالَ فَصَفُّوا النَّخْلَ قِبْلَةَ الْمَسْجِدِ ـ قَالَ ـ وَجَعَلُوا عِضَادَتَيْهِ حِجَارَةً. قَالَ قَالَ جَعَلُوا يَنْقُلُونَ ذَاكَ الصَّخْرَ وَهُمْ يَرْتَجِزُونَ، وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَعَهُمْ يَقُولُونَ اللَّهُمَّ إِنَّهُ لاَ خَيْرَ إِلاَّ خَيْرُ الآخِرَهْ فَانْصُرِ الأَنْصَارَ وَالْمُهَاجِرَهْ.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は言った。**アッラーの使徒 ﷺ はマディーナに着かれると、マディーナの高地の、アムル・ブン・アウフ家と呼ばれる部族のもとに降り立ち、かれらのもとに十四夜とどまられた。それからナッジャール家の有力者たちを呼ば**

れると、かれらは剣を帯びてやって来た。アッラーの使徒 ﷺ がラクダの上におられ、アブー・バクルがその後ろに乗り、ナッジャール家の有力者たちが周りを囲んでいる様子が、今も目に浮かぶようだ。そして使徒はアブー・アイユーブの家の中庭に降り立たれた。使徒は礼拝の時刻になると、羊の囲いの中でさえ、どこででも礼拝しておられた。その後、使徒はモスクの建設を命じられた。使徒はナッジャール家の有力者たちを呼んで言われた。「**ナッジャール家の人びとよ、このあなたがたの土地の値段をわたしに言いなさい**」。かれらは答えた。「いいえ、アッラーにかけて、私たちはその代価をアッラーからしか求めません」。そこには多神教徒の墓と、でこぼこの土地と、ナツメヤシの木があった。使徒は墓を掘り起こし、土地をならし、ナツメヤシを切り倒すよう命じられた。ナツメヤシの幹はキブラの壁として並べられ、戸口の両側には石の柱が建てられた。教友たちは歌を詠みながら石を運び、アッラーの使徒 ﷺ もかれらとともにおられた。「**アッラーよ、来世の善のほかに善はありません。援助者たちと移住者たちをお助けください**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーが二つの経路で伝える：ムサッダド ← アブドゥルワーリス、およびイスハーク・ブン・マンスール ← アブドゥッサマド ← 父アブドゥルワーリス — いずれも アブー・タイヤーフ ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、預言者 ﷺ と教友たちのマディーナ到着の章、ハディース第 3932 番。ムスリム（第 524 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3932

スィーラの注：「放っておきなさい。命じられているのだから」

スィーラ書によれば、使徒が通りかかった援助者たちの各部族は、使徒のラクダの手綱を押さえて、自分たちのもとに滞在するよう招きました。使徒は答えられました。「**放っておきなさい。このラクダは命じられているのだから**」。ラクダは歩き続け、アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリーの家の近くにある、二人の孤児の**ナツメヤシの乾燥場でひざまずきました。**

真正なハディース（ブハーリー 3906）は、ラクダが預言者のモスクの場所でひざまずき、使徒が「ここが、アッラーが望まれるなら、住まいである」と言われたことを確認しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』。=

アブー・アイユーブの礼儀

アッラーの使徒 ﷺ は、モスクと自分の部屋が建て終わるまで**アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー** رضى الله عنه の家に滞在されました。使徒は来客が訪ねやすいよう一階に住むことを選ばれ、アブー・アイユーブと妻は二階に住みました。アブー・アイユーブは**アッラーの使徒** ﷺ の上にいることを心苦しく思い、自分たちが一階へ移り、使徒に二階へ移っていただきました（『サヒーフ・ムスリム』2053）。

教訓：**アッラーの使徒** ﷺ を敬うことは、言葉だけでなく、寝る場所のような小さなことにまで表れます。歴史書によれば、アブー・アイユーブはその後長生きし、コンスタンティノープルの城壁のもとで戦士として亡くなりました。

預言者のモスクの建設

ラクダがひざまずいた土地が、**預言者のモスク**の敷地となりました。真正なハディースは、その建設を詳しく語っています。

建設の細部	典拠
二人の孤児サフルとスハイルのナツメヤシの乾燥場	ブハーリー 3906
ナッジャール家は代金を受け取らなかった：「私たちはその代価をアッラーからしか求めません」	ブハーリー 3932
多神教徒の墓を掘り起こし、土地をならし、ナツメヤシを切り倒した	ブハーリー 3932
ナツメヤシの幹でキブラの壁を作り、戸口の両側に石の柱を建てた	ブハーリー 3932
アッラーの使徒 ﷺ が自ら日干しれんがを運んだ	ブハーリー 3906
アンマールはれんがを一度に二つ運んだ	ブハーリー 447
詩：「アッラーよ、来世の善のほかに善はありません……」	ブハーリー 3906、3932

当時のキブラはまだ**エルサレム**に向いており、カアバへと変わったのは約十六か月あるいは十七か月後のことでした（『サヒーフ・ブハーリー』40）。

ともに働く指導者

アッラーの使徒 ﷺ は、ただ指示を出すだけではありませんでした。使徒は**教友たちとともにれんがを運び**、士気を高めるために詩を詠まれました。アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه によれば、教友たちは一人一個ずつれんがを運んでいましたが、**アンマール・ブン・ヤースィルは二個運び**、使徒はかれのほこりを払ってやられました（『サヒーフ・ブハーリー』447）。

このとき、アッラーが称えられた共同体が生まれました。それは「**（移住して）かれらのもとに来た者を愛護し**」た援助者たちです。移住者と援助者の兄弟の契りの話は、次の巻で語られます『タフスィール・イブン・カスィール』59:9。

マディーナの熱病と預言者の祈り

当時のマディーナは**熱病の流行**で知られていました。到着して間もなく、アブー・バクルやビラールを含む何人かの教友が病に倒れました。アーイシャ رضى الله عنها はかれらを見舞いました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3926 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ أَنَّهَا قَالَتْ لَمَّا قَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْمَدِينَةَ وُعِكَ أَبُو بَكْرٍ وَبِلاَلٌ ـ قَالَتْ ـ فَدَخَلْتُ عَلَيْهِمَا فَقُلْتُ يَا أَبَتِ كَيْفَ تَجِدُكَ وَيَا بِلاَلُ، كَيْفَ تَجِدُكَ قَالَتْ فَكَانَ أَبُو بَكْرٍ إِذَا أَخَذَتْهُ الْحُمَّى يَقُولُ كُلُّ امْرِئٍ مُصَبَّحٌ فِي أَهْلِهِ وَالْمَوْتُ أَدْنَى مِنْ شِرَاكِ نَعْلِهِ وَكَانَ بِلاَلٌ إِذَا أُقْلِعَ عَنْهُ الْحُمَّى يَرْفَعُ عَقِيرَتَهُ وَيَقُولُ أَلاَ لَيْتَ شِعْرِي هَلْ أَبِيتَنَّ لَيْلَةً بِوَادٍ وَحَوْلِي إِذْخِرٌ وَجَلِيلٌ وَهَلْ أَرِدَنْ يَوْمًا مِيَاهَ مَجَنَّةَ وَهَلْ يَبْدُوَنْ لِي شَامَةٌ وَطَفِيلٌ قَالَتْ عَائِشَةُ فَجِئْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَخْبَرْتُهُ فَقَالَ اللَّهُمَّ حَبِّبْ إِلَيْنَا الْمَدِينَةَ كَحُبِّنَا مَكَّةَ أَوْ أَشَدَّ، وَصَحِّحْهَا وَبَارِكْ لَنَا فِي صَاعِهَا وَمُدِّهَا، وَانْقُلْ حُمَّاهَا فَاجْعَلْهَا بِالْجُحْفَةِ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに着かれたとき、**アブー・バクルとビラールが熱病にかかった**。私はかれらのところへ行って尋ねた。「お父さま、ご気分はいかがですか。ビラールよ、気分はどうですか」。アブー・バクルは熱にうなされると、こう詠った。「人は皆、家族とともに朝を迎える。だが死は、その者のサンダルのひもよりも近くにある」。ビラールは熱が引くと、声を張り上げて詠った。「ああ、もう一夜だけ（マッカの）谷で、イズヒルとジャリールの草に囲まれて夜を過ごせたなら。もう一日だけマジャンナの水を飲めたなら。シャーマとタフィールの山をもう一度見られたなら」。私はアッラーの使徒 ﷺ のところへ行ってそれを伝えると、使徒は祈られた。「**アッラーよ、わたしたちがマッカを愛したように、あるいはそれ以上に、マディーナを愛させてください。アッラーよ、この地を健やかにし、そのサーとムッド（升）を祝福し、その熱病をジュフファへ移してください**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← マーリク ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← 父ウルワ ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ハディース第 3926 番。ムスリム（第 1376 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3926

マッカへの郷愁

ビラールの詩は、故郷を思う**移住者の切ない思い**を表しています。イズヒルとジャリールの草、マジャンナの水、シャーマとタフィールの山。ヒジュラは容易なことではありません。故郷も家族も思い出も後に残すのです。イスラームはその感情を否定しません――アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、かれらの心に**マディーナへの愛を芽生えさせてくださるよう**アッラーに祈られたのです。

使徒の祈り	その結果
「わたしたちがマッカを愛したように、あるいはそれ以上に、マディーナを愛させてください」	マディーナは、マッカに次いでムスリムに最も愛される町となった。
「この地を健やかにしてください」	熱病の流行はしだいに消えていった。
「そのサーとムッドを祝福してください」	住民の食べ物と糧に祝福がもたらされた。
「その熱病をジュフファへ移してください」	当時非ムスリムが住んでいたジュフファが、病の多い土地となった。

ヒジュラ暦

ヒジュラはあまりに大きな出来事だったので、教友たちはそれをウンマ（ムスリム共同体）の**年の数え始め**としました。サフル・ブン・サアド رضي الله عنه は言っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3934 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مَسْلَمَةَ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ سَهْلِ بْنِ سَعْدٍ، قَالَ مَا عَدُّوا مِنْ مَبْعَثِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَلاَ مِنْ وَفَاتِهِ، مَا عَدُّوا إِلاَّ مِنْ مَقْدَمِهِ الْمَدِينَةَ.

訳：

サフル・ブン・サアド رضي الله عنه は言った。「**かれら（教友たち）は年の数え始めを、預言者 ﷺ が遣わされた時からとも、亡くなられた時からともしなかった。かれらはそれを、使徒がマディーナに来られた時からとしたのである**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・マスラマ ← アブドゥルアズィーズ ← 父アブー・ハーズィム ← サフル・ブン・サアド رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、暦の始まりの章、ハディース第 3934 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3934

ヒジュラ暦は、**第二代カリフ、ウマル・ブン・アル＝ハッターブ** رضي الله عنه の時代、ヒジュラ暦 17 年（西暦 638 年）ごろに定められました。教友たちは、預言者の誕生、使命の開始、逝去などいくつかの案を話し合いましたが、**ヒジュラ**を選びました。それが、弱い時代と、イスラームが一つの共同体として立った時代とを分けるものだったからです。年の初めは**ムハッラム月**とされました。巡礼から人びとが戻る月だからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

項目	説明
年の数え方	ヒジュラの年から始まる（ブハーリー 3934）。
制定者	ウマル・ブン・アル＝ハッターブ、ヒジュラ暦 17 年／西暦 638 年ごろ（ウィキペディア）。
第 1 月	ムハッラム月（歴史書）。
ヒジュラ暦 1 年ムハッラム月 1 日	ユリウス暦で西暦 622 年 7 月 16 日にあたる（ウィキペディア）。
本書の年	2026 年 / 1448 AH

資料：ウィキペディア「Hijrah」。

教訓：ヒジュラ暦の年を書くたびに、私たちはアッラーの使徒 ***mengingati pengorbanan*** と教友たちの犠牲を思い起こします。このウンマは自らの歴史を、戦の勝利ではなく、**信仰のための犠牲**によって数えているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

有名な物語とその位置づけ

ヒジュラの出来事は、多くの有名な物語に囲まれています。真正なものもあれば、見解が分かれるものもあり、弱いものやスィーラ書にしか見られないものもあります。次の図と表がそれをまとめています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラの物語の位置づけ

真正（14）

- ナツメヤシの茂る移住の地の夢
- アブー・バクルの家での真昼；代金を払ったラクダ
- アスマーと二本の帯
- サウルの洞窟での三夜
- 「二人の三人目がアッラーである」
- アブドゥッラー、アーミル、道案内
- 羊飼いと乳
- スラーカの馬がめり込む
- ハッラでの待ちわび
- 「この人が私に道を示してくれる」
- クバーに14夜；クバー・モスク
- アブー・アイユーブの家；預言者のモスク
- マディーナの熱病と使徒の祈り
- ヒジュラから始まる暦

見解が分かれる（2）

- 寝床のアリー；洞窟のクモ
- ウンム・マアバドの天幕

弱い（2）

- 洞窟の入口でハトが卵を産んだ
- 歌「ターラアル・バドル・アライナー」

スィーラ書のみ（5）

- ナジュドの老人に化けたイブリース
- 使徒が砂をまき、ヤースィーン章を読誦
- ウマルの公然たる移住
- スハイブ：「よい取引をした」
- スラーカに約束されたホスローの腕輪

評価はハディース集と学者の評価による（関連する章を参照）。

図 4：ヒジュラの物語の位置づけ。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

歌「ターラアル・バドル・アライナー」

歌「**ターラアル・バドル・アライナー、ミン・サニーヤーティル・ワダーア（私たちの上に満月が昇った、別れの峠から）**」は、マディーナの人びとの歓迎の歌としてたいへん有名です。バイハキーが『預言者性の証し』などで伝えていますが、イラーキーとイブン・ハジャルが説明しているように、**その伝承経路は途切れています**。イブン・アル＝カイイムを含む一部の学者は、別れの峠（サニーヤト・アル＝ワダーア）はマッカの方角ではなくシリアの方角にあるので、この歌は使徒が**タブークから戻られたとき**に歌われたのだと考えています。

歓迎について**真正な**のは、「**アッラーの預言者が来られた**」という歓声（ブハーリー 3911）と、マディーナの人びとがアッラーの使徒 ﷺ の到着ほど何かを喜ぶのを見たことがないというアル＝バラーの言葉です（『サヒーフ・ブハーリー』3925）。

物語	位置づけと典拠
移住の地の夢；アブー・バクルの家での真昼；サウルの洞窟での三夜	真正 — ブハーリー 3905
アスマーと二本の帯	真正 — ブハーリー 3905、3907
「二人の三人目がアッラーである」	真正 — ブハーリー 3653；ムスリム 2381
羊飼いと乳；スラーカ	真正 — ブハーリー 3615、3906、3911
ハッラでの待ちわび；月曜日の到着	真正 — ブハーリー 3906
クバー、アブー・アイユーブの家、預言者のモスク	真正 — ブハーリー 3906、3932
マディーナの熱病；ヒジュラ暦	真正 — ブハーリー 3926、3934
寝床のアリー；クモ	見解が分かれる — 『ムスナド・アフマド』3251
ウンム・マアバド	見解が分かれる — ハーキム、タバラーニー
洞窟のハト	弱い — イブン・アサーキル（ガリーブ・ジッダン）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

物語	位置づけと典拠
歌「ターラアル・バドル」	弱い — 伝承経路が途切れている（バイハキー）
ナジュドの老人に化けたイブリース；砂とヤースィーン章；ホスローの腕輪	スィーラ書のみ（イブン・イスハーク；ムルサルの伝承）
ウマルがクライシュ族に挑んで公然と移住した	スィーラ書のみ；伝承経路は弱い。真正なのは、ウマルが二十人とともに来たこと（ブハーリー 3925）

イスラーム以前のヤスリブ

アッラーの使徒 ﷺ が到着する前、のちにアル＝マディーナ・アル＝ムナウワラ（光り輝く町）として知られる町はヤスリブと呼ばれていました。この名はクルアーンに一度だけ、塹壕の戦いのときの偽信者の口を通して出てきます。「ヤスリブ（アル・マディーナ）の民よ」（部族連合章 33:13）。アッラーの使徒 ﷺ ご自身はそれをマディーナと名づけられました。「わたしは、ほかの町々を凌ぐ町へ（移住するよう）命じられた。人びとはそれをヤスリブと呼ぶが、それはアル＝マディーナである」（『サヒーフ・ブハーリー』1871）。

溶岩の大地、谷、井戸

ヤスリブはマッカのような砂漠の町ではありません。ヒジャーズの高原にある肥沃なオアシスで、**ハッラ**と呼ばれる二つの黒い溶岩原――東のワーキムのハッラと西のワブラのハッラ――に挟まれています。ハディースでは、この二つのハッラのあいだの地域は「ラーバタイン」と呼ばれ、アッラーの使徒 ﷺ はそのあいだの地域を聖域とされました（『サヒーフ・ブハーリー』1873）。だからこそ到着の日、マディーナの人びとは毎朝ハッラで使徒を待っていたのです（ブハーリー 3906）。

いくつかの谷（ワーディー）が雨水を町に流し込み、地下水も浅いところにありました。そのためヤスリブはナツメヤシの園と井戸で知られていました。真正なハディースに出てくるものの一つに、預言者のモスクの向かいにあったアブー・タルハのバイルハーの園があります。アッラーの使徒 ﷺ はよくそこに入り、その良い水を飲まれました（『サヒーフ・ブハーリー』1461）。住民も、クライシュ族のような隊商の商人ではなく、農民や職人でした。

アウスとハズラジュ

ヤスリブのアラブ住民は、**アウス**と**ハズラジュ**という二つの大部族から成っていました。系譜学者によれば、両者は兄弟部族で、どちらもカイラの子孫であり、イエメンの出身です。しかし何世代にもわたり、受け継がれた恨みのために互いに戦っ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：65 / 567

てきました。アブドゥルムッタリブの母方の一族であるナッジャール家はハズラジュの一支族で、そのためアッラーの使徒 ﷺ はマディーナに親族のつながりをもっていたのです（「アブー・アイユーブの家」の章参照）。

両者の最後で最も激しい戦いは、ヒジュラの数年前、西暦 617 年ごろの**ブアースの戦い**でした。アウスが勝ちましたが、双方の有力者が多数殺され、両部族は流血に疲れ果てていました（ウィキペディア「Yawm al-Bu'ath」）。アーイシャ رضى الله عنها は、この出来事の背後に大きな英知を見ていました。

> **ハディース：ブアースの日**
>
> アーイシャ رضى الله عنها は言った。「ブアースの日は、アッラーがご自分の使徒 ﷺ のために前もって用意された日でした。アッラーの使徒 ﷺ が（マディーナに）来られたとき、かれらの集団は分裂し、有力者たちは殺されたり傷ついたりしていました。アッラーは、かれらがイスラームに入るよう、それをご自分の使徒 ﷺ のために前もって用意されたのです」。
>
> 等級：真正（サヒーフ）— 『サヒーフ・ブハーリー』3777。

アッラーは援助者たちにこの恵みを思い起こさせておられます。「そしてあなたがたに対するアッラーの恩恵を心に銘じなさい。初めあなたがたが（互いに）敵であった時かれはあなたがたの心を（愛情で）結び付け、その御恵みによりあなたがたは兄弟となったのである」（イムラーン家章 3:103）。イブン・カスィールは、この節の文脈が、かつてたびたび戦い、イスラームによって一つにされたアウスとハズラジュにかかわると述べています（『タフスィール・イブン・カスィール』3:103）。

ユダヤ教徒の部族

ヤスリブには、いくつかのユダヤ教徒の部族も住んでいました。大きなものは**カイヌカー族**（町の市場の金細工師や商人）、**ナディール族**と**クライザ族**（南部のナツメヤシ園と砦の所有者）です。ブアースの戦いでは、クライザ族とナディール族は

アウスと、カイヌカー族はハズラジュと同盟しました（ウィキペディア）。かれらは啓典の民で、遣わされるべき一人の預言者についてよく語っていました。そのため、アウスとハズラジュの人びとにとって預言者という考えは耳慣れないものではありませんでした。かれらがどのようにしてヤスリブに来たかについては不確かな伝承がさまざまにあり、ここでは扱いません。

集団	概要
アウス	アラブの部族。ブアースの戦いで勝利。のちの指導者の一人：サアド・ブン・ムアーズ。
ハズラジュ	アラブの部族。ナッジャール家（アブー・アイユーブの一族）を含む。のちの指導者の一人：サアド・ブン・ウバーダ。
カイヌカー族	ユダヤ教徒の部族。金細工と市場。ハズラジュの同盟者。
ナディール族	ユダヤ教徒の部族。農園と砦。アウスの同盟者。
クライザ族	ユダヤ教徒の部族。農園と砦。アウスの同盟者。

教訓

アッラーは、ご自分の使徒が到着する前に移住の地を整えておられました。戦いに疲れた二つの部族、移住者を受け入れられるオアシス、そして預言者について聞き慣れた社会です。イスラームのもとでのアウスとハズラジュの和合は、信仰によって心が一つにされれば、数十年の恨みも消えうることを証明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラの道筋の場所

真正なハディースはヒジュラの主な場所を挙げていますが、距離は示していません。以下の距離は地理資料による現代の推定値で、あくまで目安です。使徒の実際の道筋はふつうの道ではありませんでした。マッカ南方のサウルの洞窟から、道案内はかれらを紅海の海岸の方へ導き、それから人の通らない谷を北へ進み、最後に東へ折れてクバーへ向かいました。その旅は洞窟を出てからおよそ八日かかりました（AramcoWorld「Hijrah: A Journey that Changed the World」）。

場所	位置・距離（推定）	出来事と典拠
アブー・バクルの家（マッカ）	マッカのマスファラ地区（現在はマスジド・ハラームの開発区域内）	使徒は真昼に来訪し、裏口から出た — ブハーリー 3905
サウルの洞窟（サウル山）	マスジド・ハラームの南約 4km。山頂は標高約 750m	三夜身を隠した — ブハーリー 3905；悔悟章 9:40
海岸の道（サーヒル）	西へ紅海の海岸の方へ向かい、それから北へ	道案内が海岸の道を選んだ — ブハーリー 3905
クダイド（ウンム・マアバドの天幕）	マッカとマディーナを結ぶ道の途中、フザーア族の地（正確な距離は不明）	ウンム・マアバドの羊の話 — ハーキム（見解が分かれる）
ムドリジ族の地域	マッカ北方の海岸の道沿い	スラーカ・ブン・マーリクの追跡 — ブハーリー 3906
ハッラとクバー	クバーは預言者のモスクの南約 3.5km	マディーナの人びとの待ちわび；最初のモスク — ブハーリー 3906；悔悟章 9:108
サーリム・ブン・アウフ家（金曜モスク）	クバーから約 1km、預言者のモスクから約 2.5km	最初の金曜礼拝 — イブン・ヒシャーム
アブー・アイユーブの家	預言者のモスクの敷地の隣（現在はモスクの区域内）	ラクダがひざまずき、使徒が滞在した — ブハーリー 3911、3932

距離の資料：Discover Makkah「Mount and Cave of Thawr」；ウィキペディア「Quba Mosque」；Islamic Landmarks「Masjid Jummah」。

サウルの洞窟

サウル山はマッカの南、マディーナとは反対の方角にあります。山頂近くの洞窟への登りは急で岩だらけで、今日でも健康な大人で一時間ほどかかります。当時五十歳を超えていたアッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルの旅がいかに厳しかったか、そして毎晩食料を運んだアスマーの務めがいかに重かったかがわかります。

クバーと金曜モスク

クバーは、マディーナ南部にある（アウス族の）アムル・ブン・アウフ家の集落です。そこで数日過ごした後、使徒は町の中心へと移られました。サーリム・ブン・アウフ家の集落で金曜の時刻が来たので、使徒はその谷でムスリムたちとともに最初の金曜礼拝を行われました。現在、金曜モスク（マスジド・アル＝ジュムア）またはサーリム家のモスクとして知られるモスクがその場所に建っています。この細部は『サヒーフ・ブハーリー』ではなく、スィーラ書（イブン・ヒシャーム；『封印された蜜』）によるものです。

教訓

ヒジュラの旅の方向――まず南へ、次に海岸へ、そして北へ――は、敵を惑わすための綿密な計画でした。これらの場所を知るとスィーラはいっそう生き生きとしますが、クバー・モスクを除いて、これらの場所で定められた特別な崇拝行為はありません。クバー・モスクの徳は真正なハディースで確立されています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ヒジュラの人物

ヒジュラは一人の英雄の物語ではありません。男性も女性も、老人も若者も、ムスリムも非ムスリムも、多くの人が役割を果たしました。次の表は、本書に登場する人物をまとめたものです。

人物	役割	典拠
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	ヒジュラの同行者。二頭のラクダを用意し、四か月待った	ブハーリー 3905；悔悟章 9:40
アリー・ブン・アビー・ターリブ	使徒の寝床で眠った。預かり物を返した	スィーラ書；『ムスナド・アフマド』3251（見解が分かれる）
アスマー・ビント・アビー・バクル	食料を運んだ。「二本の帯の人」	ブハーリー 3905、3907
アーイシャ・ビント・アビー・バクル	アブー・バクルの家での出来事の目撃者。ヒジュラのハディースの伝承者	ブハーリー 3905
アブドゥッラー・ブン・アビー・バクル	洞窟で夜を過ごし、クライシュ族の情報を届けた	ブハーリー 3905
アーミル・ブン・フハイラ	アブー・バクルの羊飼い。足跡を消し、乳を届けた	ブハーリー 3905
アブドゥッラー・ブン・ウライキト	ディール族の熟練した道案内。ムスリムではなかったが誠実だった	ブハーリー 3905（名前はスィーラ書による）
スラーカ・ブン・マーリク	懸賞目当ての追跡者から守り手へ。のちにイスラームに入った	ブハーリー 3906
ウンム・マアバド・アル＝フザーイーヤ	天幕で一行をもてなした女性	ハーキム；バイハキー（見解が分かれる）
ムスアブ・ブン・ウマイル	ヒジュラの前にマディーナに着いた最初の宣教者	ブハーリー 3925

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

人物	役割	典拠
クルスーム・ブン・アル＝ヒドム	クバーでの使徒の宿の主人	スィーラ書（イブン・ヒシャーム）
アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー	マディーナでの使徒の宿の主人	ブハーリー 3911；ムスリム 2053
アブドゥッラー・ブン・サラーム	使徒の到着後すぐにイスラームに入ったユダヤ教の学者	ブハーリー 3911

教訓

ヒジュラの成功は、多くの人の協力から生まれました。一人ひとりにそれぞれの役割がありました。勇敢な者、秘密を守る者、食べ物を運ぶ者、道に通じた者。今日の宣教の働きにおいても、誰もが何かしらの貢献をすることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラの年表

以下の日付は、スィーラ書、とりわけ『封印された蜜』によります。いくつかの日付、とくにマッカを出た日とクバーに着いた日については、学者の見解が分かれています。一致しているのは、使徒がラビーウ・アル＝アウワル月の月曜日にマディーナに到着されたことです。

時期	出来事	典拠
預言者としての使命の第 13 年、ズル・ヒッジャ月	ミナーでの第二次アカバの誓い	第 6 巻；スィーラ書
ムハッラム月〜サファル月	教友たちが少人数の集団で移住	ブハーリー 3925；スィーラ書
サファル月の終わり	ダール・アン＝ナドワの陰謀；使徒の家の包囲	戦利品章 8:30；スィーラ書
同じ夜	使徒とアブー・バクルが出発し、サウルの洞窟へ向かう	ブハーリー 3905
三夜	サウルの洞窟に身を隠す	ブハーリー 3905
四日目	道案内とともに海岸の道を出発	ブハーリー 3905
旅の途中	羊飼い；ウンム・マアバド；スラーカ	ブハーリー 3615、3906；ハーキム
月曜日、ラビーウ・アル＝アウワル月（西暦 622 年）	クバーに到着し、アムル・ブン・アウフ家のもとに滞在	ブハーリー 3906
クバーでの数日	クバー・モスクを建てる	ブハーリー 3906；悔悟章 9:108
金曜日	サーリム家で最初の金曜礼拝；マディーナに入る	スィーラ書
その後	アブー・アイユーブの家に滞在；預言者のモスクを建てる	ブハーリー 3906、3932

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 17 年ごろ（西暦 638 年）	ウマルがヒジュラ暦を定める	ブハーリー 3934；ウィキペディア

注：ブハーリー 3906 は使徒がアムル・ブン・アウフ家のもとに「十数夜」とどまったと述べ、アナスの伝承（ブハーリー 3932）は十四夜と述べますが、イブン・イスハークは四日と述べています。これは真正なハディースとスィーラの伝承との違いの一例で、より確かなのは『サヒーフ・ブハーリー』の伝承です。

教訓

年表は、ヒジュラが性急な行動ではなかったことを示しています。それは数か月かけて段階的に進みました。誓い、教友たちの移住、アブー・バクルの準備、そして使徒ご自身の旅。大きな変化には、長い計画と忍耐が必要なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラについてのよくある質問

1. なぜアッラーの使徒 ﷺ はもっと早く移住されなかったのですか。

使徒はアッラーの許しを待っておられました。アブー・バクルが移住の許しを求めると、使徒は「待ちなさい。わたしも許しが与えられることを望んでいるのだから」と言われました（ブハーリー 3905）。また、まず教友たちが無事に着くことを確かめられました。

2. なぜ使徒は夜に出発し、南へ向かわれたのですか。

クライシュ族を惑わすためです。かれらは使徒が北、つまりマディーナの方へ向かうと予想していました。サウルの洞窟はマッカの南、その反対の方角にあります（ブハーリー 3905）。

3. 使徒はサウルの洞窟にどれくらいおられたのですか。

アーイシャのハディースにあるとおり、三夜です（ブハーリー 3905）。アブドゥッラー・ブン・アビー・バクルが二人とともに夜を過ごし、夜明け前にマッカへ戻りました。

4. 洞窟のクモとハトの話は真正ですか。

いいえ。クモの話は『ムスナド・アフマド』に見解の分かれる伝承経路で伝えられ、ハトの話は弱いものです。確かなのは、悔悟章 9:40 でアッラーが仰せのとおり、アッラーの守りがあったことです（「クモとハト」の章参照）。

5. ヒジュラの道案内は誰で、ムスリムだったのですか。

道に通じたディール族の男で、当時はまだクライシュ族の宗教を奉じていました（ブハーリー 3905）。スィーラ書はかれをアブドゥッラー・ブン・ウライキトと呼んでいます。これは、誠実な非ムスリムの助けを借りてよいことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6. スラーカはどうして守り手になったのですか。

一行に近づくたびに、かれの馬の脚が何度も地面にめり込みました。かれは安全を求め、一行の消息を秘密にすると約束しました。かれは帰って行き、その方角を捜しに来る者を追い返しました（ブハーリー 3906）。

7. 使徒はいつ、何曜日に到着されたのですか。

ラビーウ・アル＝アウワル月の月曜日です（ブハーリー 3906）。使徒は月曜日に生まれ、月曜日に遣わされ、月曜日に亡くなられました。その月の正確な日付については、スィーラ書のあいだで見解が分かれています。

8. イスラームで最初に建てられたモスクはどこですか。

クバー・モスクです。アッラーはこれを「最初の日から敬虔に礎えを定めて建立されたマスジド」と称えておられます（悔悟章 9:108）。そこでの礼拝は推奨されており、使徒は毎週土曜日にそこを訪れておられました（ブハーリー 1193）。

9. 使徒の最初の金曜礼拝はどこで行われたのですか。

スィーラ書によれば、クバーとマディーナのあいだにあるサーリム・ブン・アウフ家の集落です。現在そこには金曜モスクが建っています。

10. なぜ使徒のラクダはナッジャール家の土地でひざまずいたのですか。

使徒は「放っておきなさい。このラクダは命じられているのだから」と言われました――ラクダはアッラーの命令に従って歩いたのです。ラクダはのちに預言者のモスクとなる場所、アブー・アイユーブの家の近くでひざまずきました。使徒はアブー・アイユーブの家に滞在されました（ブハーリー 3906、3911；ムスリム 2053）。「命じられているのだから」という言葉はスィーラ書によるものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

11. なぜイスラーム暦は預言者 ﷺ の誕生ではなく、ヒジュラから始まるのですか。

教友たちは、使徒の誕生、使命の開始、逝去からではなく、使徒のマディーナへの到着から年を数え始めました（ブハーリー 3934）。ヒジュラはイスラームの共同体と国家の出発点だからです。歴史書によれば、ムハッラム月が年の初めとされたのは、巡礼の季節の後の最初の月だからです。

12. ヒジュラは今日も存在するのですか。

マッカからマディーナへのヒジュラは、マッカ征服の後に終わりました。「（マッカの）征服の後にヒジュラはない。しかしジハードと意図はある」（ブハーリー 2783）。しかし、より広い意味のヒジュラは残っています。「移住者とは、アッラーが禁じたものを捨てる者である」（ブハーリー 10）。

教訓

これらの質問は、真正なものと有名なものとを区別することがいかに大切かを示しています。真正なヒジュラの物語は、それだけで十分に美しく、信仰を揺り動かすものであり、弱い伝承を付け加える必要はないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

マディーナへのヒジュラは、時代を超えた**教訓**をもたらしています。

出来事	教訓
教友たちが先に移住した	指導者は従う者の安全を守る。
アブー・バクルが四か月待った	忠誠と周到な準備。
預かり物が返された	敵に対してさえ信頼を守る。
綿密な計画	アッラーへの信頼は努力から始まる。
「アッラーはわたしたちと共におられる」	落ち着きは、アッラーへの確信から生まれる。
アスマーとアーイシャ	女性は宣教で大きな役割を担う。
多神教徒の道案内	宗教を問わず、誠実な人の専門知識を借りる。
スラーカが守り手になった	今日の敵は明日の友かもしれない。
まずモスクが建てられた	モスクは共同体の中核である。
マディーナのための祈り	アッラーのために尽くす土地を愛する。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

結び

ヒジュラは、アブー・バクルの家での**灼熱の真昼**と、**狭い洞窟**での三夜に始まり、マディーナでの**喜びの歓声**と預言者のモスクの**最初のれんが**で終わりました。サウルの洞窟で追われていた二人が、その旅から年を数える一つのウンマの礎となったのです。アッラーの約束はまことです。「**アッラーの御言葉をも高められた**」

アッラーが望まれるなら、『**預言者伝（スィーラ）**』は**マディーナ共同体の建設**――移住者と援助者の兄弟の契り、マディーナ憲章、キブラの変更――へと続きます。アッラーこそ最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 7 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（2:207；4:100；8:30；9:40；9:108；16:41；59:9）。https://tafsir.app/ibn-katheer/9/40

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1、10、40、447、1193、3615、3653、3654、3905、3906、3907、3911、3925、3926、3932、3934。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』681、1162、1398、2053、2381。https://sunnah.com/muslim

『ムスナド・アフマド』3251；ハーキム『ムスタドラク』（ウンム・マアバドのハディース）；バイハキー『預言者性の証し』。

スィーラ書と伝承の評価

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）――ヒジュラの章。

サフィーユッラフマーン・ムバーラクフーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』――アッラーの使徒 ﷺ のヒジュラの章。

イブン・カスィール『始まりと終わり』第 3 巻――ヒジュラ。

Islamland、ファトワー6863：洞窟のクモとハトの伝承。https://www.islamland.com/tuk/fatawas/6863

HadithAnswers「Authenticity of the famous nashid Tala‘al Badru ‘Alayna」。https://hadithanswers.com/authenticity-of-the-famous-nashid-talaal-badru-alayna/

HadithAnswers「The famous description of Nabi ﷺ by Ummu Ma‘bad」。https://hadithanswers.com/the-famous-description-of-nabi-sallallahu-alayhi-wa-sallam-by-ummu-mabad-radiyallahu-anha/

ウィキペディア「Hijrah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hijrah

ウィキペディア「Quba Mosque」。https://en.wikipedia.org/wiki/Quba_Mosque

ウィキペディア「Al-Masjid an-Nabawi」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Masjid_an-Nabawi

ウィキペディア「Islamic calendar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Islamic_calendar

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

場所、歴史、補足のハディース

『サヒーフ・ブハーリー』3777（ブアースの日）。https://sunnah.com/bukhari:3777

『サヒーフ・ブハーリー』1871（ヤスリブはマディーナである）。https://sunnah.com/bukhari:1871

『サヒーフ・ブハーリー』1873（二つのハッラのあいだ）。https://sunnah.com/bukhari:1873

『サヒーフ・ブハーリー』1461（バイルハーの園）。https://sunnah.com/bukhari:1461

『サヒーフ・ブハーリー』2783（マッカ征服の後にヒジュラはない）。https://sunnah.com/bukhari:2783

イブン・カスィール『タフスィール』3:103。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/103

ウィキペディア「Yawm al-Bu'ath」。https://en.wikipedia.org/wiki/Yawm_al-Buath

ウィキペディア「Banu Aws」。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Aws

Discover Makkah「Mount and Cave of Thawr」。https://discovermakkah.sa/en/places-worth-visiting/landmarks/mount-and-cave-of-thawr

Islamic Landmarks「Masjid Jummah」。https://www.islamiclandmarks.com/madinah-other/masjid-jummah

AramcoWorld「Hijrah: A Journey that Changed the World」。https://www.aramcoworld.com/articles/2023/hijrah-a-journey-that-changed-the-world

第二部

マディーナ社会の建設

預言者伝（スィーラ）— 第 8 巻

ムハージルーンとアンサールの兄弟の契り、アザーン、マディーナ憲章、キブラの変更 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナ社会の建設

『預言者伝』第 7 巻は、アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに到着し、モスクを建て始めるところで終わりました。ヒジュラは単なる場所の移動ではなく、**新しい社会**の始まりでした。この第 8 巻は、使徒がその社会をどのように築かれたかを語ります。それは剣や富によってではなく、**モスク、兄弟の契り、そして盟約**によるものでした。

最初の約 2 年の間に、マディーナでは**ムハージルーンとアンサールの兄弟の契り**、最初の**アザーン**、**マディーナ憲章**、カアバへの**キブラ**の変更、そして**ラマダーンの斎戒**の義務化がありました。どの出来事もクルアーンと真正なハディースに基づき、スィーラ書からの情報ははっきりと区別して示しています。

年表：マディーナでの最初の年月（ヒジュラ暦1〜2年）

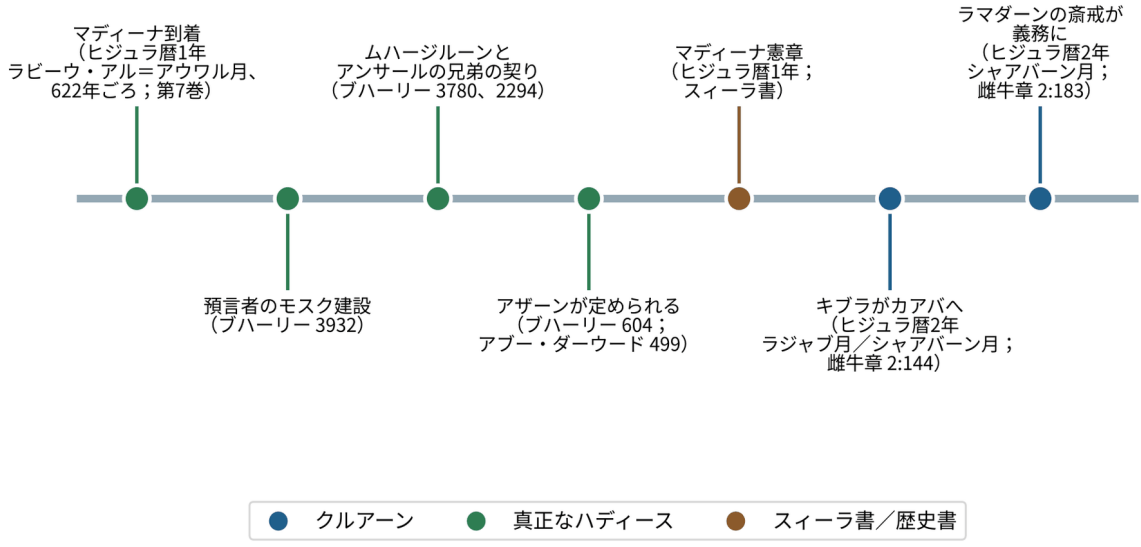


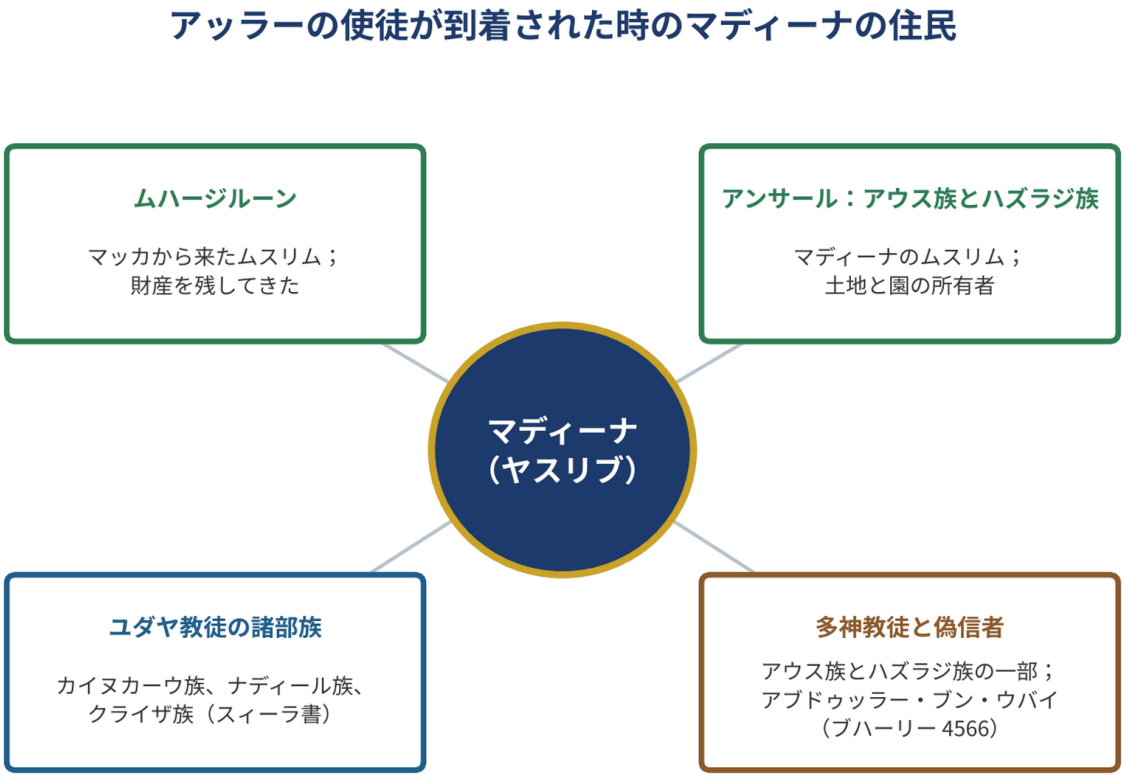
図 1：マディーナでの最初の数年の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナの新しい社会

アッラーの使徒 ﷺ が来られたマディーナは、一様な町ではありませんでした。住民は、宗教も血筋も利害も異なるいくつかの集団から成っていました。



多様な社会：マディーナ憲章がこれらすべての集団の関係を整えた。

図 2：アッラーの使徒 ﷺ が到着された時のマディーナの住民集団。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アウス族とハズラジ族：敵から兄弟へ

マディーナの二つのアラブ部族、**アウス族とハズラジ族**は、長い間互いに戦ってきました。最後の戦いである**ブアースの戦い**は、ヒジュラのわずか数年前のことでした。アーイシャ رضى الله عنها はこう言いました。「**ブアースの日は、アッラーがその使徒のために前もって備えられた日でした**」。その戦いがかれらの有力者たちを弱め、かれらがイスラームを受け入れやすくなったからです（『サヒーフ・ブハーリー』3777）。

アッラーはこの恩恵を思い起こさせます。「**あなたがたに対するアッラーの恩恵を心に銘じなさい。初めあなたがたが（互いに）敵であった時**」（無明時代に）、かれはあなたがたの心を（愛情で）結び付け、その御恵みによりあなたがたは兄弟となったのである。イブン・カスィールは、この節がアウス族とハズラジ族について下されたと述べています『タフスィール・イブン・カスィール』3:103。

教訓：イスラームは信仰を変えただけでなく、根深い**敵意をいやし**ました。マディーナでのアッラーの使徒 ﷺ の最初の務めは、**心を一つにすること**でした。

モスク：社会の中心

マディーナでアッラーの使徒 ﷺ が最初に建てられたのは**モスク**でした（第 7 巻）。預言者のモスクはとても質素で、柱は**ナツメヤシの幹**、屋根は**ナツメヤシの葉**、壁は**日干しれんが**でした（『サヒーフ・ブハーリー』3932）。それでも、そこは社会のあらゆる営みの中心となりました。

預言者のモスクの役割	説明
礼拝の場	一日五回の集団礼拝と金曜礼拝。
学びの中心	アッラーの使徒 ﷺ がそこでクルアーンと諸規定を教えられた。
客人と貧しい人の家	アフル・アッ＝スッファ――「イスラームの客人」――がその軒下に住んだ（ブハーリー 6452）。
行政の中心	使節を迎え、話し合い、決定を下した。
社会を一つにする場	ムハージルーンとアンサールが一日五回顔を合わせた。

スィーラの注：アフル・アッ＝スッファ

預言者のモスクの奥には**スッファ**という屋根付きの軒があり、マディーナに家族も家もない貧しい教友たちが住んでいました。後にその一人となったアブー・フライラ رضي الله عنه は、かれらを「**イスラームの客人**」と呼んでいます（『サヒーフ・ブハーリー』6452）。アッラーの使徒 ﷺ は、受け取った施しをかれらに送り、贈り物もかれらと分かち合われました。

その数は時によって変わり、スィーラ書には数十人に及んだこともあると記されています。かれらはイスラーム最初の学び舎の**専任の学生**でした。

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』6452。https://sunnah.com/bukhari:6452

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓：イスラームにおけるモスクは礼拝のための建物にとどまらず、**社会の心臓**です。建物が質素であっても、その役割の偉大さは少しも減りません。

アナスの家での兄弟の契り

ムハージルーンは**手ぶら**でマディーナに着きました。マッカに家も財産も商売も残してきたのです。この問題を解決するため、アッラーの使徒 ﷺ は前例のない手を打たれました。ムハージル一人ひとりをアンサール一人と**兄弟として結ぶ**ことです。アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه が、その契りが結ばれた場所を語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2294 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الصَّبَّاحِ، حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ بْنُ زَكَرِيَّاءَ، حَدَّثَنَا عَاصِمٌ، قَالَ قُلْتُ لأَنَسٍ رضى الله عنه أَبَلَغَكَ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ لاَ حِلْفَ فِي الإِسْلاَمِ. فَقَالَ قَدْ حَالَفَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بَيْنَ قُرَيْشٍ وَالأَنْصَارِ فِي دَارِي.

訳：

アースィムは言った。私はアナス رضي الله عنه に尋ねた。「預言者 ﷺ が『イスラームに同盟（ヒルフ）はない』と言われたことを、あなたは聞いていますか。」かれは答えた。**「預言者 ﷺ は、私の家でクライシュ族とアンサールの間に兄弟の契りを結ばれました。」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アッ＝サッバーフ ← イスマーイール・ブン・ザカリーヤー ← アースィム（アル＝アフワル） ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』保証の書、ハディース第 2294 番。ムスリムも伝えている（第 2529 番）。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2294

アナスは「**イスラームにヒルフはない**」という言葉についての問いに答えたのです。学者たちによれば、否定されたのは不正において互いをかばい合う**無明時代式の盟約**であり、善において**信仰に基づき助け合う兄弟の契り**は、引き続き定められています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

スィーラの注：何人が兄弟として結ばれたのか

イブン・サアドとスィーラ書は、アッラーの使徒 ﷺ が、ヒジュラの数か月後、アナス・ブン・マーリクの家で**九十人**――ムハージルーン四十五人とアンサール四十五人――を兄弟として結ばれたと伝えています。この人数はスィーラ書によるもので、真正なハディースが述べているのは場所（アナスの家）だけです。

参照：

イブン・サアド『大列伝（タバカート）』；ムバーラクフーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』。

この兄弟の契りは、アッラーの御言葉「**信者たちは兄弟である**」を生きたものにしました。この節は本書の標語でもあります『タフスィール・イブン・カスィール』49:10。

「市場を教えてください」

兄弟の契りで最も有名な話は、ムハージルの**アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ**と、裕福なアンサールの**サアド・ブン・アッ＝ラビーウ**の話です。一方には自己犠牲の極み、もう一方には自尊心の極みが示されています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3780 番

حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، قَالَ حَدَّثَنِي إِبْرَاهِيمُ بْنُ سَعْدٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ جَدِّهِ، قَالَ لَمَّا قَدِمُوا الْمَدِينَةَ آخَى رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بَيْنَ عَبْدِ الرَّحْمَنِ وَسَعْدِ بْنِ الرَّبِيعِ، قَالَ لِعَبْدِ الرَّحْمَنِ إِنِّي أَكْثَرُ الأَنْصَارِ مَالاً فَأَقْسِمُ مَالِي نِصْفَيْنِ، وَلِي امْرَأَتَانِ، فَانْظُرْ أَعْجَبَهُمَا إِلَيْكَ فَسَمِّهَا لِي أُطَلِّقْهَا، فَإِذَا انْقَضَتْ عِدَّتُهَا فَتَزَوَّجْهَا. قَالَ بَارَكَ اللَّهُ لَكَ فِي أَهْلِكَ وَمَالِكَ، أَيْنَ سُوقُكُمْ فَدَلُّوهُ عَلَى سُوقِ بَنِي قَيْنُقَاعَ، فَمَا انْقَلَبَ إِلاَّ وَمَعَهُ فَضْلٌ مِنْ أَقِطٍ وَسَمْنٍ، ثُمَّ تَابَعَ الْغُدُوَّ، ثُمَّ جَاءَ يَوْمًا وَبِهِ أَثَرُ صُفْرَةٍ فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مَهْيَمْ. قَالَ تَزَوَّجْتُ. قَالَ كَمْ سُقْتَ إِلَيْهَا. قَالَ نَوَاةً مِنْ ذَهَبٍ. أَوْ وَزْنَ نَوَاةٍ مِنْ ذَهَبٍ، شَكَّ إِبْرَاهِيمُ.

訳：

イブラーヒーム・ブン・アブドゥッラフマーン・ブン・アウフは、その父から伝えて言った。**かれら（ムハージルーン）がマディーナに着いた時、アッラーの使徒 ﷺ はアブドゥッラフマーン（・ブン・アウフ）とサアド・ブン・アッ＝ラビーウを兄弟として結ばれた。サアドはアブドゥッラフマーンに言った。「私はアンサールの中で最も財産が多い者です。私の財産を二つに分けましょう（半分はあなたに）。また私には二人の妻がいます。気に入った方を見て教えてください。私が離婚し、その待婚期間が終わったら、彼女と結婚してください。」アブドゥッラフマーンは言った。「アッラーがあなたの家族と財産を祝福されますように。あなたがたの市場はどこですか。」**人々がかれにカイヌカーウ族の市場を教えると、かれはチーズとバターの儲けを持たずに帰ることはなかった。かれは市場に通い続け、ある日、黄色い香料の跡をつけてやって来た。預言者 ﷺ は尋ねられた。「**これは何か。**」かれは答えた。「私は結婚しました。」使徒は

尋ねられた。「**婚資（マフル）はいくらか。**」かれは答えた。「ナツメヤシの種ほどの重さの金一粒です。」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：イスマーイール・ブン・アブディッラー ← イブラーヒーム・ブン・サアド ← その父（サアド・ブン・イブラーヒーム） ← その祖父（イブラーヒーム・ブン・アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ）。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、預言者ﷺによるムハージルーンとアンサールの兄弟の契りの章、ハディース第 3780 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3780

二つの美しい人格

サアド・ブン・アッ＝ラビーウ（アンサール）	アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ（ムハージル）
財産の半分を差し出した	兄弟の財産に祝福を祈った
頼まれずとも気前がよかった	尊厳を守り、他人に頼ろうとしなかった
イーサール――兄弟を優先する	イッファ――求めることから身を慎む
持っているものを与えた	「市場を教えてください」――自ら努力した

アブドゥッラフマーンは**カイヌカーウ族の市場**へ行き、ごくわずかな元手で商売をして、ほどなく結婚できるまでになりました。のちにかれは教友の中でも**最も裕福**で、最も気前のよい一人となりました。アッラーの使徒 ﷺ は別のハディースでもこう教えておられます。「**上の手は下の手よりも優れている**」（『サヒーフ・ブハーリー』1427）。

一方サアド・ブン・アッ＝ラビーウ رضي الله عنه は、スィーラ書によれば**ウフドの戦い**で殉教しました。財産を差し出そうとしたのと同じように、自らの命を捧げたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

兄弟の組み合わせ

アッラーの使徒 ﷺ は兄弟の組み合わせを賢明に選ばれ、しばしば**互いに補い合う**者同士を組ませられました。ハディースとスィーラ書に挙げられている組み合わせの例：

ムハージル	アンサールの兄弟と典拠
アブドッラフマーン・ブン・アウフ	サアド・ブン・アッ＝ラビーウ — 『サヒーフ・ブハーリー』3780
サルマーン・アル＝ファーリスィー	アブー・アッ＝ダルダー — 『サヒーフ・ブハーリー』1968
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク	ハーリジャ・ブン・ザイド — スィーラ書
ウマル・ブン・アル＝ハッターブ	イトバーン・ブン・マーリク — スィーラ書
アブー・ウバイダ・ブン・アル＝ジャッラーフ	サアド・ブン・ムアーズ — スィーラ書
ムスアブ・ブン・ウマイル	アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー — スィーラ書

サルマーンとアブー・アッ＝ダルダー

真正なハディースは、**サルマーン**が兄弟の**アブー・アッ＝ダルダー**を訪ねた時の話を通して、この兄弟の契りが実生活でどのように働いたかを伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1968 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا جَعْفَرُ بْنُ عَوْنٍ، حَدَّثَنَا أَبُو الْعُمَيْسِ، عَنْ عَوْنِ بْنِ أَبِي جُحَيْفَةَ، عَنْ أَبِيهِ، قَالَ آخَى النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بَيْنَ سَلْمَانَ، وَأَبِي الدَّرْدَاءِ، فَزَارَ سَلْمَانُ أَبَا الدَّرْدَاءِ، فَرَأَى أُمَّ الدَّرْدَاءِ مُتَبَذِّلَةً. فَقَالَ لَهَا مَا شَأْنُكِ قَالَتْ أَخُوكَ أَبُو الدَّرْدَاءِ لَيْسَ لَهُ حَاجَةٌ فِي الدُّنْيَا. فَجَاءَ أَبُو الدَّرْدَاءِ، فَصَنَعَ لَهُ طَعَامًا. فَقَالَ كُلْ. قَالَ فَإِنِّي صَائِمٌ. قَالَ مَا أَنَا بِآكِلٍ حَتَّى تَأْكُلَ. قَالَ فَأَكَلَ. فَلَمَّا كَانَ اللَّيْلُ ذَهَبَ أَبُو الدَّرْدَاءِ يَقُومُ. قَالَ نَمْ.

فَنَامَ، ثُمَّ ذَهَبَ يَقُومُ. فَقَالَ نَمْ. فَلَمَّا كَانَ مِنْ آخِرِ اللَّيْلِ قَالَ سَلْمَانُ قُمِ الآنَ. فَصَلَّيَا، فَقَالَ لَهُ سَلْمَانُ إِنَّ لِرَبِّكَ عَلَيْكَ حَقًّا، وَلِنَفْسِكَ عَلَيْكَ حَقًّا، وَلأَهْلِكَ عَلَيْكَ حَقًّا، فَأَعْطِ كُلَّ ذِي حَقٍّ حَقَّهُ. فَأَتَى النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَذَكَرَ ذَلِكَ لَهُ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم صَدَقَ سَلْمَانُ.

訳：

アブー・ジュハイファ رضی الله عنه は言った。**預言者 ﷺ はサルマーンとアブー・アッ＝ダルダーを兄弟として結ばれた。サルマーンがアブー・アッ＝ダルダーを訪ねると、ウンム・アッ＝ダルダーが粗末な身なりをしていた。かれが「どうしてそのような様子なのですか」と尋ねると、彼女は「あなたの兄弟アブー・アッ＝ダルダーは、現世に何の望みも持っていないのです」と答えた。**アブー・アッ＝ダルダーが来て食事を用意し、「食べてください。私は斎戒しています」と言った。サルマーンは「あなたが食べるまで、私は食べません」と言ったので、かれは食べた。夜になると、アブー・アッ＝ダルダーは礼拝に立とうとしたが、サルマーンが「眠りなさい」と言ったので眠った。また起きようとすると、サルマーンは「眠りなさい」と言った。夜の終わりになると、サルマーンは「さあ、今起きなさい」と言い、二人で礼拝した。**サルマーンはかれに言った。「本当にあなたの主にはあなたに対する権利があり、あなた自身にもあなたに対する権利があり、あなたの家族にもあなたに対する権利があります。だから、権利を持つ者それぞれにその権利を与えなさい。」**アブー・アッ＝ダルダーは預言者 ﷺ のもとに来てこのことを話すと、預言者 ﷺ は言われた。**「サルマーンは正しい。」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← ジャアファル・ブン・アウン ← アブー・アル＝ウマイス ← アウン・ブン・アビー・ジュハイファ ← その父（アブー・ジュハイファ） رضی الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』斎戒の書、ハディース第 1968 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1968

教訓：イスラームの兄弟の契りは財産を分け合うことだけではなく、現世と来世の善のために**互いに忠告し合う**ことでもあります。

兄弟の相続とその廃止

初期には、この兄弟の絆はとても強く、ムハージルは自分の親族ではなく、アンサールの兄弟の財産を**相続**しました。イブン・アッバース رضي الله عنهما は、この規定が後に**廃止され**、残ったのは**援助と支えと忠告**、そして遺言だけであると説明しています（『サヒーフ・ブハーリー』2292）。

イブン・アッバースはこれをアッラーの御言葉に結びつけています。「**各人のために，われはその父母と近親が残すものの相続者を決めた**」『タフスィール・イブン・カスィール』4:33。

時期	兄弟の契りの規定
ヒジュラの初期	ムハージルーンの必要のため、信仰の兄弟同士が相続し合った。
社会が安定した後	相続は近親者に戻された（女性章 4:33；戦利品章 8:75）。
今日まで続くもの	助け合い、支え、忠告、そして遺言。

教訓：イスラームの法は**段階的**で、状況にふさわしいものです。差し迫った必要が過ぎると、兄弟の精神を失うことなく、規定は本来の形に戻りました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

兄弟を優先したアンサール

クルアーンはアンサールを、めったに見られない一つの美徳で称えています。それは**イーサール**、つまり自分自身が必要としていても他者を優先することです。アブー・フライラ رضى الله عنه は、その節が下されるきっかけとなったアンサールの一家の話を伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3798 番

حَدَّثَنَا مُسَدَّدٌ، حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ دَاوُدَ، عَنْ فُضَيْلِ بْنِ غَزْوَانَ، عَنْ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَجُلاً، أَتَى النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَبَعَثَ إِلَى نِسَائِهِ فَقُلْنَ مَا مَعَنَا إِلاَّ الْمَاءُ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَنْ يَضُمُّ، أَوْ يُضِيفُ هَذَا. فَقَالَ رَجُلٌ مِنَ الأَنْصَارِ أَنَا. فَانْطَلَقَ بِهِ إِلَى امْرَأَتِهِ، فَقَالَ أَكْرِمِي ضَيْفَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَتْ مَا عِنْدَنَا إِلاَّ قُوتُ صِبْيَانِي. فَقَالَ هَيِّئِي طَعَامَكِ، وَأَصْبِحِي سِرَاجَكِ، وَنَوِّمِي صِبْيَانَكِ إِذَا أَرَادُوا عَشَاءً. فَهَيَّأَتْ طَعَامَهَا وَأَصْبَحَتْ سِرَاجَهَا، وَنَوَّمَتْ صِبْيَانَهَا، ثُمَّ قَامَتْ كَأَنَّهَا تُصْلِحُ سِرَاجَهَا فَأَطْفَأَتْهُ، فَجَعَلاَ يُرِيَانِهِ أَنَّهُمَا يَأْكُلاَنِ، فَبَاتَا طَاوِيَيْنِ، فَلَمَّا أَصْبَحَ، غَدَا إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ ضَحِكَ اللَّهُ اللَّيْلَةَ ـ أَوْ عَجِبَ ـ مِنْ فَعَالِكُمَا فَأَنْزَلَ اللَّهُ {وَيُؤْثِرُونَ عَلَى أَنْفُسِهِمْ وَلَوْ كَانَ بِهِمْ خَصَاصَةٌ وَمَنْ يُوقَ شُحَّ نَفْسِهِ فَأُولَئِكَ هُمُ الْمُفْلِحُونَ}

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。**ある男が預言者 ﷺ のもとに来た。使徒は妻たちのもとに使いを出されたが、妻たちは「私たちのところには水しかありません」と言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「誰がこの客をもてなすか。」アンサールの一人の男が「私が」と言った。かれは客を妻のもとに連れて帰り、「アッラーの使徒 ﷺ の客を手厚くもてなしなさい」と言った。妻は「私たちには子どもたちの食べ物しかありません」と言った。かれは言った。「食事の用意をし、灯りをともし、子どもたちが夕食を欲しがったら寝かしつけなさい。」妻は食事を用意し、灯りをともし、子どもたち**

を寝かしつけた。それから灯りを直すふりをして立ち上がり、それを消した。二人は食べるふりをして、空腹のまま眠った。翌朝、かれがアッラーの使徒 ﷺ のもとへ行くと、使徒は言われた。「昨夜、アッラーはあなたがた二人の行いに笑われた――あるいは感嘆された。」そしてアッラーは下された。｛自分自身に先んじて（かれらに）与える。仮令自分は窮乏していても……｝（集合章 59:9）。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムサッダド ← アブドゥッラー・ブン・ダーウード ← フダイル・ブン・ガズワーン ← アブー・ハーズィム ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ハディース第 3798 番。ムスリムも伝えている（第 2054 番）。ムスリムはこの男の名をアブー・タルハとしている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3798

下された節は、かれらを「**（移住して）かれらのもとに来た者を愛護し**」、たとえ窮乏していても自分自身よりかれらを優先する人々として描いています『タフスィール・イブン・カスィール』59:9。

消された灯り

この夫婦の知恵に目を留めてください。二人が**灯りを消した**のは、主人たちが食べていないことに客が気づかず、気兼ねせずに食べられるようにするためでした。かれらは**客に恩を着せることなく**もてなしたのです。ムスリムは、この男が**アブー・タルハ** رضى الله عنه であったと伝えています（『サヒーフ・ムスリム』2054）。

アンサールへの愛は信仰のしるし

アンサールの自己犠牲はあまりに大きく、アッラーの使徒 ﷺ は**かれらを愛すること**を信仰の一部とされました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 17 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْوَلِيدِ، قَالَ حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، قَالَ أَخْبَرَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ جَبْرٍ، قَالَ سَمِعْتُ أَنَسًا، عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ آيَةُ الإِيمَانِ حُبُّ الأَنْصَارِ، وَآيَةُ النِّفَاقِ بُغْضُ الأَنْصَارِ.

訳：

アナス رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えている。「**信仰のしるしはアンサールを愛することであり、偽信のしるしはアンサールを憎むことである。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ワリード ← シュウバ ← アブドゥッラー・ブン・アブディッラー・ブン・ジャブル ← アナス رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』信仰の書、アンサールを愛することは信仰のしるしの章、ハディース第 17 番。ムスリムも伝えている（第 74 番）。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:17

ナツメヤシ園を差し出したアンサール

アンサールは預言者 ﷺ にこう申し出ました。「**ナツメヤシ園を私たちと兄弟たち（ムハージルーン）の間で分けてください。**」使徒は言われました。「**いや。**」そこでアンサールは言いました。「あなたがた（ムハージルーン）が私たちの園で働き、私たちはその実りをあなたがたと分け合いましょう。」ムハージルーンは「聞きました、従います」と答えました（『サヒーフ・ブハーリー』2325）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

この解決はとても賢明でした。アンサールは**土地の所有者のまま**で、ムハージルーンは尊厳を保ちながら**働いて実りを得**、双方が利益を得たのです。これはイスラームにおける**経済的協力**の早い例です。

誰が	貢献
アンサール	土地、園、家、そして保護
ムハージルーン	労働力、商売の技、そして知識
アッラーの使徒 ﷺ	指導力、公正さ、そして心の結合

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アザーン：鐘からビラールの呼びかけへ

マッカでは、ムスリムは公然と礼拝を呼びかけることができませんでした。マディーナでは、礼拝の時刻に人々を集める方法が必要になりました。イブン・ウマル رضى الله عنهما がその話し合いを伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 604 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالَ حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، قَالَ أَخْبَرَنَا ابْنُ جُرَيْجٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي نَافِعٌ، أَنَّ ابْنَ عُمَرَ، كَانَ يَقُولُ كَانَ الْمُسْلِمُونَ حِينَ قَدِمُوا الْمَدِينَةَ يَجْتَمِعُونَ فَيَتَحَيَّنُونَ الصَّلاَةَ، لَيْسَ يُنَادَى لَهَا، فَتَكَلَّمُوا يَوْمًا فِي ذَلِكَ، فَقَالَ بَعْضُهُمْ اتَّخِذُوا نَاقُوسًا مِثْلَ نَاقُوسِ النَّصَارَى. وَقَالَ بَعْضُهُمْ بَلْ بُوقًا مِثْلَ قَرْنِ الْيَهُودِ. فَقَالَ عُمَرُ أَوَلاَ تَبْعَثُونَ رَجُلاً يُنَادِي بِالصَّلاَةِ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَا بِلاَلُ قُمْ فَنَادِ بِالصَّلاَةِ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。**ムスリムたちはマディーナに着くと、集まって礼拝の時刻を見計らっていた。誰もそのために呼びかける者はいなかった。ある日、かれらはそのことを話し合った。ある者は「キリスト教徒の鐘のような鐘を使おう」と言い、別の者は「ユダヤ教徒の角笛のような角笛を使おう」と言った。ウマルは言った。「礼拝へ呼びかける男を一人遣わしてはどうか。」アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「ビラールよ、立って礼拝へ呼びかけなさい。」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：マフムード・ブン・ガイラーン ← アブドゥッラッザーク ← イブン・ジュライジュ ← ナーフィウ ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アザーンの書、アザーンの始まりの章、ハディース第 604 番。ムスリムも伝えている（第 377 番）。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:604

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

提案	由来
鐘（ナークース）	キリスト教徒のやり方
角笛（ブーク）	ユダヤ教徒のやり方
一人の男が呼びかける	ウマルの提案——採用された

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は教友たちと**協議され**、イスラームは他の宗教をまねない**独自の**しるしを選びました。アッラーの御名を唱える人間の声は、今日に至るまでこのウンマのしるしとなっています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブドゥッラー・ブン・ザイドの夢

今日私たちが耳にするアザーンの文言は、**真実の夢**に由来します。それはアンサールの教友アブドゥッラー・ブン・ザイド رضى الله عنه が見たものでした。

ハディース — 『スナン・アビー・ダーウード』第 499 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ مَنْصُورٍ الطُّوسِيُّ، حَدَّثَنَا يَعْقُوبُ، حَدَّثَنَا أَبِي، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ إِسْحَاقَ، حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ بْنِ الْحَارِثِ التَّيْمِيُّ، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ زَيْدِ بْنِ عَبْدِ رَبِّهِ، قَالَ حَدَّثَنِي أَبِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ زَيْدٍ، قَالَ لَمَّا أَمَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِالنَّاقُوسِ يُعْمَلُ لِيُضْرَبَ بِهِ لِلنَّاسِ لِجَمْعِ الصَّلاَةِ طَافَ بِي وَأَنَا نَائِمٌ رَجُلٌ يَحْمِلُ نَاقُوسًا فِي يَدِهِ فَقُلْتُ يَا عَبْدَ اللَّهِ أَتَبِيعُ النَّاقُوسَ قَالَ وَمَا تَصْنَعُ بِهِ فَقُلْتُ نَدْعُو بِهِ إِلَى الصَّلاَةِ. قَالَ أَفَلاَ أَدُلُّكَ عَلَى مَا هُوَ خَيْرٌ مِنْ ذَلِكَ فَقُلْتُ لَهُ بَلَى. قَالَ فَقَالَ تَقُولُ اللَّهُ أَكْبَرُ اللَّهُ أَكْبَرُ اللَّهُ أَكْبَرُ اللَّهُ أَكْبَرُ أَشْهَدُ أَنْ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ أَشْهَدُ أَنْ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ أَشْهَدُ أَنَّ مُحَمَّدًا رَسُولُ اللَّهِ أَشْهَدُ أَنَّ مُحَمَّدًا رَسُولُ اللَّهِ حَىَّ عَلَى الصَّلاَةِ حَىَّ عَلَى الصَّلاَةِ حَىَّ عَلَى الْفَلاَحِ حَىَّ عَلَى الْفَلاَحِ اللَّهُ أَكْبَرُ اللَّهُ أَكْبَرُ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ قَالَ ثُمَّ اسْتَأْخَرَ عَنِّي غَيْرَ بَعِيدٍ ثُمَّ قَالَ وَتَقُولُ إِذَا أَقَمْتَ الصَّلاَةَ اللَّهُ أَكْبَرُ اللَّهُ أَكْبَرُ أَشْهَدُ أَنْ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ أَشْهَدُ أَنَّ مُحَمَّدًا رَسُولُ اللَّهِ حَىَّ عَلَى الصَّلاَةِ حَىَّ عَلَى الْفَلاَحِ قَدْ قَامَتِ الصَّلاَةُ قَدْ قَامَتِ الصَّلاَةُ اللَّهُ أَكْبَرُ اللَّهُ أَكْبَرُ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ فَلَمَّا أَصْبَحْتُ أَتَيْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَخْبَرْتُهُ بِمَا رَأَيْتُ فَقَالَ إِنَّهَا لَرُؤْيَا حَقٌّ إِنْ شَاءَ اللَّهُ فَقُمْ مَعَ بِلاَلٍ فَأَلْقِ عَلَيْهِ مَا رَأَيْتَ فَلْيُؤَذِّنْ بِهِ فَإِنَّهُ أَنْدَى صَوْتًا مِنْكَ. فَقُمْتُ مَعَ بِلاَلٍ فَجَعَلْتُ أُلْقِيهِ عَلَيْهِ وَيُؤَذِّنُ بِهِ - قَالَ - فَسَمِعَ ذَلِكَ عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ وَهُوَ فِي بَيْتِهِ فَخَرَجَ يَجُرُّ رِدَاءَهُ وَيَقُولُ وَالَّذِي بَعَثَكَ بِالْحَقِّ يَا رَسُولَ اللَّهِ لَقَدْ رَأَيْتُ مِثْلَ مَا رَأَى. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَلِلَّهِ الْحَمْدُ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・ザイド رضى الله عنه は言った。**アッラーの使徒 ﷺ が、人々を礼拝に集めるために打ち鳴らす鐘を作るよう命じられた時、私は眠りの中で、手に鐘を持っ**

た一人の男が私の周りを回るのを見た。私は言った。「アッラーのしもべよ、その鐘を売ってくれませんか。」かれは言った。「それをどうするのか。」私は答えた。「それで人々を礼拝に呼ぶのです。」かれは言った。「それよりも良いものを教えようか。」私は「はい」と答えた。かれは言った。「こう唱えなさい。アッラーフ・アクバル、アッラーフ・アクバル……」――そしてかれはアザーンとイカーマの文言を教えた。朝になって私はアッラーの使徒 ﷺ のもとへ行き、そのことを告げた。使徒は言われた。「それは真実の夢である、イン・シャー・アッラー。ビラールと共に立ち、あなたが見たことをかれに教え、かれにそれを唱えさせなさい。かれの声はあなたの声よりもよく通るのだから。」ウマル・ブン・アル＝ハッターブは家でそれを聞くと、衣を引きずりながら出て来て言った。「**あなたを真理と共に遣わした方にかけて、アッラーの使徒よ、私もかれが見たのと同じ夢を見ました。**」アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**アッラーに讃えあれ。**」

伝承経路 イマーム・アブー・ダーウードの伝承：ムハンマド・ブン・マンスール・アッ＝トゥースィー ← ヤアクーブ（・ブン・イブラーヒーム） ← その父（イブラーヒーム・ブン・サアド） ← ムハンマド・ブン・イスハーク ← ムハンマド・ブン・イブラーヒーム・アッ＝タイミー ← ムハンマド・ブン・アブディッラー・ブン・ザイド ← その父アブドゥッラー・ブン・ザイド رضي الله عنه。

出典： イマーム・アブー・ダーウード『スナン・アビー・ダーウード』礼拝の書、アザーンの仕方の章、ハディース第 499 番。アザーンとイカーマの文言は訳文では省略している。

評価： ハサン・サヒーフ――アルバーニーがハサン・サヒーフと評価（『サヒーフ・スナン・アビー・ダーウード』）。

典拠：https://sunnah.com/abudawud:499

二つの伝承を合わせて理解する

イブン・ウマルのハディース（ブハーリー 604）は、ウマルが一人の男による呼びかけを提案し、ビラールが呼びかけるよう命じられたと述べています。一方アブドゥッラー・ブン・ザイドのハディースは、アザーンの文言が夢の中で教えられたと述べています。イブン・ハジャルはこれらを合わせて、ビラールの最初の呼びかけは「**アッ＝サラートゥ・ジャーミア（礼拝に集まれ）**」という一般的な呼びかけであり、その後、完全なアザーンの文言がアブドゥッラー・ブン・ザイドの夢の後に定められ、**認められ**ました。認めたのはアッラーの使徒 ﷺ であり、さらに**裏付け**となったのがウマルの夢であったと説明しています。

アザーンの文言	意味
アッラーフ・アクバル（4 回）	アッラーは最も偉大なり
アシュハドゥ・アン・ラー・イラーハ・イッラッラー（2 回）	私はアッラーのほかに神はないと証言する
アシュハドゥ・アンナ・ムハンマダン・ラスールッラー（2 回）	私はムハンマドがアッラーの使徒であると証言する
ハイヤ・アラッサラー（2 回）	礼拝に来たれ
ハイヤ・アラルファラーフ（2 回）	成功に来たれ
アッラーフ・アクバル（2 回）；ラー・イラーハ・イッラッラー	アッラーは最も偉大なり；アッラーのほかに神はない

教訓：夢を見たのはアブドゥッラー・ブン・ザイドでしたが、アッラーの使徒 ﷺ は**声がよく通る**という理由で**ビラール**を選ばれました。人はそれぞれ**自分の長所**に応じて務めを与えられるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ビラール：アザーンの最初の声

ビラール・ブン・ラバーフ رضي الله عنه は、「**唯一なる方、唯一なる方（アハド、アハド）**」と言い続けたためにマッカの砂漠で拷問されたアビシニア系の元奴隷でした（第 4 巻）。今やかれはイスラーム**最初のムアッズィン（アザーンを唱える人）**となり、その声が一日五回、マディーナ全体を礼拝へと呼んだのです。

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه はこう言いました。「**アブー・バクルは私たちの長であり、かれは私たちの長を解放した**」――つまりビラールのことです（『サヒーフ・ブハーリー』3754）。カリフとなる人物が、元奴隷を「**私たちの長**」と呼んだのです。

> **スィーラの注：ビラールと、逝去された預言者 ﷺ**
>
> 歴史書によれば、アッラーの使徒 ﷺ の逝去後、ビラールは悲しみのあまりマディーナで**アザーンを唱えることがつらくなり**、シャームへ移りました。マディーナでのかれの最後のアザーンについての話は、伝承経路に異論のあるものです。
>
> **参照：**
> イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』、ビラール・ブン・ラバーフの伝記。

教訓：イスラームにおいて尊さを測るのは**敬虔さ（タクワー）**であり、肌の色や血筋ではありません。元奴隷の声が**ウンマの声**となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナ憲章

マディーナのすべての集団――ムハージルーン、アンサール、そしてユダヤ教徒の諸部族――の関係を整えるため、アッラーの使徒 ﷺ は**マディーナ憲章**（サヒーファ・アル＝マディーナ）として知られる文書を書かせられました。多くの歴史家は、これを歴史上最も早い**成文の憲法**の一つと見なしています。

主な条項	意味
信者たちは**一つのウンマ（共同体）**	信仰の絆が部族の絆に優先する。
各部族はその成員の血の代償（ディヤ）と身代金を負担する	共同の責任と公正。
ユダヤ教徒は自らの宗教を、ムスリムは自らの宗教を自由に守る	一つの国の中での信教の自由。
すべての当事者が攻撃からマディーナを守る	共同の防衛。
ヤスリブの谷は**聖域（ハラム）**	マディーナは神聖で安全な町。
争いはアッラーとムハンマド ﷺ	一つの指導と裁き。
クライシュ族とその援助者には保護を与えない	敵と結託する道を閉ざす。

典拠：ウィキペディア「Constitution of Medina」。

スィーラの注：マディーナ憲章の本文の位置づけ

マディーナ憲章の本文は、主に**イブン・イスハーク**（イブン・ヒシャームの伝承）と、『財貨の書（キターブ・アル＝アムワール）』の**アブー・ウバイド**を通して伝わっていますが、**完全な伝承経路はありません**。ムスリムと非ムスリムの歴史家の多くは、その文体と内容が当時にふさわしいことから、全体としてその真正性を認めています。本文はふつう約 **47 条**に分けられます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

その内容の一部は、マディーナを聖域とし「**ムスリムの保護は一つである**」と記したアリーの文書（次の章）のように、**真正なハディースによって裏付けられています**。

参照：

ウィキペディア「Constitution of Medina」。https://en.wikipedia.org/wiki/Constitution_of_Medina

聖域としてのマディーナ

この新しい町についての重要な定めの一つは、その**神聖さ**でした。アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ から受けた一枚の文書を保管していました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1870 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ التَّيْمِيِّ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَلِيٍّ - رضى الله عنه - قَالَ مَا عِنْدَنَا شَىْءٌ إِلاَّ كِتَابُ اللَّهِ، وَهَذِهِ الصَّحِيفَةُ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم الْمَدِينَةُ حَرَمٌ، مَا بَيْنَ عَائِرٍ إِلَى كَذَا، مَنْ أَحْدَثَ فِيهَا حَدَثًا، أَوْ آوَى مُحْدِثًا، فَعَلَيْهِ لَعْنَةُ اللَّهِ وَالْمَلاَئِكَةِ وَالنَّاسِ أَجْمَعِينَ، لاَ يُقْبَلُ مِنْهُ صَرْفٌ وَلاَ عَدْلٌ. وَقَالَ ذِمَّةُ الْمُسْلِمِينَ وَاحِدَةٌ، فَمَنْ أَخْفَرَ مُسْلِمًا فَعَلَيْهِ لَعْنَةُ اللَّهِ وَالْمَلاَئِكَةِ وَالنَّاسِ أَجْمَعِينَ، لاَ يُقْبَلُ مِنْهُ صَرْفٌ وَلاَ عَدْلٌ، وَمَنْ تَوَلَّى قَوْمًا بِغَيْرِ إِذْنِ مَوَالِيهِ، فَعَلَيْهِ لَعْنَةُ اللَّهِ وَالْمَلاَئِكَةِ وَالنَّاسِ أَجْمَعِينَ، لاَ يُقْبَلُ مِنْهُ صَرْفٌ وَلاَ عَدْلٌ.

訳：

アリー رضى الله عنه は言った。「**私たちのもとには、アッラーの啓典と、預言者 ﷺ からのこの文書のほかには（書かれたものは）何もない。『マディーナはアイル（山）からこれこれの所までが聖域である。そこで新しいこと（逸脱や犯罪）を起こした者、あるいはそれを起こした者をかくまった者には、アッラーと天使たちと全人類の呪いがある。その者からは義務の行いも任意の行いも受け入れられない。ムスリムの保護は一つであり、かれらの中で最も身分の低い者でもそれを与えることができる。ムスリムの保護を裏切った者には、アッラーと天使たちと全人類の呪いがある……』」**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← アブドゥッラフマーン（・ブン・マフディー） ← スフヤーン ← アル＝アアマシュ ← イブラーヒーム・アッ＝タイミー ← その父（ヤズィード・ブン・シャリーク） ← アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マディーナの美徳の書、マディーナの聖域の章、ハディース第 1870 番。ムスリムも伝えている（第 1370 番）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：108 / 567

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1870

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナ憲章との共通点

アリーの文書（ブハーリー 1870）	マディーナ憲章（スィーラ書）
マディーナは聖域である	ヤスリブの谷は聖域である
ムスリムの保護は一つである	アッラーの保護は一つであり、最も身分の低い者でも保護を与えられる
犯罪者をかくまう者への呪い	犯罪者をかくまったり助けたりしてはならない

この共通点は、マディーナ憲章の原則が**真正なスンナに根ざしている**ことを示しています。アッラーの使徒 ﷺ はマディーナの祝福も祈られ、**イブラーヒームがマッカを聖域とし、自分はマディーナを聖域とする**と言われました（『サヒーフ・ブハーリー』2129）。

マディーナの祝福

かつて熱病で知られた町（第 7 巻）は、マッカに次ぐ**最も祝福された町**となりました。アッラーの使徒 ﷺ ご自身がその祝福を祈られたのです。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1885 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا وَهْبُ بْنُ جَرِيرٍ، حَدَّثَنَا أَبِي، سَمِعْتُ يُونُسَ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ اللَّهُمَّ اجْعَلْ بِالْمَدِينَةِ ضِعْفَىْ مَا جَعَلْتَ بِمَكَّةَ مِنَ الْبَرَكَةِ. تَابَعَهُ عُثْمَانُ بْنُ عُمَرَ عَنْ يُونُسَ.

訳：

アナス رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう祈られたと伝えている。「**アッラーよ、あなたがマッカに与えられた祝福の二倍を、マディーナに与えてください。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド ← ワフブ・ブン・ジャリール ← その父（ジャリール・ブン・ハーズィム） ← ユーヌス ← イブン・シハーブ ← アナス رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マディーナの美徳の書、ハディース第 1885 番。ムスリムも伝えている（第 1369 番）。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1885

使徒はまた、マディーナが終末まで**信仰の砦**であり続けると告げられました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1876 番

حَدَّثَنَا إِبْرَاهِيمُ بْنُ الْمُنْذِرِ، حَدَّثَنَا أَنَسُ بْنُ عِيَاضٍ، قَالَ حَدَّثَنِي عُبَيْدُ اللَّهِ، عَنْ خُبَيْبِ بْنِ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، عَنْ حَفْصِ بْنِ عَاصِمٍ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ إِنَّ الإِيمَانَ لَيَأْرِزُ إِلَى الْمَدِينَةِ كَمَا تَأْرِزُ الْحَيَّةُ إِلَى جُحْرِهَا.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えている。「**本当に信仰は、蛇が自分の穴に戻るように、マディーナへと戻り集まるであろう。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：イブラーヒーム・ブン・アル＝ムンズィル ← アナス・ブン・イヤード ← ウバイドゥッラー（・ブン・ウマル） ← フバイブ・ブン・アブドゥッラフマーン ← ハフス・ブン・アースィム ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マディーナの美徳の書、信仰はマディーナに戻るの章、ハディース第 1876 番。ムスリムも伝えている（第 147 番）。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1876

そしてマディーナは**天使たちに守られています**。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1880 番

حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، قَالَ حَدَّثَنِي مَالِكٌ، عَنْ نُعَيْمِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ الْمُجْمِرِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم. عَلَى أَنْقَابِ الْمَدِينَةِ مَلاَئِكَةٌ، لاَ يَدْخُلُهَا الطَّاعُونُ وَلاَ الدَّجَّالُ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えている。「**マディーナの入り口には天使たちがいる。ペストもダッジャールもそこに入ることはできない。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：イスマーイール（・ブン・アビー・ウワイス） ← マーリク ← ヌアイム・ブン・アブディッラー・アル＝ムジュミル ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マディーナの美徳の書、ダッジャールはマディーナに入らないの章、ハディース第 1880 番。ムスリムも伝えている（第 1379 番）。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1880

マディーナの特別な徳	典拠
マッカと同じく聖域である	ブハーリー 1870、2129
マッカの祝福の二倍	ブハーリー 1885
信仰がマディーナに戻り集まる	ブハーリー 1876
ペストもダッジャールも入らない	ブハーリー 1880
マッカのように、あるいはそれ以上に愛される	ブハーリー 3926（第 7 巻）

教訓：場所が尊くなるのは、**住む人々の信仰**と**アッラーの使徒** ﷺ の祈りによってです。かつて分裂し病に苦しんだヤスリブは、**アル＝マディーナ・アル＝ムナウワラ**――光り輝く町――となりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ユダヤ教徒の隣人とアーシューラーの斎戒

マディーナのユダヤ教徒は、預言者たちの物語を知る**啓典の民**でした。**アブドゥッラー・ブン・サラーム**（第 7 巻）のようにイスラームに入った者もいれば、多くは自らの宗教にとどまりました。アッラーの使徒 ﷺ はかれらと公正に付き合われました。隣人として暮らし、カイヌカーウ族の市場で取引し（ブハーリー 3780）、盟約で結ばれていたのです。

アーシューラーの斎戒

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに着いてすぐに目にされたことを伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2004 番

حَدَّثَنَا أَبُو مَعْمَرٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَارِثِ، حَدَّثَنَا أَيُّوبُ، حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ سَعِيدِ بْنِ جُبَيْرٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَدِمَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم الْمَدِينَةَ، فَرَأَى الْيَهُودَ تَصُومُ يَوْمَ عَاشُورَاءَ، فَقَالَ مَا هَذَا. قَالُوا هَذَا يَوْمٌ صَالِحٌ، هَذَا يَوْمٌ نَجَّى اللَّهُ بَنِي إِسْرَائِيلَ مِنْ عَدُوِّهِمْ، فَصَامَهُ مُوسَى. قَالَ فَأَنَا أَحَقُّ بِمُوسَى مِنْكُمْ. فَصَامَهُ وَأَمَرَ بِصِيَامِهِ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った。**預言者 ﷺ はマディーナに来られ、ユダヤ教徒がアーシューラーの日に斎戒しているのを見られた。使徒は「これは何か」と尋ねられた。かれらは答えた。「これは良い日です。アッラーがイスラエルの子孫を敵から救われた日で、ムーサーはこの日に斎戒しました。」使徒は言われた。「私はあなたがたよりもムーサーに近い。」そして使徒はその日に斎戒され、（ムスリムたちにも）斎戒するよう命じられた。**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・マアマル ← アブドゥルワーリス ← アイユーブ ← アブドゥッラー・ブン・サイード・ブン・ジュバイル ← その父（サイード・ブン・ジュバイル） ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』斎戒の書、アーシューラーの日の斎戒の章、ハディース第 2004 番。ムスリムも伝えている（第 1130 番）。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2004

教訓：ムスリムは**預言者たちの継承者**であり、そこにはムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ も含まれます。イスラームは啓典の民の中にある善を認めつつ、**自らの独自性**を保ちます。

アブドゥッラー・ブン・ウバイと偽信の芽

マディーナのすべての住民が、アッラーの使徒 ﷺ の到来を喜んだわけではありません。**アブドゥッラー・ブン・ウバイ・ブン・サルール**はハズラジ族の有力者で、ヒジュラの前にはマディーナの王に戴かれる寸前でした。使徒の到来がその野望を打ち砕いたのです。ウサーマ・ブン・ザイド رضى الله عنهما がある出来事を伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4566 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي عُرْوَةُ بْنُ الزُّبَيْرِ، أَنَّ أُسَامَةَ بْنَ زَيْدٍ ـ رضى الله عنهما ـ أَخْبَرَهُ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم رَكِبَ عَلَى حِمَارٍ عَلَى قَطِيفَةٍ فَدَكِيَّةٍ، وَأَرْدَفَ أُسَامَةَ بْنَ زَيْدٍ وَرَاءَهُ، يَعُودُ سَعْدَ بْنَ عُبَادَةَ فِي بَنِي الْحَارِثِ بْنِ الْخَزْرَجِ قَبْلَ وَقْعَةِ بَدْرٍ ـ قَالَ ـ حَتَّى مَرَّ بِمَجْلِسٍ فِيهِ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أُبَيٍّ، ابْنُ سَلُولَ، وَذَلِكَ قَبْلَ أَنْ يُسْلِمَ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أُبَيٍّ فَإِذَا فِي الْمَجْلِسِ أَخْلاَطٌ مِنَ الْمُسْلِمِينَ وَالْمُشْرِكِينَ عَبَدَةِ الأَوْثَانِ وَالْيَهُودِ وَالْمُسْلِمِينَ، وَفِي الْمَجْلِسِ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ رَوَاحَةَ، فَلَمَّا غَشِيَتِ الْمَجْلِسَ عَجَاجَةُ الدَّابَّةِ خَمَّرَ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أُبَيٍّ أَنْفَهُ بِرِدَائِهِ، ثُمَّ قَالَ لاَ تُغَبِّرُوا عَلَيْنَا. فَسَلَّمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَيْهِمْ ثُمَّ وَقَفَ فَنَزَلَ فَدَعَاهُمْ إِلَى اللَّهِ، وَقَرَأَ عَلَيْهِمُ الْقُرْآنَ، فَقَالَ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أُبَيٍّ ابْنُ سَلُولَ أَيُّهَا الْمَرْءُ، إِنَّهُ لاَ أَحْسَنَ مِمَّا تَقُولُ، إِنْ كَانَ حَقًّا، فَلاَ تُؤْذِينَا بِهِ فِي مَجْلِسِنَا، ارْجِعْ إِلَى رَحْلِكَ، فَمَنْ جَاءَكَ فَاقْصُصْ عَلَيْهِ. فَقَالَ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ رَوَاحَةَ بَلَى يَا رَسُولَ اللَّهِ، فَاغْشَنَا بِهِ فِي مَجَالِسِنَا، فَإِنَّا نُحِبُّ ذَلِكَ. فَاسْتَبَّ الْمُسْلِمُونَ وَالْمُشْرِكُونَ وَالْيَهُودُ حَتَّى كَادُوا يَتَثَاوَرُونَ، فَلَمْ يَزَلِ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يُخَفِّضُهُمْ حَتَّى سَكَنُوا، ثُمَّ رَكِبَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم دَابَّتَهُ فَسَارَ حَتَّى دَخَلَ عَلَى سَعْدِ بْنِ عُبَادَةَ، فَقَالَ لَهُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَا سَعْدُ أَلَمْ تَسْمَعْ مَا قَالَ أَبُو حُبَابٍ. يُرِيدُ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ أُبَيٍّ قَالَ كَذَا وَكَذَا. قَالَ سَعْدُ بْنُ عُبَادَةَ يَا رَسُولَ اللَّهِ، اعْفُ عَنْهُ وَاصْفَحْ عَنْهُ، فَوَالَّذِي أَنْزَلَ عَلَيْكَ الْكِتَابَ، لَقَدْ جَاءَ اللَّهُ بِالْحَقِّ الَّذِي أَنْزَلَ عَلَيْكَ، لَقَدِ اصْطَلَحَ أَهْلُ هَذِهِ الْبُحَيْرَةِ عَلَى أَنْ يُتَوِّجُوهُ فَيُعَصِّبُونَهُ بِالْعِصَابَةِ، فَلَمَّا أَبَى اللَّهُ ذَلِكَ بِالْحَقِّ الَّذِي أَعْطَاكَ اللَّهُ شَرِقَ بِذَلِكَ، فَذَلِكَ فَعَلَ

به ما رَأَيْتَ. فَعَفَا عَنْهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَكَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم وَأَصْحَابُهُ يَعْفُونَ عَنِ الْمُشْرِكِينَ وَأَهْلِ الْكِتَابِ كَمَا أَمَرَهُمُ اللَّهُ، وَيَصْبِرُونَ عَلَى الأَذَى قَالَ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ {وَلَتَسْمَعُنَّ مِنَ الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ مِنْ قَبْلِكُمْ وَمِنَ الَّذِينَ أَشْرَكُوا أَذًى كَثِيرًا} الآيَةَ، وَقَالَ اللَّهُ {وَدَّ كَثِيرٌ مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ لَوْ يَرُدُّونَكُمْ مِنْ بَعْدِ إِيمَانِكُمْ كُفَّارًا حَسَدًا مِنْ عِنْدِ أَنْفُسِهِمْ} إِلَى آخِرِ الآيَةِ، وَكَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَتَأَوَّلُ الْعَفْوَ مَا أَمَرَهُ اللَّهُ بِهِ، حَتَّى أَذِنَ اللَّهُ فِيهِمْ، فَلَمَّا غَزَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بَدْرًا، فَقَتَلَ اللَّهُ بِهِ صَنَادِيدَ كُفَّارِ قُرَيْشٍ قَالَ ابْنُ أُبَيٍّ ابْنُ سَلُولَ، وَمَنْ مَعَهُ مِنَ الْمُشْرِكِينَ، وَعَبَدَةِ الأَوْثَانِ هَذَا أَمْرٌ قَدْ تَوَجَّهَ. فَبَايَعُوا الرَّسُولَ صلى الله عليه وسلم عَلَى الإِسْلاَمِ فَأَسْلَمُوا.

訳：

ウサーマ・ブン・ザイド رضى الله عنهما は伝えている。**アッラーの使徒 ﷺ は、バドルの戦いの前、サアド・ブン・ウバーダを見舞うため、ロバに乗りウサーマを後ろに乗せて出かけられた。使徒は、アブドゥッラー・ブン・ウバイ・ブン・サルールがいる集まりのそばを通られた。それはかれが（表向き）イスラームに入る前のことであった。その集まりには、ムスリム、偶像を崇める多神教徒、そしてユダヤ教徒が混じっていた。**ロバの土ぼこりがその集まりに届くと、アブドゥッラー・ブン・ウバイは鼻を覆って「私たちに土ぼこりをかけるな」と言った。アッラーの使徒 ﷺ は挨拶をし、立ち止まって降り、かれらをアッラーへと招き、クルアーンを読み聞かせられた。アブドゥッラー・ブン・ウバイは言った。「おい、あなたの言うことが本当なら、それにまさるものはない。だが私たちの集まりでそれで私たちを煩わせないでくれ。」アブドゥッラー・ブン・ラワーハは言った。「いいえ、アッラーの使徒よ、それを私たちの集まりに持って来てください。私たちはそれを好むのですから。」そこで人々は罵り合い、つかみ合いになりかけたが、**預言者 ﷺ はかれらをなだめ続けられ**、ついに静まった。使徒はサアド・ブン・ウバーダのもとへ行き、そのことを話された。サアドは言った。**「アッラーの使徒よ、かれを許し、大目に見てください。アッラーにかけて、この町の人々がかれに冠を戴かせ（王にし）ようと一致していた時に、アッラーはあなたに真理をもたらされました。アッラーがあなたに与えられた真理によってそれを退けられたので、かれは悔しがっているのです。それがかれの振る舞いの理由です。」**そこでアッラーの使徒

ﷺはかれを許された。（このハディースは続けて、使徒と教友たちが多神教徒と啓典の民を許し、かれらの嫌がらせに耐えていたことを説明している。）

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン ← シュアイブ ← アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← ウサーマ・ブン・ザイド رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン解釈の書、イムラーン家章、ハディース第 4566 番。ムスリムも伝えている（第 1798 番）。訳文は要約している。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4566

偽信の芽

バドルの勝利（第 9 巻）の後、アブドゥッラー・ブン・ウバイとその追随者たちは**表向きイスラームを示し**ましたが、その心は変わりませんでした。これが**偽信者（ムナーフィクーン）**の始まりです。かれらはクルアーンでたびたび語られる、内に潜む敵でした。ウサーマのハディースは、かれらの態度が証拠の不足からではなく、**ねたみと権力への執着**から生じたことを示しています。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**忍耐し、許され**、争いをなだめ、侮辱に暴力で報いることはされませんでした。指導者には**長い忍耐**が求められるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムハージルーン最初の赤子

マディーナでの最初の年には喜びもありました。臨月の身でヒジュラしたアスマー・ビント・アビー・バクル رضى الله عنها が、クバーで男の子を産んだのです。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3909 番

حَدَّثَنِي زَكَرِيَّاءُ بْنُ يَحْيَى، عَنْ أَبِي أُسَامَةَ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَسْمَاءَ ـ رضى الله عنها ـ أَنَّهَا حَمَلَتْ بِعَبْدِ اللَّهِ بْنِ الزُّبَيْرِ، قَالَتْ فَخَرَجْتُ وَأَنَا مُتِمٌّ، فَأَتَيْتُ الْمَدِينَةَ، فَنَزَلْتُ بِقُبَاءٍ، فَوَلَدْتُهُ بِقُبَاءٍ، ثُمَّ أَتَيْتُ بِهِ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَوَضَعْتُهُ فِي حَجْرِهِ، ثُمَّ دَعَا بِتَمْرَةٍ، فَمَضَغَهَا، ثُمَّ تَفَلَ فِي فِيهِ، فَكَانَ أَوَّلَ شَىْءٍ دَخَلَ جَوْفَهُ رِيقُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، ثُمَّ حَنَّكَهُ بِتَمْرَةٍ ثُمَّ دَعَا لَهُ وَبَرَّكَ عَلَيْهِ، وَكَانَ أَوَّلَ مَوْلُودٍ وُلِدَ فِي الإِسْلاَمِ. تَابَعَهُ خَالِدُ بْنُ مَخْلَدٍ عَنْ عَلِيِّ بْنِ مُسْهِرٍ عَنْ هِشَامٍ عَنْ أَبِيهِ عَنْ أَسْمَاءَ ـ رضى الله عنها ـ أَنَّهَا هَاجَرَتْ إِلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَهْىَ حُبْلَى.

訳：

アスマー رضى الله عنها は、マッカでアブドゥッラー・ブン・アッ＝ズバイルを身ごもったと言った。「**私は臨月の身で（ヒジュラに）出発し、マディーナに着いてクバーに滞在し、クバーでかれを産みました。それからかれをアッラーの使徒 ﷺ のもとへ連れて行き、そのひざに置きました。使徒はナツメヤシの実を一つ求めてかみ、それを赤子の口に入れられました。こうしてかれのお腹に最初に入ったのは、アッラーの使徒 ﷺ のつばでした。それから使徒はナツメヤシでかれにタフニーク（口ほどき）をし、かれのために祝福を祈られました。かれはイスラームの中で（マディーナのムハージルーンの間で）最初に生まれた赤子でした。**」ブハーリーはまた、アスマーが身ごもった状態で預言者 ﷺ のもとへ移住したことを裏付ける伝承も挙げています。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ザカリーヤー・ブン・ヤヒヤー ← アブー・ウサーマ ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← その父（ウルワ） ← アスマー رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、ハディース第 3909 番。ムスリムも伝えている（第 2146 番）。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3909

その赤子**アブドゥッラー・ブン・アッ＝ズバイル**は、マディーナのムハージルーンの間で最初に生まれた子でした。アッラーの使徒 ﷺ はかれに**タフニーク**――ナツメヤシの実をかんで赤子の上あごにつけること――をし、かれのために祝福を祈られました。この**タフニーク**のスンナは、今日までムスリムに受け継がれています。

誕生のスンナ	典拠
ナツメヤシでのタフニーク	ブハーリー 3909
赤子のために祝福を祈る	ブハーリー 3909
赤子を善良な人のもとへ連れて行く	ブハーリー 3909

キブラがカアバへ

マディーナでの **16 か月または 17 か月**の間、ムスリムは**エルサレム（バイト・アル＝マクディス）**に向かって礼拝していました。アッラーの使徒 ﷺ は、キブラが父祖イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ のキブラであるカアバへ移されることを強く望み、しばしば天を仰いで啓示を待たれました。アッラーは仰せられます。

雌牛章 2:144

قَدْ نَرَىٰ تَقَلُّبَ وَجْهِكَ فِي ٱلسَّمَآءِ ۖ فَلَنُوَلِّيَنَّكَ قِبْلَةً تَرْضَىٰهَا ۚ فَوَلِّ وَجْهَكَ
شَطْرَ ٱلْمَسْجِدِ ٱلْحَرَامِ ۚ وَحَيْثُ مَا كُنتُمْ فَوَلُّوا۟ وُجُوهَكُمْ شَطْرَهُۥ ۗ وَإِنَّ ٱلَّذِينَ
أُوتُوا۟ ٱلْكِتَٰبَ لَيَعْلَمُونَ أَنَّهُ ٱلْحَقُّ مِن رَّبِّهِمْ ۗ وَمَا ٱللَّهُ بِغَٰفِلٍ عَمَّا يَعْمَلُونَ ﴿١٤٤﴾

われはあなたが（導きを求め）、天に顔を巡らすのを見る。そこでわれは、あなたの納得するキブラに、あなたを向かわせる。あなたの顔を聖なるマスジドの方向に向けなさい。あなたがたは何処にいても、あなたがたの顔をキブラに向けなさい。本当に啓典の民は、それが主からの真理であることを知っている。アッラーは、かれらの行うことに無頓着な方ではない。

訳：三田了一 — quran.com/2:144

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4486 番

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، سَمِعَ زُهَيْرًا، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الْبَرَاءِ، رضى الله عنه أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم صَلَّى إِلَى بَيْتِ الْمَقْدِسِ سِتَّةَ عَشَرَ شَهْرًا أَوْ سَبْعَةَ عَشَرَ شَهْرًا، وَكَانَ يُعْجِبُهُ أَنْ تَكُونَ قِبْلَتُهُ قِبَلَ الْبَيْتِ، وَأَنَّهُ صَلَّى ـ أَوْ صَلاَّهَا ـ صَلاَةَ الْعَصْرِ، وَصَلَّى مَعَهُ قَوْمٌ، فَخَرَجَ رَجُلٌ مِمَّنْ كَانَ صَلَّى مَعَهُ، فَمَرَّ عَلَى أَهْلِ الْمَسْجِدِ وَهُمْ رَاكِعُونَ قَالَ أَشْهَدُ بِاللَّهِ لَقَدْ صَلَّيْتُ مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قِبَلَ مَكَّةَ، فَدَارُوا كَمَا هُمْ قِبَلَ الْبَيْتِ، وَكَانَ الَّذِي مَاتَ عَلَى الْقِبْلَةِ قَبْلَ أَنْ تُحَوَّلَ قِبَلَ الْبَيْتِ رِجَالٌ قُتِلُوا لَمْ نَدْرِ مَا نَقُولُ فِيهِمْ، فَأَنْزَلَ اللَّهُ {وَمَا كَانَ اللَّهُ لِيُضِيعَ إِيمَانَكُمْ إِنَّ اللَّهَ بِالنَّاسِ لَرَءُوفٌ رَحِيمٌ}

訳：

アル＝バラー رضى الله عنه は伝えている。**アッラーの使徒 ﷺ は 16 か月または 17 か月の間エルサレムに向かって礼拝され、キブラがカアバであることを好まれていた。使徒は礼拝――アスルの礼拝――を（カアバに向かって）行われ、何人かの人々が使徒と共に礼拝した。使徒と共に礼拝した一人の男が出て行き、あるモスクでルクー（お辞儀）をしている人々のそばを通った。かれは言った。「アッラーにかけて証言する。私は預言者 ﷺ と共にマッカの方に向かって礼拝した。」すると人々は（ルクーの姿勢のまま）カアバの方へ向きを変えた。**キブラが変わる前に亡くなった人々がいて、私たちはかれらについて何と言えばよいのか分からなかった。そこでアッラーは下された。｛アッラーは，あなたがたの信仰を決して虚しくなされない.....｝（雌牛章 2:143）。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム ← ズハイル ← アブー・イスハーク ← アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン解釈の書、雌牛章、ハディース第 4486 番。第 40 番も参照。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4486

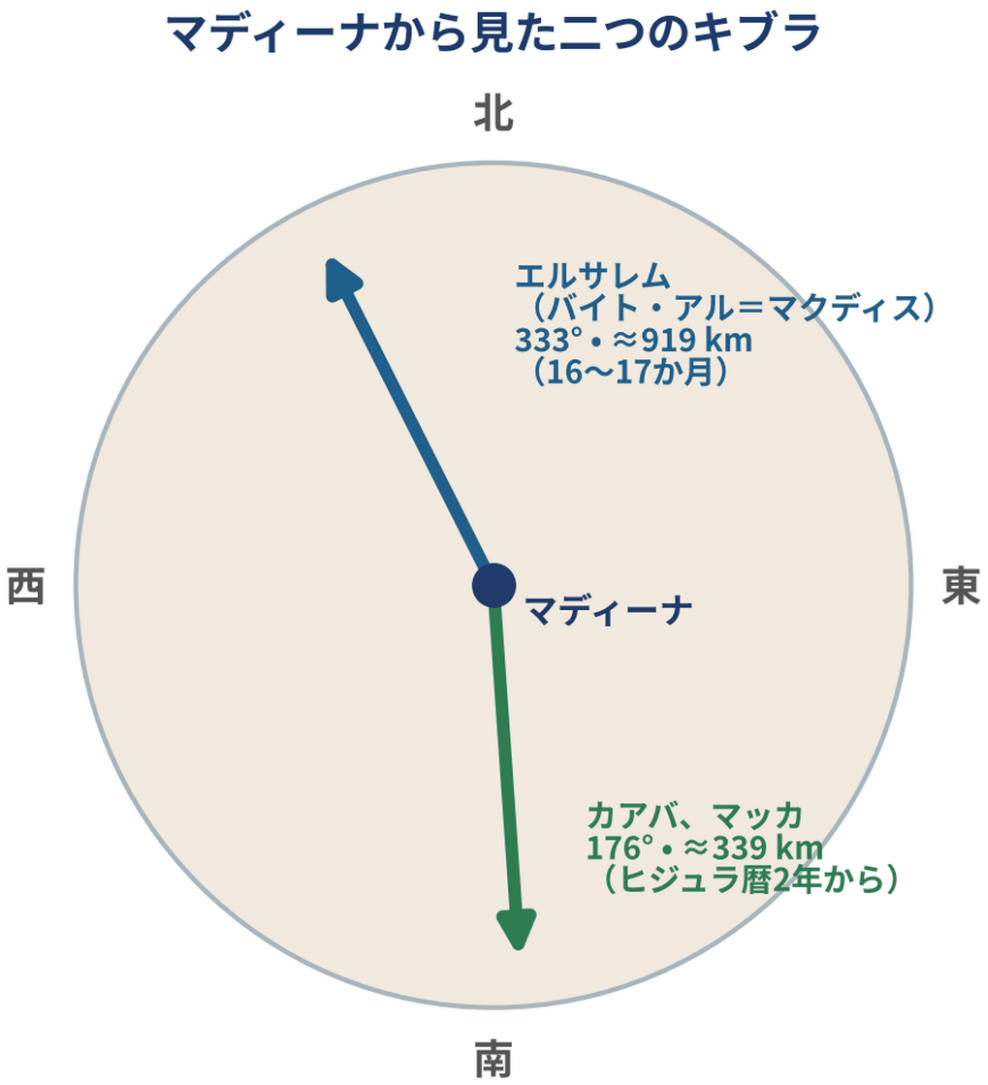


図 3：マディーナから見た二つのキブラの方向。

上の図は、その変化がいかに大きかったかを示しています。マディーナから見ると、エルサレムは**北北西**にあり、マッカは**南**にあります。礼拝する人々は**ほぼ真後ろに向きを変える**必要がありました。ウィキペディアは、この出来事が**ヒジュラ暦 2 年のラジャブ月またはシャアバーン月**（西暦 623 年）に起きたとしています（ウィキペディア「Qibla」）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

礼拝中に向きを変える

キブラ変更の知らせはすぐに広まりました。イブン・ウマル رضى الله عنهما は、翌朝クバーで起きたことを伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 403 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، قَالَ أَخْبَرَنَا مَالِكُ بْنُ أَنَسٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ دِينَارٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عُمَرَ، قَالَ بَيْنَا النَّاسُ بِقُبَاءٍ فِي صَلاَةِ الصُّبْحِ إِذْ جَاءَهُمْ آتٍ فَقَالَ إِنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَدْ أُنْزِلَ عَلَيْهِ اللَّيْلَةَ قُرْآنٌ، وَقَدْ أُمِرَ أَنْ يَسْتَقْبِلَ الْكَعْبَةَ فَاسْتَقْبِلُوهَا، وَكَانَتْ وُجُوهُهُمْ إِلَى الشَّأْمِ، فَاسْتَدَارُوا إِلَى الْكَعْبَةِ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。**人々がクバーで夜明けの礼拝をしていた時、ある人がかれらのもとに来て言った。「昨夜、アッラーの使徒 ﷺ にクルアーンが下され、使徒はカアバに向くよう命じられました。だからそちらに向きなさい。」その時かれらの顔はシャームの方を向いていたが、かれらはカアバの方へ向きを変えた。**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← マーリク・ブン・アナス ← アブドゥッラー・ブン・ディーナール ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』礼拝の書、キブラの章、ハディース第 403 番。ムスリムも伝えている（第 526 番）。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:403

ためらいのない服従

教友たちは「まず礼拝を終えてから、この知らせを確かめよう」とは言いませんでした。かれらは信頼できる知らせの運び手を信じて、**礼拝の途中ですぐに向きを変**

えたのです。学者たちはこのハディースから、**信頼できる一人の者の知らせ**（ハバル・アーハード）が宗教上の事柄で受け入れられることを導き出しています。

アッラーはキブラ変更の英知を明らかにされました。「**このようにわれは，あなたがたを中正の共同体〔ウンマ〕とする**」。同じ節は、キブラの変更が、本当に使徒に従う者を見分けるための試練であったと述べています『タフスィール・イブン・カスィール』2:143。

スィーラの注：二つのキブラのモスク

スィーラ書によれば、キブラの変更は、アッラーの使徒 ﷺ が**サリマ族**のモスクでズフルの礼拝をしておられた時に起こり、使徒は礼拝の途中で向きを変えられました。そのモスクは今日**マスジド・アル＝キブラタイン**（二つのキブラのモスク）として知られています。

一方、真正なハディース（ブハーリー 4486）は、カアバに向かった最初の礼拝を**アスル**の礼拝とし、**別のモスク**にいた人々がルクーの最中に向きを変えたと述べています。学者たちはこれを合わせて、知らせが異なる人々に異なる時に届いたと説明します。サリマ族にはアスルの時に、クバーの人々には翌日の夜明けの礼拝の時に届いたのです（ブハーリー 403）。

参照：

イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』、ハディース第 40 番および第 403 番の注釈。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ラマダーンの斎戒とザカート・アル＝フィトル

スィーラ書によれば、**ヒジュラ暦 2 年のシャアバーン月**に、アッラーは**ラマダーンの斎戒**を義務とされました。

アッラーは仰せられます。「**信仰する者よ，あなたがた以前の者に定められたようにあなたがたに斎戒が定められた。恐らくあなたがたは主を畏れるであろう**」『タフスィール・イブン・カスィール』2:183。

同じ年には、斎戒した者を清め、祭日に貧しい人々に食べ物を与えるため、**ザカート・アル＝フィトル**も義務とされました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1503 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ مُحَمَّدِ بْنِ السَّكَنِ، حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ جَهْضَمٍ، حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ بْنُ جَعْفَرٍ، عَنْ عُمَرَ بْنِ نَافِعٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ فَرَضَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم زَكَاةَ الْفِطْرِ صَاعًا مِنْ تَمْرٍ، أَوْ صَاعًا مِنْ شَعِيرٍ عَلَى الْعَبْدِ وَالْحُرِّ، وَالذَّكَرِ وَالأُنْثَى، وَالصَّغِيرِ وَالْكَبِيرِ مِنَ الْمُسْلِمِينَ، وَأَمَرَ بِهَا أَنْ تُؤَدَّى قَبْلَ خُرُوجِ النَّاسِ إِلَى الصَّلاَةِ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。**アッラーの使徒 ﷺ は、ムスリムの奴隷と自由人、男と女、子どもと大人の一人ひとりに、ナツメヤシ 1 サーウまたは大麦 1 サーウのザカート・アル＝フィトルを義務とされ、人々が（祭日の）礼拝に出かける前にそれを納めるよう命じられた。**

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ヤヒヤー・ブン・ムハンマド・ブン・アッ＝サカン ← ムハンマド・ブン・ジャフダム ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ウマル・ブン・ナーフィウ ← その父（ナーフィウ） ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ザカートの書、ザカート・アル＝フィトルの義務の章、ハディース第 1503 番。ムスリムも伝えている（第 984 番）。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1503

崇拝行為	定められた時期（目安）
一日五回の礼拝	ミウラージュの夜、ヒジュラの前（第 6 巻）
アザーン	ヒジュラ暦 1 年（ブハーリー 604）
マディーナでの金曜礼拝	ヒジュラの時（第 7 巻）
カアバへのキブラ	ヒジュラ暦 2 年ラジャブ月／シャアバーン月
ラマダーンの斎戒	ヒジュラ暦 2 年シャアバーン月
ザカート・アル＝フィトル	ヒジュラ暦 2 年、最初の祭日の前

教訓：イスラームの崇拝行為は、社会の建設と歩みを合わせて**段階的に定められました**。そしてイスラーム史上最初のラマダーンの後には**バドルの戦い**が続きます――第 9 巻の物語です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

話とその評価

本書の出来事の多くは**真正**で、『サヒーフ・ブハーリー』に収められています。一方、いくつかの細部はスィーラ書や歴史書にのみ見られます。

マディーナ初期の物語の位置づけ

真正（10）

- 預言者のモスクの建設
- アナスの家での兄弟の契り
- アブドゥッラフマーンとサアド・ブン・アッ＝ラビーウ
- 兄弟を優先したアンサールの客もてなし（59:9）
- ウマルの提案；ビラールが礼拝へ呼びかける
- アブドゥッラー・ブン・アッ＝ズバイルの誕生
- アリーの文書：聖域としてのマディーナ
- マディーナの祝福；天使たちによる守り
- キブラの変更；クバーの人々が向きを変える
- アブドゥッラー・ブン・ウバイと混じり合った集まり

ハサン・サヒーフ（1）

- アブドゥッラー・ブン・ザイドのアザーンの夢

スィーラ書／歴史書（3）

- マディーナ憲章の全文（伝承経路なし）
- 兄弟として結ばれた九十人
- 礼拝の途中、マスジド・アル＝キブラタインでのキブラ変更

評価はハディース集と学者たちの評価に基づく（関連する章を参照）。

図 4：マディーナ初期の物語の位置づけ。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	位置づけと典拠
預言者のモスクの建設；アフル・アッ＝スッファ	真正 — ブハーリー 3932、6452
アナスの家での兄弟の契り	真正 — ブハーリー 2294
アブドゥッラフマーンとサアド；サルマーンとアブー・アッ＝ダルダー	真正 — ブハーリー 3780、1968
兄弟の相続の廃止	真正 — ブハーリー 2292
アンサールの客もてなし（59:9）；ナツメヤシ園	真正 — ブハーリー 3798、2325
アザーンの提案；ビラールへの呼びかけの命令	真正 — ブハーリー 604
アブドゥッラー・ブン・ザイドの夢	ハサン・サヒーフ — アブー・ダーウード 499
聖域としてのマディーナ	真正 — ブハーリー 1870、2129
マディーナの祝福；天使たちによる守り	真正 — ブハーリー 1885、1876、1880
アーシューラーの斎戒	真正 — ブハーリー 2004
アブドゥッラー・ブン・ウバイ	真正 — ブハーリー 4566
アブドゥッラー・ブン・アッ＝ズバイルの誕生	真正 — ブハーリー 3909
キブラの変更；クバーの人々が向きを変える	真正 — ブハーリー 4486、403
ザカート・アル＝フィトル	真正 — ブハーリー 1503
マディーナ憲章の全文	スィーラ書（イブン・イスハーク、アブー・ウバイド）、完全な伝承経路なし；歴史家に広く認められている
兄弟として結ばれた九十人；ほかの組み合わせの名前	スィーラ書（イブン・サアド、イブン・ヒシャーム）
ズフルの礼拝の途中、マスジド・アル＝キブラタインでのキブラ変更	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

社会の四つの基本的な教え

マディーナの人々がアッラーの使徒 ﷺ から最初に聞いた言葉は何だったのでしょうか。使徒の到着後すぐにイスラームに入ったユダヤ教の学者アブドゥッラー・ブン・サラーム رضي الله عنه（第 7 巻）が、その時のことを語っています。この短い教えが、本書で語られる社会建設全体の土台となりました。

ハディース：マディーナでの最初の言葉

アブドゥッラー・ブン・サラーム رضي الله عنه は言った。「アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに着かれると、人々は急いで使徒のもとへ向かった……。私も人々と一緒に使徒を見に行った。その顔をはっきりと見た時、私はそれがうそつきの顔ではないと分かった。私が使徒から最初に聞いた言葉はこうであった。『人々よ、平安の挨拶（サラーム）を広め、食べ物を与え、血縁の絆を結び、人々が眠っている夜に礼拝しなさい。そうすれば、あなたがたは平安のうちに楽園に入るであろう。』」

評価：真正――ティルミズィーはハサン・サヒーフと述べ、アルバーニーも真正とした――『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2485；また『スナン・イブン・マージャ』1334。

教え	社会への効果
サラームを広める	敵意と疑いを取り除き、見知らぬ人が知り合いになる。
食べ物を与える	誰も飢えないようにする――ムハージルーンが手ぶらで着いた時には特に大切だった。
血縁の絆を結ぶ	家族を強め、安定した社会の土台となる。
夜の礼拝	アッラーとの個人的な結びつきを築く；昼の働きを支える霊的な力。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

すべての人にサラームを

同じ教えはほかのハディースでも繰り返されています。ある男が「どのイスラームが最も優れていますか」と尋ねると、使徒は答えられました。「食べ物を与え、知っている人にも知らない人にもサラームを言うことである」（『サヒーフ・ブハーリー』12）。また使徒は言われました。「あなたがたは信仰しなければ楽園に入れず、互いに愛し合わなければ信仰したことにならない。それを行えば互いに愛し合えるようになるものを教えようか。あなたがたの間でサラームを広めなさい」（『サヒーフ・ムスリム』54）。

その順序に注目してください。信仰は愛へと導き、愛は毎日くり返される小さな行いによって築かれます。ムハージルーンとアンサールの兄弟の契り（第 3〜8 章）はこの教えの大きな実践であり、サラームと食べ物はその日々の実践なのです。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、法律や軍隊からではなく、人格――サラーム、食べ物、血縁の絆、夜の礼拝――から社会の建設を始められました。強い社会は、清い心と与える手から始まります。この教えは、今日の私たちの近所や社会にとっても薬であり続けています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

戦いの許可

マッカでの十三年間、ムスリムは拷問され、ボイコットされ、追放されても、忍耐し、報復しないよう命じられていました。マディーナで、かれらは初めて自分たちの郷土を持ちました。その時、アッラーは自衛のための許可を下されたのです。

「戦いをし向ける者に対し（戦闘を）許される。それはかれらが悪を行うためである。アッラーは，かれら（信者）を力強く援助なされる。（かれらは）只『わたしたちの主はアッラーです。』と言っただけで正当な理由もなく，その家から追われた者たちである」（巡礼章 22:39–40）。

イブン・カスィールは、イブン・アッバース رضى الله عنهما と多くの初期の学者から、これが戦いについて下された最初の節であると伝えています（『タフスィール・イブン・カスィール』22:39）。その理由に注目してください。かれらは信仰だけを理由に虐げられ、追放されたのです。この許可は不正を止めるためのものであり、人々にイスラームを強制するためではありません。

続くクライシュ族の脅威

クライシュ族は、ムスリムがマディーナで安らかに暮らすことを許しませんでした。かれらはムスリムが聖なるマスジドへ行くことも妨げていました。ある真正なハディースが、その様子を伝えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディース：マッカでのサアド・ブン・ムアーズ

アウス族の長サアド・ブン・ムアーズ رضي الله عنه は、ウムラを行うためにマッカへ行き、旧友ウマイヤ・ブン・ハラフの家に身を寄せた。かれがタワーフをしていると、アブー・ジャハルが出会って言った。「お前たちはムハンマドとその仲間をかくまっておきながら、安心してカアバを回っているのか。」アブー・ジャハルはさらに言った。「アブー・サフワーン（ウマイヤ）と一緒でなければ、お前は無事に家族のもとへ帰れなかっただろう。」サアドは答えた。「アッラーにかけて、もしお前が私をこれから妨げるなら、私はお前にとってもっと重大なものを妨げよう。マディーナを通るお前たちの（交易の）道だ。」

評価：真正 — 『サヒーフ・ブハーリー』3950（要約。このハディースは、バドルで実現したウマイヤの死の予告にも触れている）。

サアドの答えは、マディーナの戦略的な位置を示しています。シャームへ向かうクライシュ族の隊商は、マディーナの近くを通らなければなりませんでした。これが、次の章で語る遠征の背景です。

教訓

イスラームは急いで武器を取ることはしませんでした。マッカでの十三年の忍耐、そしてマディーナでの条件付きの許可は、イスラームにおける戦いが不正を退けるための最後の手段であり、礼節と限度によって縛られていることを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドル以前のガズワとサリーヤ

スィーラ学者は二つの用語を区別します。**ガズワ**は、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が参加された遠征です。**サリーヤ**（またはバアス）は、使徒が教友の一人を指揮官として送り出した部隊です。マディーナ到着からバドルの戦いまでの間に、スィーラ書はいくつかの小さな遠征を記録しています。その多くは戦闘にならずに終わりました。

遠征と時期（スィーラ書による）	指揮官と人数	何が起きたか
サイフ・アル＝バフルのサリーヤ — ヒジュラ暦 1 年ラマダーン月	ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ；ムハージルーン 30 人	海岸でアブー・ジャハルの隊商（約 300 人）と遭遇；マジュディー・ブン・アムル・アル＝ジュハニーが仲裁し、戦闘なし。一部のスィーラ学者によれば、イスラーム最初の旗。
ラービグのサリーヤ — ヒジュラ暦 1 年シャウワール月	ウバイダ・ブン・アル＝ハーリス；ムハージルーン 60 人	アブー・スフヤーンの部隊と遭遇；矢を射交わしただけ。サアド・ブン・アビー・ワッカースがアッラーの道で最初の矢を放った。
アル＝ハッラールのサリーヤ — ヒジュラ暦 1 年ズル・カアダ月	サアド・ブン・アビー・ワッカース；20 人	隊商はすでに通り過ぎていた；戦闘なしで帰還。
アル＝アブワー（ワッダーン）のガズワ — ヒジュラ暦 2 年サファル月	アッラーの使徒 ﷺ；ムハージルーン約 70 人	戦闘なし；ダムラ族と和平の盟約。
ブワートのガズワ — ヒジュラ暦 2 年ラビーウ・アル＝アウワル月	アッラーの使徒 ﷺ；約 200 人	ウマイヤ・ブン・ハラフの隊商を探したが、出会わなかった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

遠征と時期（スィーラ書による）	指揮官と人数	何が起きたか
サファワーンのガズワ（第一次バドル） — ヒジュラ暦 2 年ラビーウ・アル＝アウワル月	アッラーの使徒 ﷺ	マディーナの家畜を奪ったクルズ・ブン・ジャービル・アル＝フィフリーを追跡；かれは逃げ去った。
アル＝ウシャイラのガズワ — ヒジュラ暦 2 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月／アル＝アーヒラ月	アッラーの使徒 ﷺ；150〜200 人	シャームへ向かうアブー・スフヤーンの隊商はすでに通り過ぎていた；ムドリジ族と盟約。この隊商の帰りを待ったことが、バドルにつながった。
ナフラのサリーヤ — ヒジュラ暦 2 年ラジャブ月	アブドゥッラー・ブン・ジャフシュ；ムハージルーン 12 人	次の章を参照。

表の典拠：イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・サアド『大列伝（タバカート）』；ムバーラクフーリー『封印された美酒』。日付・人数・地名はスィーラ書の伝承で、典拠によって多少の違いがある。ウィキペディア「List of expeditions of Muhammad」も参照。

真正なハディースは何と言っているか

イマーム・ブハーリーは『遠征の書（キターブ・アル＝マガーズィー）』を、アル＝ウシャイラのガズワの章で始めています。かれはイブン・イスハークの言葉を引いています。「預言者 ﷺ の最初のガズワはアル＝アブワー、次にブワート、次にアル＝ウシャイラである。」続いてザイド・ブン・アルカム رضي الله عنه のハディースを挙げています。預言者 ﷺ が何回戦われたかと尋ねられたザイドは十九回と答え、最初はアル＝ウサイラまたはアル＝ウシャイルであったと述べました（『サヒーフ・ブハーリー』3949）。イブン・ハジャルは、ザイドは自分が知る限りの最初のものを挙げたのであり、それより早い遠征をかれは知らなかったのかもしれないと説明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：136 / 567

サアド・ブン・アビー・ワッカース رضي الله عنه 自身もこう言っています。「本当に私は、アッラーの道で矢を放った最初のアラブ人である」（『サヒーフ・ブハーリー』3728）。スィーラ学者は、この出来事をラービグでのウバイダ・ブン・アル＝ハーリスのサリーヤに結びつけています。

これらの遠征の目的

目的	説明
敵の経済を封じる	クライシュ族はマッカでムハージルーンの財産を奪った；かれらの交易路はマディーナ周辺を通っていた。
部族との盟約	ダムラ族とムドリジ族がクライシュ族を助けないと約束――マディーナの境界の安全を確保。
訓練と偵察	教友たちがマディーナ周辺の道、井戸、部族を知るようになった。
力を示す	クライシュ族と諸部族は、ムスリムがもはや弱い集団ではないことを知った。

教訓

初期の遠征の多くは、流血ではなく盟約で終わりました。アッラーの使徒 ﷺ は外交と安全を優先し、大きな戦いが起こる前に諸部族と同盟を築かれました。賢明な指導者は戦いに備えつつも、平和を求めるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ナフラのサリーヤと聖月

スィーラ書によれば、ヒジュラ暦 2 年のラジャブ月、アッラーの使徒 ﷺ はアブドゥッラー・ブン・ジャフシュ رضي الله عنه を十二人のムハージルーンと共に送り出されました。使徒はかれに一通の手紙を渡し、二日間旅をしてから開くよう命じられました。開いてみると、手紙はマッカとターイフの間にあるナフラへ行き、クライシュ族の動きを探るよう命じていました。アブドゥッラーは仲間たちに選ばせましたが、全員が旅を続けることを選びました。

ナフラでかれらは、クライシュ族の小さな隊商に出会いました。その日は、アラブ人が尊んだ聖月の一つであるラジャブ月の最後の日でした。かれらは話し合った末に攻撃し、アムル・ブン・アル＝ハドラミーが殺され、二人が捕虜となり、隊商はマディーナへ運ばれました。アッラーの使徒 ﷺ はこれを認めず、「私はあなたがたに聖月に戦うよう命じてはいない」と言われました。一方クライシュ族は、ムハンマドが聖月を汚したという非難を広めました。（イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・イスハークの伝承。）

そこでアッラーの御言葉が下されました。「かれらは聖月中に戦争することに就いて，あなたに問うであろう。言ってやるがいい。『聖月中に戦うことは重大事である。だがアッラーの道に近付くのを妨げ，かれを否定し，また聖なるマスジドを汚し，そこ（の聖域）に住む者を追放することは，アッラーの御目にはもっと重大事である。迫害は，殺害より遙かに悪い。』」（雌牛章 2:217）。

イブン・カスィールと注釈者たちは、この節がアブドゥッラー・ブン・ジャフシュのサリーヤについて下されたと述べています（『タフスィール・イブン・カスィール』2:217）。このサリーヤの詳しい話はイブン・イスハークと注釈書を通して伝わっており、『サヒーフ・ブハーリー』には見られませんが、スィーラ学者に広く受け入れられています。

クルアーンの公正さ

この節は、聖月に戦うことの過ちを否定してはいません。それを「重大事」と認めています。しかし同時に公正な秤を示しています。非難したクライシュ族自身が、人々をアッラーの宗教から妨げ、マッカの住民を追放し、信者たちを迫害するという、もっと大きな過ちを犯していたのです。クルアーンは教友の過ちをやみくもにかばうこともなく、敵が清廉を装うことも許しません。

教訓

指導者の命令に従うことはとても大切です。アッラーの使徒 ﷺ は、命令を越えて行動した部隊をたしなめられました。非難を評価する時には公正でなければなりません。自分の過ちを認めつつ、非難する側の過ちも公平に量るのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラ暦 1〜2 年の年表

次の表は、本書の出来事を時の順に並べたものです。正確な日付の多くはスィーラ書によるもので、典拠によって多少異なります。真正なハディースで確かめられるものは、その典拠を記しています。

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 1 年ラビーウ・アル＝アウワル月	アッラーの使徒 ﷺ がクバーとマディーナに到着；アブドゥッラー・ブン・サラームの入信；「サラームを広めなさい」の教え	ブハーリー 3906、3911；ティルミズィー 2485
ヒジュラ暦 1 年	預言者のモスクと使徒の家族の部屋の建設；アフル・アッ＝スッファ	ブハーリー 3932、6452
ヒジュラ暦 1 年	アナスの家でのムハージルーンとアンサールの兄弟の契り	ブハーリー 2294；人数：イブン・サアド
ヒジュラ暦 1 年	アザーンが定められる；ビラールが最初のムアッズィンに	ブハーリー 604；アブー・ダーウード 499
ヒジュラ暦 1 年	マディーナ憲章が書かれる	イブン・イスハーク；アブー・ウバイド
ヒジュラ暦 1 年	アブドゥッラー・ブン・アッ＝ズバイル誕生――ムハージルーン最初の赤子	ブハーリー 3909
ヒジュラ暦 1 年ラマダーン月〜ズル・カアダ月	ハムザ、ウバイダ、サアドのサリーヤ	イブン・ヒシャーム；ブハーリー 3728
ヒジュラ暦 2 年サファル月〜ジュマーダー・アル＝アーヒラ月	アル＝アブワー、ブワート、サファワーン、アル＝ウシャイラのガズワ	ブハーリー 3949；イブン・ヒシャーム
ヒジュラ暦 2 年ラジャブ月	ナフラのサリーヤ	雌牛章 2:217；イブン・イスハーク

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 2 年ラジャブ月／シャアバーン月	キブラがカアバへ――ヒジュラから 16 か月または 17 か月後	ブハーリー 40、403、4486
ヒジュラ暦 2 年シャアバーン月	ラマダーンの斎戒が義務に；ザカート・アル＝フィトル	雌牛章 2:183；スィーラ書
ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月 17 日	バドルの戦い（第 9 巻）	イムラーン家章 3:123；スィーラ書

すべてを変えた十八か月

およそ十八か月のうちに、貧しい移住者の一団と、和解したばかりの地元の住民は、一つの完成された社会となりました。モスクがあり、兄弟の契りがあり、憲章があり、アザーンというしるしがあり、独自のキブラがあり、斎戒とザカートの崇拝があり、自らを守れる部隊がありました。これらすべてが、バドルという大きな試練の前に整えられたのです。

教訓

社会の建設は段階を追って秩序立てて行われました。まず霊的な面（モスクと礼拝）、次に社会的な面（兄弟の契り）、次に法（憲章）、そして崇拝と防衛です。この順序は、共同体を築こうとするすべての人への手引きとなります。心から始め、次に人間関係、それから規則へと進むのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナ社会についてのよくある質問

1. ヒジュラからバドルの戦いまでの期間はどれくらいですか。

約十八か月です。ヒジュラ暦 1 年ラビーウ・アル＝アウワル月から、ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月 17 日までです。本書の出来事はすべてこの期間に起こりました（年表を参照）。

2. アッラーの使徒 ﷺ がマディーナで最初に建てられたものは何ですか。

モスクです。使徒は二人の孤児の土地を買い、教友たちと共に預言者のモスクを建てられました（ブハーリー 3932）。モスクは礼拝、学び、行政、福祉の中心となりました（第 2 章）。

3. 何人が兄弟として結ばれましたか。

スィーラ書（イブン・サアド）は九十人――ムハージルーン四十五人とアンサール四十五人――としています。真正なハディースが述べているのは場所、つまりアナス・ブン・マーリクの家だけです（ブハーリー 2294）。

4. 兄弟の契りによって互いに相続しましたか。

はい、初めはそうでした。その後この規定は廃止されて相続は近親者に戻り、助け合いの関係と遺言は残りました（女性章 4:33；ブハーリー 4580）。第 6 章を参照。

5. マディーナ憲章は『サヒーフ・ブハーリー』にありますか。

全文はありません。イブン・イスハークと、『財貨の書』のアブー・ウバイドが、完全につながった伝承経路なしに伝えています。しかし、マディーナを聖域とすることや共同の責任など、その要点のいくつかは真正なハディースと一致しています（第 12〜13 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6. アザーンの文言はどのように定められましたか。

教友たちは礼拝への呼びかけ方について話し合いました。ウマルが一人の男による呼びかけを提案し、ビラールが呼びかけるよう命じられました（ブハーリー 604）。アザーンの文言はアブドゥッラー・ブン・ザイドの夢の中で示され、使徒によって認められました（アブー・ダーウード 499、ハサン・サヒーフ）。第 9〜10 章を参照。

7. 使徒がマディーナの人々に最初に語られた言葉は何ですか。

「サラームを広め、食べ物を与え、血縁の絆を結び、人々が眠っている夜に礼拝しなさい。そうすれば、あなたがたは平安のうちに楽園に入るであろう」（ティルミズィー 2485、真正）。

8. 戦いが初めて許されたのはいつですか。

ヒジュラの後、巡礼章 22:39「戦いをし向ける者に対し（戦闘を）許される。それはかれらが悪を行うためである」が下された時です。それ以前、マッカでは、ムスリムは忍耐するよう命じられていました。

9. ガズワとサリーヤの違いは何ですか。

ガズワはアッラーの使徒 ﷺ ご自身が参加された遠征で、サリーヤは使徒が教友を指揮官として送り出した部隊です。ザイド・ブン・アルカムは、預言者 ﷺ が十九回戦われたと述べています（ブハーリー 3949）。

10. 最初のガズワについて典拠が異なるのはなぜですか。

イブン・イスハークはアル＝アブワーを最初とし、ザイド・ブン・アルカムはアル＝ウサイラを挙げています（ブハーリー 3949）。イブン・ハジャルは、ザイドは自分が知っていることを述べたのであり、両者は両立できると説明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

11. キブラがカアバへ移ったのはいつですか。

エルサレムに向かって 16 か月または 17 か月礼拝した後（ブハーリー 40、4486）、つまりヒジュラ暦 2 年のラジャブ月かシャアバーン月ごろです。第 18〜19 章を参照。

12. マディーナの住民は皆イスラームに入りましたか。

いいえ。ムハージルーンとアンサールのほかに、マディーナ憲章で結ばれたユダヤ教徒の諸部族、まだイスラームに入っていない一部のアラブ人、そして後にはアブドゥッラー・ブン・ウバイが率いる偽信者たちがいました（第 16 章）。マディーナ憲章は、これらすべての集団の関係を整えたのです。

教訓

マディーナ初期の多くの事柄は真正で明らかです。一方、スィーラ書から伝わり、細部に違いがあるものもあります。その二つを区別することは、スィーラへの愛を減らすことではなく、知識の預かりものを守ることなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

マディーナ社会の建設は、大きな**教訓**を残しました。

社会の土台	教訓
モスク	崇拝、学び、団結の中心。
兄弟の契り	信仰は部族、財産、血筋に優先する。
イーサールとイッファ	富める者は与え、貧しい者は尊厳を保って努力する。
協議	アザーンのことは話し合いの後に決められた。
成文の盟約	各集団の権利と責任が明らかにされた。
忍耐	内に潜む敵を許す。
すみやかな服従	礼拝の途中でカアバへ向きを変えた。
独自のしるし	このウンマに固有のアザーン、キブラ、斎戒。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

結び

およそ**二年**のうちに、マディーナは分裂した町から**兄弟の社会**へと変わりました。ナツメヤシの葉の屋根を持つモスクを中心とし、公正な盟約で結ばれ、一人の元奴隷の声によって一日五回アッラーへと呼ばれる社会です。アッラーの御言葉はまことです。「**信者たちは兄弟である。**」

イン・シャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは**バドルの戦い**（第 9 巻）へと続きます。真理と虚偽の最初の戦い、識別（フルカーン）の日です。アッラーこそ最もよく知っておられます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 8 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの解釈』（2:143–144；2:183；3:103；4:33；49:10；59:9）。https://tafsir.app/ibn-katheer/2/144

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』17、403、604、1427、1503、1870、1876、1880、1885、1968、2004、2129、2292、2294、2325、3754、3777、3780、3798、3909、3932、4486、4566、6452。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』2054。https://sunnah.com/muslim

『スナン・アビー・ダーウード』499。https://sunnah.com/abudawud:499

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）――兄弟の契り、憲章、キブラ変更の章。

イブン・サアド『大列伝（タバカート）』。

サフィッユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』――マディーナの新しい社会の章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』。

ウィキペディア「Constitution of Medina」。https://en.wikipedia.org/wiki/Constitution_of_Medina

ウィキペディア「Qibla」。https://en.wikipedia.org/wiki/Qibla

ウィキペディア「Ahl al-Suffa」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ahl_al-Suffa

ウィキペディア「ビラール・ブン・ラバーフ」。https://en.wikipedia.org/wiki/Bilal_ibn_Rabah

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディースと追加の典拠

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2485（サラームを広めなさい）。https://sunnah.com/tirmidhi:2485

『サヒーフ・ブハーリー』12（最も優れたイスラーム）。https://sunnah.com/bukhari:12

『サヒーフ・ムスリム』54（あなたがたの間でサラームを広めなさい）。https://sunnah.com/muslim:54

『サヒーフ・ブハーリー』3950（マッカでのサアド・ブン・ムアーズ）。https://sunnah.com/bukhari:3950

『サヒーフ・ブハーリー』3949（十九回のガズワ）。https://sunnah.com/bukhari:3949

『サヒーフ・ブハーリー』3728（サアドの最初の矢）。https://sunnah.com/bukhari:3728

イブン・カスィール『タフスィール』22:39。https://tafsir.app/ibn-katheer/22/39

イブン・カスィール『タフスィール』2:217。https://tafsir.app/ibn-katheer/2/217

ウィキペディア「List of expeditions of Muhammad」。https://en.wikipedia.org/wiki/List_of_expeditions_of_Muhammad

ウィキペディア「Nakhla raid」。https://en.wikipedia.org/wiki/Nakhla_raid

第三部

バドルの戦い

預言者伝（スィーラ）— 第 9 巻

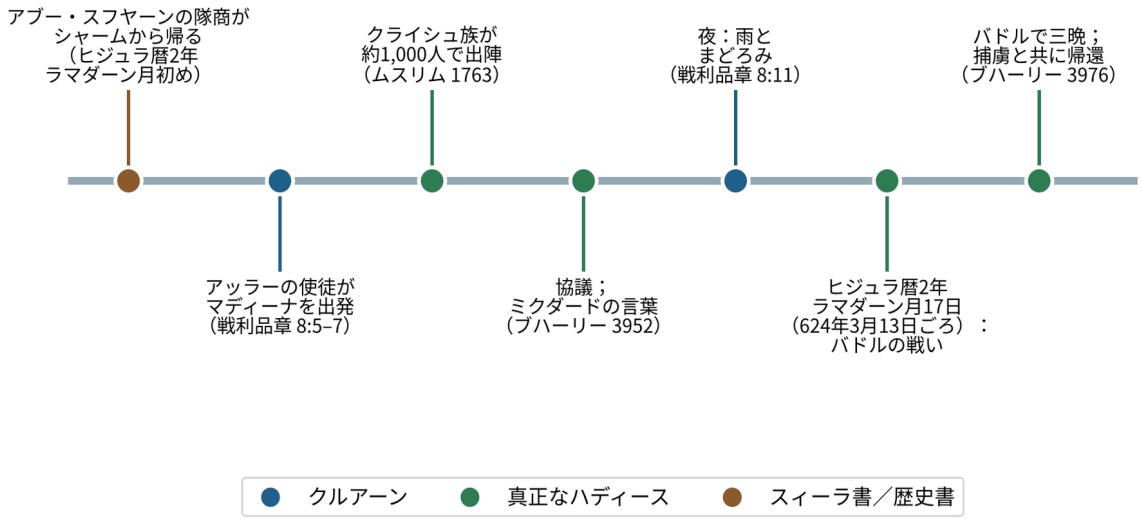
フルカーンの日：三百人の信仰者が千人と対峙した時 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

バドルの戦い

『預言者伝』第 8 巻は、兄弟として結ばれ、カアバに向かって礼拝し、初めてラマダーンの斎戒を行うマディーナの社会で終わりました。その最初のラマダーンに、アッラーが「**ヤウム・アル＝フルカーン**」――真理と虚偽を分ける日（戦利品章 8:41）――と名付けられた出来事が起こります。それが**バドルの戦い**です。

およそ三百人の信仰者が、わずか二頭の馬で、完全武装したおよそ千人のクライシュ軍と向き合いました。クルアーンはこの出来事を**戦利品章**のほぼ全体で語り、真正なハディースはその瞬間瞬間を記録しています。アッラーの使徒 ﷺ の祈り、ミクダードの言葉、アブー・ジャフルを探した二人の若者、そして馬の手綱を握るジブリールです。

バドルの戦いの年表（ヒジュラ暦2年ラマダーン月）



日付は有名な説による。ラマダーン月19日または21日とする典拠もある（ウィキペディア「Battle of Badr」）。

図 1：バドルの戦いの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

なぜバドルなのか

マッカでの十三年間、ムスリムは**忍耐し、自制する**よう命じられていました。迫害され、追放され、財産を奪われても、反撃は許されませんでした。ヒジュラの後、アッラーは自衛のための最初の許可を下されました。

「戦いを仕掛けられた者たちには、（戦うことが）許される。それはかれらが不当な目に遭ったからである」。イブン・カスィールは、多くの初期の学者がこれを戦いについて最初に啓示された節と考えたと述べています『タフスィール・イブン・カスィール』22:39。

理由	説明
マッカでの不正	ムスリムは迫害され、故郷から追い出された。
ムハージルーンの財産の没収	マッカに残した家と財産はクライシュ族に奪われた（スィーラ書）。
絶え間ない脅威	クライシュ族はマディーナを脅かし続けた（ブハーリー 3950）。
クライシュの隊商路	マッカからシャームへの交易隊商がマディーナの近くを通っていた。

教訓：イスラームにおける戦いは、復讐や略奪のためではなく、**不正を取り除く**ためのものです。その許可は、非常に長い忍耐の後に初めて与えられました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サアド・ブン・ムアーズとウマイヤ・ブン・ハラフ

バドル以前に、マディーナとマッカの緊張はすでに頂点に達していました。アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は、アウス族の長**サアド・ブン・ムアーズ**の勇気と、**予言**――アッラーの使徒 ﷺ の言葉が現実となったもの――を示す話を伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3950 番

حَدَّثَنِي أَحْمَدُ بْنُ عُثْمَانَ، حَدَّثَنَا شُرَيْحُ بْنُ مَسْلَمَةَ، حَدَّثَنَا إِبْرَاهِيمُ بْنُ يُوسُفَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، قَالَ حَدَّثَنِي عَمْرُو بْنُ مَيْمُونٍ، أَنَّهُ سَمِعَ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ مَسْعُودٍ ـ رضى الله عنه ـ حَدَّثَ عَنْ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ، أَنَّهُ قَالَ كَانَ صَدِيقًا لأُمَيَّةَ بْنِ خَلَفٍ، وَكَانَ أُمَيَّةُ إِذَا مَرَّ بِالْمَدِينَةِ نَزَلَ عَلَى سَعْدٍ، وَكَانَ سَعْدٌ إِذَا مَرَّ بِمَكَّةَ نَزَلَ عَلَى أُمَيَّةَ، فَلَمَّا قَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْمَدِينَةَ انْطَلَقَ سَعْدٌ مُعْتَمِرًا، فَنَزَلَ عَلَى أُمَيَّةَ بِمَكَّةَ، فَقَالَ لأُمَيَّةَ انْظُرْ لِي سَاعَةَ خَلْوَةٍ لَعَلِّي أَنْ أَطُوفَ بِالْبَيْتِ. فَخَرَجَ بِهِ قَرِيبًا مِنْ نِصْفِ النَّهَارِ فَلَقِيَهُمَا أَبُو جَهْلٍ فَقَالَ يَا أَبَا صَفْوَانَ، مَنْ هَذَا مَعَكَ فَقَالَ هَذَا سَعْدٌ. فَقَالَ لَهُ أَبُو جَهْلٍ أَلاَ أَرَاكَ تَطُوفُ بِمَكَّةَ آمِنًا، وَقَدْ آوَيْتُمُ الصُّبَاةَ، وَزَعَمْتُمْ أَنَّكُمْ تَنْصُرُونَهُمْ وَتُعِينُونَهُمْ، أَمَا وَاللَّهِ لَوْلاَ أَنَّكَ مَعَ أَبِي صَفْوَانَ مَا رَجَعْتَ إِلَى أَهْلِكَ سَالِمًا. فَقَالَ لَهُ سَعْدٌ وَرَفَعَ صَوْتَهُ عَلَيْهِ أَمَا وَاللَّهِ لَئِنْ مَنَعْتَنِي هَذَا لأَمْنَعَنَّكَ مَا هُوَ أَشَدُّ عَلَيْكَ مِنْهُ طَرِيقُكَ عَلَى الْمَدِينَةِ. فَقَالَ لَهُ أُمَيَّةُ لاَ تَرْفَعْ صَوْتَكَ يَا سَعْدُ عَلَى أَبِي الْحَكَمِ سَيِّدِ أَهْلِ الْوَادِي. فَقَالَ سَعْدٌ دَعْنَا عَنْكَ يَا أُمَيَّةُ، فَوَاللَّهِ لَقَدْ سَمِعْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ إِنَّهُمْ قَاتِلُوكَ. قَالَ بِمَكَّةَ قَالَ لاَ أَدْرِي. فَفَزِعَ لِذَلِكَ أُمَيَّةُ فَزَعًا شَدِيدًا، فَلَمَّا رَجَعَ أُمَيَّةُ إِلَى أَهْلِهِ قَالَ يَا أُمَّ صَفْوَانَ، أَلَمْ تَرَىْ مَا قَالَ لِي سَعْدٌ قَالَتْ وَمَا قَالَ لَكَ قَالَ زَعَمَ أَنَّ مُحَمَّدًا أَخْبَرَهُمْ أَنَّهُمْ قَاتِلِيَّ، فَقُلْتُ لَهُ بِمَكَّةَ قَالَ لاَ أَدْرِي. فَقَالَ أُمَيَّةُ وَاللَّهِ لاَ أَخْرُجُ مِنْ مَكَّةَ، فَلَمَّا كَانَ يَوْمُ بَدْرٍ اسْتَنْفَرَ أَبُو جَهْلٍ النَّاسَ قَالَ أَدْرِكُوا عِيرَكُمْ. فَكَرِهَ أُمَيَّةُ أَنْ يَخْرُجَ، فَأَتَاهُ أَبُو جَهْلٍ فَقَالَ يَا أَبَا صَفْوَانَ، إِنَّكَ مَتَى مَا يَرَاكَ النَّاسُ قَدْ تَخَلَّفْتَ وَأَنْتَ سَيِّدُ أَهْلِ الْوَادِي تَخَلَّفُوا مَعَكَ، فَلَمْ يَزَلْ بِهِ أَبُو

جَهْلٍ حَتَّى قَالَ أَمَّا إِذْ غَلَبْتَنِي، فَوَاللَّهِ لأَشْتَرِيَنَّ أَجْوَدَ بَعِيرٍ بِمَكَّةَ ثُمَّ قَالَ أُمَيَّةُ يَا أُمَّ صَفْوَانَ جَهِّزِينِي. فَقَالَتْ لَهُ يَا أَبَا صَفْوَانَ وَقَدْ نَسِيتَ مَا قَالَ لَكَ أَخُوكَ الْيَثْرِبِيُّ قَالَ لاَ، مَا أُرِيدُ أَنْ أَجُوزَ مَعَهُمْ إِلاَّ قَرِيبًا. فَلَمَّا خَرَجَ أُمَيَّةُ أَخَذَ لاَ يَنْزِلُ مَنْزِلاً إِلاَّ عَقَلَ بَعِيرَهُ، فَلَمْ يَزَلْ بِذَلِكَ حَتَّى قَتَلَهُ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ بِبَدْرٍ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は、サアド・ブン・ムアーズ رضى الله عنه から次のように伝えています。**サアドはウマイヤ・ブン・ハラフと親しい間柄でした。ウマイヤがマディーナを通る時はサアドの家に泊まり、サアドがマッカへ行く時はウマイヤの家に泊まりました。アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに来られた後、サアドはウムラに出かけ、ウマイヤの家に泊まりました。**かれはウマイヤに、聖モスクに人がいない時に巡回（タワーフ）に連れて行ってほしいと頼みました。昼ごろ、アブー・ジャフルが二人に出会い、サアドに言いました。「**おまえは安心してマッカで巡回しているが、おまえたちは宗教を変えた者たちをかくまっているではないか……。アッラーにかけて、もしアブー・サフワーン（ウマイヤ）と一緒でなければ、おまえは無事に家族のもとへ帰れなかっただろう。**」サアドは声を張り上げました。「**アッラーにかけて、もしおまえがこれを私に禁じるなら、私はおまえにとってもっと重いものを禁じよう。マディーナを通るおまえたちの（隊商の）道だ。**」ウマイヤは「この谷の民の長、アブー・アル＝ハカムに声を荒げるな」と言いました。サアドは言いました。「**放っておけ、ウマイヤよ。アッラーにかけて、私はアッラーの使徒 ﷺ が、かれらがおまえを殺すと言われるのを聞いた。**」ウマイヤはひどく恐れ、マッカから出ないと誓いました。しかしバドルの日、アブー・ジャフルはかれに隊商を守るため出陣するよう迫りました。妻は「ヤスリブのあなたの兄弟が言ったことを忘れたのですか」と諭しました。かれは「少しだけかれらと一緒に行くだけだ」と言いました。そして宿営するたびに、（すぐ帰れるよう）ラクダをつないでおきました。こうして**アッラーはかれをバドルで殺されるようにされた**のです。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ウスマーン ← シュライフ・ブン・マスラマ ← イブラーヒーム・ブン・ユースフ ← その父（ユースフ・ブン・

イスハーク）← アブー・イスハーク ← アムル・ブン・マイムーン ← アブドゥッラー・ブン・マスウード ← サアド・ブン・ムアーズ رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 3950 番。訳は要約。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3950

ウマイヤの恐れ

ウマイヤ・ブン・ハラフは、かつてマッカの砂漠で**ビラール**を拷問した主人です（第 4 巻）。かれは**知っていた**のです――ムハンマド ﷺ の言葉が決して偽りでないことを。だからマッカから出ないと誓い、宿営するたびにすぐ逃げ帰れるようラクダをつないでおきました。それでもかれは出陣し、バドルで最期を迎えました。

教訓：イスラームの敵自身が**アッラーの使徒** ﷺ の真実性を認めていました。しかし傲慢がかれらの信仰を妨げたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・スフヤーンの隊商

ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月の初め、**アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ**が率いる**クライシュ族の大隊商**が、商品を積んでシャームから帰ってくるところでした。ウィキペディアは、その価値をおよそ **5 万ディーナール**、護衛を約 70 人としています（ウィキペディア「Battle of Badr」）。アッラーの使徒 ﷺ は偵察のため**ブサイサ**を送り、その後教友たちと共に出発されました（『サヒーフ・ムスリム』1901）。

アッラーはムスリムが直面した選択をこう描かれます。「**アッラーがあなたがたに、二隊のうちの一隊（を与える）と約束された時を思い起こせ**」。あなたがたは武装していない方が自分たちのものになることを望んだ『タフスィール・イブン・カスィール』8:7。

> **スィーラの注：アブー・スフヤーン、援軍を求める**
>
> スィーラ書によれば、用心深いアブー・スフヤーンはムスリムの動きを察知し、**海岸の方へ道を変え**、**ダムダム・ブン・アムル・アル＝ギファーリー**を雇ってマッカへ急がせ、援軍を求めました。ダムダムは服を引き裂き、助けを叫びながら到着しました。クライシュ族は全軍で出陣しました。
>
> 隊商は結局**逃げ延びました**。アブー・スフヤーンは軍に引き返すよう伝言を送りましたが、**アブー・ジャフル**は言い張りました。「バドルに着いて三日間とどまり、ラクダを屠り、酒を飲み、アラブ中に名を轟かせるまで、われわれは帰らない。」
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』バドルの戦いの章。

教訓：ムスリムは**隊商**のために出かけましたが、アッラーは真理を確立する**戦い**を望まれました。人間の計画は必ずしもアッラーの定めと同じではありません。そしてアッラーの定めの方がより良いのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライシュ族の傲慢

隊商が無事だという知らせが届くと、クライシュ族の一部は帰ろうとしました。しかし前の章で述べたように、**アブー・ジャフル**はバドルへ進むことに固執しました。かれらは**大いに傲慢に**、歌い手と屠るためのラクダを連れて、アラブ中に見せびらかすために出発しました。アッラーはかれらの姿を述べ、信仰者に警告されます。

「あなたがたは、得意になって人びとに見せびらかすため自分の家を出て行った者のようであってはならない」『タフスィール・イブン・カスィール』8:47。

イブン・カスィールは、この節がバドルに出陣した**クライシュ族の多神教徒**を指すと説明しています。教訓：信仰者の行いは**アッラーのため**になされるもので、人に褒められるためではありません。傲慢と見せびらかしは敵の性質であって、アッラーの軍勢の性質ではありません。

その傲慢の背後には、さらに邪悪なささやきがありました。**「今日、人間の中であなたがたに勝てる者はいない。わたしはあなたがたの保護者である」**『タフスィール・イブン・カスィール』8:48。

スィーラの注：スラーカの姿をした悪魔

イブン・カスィールは、イブン・アッバースら注釈学者の伝承として、**イブリース**がキナーナ族の長**スラーカ・ブン・マーリク**の姿でクライシュ族のもとに来て、背後からのキナーナ族の攻撃からかれらを守ると約束したと伝えています。かれは**天使たち**が降りてくるのを見ると、節に述べられているように背を向けて逃げました。**「わたしには、あなたがたに見えないものが見える。」**

この詳細は**注釈書の伝承**です。確かなのは節そのものが述べていること、すなわち悪魔がかれらを欺き、そして見捨てたということです。

参照：

『タフスィール・イブン・カスィール』8:48。https://tafsir.app/ibn-katheer/8/48

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムスリム側の重い心

クルアーンはまた、ムスリムの一部の気持ちを率直に語ります。「**あなたの主が、真理によってあなたを家から出されたように。信者の一部は（それを）本当に嫌っていた**」『タフスィール・イブン・カスィール』8:5。

かれらは隊商を追うために出たのであって、三倍もの軍と戦うためではありませんでした。アッラーはその気持ちを隠さず、**心が嫌うもの**が**大きな善**となりうることを示されました。教訓：信仰とは恐れがないことではなく、心が重くても**従い続ける**ことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

三百十数人

バドルのムスリムは何人だったのでしょうか。バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه は、参戦した教友たちからこう聞きました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3957 番

حَدَّثَنَا عَمْرُو بْنُ خَالِدٍ، حَدَّثَنَا زُهَيْرٌ، حَدَّثَنَا أَبُو إِسْحَاقَ، قَالَ سَمِعْتُ الْبَرَاءَ ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ حَدَّثَنِي أَصْحَابُ، مُحَمَّدٍ صلى الله عليه وسلم مِمَّنْ شَهِدَ بَدْرًا أَنَّهُمْ كَانُوا عِدَّةَ أَصْحَابِ طَالُوتَ الَّذِينَ جَازُوا مَعَهُ النَّهَرَ، بِضْعَةَ عَشَرَ وَثَلاَثَمِائَةٍ. قَالَ الْبَرَاءُ لاَ وَاللَّهِ مَا جَاوَزَ مَعَهُ النَّهَرَ إِلاَّ مُؤْمِنٌ.

訳：

バラーウ رضى الله عنه は言った。**バドルに参戦したムハンマド ﷺ の教友たちは私に、かれらの数はターラートと共に川を渡ったかれの仲間の数と同じ、三百十数人だったと語った。アッラーにかけて、かれと共に川を渡ったのは信仰者だけであった。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アムル・ブン・ハーリド ← ズハイル ← アブー・イスハーク ← バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、バドルの民の数の章、ハディース第 3957 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3957

バラーウはまた、自分とイブン・ウマルはバドルに参加するには若すぎるとされたこと、ムハージルーンは**六十数人**、アンサールは**二百四十数人**だったことを述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3956）。クライシュ軍はおよそ**千人**でした（『サヒーフ・ムスリム』1763）。

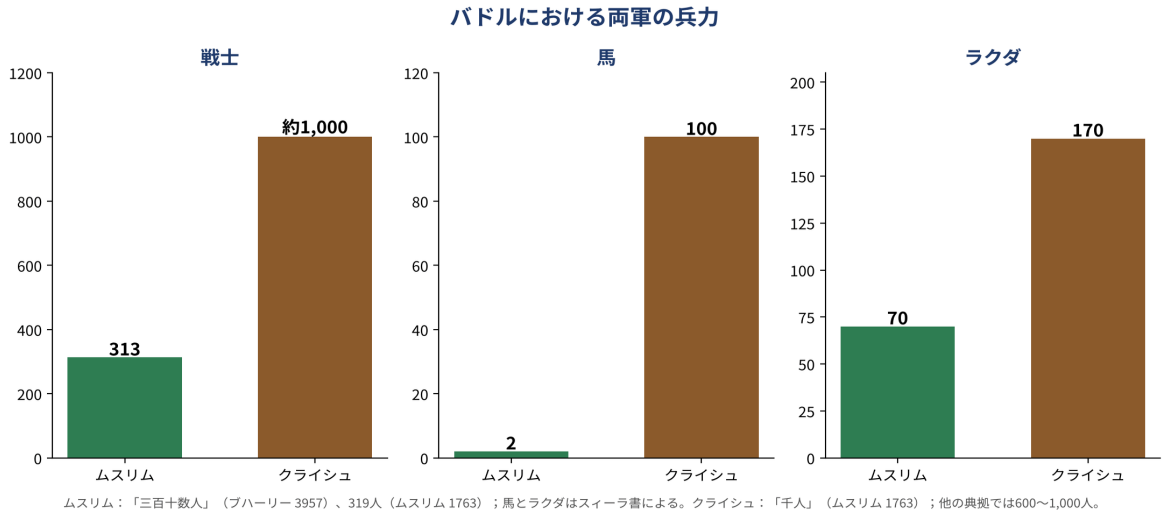


図 2：バドルにおける両軍の兵力の比較。

ターラートの軍のように

ターラートの軍との比較は、雌牛章の物語を思い起こさせます。信仰するわずかな者だけが川を渡り、こう言いました。「**さてターラートが軍を率いて出発した時**」.....「アッラーの御許しにより、少数の一隊で大軍に打ち勝ったことがどれほど多いことか」『タフスィール・イブン・カスィール』2:249。

スィーラの注：三人で一頭のラクダ

アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は伝えています。「バドルの日、**三人ごとに一頭のラクダに交代で乗りました**。アブー・ルバーバとアリー・ブン・アビー・ターリブは、アッラーの使徒 ﷺ とラクダを分け合っていました。アッラーの使徒が歩く番になると、二人は『私たちがあなたの代わりに歩きます』と言いました。するとアッラーの使徒は言われました。**『あなたがた二人は私より強くはない。私もあなたがた二人以上に報奨を必要としていないわけではない。』**」

『ムスナド・アフマド』の伝承（一部の学者によればハサン）：従う者たちと**苦労を分かち合う**指導者の姿です。

参照：

『ムスナド・アフマド』（アブドゥッラー・ブン・マスウードの伝承）。

スィーラの注：泣いたウマイル・ブン・アビー・ワッカース

スィーラ書によれば、サアド・ブン・アビー・ワッカースのまだ少年だった弟**ウマイル**は、帰されることを恐れて隠れていました。帰るよう言われると、かれは**泣き出し**、アッラーの使徒はかれの参加を許されました。ウマイルはおよそ十六歳でバドルにおいて殉教しました。

参照：

イブン・サアド『タバカート・アル＝クブラー』；ハーキム『アル＝ムスタドラク』。

ウスマーンとルカイヤ

バドルに参加したいと願った教友の全員が参加できたわけではありません。**ウスマーン・ブン・アッファーン** رضى الله عنه は、尊い理由でマディーナに残りました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3130 番

حَدَّثَنَا مُوسَى، حَدَّثَنَا أَبُو عَوَانَةَ، حَدَّثَنَا عُثْمَانُ بْنُ مَوْهَبٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ إِنَّمَا تَغَيَّبَ عُثْمَانُ عَنْ بَدْرٍ، فَإِنَّهُ كَانَتْ تَحْتَهُ بِنْتُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَكَانَتْ مَرِيضَةً. فَقَالَ لَهُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِنَّ لَكَ أَجْرَ رَجُلٍ مِمَّنْ شَهِدَ بَدْرًا وَسَهْمَهُ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。**ウスマーンがバドルに参加しなかったのは、アッラーの使徒 ﷺ の娘であるかれの妻が病気だったからである。預言者 ﷺ はかれに言われた。「あなたには、バドルに参加した者と同じ報奨と（戦利品の）分け前がある。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー（・ブン・イスマーイール） ← アブー・アワーナ ← ウスマーン・ブン・マウハブ ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』五分の一税の書、ハディース第 3130 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3130

ウスマーンの妻は**アッラーの使徒** ﷺ の娘ルカイヤでした。軍が出発する時、彼女は重い病にあり、アッラーの使徒 ﷺ はウスマーンに看病を命じられました。スィーラ書によれば、ルカイヤは軍がまだバドルにいる間に**亡くなり**、勝利の知らせがマディーナに届いたのは、ちょうど彼女の埋葬を終えた時でした。その後アッラーの使徒 ﷺ は、ウスマーンをもう一人の娘ウンム・クルスームと結婚させ、ウスマーンは**ズー・アン＝ヌーライン**（二つの光の持ち主）と呼ばれるようになりました。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ の命により病気の家族を看ることは、戦場で戦う者と同じ報奨が与えられる**服従**です。行いの価値を決めるのは意図と服従です。

協議：ミクダードの言葉

隊商が逃れ、クライシュ軍が迫っているという知らせが届くと、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちと**協議**されました。戦いを強いることはせず、かれらの考えを聞こうとされたのです。イブン・マスウード رضي الله عنه は忘れられない瞬間を目撃しました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3952 番

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، حَدَّثَنَا إِسْرَائِيلُ، عَنْ مُخَارِقٍ، عَنْ طَارِقِ بْنِ شِهَابٍ، قَالَ سَمِعْتُ ابْنَ مَسْعُودٍ، يَقُولُ شَهِدْتُ مِنَ الْمِقْدَادِ بْنِ الأَسْوَدِ مَشْهَدًا، لأَنْ أَكُونَ صَاحِبَهُ أَحَبُّ إِلَىَّ مِمَّا عُدِلَ بِهِ، أَتَى النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم وَهْوَ يَدْعُو عَلَى الْمُشْرِكِينَ فَقَالَ لاَ نَقُولُ كَمَا قَالَ قَوْمُ مُوسَى {اذْهَبْ أَنْتَ وَرَبُّكَ فَقَاتِلاَ} وَلَكِنَّا نُقَاتِلُ عَنْ يَمِينِكَ وَعَنْ شِمَالِكَ وَبَيْنَ يَدَيْكَ وَخَلْفَكَ. فَرَأَيْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم أَشْرَقَ وَجْهُهُ وَسُرَّهُ. يَعْنِي قَوْلَهُ.

訳：

イブン・マスウード رضي الله عنه は言った。**私はミクダード・ブン・アル＝アスワドのある場面を目撃した。もし私がその当事者であったなら、それは何よりも好ましいことであっただろう。かれは、多神教徒に対して祈っておられた預言者 ﷺ のもとに来て言った。「私たちは、ムーサーの民が言ったように『あなたとあなたの主とで行って戦いなさい』とは言いません。私たちはあなたの右で、左で、前で、後ろで戦います。」**私は預言者 ﷺ のお顔が**輝く**のを見た。その言葉はかれを喜ばせたのである。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム ← イスラーイール ← ムハーリク ← ターリク・ブン・シハーブ ← イブン・マスウード رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 3952 番。引用された節：食卓章 5:24。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3952

スィーラの注：サアド・ブン・ムアーズの言葉

スィーラ書によれば、アブー・バクル、ウマル、ミクダード――いずれもムハージルーン――が発言した後、アッラーの使徒 ﷺ は「人びとよ、私に意見を言いなさい」と言われました。アカバの誓いでマディーナの中でのみ守ると約束していた**アンサール**の考えを知りたかったからです。

サアド・ブン・ムアーズが立ち上がり、こう言いました。「私たちはあなたを信じ、あなたを真実と認めました……。あなたを真理と共に遣わされた方にかけて、もしあなたが私たちを連れてこの海を渡られるなら、私たちもあなたと共に飛び込みます。」アッラーの使徒 ﷺ のお顔は輝き、「進め、そして喜べ」と言われました。『サヒーフ・ムスリム』では、同様の言葉は**サアド・ブン・ウバーダ**のものとされています（『サヒーフ・ムスリム』1779）。

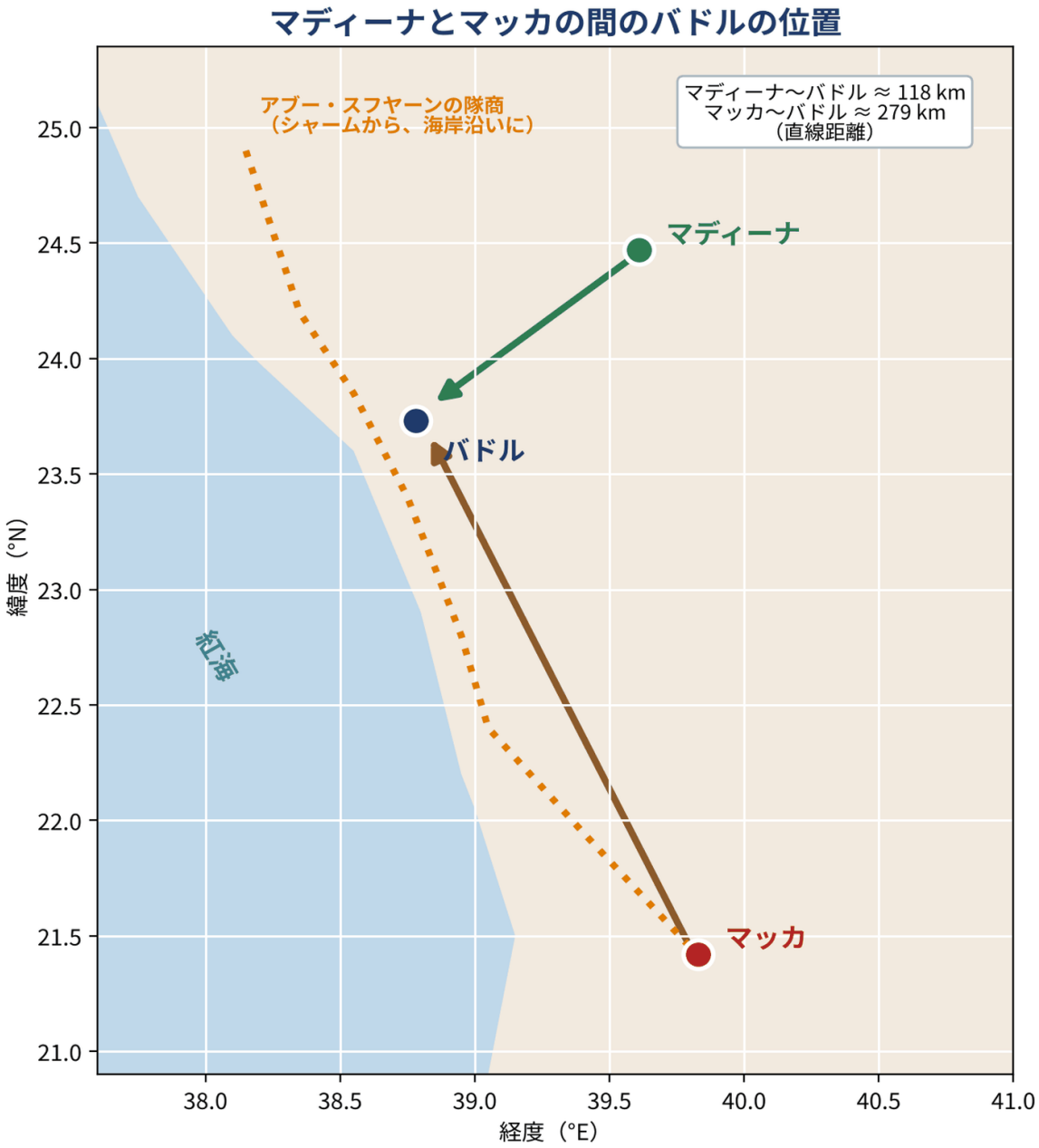
参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『サヒーフ・ムスリム』1779。https://sunnah.com/muslim:1779

教訓：啓示を受ける使徒でありながら、かれは**協議**されました。良い指導者は、ムハージルーンとアンサールの、すべての声に耳を傾けるのです。

バドルの戦場

バドルは、いくつかの井戸のある谷で、マッカとシャームを結ぶ隊商路の上、マディーナの南西にありました。アラブの宿営地であり、年に一度の市が開かれる場所でもありました。



略図。座標と海岸線はおおよそのもの。

図 3：マディーナとマッカの間のバドルの位置（略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クルアーンは、両軍と隊商の位置を正確に描いています。「**あなたがたが谷のこちら側にいて、かれらが谷の向こう側にいた時**」、隊商はあなたがたより低い所（海岸側）にいた『タフスィール・イブン・カスィール』8:42。

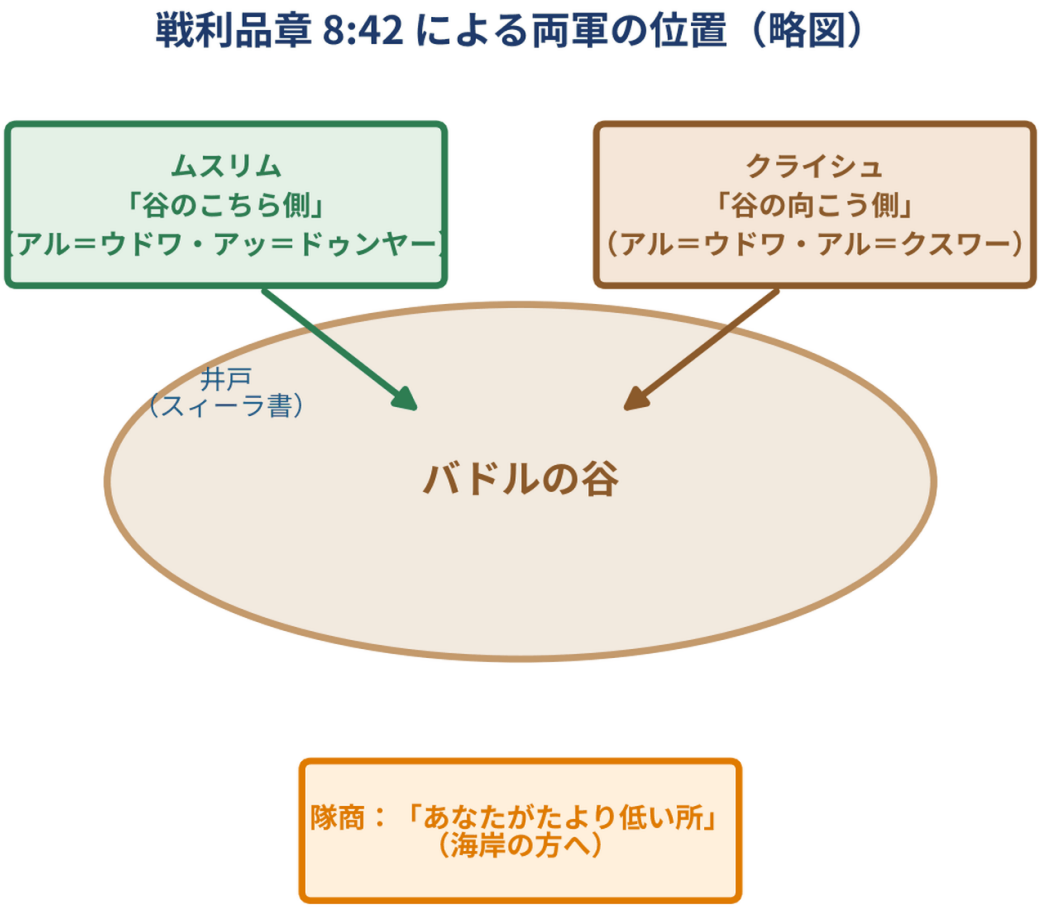


図 4：戦利品章 8:42 による両軍の位置（略図）。

スィーラの注：フバーブ・ブン・アル＝ムンズィルの助言

イブン・イスハークによれば、アッラーの使徒 ﷺ は初め最初の井戸のそばに宿営されました。**フバーブ・ブン・アル＝ムンズィル**が尋ねました。「アッラーの使徒よ、この場所はアッラーがあなたに定められたものですか。それとも意見と戦いと戦術によるものですか。」アッラーの使徒は「意見と戦いと戦術によるものだ」と答えられました。フバーブは、**敵に最も近い井戸**を押さえ、ほかの井戸をふさぎ、貯水池を造って、ムスリムは水を飲めるが敵は飲めないようにすることを提案しました。アッラーの使徒 ﷺ はその提案を受け入れられました。

この話はスィーラ書で有名ですが、一部のハディース研究者によれば、その伝承経路は**確かではありません**。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；ウィキペディア「Battle of Badr」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Badr

教訓（フバーブの話を受け入れる場合）：アッラーの使徒 ﷺ は、従わなければならない**啓示**と、話し合うことのできる**意見**とを区別し、教友のより良い提案を受け入れられました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

雨とまどろみ

戦いの前夜、数の少ないムスリムは不安に包まれていたはずです。しかしアッラーは、クルアーンに述べられている**二つの恵み**を下されました。

「（思い起こせ）かれは御自身からの安心として、あなたがたにまどろみを催させ」、天から雨を降らせてあなたがたを清め……足場を固められた『タフスィール・イブン・カスィール』8:11。

恵み	その結果
まどろみ（ヌアース）	安らぎ。戦いの前の、心身を回復させる眠り。
降水量	清め。悪魔のささやきを取り除く。
地面が固まる	ムスリム側の砂が固まり、足がしっかりと立つ。
心が強められる	「あなたがたの心を強め」――戦いの前の勇気。

スィーラの注：アリーシュ――指揮を執られたアッラーの使徒 ﷺ

スィーラ書によれば、サアド・ブン・ムアーズの提案で、戦場を見渡す高台に**アリーシュ**（日よけの小屋）が建てられ、アッラーの使徒 ﷺ はそこで軍を整え、祈られ、アブー・バクルがそばにいました。『サヒーフ・ブハーリー』は、バドルの日にアッラーの使徒が**クッバ**（天幕）の中から祈られたと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』3953）。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『サヒーフ・ブハーリー』3953。https://sunnah.com/bukhari:3953

バドルでのアッラーの使徒 ﷺ の祈り

ラマダーン月 17 日の朝、戦いが始まる前、アッラーの使徒 ﷺ は釣り合わない両軍を見渡し、キブラに向かって**ひたすら祈られました**。ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه はその瞬間を目撃しました。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1763 番

حَدَّثَنَا هَنَّادُ بْنُ السَّرِيِّ، حَدَّثَنَا ابْنُ الْمُبَارَكِ، عَنْ عِكْرِمَةَ بْنِ عَمَّارٍ، حَدَّثَنِي سِمَاكٌ، الْحَنَفِيُّ قَالَ سَمِعْتُ ابْنَ عَبَّاسٍ، يَقُولُ حَدَّثَنِي عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ، قَالَ لَمَّا كَانَ يَوْمُ بَدْرٍ حَ وَحَدَّثَنَا زُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ - وَاللَّفْظُ لَهُ - حَدَّثَنَا عُمَرُ بْنُ يُونُسَ الْحَنَفِيُّ حَدَّثَنَا عِكْرِمَةُ بْنُ عَمَّارٍ حَدَّثَنِي أَبُو زُمَيْلٍ - هُوَ سِمَاكٌ الْحَنَفِيُّ - حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ عَبَّاسٍ قَالَ حَدَّثَنِي عُمَرُ بْنُ الْخَطَّابِ قَالَ لَمَّا كَانَ يَوْمُ بَدْرٍ نَظَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى الْمُشْرِكِينَ وَهُمْ أَلْفٌ وَأَصْحَابُهُ ثَلاَثُمِائَةٍ وَتِسْعَةَ عَشَرَ رَجُلاً فَاسْتَقْبَلَ نَبِيُّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْقِبْلَةَ ثُمَّ مَدَّ يَدَيْهِ فَجَعَلَ يَهْتِفُ بِرَبِّهِ اللَّهُمَّ أَنْجِزْ لِي مَا وَعَدْتَنِي اللَّهُمَّ آتِ مَا وَعَدْتَنِي اللَّهُمَّ إِنْ تَهْلِكْ هَذِهِ الْعِصَابَةُ مِنْ أَهْلِ الإِسْلاَمِ لاَ تُعْبَدْ فِي الأَرْضِ. فَمَازَالَ يَهْتِفُ بِرَبِّهِ مَادًّا يَدَيْهِ مُسْتَقْبِلَ الْقِبْلَةِ حَتَّى سَقَطَ رِدَاؤُهُ عَنْ مَنْكِبَيْهِ فَأَتَاهُ أَبُو بَكْرٍ فَأَخَذَ رِدَاءَهُ فَأَلْقَاهُ عَلَى مَنْكِبَيْهِ ثُمَّ الْتَزَمَهُ مِنْ وَرَائِهِ. وَقَالَ يَا نَبِيَّ اللَّهِ كَذَاكَ مُنَاشَدَتُكَ رَبَّكَ فَإِنَّهُ سَيُنْجِزُ لَكَ مَا وَعَدَكَ فَأَنْزَلَ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ { إِذْ تَسْتَغِيثُونَ رَبَّكُمْ فَاسْتَجَابَ لَكُمْ أَنِّي مُمِدُّكُمْ بِأَلْفٍ مِنَ الْمَلاَئِكَةِ مُرْدِفِينَ} فَأَمَدَّهُ اللَّهُ بِالْمَلاَئِكَةِ. قَالَ أَبُو زُمَيْلٍ فَحَدَّثَنِي ابْنُ عَبَّاسٍ قَالَ بَيْنَمَا رَجُلٌ مِنَ الْمُسْلِمِينَ يَوْمَئِذٍ يَشْتَدُّ فِي أَثَرِ رَجُلٍ مِنَ الْمُشْرِكِينَ أَمَامَهُ إِذْ سَمِعَ ضَرْبَةً بِالسَّوْطِ فَوْقَهُ وَصَوْتَ الْفَارِسِ يَقُولُ أَقْدِمْ حَيْزُومُ. فَنَظَرَ إِلَى الْمُشْرِكِ أَمَامَهُ خَرَّ مُسْتَلْقِيًا فَنَظَرَ إِلَيْهِ فَإِذَا هُوَ قَدْ خُطِمَ أَنْفُهُ وَشُقَّ وَجْهُهُ كَضَرْبَةِ السَّوْطِ فَاخْضَرَّ ذَلِكَ أَجْمَعُ. فَجَاءَ الأَنْصَارِيُّ فَحَدَّثَ بِذَلِكَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ صَدَقْتَ ذَلِكَ مِنْ مَدَدِ السَّمَاءِ الثَّالِثَةِ. فَقَتَلُوا يَوْمَئِذٍ سَبْعِينَ وَأَسَرُوا سَبْعِينَ. قَالَ أَبُو زُمَيْلٍ قَالَ ابْنُ عَبَّاسٍ فَلَمَّا أَسَرُوا الأُسَارَى قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لأَبِي بَكْرٍ وَعُمَرَ مَا تَرَوْنَ فِي هَؤُلاَءِ الأُسَارَى. فَقَالَ أَبُو بَكْرٍ يَا نَبِيَّ

اللَّهِ هُمْ بَنُو الْعَمِّ وَالْعَشِيرَةِ أَرَى أَنْ تَأْخُذَ مِنْهُمْ فِدْيَةً فَتَكُونُ لَنَا قُوَّةً عَلَى الْكُفَّارِ فَعَسَى اللَّهُ أَنْ يَهْدِيَهُمْ لِلإِسْلاَمِ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَا تَرَى يَا ابْنَ الْخَطَّابِ. قُلْتُ لاَ وَاللَّهِ يَا رَسُولَ اللَّهِ مَا أَرَى الَّذِي رَأَى أَبُو بَكْرٍ وَلَكِنِّي أَرَى أَنْ تُمَكِّنَّا فَنَضْرِبَ أَعْنَاقَهُمْ فَتُمَكِّنَ عَلِيًّا مِنْ عَقِيلٍ فَيَضْرِبَ عُنُقَهُ وَتُمَكِّنِّي مِنْ فُلاَنٍ - نَسِيبًا لِعُمَرَ - فَأَضْرِبَ عُنُقَهُ فَإِنَّ هَؤُلاَءِ أَئِمَّةُ الْكُفْرِ وَصَنَادِيدُهَا فَهَوِيَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَا قَالَ أَبُو بَكْرٍ وَلَمْ يَهْوَ مَا قُلْتُ فَلَمَّا كَانَ مِنَ الْغَدِ جِئْتُ فَإِذَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَبُو بَكْرٍ قَاعِدَيْنِ يَبْكِيَانِ قُلْتُ يَا رَسُولَ اللَّهِ أَخْبِرْنِي مِنْ أَيِّ شَيْءٍ تَبْكِي أَنْتَ وَصَاحِبُكَ فَإِنْ وَجَدْتُ بُكَاءً بَكَيْتُ وَإِنْ لَمْ أَجِدْ بُكَاءً تَبَاكَيْتُ لِبُكَائِكُمَا. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَبْكِي لِلَّذِي عَرَضَ عَلَىَّ أَصْحَابُكَ مِنْ أَخْذِهِمُ الْفِدَاءَ لَقَدْ عُرِضَ عَلَىَّ عَذَابُهُمْ أَدْنَى مِنْ هَذِهِ الشَّجَرَةِ. شَجَرَةٍ قَرِيبَةٍ مِنْ نَبِيِّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم. وَأَنْزَلَ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ { مَا كَانَ لِنَبِيٍّ أَنْ يَكُونَ لَهُ أَسْرَى حَتَّى يُثْخِنَ فِي الأَرْضِ} إِلَى قَوْلِهِ { فَكُلُوا مِمَّا غَنِمْتُمْ حَلاَلاً طَيِّبًا} فَأَحَلَّ اللَّهُ الْغَنِيمَةَ لَهُمْ.

訳：

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه は言った。**バドルの日、アッラーの使徒 ﷺ は千人の多神教徒を見られた。一方、かれの教友は三百十九人であった。アッラーの預言者 ﷺ はキブラに向かい、両手を差し伸べて、声を上げて主に祈られた。「アッラーよ、私に約束されたことを果たしてください。アッラーよ、私に約束されたものをお与えください。アッラーよ、もしイスラームの民のこの小さな一団を滅ぼされるなら、あなたは地上で崇められなくなるでしょう。」**かれはキブラに向かって両手を差し伸べたまま祈り続け、ついに肩から外套が落ちた。アブー・バクルが来て外套を拾い、かれの肩に掛け直し、後ろから抱きしめて言った。**「アッラーの預言者よ、主への懇願はもう十分です。主は必ずあなたに約束されたことを果たされます。」**そこでアッラーは啓示された。{あなたがたが主に助けを求めた時、かれはこう答えられた。「わたしは千の天使を次々に送って、あなたがたを助けるであろう」}（戦利品章 8:9）。（イブン・アッバースは続けて、あるムスリムが天使の騎手の声**「進め、ハイズームよ！」**を聞いた話を伝え、アッラーの使徒 ﷺ は**「それは第三の天からの援軍だ」**と言われた。ムスリ

ムは七十人を殺し、七十人を捕虜にした。その後アッラーの使徒 ﷺ は捕虜についてアブー・バクルとウマルに相談された。アブー・バクルは身代金を、ウマルは処刑を提案し、アッラーの使徒はアブー・バクルの意見を選ばれ、戦利品章 8:67–69 が下された。）

伝承経路： イマーム・ムスリムは二つの経路で伝える：ハンナード・ブン・アッ＝サリー ← イブン・アル＝ムバーラク；およびズハイル・ブン・ハルブ ← ウマル・ブン・ユーヌス・アル＝ハナフィー――いずれもイクリマ・ブン・アンマール ← アブー・ズマイル・スィマーク・アル＝ハナフィー ← イブン・アッバース ← ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、バドルにおける天使の援助と戦利品の許可の章、ハディース第 1763 番。後半の訳は要約。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1763

戦利品章 8:9–10

إِذْ تَسْتَغِيثُونَ رَبَّكُمْ فَٱسْتَجَابَ لَكُمْ أَنِّى مُمِدُّكُم بِأَلْفٍ مِّنَ ٱلْمَلَٰٓئِكَةِ مُرْدِفِينَ ﴿٩﴾

あなたがたが主に援助を歎願した時を思いなさい。その時あなたがたに答えられた。『われは、次ぎ次ぎに来る一千の天使であなたがたを助けるであろう。』

وَمَا جَعَلَهُ ٱللَّهُ إِلَّا بُشْرَىٰ وَلِتَطْمَئِنَّ بِهِۦ قُلُوبُكُمْ ۚ وَمَا ٱلنَّصْرُ إِلَّا مِنْ عِندِ ٱللَّهِ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ﴿١٠﴾

アッラーは、只これをあなたがたへの吉報となされ、あなたがたの心をそれで安らげられる。勝利はアッラーからだけ（来る）。アッラーは偉力ならびなく英明な御方であられる。

訳：三田了一 — quran.com/8:9-10

「あなたは崇められなくなるでしょう……」

この祈りは、その日にかかっていたものが**いかに大きかったか**を示しています。この小さな一団が滅びれば、地上でアッラーを崇める者はいなくなってしまうのです。アッラーの使徒は**外套が落ちるほど**祈り、アブー・バクルがかれをなだめました。学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ が**アッラーを畏れ、ひたすら望みをかけて**祈られたのであり、アブー・バクルはアッラーの約束への確信から語ったのだと説明しています。どちらも称賛に値します。

イブン・アッバースによれば、アッラーの使徒はその後、天幕から出て来られ、こう唱えられました。「**この群衆は敗走し、背を向けるであろう**」（月章 54:45）（『サヒーフ・ブハーリー』3953）。この節は何年も前にマッカで啓示されたもので、今それが現実となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：173 / 567

ジブリールと天使たち

アッラーはその祈りに**天使たちの援軍**で応えられました。アッラーの使徒 ﷺ ご自身がその長を見ておられます。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3995 番

حَدَّثَنِي إِبْرَاهِيمُ بْنُ مُوسَى، أَخْبَرَنَا عَبْدُ الْوَهَّابِ، حَدَّثَنَا خَالِدٌ، عَنْ عِكْرِمَةَ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ يَوْمَ بَدْرٍ هَذَا جِبْرِيلُ آخِذٌ بِرَأْسِ فَرَسِهِ ـ عَلَيْهِ أَدَاةُ الْحَرْبِ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ はバドルの日に言われた。「**これはジブリールだ。馬の頭（手綱）を握り、戦いの武具を身に着けている。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イブラーヒーム・ブン・ムーサー ← アブドゥル・ワッハーブ ← ハーリド（・アル＝ハッザー） ← イクリマ ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、バドルに参加した天使の章、ハディース第 3995 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3995

アッラーは天使たちの務めも述べられました。「**本当にわれはあなたがたと共にいる。だから信仰する者たちを堅固にしなさい**」。わたしは不信心な者たちの心に恐怖を投げ込むであろう『タフスィール・イブン・カスィール』8:12。

「進め、ハイズームよ！」

ムスリム 1763 のハディースで、イブン・アッバースはこう語っています。ある多神教徒を追っていたムスリムが、頭上で**鞭の鳴る音**と、騎手が「**進め、ハイズームよ！**」と言う声を聞きました。するとその多神教徒は突然あお向けに倒れ、鼻は傷

つき、顔は鞭で打たれたように裂けていました。アッラーの使徒 ﷺ にこのことが語られると、「**その通りだ。それは第三の天からの援軍だ**」と言われました。学者の説明によれば、**ハイズーム**はジブリールの馬の名です。

教訓：勝利は**アッラーから**来るものであり、天使はかれの軍勢です。それでも教友たちは**自分の手で戦いました**。天からの助けは、地上で努力する者に下るのです。

しかしアッラーは、心が天使にさえ頼りきることのないよう諭されます。「**勝利はただアッラーの御許からだけである**」『タフスィール・イブン・カスィール』8:10。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

最初の一騎打ち

アラブの慣習では、戦いは**一騎打ち**で始まりました。クライシュ族の三人の勇士――**ウトバ・ブン・ラビーア**、その兄弟**シャイバ**、そしてその息子**ワリード**――が進み出ました。アッラーの使徒 ﷺ は、自らの近親から三人を送られました。**ハムザ・ブン・アブドゥル・ムッタリブ**、**アリー・ブン・アビー・ターリブ**、そして**ウバイダ・ブン・アル＝ハーリス**です。

アブー・ザッル رضي الله عنه は、「**これら二つの論争者は、主について論争する**」（巡礼章 22:19）という節がこの六人、すなわちシャイバ、ウトバ、ワリードと向き合ったアリー、ハムザ、ウバイダについて啓示されたと誓っています（『サヒーフ・ブハーリー』3966）。アリーは言いました。「**審判の日に、慈悲深き御方の御前で弁明のためにひざまずく最初の者は私であろう**」（『サヒーフ・ブハーリー』3965）。

イスラームの戦士	クライシュ側の相手とその結果（スィーラ書）
ハムザ・ブン・アブドルムッタリブ	シャイバ・ブン・ラビーア――討たれる
アリー・ブン・アビー・ターリブ	ワリード・ブン・ウトバ――討たれる
ウバイダ・ブン・アル＝ハーリス	ウトバ・ブン・ラビーア――討たれる；ウバイダは重傷を負い、後に殉教

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は、**自らの近親**を最前線に送られました。指導者は、自分の家族を守りながら他人を危険にさらすことはしないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「楽園へ向かって立ち上がれ」

戦いが始まると、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちを励まして言われました。「**天と地ほどの広さの楽園へ向かって立ち上がれ。**」アンサールの**ウマイル・ブン・アル＝フマーム** رضي الله عنه が「天と地ほどの広さですか」と尋ねると、アッラーの使徒は「そうだ」と答えられました。かれは「バッフ、バッフ！」（感嘆の言葉）と言いました。その住人になりたいと願ったからです。かれはナツメヤシの実をいくつか取り出して食べ始め、そして言いました。「**もしこのナツメヤシを食べ終わるまで生きていたら、それはなんと長い人生だろう。**」そしてナツメヤシを投げ捨て、**殉教**するまで戦いました（『サヒーフ・ムスリム』1901）。

教訓：来世への確信は、信仰者の目に現世を小さく映します。楽園が目の前にある時、わずかなナツメヤシを食べる時間さえ**長すぎる**と感じられるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

一握りの砂

クルアーンは、戦いの中の一つの驚くべき出来事を述べています。

「あなたが投げた時、投げたのはあなたではなく、アッラーが投げられたのである」『タフスィール・イブン・カスィール』8:17。

イブン・カスィールら注釈学者によれば、バドルの日、アッラーの使徒 ﷺ は**一握りの砂（または小石）**を取って敵の方へ投げ、「顔よ、醜くなれ」と言われました。その砂は敵の一人ひとりの目に届き、かれらは目をこすることに追われて退きました。この節は、その投擲を届かせたのは**アッラー**であることを明らかにしています。

同じ節は、**「あなたがたがかれらを殺したのではなく、アッラーがかれらを殺されたのである」**で始まります。教訓：信仰者は**努力する**けれども、**成功をアッラーに帰する**のであって、自分の力に帰するのではありません。これが勝利の後の傲慢を防ぐのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

二人の若者とアブー・ジャフル

バドルで最も心を打つ物語の一つは、「この共同体のファラオ」**アブー・ジャフル**を探した**アンサールの二人の若者**の話です。アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ رضى الله عنه がこう語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3141 番

حَدَّثَنَا مُسَدَّدٌ، حَدَّثَنَا يُوسُفُ بْنُ الْمَاجِشُونِ، عَنْ صَالِحِ بْنِ إِبْرَاهِيمَ بْنِ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ عَوْفٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ جَدِّهِ، قَالَ بَيْنَا أَنَا وَاقِفٌ، فِي الصَّفِّ يَوْمَ بَدْرٍ فَنَظَرْتُ عَنْ يَمِينِي، وَشِمَالِي، فَإِذَا أَنَا بِغُلاَمَيْنِ، مِنَ الأَنْصَارِ حَدِيثَةٍ أَسْنَانُهُمَا، تَمَنَّيْتُ أَنْ أَكُونَ بَيْنَ أَضْلَعَ مِنْهُمَا، فَغَمَزَنِي أَحَدُهُمَا فَقَالَ يَا عَمِّ، هَلْ تَعْرِفُ أَبَا جَهْلٍ قُلْتُ نَعَمْ، مَا حَاجَتُكَ إِلَيْهِ يَا ابْنَ أَخِي قَالَ أُخْبِرْتُ أَنَّهُ يَسُبُّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، وَالَّذِي نَفْسِي بِيَدِهِ لَئِنْ رَأَيْتُهُ لاَ يُفَارِقُ سَوَادِي سَوَادَهُ حَتَّى يَمُوتَ الأَعْجَلُ مِنَّا. فَتَعَجَّبْتُ لِذَلِكَ، فَغَمَزَنِي الآخَرُ فَقَالَ لِي مِثْلَهَا، فَلَمْ أَنْشَبْ أَنْ نَظَرْتُ إِلَى أَبِي جَهْلٍ يَجُولُ فِي النَّاسِ، قُلْتُ أَلاَ إِنَّ هَذَا صَاحِبُكُمَا الَّذِي سَأَلْتُمَانِي. فَابْتَدَرَاهُ بِسَيْفَيْهِمَا فَضَرَبَاهُ حَتَّى قَتَلاَهُ، ثُمَّ انْصَرَفَا إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَخْبَرَاهُ فَقَالَ أَيُّكُمَا قَتَلَهُ. قَالَ كُلُّ وَاحِدٍ مِنْهُمَا أَنَا قَتَلْتُهُ. فَقَالَ هَلْ مَسَحْتُمَا سَيْفَيْكُمَا. قَالاَ لاَ. فَنَظَرَ فِي السَّيْفَيْنِ فَقَالَ كِلاَكُمَا قَتَلَهُ. سَلَبُهُ لِمُعَاذِ بْنِ عَمْرِو بْنِ الْجَمُوحِ. وَكَانَا مُعَاذُ ابْنَ عَفْرَاءَ وَمُعَاذَ بْنَ عَمْرِو بْنِ الْجَمُوحِ. قَالَ مُحَمَّدٌ سَمِعَ يُوسُفَ صَالِحًا وَإِبْرَاهِيمَ أَبَاهُ (عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ عَوْفٍ)

訳：

アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ رضى الله عنه は言った。**バドルの日、隊列に立っていた私が右と左を見ると、アンサールの年若い二人の若者の間にいた。私はもっと強い者たちの間にいればよかったのにと思った。すると一人が私をつついて言った。「おじさん、アブー・ジャフルを知っていますか。」私は答えた。「ああ。甥よ、かれに何の用だ。」かれは言った。「かれがアッラーの使徒 ﷺ を罵っていると聞きました。私の魂をその御手に握られる方にかけて、もしかれを見たら、どちらか先に死ぬ定めの者が**

死ぬまで、私の体はかれの体から離れません。」私はその言葉に驚いた。するともう一人も私をつついて同じことを言った。間もなく私は、アブー・ジャフルが人びとの間をうろついているのを見て言った。「あれがおまえたちの尋ねていた男だ。」**二人はすぐに剣でかれに襲いかかり、かれを討ち取った。**そしてアッラーの使徒 ﷺ のもとに戻って報告した。アッラーの使徒は尋ねられた。**「おまえたちのどちらがかれを殺したのか。」**二人はそれぞれ「私が殺しました」と言った。アッラーの使徒は尋ねられた。**「剣はもうぬぐったか。」**二人は「いいえ」と答えた。アッラーの使徒は二本の剣を見て言われた。**「おまえたち二人がかれを殺したのだ。」**その二人の若者は**ムアーズ・ブン・アフラー**と**ムアーズ・ブン・アムル・ブン・アル＝ジャムーフ**であった。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムサッダド ← ユースフ・ブン・アル＝マージシューン ← サーリフ・ブン・イブラーヒーム・ブン・アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ ← その父（イブラーヒーム） ← その祖父（アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ） رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』五分の一税の書、ハディース第 3141 番。ムスリム（第 1752 番）も伝える。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3141

愛：アッラーの使徒 ﷺ

二人の若者はアブー・ジャフルを見たことがありませんでした。しかしかれが**アッラーの使徒** ﷺ を罵っていると聞いただけで、決意するには十分だったのです。経験豊かな教友アブドゥッラフマーンは、初めは二人の若者の間に立つことに心もとなさを感じていましたが、やがてその勇気に**感嘆しました**。

アッラーの使徒 ﷺ は判断を下す前に**二本の剣**を調べ、「**おまえたち二人がかれを殺したのだ**」と言われました。どちらも失望させず、証拠に基づいて判断されたのです。教訓：心がアッラーとその使徒への愛で満たされる時、**若者たち**は共同体の勇士となりうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この共同体のファラオの最期

二人の若者がアブー・ジャフルに斬りつけた後、アッラーの使徒 ﷺ は、イスラームの最も激しい敵の最期を確かめようとされました。アナス رضى الله عنه が伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3962 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ يُونُسَ، حَدَّثَنَا زُهَيْرٌ، حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ التَّيْمِيُّ، أَنَّ أَنَسًا، حَدَّثَهُمْ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم ح وَحَدَّثَنِي عَمْرُو بْنُ خَالِدٍ حَدَّثَنَا زُهَيْرٌ عَنْ سُلَيْمَانَ التَّيْمِيِّ عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مَنْ يَنْظُرُ مَا صَنَعَ أَبُو جَهْلٍ فَانْطَلَقَ ابْنُ مَسْعُودٍ، فَوَجَدَهُ قَدْ ضَرَبَهُ ابْنَا عَفْرَاءَ حَتَّى بَرَدَ قَالَ أَأَنْتَ أَبُو جَهْلٍ قَالَ فَأَخَذَ بِلِحْيَتِهِ. قَالَ وَهَلْ فَوْقَ رَجُلٍ قَتَلْتُمُوهُ أَوْ رَجُلٍ قَتَلَهُ قَوْمُهُ؟ قَالَ أَحْمَدُ بْنُ يُونُسَ أَنْتَ أَبُو جَهْلٍ؟

訳：

アナス رضى الله عنه は言った。預言者 ﷺ は言われた。「**アブー・ジャフルがどうなったか、誰か見てきてくれないか。**」イブン・マスウードが行くと、アフラーの二人の息子がかれに斬りつけ、かれは瀕死の状態であった。イブン・マスウードはかれのあごひげをつかんで言った。「**おまえがアブー・ジャフルか。**」かれは答えた。「**自分の部族の者に殺される男以上に高貴な男がいようか。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーは二つの経路で伝える：アフマド・ブン・ユーヌスとアムル・ブン・ハーリド ← いずれもズハイル ← スライマーン・アッ＝タイミー ← アナス رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、アブー・ジャフルの殺害の章、ハディース第 3962 番。ムスリム（第 1800 番）も伝える。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3962

最期の息まで傲慢に

アブー・ジャフル――本名**アムル・ブン・ヒシャーム**――は長年マッカでムスリムを迫害しました。スィーラ書によれば、イスラーム最初の女性殉教者**スマイヤ**を殺したのはかれであり、隊商が無事だったにもかかわらずクライシュ族に出陣を迫ったのもかれでした。死の瞬間でさえ、かれはなお**誇っていました**。自分の部族の者に殺されるのは恥ではないというのです。

かれを見つけたのは**アブドゥッラー・ブン・マスウード**でした。かつての羊飼いで体の小さなかれは、カアバのそばで声高にクルアーンを読んだために殴られたこともありました。アッラーは共同体に、**高貴さは家柄や財産にあるのではなく**、信仰にあることを示されたのです。

ビラールとウマイヤ・ブン・ハラフ

ウマイヤ・ブン・ハラフは、かつてマッカの砂漠で**ビラール・ブン・ラバーフ**を拷問し、照りつける太陽の下でその胸に大きな岩を載せた主人です。ビラールはただ「**アハド、アハド**」（唯一なる御方）と繰り返していました。

アブドゥッラフマーン・ブン・アウフ رضي الله عنه は、マッカとマディーナで互いの財産を守り合う**約束**をウマイヤと交わしていました。バドルの日、人びとが眠っている時、アブドゥッラフマーンはウマイヤを守ろうと出て行きました。**ビラールがウマイヤを見つけ**、アンサールの一団に呼びかけました。「**ウマイヤ・ブン・ハラフだ！かれが生き延びたら、私は破滅だ！**」かれらはウマイヤを追い、アブドゥッラフマーンがかばおうとしたにもかかわらず、ウマイヤは討たれました（『サヒーフ・ブハーリー』2301）。

第 2 章のサアド・ブン・ムアーズのハディースが、ここで現実となりました。マッカから出ることをあれほど恐れたウマイヤは、告げられた通り、ついに**バドルで討たれた**のです。

かつてマッカで	バドルで
拷問される奴隷のビラール	自由で尊敬されるムスリムのビラール
権力を持つ主人のウマイヤ	敗北の中で討たれたウマイヤ
岩の下での「アハド、アハド」	アッラーの約束の真実

教訓：アッラーは不正を忘れず、忍耐を無駄にされません。何年かかろうとも、**かれの正義**は必ず訪れるのです。

バドルの殉教者たち

バドルの勝利は血によってあがなわれました。スィーラ書によれば、**十四人**の教友が殉教しました。ムハージルーンから六人、アンサールから八人です。

集団	殉教者の一部（スィーラ書）
ムハージルーン（6）	ウバイダ・ブン・アル＝ハーリス、ウマイル・ブン・アビー・ワッカース（サアドの弟）、ミフジャウ（ウマルが解放した奴隷）ほか
アンサール（8）	ウマイル・ブン・アル＝フマーム、ハーリサ・ブン・スラーカ、アウフとムアウウィズ（アフラーの息子たち）ほか

ウンム・ハーリサとフィルダウスの楽園

ハーリサ・ブン・スラーカはアンサールの若者で、バドルの日に**流れ矢**に当たって亡くなりました。母の**ウンム・ハーリサ**はアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て尋ねました。「アッラーの預言者よ、ハーリサのことを教えてください。もしあの子が楽園にいるなら、私は耐えます。そうでなければ、思いきり泣きましょう。」アッラーの使徒は言われました。**「ウンム・ハーリサよ、楽園には多くの園がある。あなたの息子は最高のフィルダウスを得たのだ。」**（『サヒーフ・ブハーリー』2809）。

教訓：信仰ある母は、息子が**どのように**死んだかではなく、**どこへ**行ったかを尋ねました。殉教は死に方で測られるものではありません。流れ矢でさえフィルダウスへ導きうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドルの井戸のほとりで

戦いの後、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちを驚かせることをなさいました。アブー・タルハ رضى الله عنه がこう語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3976 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، سَمِعَ رَوْحَ بْنَ عُبَادَةَ، حَدَّثَنَا سَعِيدُ بْنُ أَبِي عَرُوبَةَ، عَنْ قَتَادَةَ، قَالَ ذَكَرَ لَنَا أَنَسُ بْنُ مَالِكٍ عَنْ أَبِي طَلْحَةَ، أَنَّ نَبِيَّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَمَرَ يَوْمَ بَدْرٍ بِأَرْبَعَةٍ وَعِشْرِينَ رَجُلاً مِنْ صَنَادِيدِ قُرَيْشٍ فَقُذِفُوا فِي طَوِيٍّ مِنْ أَطْوَاءِ بَدْرٍ خَبِيثٍ مُخْبِثٍ، وَكَانَ إِذَا ظَهَرَ عَلَى قَوْمٍ أَقَامَ بِالْعَرْصَةِ ثَلاَثَ لَيَالٍ، فَلَمَّا كَانَ بِبَدْرٍ الْيَوْمَ الثَّالِثَ، أَمَرَ بِرَاحِلَتِهِ فَشُدَّ عَلَيْهَا رَحْلُهَا، ثُمَّ مَشَى وَاتَّبَعَهُ أَصْحَابُهُ وَقَالُوا مَا نُرَى يَنْطَلِقُ إِلاَّ لِبَعْضِ حَاجَتِهِ، حَتَّى قَامَ عَلَى شَفَةِ الرَّكِيِّ، فَجَعَلَ يُنَادِيهِمْ بِأَسْمَائِهِمْ وَأَسْمَاءِ آبَائِهِمْ يَا فُلاَنُ بْنَ فُلاَنٍ، وَيَا فُلاَنُ بْنَ فُلاَنٍ، أَيَسُرُّكُمْ أَنَّكُمْ أَطَعْتُمُ اللَّهَ وَرَسُولَهُ فَإِنَّا قَدْ وَجَدْنَا مَا وَعَدَنَا رَبُّنَا حَقًّا، فَهَلْ وَجَدْتُمْ مَا وَعَدَ رَبُّكُمْ حَقًّا. قَالَ فَقَالَ عُمَرُ يَا رَسُولَ اللَّهِ، مَا تُكَلِّمُ مِنْ أَجْسَادٍ لاَ أَرْوَاحَ لَهَا فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَالَّذِي نَفْسُ مُحَمَّدٍ بِيَدِهِ، مَا أَنْتُمْ بِأَسْمَعَ لِمَا أَقُولُ مِنْهُمْ. قَالَ قَتَادَةُ أَحْيَاهُمُ اللَّهُ حَتَّى أَسْمَعَهُمْ قَوْلَهُ تَوْبِيخًا وَتَصْغِيرًا وَنَقِيمَةً وَحَسْرَةً وَنَدَمًا.

訳：

アブー・タルハ رضى الله عنه によれば、**バドルの日、アッラーの預言者 ﷺ は、クライシュ族の指導者二十四人をバドルの汚れた井戸の一つに投げ込むよう命じられた。**ある民に勝利した時、アッラーの使徒はその地に三晩とどまるのが常であった。三日目、かれはラクダに鞍を置くよう命じ、教友たちを従えて歩き、その井戸のふちに立って、かれらの名と父の名で呼びかけられた。**「某の子某よ、某の子某よ！アッラーとその使徒に従っていたら、おまえたちにとってその方がうれしかったのではないか。われわれは、主が約束されたことを真実と知った。おまえたちは、おまえたちの主が約束したことを真実と知ったか。」**ウマルは言った。「アッラーの使徒よ、魂のない体に話しかけておら

れるのですか。」アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**ムハンマドの魂をその御手に握られる方にかけて、私の言うことを、おまえたちはかれら以上によく聞いているわけではない。**」カターダは言った。アッラーはかれらを生き返らせ、アッラーの使徒の言葉を聞かせられたのである。叱責、屈辱、報い、損失、そして後悔として。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド ← ラウフ・ブン・ウバーダ ← サイード・ブン・アビー・アルーバ ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク ← アブー・タルハ رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、アブー・ジャフルの殺害の章、ハディース第 3976 番。ムスリム（第 2875 番）も伝える。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3976

「おまえたちはかれら以上によく聞いているわけではない」

井戸に投げ込まれた指導者たちが、かつて**嘘つき呼ばわりし、迫害し、追放した**相手、それがアッラーの使徒 ﷺ でした。アッラーの使徒が一人ひとりに呼びかけたのは、勝ち誇るためではなく、**アッラーの約束の真実**を告げるためでした。カターダによれば、アッラーはかれらを生き返らせ、屈辱と後悔としてアッラーの使徒の言葉を聞かせられたのです。

アッラーの使徒はまた、いつものように勝利の後**三晩**戦場にとどまられました。これは急がない指導者の落ち着きを示すとともに、殉教者を葬り、捕虜を扱うための時間ともなりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

捕虜と身代金

バドルの日、クライシュ族は**七十人**が殺され、**七十人**が捕虜となりました（『サヒーフ・ブハーリー』3039）。ムスリム 1763 のハディースは、アッラーの使徒 ﷺ が捕虜についてアブー・バクルとウマルに**相談された**ことを伝えています。アブー・バクルは、かれらは親族であり、アッラーがかれらを導かれるかもしれないとして**身代金**を提案しました。ウマルは、かれらは不信仰の指導者であるとして処刑を提案しました。アッラーの使徒はアブー・バクルの意見を選ばれ、次の節が下されました。

「預言者は、地上で（敵を）完全に打ち破るまでは、捕虜を取るべきではない」『タフスィール・イブン・カスィール』8:67。

しかしアッラーはその後、身代金を許されました。**「だからあなたがたの得た戦利品の中から、合法で良いものを食べなさい」**（戦利品章 8:69）。スィーラ書によれば、捕虜の多くは後に**イスラームに入りました**。アッラーの使徒 ﷺ のおじアッバースもその一人です。

スィーラの注：読み書きを教えることによる身代金

イブン・アッバースによれば、バドルの捕虜のうち身代金を払う**財産のない**者たちは、**アンサールの子ども十人に書くことを教える**よう求められ、それを終えると解放されました。この伝承は『**ムスナド・アフマド**』にあり、一部の学者はハサンと評価しています。

これは、イスラームが初めから**知識**をどれほど重んじていたかを示しています。読み書きの力が自由の代価とされたのです。

参照：

『ムスナド・アフマド』（イブン・アッバースの伝承）；ウィキペディア「Battle of Badr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Badr

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

戦利品も教友たちの間で意見の違いを生みました。そこでアッラーは定められました。「**戦利品はアッラーと使徒のものである**」――そして互いの関係を正すよう命じられました『タフスィール・イブン・カスィール』8:1。

バドルの民の位置

バドルの民は**特別な位置**にあり、天においてさえ知られていました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3992 番

حَدَّثَنِي إِسْحَاقُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، أَخْبَرَنَا جَرِيرٌ، عَنْ يَحْيَى بْنِ سَعِيدٍ، عَنْ مُعَاذِ بْنِ رِفَاعَةَ بْنِ رَافِعٍ الزُّرَقِيِّ، عَنْ أَبِيهِ ـ وَكَانَ أَبُوهُ مِنْ أَهْلِ بَدْرٍ ـ قَالَ جَاءَ جِبْرِيلُ إِلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ مَا تَعُدُّونَ أَهْلَ بَدْرٍ فِيكُمْ قَالَ مِنْ أَفْضَلِ الْمُسْلِمِينَ ـ أَوْ كَلِمَةً نَحْوَهَا ـ قَالَ وَكَذَلِكَ مَنْ شَهِدَ بَدْرًا مِنَ الْمَلاَئِكَةِ.

訳：

ムアーズ・ブン・リファーア・ブン・ラーフィウが、バドルの民の一人であった父から伝えて言った。**ジブリールが預言者 ﷺ のもとに来て尋ねた。「あなたがたの中で、バドルの民をどのように見ていますか。」預言者は答えられた。「ムスリムの中で最も優れた者たちだ」――あるいはそれに似た言葉を。ジブリールは言った。「バドルに参加した天使たちも同様です。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク・ブン・イブラーヒーム ← ジャリール ← ヤフヤー・ブン・サイード ← ムアーズ・ブン・リファーア・ブン・ラーフィウ・アッ＝ズラキー ← その父（リファーア・ブン・ラーフィウ）رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、バドルに参加した天使の章、ハディース第 3992 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3992

「アッラーはバドルの民を見られた」

何年も後、バドルの民の一人**ハーティブ・ブン・アビー・バルタア**が、誤ってクライシュ族に秘密の手紙を送りました。ウマルはかれを罰しようとしました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。**「かれはバドルに参加した。おまえは知っているか。**

アッラーはバドルの民をご覧になって、『好きなようにせよ、わたしはあなたがたを赦した』と言われたのかもしれないのだ。」ウマルは泣き、「アッラーとその使徒が最もよくご存じです」と言いました（『サヒーフ・ブハーリー』3983）。

学者たちは、これは罪を犯す許可ではなく、かれらへの**赦しの保証**であると説明しています。教訓：誠実な**一つの大きな行い**が、その後の過ちのとりなしとなりうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

勝利の知らせ

バドルで三晩を過ごした後、アッラーの使徒 ﷺ は捕虜と戦利品を伴ってマディーナに帰られました。スィーラ書は、勝利の知らせがどのように広まったかを語っています。

スィーラの注：マディーナへの吉報

アッラーの使徒 ﷺ は、**ザイド・ブン・ハーリサ**と**アブドゥッラー・ブン・ラワーハ**を軍に先立って送り、マディーナの人びとに勝利を知らせました。ウサーマ・ブン・ザイドによれば、その知らせが届いたのは、人びとが**ルカイヤの埋葬を終えたばかり**の時でした。アッラーの使徒 ﷺ の娘であり、ウスマーンの妻です。

マディーナの偽信者とユダヤ教徒は、初めはその知らせを信じませんでした。クライシュ族の捕虜たちが連れて来られるのを自分の目で見るまでは。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』バドルの戦いの章。

この話は第 6 章の真正なハディースと一致します。ウスマーンは病気のルカイヤを看病するためマディーナに残り、アッラーの使徒 ﷺ はかれにバドルの民と同じ**報奨と分け前**があると言われました（『サヒーフ・ブハーリー』3130）。勝利の喜びは、喪失の悲しみと入り混じっていたのです。

スィーラの注：マッカへの悲報

一方マッカでは、敗北の知らせが**衝撃**をもって受け止められました。スィーラ書によれば、最初に知らせをもたらしたのは**ハイスマーン・ブン・アブドゥッラー・アル＝フザーイー**で、討たれた指導者の名を一人ずつ挙げました。バドルに参加しなかった**アブー・ラハブ**は、数日後に病で死にました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

クライシュ族は、ムスリムが自分たちの悲しみを見て喜ばないよう嘆き悲しむことを禁じ、復讐を誓ったと言われます。その誓いが一年後の**ウフドの戦い**へとつながるのです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；ウィキペディア「Battle of Badr」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Badr

捕虜たちへの希望

アッラーは捕虜たちに扉を閉ざされませんでした。かれの使徒に、こう告げるよう命じられたのです。「**もしアッラーが、あなたがたの心に何か善いものがあると認められれば、あなたがたから取られたものよりも良いものを与えられるであろう**」『タフスィール・イブン・カスィール』8:70。

イブン・カスィールは、この節が**アッバース**――アッラーの使徒 ﷺ のおじ――に関わるものだと述べています。かれはバドルで身代金を払い、後にイスラームに入りました。教訓：今日の敵は、明日の**信仰の兄弟**となりうるのです。イスラームが戦うのは不信仰であって、人間を憎むのではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドルの物語の典拠

バドルの物語は、等級の異なる三種類の典拠を通して私たちに伝わっています。本書はこの三つを区別し、読者が**何が確かで**、**何が有名な話か**を知ることができるようにしています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドルの物語の典拠

クルアーン（6）

- 二つの一隊；隊商か軍か（8:7）
- 千の天使（8:9）
- まどろみと雨（8:11）
- 「投げたのはあなたではない」（8:17）
- 谷における位置（8:42）
- 捕虜についての戒め（8:67–69）

真正なハディース（9）

- サアド・ブン・ムアーズとウマイヤ
- ターラートの軍と同じ数
- ミクダードの言葉
- アッラーの使徒の祈り；落ちた外套
- ジブリールとその馬；「進め、ハイズームよ！」
- 二人の若者とアブー・ジャフル
- バドルの井戸で語りかける
- 捕虜についての協議
- バドルの民の位置

スィーラ書（4）

- 井戸についてのフバーブの助言
- ザフィラーンでのサアド・ブン・ムアーズの言葉
- 読み書きを教えて身代金とした捕虜
- アッラーの使徒の小屋（アリーシュ）

スィーラ書の物語は、関係する章でその位置づけを説明したうえで紹介している。

図 5：本書におけるバドルの物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
雨とまどろみ；千の天使；投擲	クルアーン（戦利品章 8:9、11、17）——確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	典拠と等級
アッラーの使徒の祈り；ハイズーム；捕虜についての協議	『サヒーフ・ムスリム』1763––真正
ジブリール；二人の若者；アブー・ジャフル；井戸	『サヒーフ・ブハーリー』3995、3141、3962、3976––真正
ウマイルとナツメヤシ；ブサイサ	『サヒーフ・ムスリム』1901––真正
砂の投擲（詳細）	注釈書（イブン・カスィール）
フバーブの助言；アリーシュ；ダムダム	スィーラ書（イブン・イスハーク）––伝承経路は弱い／確かでない
書くことを教えることによる身代金	『ムスナド・アフマド』––一部の学者がハサンと評価

スィーラ書の物語が必ずしも作り話というわけではありません。信頼できるスィーラ学者たちが伝えたものです。しかしそれはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではなく**、法の根拠とはされません。本書は、イスラーイーリーヤート（イスラエルの伝承）や明らかに捏造された伝承を**含めていません**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドルについてのクルアーンの節

クルアーンがバドルの戦いほど詳しく語る戦いはほかにありません。戦利品章（75節）のほぼ全体がバドルの後に下され、ほかの章のいくつかの節もこれに触れています。次の表は主な節をまとめたもので、読者がこの出来事について最も確かな典拠に直接あたれるようにしています。

節	内容の要約
戦利品章 8:1	戦利品（アンファール）についての質問；答え：それはアッラーと使徒のものである。だから畏れ、互いの関係を正しなさい。
戦利品章 8:5–8	信者の一部は出陣を嫌い、武装していない隊商を望んだが、アッラーは真理を確立しようとされた。
戦利品章 8:9–12	助けを求める祈りに千の天使で応えられる；安心としてのまどろみ；清め、足を固める雨。
戦利品章 8:17	「あなたが投げた時、投げたのはあなたではなく、アッラーが投げられた」——一握りの砂（第 14 章）。
戦利品章 8:41–44	五分の一（フムス）の規定；フルカーンの日、両軍が出会った日；谷における両軍の位置；敵の数が少なく見せられたこと。
戦利品章 8:47–48	傲慢に出陣したクライシュ族をまねることの禁止；悪魔はかれらの行いを飾り立て、そして退いた（第 4 章）。
戦利品章 8:67–70	捕虜と身代金についての戒め；心に善いものを持つ捕虜への希望（第 20 章と第 22 章）。
イムラーン家章 3:123–127	「アッラーはバドルにおいて、あなたがたが弱かった時にあなたがたを助けられた」；天使の援軍の約束。
月章 54:45	「この群衆は敗走し、背を向けるであろう」——バドルの日にアッラーの使徒 ﷺ が唱えられた。
巡礼章 22:19	「これら二つの論争者は、主について論争する」——最初の一騎打ちについて（第 12 章）。

天幕から出る時に唱えられた節

ハディース：「この群衆は敗走するであろう」

イブン・アッバース رضى الله عنهما によれば、預言者 ﷺ はバドルの日、天幕の中で祈られた。「アッラーよ、あなたの約束と誓約（を果たされること）を願います。アッラーよ、もしあなたが望まれるなら、今日の後、あなたは崇められなくなるでしょう。」するとアブー・バクルがかれの手を取って言った。「十分です、アッラーの使徒よ。あなたは主にひたすら願われました。」その時かれは鎖かたびらを着ておられた。かれは次のように唱えながら出て来られた。「この群衆は敗走し、背を向けるであろう。いや、審判の時こそかれらとの約束の時である。そして審判の時は、最も恐ろしく最も苦いものである。」

等級：真正––『サヒーフ・ブハーリー』4875。

月章はバドルの何年も前にマッカで下されました。この節が下された時、ムスリムはまだ弱く、虐げられていました。ウマル رضى الله عنه は、どの群衆が敗れるのだろうかと思いめぐらしていましたが、バドルの日にアッラーの使徒 ﷺ がこれを唱えるのを見て理解しました（タバリーとイブン・アビー・ハーティムが注釈書で伝える）。マッカで下された約束が、バドルで果たされたのです。

「あなたがたが弱かった時」

アッラーは言われます。「アッラーは、あなたがたがバドルで微弱であったとき、確かに助けられた。だからアッラーを畏れなさい。きっとあなたがたに感謝の念が起きるであろう。」（イムラーン家章 3:123）。この節は一年後、ウフドの後に下され、ムスリムに思い起こさせました。バドルの勝利は数や武器によるのではなく、アッラーの助けによるものだったのだと。それはまた、勝利が求めるのは感謝と畏れであって、自慢ではないことを教えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

クルアーンは、バドルを理解するための第一の、そして最も確かな典拠です。クルアーンは、名前や数字を並べる歴史書のように戦いを語るのではありません。心を照らし出すのです。入り混じった意図、ひたむきな祈り、アッラーが下された安らぎ、そして勝利の後の試練。バドルを思いながら戦利品章を読むことで、このスィーラは私たちの内に生きたものとなります。

戦利品と戦利品章の啓示

戦いが終わると、ムスリムがこれまで直面したことのない新しい問題が生じました。戦利品をどう分けるのか。教友たちの意見は分かれました。敵を追った者はより多くの権利があると考え、アッラーの使徒 ﷺ の天幕を守った者も権利があると考え、戦利品を集めた者もまた権利があると考えたのです。クルアーンが下され、それを解決しました。

ハディース：サアド・ブン・アビー・ワッカースの剣

ムスアブ・ブン・サアドは、父サアド・ブン・アビー・ワッカース رضي الله عنه から、クルアーンのいくつかの節がかれ自身について下されたと伝えています。その一つはこうです。アッラーの使徒 ﷺ は多くの戦利品を得られ、その中に一振りの剣がありました。サアドはそれを取ってアッラーの使徒 ﷺ のもとに持って行き、「この剣を私にください」と言いました。アッラーの使徒は「取った所に戻しなさい」と言われました。サアドは引き返しましたが、心の中で「戦利品の集め場所に戻すのか」と思い、また戻って再び願いました。アッラーの使徒はなお「戻しなさい」と言われました。そこでアッラーは「かれらは戦利品についてあなたに問う……」（戦利品章 8:1）を下されたのです。

等級：真正――『サヒーフ・ムスリム』1748（要約）。

戦利品章の最初の節はこうです。「かれらは戦利品に就いてあなたに問う。言ってやるがいい。『戦利品はアッラーと使徒のものである。だからアッラーを畏れて、あなたがたの間の諸関係を公正に処理し、あなたがたが信者ならば、アッラーと使徒に従え。』」（戦利品章 8:1）。注目してください。アッラーは分け方を説明される前に、畏れと関係の修復を命じられました。財産が、マディーナで苦労して築かれた兄弟愛を損なってはならないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：201 / 567

五分の一（フムス）の規定

その後アッラーは不変の規定を定められました。「戦争で得たどんな物も、5 分の 1 は、アッラーと使徒そして近親、孤児、貧者、そして旅人に属することを知れ。もしあなたがたがアッラーを信じ、また識別の日、両軍が会戦した日に、わがしもべに啓示したものを信じるならば。本当にアッラーは凡てのことに全能であられる。」（戦利品章 8:41）。五分の一（フムス）は指導者が公益と困窮者のために管理し、残りの五分の四は戦った兵士に分配されます。

スィーラ学者によれば、バドルの戦利品はマディーナへの帰途、参加した者に平等に分けられました。アッラーの使徒 ﷺ から与えられた任務のために参加できなかった者にも分け前が与えられました。ルカイヤを看病したウスマーン・ブン・アッファーンがその例です（第 6 章、『サヒーフ・ブハーリー』3130）。イブン・イスハークによれば、隊商の偵察に送られたタルハ・ブン・ウバイディッラーとサイード・ブン・ザイドにも分け前が与えられました。

問題	クルアーンとスンナによる解決
戦利品の所有者は誰か	アッラーとその使徒が決める（8:1）——最も早く取った者ではない。
どのように分けるのか	五分の一は 8:41 に挙げられた人びとへ；残りは兵士へ。
ほかの場所で任務についていた者は	参加した者と同じ分け前と報奨が与えられる（ブハーリー 3130）。
財産よりも大切なものは何か	畏れ（タクワー）と、ムスリム同士の良い関係（8:1）。

教訓

勝利の後には、しばしば戦いよりも微妙な試練が来ます。財産の試練です。最良の世代でさえ、そのために対立しかけました。そこでアッラーは、何よりもまず畏れと兄弟愛を述べる節によってかれらを教育されたのです。私たちの組織、家庭、社

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：202 / 567

会でも同じことが起こります。公正で明確な、シャリーアに基づく分配が、心のひび割れを防ぐのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドルの戦場の人物たち

バドルは互いを知る二つの集団を引き合わせました。向き合った者の多くは、父と子、おじと甥、あるいはマッカでのかつての隣人でした。次の表は、本書の各章に登場する人物とその役割をまとめたものです。真正なハディースに基づく詳細にはその番号を記し、それ以外はスィーラ書（イブン・ヒシャーム、イブン・サアド、『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』）によります。

ムスリム側

人物	バドルでの役割
アッラーの使徒 ﷺ	総指揮官。天幕（アリーシュ）で祈り、自らも戦った。アリーは、アッラーの使徒が最も敵に近かったと語っている（アフマドの伝承）。
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضي الله عنه	天幕でアッラーの使徒 ﷺ と共にいた。祈るかれをなだめた（ブハーリー 4875）。
ハムザ、アリー、ウバイダ・ブン・アル＝ハーリス رضي الله عنهم	最初の一騎打ちの挑戦に応じた三人。ウバイダは重傷を負い、帰途に殉教した（第 12 章）。
サアド・ブン・ムアーズ رضي الله عنه	アウス族の長。協議でのアンサールの支持の言葉（第 7 章）。スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ の天幕を守った。
ミクダード・ブン・アル＝アスワド رضي الله عنه	「私たちはムーサーの民のようには言いません」という言葉（ブハーリー 3952）。ごく少数の騎兵の一人。
ムスアブ・ブン・ウマイル رضي الله عنه	スィーラ書によれば、主要な旗手。
ムアーズ・ブン・アムルとムアーズ・ブン・アフラー رضي الله عنهما	アブー・ジャフルを倒したアンサールの二人の若者（ブハーリー 3141）。
アブドッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه	瀕死のアブー・ジャフルを見つけ、とどめを刺した（ブハーリー 3962）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	バドルでの役割
ビラール・ブン・ラバーフ رضی الله عنه	かつて自分を拷問したウマイヤ・ブン・ハラフを見つけた（ブハーリー 2301）。
ウマイル・ブン・アル＝フマーム رضی الله عنه	ナツメヤシを投げ捨て、楽園へと進んだ（ムスリム 1901）。
ハーリサ・ブン・スラーカ رضی الله عنه	矢に当たって殉教した若者。かれにはフィルダウスが（ブハーリー 2809）。
フバーブ・ブン・アル＝ムンズィル رضی الله عنه	イブン・イスハークによれば、最も近い井戸に陣取ることを提案した。この伝承の経路は弱いが、スィーラ書では有名である。

クライシュ側

人物	バドルでの結末
アブー・ジャハル（アムル・ブン・ヒシャーム）	戦いを迫った指導者。討たれた（ブハーリー 3141、3962）。
ウトバとシャイバ・ブン・ラビーア	最初の一騎打ちに応じて討たれた。ウトバはそれ以前、クライシュ族に引き返すよう助言していた（スィーラ書）。
ワリード・ブン・ウトバ	最初の一騎打ちで討たれた。
ウマイヤ・ブン・ハラフ	討たれた――サアド・ブン・ムアーズがマッカで告げていた通りに（ブハーリー 3950、2301）。
ウクバ・ブン・アビー・ムアイトとナドル・ブン・アル＝ハーリス	捕虜となり、マッカでの重い罪と敵対のため、帰途に処刑された（スィーラ書）。
アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ	隊商の長。海岸の道を通って隊商を逃れさせ、戦場にはいなかった。息子ハンザラは討たれた。
アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ	アッラーの使徒 ﷺ のおじ。捕虜となり（ブハーリー 3008）、後に身代金を払った。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	バドルでの結末
アブー・アル＝アース・ブン・アッ＝ラビーウ	アッラーの使徒 ﷺ の娘婿（ザイナブの夫）。捕虜となった（アブー・ダーウード 2692）。
スハイル・ブン・アムル	捕虜となり、身代金で解放された。後にフダイビヤでのクライシュ族の交渉役となる（第 15 巻）。

教訓

これらの名は、バドルが二つの民族の衝突ではなく、一つの民の中の二つの道の衝突であったことを思い起こさせます。クライシュ側には後にイスラームに入った者（アッバース、アブー・アル＝アース、スハイル・ブン・アムル）もいれば、傲慢のまま死んだ者もいました。導きの扉は最後の息まで開かれています。だから私たちは誰に対しても絶望しないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

捕虜の陰にある家族の物語

第 20 章では、捕虜についての協議と身代金を受け入れる決定を語りました。七十人の捕虜という数字の陰には、心を打つ家族の物語がありました。捕虜の多くは、アッラーの使徒 ﷺ や教友たち自身の親族だったからです。

ハディージャの首飾り

ハディース：アブー・アル＝アースの身代金

アーイシャ رضى الله عنها は言った。マッカの人びとが捕虜の身代金を送った時、ザイナブ（アッラーの使徒 ﷺ の娘）は（夫）アブー・アル＝アースの身代金として財産を送った。その中に、もとはハディージャのもので、ザイナブがアブー・アル＝アースと結婚した時に母から贈られた首飾りがあった。アッラーの使徒 ﷺ はその首飾りを見ると、ひどく心を動かされて言われた。「もしあなたがたが、彼女の捕虜を解放し、彼女の財産を返してよいと思うなら（そうしなさい）。」人びとは「はい」と答えた。アッラーの使徒 ﷺ は、ザイナブを自分のもとに来させるようアブー・アル＝アースに約束させた。そしてアッラーの使徒 ﷺ はザイド・ブン・ハーリサとアンサールの一人の男を送り、言われた。「バトン・ヤアジャジで、ザイナブがあなたがたのそばを通るまで待ちなさい。そして彼女を（マディーナへ）連れて来るまで付き添いなさい。」

等級：ハサン（良好）――『スナン・アブー・ダーウード』2692。アルバーニーがハサンと評価。

最愛の亡き妻ハディージャ رضى الله عنها の首飾りを、教友たちの手の中に見た父の気持ちを想像してみてください。それは、敵側にいる夫の身代金として娘が送ったものでした。それでもアッラーの使徒は自分の権限で捕虜を解放されませんでした。身代金は教友たちの権利であったため、かれらの同意を求められたのです。アブー・アル＝アースは約束を守り、数年後には自らもイスラームに入ってヒジュラしました。

アッバースのための服

ハディース：服のないアッバース

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما は言った。バドルの日、捕虜たちが連れて来られたが、アッバースは服を着ていなかった。預言者 ﷺ はかれのために服を探され、アブドゥッラー・ブン・ウバイの服がかれの体に合うことが分かったので、預言者 ﷺ はそれをかれに着せられた。そのため、預言者 ﷺ は（アブドゥッラー・ブン・ウバイが死んだ時）自分の服を脱いでかれに着せられたのである。

等級：真正――『サヒーフ・ブハーリー』3008。

アッバースはアッラーの使徒 ﷺ のおじで、甥が守られるよう確かめるためにアカバの誓い（第 6 巻）に立ち会いましたが、バドルの日にはクライシュ族の隊列にいました。イマーム・ブハーリーはこのハディースを「捕虜のための衣服」の章に置いています。捕虜は、たとえ敵であっても衣服を与えられ、尊厳をもって扱われるのです。この話はまた、アッラーの使徒 ﷺ が恩に報いる方であったことを示しています。後に偽信者の頭となったアブドゥッラー・ブン・ウバイに対してさえも。

親族の中のほかの捕虜

スィーラ書によれば、ほかの捕虜にはアキール・ブン・アビー・ターリブ（アリーの兄）やナウファル・ブン・アル＝ハーリス（アッラーの使徒 ﷺ のいとこ）がいました。ムスアブ・ブン・ウマイルの実の兄弟アブー・アズィーズ・ブン・ウマイルも捕虜となりました。イブン・イスハークによれば、ムスアブはかれを捕らえたアンサールの教友に、母は裕福で身代金を払えるから、しっかり縛っておくよう言ったといいます。この話はスィーラ書では有名ですが、真正なハディース集には見られません。

教訓

バドルは信仰によって家族を分けましたが、愛情と礼節を消し去りはしませんでした。アッラーの使徒 ﷺ はハディージャの首飾りに心を動かされ、おじに服を着せ、娘婿を解放する前に教友たちの許しを求められました。たった今戦ったばかりの相手に対してさえ、正義と慈悲と尊厳は守られたのです。

ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月の年表

次の表は、バドルの出来事を順に並べたものです。日付はスィーラ書によるもので、典拠によって多少の違いがあります。最も有名なのは、戦いがヒジュラ暦 2 年ラマダーン月 17 日金曜日（624 年 3 月ごろ）に行われたとする説です。

時期	出来事
ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月初め	シャームから戻るアブー・スフヤーンの大隊商の知らせがマディーナに届く（第 3 章）。
ラマダーン月 8〜12 日ごろ	アッラーの使徒 ﷺ が約 313 人、ラクダ 70 頭、ごくわずかな馬で出発；ウスマーンはルカイヤの看病のため残る（第 5〜6 章）。正確な日付は典拠により異なる。
同じころ	アブー・スフヤーンがダムダム・ブン・アムル・アル＝ギファーリーをマッカへ送り援軍を求める；クライシュ族が約千人で出陣（第 4 章）。
旅の途中	アブー・スフヤーンが隊商を海岸の道に移し、クライシュ族に帰るよう伝える；アブー・ジャフルは進軍を主張。スィーラ書によれば、ズフラ族はアフナス・ブン・シャリークと共に引き返した。
ザフィラーンにて	協議：ミクダードとサアド・ブン・ムアーズの言葉；クライシュ軍と対決する決定（第 7 章）。
ラマダーン月 17 日の前夜	バドルに到着；雨が降り、ムスリムは安らぎのまどろみに包まれる（第 8〜9 章）。
ラマダーン月 17 日金曜日の朝	天幕でのアッラーの使徒 ﷺ の祈り；最初の一騎打ち；戦闘；一握りの砂；天使の降下（第 10〜14 章）。
同じ日	アブー・ジャフルとクライシュの指導者たちが討たれる；70 人が討たれ 70 人が捕虜に；スィーラ書によれば教友 14 人が殉教（第 15〜18 章）。
その後の三晩	アッラーの使徒 ﷺ がバドルにとどまる；井戸のほとりで語りかける（第 19 章、ブハーリー 3976）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事
帰途	戦利品の分配；ウクバとナドルの処刑；ザイド・ブン・ハーリサとアブドゥッラー・ブン・ラワーハが先に吉報を運ぶ（第 22 章）。
知らせがマディーナに届く	アッラーの使徒 ﷺ の娘ルカイヤが埋葬されたばかりであった（第 6 章）。
マッカにて	敗北の知らせが届く；アブー・ラハブが数日後に死ぬ（第 22 章）。
ヒジュラ暦 2 年シャウワール月以降	クライシュ族の使者たちが捕虜の身代金を払いに来る；ザイナブがマディーナへヒジュラ（第 27 章）。

教訓

およそひと月の間に、状況は一変しました。隊商を追って出発したところから、三倍の軍と向き合うことになり、そして審判の日まで記憶される勝利へ。人間の計画とアッラーの計画は必ずしも同じではなく、アッラーはしもべのために最善を選ばれるのです（8:7）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドルの戦いについてよくある質問

1. バドルの戦いはいつ起こったのですか。

最も有名な説（イブン・イスハークと大多数のスィーラ学者）によれば、ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月 17 日金曜日、624 年 3 月ごろです。ラマダーン月 19 日とする伝承もあります。

2. 両軍の兵力はどれくらいでしたか。

ムスリムは「三百十数人」で、ターラートの軍の数と同じでした（『サヒーフ・ブハーリー』3957）。ウマル رضى الله عنه は、多神教徒が千人、教友が 319 人だったと述べています（『サヒーフ・ムスリム』1763）。

3. 両軍の犠牲者はどれくらいでしたか。

バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه は、バドルの日にムスリムが多神教徒の七十人を討ち、七十人を捕虜にしたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3986）。ムスリム側については、スィーラ書が 14 人の殉教者を挙げています。ムハージルーン 6 人、アンサール 8 人です（第 18 章）。

4. 降りてきた天使の数はどれくらいですか。

戦利品章 8:9 は「次々に来る千の天使」と述べています。イムラーン家章 3:124–125 は、忍耐と畏れを条件に三千と五千を述べています。注釈学者の意見は分かれています。イムラーン家章の節もバドルについてのもの（援軍が増やされた）とする者もいれば、条件が満たされなかったため果たされなかったウフドについての約束とする者もいます。イブン・カスィールは両方の意見を伝えています。確かなのは、戦利品章に基づくバドルでの千の天使です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. イブリースがスラーカ・ブン・マーリクの姿で来たというのは本当ですか。

戦利品章 8:48 は、悪魔がクライシュ族の行いを飾り立て「あなたがたに勝てる者はいない」と言い、天使を見ると退いたと述べています。悪魔がスラーカ・ブン・マーリクの姿をとったという話は、イブン・カスィールが伝える注釈書の伝承（イブン・アッバースほか）によるもので、その伝承経路には異論があります。節の内容そのものは確かですが、スラーカの姿についての詳細は真正なハディースと同じ等級ではありません（第 4 章参照）。

6. ウッカーシャ・ブン・ミフサンの剣が木から鉄に変わったというのは本当ですか。

この話はイブン・イスハークが連続した伝承経路なしに伝えているものです。『サヒーフ・ブハーリー』にも『サヒーフ・ムスリム』にも見られないため、**弱い伝承**であり、確かなこととは言えません。

7. なぜバドルは「ヤウム・アル＝フルカーン」と呼ばれるのですか。

アッラーが戦利品章 8:41 でそう名付けられたからです。「……識別の日、両軍が出会った日に」。フルカーンとは分けるものという意味です。その日は真理と虚偽をはっきりと分けたのです。

8. バドルの戦いの時、ムスリムは斎戒していたのですか。

バドルは、斎戒が義務とされた後の最初のラマダーンに起こりました。ティルミズィーに、ウマルからの伝承として、かれらがバドルの日とマッカ征服の日に斎戒を解いたというものがありますが、その経路は**弱い**ものです。真正なのは、アッラーの使徒 ﷺ がマッカ征服への道中で斎戒を解かれたことです（『サヒーフ・ブハーリー』1944）。旅人と戦う者は、雌牛章 2:184 に基づいて斎戒を解くことが許されています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

9. アブー・ジャフルを殺したのは誰ですか。

アンサールの二人の若者、ムアーズ・ブン・アムル・ブン・アル＝ジャムーフとムアーズ・ブン・アフラーがかれを倒し（『サヒーフ・ブハーリー』3141）、アブドゥッラー・ブン・マスウードが瀕死のかれを見つけてとどめを刺しました（『サヒーフ・ブハーリー』3962）。第 15〜16 章を参照してください。

10. バドルの民は罪から自由なのですか。

「アッラーはバドルの民を見られ、『好きなようにせよ、わたしはあなたがたを赦した』と言われた」というハディース（第 21 章）は、かれらの非常に高い位置を示しています。学者たちは、これは罪を犯す許可ではなく、アッラーがかれらを赦されるという吉報だと説明しています。実際、バドルの民は最も熱心に崇拝し、最もアッラーを畏れる人びとでした。

11. わずかなラクダで、ムスリムはどのようにバドルへ向かったのですか。

スィーラ書によれば、かれらはおよそ 70 頭のラクダしか持っていなかったので、二人か三人が交代で一頭に乗りました。イマーム・アフマドはイブン・マスウードから、アッラーの使徒 ﷺ ご自身がアリーとアブー・ルバーバと交代で乗っていたと伝えています。二人がアッラーの使徒が乗り続けられるよう自分たちが歩くと申し出ると、アッラーの使徒は答えられました。「あなたがた二人は私より強くはない。私もあなたがた二人以上に報奨を必要としていないわけではない。」

12. バドルの戦場は今どこにありますか。

バドルはサウジアラビアのマディーナ州にある町で、マディーナ市の南西約 150km、紅海沿岸へ向かう古い道の近くにあります。バドルの殉教者の墓地は囲まれており、地元の人びとに知られています。ウィキペディア「Battle of Badr」と第 8 章の地図を参照してください。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：214 / 567

教訓

バドルには、クルアーンと真正なハディースの中に本当に驚くべき物語が満ちています。だから、それを讃えるために弱い話は必要ありません。真正なものと弱いものを区別することは、アッラーの使徒 ﷺ のスィーラを伝える責任の一部なのです。

教訓と結び

アッラーは後にウフドで、ムスリムに思い起こさせられました。「**アッラーはバドルにおいて、あなたがたが弱かった時に、あなたがたを助けられた**」『タフスィール・イブン・カスィール』3:123。

教訓	バドルから
アッラーからの勝利	三百人余りが千人を破った（3:123；8:17）
祈りと努力	アッラーの使徒は夜通し祈り、隊列を整えた
協議（シューラー）	戦いの前と捕虜についての協議
共同体の若者	アフラーの二人の息子；ウマイル・ブン・アル＝フマーム
アッラーの正義	アブー・ジャフルとウマイヤが最期を迎えた
知識の価値	捕虜は書くことを教えて身代金とした
フルカーンの日	真理と虚偽を分ける日（8:41）

クルアーンはバドルの日を「**フルカーンの日**」――分ける日（戦利品章 8:41）と名付けています。バドル以前、ムスリムは虐げられた小さな集団でした。バドル以後、かれらはアラビア半島で**一目置かれる勢力**となりました。しかしアッラーはその勝利を数や武器に帰されたのではなく、**信仰と忍耐と御自身の助け**に帰されたのです。

私たちの生活の中のバドル

私たちはもうバドルの谷に立ってはいません。しかし、すべてのムスリムは自分自身の小さな「**バドル**」を経験します。真理が弱く見え、虚偽が強く見える時です。その時、バドルの教えはこうです。**できる限りの準備をし**、**協議し**、そして心を込めて**祈る**ことです。アッラーの使徒 ﷺ がバドルの空の下で祈られたように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：216 / 567

バドルはまた、ムアーズとムアウウィズ、ウマイル・ブン・アル＝フマーム、ウマイル・ブン・アビー・ワッカースのような**若者たち**が、大きな責任を担えることを教えています。今日の親と教師は、かれらのようにアッラーとその使徒を愛する世代を育てる務めを受け継いでいるのです。

最後に、バドルは**勝利の後の謙虚さ**を教えています。アッラーは、かれらの最大の成功の直後に、捕虜と戦利品について戒められました。心が現世に心を奪われないようにするためです。本当の勝利とは、アッラーが満足されることなのです。

イン・シャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは**ウフドの戦い**（第 10 巻）へと続きます。勝利の後の試練と、服従についての教えです。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存じです）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 9 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（戦利品章 8:1–69；イムラーン家章 3:123；巡礼章 22:19、39；月章 54:45）。https://tafsir.app/ibn-katheer/8/17

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』2301、2809、3039、3130、3141、3950、3952、3953、3956、3957、3962、3965、3966、3976、3983、3992、3995。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1763、1779、1901。https://sunnah.com/muslim

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）――大バドルの戦いの章。

アフマド・ブン・ハンバル『アル＝ムスナド』（書くことを教える身代金についてのイブン・アッバースの伝承）。

サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』――バドルの戦いの章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』――遠征の書。

ウィキペディア「Battle of Badr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Badr

ウィキペディア「Abu Jahl」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Jahl

ウィキペディア「Umayya ibn Khalaf」。https://en.wikipedia.org/wiki/Umayya_ibn_Khalaf

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4875（バドルの日の月章 54:45）。https://sunnah.com/bukhari:4875

『サヒーフ・ムスリム』1748（サアドの剣と戦利品章 8:1）。https://sunnah.com/muslim:1748

『スナン・アブー・ダーウード』2692（ハディージャの首飾り）。https://sunnah.com/abudawud:2692

『サヒーフ・ブハーリー』3008（アッバースのための服）。https://sunnah.com/bukhari:3008

『サヒーフ・ブハーリー』3986（七十人が討たれ、七十人が捕虜に）。https://sunnah.com/bukhari:3986

『サヒーフ・ブハーリー』3130（ウスマーンの分け前）。https://sunnah.com/bukhari:3130

イブン・カスィール『タフスィール』8:1。https://tafsir.app/ibn-katheer/8/1

イブン・カスィール『タフスィール』3:124。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/124

ウィキペディア「Battle of Badr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Badr

第四部

ウフドの戦い

預言者伝（スィーラ）— 第 10 巻

勝利の後の試練：服従・忍耐・殉教者たち — クルアーンと真正なハディースに基づいて

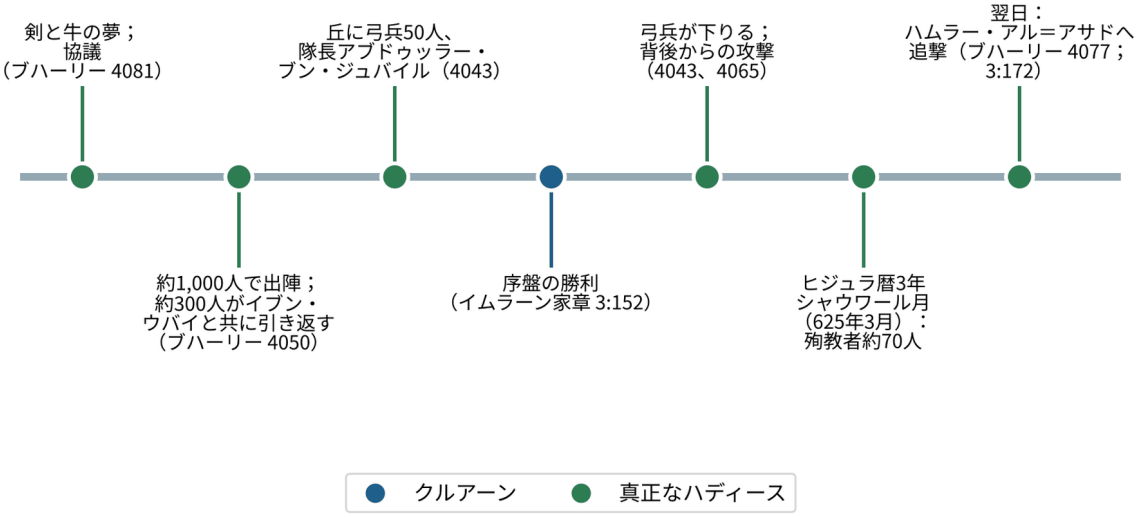
© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの戦い

『預言者伝』第 9 巻は、バドルでの大勝利――「フルカーン（識別）の日」――で終わりました。その一年後、**ヒジュラ暦 3 年シャウワール月**に、クライシュ族は復讐のために三千人の軍勢で再びやって来ました。マディーナの北にある**ウフド山**の麓で、ムスリムはまったく異なる試練を経験します。悲しみへと変わった勝利です。

クルアーンは**イムラーン家章**のおよそ六十の節でウフドを語り、真正なハディースはその場面を記録しています。弓兵への命令、背後からの叫び、楽園の香りをかいだアナス・ブン・アン＝ナドル、胸を盾にしたアブー・タルハ、そしてアッラーの使徒 ﷺ の顔の傷です。

ウフドの戦いの年表（ヒジュラ暦3年シャウワール月）



日付：有名な説はシャウワール月15日、7日とする典拠もある（ウィキペディア「Battle of Uhud」）。

図 1：ウフドの戦いの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

バドルの後：クライシュ族の復讐心

バドルでの敗北は、クライシュ族に深い傷を残しました。アブー・ジャフル、ウマイヤ・ブン・ハラフ、ウトバ、シャイバなど、多くの指導者が殺されたのです。マッカの指導権は**アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ**に移り、彼は復讐を誓いました。

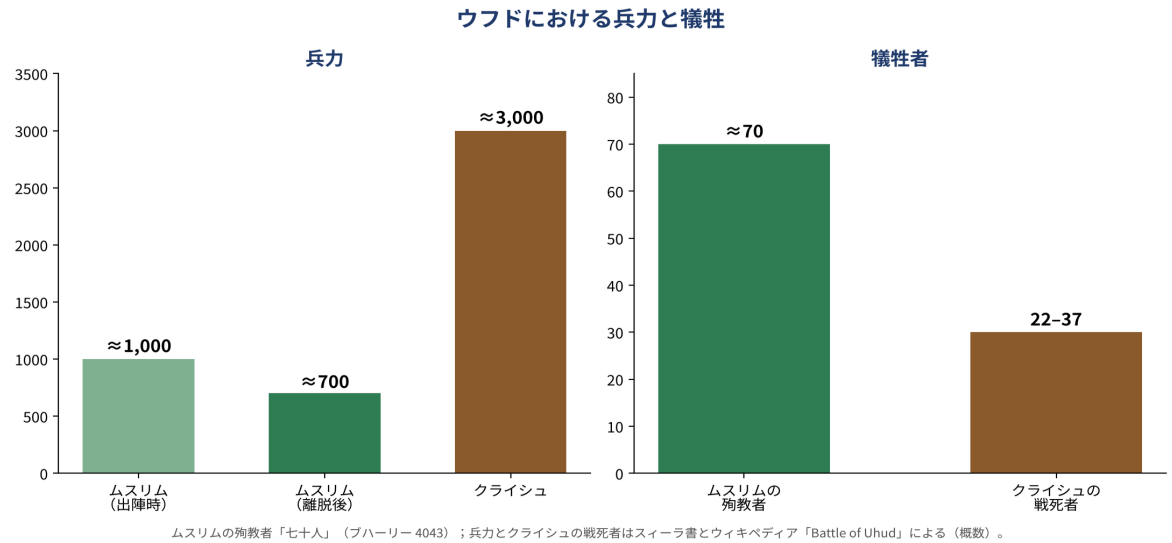
スィーラの注：クライシュ族の準備

スィーラ書によれば、バドルの前に無事に帰り着いたアブー・スフヤーンの隊商の利益は、新たな戦いの**費用に充てられました**。クライシュ族は同盟者と共におよそ**三千**人の兵を集め、士気を高めるために女性たちも連れて来ました。その中には、父、叔父、兄弟をバドルで失った**ヒンド・ビント・ウトバ**もいました。

イブン・カスィールは、一部の初期の学者が、アッラーの道を妨げるために財を費やす不信仰者についての戦利品章 8:36 を、ウフドのためのクライシュ族の出費に関するものと考えたと述べています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』ウフドの戦いの章；『タフスィール・イブン・カスィール』8:36。https://tafsir.app/ibn-katheer/8/36



ムスリムの殉教者「七十人」（ブハーリー 4043）；兵力とクライシュの戦死者はスィーラ書とウィキペディア「Battle of Uhud」による（概数）。

図 2：ウフドにおける両軍の兵力と犠牲（概数）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーはその後、起こったことの英知を明らかにされました。「**もしあなたがたが（ウフドで）傷を負ったのなら、あの民（多神教徒）も同じような傷を負ったのである**」『タフスィール・イブン・カスィール』3:140。

ウフドはどこにあるのか？

ウフドは、**マディーナの北**にある長い岩山の連なりで、預言者のモスクから数キロメートルの所にあります。クライシュ軍はマディーナの農地に近い、その山の麓の平原に陣を張りました。この地形により、アッラーの使徒 ﷺ は山をムスリム軍の**背後の守り**とすることができました。

教訓：勝利は永遠の安全を保証するものではありません。バドルの後、ムスリムは**より重い試練**に備えなければなりませんでした。日々は人々の間で**巡り変わる**ものだからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

夢と協議

クライシュ軍接近の知らせがマディーナに届くと、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちに、ご自身が見た夢を語られました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4081 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْعَلاَءِ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ بُرَيْدِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ جَدِّهِ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ أَبِي مُوسَى ـ رضى الله عنه ـ أُرَى عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ رَأَيْتُ فِي رُؤْيَاىَ أَنِّي هَزَزْتُ سَيْفًا فَانْقَطَعَ صَدْرُهُ، فَإِذَا هُوَ مَا أُصِيبَ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ يَوْمَ أُحُدٍ، ثُمَّ هَزَزْتُهُ أُخْرَى فَعَادَ أَحْسَنَ مَا كَانَ، فَإِذَا هُوَ مَا جَاءَ بِهِ اللَّهُ مِنَ الْفَتْحِ وَاجْتِمَاعِ الْمُؤْمِنِينَ، وَرَأَيْتُ فِيهَا بَقَرًا وَاللَّهُ خَيْرٌ، فَإِذَا هُمُ الْمُؤْمِنُونَ يَوْمَ أُحُدٍ.

訳：

アブー・ムーサー رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。**「私は夢で一振りの剣を振ったところ、その刃先が折れた。それはウフドの日に信仰者たちを襲った災難である。もう一度振ると、剣は以前よりも良くなった。それはアッラーがもたらされた（マッカの）開放と信仰者たちの団結である。また私は夢で牛たちを見た。アッラー（の定め）は善である。それはウフドの日の（殉教した）信仰者たちである。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝アラー ← アブー・ウサーマ ← ブライド・ブン・アブドゥッラー・ブン・アビー・ブルダ ← 祖父 アブー・ブルダ ← アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4081 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4081

スィーラの注：堅固な鎧

『**ムスナド・アフマド**』とスィーラ書の伝承では、預言者は夢の中で**堅固な鎧**に手を入れ、それを**マディーナ**と解釈されました。一部の伝承では、剣の刃こぼれは預言者の家族の一人が殺されることと解釈されたとされ、ハムザがウフドで倒れました。

この夢のために、預言者はマディーナの中で守ることに傾いておられました。

参照：

『ムスナド・アフマド』；イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』。

協議：守るか、打って出るか？

スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちと**協議**されました。預言者は**マディーナの中で守る**ことに傾いておられ、アブドゥッラー・ブン・ウバイも同じ意見でした。しかし多くの教友、特にバドルに参加できなかった**若者たち**は、出陣して敵に立ち向かうよう強く求めました。

スィーラの注：「預言者にふさわしくない……」

預言者は多数意見を受け入れ、家に入り、**鎧を身に着けて**出て来られました。教友たちが強く求めたことを悔やみ、守りに留まろうと申し出ると、預言者はこう言われました。**「鎧を身に着けた預言者が、アッラーが（彼と敵の間を）裁かれるまでそれを脱ぐことはふさわしくない。」**

この言葉は、イマーム・ブハーリーが正しさの堅持の書で**タアリーク**（完全な伝承経路なし）として挙げており、『ムスナド・アフマド』とスィーラ書には伝承経路付きで伝えられています。

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』正しさの堅持の書（タアリーク）；イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの後、多数意見が悲しみをもたらしたにもかかわらず、アッラーは預言者になお命じられました。「**そして物事については彼らと協議せよ**」『タフスィール・イブン・カスィール』3:159。

教訓：結果が望みどおりでなくても、**シューラー（協議）**は基盤であり続けます。決意した後、指導者は**揺るがず**、アッラーに委ねるのです。

アブドゥッラー・ブン・ウバイの離脱

アッラーの使徒 ﷺ は約**千**人と共に出陣されました。途中で**アブドゥッラー・ブン・ウバイ**が約**三百**人の支持者――軍のほぼ三分の一――を連れて引き返しました。自分の意見が採用されなかったことが理由でした（スィーラ書）。ザイド・ブン・サービト رضى الله عنه はその影響をこう語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4050 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْوَلِيدِ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ عَدِيِّ بْنِ ثَابِتٍ، سَمِعْتُ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ يَزِيدَ، يُحَدِّثُ عَنْ زَيْدِ بْنِ ثَابِتٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا خَرَجَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِلَى أُحُدٍ، رَجَعَ نَاسٌ مِمَّنْ خَرَجَ مَعَهُ، وَكَانَ أَصْحَابُ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فِرْقَتَيْنِ، فِرْقَةً تَقُولُ نُقَاتِلُهُمْ. وَفِرْقَةً تَقُولُ لاَ نُقَاتِلُهُمْ. فَنَزَلَتْ {فَمَا لَكُمْ فِي الْمُنَافِقِينَ فِئَتَيْنِ وَاللَّهُ أَرْكَسَهُمْ بِمَا كَسَبُوا} وَقَالَ إِنَّهَا طَيْبَةُ تَنْفِي الذُّنُوبَ كَمَا تَنْفِي النَّارُ خَبَثَ الْفِضَّةِ.

訳：

ザイド・ブン・サービト رضى الله عنه は言いました。**預言者 ﷺ がウフドへ出陣された時、共に出た人々の一部が引き返した。預言者 ﷺ の教友たちは二つに分かれた。一方は「彼らと戦おう」と言い、もう一方は「彼らとは戦わない」と言った。** そこで次の節が啓示された。**「偽信者たちについて、あなたがたが二派に分かれるのはどうしたことか。アッラーは彼らが稼いだことのために、彼らを（不信仰へ）逆戻りさせたのである」**（女性章 4:88）。そして預言者は言われた。**「それ（マディーナ）はターイバである。火が銀の錆を取り除くように、罪を取り除く。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ワリード ← シュウバ ← アディー・ブン・サービト ← アブドゥッラー・ブン・ヤズィード ← ザイド・ブン・サービト رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4050 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4050

この重大な時の離脱は、ムスリムの**士気をくじく**ためのものでしたが、同時に**隊列をふるいにかける**ことにもなりました。教訓：真理は従う人の数で測られるものではありません。

怯みかけた二つの集団

イブン・ウバイの離脱は、アンサールの二つの部族を揺るがしかけました。アッラーはその瞬間をこう語られます。

「あなたが早朝、家族のもとを出て、信仰者たちを戦いの持ち場に配置した時を思い起こせ」『タフスィール・イブン・カスィール』3:121。

「あなたがたのうちの二つの集団が怯みかけた時のこと。だがアッラーは彼らの守護者であった」『タフスィール・イブン・カスィール』3:122。

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は言いました。**「この節は私たち――サラマ族とハーリサ族――について啓示された。私はそれが啓示されなければよかったとは思わない。アッラーが『アッラーは彼らの守護者であった』と言われたからである。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4051）。

ジャービルは、自分の部族の弱さに触れる節を恥じませんでした。その節がアッラーこそ彼らの守護者であると述べていることを**喜んだ**のです。教訓：心に浮かんだ恐れが人を偽信者にするわけではありません。**背を向けず**、アッラーに委ね続ける限りは。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

丘の上の弓兵たち

アッラーの使徒 ﷺ は、**ウフド山を背に**する形でムスリムの隊列を整えられました。左手には小さな丘があり、後に**ジャバル・アッ＝ルマート**（弓兵の丘）として知られるようになります。預言者はその上に五十人の弓兵を配置されました。バラーウ رضى الله عنه は、預言者の命令と、その後に起こったことを語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4043 番

حَدَّثَنَا عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ مُوسَى، عَنْ إِسْرَائِيلَ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الْبَرَاءِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَقِينَا الْمُشْرِكِينَ يَوْمَئِذٍ، وَأَجْلَسَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم جَيْشًا مِنَ الرُّمَاةِ، وَأَمَّرَ عَلَيْهِمْ عَبْدَ اللَّهِ وَقَالَ لاَ تَبْرَحُوا، إِنْ رَأَيْتُمُونَا ظَهَرْنَا عَلَيْهِمْ فَلاَ تَبْرَحُوا وَإِنْ رَأَيْتُمُوهُمْ ظَهَرُوا عَلَيْنَا فَلاَ تُعِينُونَا. فَلَمَّا لَقِينَا هَرَبُوا حَتَّى رَأَيْتُ النِّسَاءَ يَشْتَدِدْنَ فِي الْجَبَلِ، رَفَعْنَ عَنْ سُوقِهِنَّ قَدْ بَدَتْ خَلاَخِلُهُنَّ، فَأَخَذُوا يَقُولُونَ الْغَنِيمَةَ الْغَنِيمَةَ. فَقَالَ عَبْدُ اللَّهِ عَهِدَ إِلَىَّ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَنْ لاَ تَبْرَحُوا. فَأَبَوْا، فَلَمَّا أَبَوْا صُرِفَ وُجُوهُهُمْ، فَأُصِيبَ سَبْعُونَ قَتِيلاً، وَأَشْرَفَ أَبُو سُفْيَانَ فَقَالَ أَفِي الْقَوْمِ مُحَمَّدٌ فَقَالَ لاَ تُجِيبُوهُ. فَقَالَ أَفِي الْقَوْمِ ابْنُ أَبِي قُحَافَةَ قَالَ لاَ تُجِيبُوهُ. فَقَالَ أَفِي الْقَوْمِ ابْنُ الْخَطَّابِ فَقَالَ إِنَّ هَؤُلاَءِ قُتِلُوا، فَلَوْ كَانُوا أَحْيَاءً لأَجَابُوا، فَلَمْ يَمْلِكْ عُمَرُ نَفْسَهُ فَقَالَ كَذَبْتَ يَا عَدُوَّ اللَّهِ، أَبْقَى اللَّهُ عَلَيْكَ مَا يُخْزِيكَ. قَالَ أَبُو سُفْيَانَ أُعْلُ هُبَلْ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَجِيبُوهُ. قَالُوا مَا نَقُولُ قَالَ قُولُوا اللَّهُ أَعْلَى وَأَجَلُّ. قَالَ أَبُو سُفْيَانَ لَنَا الْعُزَّى وَلاَ عُزَّى لَكُمْ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَجِيبُوهُ. قَالُوا مَا نَقُولُ قَالَ قُولُوا اللَّهُ مَوْلاَنَا وَلاَ مَوْلَى لَكُمْ. قَالَ أَبُو سُفْيَانَ يَوْمٌ بِيَوْمِ بَدْرٍ، وَالْحَرْبُ سِجَالٌ، وَتَجِدُونَ مُثْلَةً لَمْ آمُرْ بِهَا وَلَمْ تَسُؤْنِي.

訳：

バラーウ رضى الله عنه は言いました。**その日（ウフドで）私たちは多神教徒と対峙した。預言者 ﷺ は弓兵の一隊を配置し、アブドゥッラー（・ブン・ジュバイル）を隊長に任じて言われた。「この場所を離れてはならない。私たちが彼らに勝つのを見ても、ここを離れるな。彼らが私たちに勝つのを見ても、私たちを助けに来るな。」** 戦いが始まる

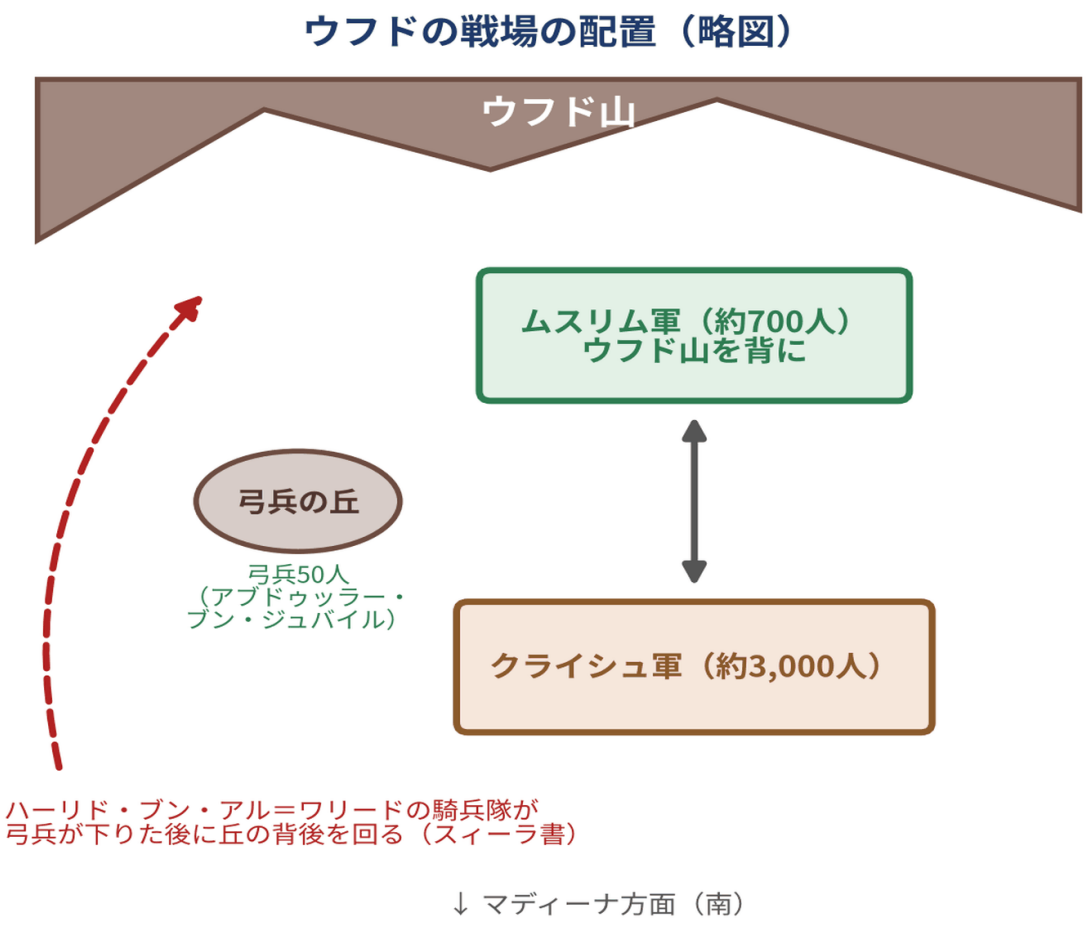
と、敵は逃げ出し、私は彼らの女性たちが山の方へ走っていくのを見た。すると彼ら（弓兵たち）は言い始めた。「**戦利品だ！戦利品だ！**」 アブドゥッラーは言った。「**預言者 ﷺ は私に、この場所を離れるなと命じられた。**」 しかし仲間たちは聞き入れなかった。彼らが拒むと、その顔は（どこへ行けばよいか分からなくなるほど）背けられ、**七十人が殺された。**アブー・スフヤーンは高い所に登って言った。「お前たちの中にムハンマドはいるか？」預言者は言われた。「**彼に答えるな。**」 彼はイブン・アビー・クハーファ（アブー・バクル）について、次にイブン・アル＝ハッターブについて尋ね、「彼らは皆殺された」と言った。ウマルはこらえきれずに言った。「**嘘をつけ、アッラーの敵よ！アッラーはお前を悲しませるものを残しておかれた。**」 アブー・スフヤーンは言った。「フバルよ、高くあれ！」預言者 ﷺ は言われた。「**彼に答えよ。『アッラーこそ至高にして至大』と。**」 アブー・スフヤーンは言った。「我らにはウッザーがいる。お前たちにはウッザーはいない。」預言者は言われた。「**言え。『アッラーは私たちの守護者、お前たちに守護者はいない』と。**」 アブー・スフヤーンは言った。「今日はバドルの日の報いだ。戦いは巡るものだ。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイドゥッラー・ブン・ムーサー ← イスラーイール ← アブー・イスハーク ← バラーウ・ブン・アーズィブ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ウフドの戦いの章、ハディース第 4043 番；より長い伝承は第 3039 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4043



略図のみ。位置と方向はおおよそのもの。弓兵への命令：『サヒーフ・ブハーリー』4043。

図 3：ウフドの戦場における両軍の配置（略図）。

極めて明確な命令

アッラーの使徒 ﷺ の命令には、解釈の余地がありませんでした。「**私たちが勝つのを見てもこの場所を離れるな。私たちが負けるのを見ても助けに来るな。**」 弓兵の任務は、敵の騎兵からムスリム軍の**背後を守る**ことでした。

教訓：順境での**命令への服従**は、逆境での服従よりも難しいものです。弓兵たちは恐れのために敗れたのではなく、目の前に見えた**戦利品**のために敗れたのです。

アブー・ドゥジャーナの剣

戦いの前、アッラーの使徒 ﷺ は一振りの剣を手に取って尋ねられました。**「誰がこの剣を私から受け取るか？」** 皆が手を伸ばして「私が、私が！」と言いました。預言者は再び尋ねられました。**「誰がその権利を果たして受け取るか？」** 人々は手を引っ込めました。すると**スィマーク・ブン・ハラシャ、アブー・ドゥジャーナ**が「私が受け取り、その権利を果たしましょう」と言い、剣を受け取って多神教徒たちの頭を打ち据えました（『サヒーフ・ムスリム』2470）。

スィーラの注：アブー・ドゥジャーナの赤いターバン

スィーラ書によれば、アブー・ドゥジャーナは頭に**赤いターバン**を巻きました――最後まで戦い抜くという印です。そして両軍の隊列の間を**誇らしげに**歩きました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「それはアッラーが嫌われる歩き方である。このような場所を除いては。」

また彼は、敵兵を煽っていた者に剣を振り上げたところ、それが女性であると分かり、**アッラーの使徒** ﷺ の剣で女性を殺すことのないよう、剣を収めたとも伝えられています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』ウフドの戦いの章。

教訓：熱意だけでは十分ではありません。アッラーの使徒 ﷺ は、**託されたものの権利を果たす**ことのできる人を求められました。栄誉を望む人は多くても、その責任を担う人は少ないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの獅子ハムザ

ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブは、アッラーの使徒 ﷺ の叔父であり、シャイバ・ブン・ラビーアを倒したバドルの英雄でした。クライシュ族は彼に深い恨みを抱いていました。その殉教の物語は、彼を殺した**ワフシー**自身が、何年も後に語っています。

ワフシーは**ジュバイル・ブン・ムトイム**の奴隷でした。ジュバイルの叔父はバドルでハムザに殺されていました。ジュバイルは約束しました。「叔父の仇としてハムザを殺せば、お前は自由だ。」ウフドの日、ワフシーは**岩の陰に隠れ**、ハムザが近づくと投げ槍を放ちました。槍はハムザの下腹部に当たり、背中まで貫きました。それが**ハムザの最期**でした（『サヒーフ・ブハーリー』4072）。

ワフシーの入信

同じハディースの中でワフシーは、後に**イスラームに入信し**、アッラーの使徒 ﷺ のもとに来たと語っています。預言者は「お前がワフシーか？お前がハムザを殺したのか？」と尋ね、そして言われました。「**私の前から顔を隠すことはできるか？**」アッラーの使徒 ﷺ が亡くなられた後、ワフシーは**偽預言者ムサイリマ**との戦いに加わり、同じ投げ槍で彼を倒しました――まるで自らの過ちを償うかのように。

教訓：イスラームは、それ以前の**罪を消し去ります**。たとえ預言者の叔父を殺すほどの罪であってもです。しかしアッラーの使徒 ﷺ もまた悲しみを感じる人間でした。赦されはしましたが、ハムザを思い出させる顔を見るのは耐え難かったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

序盤の勝利と試練

戦いの初め、ムスリムは**勝っていました**。クライシュ族の旗手たちは次々と倒され、敵軍は陣地と財産を捨てて退き始めました。バラーウは、クライシュ族の女性たちが山の方へ走るのを見たと述べています（第 5 章）。アッラーはこう言われます。

「アッラーは確かにあなたがたへの約束を果たされた。あなたがたがアッラーの許しにより彼らを打ち倒していた時のことである」『タフスィール・イブン・カスィール』3:152。

3:152 の各部分	起こったこと
「アッラーは約束を果たされた」	序盤の勝利；敵が退く。
「あなたがたは気弱になり、争った」	弓兵たちが、留まるか下りるかで意見が分かれる。
「あなたがたは背いた」	弓兵の多くが丘を離れる。
「現世を望む者もいた」	戦利品を追う。
「アッラーはあなたがたを赦された」	赦しの扉は開かれたまま。

この節は極めて率直です。教友たちの過ちを隠さず、しかし同時にそれを**アッラーの赦し**で覆っています。イブン・マスウードは、この節が啓示されるまで、教友の中に現世を望む者がいるとは思わなかったと語りました（アフマドの伝承、『タフスィール・イブン・カスィール』所収）。

教訓：信仰者にとって最も危険な時は、負けている時ではなく、**勝利目前**の時です。現世が目の前に見え始める時なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

背後からの叫び

弓兵の多くが下りると、**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**――当時はまだ多神教徒で、クライシュ族の騎兵隊を率いていました――は丘がほとんど空になったのを見ました。彼は部隊を回り込ませて**背後から攻撃し**、アブドゥッラー・ブン・ジュバイルと、持ち場に残っていた数人の弓兵を殺しました（スィーラ書）。その混乱の中で、胸の痛む出来事が起こりました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4065 番

حَدَّثَنَا عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ لَمَّا كَانَ يَوْمَ أُحُدٍ هُزِمَ الْمُشْرِكُونَ، فَصَرَخَ إِبْلِيسُ لَعْنَةُ اللَّهِ عَلَيْهِ أَىْ عِبَادَ اللَّهِ أُخْرَاكُمْ. فَرَجَعَتْ أُولاَهُمْ فَاجْتَلَدَتْ هِيَ وَأُخْرَاهُمْ فَبَصُرَ حُذَيْفَةُ فَإِذَا هُوَ بِأَبِيهِ الْيَمَانِ فَقَالَ أَىْ عِبَادَ اللَّهِ أَبِي أَبِي. قَالَ قَالَتْ فَوَاللَّهِ مَا احْتَجَزُوا حَتَّى قَتَلُوهُ فَقَالَ حُذَيْفَةُ يَغْفِرُ اللَّهُ لَكُمْ. قَالَ عُرْوَةُ فَوَاللَّهِ مَا زَالَتْ فِي حُذَيْفَةَ بَقِيَّةُ خَيْرٍ حَتَّى لَحِقَ بِاللَّهِ. بَصُرْتُ عَلِمْتُ، مِنَ الْبَصِيرَةِ فِي الأَمْرِ، وَأَبْصَرْتُ مِنْ بَصَرِ الْعَيْنِ وَيُقَالُ بَصُرْتُ وَأَبْصَرْتُ وَاحِدٌ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言いました。**ウフドの日、多神教徒たちは敗れた。するとイブリース――アッラーが彼を呪われますように――が叫んだ。「アッラーのしもべたちよ、背後に（気をつけよ）！」** そこで前列が引き返し、後列と戦ってしまった。フザイファが見ると、そこには（攻撃されている）父のヤマーンがいた。彼は叫んだ。**「アッラーのしもべたちよ、それは私の父だ！私の父だ！」** アッラーにかけて、彼らは父を殺すまでやめなかった。フザイファは言った。**「アッラーがあなたがたを赦されますように。」**（ウルワは言った。アッラーにかけて、フザイファはアッラーに会うまで、彼らのために赦しを祈り続けた。）

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイドゥッラー・ブン・サイード ← アブー・ウサーマ ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← 父 ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4065 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4065

「アッラーがあなたがたを赦されますように」

フザイファ・ブン・アル＝ヤマーンは、混乱の中で彼を見分けられなかったムスリム自身によって、父が殺されるのを見ました。彼は怒ることも報復を求めることもなく、こう言いました。「**アッラーがあなたがたを赦されますように。**」 スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ は後にヤマーンのために**血の代償（ディヤ）**を支払おうとされましたが、フザイファはそれをムスリムたちに施しとして与えました。

教訓：丘の上での一つの**服従の過ち**が、戦場で命を奪う混乱を招きました。そしてフザイファのような**赦す心**は、ウフドの日の最も気高い光景の一つです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「ムハンマドは殺された！」

その混乱の中で、**噂**が広まりました。アッラーの使徒 ﷺ が殺されたというのです。スィーラ書によれば、**イブン・カミア**という多神教徒が預言者を打ち、殺したと思い込んで、その知らせを叫び広めたのです。多くの教友が気力を失い、座り込む者も、マディーナへ退く者もいました。アッラーはこう言われます。

「ムハンマドは一人の使徒に過ぎない。彼以前にも使徒たちは過ぎ去った。もし彼が死ぬか殺されたなら、あなたがたは踵を返すのか」（不信仰へ逆戻りするのか）？『タフスィール・イブン・カスィール』3:144。

この節は、より大きな日のための**備え**となりました。八年後、アッラーの使徒 ﷺ が本当に亡くなり、ウマルがそれを信じようとしなかった時、**アブー・バクル**がこの節を人々に朗誦すると、彼らはまるで初めて聞いたかのようでした（『サヒーフ・ブハーリー』3668）。

知らせを聞いた時の態度	ウフドでの例
気力を失って座り込む	教友の一部は呆然とした（スィーラ書）。
退く	一部は山やマディーナの方へ逃げた（3:153）。
戦い続ける	アナス・ブン・アン＝ナドル：「立ち上がり、預言者が命を捧げたもののために死のう」（スィーラ書）。

スィーラの注：カアブ・ブン・マーリク、預言者を見つける

スィーラ書によれば、**カアブ・ブン・マーリク** رضي الله عنه は、噂の後に最初にアッラーの使徒 ﷺ を見つけた人でした。兜の下で**預言者の両目が輝いている**のを見て、彼は叫びました。「ムスリムたちよ、喜べ！アッラーの使徒 ﷺ はここにおられる！」預言者は、敵に居場所を知られないよう、黙るように合図されました。

教友たちは再び預言者の周りに集まり、**ウフドの山腹**へと移動しました。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』ウフドの戦いの章。

教訓：私たちが崇拝するのは**永遠に生きておられるアッラー**であって、人間ではありません。たとえその人間が、私たちが最も愛する使徒であってもです。この宗教は、それを伝えた方が去った後も残り続けます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの向こうの楽園の香り

敗北のさなかに、一人の教友がアッラーへの**約束を果たしました**。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه が叔父について語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4048 番

أَخْبَرَنَا حَسَّانُ بْنُ حَسَّانَ، حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ طَلْحَةَ، حَدَّثَنَا حُمَيْدٌ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ عَمَّهُ، غَابَ عَنْ بَدْرٍ فَقَالَ غِبْتُ عَنْ أَوَّلِ قِتَالِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم، لَئِنْ أَشْهَدَنِي اللَّهُ مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم لَيَرَيَنَّ اللَّهُ مَا أَجِدُّ. فَلَقِيَ يَوْمَ أُحُدٍ، فَهُزِمَ النَّاسُ فَقَالَ اللَّهُمَّ إِنِّي أَعْتَذِرُ إِلَيْكَ مِمَّا صَنَعَ هَؤُلاَءِ ـ يَعْنِي الْمُسْلِمِينَ ـ وَأَبْرَأُ إِلَيْكَ مِمَّا جَاءَ بِهِ الْمُشْرِكُونَ. فَتَقَدَّمَ بِسَيْفِهِ فَلَقِيَ سَعْدَ بْنَ مُعَاذٍ فَقَالَ أَيْنَ يَا سَعْدُ إِنِّي أَجِدُ رِيحَ الْجَنَّةِ دُونَ أُحُدٍ. فَمَضَى فَقُتِلَ، فَمَا عُرِفَ حَتَّى عَرَفَتْهُ أُخْتُهُ بِشَامَةٍ أَوْ بِبَنَانِهِ، وَبِهِ بِضْعٌ وَثَمَانُونَ مِنْ طَعْنَةٍ وَضَرْبَةٍ وَرَمْيَةٍ بِسَهْمٍ.

訳：

アナス رضى الله عنه は、叔父（アナス・ブン・アン＝ナドル）がバドルに参加できず、こう言ったと伝えています。「**私は預言者 ﷺ の最初の戦いに居合わせなかった。もしアッラーが預言者 ﷺ と共に戦うことを私に許されるなら、私が何をするかをアッラーは必ずご覧になるだろう。**」彼はウフドの日に参戦した。人々が退いた時、彼は言った。「**アッラーよ、彼ら（ムスリム）がしたことについてあなたにお詫びし、彼ら（多神教徒）がしたことから私は無縁であることを表明します。**」彼は剣を手に進み、サアド・ブン・ムアーズに出会って言った。「**どこへ行くのか、サアドよ。私はウフドの向こうに楽園の香りをかいでいる。**」彼は殺されるまで進み続けた。彼の姉妹が、ほくろか指先によって見分けるまで、誰も彼だと分からなかった。**その体には、突き傷、切り傷、矢傷が八十以上あった。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ハッサーン・ブン・ハッサーン ← ムハンマド・ブン・タルハ ← フマイド（アッ＝タウィール） ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4048 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4048

アナスによれば、教友たちは次の節が彼や彼のような人々について啓示されたと考えていました（『サヒーフ・ブハーリー』2805）。**「信仰者たちの中には、アッラーと交わした約束に誠実であった者たちがいる」**『タフスィール・イブン・カスィール』33:23。

アナス・ブン・アン＝ナドルはバドルを逃したことを悔やみ、自分が何をするかをアッラーがご覧になると**約束しました**。ウフドで他の者が退いた時、彼は進み出て**楽園の香りをかぎました**。八十を超える傷は、彼が少しも背を向けなかったことを示しています。

教訓：善行の機会を一つ逃したとしても、絶望してはなりません。**次の機会に向けて決意し**、その決意を誠実に果たすのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

砦で囲まれたアッラーの使徒 ﷺ

多くの教友が退いた時、アッラーの使徒 ﷺ のもとには**わずかな**教友だけが残りました。彼らは自らの体を預言者の盾としたのです。アナス رضى الله عنه は**アブー・タルハ**について語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4064 番

حَدَّثَنَا أَبُو مَعْمَرٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَارِثِ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا كَانَ يَوْمُ أُحُدٍ انْهَزَمَ النَّاسُ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَأَبُو طَلْحَةَ بَيْنَ يَدَيِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مُجَوِّبٌ عَلَيْهِ بِحَجَفَةٍ لَهُ، وَكَانَ أَبُو طَلْحَةَ رَجُلاً رَامِيًا شَدِيدَ النَّزْعِ، كَسَرَ يَوْمَئِذٍ قَوْسَيْنِ أَوْ ثَلاَثًا، وَكَانَ الرَّجُلُ يَمُرُّ مَعَهُ بِجَعْبَةٍ مِنَ النَّبْلِ فَيَقُولُ انْثُرْهَا لأَبِي طَلْحَةَ. قَالَ وَيُشْرِفُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَنْظُرُ إِلَى الْقَوْمِ، فَيَقُولُ أَبُو طَلْحَةَ بِأَبِي أَنْتَ وَأُمِّي، لاَ تُشْرِفْ يُصِيبُكَ سَهْمٌ مِنْ سِهَامِ الْقَوْمِ، نَحْرِي دُونَ نَحْرِكَ. وَلَقَدْ رَأَيْتُ عَائِشَةَ بِنْتَ أَبِي بَكْرٍ وَأُمَّ سُلَيْمٍ، وَإِنَّهُمَا لَمُشَمِّرَتَانِ أَرَى خَدَمَ سُوقِهِمَا تَنْقُزَانِ الْقِرَبَ عَلَى مُتُونِهِمَا، تُفْرِغَانِهِ فِي أَفْوَاهِ الْقَوْمِ ثُمَّ تَرْجِعَانِ فَتَمْلآَنِهَا، ثُمَّ تَجِيئَانِ فَتُفْرِغَانِهِ فِي أَفْوَاهِ الْقَوْمِ، وَلَقَدْ وَقَعَ السَّيْفُ مِنْ يَدَىْ أَبِي طَلْحَةَ إِمَّا مَرَّتَيْنِ وَإِمَّا ثَلاَثًا.

訳：

アナス رضى الله عنه は言いました。**ウフドの日、人々は退いて預言者 ﷺ から離れたが、アブー・タルハは預言者 ﷺ の前に立ち、革の盾で預言者を守っていた。** アブー・タルハは優れた弓の名手で、その日、弓を二、三張りも折った。矢筒を持った人が通るたびに、預言者 ﷺ は「アブー・タルハのために撒いてやれ」と言われた。預言者 ﷺ が敵を見ようと身を乗り出すと、アブー・タルハは言った。「**私の父母をあなたの身代わりに！身を乗り出さないでください。彼らの矢に当たってしまいます。私の胸をあなたの胸の盾にさせてください。**」私は、アブー・バクルの娘アーイシャとウンム・スライムが衣の裾をたくし上げ、背中に水袋を背負って、（傷ついた）人々の口に水を注ぎ、ま

た戻って水を満たしては注ぐのを見た。アブー・タルハの手からは、剣が二度か三度落ちた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・マアマル ← アブドゥルワーリス ← アブドゥルアズィーズ（・ブン・スハイブ） ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4064 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4064

タルハの手と七人のアンサール

カイス・ブン・アビー・ハーズィムは言いました。「**私はタルハの手が動かなくなっているのを見た。彼はウフドの日、その手で預言者 ﷺ を守ったのである。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4063）。タルハ・ブン・ウバイディッラーは、預言者に向けられた矢や剣を自らの手で受け止めたのです。

アナス・ブン・マーリクはまた、その時アッラーの使徒 ﷺ のもとには**七人のアンサールと二人のクライシュ族**しか残っていなかったと伝えています。敵が迫ると、預言者は言われました。「**彼らを私たちから追い払う者には楽園がある——あるいは、楽園での私の仲間となる。**」 一人のアンサールが進み出て戦い、殺されると、また一人が進み出て、ついに七人全員が倒れました（『サヒーフ・ムスリム』1789）。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ への愛は、言葉だけのものではありません。アブー・タルハ、タルハ、そして七人のアンサールは、それを自らの**胸と手と命**で証明したのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「射よ、サアドよ！」

アッラーの使徒 ﷺ のそばに踏みとどまった弓兵の中に、**サアド・ブン・アビー・ワッカース** رضي الله عنه がいました。教友の中でも屈指の弓の名手です。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4055 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا مَرْوَانُ بْنُ مُعَاوِيَةَ، حَدَّثَنَا هَاشِمُ بْنُ هَاشِمٍ السَّعْدِيُّ، قَالَ سَمِعْتُ سَعِيدَ بْنَ الْمُسَيَّبِ، يَقُولُ سَمِعْتُ سَعْدَ بْنَ أَبِي وَقَّاصٍ، يَقُولُ نَثَلَ لِي النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم كِنَانَتَهُ يَوْمَ أُحُدٍ فَقَالَ ارْمِ فِدَاكَ أَبِي وَأُمِّي.

訳：

サアド・ブン・アビー・ワッカース رضي الله عنه は言いました。**ウフドの日、預言者 ﷺ は私のために矢筒から矢を取り出して言われた。「射よ！私の父母をあなたの身代わりに。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド ← マルワーン・ブン・ムアーウィヤ ← ハーシム・ブン・ハーシム・アッ＝サアディー ← サイード・ブン・アル＝ムサイイブ ← サアド・ブン・アビー・ワッカース رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4055 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4055

アリー・ブン・アビー・ターリブ رضي الله عنه は言いました。「**私は、預言者 ﷺ がサアド・ブン・マーリク以外の誰かのために、ご自分の父母を（身代わりとして）口にされるのを聞いたことがない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4059）。「**私の父母をあなたの身代わりに**」という言葉は、アラビア語における最高の敬意の表現です。

白い衣の二人の男

サアドはまた言いました。「**ウフドの日、私はアッラーの使徒 ﷺ と共に、預言者を守って戦う二人の男を見た。彼らは白い衣をまとい、激しく戦っていた。私は彼らをその前にも後にも見たことがない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4054）。イマーム・ムスリムはその伝承の中で、彼らが**ジブリールとミーカーイール**であったと述べています。

サアド自身はこう言っていました。「**私はアッラーの道で矢を放った最初のアラブ人である。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3728）。彼は楽園を約束された十人の教友の一人であり、後にイラクの開放を指揮しました。

教訓：最も苦しい時にも、アッラーはご自分の使徒を見捨てられませんでした。弓術のような**技能**も、アッラーのために用いられる時、アッラーの使徒 ﷺ からの称賛の理由となるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

傷を負われたアッラーの使徒 ﷺ

ウフドの日、アッラーの使徒 ﷺ ご自身も**負傷されました**。サフル・ブン・サアド رضى الله عنه は預言者の傷について尋ねられました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4075 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا يَعْقُوبُ، عَنْ أَبِي حَازِمٍ، أَنَّهُ سَمِعَ سَهْلَ بْنَ سَعْدٍ، وَهُوَ يُسْأَلُ عَنْ جُرْحِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ أَمَا وَاللَّهِ إِنِّي لأَعْرِفُ مَنْ كَانَ يَغْسِلُ جُرْحَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَمَنْ كَانَ يَسْكُبُ الْمَاءَ وَبِمَا دُووِيَ ـ قَالَ كَانَتْ فَاطِمَةُ ـ عَلَيْهَا السَّلاَمُ ـ بِنْتُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم تَغْسِلُهُ وَعَلِيٌّ يَسْكُبُ الْمَاءَ بِالْمِجَنِّ، فَلَمَّا رَأَتْ فَاطِمَةُ أَنَّ الْمَاءَ لاَ يَزِيدُ الدَّمَ إِلاَّ كَثْرَةً أَخَذَتْ قِطْعَةً مِنْ حَصِيرٍ، فَأَحْرَقَتْهَا وَأَلْصَقَتْهَا فَاسْتَمْسَكَ الدَّمُ، وَكُسِرَتْ رَبَاعِيَتُهُ يَوْمَئِذٍ، وَجُرِحَ وَجْهُهُ، وَكُسِرَتِ الْبَيْضَةُ عَلَى رَأْسِهِ.

訳：

アブー・ハーズィムは、サフル・ブン・サアド رضى الله عنه がアッラーの使徒 ﷺ の傷について尋ねられ、こう答えるのを聞きました。「**アッラーにかけて、私は誰がアッラーの使徒 ﷺ の傷を洗い、誰が水を注ぎ、何で手当てされたかを知っている。** アッラーの使徒 ﷺ の娘ファーティマがそれを洗い、アリー・ブン・アビー・ターリブが盾で水を注いだ。ファーティマは、水がかえって出血を増やすのを見ると、ござの切れ端を取って燃やし、その灰を傷に当てて血を止めた。**その日、預言者の犬歯は折れ、顔は傷つき、兜は頭の上で砕けた。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ヤアクーブ（・ブン・アブドゥッラフマーン） ← アブー・ハーズィム ← サフル・ブン・サアド رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4075 番。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：246 / 567

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4075

「どうして民が成功できようか……」

アナス رضي الله عنه は、預言者が顔の血をぬぐいながらこう言われたと伝えています。**「自分たちの預言者を傷つけ、その歯を折った民が、どうして成功できようか。彼は彼らをアッラーへと招いているというのに。」** そこでアッラーは次の節を啓示されました（『サヒーフ・ムスリム』1791）。

「（ムハンマドよ）その事柄について、あなたには何の権限もない」『タフスィール・イブン・カスィール』3:128。

この節は、人々の運命がアッラーの御手にあることを教えています。実際、ウフドで預言者と戦った多くの者――**ハーリド・ブン・アル＝ワリード、アムル・ブン・アル＝アース、アブー・スフヤーン**など――は、後にイスラームに入り、この宗教の守り手となりました。

スィーラの注：ウバイ・ブン・ハラフ

スィーラ書によれば、マッカの多神教徒**ウバイ・ブン・ハラフ**は、自分の馬でアッラーの使徒 ﷺ を殺すと誓っていました。ウフドの日、彼は預言者に向かって突進しました。アッラーの使徒 ﷺ は一人の教友から槍を受け取り、彼の首に小さな傷を負わせました。ウバイは痛みに叫びながら引き返し、マッカへの帰途で死にました。

学者たちは、ウバイこそが**唯一の人物**であり、アッラーの使徒 ﷺ がご自身の手で殺した者だと述べています。次のアブー・フライラのハディースは、**「アッラーの使徒 ﷺ がアッラーの道で殺した男」**に対するアッラーの激しい怒りに触れています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；『サヒーフ・ブハーリー』4073。https://sunnah.com/bukhari:4073

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・フライラ رضي الله عنه は、預言者がご自分の歯を指さしながら「ご自分の預言者にこのようなことをした民に対するアッラーの怒りは激しい」と言われたと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』4073）。教訓：アッラーの使徒 ﷺ は他の人間と同じように痛みを感じられましたが、それでもご自分の民が導かれることを望み続けられました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

悲しみの後のまどろみ

敗北の後、ムスリム軍の生き残りは**ウフド山の山腹**で、アッラーの使徒 ﷺ のもとに集まりました。アッラーはその様子をこう描かれます。

「あなたがたが誰にも振り向かずに逃げ登っていた時のこと。使徒は後方からあなたがたを呼んでいた」『タフスィール・イブン・カスィール』3:153。

それからアッラーは驚くべき安らぎを下されました。**「その悲しみの後、アッラーはあなたがたに安心を下された。それはあなたがたの一部を包むまどろみであった」**『タフスィール・イブン・カスィール』3:154。

アブー・タルハ رضي الله عنه は言いました。**「私はまどろみに包まれた者の一人で、剣が何度も手から落ちた。落ちては拾い、また落ちては拾った。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4068）。

二つの集団（3:154）	その状態
誠実な信仰者	まどろみに包まれる――アッラーからの安心の印。
自分のことばかり考える者	眠れず、アッラーについて悪い想像をする。

アッラーが安らぎとしてまどろみを下されたのは、バドルの夜（戦利品章 8:11）に続いて二度目です。教訓：**確信のある心**は危険の中でも休むことができますが、疑う心は安全な時でも落ち着きません。

丘の上のアブー・スフヤーン

戦いが静まると、**アブー・スフヤーン**は高い所に登り、アッラーの使徒 ﷺ、アブー・バクル、ウマルがまだ生きているかを確かめようと呼びかけました。そのやりとりはバラーウのハディース（第 5 章）に記録されています。

アブー・スフヤーン	ムスリムの返答
「お前たちの中にムハンマドはいるか？」	沈黙——預言者の命令「彼に答えるな」による。
「彼らは皆殺された。」	ウマル：「嘘をつけ、アッラーの敵よ！」
「フバルよ、高くあれ！」	「アッラーこそ至高にして至大。」
「我らにはウッザーがいる。お前たちにはウッザーはいない。」	「アッラーは私たちの守護者、お前たちに守護者はいない。」
「今日はバドルの日の報いだ。」	（スィーラ書：ウマルは答えた。「同じではない。我々の死者は楽園に、お前たちの死者は火獄にいる。」）

注目してください。アッラーの使徒 ﷺ は、問いがご自身と教友に関わる時には**沈黙を守られ**ましたが、アブー・スフヤーンが**偶像を称えた**時には、すぐに答えるよう命じられました。アッラーの栄誉は、自らの身の安全よりも優先されるのです。

教訓：敗れて傷ついた状況にあっても、**タウヒード（神の唯一性）**を貶めることは許されません。そして「フバルよ、高くあれ」と叫んだこのアブー・スフヤーンも、後にマッカ開放の日にイスラームに入りました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムスアブ・ブン・ウマイル

ムスアブ・ブン・ウマイル رضى الله عنه は、かつてマッカで美しい衣と香水に包まれて裕福に暮らしたクライシュ族の若者でした。イスラームに入った後、彼はそのすべてを捨て、ヒジュラの前にマディーナへ遣わされた**イスラームの最初の使節**となり、ウフドの日には殉教するまで**ムスリムの旗**を掲げていました（スィーラ書）。ハッバーブ رضى الله عنه は彼の死装束について語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4047 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ يُونُسَ، حَدَّثَنَا زُهَيْرٌ، حَدَّثَنَا الأَعْمَشُ، عَنْ شَقِيقٍ، عَنْ خَبَّابٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ هَاجَرْنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم نَبْتَغِي وَجْهَ اللَّهِ، فَوَجَبَ أَجْرُنَا عَلَى اللَّهِ، وَمِنَّا مَنْ مَضَى أَوْ ذَهَبَ لَمْ يَأْكُلْ مِنْ أَجْرِهِ شَيْئًا، كَانَ مِنْهُمْ مُصْعَبُ بْنُ عُمَيْرٍ قُتِلَ يَوْمَ أُحُدٍ، لَمْ يَتْرُكْ إِلاَّ نَمِرَةً، كُنَّا إِذَا غَطَّيْنَا بِهَا رَأْسَهُ خَرَجَتْ رِجْلاَهُ، وَإِذَا غُطِّيَ بِهَا رِجْلاَهُ خَرَجَ رَأْسُهُ، فَقَالَ لَنَا النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم غَطُّوا بِهَا رَأْسَهُ، وَاجْعَلُوا عَلَى رِجْلِهِ الإِذْخِرَ ـ أَوْ قَالَ أَلْقُوا عَلَى رِجْلِهِ مِنَ الإِذْخِرِ. وَمِنَّا مَنْ قَدْ أَيْنَعَتْ لَهُ ثَمَرَتُهُ فَهُوَ يَهْدِبُهَا.

訳：

ハッバーブ رضى الله عنه は言いました。**私たちはアッラーの御顔を求めてアッラーの使徒 ﷺ と共に移住した。それゆえ私たちの報奨はアッラーの御許で確かである。私たちの中には、（この世で）その報いを少しも味わわずに亡くなった者がいる。その一人がムスアブ・ブン・ウマイルで、ウフドの日に殺され、一枚の縞模様の毛織物しか残さなかった。** 頭を覆えば足が出て、足を覆えば頭が出た。そこで預言者 ﷺ は言われた。「**その布で頭を覆い、足にはイズヒル草を置きなさい。**」また私たちの中には、実が熟し、それを摘んでいる者もいる。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ユーヌス ← ズハイル ← アル＝アアマシュ ← シャキーク（アブー・ワーイル） ← ハッバーブ・ブン・アル＝アラット رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4047 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4047

アブドッラフマーン・ブン・アウフの涙

何年も後、裕福な教友**アブドッラフマーン・ブン・アウフ**の前に食事が出された時、彼は言いました。「**ムスアブ・ブン・ウマイルは殺された。彼は私より優れていたのに、彼を包むものは一枚の布しかなかった……。私たちの善行の報いが、この世で先に与えられてしまったのではないかと恐れる。**」 そして彼は泣きました（『サヒーフ・ブハーリー』1274）。

バラーウ・ブン・アーズィブ رضي الله عنه は言いました。「**最初に（マディーナの）私たちのもとに来たのは、ムスアブ・ブン・ウマイルとイブン・ウンム・マクトゥームであった。彼らは人々にクルアーンを教えた。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3925）。彼がマディーナに蒔いたイスラームの種は、ウフドでアッラーの使徒 ﷺ を守ったアンサールとして実を結んだのです。

教訓：ムスアブは現世の豊かさを捨て、十分な一枚の布すらなく去りました。しかし**その報奨は余すところなく**アッラーの御許に蓄えられています。本当の豊かさとは、残していくものではなく、携えていくものなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

殉教者たちの埋葬

およそ**七十**人の教友がウフドで殉教しました（第 5 章）。疲れ果て傷ついたムスリムたちは、その戦場で彼らを埋葬しなければなりませんでした。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما が語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1343 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، قَالَ حَدَّثَنِي ابْنُ شِهَابٍ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ كَعْبِ بْنِ مَالِكٍ، عَنْ جَابِرِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَجْمَعُ بَيْنَ الرَّجُلَيْنِ مِنْ قَتْلَى أُحُدٍ فِي ثَوْبٍ وَاحِدٍ ثُمَّ يَقُولُ أَيُّهُمْ أَكْثَرُ أَخْذًا لِلْقُرْآنِ. فَإِذَا أُشِيرَ لَهُ إِلَى أَحَدِهِمَا قَدَّمَهُ فِي اللَّحْدِ وَقَالَ أَنَا شَهِيدٌ عَلَى هَؤُلاَءِ يَوْمَ الْقِيَامَةِ. وَأَمَرَ بِدَفْنِهِمْ فِي دِمَائِهِمْ، وَلَمْ يُغَسَّلُوا وَلَمْ يُصَلَّ عَلَيْهِمْ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما は言いました。**預言者 ﷺ はウフドの殉教者を二人ずつ一枚の布にまとめ、「この中でクルアーンをより多く覚えていたのはどちらか？」と尋ねられた。** そのうちの一人が示されると、預言者はその者を墓穴の中で先にし、こう言われた。**「私は審判の日に彼らの証人となる。」** 預言者は、彼らを血のついたまま埋葬するよう命じられた。彼らは洗われず、葬儀の礼拝もされなかった。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← アッ＝ライス ← イブン・シハーブ ← アブドゥッラフマーン・ブン・カアブ・ブン・マーリク ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』葬儀の書、殉教者への礼拝の章、ハディース第 1343 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1343

戦場の殉教者に関する規定	根拠
洗わない	血のついたまま埋葬する（ブハーリー 1343）。
自分の衣で包む	不足のため二人を一枚の布で（ブハーリー 1343）。
クルアーンの民を先に	「クルアーンをより多く覚えていたのは誰か？」（ブハーリー 1343）。
アッラーの使徒 ﷺ が証人となる	「私は審判の日に彼らの証人となる。」

スィーラの注：ハムザを悼むアッラーの使徒 ﷺ の悲しみ

スィーラ書によれば、**ハムザ**の遺体は多神教徒によって損なわれ、ヒンド・ビント・ウトバがその肝臓を噛んだとも言われています。アッラーの使徒 ﷺ は叔父の姿を見て深く悲しまれました。アブー・スフヤーン自身も、バラーウのハディースの中でこう認めています。「**お前たちは（遺体の）損傷を見つけるだろうが、私が命じたものではない。**」（ブハーリー 4043、伝承 3039）。

ヒンドについての詳細はスィーラ書に、一部は『ムスナド・アフマド』に伝えられています。**ヒンドは後にイスラームに入りました。**マッカ開放の日のことです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；『サヒーフ・ブハーリー』3039。https://sunnah.com/bukhari:3039

一部の家族は殉教者の遺体をマディーナへ運びましたが、アッラーの使徒 ﷺ は彼らを**倒れた場所に戻して埋葬する**よう命じられました。これは『スナン・アビー・ダーウード』とティルミズィーにあるジャービルの伝承です。そのため、ウフドの殉教者たちの墓は今日もその山の麓にあり、その中には**ハムザ**の墓もあります。アル＝ハーキムの伝承では、彼は「**殉教者たちの長**」と呼ばれています。

教訓：悲しみと疲れの中にあっても、アッラーの使徒 ﷺ はなお**クルアーンの民を重んじられました。**墓の中でさえ、彼らが先にされたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ジャービルの父と天使の陰

ウフドの殉教者の一人に、ジャービルの父**アブドゥッラー・ブン・アムル・ブン・ハラーム**がいました。彼は九人の娘と借金を残しました。ジャービル رضي الله عنهما は父の遺体を見た時のことを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1244 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، قَالَ سَمِعْتُ مُحَمَّدَ بْنَ الْمُنْكَدِرِ، قَالَ سَمِعْتُ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ لَمَّا قُتِلَ أَبِي جَعَلْتُ أَكْشِفُ الثَّوْبَ عَنْ وَجْهِهِ أَبْكِي، وَيَنْهَوْنِي عَنْهُ وَالنَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لاَ يَنْهَانِي، فَجَعَلَتْ عَمَّتِي فَاطِمَةُ تَبْكِي، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم تَبْكِينَ أَوْ لاَ تَبْكِينَ، مَا زَالَتِ الْمَلاَئِكَةُ تُظِلُّهُ بِأَجْنِحَتِهَا حَتَّى رَفَعْتُمُوهُ. تَابَعَهُ ابْنُ جُرَيْجٍ أَخْبَرَنِي ابْنُ الْمُنْكَدِرِ سَمِعَ جَابِرًا ـ رضى الله عنه ـ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما は言いました。**（ウフドで）父が殺された時、私は泣きながら父の顔を覆う布を取った。人々は私を止めたが、預言者 ﷺ は止められなかった。** それから叔母のファーティマも泣いた。預言者 ﷺ は言われた。「**あなたが泣いても泣かなくても、あなたがたが彼を運び上げるまで、天使たちはずっと翼で彼を覆っていた。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← グンダル ← シュウバ ← ムハンマド・ブン・アル＝ムンカディル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما；またイブン・ジュライジ ← イブン・アル＝ムンカディル ← ジャービルによる裏付けもある。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』葬儀の書、ハディース第 1244 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1244

アッラーは殉教者についてこう言われます。「**アッラーの道で殺された者たちを、死んだと思ってはならない。いや、彼らは主の御許で生きており、糧を与えられている**」『タフスィール・イブン・カスィール』3:169。

スィーラの注：「アッラーがあなたの父に語りかけられた」

ティルミズィーの伝承（第 3010 番、ハサンと評価）によれば、アッラーの使徒 ﷺ は悲しむジャービルに尋ねられました。「アッラーがあなたの父に何と言われたか、知らせようか？」アッラーは帳を隔てずに彼に語りかけ、「願え。与えよう」と言われました。彼は願いました。「私を生き返らせてください。もう一度あなたのために殺されるように。」アッラーは言われました。「彼らが（現世に）戻ることはないと、私はすでに定めている。」そこで彼は、自分たちのことを生きている人々に伝えてほしいと願い、3:169 の節が啓示されたのです。

参照：

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3010（ハサン）。https://sunnah.com/tirmidhi:3010

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**ジャービルが泣くのを止められませんでした**。失ったことへの涙は人間の本性です。しかし預言者はその悲しみを吉報で癒されました。天使たちが彼の父を覆い、殉教者たちは主の御許で生きているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの戦場の女性たち

ムスリムの女性たちもウフドにいました。クライシュ族の女性たちのように戦いを煽るためではなく、傷ついた人々に**水を与え、手当てをする**ためでした。アナス رضي الله عنه は、**アーイシャとウンム・スライム**が背中に水袋を背負い、傷ついた戦士たちの口に何度も水を注ぐのを見ました（第 12 章、ブハーリー 4064）。

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضي الله عنه はカリフであった時、マディーナの女性たちに衣を分け与えました。一着の上等な衣が残り、ある人がそれをアッラーの使徒 ﷺ の孫娘であるウマルの妻に与えてはどうかと提案しました。ウマルは言いました。**「ウンム・サリートの方がふさわしい。彼女はウフドの日、私たちのために水袋を運んでくれたのだ。」**（『サヒーフ・ブハーリー』2881）。

スィーラの注：ウンム・ウマーラ（ヌサイバ・ビント・カアブ）

スィーラ書によれば、アンサールの**ウンム・ウマーラ**は水を与えるために出陣しましたが、ムスリムが退いた時、**剣と弓でアッラーの使徒** ﷺ を守り、多くの傷を負いました。この伝承はイブン・サアドの『タバカート』とスィーラ書で有名ですが、『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』には見られません。

参照：

イブン・サアド『大タバカート』；イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』。

スィーラの注：サフィーヤの忍耐

スィーラ書と『ムスナド・アフマド』によれば、ハムザの姉妹**サフィーヤ・ビント・アブドゥルムッタリブ**が兄弟の遺体を見に来ました。アッラーの使徒 ﷺ は彼女の息子**アッ＝ズバイル**に、遺体の様子を見せないよう彼女を引き留めるよう頼まれました。サフィーヤは言いました。「兄弟に起こったことは聞きました。それはアッラーのためです。私は忍耐し、報奨を望みます。インシャー・アッラー。」

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

彼女はハムザを包むために二枚の布を持って来ました。ハムザのそばには、包む布のない殉教したアンサールの男がもう一人いたので、その布はくじで二人の間に分けられました。

参照：
『ムスナド・アフマド』；イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』。

教訓：水を運ぶという小さな奉仕が、何年も後にウマルによって**覚えられて**いました。アッラーの御許では、小さな貢献など一つもないのです。

ハムラー・アル＝アサド

翌日、アッラーの使徒 ﷺ は、クライシュ族が引き返してマディーナを攻めることを案じられました。預言者は、前日に傷を負った者たちに、再び出陣して敵を追うよう呼びかけられました。アーイシャ رضى الله عنها が語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4077 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدٌ، حَدَّثَنَا أَبُو مُعَاوِيَةَ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ {الَّذِينَ اسْتَجَابُوا لِلَّهِ وَالرَّسُولِ مِنْ بَعْدِ مَا أَصَابَهُمُ الْقَرْحُ لِلَّذِينَ أَحْسَنُوا مِنْهُمْ وَاتَّقَوْا أَجْرٌ عَظِيمٌ} قَالَتْ لِعُرْوَةَ يَا ابْنَ أُخْتِي كَانَ أَبُوكَ مِنْهُمُ الزُّبَيْرُ وَأَبُو بَكْرٍ، لَمَّا أَصَابَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَا أَصَابَ يَوْمَ أُحُدٍ، وَانْصَرَفَ عَنْهُ الْمُشْرِكُونَ خَافَ أَنْ يَرْجِعُوا قَالَ مَنْ يَذْهَبُ فِي إِثْرِهِمْ. فَانْتَدَبَ مِنْهُمْ سَبْعُونَ رَجُلاً، قَالَ كَانَ فِيهِمْ أَبُو بَكْرٍ وَالزُّبَيْرُ.

訳：

「傷を負った後にもアッラーと使徒の呼びかけに応えた者たち」（イムラーン家章 3:172）という節について、アーイシャ رضى الله عنها はウルワに言いました。**「甥よ、あなたの父ズバイルとアブー・バクルは彼らの中にいた。ウフドの日にアッラーの使徒 ﷺ が災難に遭われ、多神教徒たちが去った時、預言者は彼らが戻って来るのを恐れて言われた。『誰が彼らの跡を追うか？』すると彼らのうち七十人が応えた。」** その中にアブー・バクルとズバイルがいたのです。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド（・ブン・サラーム）← アブー・ムアーウィヤ ← ヒシャーム（・ブン・ウルワ）← 父 ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4077 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4077

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「その知らせは彼らの信仰を増し、彼らは言った。『アッラーは私たちにとって十分であり、最良の管理者である』」（私たちのすべての事柄を委ねる方）」『タフスィール・イブン・カスィール』3:173。

スィーラの注：ハムラー・アル＝アサドの部隊

スィーラ書によれば、ムスリム軍はマディーナから約 13 キロメートルの**ハムラー・アル＝アサド**まで進み、多くのかがり火を焚いて三日間そこに野営しました。その知らせを聞いたアブー・スフヤーンは、再び攻める**意図を捨て**、マッカへ帰って行きました。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；ウィキペディア「Battle of Uhud」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Uhud

アッラーはその話を称賛で締めくくられます。**「彼らはアッラーからの恵みと恩寵を携えて帰り、何の災いも彼らに触れなかった」**『タフスィール・イブン・カスィール』3:174。

教訓：敗北は**絶望**を意味しません。まだ癒えない傷を負いながら、教友たちはアッラーと使徒の呼びかけに応えました。そして「ハスブナッラーフ・ワ・ニウマル・ワキール（アッラーは私たちにとって十分であり、最良の管理者である）」は、脅威に直面した信仰者の唱え言葉となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「ウフドは私たちを愛する」

ウフドは大きな悲しみの場となりましたが、アッラーの使徒 ﷺ はその山を嫌われませんでした。それどころか、こう言われました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4083 番

حَدَّثَنِي نَصْرُ بْنُ عَلِيٍّ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَبِي، عَنْ قُرَّةَ بْنِ خَالِدٍ، عَنْ قَتَادَةَ، سَمِعْتُ أَنَسًا ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ هَذَا جَبَلٌ يُحِبُّنَا وَنُحِبُّهُ.

訳：

アナス رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。「**これ（ウフド）は私たちを愛し、私たちも愛する山である。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ナスル・ブン・アリー ← 父 アリー・ブン・ナスル ← クッラ・ブン・ハーリド ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、「ウフドは私たちを愛する」の章、ハディース第 4083 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4083

ウクバ・ブン・アーミル رضى الله عنه は、ウフドから**八年**後、アッラーの使徒 ﷺ がまるで生者と死者に別れを告げるかのようにウフドの殉教者たちのために祈られたと伝えています。それから預言者は説教壇に上がって言われました。「**私の亡き後、あなたがたがアッラーに並ぶものを置くことを私は恐れない。しかし現世があなたがたを誘惑し、あなたがたがそれを競い求めることを恐れる。**」 ウクバは言いました。それが、私がアッラーの使徒 ﷺ を見た最後でした（『サヒーフ・ブハーリー』4042）。

アナス رضى الله عنه はまた、預言者 ﷺ がアブー・バクル、ウマル、ウスマーンと共にウフドに登られた時、山が揺れたと伝えています。預言者は言われました。「**静ま**

れ、ウフドよ！あなたの上にいるのは、一人の預言者と、一人の誠実な者（スィッディーク）と、二人の殉教者だけである。」（『サヒーフ・ブハーリー』3675）。まさにその通り、ウマルとウスマーンは後に殉教者として亡くなりました。

ウフドについての預言者の最後の警告は、同じ教訓に戻っていきます。**現世の誘惑**です。ウフドでは弓兵たちが戦利品のために下りました。そして預言者は、ご自分の共同体が別の形で同じ過ちを繰り返すことを恐れられたのです。

教訓：試練と悲しみを見届けた場所も、**愛され**続けることができます。ウフドは殉教者たちの忍耐の証人となり、アッラーの使徒 ﷺ がこの山を愛されたことは、試練を満ち足りた目で見ることを私たちに教えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの物語の典拠

ウフドの物語は、等級の異なる三種類の典拠を通して私たちに伝わっています。この電子書籍は、読者が**何が確かなのか**と**何が有名なのか**を見分けられるよう、三つを区別しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの物語の典拠

クルアーン（6）

- 二つの集団が怯みかけた（3:122）
- 「ムハンマドは一人の使徒に過ぎない」（3:144）
- 争い、背いた（3:152）
- 悲しみの後のまどろみ（3:154）
- 「それはあなたがた自身から」（3:165）
- 殉教者は主の御許で生きている（3:169）

真正なハディース（9）

- 剣と牛の夢
- 偽信者の離脱
- 弓兵への命令；アブー・スフヤーン
- 悪魔の叫び；ヤマーン
- アナス・ブン・アン＝ナドル；楽園の香り
- アブー・タルハ、サアド、タルハ；預言者の傷
- ムスアブ；殉教者の埋葬；ジャービルの父
- ワフシーとハムザ
- ハムラー・アル＝アサド；「ウフドは私たちを愛する」

スィーラ書（4）

- 丘の背後のハーリドの騎兵隊
- 預言者を守ったウンム・ウマーラ
- ヒンドとハムザの遺体
- 兵力と馬の数

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：この電子書籍におけるウフドの物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
二つの集団；序盤の勝利；死の噂；まどろみ	クルアーン（イムラーン家章 3:122、144、152–154）——確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：264 / 567

物語	典拠と等級
弓兵；アブー・スフヤーン；イブリース；アナス・ブン・アン＝ナドル	『サヒーフ・ブハーリー』4043、4065、4048——真正
アブー・タルハ；サアド；預言者の傷；ワフシー	『サヒーフ・ブハーリー』4064、4055、4075、4072——真正
アブー・ドゥジャーナ；七人のアンサール	『サヒーフ・ムスリム』2470、1789——真正
アッラーがジャービルの父に語りかけられた	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3010——ハサン（良好）
鎧；「預言者にふさわしくない……」	ブハーリーのタアリーク；『ムスナド・アフマド』
丘の背後のハーリド；ウンム・ウマーラ；ヒンド；アブー・ドゥジャーナのターバン	スィーラ書（イブン・イスハーク、イブン・サアド）——有名、伝承経路はさまざま

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

戦いを望んだ若者と障害のある者

ムスリム軍がウフドへ向かう前、アッラーの使徒 ﷺ は隊列を点検されました。その中には、まだ年齢に達していない少年たちもいれば、体の不自由な年配者もいました。この二つの集団は、信仰がマディーナの社会にどれほど深く浸透していたかを示しています。若い者は時が来る前に加わろうとし、体の不自由な者は免除が与えられていても座していることを拒んだのです。

アブドゥッラー・ブン・ウマル：十四歳で断られる

ハディース：十四歳と十五歳

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は、ウフドの日に十四歳でアッラーの使徒 ﷺ の前に連れて行かれたが、（戦うことを）許されなかったと言いました。その後、ハンダクの日に十五歳で連れて行かれると、許されたのです。

ナーフィウは言いました。私はこのハディースを、カリフであったウマル・ブン・アブドゥルアズィーズに伝えた。彼は「これが子どもと大人の境目である」と言い、総督たちに、十五歳に達した者には俸給を与えるよう書き送った。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』2664；『サヒーフ・ムスリム』1868。

このハディースは、他の兆候がまだはっきりしない場合の成人年齢について、イスラーム法学上の重要な根拠となっています。またアッラーの使徒 ﷺ が、人を熱意だけで評価されなかったことも示しています。イブン・ウマルの熱意は称賛に値しますが、戦場には身体的な成熟が必要です。少年を断ったことは侮辱ではなく、慈悲だったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：266 / 567

ラーフィウ・ブン・ハディージュとサムラ・ブン・ジュンドゥブ

スィーラ書（イブン・ヒシャームとタバリー）によれば、アンサールの少年ラーフィウ・ブン・ハディージュは弓の腕が優れていたため許されました。同じ年頃のサムラ・ブン・ジュンドゥブは断られ、こう言いました。「ラーフィウを許して私を断るのですか。私は相撲なら彼に勝てます。」二人が組み合うとサムラが勝ち、二人とも許されました。この話はスィーラ書で有名ですが、伝承経路はサヒーフの水準には達していないため、**スィーラ書の伝承**として挙げています。

アムル・ブン・アル＝ジャムーフ：不自由な足

アムル・ブン・アル＝ジャムーフ رضى الله عنه は、足の不自由なサラマ族の長老でした。クルアーンによれば、足の不自由な者は戦いに出なくても罪はありません（勝利章 48:17）。息子たちは彼が出陣するのを止めようとしましたが、彼はなお殉教を望みました。

ハディース：健やかな足で楽園を歩く

アブー・カターダ رضى الله عنه は、アムル・ブン・アル＝ジャムーフがアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て尋ねたと伝えています。「もし私がアッラーの道で戦って殺されたら、私はこの足で、健やかな姿で楽園を歩くことができるでしょうか？」彼の足は不自由でした。預言者は「そうだ」と答えられました。彼はウフドの日、甥と彼らの奴隷一人と共に殺されました。アッラーの使徒 ﷺ は彼の遺体のそばを通り、「あなたがこの足で、健やかな姿で楽園を歩いているのが見えるようだ」と言われました。預言者は三人を一つの墓に埋葬するよう命じられました。

等級：伝承経路はハサン（良好）— 『ムスナド・アフマド』22553。

アムル・ブン・アル＝ジャムーフは、ジャービルの父アブドゥッラー・ブン・アムルと共に埋葬されました（第 19 章）。二人は義理の兄弟であり、親しい友でもあったからです。体の不自由さは高い志を妨げません。アッラーの御許で人の価値を決めるのは、その意図と真剣さなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

ウフドは、誰にでもそれぞれの持ち場があることを教えています。今日断られた少年は明日の戦士となり、免除を与えられた体の不自由な者もより高い道を選ぶことができます。私たちにとってそれは、若者の熱意を軽んじないこと、そして体の不自由さを、まだできる分野での奉仕をやめる言い訳にしないことを意味します。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの殉教者たち

およそ七十人の教友がウフドで殉教し、その多くはアンサールでした。その一部の物語はすでに前の章で語りました。下の表は、最もよく知られた人物を、それぞれの物語の典拠と共にまとめたものです。

人物	物語の要約	典拠
ハムザ・ブン・アブドルムッタリブ	アッラーの使徒 ﷺ の叔父、「アッラーの獅子」。ワフシーの投げ槍で殺された（第 7 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』4072
ムスアブ・ブン・ウマイル	旗手。体を覆いきれない布で包まれた（第 17 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』1274
アナス・ブン・アン＝ナドル	「ウフドの向こうに楽園の香りをかぐ」。体に八十を超える傷（第 11 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』2805
アブドゥッラー・ブン・アムル（ジャービルの父）	天使の翼に覆われ、アッラーが帳を隔てずに語りかけられた（第 19 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』1244；ティルミズィー 3010
アムル・ブン・アル＝ジャムーフ	足が不自由だったが、健やかな足で楽園を歩くことを望んだ（第 24 章）。	『ムスナド・アフマド』22553（ハサン）
ハンザラ・ブン・アビー・アーミル	「天使に洗われた者（ガスィール・アル＝マラーイカ）」――その遺体は天使に洗われた。	『サヒーフ・イブン・ヒッバーン』7025（ハサン）
ウサイリム（アムル・ブン・サービト）	ウフドの日に入信し、殉教し、一度も礼拝せずに楽園に入った。	『スナン・アビー・ダーウード』2537（ハサン）
アブドゥッラー・ブン・ジュバイル	持ち場に留まり、倒れるまで戦った弓兵隊の隊長（第 5 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』4043
ヤマーン（フザイファの父）	混乱の中でムスリム自身によって殺された（第 9 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』4065

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	物語の要約	典拠
サアド・ブン・アッ＝ラビーウ	アッラーの使徒 ﷺ を守るようアンサールに託した最後の言葉。	スィーラ書（イブン・イスハーク；『ムワッタア』にムルサルとして）

ハンザラ：天使に洗われた者

ハンザラ・ブン・アビー・アーミル رضي الله عنه は、ウフドの前夜に結婚したばかりでした。出陣の呼びかけが聞こえると、彼は沐浴する間もなく大汚れ（ジュヌブ）の状態のまま急いで出て、殉教しました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「あなたがたのこの仲間は、天使たちに洗われている。」妻に尋ねると、彼女は、ハンザラが呼びかけを聞いてジュヌブのまま出て行ったと説明しました。この伝承はイブン・ヒッバーン（『サヒーフ・イブン・ヒッバーン』7025）とアル＝ハーキムが伝え、ハディース学者によって**ハサン**と評価されています。興味深いことに、彼の父アブー・アーミル「修道士（アッ＝ラーヒブ）」は、同じ日にクライシュ族の側にいました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウサイリム：一度の礼拝もなく楽園へ

ハディース：アムル・ブン・ウカイシュ

アブー・フライラ رضى الله عنه は次のように伝えています。アムル・ブン・ウカイシュはジャーヒリーヤ時代の利息の貸しがあり、それを回収するまではイスラームに入ろうとしなかった。ウフドの日、彼は親族について尋ね、皆ウフドにいると告げられた。そこで彼は鎧を着け、馬に乗って彼らのもとへ向かった。ムスリムたちは彼を見ると「アムルよ、私たちから離れていろ」と言った。彼は「私は信仰した」と答えた。彼は傷を負うまで戦い、家族のもとへ運ばれた。サアド・ブン・ムアーズは彼の姉妹を通して尋ねた。「あなたは自分の民への熱情から、彼らのための怒りから戦ったのか、それともアッラーのためか？」彼は答えた。「いや、アッラーとその使徒のためだ。」そして彼は亡くなり、楽園に入った。彼はアッラーのために一度も礼拝したことがなかった。

等級：ハサン（アルバーニー）— 『スナン・アビー・ダーウード』2537。

この話は、礼拝を軽んじてよいという根拠ではありません。行いはその終わりによって評価されることを示しているのです。ウサイリムはイスラームに入るとすぐに、礼拝の時刻が来る前に殉教しました。アブー・フライラ自身、この話に人々の注意を引くために、よく「一度も礼拝せずに楽園に入った男について話してみよ」と問いかけていました。

サアド・ブン・アッ＝ラビーウ：最後の言葉

戦いの後、アッラーの使徒 ﷺ は一人の教友を遣わして、サアド・ブン・アッ＝ラビーウ رضى الله عنه を探させました。スィーラ書によれば、彼は殉教者たちの中で息絶えようとしているところを見つかりました。彼は言い残しました。「アッラーの使徒 ﷺ に私の挨拶を伝えてくれ。そして私の民（アンサール）に言ってくれ。あなたがたの中にまばたきする目が一つでも残っているのに、アッラーの使徒 ﷺ が傷つけられるようなことがあれば、アッラーの御許であなたがたに言い訳はない、と。」サアド・ブン・アッ＝ラビーウは、マディーナでアブドゥッラフマーン・ブン・アウフ

と兄弟の契りを結んだアンサールの教友です（第 8 巻）。この最後の言葉の話は**スィーラ書の伝承**です（イブン・イスハーク；マーリクの『ムワッタア』にムルサルとして）。

教訓

ウフドの殉教者たちの背景はさまざまでした。ハムザやムスアブのようなマッカの名家の人、ハンザラのような新婚の若者、アムル・ブン・アル＝ジャムーフのような足の不自由な年配者、そしてウサイリムのように信仰してわずか数時間の人もいました。彼らを一つにしたのは、アッラーへの誠実さと、その使徒への愛でした。殉教は年齢や家柄を選びません。心を選ぶのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

戒めと赦し

ウフドは英雄の物語であるだけでなく、人間の過ちの物語でもあります。クルアーンは教友たちの過ちを隠しません。はっきりと戒めますが、同じ節の中で赦しを宣言しています。これが、この共同体の最良の世代を育てたアッラーのなさり方なのです。

アッラーが二度宣言された赦し

節	戒め	赦し
イムラーン家章 3:152	アッラーがあなたがたの好むものを見せられた後、あなたがたは気弱になり、争い、背いた。あなたがたの中には現世を望む者もいた。	「だがアッラーは確かにあなたがたを赦された。アッラーは信仰者たちに恵み深い方である。」
イムラーン家章 3:155	両軍が出会った日にあなたがたの中で背を向けた者たちは、彼らが犯した罪の一部のために、悪魔が彼らをつまずかせたのである。	「だがアッラーは確かに彼らを赦された。まことにアッラーはよく赦す方、寛容な方である。」
イムラーン家章 3:159	アッラーの使徒 ﷺ は、彼らに厳しくしないよう命じられた。	「だから彼らを赦し、彼らのために赦しを求め、物事について彼らと協議せよ。」

ウスマーンを弁護したイブン・ウマル

何年も後、ウスマーン・ブン・アッファーン رضى الله عنه に対する騒乱が広がった時、エジプトから来た一人の男が、ウスマーンを問題にしようとイブン・ウマルのもとへやって来ました。イブン・ウマルの答えは、教友たち自身がウフドの節をどう理解していたかを示す手本となっています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディース：ウスマーンについての三つの問い

男はイブン・ウマルに尋ねました。「ウスマーンがウフドの日に逃げたことを知っているか？」彼は「知っている」と答えました。男は尋ねました。「彼がバドルに参加しなかったことを知っているか？」彼は「知っている」と答えました。男はさらに尋ねました。「彼がリドワーンの誓いに居合わせなかったことを知っているか？」彼は「知っている」と答えました。すると男は（満足したかのように）「アッラーフ・アクバル」と言いました。

イブン・ウマルは言いました。「来なさい、説明しよう。彼がウフドの日に逃げたことについては、アッラーが彼を赦されたと私は証言する。彼がバドルに参加しなかったことについては、彼の妻であるアッラーの使徒 ﷺ の娘が病気だったからだ。アッラーの使徒 ﷺ は彼に『あなたにはバドルに参加した者と同じ報奨と分け前がある』と言われた。彼がリドワーンの誓いに居合わせなかったことについては、もしマッカにウスマーンより尊ばれる者がいたなら、アッラーの使徒 ﷺ はその者を遣わされたであろう。預言者はウスマーンを遣わされ、リドワーンの誓いはウスマーンがマッカへ行った後に行われた。アッラーの使徒 ﷺ は右手で『これはウスマーンの手である』と言われ、それをもう一方の手に打ち合わせて『これはウスマーンのためである』と言われたのだ。」それからイブン・ウマルは言いました。「今、この答えを持って帰りなさい。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』4066；『サヒーフ・ブハーリー』3698 も参照。

イブン・ウマルは歴史的事実を否定しませんでした。ウスマーンがウフドの日に退いたことを認めています。しかし彼はその事実をクルアーンの光の中に置きました。アッラーが赦された以上、誰であれそれを蒸し返すのはふさわしくないのです。これが教友たちに対するスンナの民の作法です。彼らが過ちを犯しうる人間であることを認めつつ、アッラーが彼らを嘉し赦されたゆえに彼らを尊ぶのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

クルアーンの教友たちへの戒めは、彼らを貶めるためではなく、高めるためのものでした。家庭でも、職場でも、社会でも、私たちはこの方法に倣うことができます。過ちははっきりと指摘し、そして赦しの扉を大きく開くのです。そしてアッラーがある人を赦されたなら、私たちはアッラーよりも厳しい裁き手になってはなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

今日のウフド山と弓兵の丘

ウフドは、スィーラに登場する史跡の中でも最も見分けやすい場所の一つです。その山は、アッラーの使徒 ﷺ の時代と同じように今も立っているからです。マディーナを訪れる巡礼者や小巡礼者は、ほぼ必ずそこへ案内されます。

項目	説明
立場	マディーナ市の北。現在は市街地が山の麓まで広がっている。
標高	海抜約 1,077 メートル。周囲の平原からの高さは約 377 メートル。
長さ	東西に約 7.5 キロメートル。赤みを帯びた色。
弓兵の丘	ウフド山の前、戦場の南側にある小さな丘。ジャバル・アッ＝ルマート（弓兵の丘）として知られる。スィーラ書ではアイナインの丘と呼ばれる。
殉教者の墓地	ハムザを含むウフドの殉教者たちが埋葬された、柵で囲まれた区域。
サイイド・アッ＝シュハダー・モスク	墓地の近くにある大きなモスク。「殉教者たちの長」ハムザにちなんで名付けられた。新しい建物は 2017 年ごろに完成。

地理の典拠：Mount Uhud — Wikipedia。高さと長さは現代の概算であり、典拠によって多少異なることがある。

なぜその小さな丘が重要なのか？

弓兵の丘の上に立つと、アッラーの使徒 ﷺ がなぜそこに弓兵隊を置かれたのかを自分の目で理解できます（第 5 章）。その丘は、ムスリムの隊列の背後に通じる道を押さえていました。弓兵たちが下りると、その道が開き、ハーリド・ブン・アル＝ワリードが率いるクライシュ族の騎兵隊がその機会を捉えたのです。その小さな丘とウフド山との距離の近さは、その日の過ちの余地がいかに小さかったかを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

殉教者の墓地を訪れる作法

墓参は来世を思い起こすために勧められています。アッラーの使徒 ﷺ ご自身も、八年後にウフドの殉教者たちのもとへ出向き、別れを告げる人のように彼らのために祈られました（『サヒーフ・ブハーリー』4042）。墓参の際に預言者が教えられた祈りの一つはこうです。「この住まいの信仰者とムスリムの方々よ、あなたがたに平安あれ。私たちもインシャー・アッラー、あなたがたの後に続きます。私たちとあなたがたのために、アッラーに無事を願います」（『サヒーフ・ムスリム』975）。

スンナにかなった墓参とは、挨拶をし、祈り、教訓を得て、彼らの物語を思い起こすことです。柵や石をなでること、祝福を求めて土を持ち帰ること、殉教者たちに祈りを捧げることは、アッラーの使徒 ﷺ も教友たちも教えていません。

教訓

今日もそびえ立つウフド山は、大きな教訓の物言わぬ証人です。それを見ることは単なる観光ではなく、自分自身に問いかける機会です。私の人生における「弓兵の丘」はどこにあるのか、そして私は託された場所に今もしっかりと立っているだろうか、と。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラ暦 3 年シャウワール月の年表

下の表は、ウフドの出来事を時間の順に並べたものです。日付はスィーラ書（主にイブン・ヒシャームを通じたイブン・イスハーク）によります。戦いの正確な日付についてはスィーラ学者の間で意見が分かれており、有名な説はヒジュラ暦 3 年シャウワール月 15 日の土曜日（625 年 3 月）ですが、7 日とする説もあります。

時期	出来事
バドルの後（ヒジュラ暦 2〜3 年）	クライシュ族は、アブー・スフヤーンの隊商の利益を新たな戦いの費用に充てる（第 1 章）。
ヒジュラ暦 3 年シャウワール月初め	約 3,000 人のクライシュ軍が、同盟者や女性たちと共にマディーナの北へ進み、ウフドの近くに陣を張る。
金曜日	アッラーの使徒 ﷺ が夢を語り、協議される。多数が出陣を選ぶ（第 2 章）。金曜礼拝の後、預言者は鎧を着け、約 1,000 人と共に出陣される。
土曜日の前夜	アッラーの使徒 ﷺ が隊列を点検し、年齢に達していない少年たちを帰される（第 24 章）。
土曜日の夜明け	アブドゥッラー・ブン・ウバイが約 300 人と共に離脱し、残りは約 700 人となる（第 3 章）。
土曜日の朝、シャウワール月 15 日	隊列が整えられ、アブドゥッラー・ブン・ジュバイルの指揮の下、50 人の弓兵が丘の上に配置される（第 5 章）。
戦いの中盤	一騎打ちとムスリムの攻撃。ハムザが倒れる。クライシュ族が退き始める（第 6〜8 章）。
その後	弓兵が下りる。ハーリド・ブン・アル＝ワリードが背後から攻撃する。「ムハンマドは殺された」との噂が広まる（第 9〜10 章）。
試練の頂点	アッラーの使徒 ﷺ が負傷される。教友たちが預言者の周りに砦を築く（第 12〜14 章）。
土曜日の午後	安らぎのまどろみ。アブー・スフヤーンが丘の上から叫ぶ。クライシュ族が引き揚げる（第 15〜16 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事
土曜日の夕方	殉教者たちが洗われることなく、ウフドの戦場に埋葬される（第 18 章）。
日曜日、シャウワール月 16 日	アッラーの使徒ﷺが、ウフドに参加した者だけを連れてハムラー・アル＝アサドへ出陣される（第 21 章）。
数日後	ムスリムはマディーナへ帰還する。クライシュ族は再び攻めて来ようとはしなかった。
ヒジュラ暦 11 年	アッラーの使徒ﷺが、別れを告げる人のようにウフドの殉教者たちを訪ねて祈られる（『サヒーフ・ブハーリー』4042）。

教訓

ウフドの大きな出来事はすべて、二日足らずの間に起こりました。同じ一日の中で、ムスリムは勝利も敗北も、恐れも安らぎも、悲しみも味わったのです。私たちの人生も同じです。状況はたちまち変わりえます。変わらずに残るのは、アッラーの定めに対する私たちの態度だけなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：279 / 567

ウフドの戦いについてよくある質問

この章では、ウフドの戦いについてよく尋ねられる質問に答えます。答えは要約です。詳しくは示された章を参照してください。

1. ウフドの戦いはいつ起こったのか？

ヒジュラ暦 3 年シャウワール月（625 年 3 月）、バドルの一年後です。イブン・イスハークによる有名な説はシャウワール月 15 日の土曜日ですが、7 日とする説もあります（第 28 章）。

2. 両軍の兵力はどれくらいでしたか。

スィーラ書によれば、クライシュ族は約 3,000 人でした。ムスリムは約 1,000 人で出陣しましたが、アブドゥッラー・ブン・ウバイが約 300 人と共に離脱した後、残ったのは約 700 人だけでした（第 3 章）。

3. ムスリムはウフドで負けたのか？

ムスリムは戦いの序盤で勝っていましたが、弓兵が持ち場を離れた後に大きな災難を受けました（イムラーン家章 3:152）。しかしクライシュ族はマディーナに入らず、誰も捕虜にせず、目的を果たさないまま引き揚げました。翌日には、逆にムスリムが彼らをハムラー・アル＝アサドまで追いました。クルアーンはウフドを、信仰者と偽信者を見分けるための試練として描いています（3:140–141、3:166–167）。

4. ウフドの殉教者は何人か？

スィーラ書によれば約七十人で、その多くはアンサールでした（第 18 章と第 25 章）。

5. ヒンド・ビント・ウトバがハムザの肝臓を噛んだというのは本当か？

この話はスィーラ書（イブン・イスハーク）で有名で、イマーム・アフマドの一つの伝承にも見られますが、その伝承経路については**議論があり、一部のハディース学者は弱いと評価しています**。確かなのは、ハムザがワフシーに殺され（『サヒー

フ・ブハーリー』4072）、その遺体が損なわれたことです。ヒンドは後にマッカ開放の日にイスラームに入り、イスラームはそれ以前の罪を消し去りました。

6. ウワイス・アル＝カラニーが、ウフドでアッラーの使徒 ﷺ の歯が折れたために自分の歯を折ったというのは本当か？

この話は、信頼できるハディース集のどこにも**根拠がありません**。ウワイス・アル＝カラニーは確かに高貴なタービウーン（教友の次の世代）の一人で、『サヒーフ・ムスリム』（2542）にも言及されていますが、歯を折った話には伝承経路がなく、彼に帰することはできません。

7. アッラーの使徒 ﷺ がご自身の手で殺した唯一の人物は誰か？

スィーラ書によれば、ウバイ・ブン・ハラフがウフドでアッラーの使徒 ﷺ に襲いかかり、預言者が槍で彼を突くと、彼は帰途で死にました。真正なハディースにはこうあります。「アッラーの使徒 ﷺ がアッラーの道で殺した者に対するアッラーの怒りは激しい」（『サヒーフ・ブハーリー』4073）。

8. ウフドの時、ハーリド・ブン・アル＝ワリードはすでにムスリムだったのか？

まだでした。ハーリド・ブン・アル＝ワリードはウフドでクライシュ族の騎兵隊を率いていました。彼はおよそ五年後、マッカ開放の前にイスラームに入り、後に「サイフッラー（アッラーの剣）」と呼ばれました。彼の物語は、今日の敵が明日の兄弟になりうることを示しています。

9. なぜウフドの殉教者たちは洗われず、葬儀の礼拝もされなかったのか？

アッラーの使徒 ﷺ が、彼らを洗わず、葬儀の礼拝もせず、血のついたまま埋葬するよう命じられたからです（『サヒーフ・ブハーリー』1343；第 18 章）。殉教者の血

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：281 / 567

は、審判の日に彼らのための証人となります。これは、戦場の殉教者についてのシャーフィイー派の見解です。

10. アッラーの使徒 ﷺ は、守りに留まることを好まれたのに、なぜマディーナから出陣されたのか？

協議の決定を尊重されたからです。教友の多数、特にバドルに参加しなかった者たちは出陣を望みました。鎧を着けた後、預言者はそれを撤回されませんでした（第 2 章）。ウフドの後も、アッラーは預言者に協議を続けるよう命じられました（イムラーン家章 3:159）。

11. ハムラー・アル＝アサドへ共に出陣したのは誰か？

ウフドに参加した者だけで、その多くはまだ傷を負っていました。アッラーは彼らを称えられました。「傷を負った後にもアッラーと使徒の呼びかけに応えた者たち」（イムラーン家章 3:172；第 21 章）。

12. 「ウフドは私たちを愛する山である」というハディースはたとえなのか？

このハディースは真正です（第 22 章）。多くの学者はこれを文字どおりに理解しています。石がアッラーを讃え（夜の旅章 17:44）、ナツメヤシの幹がアッラーの使徒 ﷺ に離れられて泣いたように、アッラーは命のないと思われるものにも愛を持たせることがおできになるからです。他の学者は、これをウフドの近くに住む人々の愛のたとえと理解しています。いずれにせよ、この山の特別な地位を示しています。

教訓

ウフドには、真正で心を打つ話が十分にあり、根拠のない話を必要としません。真正なもの、有名なもの、偽りのものを見分けることは、アッラーの使徒 ﷺ の伝記を誠実に伝えるという託されたものの一部なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

ムスリムたちが「この災難はどこから来たのか」と尋ねた時、アッラーは率直にこう答えられました。その災難は「**あなたがた自身から**」**来たものである**『タフスィール・イブン・カスィール』3:165。

教訓	ウフドから
命令への服従	弓兵が下り、勝利が試練に変わる（4043；3:152）
現世への愛の危険	「現世を望む者もいた」（3:152）；預言者の最後の警告（4042）
協議と信頼	戦いの前の協議；その後の協議の命令（3:159）
アッラーの使徒 ﷺ	アブー・タルハ、タルハ、七人のアンサール
私たちはアッラーを崇拝する	「ムハンマドは一人の使徒に過ぎない」（3:144）
殉教者は生きている	天使がジャービルの父を覆う；3:169
倒れた後に立ち上がる	ハムラー・アル＝アサド；「ハスブナッラー」（3:173）

バドルは、数が少なくても勝利はアッラーから来ることを教えました。ウフドは、手の中にすでに勝利があっても、命令に背けば**勝利は失われうる**ことを教えています。どちらも、アッラーがこの共同体のために用意された学び舎なのです。

イムラーン家章におけるウフドの節

節	テーマ
3:121–122	隊列の配置；怯みかけた二つの集団
3:128	人々の事柄はアッラーの御手に

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：283 / 567

節	テーマ
3:139–143	弱気になるな；日々は巡る；試練が見分ける
3:144–148	ムハンマドは一人の使徒に過ぎない；以前の預言者たちの従者の例
3:149–155	序盤の勝利、争い、まどろみ、赦し
3:156–164	アッラーの使徒 ﷺ の優しさ；協議；信頼
3:165–168	「それはあなたがた自身から」；偽信者の態度
3:169–175	殉教者は生きている；ハムラー・アル＝アサド；「ハスブナッラー」

イブン・カスィールは、イムラーン家章の ***3:121*** からおよそ ***3:180*** までの節の多くが、ウフドの戦いとその後の出来事に関係していると述べています。ウフドの伝記と共にこれらの節を読むと、はるかに深い理解が得られます。

私たちの生活の中のウフド

私たち一人ひとりに、自分の「弓兵の丘」があります。私たちに託されたもの――礼拝、家族、仕事、知識です。ウフドの試練とは、現世が目の前に見えた時に**自分の持ち場に留まる**か、それとも下りて追いかけるかということなのです。

そして私たちが倒れた時、ウフドは**帰り道**を教えてくれます。アッラーは教友たちを赦され（3:152）、彼らは翌日ハムラー・アル＝アサドへと立ち上がりました。アッラーに立ち返る限り、過ちは終わりではないのです。

インシャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**第 11 巻**へと続きます。ウフドの後からハンダク（部族連合）の戦いまでの出来事です。アッラーこそが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 10 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（イムラーン家章 3:121–173；女性章 4:88；戦利品章 8:36；部族連合章 33:23）。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/152

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1244、1274、1343、2805、2881、3039、3668、3675、3728、3925、4042、4043、4047、4048、4050、4051、4054、4055、4059、4063、4064、4065、4068、4072、4073、4075、4077、4081、4083。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1789、1791、2306、2470。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3010。https://sunnah.com/tirmidhi:3010

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）――ウフドの戦いとハムラー・アル＝アサドの章。

イブン・サアド『大列伝（タバカート）』。

サフィーウッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』――ウフドの戦いの章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』――遠征の書。

ウィキペディア「Battle of Uhud」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Uhud

ウィキペディア「Hamza ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hamza_ibn_Abd_al-Muttalib

ウィキペディア「Mus’ab ibn Umayr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mus%27ab_ibn_Umayr

ウィキペディア「Nusaybah bint Ka’ab」。https://en.wikipedia.org/wiki/Nusaybah_bint_Ka%27ab

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』2664（十四歳と十五歳のイブン・ウマル）。https://sunnah.com/bukhari:2664

『ムスナド・アフマド』22553（アムル・ブン・アル＝ジャムーフ）。https://hadithunlocked.com/ahmad:22553

『スナン・アビー・ダーウード』2537（ウサイリム）。https://sunnah.com/abudawud:2537

『サヒーフ・イブン・ヒッバーン』7025（天使に洗われたハンザラ）。https://en.tohed.com/hadith/sahih-ibn-hibban/7025

『サヒーフ・ブハーリー』4066（ウスマーンを弁護したイブン・ウマル）。https://sunnah.com/bukhari:4066

『サヒーフ・ブハーリー』4073（アッラーの使徒 ﷺ が殺した者に対するアッラーの怒り）。https://sunnah.com/bukhari:4073

『サヒーフ・ムスリム』975（墓参の祈り）。https://sunnah.com/muslim:975a

イブン・カスィール『タフスィール』3:155。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/155

ウィキペディア「Mount Uhud」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mount_Uhud

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第五部

試練に次ぐ試練

預言者伝（スィーラ）— 第 11 巻

ラジーウ、マウーナの井戸、ナディール族、恐怖時の礼拝 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

試練に次ぐ試練

『預言者伝（スィーラ）』第 10 巻はウフドで終わりました。傷、殉教者、そして「日々は人々の間で巡り変わる」というアッラーの約束です。その後の二年間、**ウフド（ヒジュラ暦 3 年シャウワール）からハンダクの戦い（ヒジュラ暦 5 年シャウワール）まで**、ムスリムは**試練に次ぐ試練**を経験しました。宣教者たちは裏切りによって殺され、あるユダヤ部族はアッラーの使徒 ﷺ の暗殺を企て、アラブの諸部族はマディーナを攻撃しようと大胆になり始めました。

しかし同じ時期に、アッラーは**シャリーア（聖法）を完成**させてもいかれました。酒が禁じられ、恐怖時の礼拝が教えられ、集合章が啓示されました。本巻はこれらの物語を、クルアーンと真正なハディースに基づいて語ります。スィーラ書の物語には、その信頼度を記しています。

ウフドとハンダクの間の年表（ヒジュラ暦3〜5年）

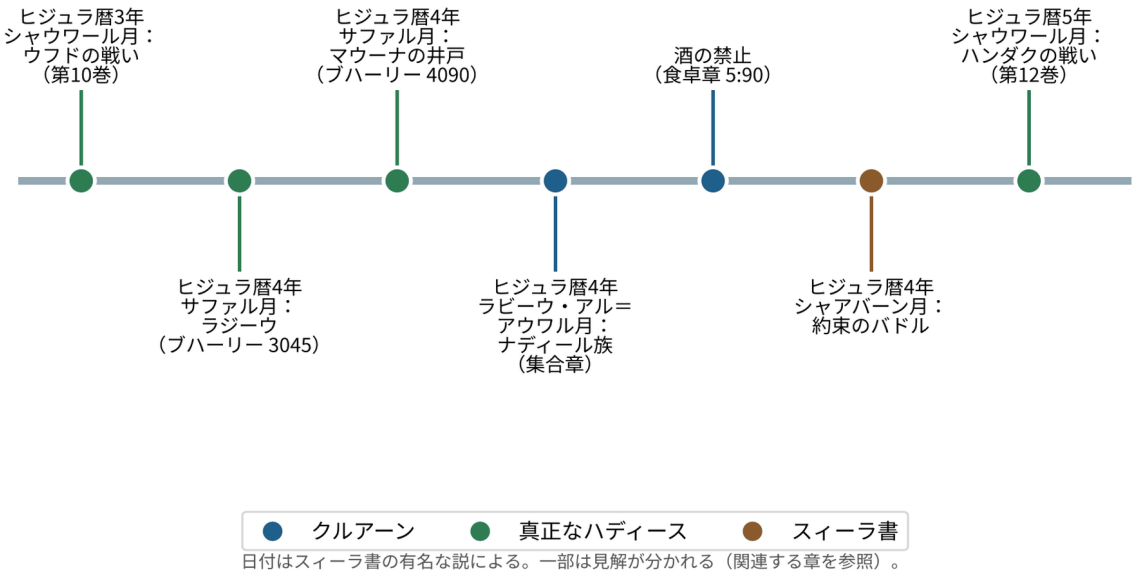


図 1：ウフドとハンダクの間の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

ウフドの後：敵が大胆になる

ウフドでの敗北は、マディーナの外にも影響を及ぼしました。バドルの後には恐れを抱いていたアラブの諸部族が、今やムスリムは**弱くなった**と考えたのです。マディーナを攻撃するために兵力を集め始める部族もあれば、ムスリムを欺く策略を探す部族もありました。

スィーラの注：アブー・サラマとアサド族

スィーラ書によれば、ヒジュラ暦 4 年ムハッラム月、アッラーの使徒 ﷺ は**アサド族**がマディーナ攻撃の準備をしているとの知らせを受けました。預言者は**アブー・サラマ**を約 150 人の教友とともに派遣しました。彼らが素早く到着したため、敵は戦わずに散り散りになりました。

アブー・サラマはマディーナに戻りましたが、ウフドで負った傷が**再び出血し**、間もなく亡くなりました。その妻ウンム・サラマの物語は、第 17 章で語ります。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；イブン・サアド『大伝記集（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

バドルの後	ウフドの後
アラブ諸部族はマディーナを恐れた	アラブ諸部族が大胆になり始めた
ユダヤのカイヌカー族が追放された	ユダヤのナディール族が裏切りを企てた
偽信者たちは身を隠していた	偽信者たちはますます公然と語るようになった

教訓：敵は常に信仰者の**弱さ**を見張っています。しかしアッラーの使徒 ﷺ は、その状態を長引かせませんでした。マディーナの威信を回復するため、素早く行動されたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ラジーウの出来事

ヒジュラ暦 4 年サファル月、少人数の教友の一団が派遣されました。イブン・イスハークの伝承によれば、イスラームを学びたいと言ったアダル族とカーラ族の求めによるものでした。**ラジーウ**という名の井戸で、彼らは裏切られました。アブー・フライラ رضى الله عنه はこう語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3045 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي عَمْرُو بْنُ أَبِي سُفْيَانَ بْنِ أَسِيدِ بْنِ جَارِيَةَ الثَّقَفِيُّ ـ وَهْوَ حَلِيفٌ لِبَنِي زُهْرَةَ وَكَانَ مِنْ أَصْحَابِ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ أَنَّ أَبَا هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ بَعَثَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَشَرَةَ رَهْطٍ سَرِيَّةً عَيْنًا، وَأَمَّرَ عَلَيْهِمْ عَاصِمَ بْنَ ثَابِتٍ الأَنْصَارِيَّ جَدَّ عَاصِمِ بْنِ عُمَرَ، فَانْطَلَقُوا حَتَّى إِذَا كَانُوا بِالْهَدَأَةِ وَهْوَ بَيْنَ عُسْفَانَ وَمَكَّةَ ذُكِرُوا لِحَيٍّ مِنْ هُذَيْلٍ يُقَالُ لَهُمْ بَنُو لِحْيَانَ، فَنَفَرُوا لَهُمْ قَرِيبًا مِنْ مِائَتَىْ رَجُلٍ، كُلُّهُمْ رَامٍ، فَاقْتَصُّوا آثَارَهُمْ حَتَّى وَجَدُوا مَأْكَلَهُمْ تَمْرًا تَزَوَّدُوهُ مِنَ الْمَدِينَةِ فَقَالُوا هَذَا تَمْرُ يَثْرِبَ. فَاقْتَصُّوا آثَارَهُمْ، فَلَمَّا رَآهُمْ عَاصِمٌ وَأَصْحَابُهُ لَجَئُوا إِلَى فَدْفَدٍ، وَأَحَاطَ بِهِمُ الْقَوْمُ فَقَالُوا لَهُمُ انْزِلُوا وَأَعْطُونَا بِأَيْدِيكُمْ، وَلَكُمُ الْعَهْدُ وَالْمِيثَاقُ، وَلاَ نَقْتُلُ مِنْكُمْ أَحَدًا. قَالَ عَاصِمُ بْنُ ثَابِتٍ أَمِيرُ السَّرِيَّةِ أَمَّا أَنَا فَوَاللَّهِ لاَ أَنْزِلُ الْيَوْمَ فِي ذِمَّةِ كَافِرٍ، اللَّهُمَّ أَخْبِرْ عَنَّا نَبِيَّكَ. فَرَمَوْهُمْ بِالنَّبْلِ، فَقَتَلُوا عَاصِمًا فِي سَبْعَةٍ، فَنَزَلَ إِلَيْهِمْ ثَلاَثَةُ رَهْطٍ بِالْعَهْدِ وَالْمِيثَاقِ، مِنْهُمْ خُبَيْبٌ الأَنْصَارِيُّ وَابْنُ دَثِنَةَ وَرَجُلٌ آخَرُ، فَلَمَّا اسْتَمْكَنُوا مِنْهُمْ أَطْلَقُوا أَوْتَارَ قِسِيِّهِمْ فَأَوْثَقُوهُمْ فَقَالَ الرَّجُلُ الثَّالِثُ هَذَا أَوَّلُ الْغَدْرِ، وَاللَّهِ لاَ أَصْحَبُكُمْ، إِنَّ فِي هَؤُلاَءِ لأُسْوَةً. يُرِيدُ الْقَتْلَى، فَجَرَّرُوهُ وَعَالَجُوهُ عَلَى أَنْ يَصْحَبَهُمْ فَأَبَى فَقَتَلُوهُ، فَانْطَلَقُوا بِخُبَيْبٍ وَابْنِ دَثِنَةَ حَتَّى بَاعُوهُمَا بِمَكَّةَ بَعْدَ وَقْعَةِ بَدْرٍ، فَابْتَاعَ خُبَيْبًا بَنُو الْحَارِثِ بْنِ عَامِرِ بْنِ نَوْفَلِ بْنِ عَبْدِ مَنَافٍ، وَكَانَ خُبَيْبٌ هُوَ قَتَلَ الْحَارِثَ بْنَ عَامِرٍ يَوْمَ بَدْرٍ، فَلَبِثَ خُبَيْبٌ عِنْدَهُمْ أَسِيرًا، فَأَخْبَرَنِي عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ عِيَاضٍ أَنَّ بِنْتَ الْحَارِثِ أَخْبَرَتْهُ أَنَّهُمْ حِينَ اجْتَمَعُوا اسْتَعَارَ مِنْهَا مُوسَى يَسْتَحِدُّ بِهَا فَأَعَارَتْهُ، فَأَخَذَ ابْنًا لِي وَأَنَا غَافِلَةٌ حِينَ أَتَاهُ قَالَتْ فَوَجَدْتُهُ مُجْلِسَهُ عَلَى

فَخِذِهِ وَالْمُوسَى بِيَدِهِ، فَفَزِعْتُ فَزْعَةً عَرَفَهَا خُبَيْبٌ فِي وَجْهِي فَقَالَ تَخْشَيْنَ أَنْ أَقْتُلَهُ مَا كُنْتُ لأَفْعَلَ ذَلِكَ. وَاللَّهِ مَا رَأَيْتُ أَسِيرًا قَطُّ خَيْرًا مِنْ خُبَيْبٍ، وَاللَّهِ لَقَدْ وَجَدْتُهُ يَوْمًا يَأْكُلُ مِنْ قِطْفِ عِنَبٍ فِي يَدِهِ، وَإِنَّهُ لَمُوثَقٌ فِي الْحَدِيدِ، وَمَا بِمَكَّةَ مِنْ ثَمَرٍ وَكَانَتْ تَقُولُ إِنَّهُ لَرِزْقٌ مِنَ اللَّهِ رَزَقَهُ خُبَيْبًا، فَلَمَّا خَرَجُوا مِنَ الْحَرَمِ لِيَقْتُلُوهُ فِي الْحِلِّ، قَالَ لَهُمْ خُبَيْبٌ ذَرُونِي أَرْكَعْ رَكْعَتَيْنِ. فَتَرَكُوهُ، فَرَكَعَ رَكْعَتَيْنِ ثُمَّ قَالَ لَوْلاَ أَنْ تَظُنُّوا أَنَّ مَا بِي جَزَعٌ لَطَوَّلْتُهَا اللَّهُمَّ أَحْصِهِمْ عَدَدًا. وَلَسْتُ أُبَالِي حِينَ أُقْتَلُ مُسْلِمًا عَلَى أَيِّ شِقٍّ كَانَ لِلَّهِ مَصْرَعِي وَذَلِكَ فِي ذَاتِ الإِلَهِ وَإِنْ يَشَأْ يُبَارِكْ عَلَى أَوْصَالِ شِلْوٍ مُمَزَّعٍ فَقَتَلَهُ ابْنُ الْحَارِثِ، فَكَانَ خُبَيْبٌ هُوَ سَنَّ الرَّكْعَتَيْنِ لِكُلِّ امْرِئٍ مُسْلِمٍ قُتِلَ صَبْرًا، فَاسْتَجَابَ اللَّهُ لِعَاصِمِ بْنِ ثَابِتٍ يَوْمَ أُصِيبَ، فَأَخْبَرَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَصْحَابَهُ خَبَرَهُمْ وَمَا أُصِيبُوا، وَبَعَثَ نَاسٌ مِنْ كُفَّارِ قُرَيْشٍ إِلَى عَاصِمٍ حِينَ حُدِّثُوا أَنَّهُ قُتِلَ لِيُؤْتَوْا بِشَيْءٍ مِنْهُ يُعْرَفُ، وَكَانَ قَدْ قَتَلَ رَجُلاً مِنْ عُظَمَائِهِمْ يَوْمَ بَدْرٍ، فَبُعِثَ عَلَى عَاصِمٍ مِثْلُ الظُّلَّةِ مِنَ الدَّبْرِ، فَحَمَتْهُ مِنْ رُسُلِهِمْ، فَلَمْ يَقْدِرُوا عَلَى أَنْ يَقْطَعُوا مِنْ لَحْمِهِ شَيْئًا.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言いました：**アッラーの使徒 ﷺ は、アースィム・ブン・サービト・アル＝アンサーリーを長とする十人の偵察隊を派遣されました。**彼らがウスファーンとマッカの間のハドアに着いたとき、その知らせがフザイル族のリフヤーン部に届きました。約二百人の弓兵が彼らの足跡を追い、彼らが食べたナツメヤシの種を見つけて「これはヤスリブのナツメヤシだ」と言いました。アースィムと仲間たちは彼らを見ると高い場所に避難しましたが、包囲されました。敵は「降りて来い。お前たちには約束と保証がある。誰一人殺さない」と言いました。アースィムは言いました：「**アッラーにかけて、私は不信仰者の保証のもとには降りない。アッラーよ、私たちの知らせをあなたの預言者にお伝えください。**」彼らは矢を射て、アースィムと六人を殺しました。三人がその約束を信じて降りました。フバイブ、イブン・アッ＝ダスィナ、そしてもう一人です。捕らえられると弓の弦で縛られました。三人目は「これが最初の裏切りだ」と言ってついて行くことを拒み、殺されました。**フバイブとイブン・アッ＝ダスィナは連れて行かれ、バドルの後、マッカで売られました。**ハーリス・ブン・アーミル

の一族がフバイブを買いました。フバイブがバドルでハーリスを殺していたからです。フバイブは彼らの捕虜となりました。ハーリスの娘はこう語りました。フバイブが彼女から剃刀を借りたとき、彼女の幼い子がフバイブのもとへ這って行き、剃刀を手にした彼の膝に座りました。彼女がひどく怯えると、フバイブは言いました：**「私がこの子を殺すと恐れているのか。私はそんなことはしない。」** 彼女は言いました：**「アッラーにかけて、私はフバイブより良い捕虜を見たことがない。鎖につながれ、マッカには果物が一つもないのに、彼が一房のブドウを食べているのを見た。それはアッラーが彼に授けた糧だった。」** 彼らがフバイブを殺すために聖域の外へ連れ出したとき、彼は言いました：**「二ラクアの礼拝をさせてくれ。」** そして言いました。「私が死を恐れていると思われないのなら、もっと長く礼拝しただろう。」**捕らわれの身で殺されるすべての者のために二ラクアの礼拝のスンナを始めたのは、フバイブでした。** そして彼は詩を詠みました。「ムスリムとして殺されるなら、アッラーのためにどちらの側に倒れようとかまわない……」彼らが殺されたその日、預言者 ﷺ は教友たちにその知らせを告げられました。クライシュ族は、アースィムが自分たちの首長の一人を殺していたため、その遺体の一部を取りに人を送りました。**アッラーは雲のような蜂の群れを送って彼を守られ**、彼らはその体を少しも切り取ることができませんでした。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン ← シュアイブ ← アッ＝ズフリー ← アムル・ブン・アビー・スフヤーン・アッ＝サカフィー ← アブー・フライラ رضي الله عنه；その中でアッ＝ズフリーは、ウバイドゥッラー・ブン・イヤード ← ハーリスの娘からも伝えている。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、ハディース第 3045 番；第 4086 番にも。訳文は一部要約。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3045

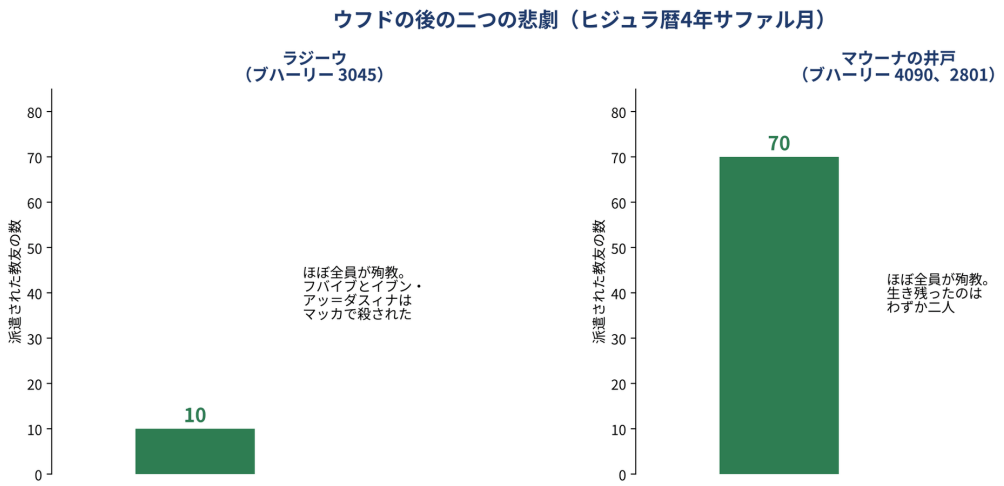


図 2：ウフドの後の二つの悲劇。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

二百人に立ち向かった十人

十人が約二百人の弓兵に包囲されました。**アースィム・ブン・サービト**は不信仰者の約束に身を委ねないことを選び、こう祈りました：「**アッラーよ、私たちの知らせをあなたの預言者にお伝えください。**」 アッラーはその祈りを聞き届けられました。彼らが殺されたその日、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちにその知らせを告げられたのです。

教訓：敵の約束を全面的に信じることはできません。三人目は縛られるとすぐに、それを「**最初の裏切り**」と呼びました。そして信仰者が人生の最期にささげる祈りは、アッラーに**聞き届けられる**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フバイブと一房のブドウ

フバイブ・ブン・アディー رضي الله عنه はマッカに連れて行かれ、バドルで父を殺されたハーリス・ブン・アーミルの一族に売られました。彼は何日も捕虜として拘束され、聖なる月が過ぎるのを待って殺されることになっていました（スィーラ書）。その間に、上の真正なハディースに記録された二つの出来事が起こりました：

出来事	教訓
フバイブの膝の上の幼子と、その手の剃刀	信義と品性：彼は子どもに復讐しなかった。
鎖につながれて食べた一房のブドウ	奇跡（カラーマ）：マッカに果物がないときのアッラーからの糧。

その証言は**敵自身の娘**から出たものでした。「アッラーにかけて、私はフバイブより良い捕虜を見たことがない。」ムスリムの品性は、彼を憎む者からさえ認められたのです。

スィーラの注：ザイド・ブン・アッ＝ダスィナ

スィーラ書によれば、フバイブの仲間**ザイド・ブン・アッ＝ダスィナ**もマッカで殺されました。殺される前、アブー・スフヤーンが彼に尋ねました。「今ここにムハンマドがお前の代わりにいて、お前は家族と一緒にいられたらと願わないか？」ザイドは答えました：「**アッラーにかけて、私が家族と座っている間に、ムハンマドが今いる場所で棘一本に刺されることさえ望まない。**」 アブー・スフヤーンは言いました。「ムハンマドの教友たちがムハンマドを愛するほど誰かを愛する者を、私は見たことがない。」

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』ラジーウの章。

教訓：最も弱い状況にあっても、鎖につながれ死を待つ中でも、信仰者は**品性と信義**を守り、アッラーは彼を尊ばれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

殉教前の二ラクアの礼拝

フバイブが殺されるために聖域の外の**タンイーム**へ連れ出されたとき（スィーラ書）、最後の願いは食べ物でも家族でもなく、**二ラクアの礼拝**でした。彼はそれを短くして言いました。「私が死を恐れていると思われないのなら、もっと長く礼拝しただろう。」

アブー・フライラは同じハディースの中で言いました：**「捕らわれの身で殺されるすべてのムスリムのために二ラクアの礼拝のスンナを始めたのは、フバイブでした。」** アッラーの使徒 ﷺ に認められた一人の教友の行いが、ウンマ（共同体）のスンナとなったのです。

フバイブの詩

殉教の前、フバイブは詩を詠みました（意味）：**「ムスリムとして殺されるなら、アッラーのためにどちらの側に倒れようとかまわない。それはすべてアッラーの御前のため。彼がお望みなら、ばらばらになった五体を祝福されるだろう。」** この詩は『サヒーフ・ブハーリー』3045 に記録されています。

教訓：**礼拝**は信仰者の最後の拠り所です。フバイブは、どのように、どこで死ぬかよりも、イスラームの上で死ぬことの方が大切だと教えてくれました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アースィムと守護の蜂

アースィム・ブン・サービト رضي الله عنه はラジーウの一行の長で、名高いアンサールの弓兵の一人でした。バドルではクライシュ族の首長の一人を殺していました。そのため彼が殉教すると、クライシュ族は証拠とし、また復讐のために**遺体の一部を取ろうと**人を送りました。

しかしアッラーは**雲のような蜂の群れ**を送って彼の遺体を守られ、彼らは少しも切り取ることができませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』3045）。

> **スィーラの注：アースィムの誓い**
>
> スィーラ書によれば、アースィムはかつて**多神教徒に触れず、彼らにも触れさせない**と誓っていました。ウマル・ブン・アル＝ハッターブは蜂の話を聞くと、こう言いました：「**アッラーは信仰あるしもべを、生きている間に守られたように、死後も守られる。**」
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；『ファトフ・アル＝バーリー』ハディース 3045 の注釈。

教訓：アッラーはご自身の友（ワリー）たちの名誉を、生前も死後も**守られます**。小さな蜂が、殉教者の遺体を守るアッラーの軍勢となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マウーナの井戸：七十人のクッラー

同じ月に、さらに大きな悲劇が起こりました。スィーラ書によれば、アーミル族の長**アブー・バラー・アーミル・ブン・マーリク**が、アッラーの使徒 ﷺ にナジュドへ宣教者を送るよう求め、保護を約束しました。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه はこう語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4090 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ الأَعْلَى بْنُ حَمَّادٍ، حَدَّثَنَا يَزِيدُ بْنُ زُرَيْعٍ، حَدَّثَنَا سَعِيدٌ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رِعْلاً، وَذَكْوَانَ وَعُصَيَّةَ وَبَنِي لَحْيَانَ اسْتَمَدُّوا رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى عَدُوٍّ، فَأَمَدَّهُمْ بِسَبْعِينَ مِنَ الأَنْصَارِ، كُنَّا نُسَمِّيهِمُ الْقُرَّاءَ فِي زَمَانِهِمْ، كَانُوا يَحْتَطِبُونَ بِالنَّهَارِ وَيُصَلُّونَ بِاللَّيْلِ، حَتَّى كَانُوا بِبِئْرِ مَعُونَةَ قَتَلُوهُمْ، وَغَدَرُوا بِهِمْ، فَبَلَغَ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم، فَقَنَتَ شَهْرًا يَدْعُو فِي الصُّبْحِ عَلَى أَحْيَاءٍ مِنْ أَحْيَاءِ الْعَرَبِ، عَلَى رِعْلٍ وَذَكْوَانَ وَعُصَيَّةَ وَبَنِي لَحْيَانَ. قَالَ أَنَسٌ فَقَرَأْنَا فِيهِمْ قُرْآنًا ثُمَّ إِنَّ ذَلِكَ رُفِعَ بَلِّغُوا عَنَّا قَوْمَنَا، أَنَّا لَقِينَا رَبَّنَا، فَرَضِيَ عَنَّا وَأَرْضَانَا. وَعَنْ قَتَادَةَ عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ حَدَّثَهُ أَنَّ نَبِيَّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَنَتَ شَهْرًا فِي صَلاَةِ الصُّبْحِ يَدْعُو عَلَى أَحْيَاءٍ مِنْ أَحْيَاءِ الْعَرَبِ، عَلَى رِعْلٍ وَذَكْوَانَ وَعُصَيَّةَ وَبَنِي لَحْيَانَ. زَادَ خَلِيفَةُ حَدَّثَنَا ابْنُ زُرَيْعٍ، حَدَّثَنَا سَعِيدٌ، عَنْ قَتَادَةَ، حَدَّثَنَا أَنَسٌ، أَنَّ أُولَئِكَ السَّبْعِينَ، مِنَ الأَنْصَارِ قُتِلُوا بِبِئْرِ مَعُونَةَ، قُرْآنًا كِتَابًا. نَحْوَهُ.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は言いました：**リウル族、ザクワーン族、ウサイヤ族、リフヤーン族が、敵に対抗するためにアッラーの使徒 ﷺ に援助を求めました。預言者は、当時私たちがクッラー（クルアーン読誦者）と呼んでいたアンサールの七十人を彼らに与えられました。彼らは昼は薪を集め、夜は礼拝していました。**彼らはマウーナの井戸に着くと、裏切られて殺されました。その知らせが預言者 ﷺ に届くと、預言者は一か月の間、夜明けの礼拝でクヌートを行い、リウル、ザクワーン、ウサイヤ、リ

フヤーンのアラブ部族に災いを祈られました。アナスは言いました：**私たちは彼らについて啓示されたクルアーンの一節を読んでいましたが、後に廃止されました。「私たちの民に伝えてください。私たちは主に会い、主は私たちに満足され、私たちを満足させてくださった、と。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーは二つの経路で伝えている：アブドゥ・アル＝アアラー・ブン・ハンマード ← ヤズィード・ブン・ズライウ ← サイード（・ブン・アビー・アルーバ） ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク；そして ハリーファ（・ブン・ハイヤート） ← イブン・ズライウ ← サイード ← カターダ ← アナス رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ラジーウ、リウル、ザクワーン、マウーナの井戸の戦いの章、ハディース第 4090 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4090

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クッラーとは誰か？

彼らは**アンサールの七十人**で、クルアーンの暗記者であり読誦者でした。アナスは彼らをこう描いています。**昼は薪を集め**（別の伝承によれば、それを売ってスッファの人々の食べ物を買うため）、**夜は礼拝していた**。彼らはイスラーム第一世代の**学者たち**だったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

天に上げられたアーミル・ブン・フハイラ

マウーナの井戸の殉教者の中に、**アーミル・ブン・フハイラ** رضى الله عنه がいました。彼はアブー・バクルの元奴隷で、アッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルがサウルの洞窟に隠れていたときに羊を放牧し、その後マディーナへのヒジュラに同行した人です（第 7 巻）。アーイシャ رضى الله عنها は長いハディースの中で、**アーミル・ブン・フハイラはマウーナの井戸の日に殉教した**と述べています。

ウルワの伝承によれば、敵の長**アーミル・ブン・アッ＝トゥファイル**が殺された者の一人を指さし、捕虜となったアムル・ブン・ウマイヤに「これは誰か」と尋ねました。アムルは「これはアーミル・ブン・フハイラだ」と答えました。アーミル・ブン・アッ＝トゥファイルは言いました：**「彼が殺された後、天に上げられるのを見た。天が彼と地の間にあるのが見えるほどだった。それから彼は下ろされた。」**そしてアッラーの使徒 ﷺ は教友たちに告げられました。「あなたたちの仲間は殺された。彼らは主に願った。『主よ、私たちの兄弟たちに伝えてください。私たちはあなたに満足し、あなたは私たちに満足されたと。』」（『サヒーフ・ブハーリー』4093）。

かつてヒジュラの際にアッラーの使徒 ﷺ を守るために羊を放牧した元奴隷が、今や敵自身が目撃するかたちでアッラーに尊ばれたのです。アッラーのもとでの尊さは、家柄では測られません。

一日で七十人のクッラーを失ったこと、それはウフドの殉教者の数と同じでした。アッラーの使徒 ﷺ にとって最も重い災難の一つでした。教訓：**知識と宣教**には代償があります。最初の宣教者たちは、命をもってそれを支払ったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：301 / 567

「カアバの主にかけて、私は勝利した！」

マウーナの井戸の一行の長は、アナスのおじ**ハラーム・ブン・ミルハーン**を送り、アッラーの使徒 ﷺ の手紙を**アーミル・ブン・アッ＝トゥファイル**に届けさせました。ハラームが彼らと話している最中、彼らが一人の男に合図し、その男が背後から彼を突き刺しました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4092 番

حَدَّثَنِي حِبَّانُ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، أَخْبَرَنَا مَعْمَرٌ، قَالَ حَدَّثَنِي ثُمَامَةُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أَنَسٍ، أَنَّهُ سَمِعَ أَنَسَ بْنَ مَالِكٍ ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ لَمَّا طُعِنَ حَرَامُ بْنُ مِلْحَانَ ـ وَكَانَ خَالَهُ ـ يَوْمَ بِئْرِ مَعُونَةَ قَالَ بِالدَّمِ هَكَذَا، فَنَضَحَهُ عَلَى وَجْهِهِ وَرَأْسِهِ، ثُمَّ قَالَ فُزْتُ وَرَبِّ الْكَعْبَةِ.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は伝えています。**彼のおじハラーム・ブン・ミルハーンがマウーナの井戸の日に突き刺されたとき、彼はその血を手に受けて顔と頭に振りかけ、こう言いました。「カアバの主にかけて、私は勝利した！」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヒッバーン（・ブン・ムーサー）← アブドゥッラー（・ブン・アル＝ムバーラク）← マアマル ← スマーマ・ブン・アブドゥッラー・ブン・アナス ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4092 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4092

アナスは別のハディースで、ハラームが「アッラーフ・アクバル！カアバの主にかけて、私は勝利した！」と言ったと伝えています。その後、彼らは丘の上にいた足の不自由な一人の男を除いて、一行全員を殺しました（『サヒーフ・ブハーリー』4091）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：302 / 567

スィーラの注：イスラームに入った殺害者

スィーラ書によれば、ハラームを突き刺した男**ジャッバール・ブン・スルマー**は、死にゆく者から「私は勝利した」という言葉を聞いてひどく驚きました。その意味を尋ね、それが天国を得る勝利を意味すると教えられると、彼の心は動かされ、**後にイスラームに入りました。**

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』。

教訓：信仰者にとって、アッラーの道での死は敗北ではなく**勝利**です。真の成功の尺度は、この世での無事ではなく、アッラーのご満足です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

災難時のクヌート

マウーナの井戸に対するアッラーの使徒 ﷺ の悲しみは、非常に深いものでした。アナス رضي الله عنه は言いました：「**預言者 ﷺ は一か月の間クヌートを行い、リウルとザクワーンに災いを祈られた。**」（『サヒーフ・ブハーリー』1003）。別の伝承でアナスは言いました：「**それがクヌートの始まりだった。それ以前、私たちはクヌートをしていなかった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4088）。

項目	説明
名前	クヌート・ナーズィラ：ウンマに大きな災難が降りかかったときのクヌート。
時	義務の礼拝、特に夜明けの礼拝で、最後のラクアのルクーウの後。
期間	アッラーの使徒 ﷺ は一か月間それを行われた（ブハーリー 1003、4090）。
祈りの内容	不当に扱われた人々のために祈り、起こった不正を述べる。

学者たちはこのハディースを**クヌート・ナーズィラ**の根拠としています。戦争、迫害、疫病など、ムスリムに大きな災難が降りかかったときに礼拝の中でささげる祈りです。どこかの地でムスリムが迫害されると、今日でも多くのモスクで行われています。

教訓：ウンマの悲しみは**礼拝**の中へと持ち込まれます。アッラーの使徒 ﷺ はただ悲しむだけでなく、一か月の間、絶え間なく祈り続けられました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「私たちの民に伝えてください」

アナスのハディース（第 6 章）には、驚くべきことが述べられています。アッラーはマウーナの井戸の殉教者たちについて**クルアーンの一節**を啓示され、教友たちはしばらくそれを読誦していましたが、後に**その読誦が廃止された**のです：**「私たちの民に伝えてください。私たちは主に会い、主は私たちに満足され、私たちを満足させてくださった、と。」**（『サヒーフ・ブハーリー』2801、4095）。

その文言はもはやクルアーンとして読誦されませんが、**その意味は**、殉教者についての他の節の中に生き続けています。アッラーは仰せられます：

「アッラーがその恩恵として与えられたものに歓喜している」『タフスィール・イブン・カスィール』3:170。

廃止（ナスフ）の種類	例
読誦が廃止され、意味は残る	「私たちの民に伝えてください……」（ブハーリー 2801）
規定が廃止され、読誦は残る	酒の規定の初期段階（2:219；4:43）— 第 10 章
両方とも残る	クルアーンのほとんどの節

教訓：アッラーご自身が、殉教者たちの**挨拶をその民に伝えられました。**この世での悲しみは、永遠のご満足によって報われるのです。

酒の禁止

ウフドの後の重要な出来事の一つが、酒の**最終的な禁止**です。酒はアラブ社会に深く根付いていたため、アッラーはそれを**段階的に**禁じられました：

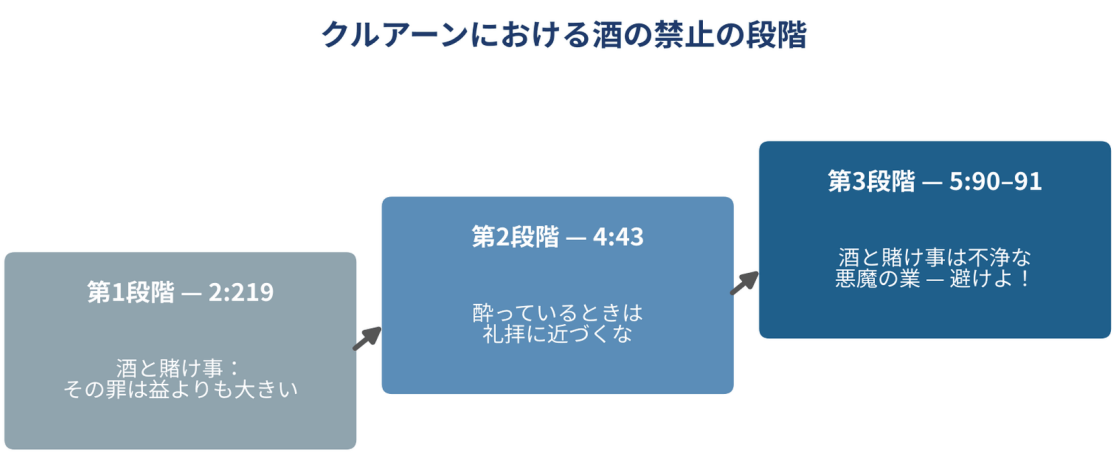


図 3：酒の禁止の段階。

「あなたがた信仰する者よ、誠に酒と賭矢、偶像と占い矢は、忌み嫌われる悪魔の業である。これを避けなさい。恐らくあなたがたは成功するであろう。」『タフスィール・イブン・カスィール』5:90。

教友たちはこの命令をどのように受け止めたのでしょうか。アブー・タルハの家で飲み物を注いでいたアナス رضى الله عنه が語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2464 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحِيمِ أَبُو يَحْيَى، أَخْبَرَنَا عَفَّانُ، حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ زَيْدٍ، حَدَّثَنَا ثَابِتٌ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ كُنْتُ سَاقِيَ الْقَوْمِ فِي مَنْزِلِ أَبِي طَلْحَةَ، وَكَانَ خَمْرُهُمْ يَوْمَئِذٍ الْفَضِيخَ، فَأَمَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مُنَادِيًا يُنَادِي أَلاَ إِنَّ الْخَمْرَ قَدْ حُرِّمَتْ. قَالَ فَقَالَ لِي أَبُو طَلْحَةَ اخْرُجْ فَأَهْرِقْهَا، فَخَرَجْتُ فَهَرَقْتُهَا، فَجَرَتْ فِي سِكَكِ الْمَدِينَةِ فَقَالَ بَعْضُ الْقَوْمِ قَدْ قُتِلَ قَوْمٌ وَهْىَ فِي بُطُونِهِمْ. فَأَنْزَلَ اللَّهُ {لَيْسَ عَلَى الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ جُنَاحٌ فِيمَا طَعِمُوا} الآيَةَ.

訳：

アナス رضى الله عنه は言いました：**私はアブー・タルハの家で人々に飲み物を注いでいました。当時の彼らの飲み物はナツメヤシから作られたものでした。アッラーの使徒 ﷺ は触れ役に命じて告げさせました。「知れ、酒は禁じられた。」** アブー・タルハは私に「外へ出てそれを流してしまえ」と言いました。私は外に出てそれを流しました。**するとそれはマディーナの路地を流れていきました。**ある人々は言いました。「酒がまだ腹の中にあるうちに殺された人々がいる。」するとアッラーは啓示されました：**「信仰して善行に勤しむ者には、以前に食べたものについて罪はない……」**（食卓章 5:93）。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アブドゥ・アッ＝ラヒーム・アブー・ヤフヤー ← アッファーン ← ハンマード・ブン・ザイド ← サービト（・アル＝ブナーニー） ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』不正の書、道に酒を流す章、ハディース第 2464 番；第 4620 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2464

マディーナの路地を流れた酒

「本当か？」とも「先に飲み干してもよいか？」とも、誰一人尋ねませんでした。布告が聞こえるやいなや酒の器は**すぐに流され**、酒はマディーナの路地を流れていきました。これこそ**サミウナー・ワ・アタウナー**、「私たちは聞き、そして従います」です。

このハディースはまた、禁止が**ウフドの後**であったことを示しています。酒が腹の中にあるままウフドで殉教した教友たちがいましたが、アッラーは彼らに罪がないことを明らかにされました（食卓章 5:93）。規定は、啓示される前には適用されないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

現代の健康研究における酒

クルアーンは、酒の罪は「**その益よりも大きい**」と述べています（雌牛章 2:219）。現代の健康研究はこの警告を裏付けています。世界保健機関（WHO）は 2023 年、健康にとって**安全なアルコール摂取量は存在しない**こと、アルコールは長らく**グループ 1 の発がん性物質**に分類されてきたこと、そして**少なくとも 7 種類のがん**を引き起こすことを述べました（WHO 欧州、2023 年）。

WHO のデータ（2019 年）	数値
アルコールによる年間死亡者数	260 万人（全死亡の 4.7%）
アルコール関連のがんによる死亡	40 万 1 千人
負傷（事故、暴力）による死亡	72 万 4 千人

出典：WHO、2024 年 6 月 25 日。これらの数値が集められる十四世紀以上も前に、クルアーンは酒を、**敵意と憎しみ**を生む「**悪魔の業**」と呼んでいました（食卓章 5:91）。そして暴力による負傷は、今日でもその最大の害の一つなのです。

教訓：社会の変革には**英知と段階**が必要です。しかしアッラーの命令が明らかになれば、信仰者はためらうことなく直ちに従います。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ナディール族の裏切りの企て

ナディール族はマディーナの大きなユダヤ部族の一つで、ムスリムと和平の盟約を結んでいました（第 8 巻）。マウーナの井戸の後、彼らの意図をあらわにする出来事が起こりました。

スィーラの注：落とされかけた石

スィーラ書によれば、マウーナの井戸の生存者の一人**アムル・ブン・ウマイヤ・アッ＝ダムリー**が、アッラーの使徒 ﷺ の保護下にあることを知らずに、アーミル族の男二人を殺してしまいました。預言者は**ディヤ**（血の代償金）を支払う必要があり、盟約に従って分担を求めるため、ナディール族のもとへ赴かれました。

ナディール族は表向きは歓迎しましたが、ひそかに、壁にもたれて座っていた預言者の上に、壁の上から**大きな石を落とそう**と企てました。ジブリールがその企てを告げると、預言者は立ち上がり、急いでマディーナへ戻られました。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』ナディール族の章；『タフスィール・イブン・カスィール』5:11。https://tafsir.app/ibn-katheer/5/11

イブン・カスィールは、この出来事を次の節の啓示の背景の一つとして挙げています：「**ある民があなたがたに手を伸ばそうとした時、アッラーはかれらの手をあなたがたから押し止められた。あなたがたへのアッラーの恩恵を念じなさい**」『タフスィール・イブン・カスィール』5:11。

教訓：盟約は信託（アマーナ）です。アッラーの使徒 ﷺ は**盟約を果たすために**ナディール族のもとへ来られましたが、彼らは暗殺の企てによって**それを裏切った**のです。アッラーはご自身の使徒を守られました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

包囲と追放

アッラーの使徒 ﷺ はナディール族に、マディーナを去る選択肢を与えられました。彼らは自分たちの**砦**と偽信者たちの援助の約束を頼みにして、拒みました。そこでムスリムは彼らを包囲しました。イブン・ウマル رضى الله عنهما がその結末を伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4028 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ نَصْرٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، أَخْبَرَنَا ابْنُ جُرَيْجٍ، عَنْ مُوسَى بْنِ عُقْبَةَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ حَارَبَتِ النَّضِيرُ وَقُرَيْظَةُ، فَأَجْلَى بَنِي النَّضِيرِ، وَأَقَرَّ قُرَيْظَةَ وَمَنَّ عَلَيْهِمْ، حَتَّى حَارَبَتْ قُرَيْظَةُ فَقَتَلَ رِجَالَهُمْ وَقَسَمَ نِسَاءَهُمْ وَأَوْلاَدَهُمْ وَأَمْوَالَهُمْ بَيْنَ الْمُسْلِمِينَ إِلاَّ بَعْضَهُمْ لَحِقُوا بِالنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَآمَنَهُمْ وَأَسْلَمُوا، وَأَجْلَى يَهُودَ الْمَدِينَةِ كُلَّهُمْ بَنِي قَيْنُقَاعَ وَهُمْ رَهْطُ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ سَلاَمٍ وَيَهُودَ بَنِي حَارِثَةَ، وَكُلَّ يَهُودِ الْمَدِينَةِ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言いました：**ナディール族とクライザ族は（盟約を破ってアッラーの使徒 ﷺ と）戦いました。そこで預言者はナディール族を追放し、クライザ族には留まることを許して、彼らから何も取りませんでした。**やがて彼ら（クライザ族）が再び戦うまでは……。その後、預言者はマディーナのユダヤ人全員を追放されました。アブドゥッラー・ブン・サラームの部族であるカイヌカー族、ハーリサ族のユダヤ人、そしてマディーナのすべてのユダヤ人です。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク・ブン・ナスル ← アブドゥ・アッ＝ラッザーク ← イブン・ジュライジュ ← ムーサー・ブン・ウクバ ← ナーフィウ ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ナディール族の話の章、ハディース第 4028 番。訳文の中間部は要約。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4028

アッラーはその出来事をこう描かれます：「**かれこそは、啓典の民の中の不信心な者たちを、最初の集結の際にその住まいから追放された方である**」『タフスィール・イブン・カスィール』59:2。

スィーラの注：ラクダの荷を背に去る

スィーラ書によれば、包囲は約**六夜**続きました（十五日間とする伝承もあります）。最終的にナディール族は、**命の安全**を条件に、ラクダに積めるものは**武器を除いて**持ち出してよいという条件で退去に同意しました。一部は**ハイバル**へ、一部はシャームへ去りました。

クルアーンは、彼らが**自らの手で家を壊した**と述べています（59:2）。ムスリムに残さないよう、戸や木材を外して持ち去ったのです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；Wikipedia「Banu Nadir」。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Nadir

教訓：堅固な砦も、アッラーの定めから守ることはできません。彼らは**自分たちの砦**が救ってくれると思っていましたが、アッラーは**思いもよらない方向から**罰をもたらされました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ナディール族のナツメヤシ

包囲の間、ある行為が疑問を呼びました。ナディール族の**ナツメヤシの木々**が切り倒され、焼かれたのです。イブン・ウマル رضى الله عنهما が伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4031 番

حَدَّثَنَا آدَمُ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ حَرَّقَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم نَخْلَ بَنِي النَّضِيرِ وَقَطَعَ وَهْىَ الْبُوَيْرَةُ فَنَزَلَتْ {مَا قَطَعْتُمْ مِنْ لِينَةٍ أَوْ تَرَكْتُمُوهَا قَائِمَةً عَلَى أُصُولِهَا فَبِإِذْنِ اللَّهِ}

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言いました：**アッラーの使徒 ﷺ は、ブワイラにあったナディール族のナツメヤシを焼き、切り倒されました。そこで次の節が啓示されました。「あなたがたがナツメヤシの木を切り倒しても、根元に立ったまま残しておいても、それはアッラーの許しによるものである。」**（集合章 59:5）。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アーダム（・ブン・アビー・イヤース）← アッ＝ライス ← ナーフィウ ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ナディール族の話の章、ハディース第 4031 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4031

「あなたがたが、ナツメヤシの木を切り倒しても、またその根の上に立たせて置いても、それはアッラーの御許しによるもので、アッラーの掟に背く者たちを卑しめられるためである。」『タフスィール・イブン・カスィール』59:5。

通常、イスラームは戦争において木や作物を損なうことを**禁じています**。アブー・バクルは軍に、実のなる木を切り倒さないよう命じました（『ムワッタア・マーリク』）。しかしここでは、軍事上の必要からアッラーがそれを許されました。果樹園と砦の陰に立てこもる敵を、より大きな流血なしに降伏させるためです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ユダヤ人たちは非難しました。「ムハンマドよ、お前は破壊を禁じているのに、なぜ木を切り倒すのか。」（『タフスィール・イブン・カスィール』59:5）。この節は、切り倒すことも残すことも、どちらもアッラーの許しによるものだと答えています。教訓：原則は**守ること**であり、例外は**聖法の許し**によってのみ認められます。

イスラームにおける戦いの作法

ナディール族のナツメヤシの出来事は、啓示によって許された**例外**です。イスラームにおける戦いの原則は厳しい作法に縛られており、それはアッラーの使徒 ﷺ ご自身が教えられたものです：

作法	根拠
女性と子どもを殺さない	殺された女性を見て、預言者はそれを禁じられた（ブハーリー 3015）
約束を裏切らない	「約束を裏切ってはならない」（ムスリム 1731）
遺体を損なわない	「（遺体を）損なってはならない」（ムスリム 1731）
戦利品を盗まない	「戦利品を不正に取ってはならない」（ムスリム 1731）
まずイスラームへ招く	各部隊の長への預言者の訓戒（ムスリム 1731）

ブライダのハディース（『サヒーフ・ムスリム』1731）によれば、アッラーの使徒 ﷺ は部隊の長を任命するたびに、**アッラーを畏れ**、同行するムスリムに善く接するよう命じ、その後にこれらの作法を述べられました。イスラームの戦いは無制限ではなく、**畏敬と公正**に縛られているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

偽信者たちの偽りの約束

ナディール族が退去を拒むほど強気だったのは、**アブドゥッラー・ブン・ウバイ**と偽信者たちが援助を約束していたからです。スィーラ書によれば、イブン・ウバイは二千人で助けると約束しました。アッラーはその約束を暴かれました：

「あなたは、偽信者たちが啓典の民の中の不信心な仲間に言うのを見なかったのか。「もしあなたがたが追放されるなら、わたしたちは一緒に出て行くであろう。あなたがたのことに関しては、誰にも決して従わないであろう。またあなたがたがもし攻撃されるならば、わたしたちは必ず助けるであろう。」だがアッラーは、かれらが真に虚言の徒であることを立証なされる。」『タフスィール・イブン・カスィール』59:11。

アッラーは実際に何が起こるかを明らかにされました：**「もしかれらが追放されても、（偽信者たちは）決して一緒に出て行かないであろう」**『タフスィール・イブン・カスィール』59:12。

偽信者たちの約束	現実
「お前たちが追放されれば、我々も一緒に出て行く」	一緒に出て行った者は一人もいなかった。
「お前たちが攻められれば、我々が助ける」	包囲の間、援助は一度も来なかった。

教訓：**偽信者の約束**を頼りにしてはなりません。彼らは安全なときには大胆に約束しますが、試練が来ると逃げ出します。クルアーンはこのことを起こる前に明らかにし、啓示の真実の証としたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ファイ（戦わずに得た財）

ナディール族は**戦闘なしに**退去したため、彼らが残した財産は通常のガニーマ（戦利品）ではなく、**ファイ**でした。ウマル رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がそれをどう用いられたかを説明しています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2904 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ عَمْرٍو، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ مَالِكِ بْنِ أَوْسِ بْنِ الْحَدَثَانِ، عَنْ عُمَرَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ كَانَتْ أَمْوَالُ بَنِي النَّضِيرِ مِمَّا أَفَاءَ اللَّهُ عَلَى رَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم مِمَّا لَمْ يُوجِفِ الْمُسْلِمُونَ عَلَيْهِ بِخَيْلٍ وَلاَ رِكَابٍ، فَكَانَتْ لِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَاصَّةً، وَكَانَ يُنْفِقُ عَلَى أَهْلِهِ نَفَقَةَ سَنَتِهِ، ثُمَّ يَجْعَلُ مَا بَقِيَ فِي السِّلاَحِ وَالْكُرَاعِ، عُدَّةً فِي سَبِيلِ اللَّهِ.

訳：

ウマル رضى الله عنه は言いました：**ナディール族の財産は、アッラーがその使徒に授けられたファイで、ムスリムが馬やラクダを駆って得たものではありませんでした。それゆえそれはアッラーの使徒 ﷺ に特有のものでした。預言者は家族に一年分の生活費を与え、残りを、アッラーの道に備える武器と馬に充てられました。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アブドゥッラー（・アル＝マディーニー）← スフヤーン（・ブン・ウヤイナ）← アムル（・ブン・ディーナール）← アッ＝ズフリー ← マーリク・ブン・アウス・ブン・アル＝ハダサーン ← ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、ハディース第 2904 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2904

アッラーはファイの分配の英知を定められました：「**それは、あなたがたの中の富裕な者たちの間だけで（財が）回らないようにするためである**」『タフスィール・イブン・カスィール』59:7。

ガニーマ（戦利品）	ファイ
戦闘によって得たもの	戦闘なしに得たもの
五分の四は戦士へ（8:41）	アッラーの使徒 ﷺ が公益のために管理（59:7）
例：バドル	例：ナディール族

スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ はナディール族の土地の大部分を、貧しい**ムハージルーン（移住者）**に分け与えられました。彼らがもはやアンサールに頼らずにすむようにするためです。教訓：イスラームは**財が巡り**、富裕な者だけに集中しないよう定めています。初めから公正な経済の原則だったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

集合章（スーラ・アル＝ハシュル）

ナディール族の出来事の全体は、**集合章**（第 59 章）に刻まれています。サイード・ブン・ジュバイルは言いました。私がイブン・アッバースに集合章のことを話すと、彼は言いました：「**それはナディール族の章と呼びなさい。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4029）。

節	目次
59:1–5	ナディール族の追放；ナツメヤシ
59:6–10	ファイの財；ムハージルーン、アンサール、そして後の世代
59:11–17	偽信者たちの偽りの約束；悪魔のたとえ
59:18–20	畏敬への呼びかけと、明日への備えを省みること
59:21–24	クルアーンの偉大さとアッラーの美しい御名

この章は、非常に荘厳な節で締めくくられます：「**もしわれがこのクルアーンを山に下したならば、あなたはそれがアッラーを畏れて謙虚になり、裂け砕けるのを見るであろう**」『タフスィール・イブン・カスィール』59:21。

教訓：アッラーは一つの歴史的出来事を**永遠の教訓**とされました。裏切り、偽信、財の公正、そして畏敬についての教訓です。だからこそ 59:2 の節は次の呼びかけで結ばれているのです：「**だから目のある者たちよ、教訓とせよ。**」

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウンム・サラマと災難の祈り

ウンム・サラマの夫アブー・サラマは、ウフドの傷が再び出血して亡くなりました（第 1 章）。ウンム・サラマ رضى الله عنها は深く愛していた夫を失い、幼い子どもたちを抱えていました。彼女は、一つの祈りが人生をどう変えたかを語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 918 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ جَمِيعًا عَنْ إِسْمَاعِيلَ بْنِ جَعْفَرٍ، - قَالَ ابْنُ أَيُّوبَ حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - أَخْبَرَنِي سَعْدُ بْنُ سَعِيدٍ، عَنْ عُمَرَ بْنِ كَثِيرِ بْنِ أَفْلَحَ، عَنِ ابْنِ، سَفِينَةَ عَنْ أُمِّ سَلَمَةَ، أَنَّهَا قَالَتْ سَمِعْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ مَا مِنْ مُسْلِمٍ تُصِيبُهُ مُصِيبَةٌ فَيَقُولُ مَا أَمَرَهُ اللَّهُ إِنَّا لِلَّهِ وَإِنَّا إِلَيْهِ رَاجِعُونَ اللَّهُمَّ أْجُرْنِي فِي مُصِيبَتِي وَأَخْلِفْ لِي خَيْرًا مِنْهَا. إِلاَّ أَخْلَفَ اللَّهُ لَهُ خَيْرًا مِنْهَا. قَالَتْ فَلَمَّا مَاتَ أَبُو سَلَمَةَ قُلْتُ أَىُّ الْمُسْلِمِينَ خَيْرٌ مِنْ أَبِي سَلَمَةَ أَوَّلُ بَيْتٍ هَاجَرَ إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم. ثُمَّ إِنِّي قُلْتُهَا فَأَخْلَفَ اللَّهُ لِي رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم. قَالَتْ أَرْسَلَ إِلَىَّ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حَاطِبَ بْنَ أَبِي بَلْتَعَةَ يَخْطُبُنِي لَهُ فَقُلْتُ إِنَّ لِي بِنْتًا وَأَنَا غَيُورٌ. فَقَالَ أَمَّا ابْنَتُهَا فَنَدْعُو اللَّهَ أَنْ يُغْنِيَهَا عَنْهَا وَأَدْعُو اللَّهَ أَنْ يَذْهَبَ بِالْغَيْرَةِ.

訳：

ウンム・サラマ رضى الله عنها は言いました。私はアッラーの使徒 ﷺ がこう言われるのを聞きました：「**災難に見舞われたムスリムが、アッラーの命じられた言葉『インナー・リッラーヒ・ワ・インナー・イライヒ・ラージウーン。アッラーフンマ・アジュルニー・フィー・ムスィーバティー・ワ・アフリフ・リー・ハイラン・ミンハー』（まことに私たちはアッラーのものであり、彼のもとに帰る者です。アッラーよ、私の災難において報いを与え、それよりも良いものを代わりにお与えください）を唱えるなら、アッラーは必ずより良いものを代わりにお与えになる。**」アブー・サラマが亡くなったとき、私は言いました：「**ムスリムの中で、アブー・サラマより良い人がいるでしょうか。アッラーの使徒 ﷺ のもとへ最初に移住した家族なのに。**」それでも私はその言葉を唱えました。**するとアッラーは、アッラーの使徒 ﷺ を私の代わりとしてお与えくださいまし**

た。 アッラーの使徒 ﷺ はハーティブ・ブン・アビー・バルタアを遣わして私に求婚されました。私は言いました。「私には娘がいますし、私はとても嫉妬深い女です。」預言者は言われました。「娘については、アッラーが彼女を満たしてくださるよう祈ろう。そしてあなたの嫉妬がなくなるよう、私はアッラーに祈ろう。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ、イブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← サアド・ブン・サイード ← ウマル・ブン・カスィール・ブン・アフラフ ← イブン・サフィーナ ← ウンム・サラマ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』葬儀の書、災難の時に唱える言葉の章、ハディース第 918 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:918a

その祈りはクルアーンの節から始まります：「**本当にわたしたちは、アッラーのもの。かれの御許にわたしたちは帰ります**」『タフスィール・イブン・カスィール』2:156。

「アブー・サラマより良い人がいるでしょうか？」

ウンム・サラマは自分の気持ちに正直でした。夫より良い人を想像できなかったのです。それでも彼女は、アッラーの使徒 ***mengamalkan doa*** が教えた祈りを実践しました。そしてアッラーは、**アッラーの使徒 ﷺ ご自身**を代わりとしてお与えになったのです。スィーラ書によれば、その結婚はヒジュラ暦 4 年シャウワール月のことでした。

ウンム・サラマはその後、**信仰者たちの母（ウンマハート・アル＝ムウミニーン）**の中でも最も聡明な一人となりました。彼女の意見は、後にフダイビヤでの大きな危機を解決することになります。また彼女は預言者の妻たちの中で最後に亡くなった人でした。教訓：災難の時の祈りは単なる言葉ではなく、アッラーがより良いもので代えてくださるという**確信**なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：320 / 567

ザイド・ブン・サービト、ユダヤ文字を学ぶ

この時期、アッラーの使徒 ﷺ は、聡明なアンサールの若者**ザイド・ブン・サービト** رضي الله عنه に一つの任務を与えられました。ザイドは言いました：「**アッラーの使徒 ﷺ は私にユダヤの文字を学ぶよう命じ、『アッラーにかけて、私は自分の書簡についてユダヤ人を信用していない』と言われました。半月も経たないうちに、私はそれを習得しました。預言者が彼らに書簡を送るときは私が書き、彼らが預言者に書簡を送ってくると私が読み上げました。**」（『スナン・アビー・ダーウード』3645、ハサン・サヒーフと評価；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2715 にも）。

ザイド・ブン・サービトの役割	説明
翻訳者・書簡の書記	半月でユダヤ文字を習得（アブー・ダーウード 3645）
啓示の書記	アッラーの使徒 ﷺ の啓示の書記の一人（ブハーリー 4986）
クルアーンの編纂者	アブー・バクルからクルアーンの編纂を託された（ブハーリー 4986）

後にアブー・バクルは、**クルアーンを集める**役目にザイドを選び、こう言いました。「あなたは聡明な若者で、私たちはあなたの誠実さを疑っていない。そしてあなたはかつてアッラーの使徒 ﷺ のために啓示を書き記していた。」（『サヒーフ・ブハーリー』4986）。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**若者の知識と才能に投資されました。**言語と新しい技能を身につけることはウンマの力の一部です。そしてその能力が、後にウンマ全体のためにクルアーンを守ることになったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ザート・アッ＝リカーウ

アッラーの使徒 ﷺ はまた、攻撃のために集結していたガタファーンの諸部族（ムハーリブ族とサアラバ族）に立ち向かうため、**ナジュド**の方面へ出陣されました。その道のりは非常に過酷でした。アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضي الله عنه はこう語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4128 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْعَلاَءِ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ بُرَيْدِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ أَبِي مُوسَى ـ رضى الله عنه ـ قَالَ خَرَجْنَا مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فِي غَزَاةٍ وَنَحْنُ سِتَّةُ نَفَرٍ بَيْنَنَا بَعِيرٌ نَعْتَقِبُهُ، فَنَقِبَتْ أَقْدَامُنَا وَنَقِبَتْ قَدَمَاىَ وَسَقَطَتْ أَظْفَارِي، وَكُنَّا نُلَفُّ عَلَى أَرْجُلِنَا الْخِرَقَ، فَسُمِّيَتْ غَزْوَةَ ذَاتِ الرِّقَاعِ، لِمَا كُنَّا نَعْصِبُ مِنَ الْخِرَقِ عَلَى أَرْجُلِنَا، وَحَدَّثَ أَبُو مُوسَى بِهَذَا، ثُمَّ كَرِهَ ذَاكَ، قَالَ مَا كُنْتُ أَصْنَعُ بِأَنْ أَذْكُرَهُ. كَأَنَّهُ كَرِهَ أَنْ يَكُونَ شَيْءٌ مِنْ عَمَلِهِ أَفْشَاهُ.

訳：

アブー・ムーサー رضي الله عنه は言いました：**私たちは預言者 ﷺ とともにある遠征に出ました。六人で一頭のラクダを分け合い、交代で乗っていました。私たちの足は薄くなって傷つき、私の足も傷ついて爪がはがれました。私たちは布切れで足を巻いたので、その遠征はザート・アッ＝リカーウ（布切れの遠征）と名づけられました。足に布を巻いたからです。** アブー・ムーサーはこのハディースを語ると後悔し、「なぜ私はこれを話してしまったのか」と言いました。自分の行いを人に明かすのを嫌ったかのようでした。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝アラー ← アブー・ウサーマ ← ブライド・ブン・アブドゥッラー・ブン・アビー・ブルダ ← アブー・ブルダ ← アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ザート・アッ＝リカーウの戦いの章、ハディース第 4128 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4128

スィーラの注：ザート・アッ＝リカーウはいつか？

イブン・イスハークはこの遠征を、ナディール族の後の**ヒジュラ暦 4 年**としています。しかし**イマーム・ブハーリー**は、それが**ハイバルの後**（ヒジュラ暦 7 年）に起こったと考えました。参加したアブー・ムーサー・アル＝アシュアリーがマディーナに来たのはハイバルの後だったからです。イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』でこの相違を論じています。

本書はスィーラ書の順序に従ってここで取り上げ、ブハーリーの見解も記しています。アッラーこそが最もよくご存じです。

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ザート・アッ＝リカーウの戦いの章；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』。https://sunnah.com/bukhari:4125

アブー・ムーサーの態度に注目してください。自分の苦労を語ったことを**後悔した**のは、行いの誠実さが損なわれるのを恐れたからです。教訓：教友たちは大きな困難の中で奮闘しましたが、行いがアッラーのための誠実なものであり続けるよう、**自分の善行を隠した**のです。

「誰がお前を救えるのか？」

ナジュドからの帰り道、アッラーの使徒 ***tawakal*** の完全なアッラーへの信頼（タワックル）を示す出来事が起こりました。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما はこう語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2910 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ حَدَّثَنِي سِنَانُ بْنُ أَبِي سِنَانٍ الدُّؤَلِيُّ، وَأَبُو سَلَمَةَ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ أَنَّ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ أَخْبَرَ أَنَّهُ، غَزَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قِبَلَ نَجْدٍ، فَلَمَّا قَفَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَفَلَ مَعَهُ، فَأَدْرَكَتْهُمُ الْقَائِلَةُ فِي وَادٍ كَثِيرِ الْعِضَاهِ، فَنَزَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَتَفَرَّقَ النَّاسُ يَسْتَظِلُّونَ بِالشَّجَرِ، فَنَزَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم تَحْتَ سَمُرَةٍ وَعَلَّقَ بِهَا سَيْفَهُ وَنِمْنَا نَوْمَةً، فَإِذَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَدْعُونَا وَإِذَا عِنْدَهُ أَعْرَابِيٌّ فَقَالَ إِنَّ هَذَا اخْتَرَطَ عَلَىَّ سَيْفِي وَأَنَا نَائِمٌ، فَاسْتَيْقَظْتُ وَهْوَ فِي يَدِهِ صَلْتًا. فَقَالَ مَنْ يَمْنَعُكَ مِنِّي فَقُلْتُ اللَّهُ. ثَلاَثًا وَلَمْ يُعَاقِبْهُ وَجَلَسَ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は、**アッラーの使徒 ﷺ とともにナジュドの方面へ遠征に出たと言いました。帰る途中、棘のある木の多い谷にいるとき、昼の暑い時刻となりました。アッラーの使徒 ﷺ と人々は休憩し、日陰を求めて散らばりました。アッラーの使徒 ﷺ は一本の木の下で休み、剣をその木に掛けられました。** 私たちが眠っていると、突然アッラーの使徒 ﷺ が私たちを呼ばれました。そのそばには一人のベドウィンがいました。預言者は言われました：「**この男は、私が眠っている間に私の剣を抜いた。私が目を覚ますと、剣は抜かれて彼の手にあった。彼は言った。『誰が私からお前を救えるのか？』私は答えた。『アッラーだ』と、三度。」 預言者は彼を罰されず**、彼は座り込みました。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン ← シュアイブ ← アッ＝ズフリー ← スィナーン・ブン・アビー・スィナーン・アッ＝ドゥアリー と アブ

ー・サラマ・ブン・アブドゥ・アッ＝ラフマーン ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、ハディース第 2910 番；第 4135〜4136 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2910

「アッラーだ」

目を覚ましたばかりの預言者の頭上で、一人の男が抜き身の剣を握っていました。護衛は一人もいません。預言者の答えはただ一語、**「アッラーだ。」** 別の伝承では、その男は**ガウラス・ブン・アル＝ハーリス**と名指されています（『サヒーフ・ブハーリー』4136）。

さらに驚くべきことに、立場が逆転してその男が預言者の手中に落ちたとき、アッラーの使徒 ﷺ は**彼を罰されませんでした。**（『サヒーフ・ブハーリー』以外の）一部の伝承によれば、その男は自分の民のもとへ帰り、「私は最も優れた人のもとから来た」と言ったといいます。

教訓：真の**タワックル**とは、剣の切っ先にあってもアッラーとともに心が安らいでいることです。そして**赦し**は、弱い者ではなく強い者の品性なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

恐怖時の礼拝

敵の脅威のもとで、アッラーは**恐怖時の礼拝**（サラート・アル＝ハウフ）の方法を教えられました。戦場においても集団礼拝が捨てられないようにするためです。アッラーは仰せられます：

「あなたがかれら（信者）の中にあって、かれらと礼拝に立つ時は、（まず）かれらの一部をあなたと共に（礼拝に）立たせそしてかれらに武器を持たせなさい。かれらがサジダ（して第 1 のラカート「礼拝の単位」）を終えたならば、あなたがたの後ろに行かせ、それからまだ礼拝し ない他の一団に、あなたと共に礼拝（の第 2 のラカート）をさせ（て礼拝を終わり）、かれらに武器を持たせ警戒させなさい。不信者たちは、あなたがたが武器や行李をゆるがせにする隙に乗じ、一挙に飛びかかって襲おうと望んでいる。ただし雨にあい、またはあなたがたが病気の時、自分の武器をおいても罪はない。だが用心の上に用心しなさい。アッラーは不信者のために恥ずべき懲罰を備えられる。」『タフスィール・イブン・カスィール』4:102。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 942 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، قَالَ أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ سَأَلْتُهُ هَلْ صَلَّى النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَعْنِي صَلاَةَ الْخَوْفِ قَالَ أَخْبَرَنِي سَالِمٌ أَنَّ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ غَزَوْتُ مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قِبَلَ نَجْدٍ، فَوَازَيْنَا الْعَدُوَّ فَصَافَفْنَا لَهُمْ فَقَامَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يُصَلِّي لَنَا فَقَامَتْ طَائِفَةٌ مَعَهُ تُصَلِّي، وَأَقْبَلَتْ طَائِفَةٌ عَلَى الْعَدُوِّ وَرَكَعَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِمَنْ مَعَهُ، وَسَجَدَ سَجْدَتَيْنِ، ثُمَّ انْصَرَفُوا مَكَانَ الطَّائِفَةِ الَّتِي لَمْ تُصَلِّ، فَجَاءُوا، فَرَكَعَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِهِمْ رَكْعَةً، وَسَجَدَ سَجْدَتَيْنِ ثُمَّ سَلَّمَ، فَقَامَ كُلُّ وَاحِدٍ مِنْهُمْ فَرَكَعَ لِنَفْسِهِ رَكْعَةً وَسَجَدَ سَجْدَتَيْنِ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は言いました：**私はアッラーの使徒 ﷺ とともにナジュドの方面へ遠征しました。私たちは敵と向き合い、列を整えました。アッラ**

ーの使徒 ﷺ は立って礼拝を導かれ、一隊は預言者とともに礼拝し、もう一隊は敵に向かっていました。 アッラーの使徒 ﷺ は最初の一隊とともにルクーウし、二度サジダされました。それから彼らはまだ礼拝していない一隊の位置へ移り、その一隊がやって来て、預言者は彼らとともに一ラクアを礼拝し、ルクーウと二度のサジダをして、サラームで終えられました。その後、彼らの一人ひとりが立ち上がり、各自で一ラクアを完成させました。

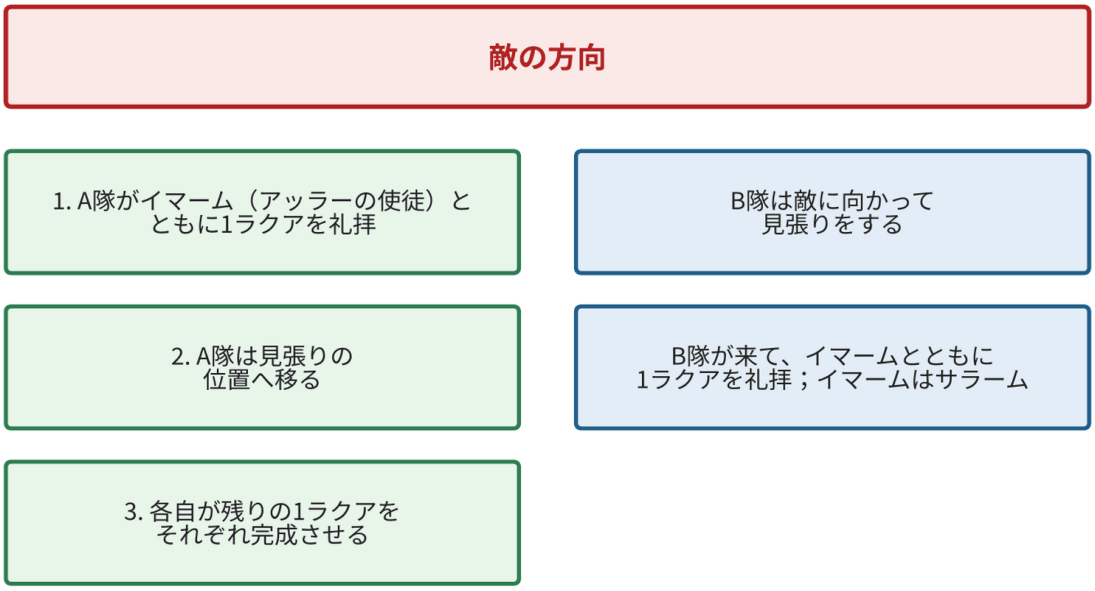
伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン ← シュアイブ ← アッ＝ズフリー ← サーリム ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』恐怖時の礼拝の書、ハディース第 942 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:942

恐怖時の礼拝の一つの方法（『サヒーフ・ブハーリー』942）



恐怖時の礼拝には複数の真正な方法がある；この図はイブン・ウマルの伝承による。女性章 4:102を参照。

図 4：イブン・ウマルのハディースによる恐怖時の礼拝の一つの方法。

学者たちは、アッラーの使徒 ***beberapa cara*** から伝えられた恐怖時の礼拝には、敵の位置や戦場の状況に応じていくつかの方法があると述べています。ザート・アッ＝

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

リカーウについてのジャービルの伝承では、預言者は各隊とそれぞれ二ラクアを礼拝されました（『サヒーフ・ブハーリー』4136）。

教訓：**武装した敵の前で**さえ集団礼拝が免除されないのなら、平和な時にはなおさらです。礼拝は、どんな状況でも捨てられることのない宗教の柱なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

約束のバドル

ウフドの戦いの終わりに、アブー・スフヤーンはムスリムに**翌年バドルで**再び相まみえようと挑みました（スィーラ書）。アッラーの使徒 ﷺ はその挑戦を受けられました。その時が来ると、偽信者たちや一部の人々は、クライシュ族の強大さについて恐ろしい噂を広めました。アッラーは仰せられます：

「かの悪魔は、かれの追従者たちを、恐れさせるだけである。だからあなたがたが真の信者ならば、かれらを畏れずわれを畏れなさい。」『タフスィール・イブン・カスィール』3:175。

スィーラの注：後のバドル（ヒジュラ暦 4 年シャアバーン月）

スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ は約 ***1,500*** 人の教友とともにバドルへ出陣し、クライシュ族を待って**八日間**そこに陣を張られました。アブー・スフヤーンはマッカを出ましたが、**干ばつの年**を口実に途中で引き返しました。

一方ムスリムはバドルの市場で商いをし、利益を得て帰りました。一部の注釈者は、3:173–175 の節をこの出来事とハムラー・アル＝アサドに結びつけています（『タフスィール・イブン・カスィール』）。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；『タフスィール・イブン・カスィール』3:173–175。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/175

教訓：ウフドからわずか一年で、ムスリムは**自信を取り戻し**、約束を守りました。一方、挑んできた敵は退いたのです。ウフドで傷ついたマディーナの威信は、**流血なしに**回復されました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

本巻の物語の典拠

本巻の物語は、信頼度の異なる三種類の典拠を通して私たちに伝わっています。本書は、読者が**何が確かで何が広く知られた話なのか**を知ることができるよう、三つを区別しています：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

本巻の物語の典拠

クルアーン（6）

- 酒の禁止（5:90–93）
- ナディール族の追放（59:2）
- 切り倒されたナツメヤシ（59:5）
- ファイの財（59:7）
- 偽信者の偽りの約束（59:11）
- 恐怖時の礼拝（4:102）

真正なハディース（8）

- ラジーウ：アースィム、フバイブ、蜂
- マウーナの井戸；ハラーム・ブン・ミルハーン
- 一か月のクヌート；廃止された節
- マディーナの路地を流れた酒
- ナディール族の追放；ナツメヤシ；ファイ
- ウンム・サラマと災難の祈り
- ザート・アッ＝リカーウ；「誰がお前を救えるのか」
- 恐怖時の礼拝

スィーラ書（4）

- 石を落とす企て（ナディール族）
- 包囲の期間
- 約束のバドル
- 一部の出来事の日付

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 5：本書の物語の典拠の信頼度。

物語	典拠と等級
酒；ナディール族；ナツメヤシ；ファイ；偽信者；恐怖時の礼拝	クルアーン（5:90–93；59:2–12；4:102）— 確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	典拠と等級
ラジーウ；フバイブ；アースィムと蜂	『サヒーフ・ブハーリー』3045 — 真正
マウーナの井戸；ハラーム；クヌート；廃止された節	『サヒーフ・ブハーリー』4090、4092、1003、2801 — 真正
ウンム・サラマと災難の祈り	『サヒーフ・ムスリム』918 — 真正
ザイド・ブン・サービト、ユダヤ文字を学ぶ	『スナン・アビー・ダーウード』3645 — ハサン・サヒーフ
落とされかけた石；ザイド・ブン・アッ＝ダスィナ；後のバドル	スィーラ書（イブン・イスハーク）— 広く知られる
ザート・アッ＝リカーウの年代	見解が分かれる：ヒジュラ暦 4 年（イブン・イスハーク）またはハイバルの後（ブハーリー）

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：332 / 567

ハサンとフサインの誕生

試練の年月のただ中で、アッラーはアッラーの使徒 ﷺ の家庭に喜びを授けられました。預言者の娘ファーティマ رضي الله عنها とアリー・ブン・アビー・ターリブ رضي الله عنه に、二人の息子が授けられたのです。スィーラ書（イブン・サアドほか）によれば、ハサンはヒジュラ暦 3 年ラマダーン月の半ば、つまりウフドの数週間前に生まれ、フサインはヒジュラ暦 4 年シャアバーン月に生まれました。二人の正確な誕生日については、歴史家の間で若干の相違があります。

二人の孫のためのアキーカ

ハディース：ハサンとフサインのアキーカ

イブン・アッバース رضي الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がハサンとフサインのためにアキーカ（誕生の犠牲）を行い、一人につき雄羊一頭をささげられたと伝えています。ナサーイーの伝承では、一人につき雄羊二頭とされています。

等級：サヒーフ（真正）— 『スナン・アビー・ダーウード』2841；『スナン・アン＝ナサーイー』4219。

このハディースはアキーカのスンナの基礎となっています。ウンマを導き敵に立ち向かう多忙さも、孫たちのために家庭のスンナを果たすことを妨げませんでした。

祖父としての愛情

ハディース：「アッラーよ、私はこの子を愛しています」

アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضي الله عنه は言いました。私は、アッラーの使徒 ﷺ がハサン・ブン・アリーを肩に担ぎながら、こう言われるのを見ました。「アッラーよ、私はこの子を愛しています。ですからこの子を愛してください。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』3749。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディース：二輪のライハーン（香草）

イブン・アビー・ヌウムは言いました。イラクの一人の男が、イフラーム中の者がハエを殺すことの規定についてイブン・ウマル رضى الله عنهما に尋ねました。イブン・ウマルは言いました。「イラクの人々はハエの血について尋ねるが、彼らはアッラーの使徒 ﷺ の孫を殺したではないか！預言者 ﷺ は言われたのだ。『二人（ハサンとフサイン）は、この世における私の二輪のライハーンである。』」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』3753。

ハディース：天国の若者たちの長

アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えています。「ハサンとフサインは、天国の住人である若者たちの長である。」

等級：サヒーフ（真正）— 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3768（ティルミズィー：ハサン・サヒーフ）。

二つの集団の和解者

ハディース：「私のこの息子はサイイドである」

アブー・バクラ رضى الله عنه は言いました。私はアッラーの使徒 ﷺ が説教壇の上におられ、ハサン・ブン・アリーがそのそばにいるのを見ました。預言者は時に人々を、時にハサンを見つめながら言われました。「まことに私のこの息子はサイイド（高貴な指導者）である。願わくはアッラーが、この子によってムスリムの二つの大集団の間を和解させてくださるように。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』2704。

この予言はヒジュラ暦 41 年に実現しました。ハサン رضى الله عنه が流血を止めるため、カリフ位をムアーウィヤ رضى الله عنه に譲ったのです。その年は「アーム・アル＝ジャ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マーア」（統合の年）として知られています。ウフドの年に生まれた赤子が、後にウンマの和解者となったのです。

教訓

試練と恵みは交互にやって来ます。アッラーの使徒 ﷺ がおじと教友たちを失ったその同じ年に、アッラーは目を涼しくする孫たちをお与えになりました。子どもへの預言者の愛情、肩に担ぎ、彼らのために祈る姿は、すべての親と祖父母の手本です。どれほど忙しくても、子や孫に愛情を示すことを妨げてはならないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラ暦 4 年の遠征隊（サリーヤ）

ウフドの後、マディーナ周辺のいくつかの部族は、ムスリムの力は折れたと考えました。彼らはマディーナを攻撃するために軍を集め始めました。アッラーの使徒 ﷺ は素早く行動し、小部隊（サリーヤ）を送って、その企てが大きくなる前に打ち砕かれました。下の表は、本巻で述べるヒジュラ暦 4 年の軍事的な出来事をまとめたものです。

月	出来事	概要	典拠
ヒジュラ暦 4 年ムハッラム月	アブー・サラマのカタンへの遠征隊	マディーナ攻撃の準備をしていたアサド族の地へ約 150 人を派遣。敵は大きな戦闘なしに散った。	スィーラ書（イブン・サアド）
ヒジュラ暦 4 年ムハッラム月	アブドゥッラー・ブン・ウナイス	ウラナで軍を集めていたハーリド・ブン・スフヤーン・アル＝フザリーを止めるため、単身で派遣された。	『スナン・アビー・ダーウード』1249；スィーラ書
ヒジュラ暦 4 年サファル月	ラジーウ	十人の宣教者がアダル族とカーラ族に裏切られた（第 2〜5 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』3045
ヒジュラ暦 4 年サファル月	マウーナの井戸	七十人のクッラーが殺された（第 6〜9 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』4090、4092
ヒジュラ暦 4 年ラビーウ・アル＝アウワル月	ナディール族	包囲と追放（第 11〜16 章）。	集合章 59:2–6
ヒジュラ暦 4 年（見解が分かれる）	ザート・アッ＝リカーウ	ナジュドへの遠征；恐怖時の礼拝（第 19〜21 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』4128
ヒジュラ暦 4 年シャアバーン月	約束のバドル	ムスリムはバドルで八夜待ったが、クライシュ族は来なかった（第 22 章）。	イムラーン家章 3:173–175

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・サラマと古傷

アブー・サラマ・アブドゥッラー・ブン・アブドゥ・アル＝アサド رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ のいとこで乳兄弟であり、カタンへの遠征隊を率いました。スィーラ書によれば、ウフドで負った傷が帰還後に再び出血し、彼は亡くなりました。その死後のウンム・サラマの祈りの物語は、第 17 章で語りました。

アブドゥッラー・ブン・ウナイス：歩きながらの礼拝

> **ハディース：身ぶりによる礼拝**
>
> アブドゥッラー・ブン・ウナイス رضي الله عنه は言いました。アッラーの使徒 ﷺ は私を、ウラナとアラファの方面にいたハーリド・ブン・スフヤーン・アル＝フザリーのもとへ遣わし、「行って彼を討て」と言われました。私が彼を見つけたとき、午後（アスル）の礼拝の時刻が来ていました。私は「彼との間に何かが起こって礼拝が遅れてしまうのではないか」と恐れました。そこで私は、身ぶりで礼拝しながら彼の方へ歩いて行きました。
>
> 等級：イブン・ハジャル（『ファトフ・アル＝バーリー』）はその伝承経路をハサンと評価 — 『スナン・アビー・ダーウード』1249。

学者たちはこのハディースを「サラート・アッ＝ターリブ」、すなわち敵を追っていて取り逃がすことを恐れる者の、軽減された方法での礼拝の根拠としています。スィーラ書はさらに、アッラーの使徒 ﷺ がアブドゥッラー・ブン・ウナイスに、審判の日における二人の間のしるしとして一本の杖を贈り、その杖は彼とともに埋葬されたと付け加えています。この追加はアフマドとイブン・イスハークが伝えたもので、その伝承経路については**見解が分かれています**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：337 / 567

教訓

敗北を弱さのしるしにしてはなりません。アッラーの使徒 ﷺ は敵がマディーナに来るのを待たず、勇敢な小部隊で先手を打たれました。そして重大な任務の最中にも、アブドゥッラー・ブン・ウナイスは時刻どおりに礼拝を守りました。これは、どれほど忙しくても礼拝の義務は免除されず、イスラームはその方法を軽くするだけだと教えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

本巻の人物

本巻には、殉教した人、生き残った人、イスラームに敵対した人など、多くの名前が登場します。下の表は、読者が彼らを簡単に知る助けとなります。

ムスリム側

人物	役割	典拠
アースィム・ブン・サービト	ブハーリーによればラジーウの一行の長。遺体は蜂に守られた（第 5 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』3045
マルサド・ブン・アビー・マルサド・アル＝ガナウィー	イブン・イスハークによればラジーウの一行の長。ラジーウで殉教。	スィーラ書
フバイブ・ブン・アディー	捕らえられマッカで殺された。殺される前に二ラクアを礼拝した最初の人（第 3〜4 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』3045
ザイド・ブン・アッ＝ダスィナ	フバイブとともに捕らえられ、タンイームで殺された。	スィーラ書（イブン・イスハーク）
アル＝ムンズィル・ブン・アムル・アッ＝サーイディー	マウーナの井戸の一行の長。殉教。	スィーラ書
ハラーム・ブン・ミルハーン	手紙の運び手。「カアバの主にかけて、私は勝利した！」（第 7 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』4092
アーミル・ブン・フハイラ	アブー・バクルの元奴隷。遺体が天に上げられた（第 6 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』4093
アムル・ブン・ウマイヤ・アッ＝ダムリー	マウーナの井戸の生存者。盟約のあるアーミル族の男二人を誤って殺した。	スィーラ書
カアブ・ブン・ザイド	マウーナの井戸で負傷したまま置き去りにされたが生き延び、後にハンダクで殉教。	スィーラ書
アブー・サラマとウンム・サラマ	アブー・サラマはウフドの傷で亡くなり、ウンム・サラマは信仰者たちの母となった（第 17 章）。	『サヒーフ・ムスリム』918

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	役割	典拠
ザイド・ブン・サービト	短期間でユダヤ文字を習得した（第 18 章）。	『スナン・アビー・ダーウード』 3645

敵対した側

人物	役割	典拠
アーミル・ブン・アッ＝トゥファイル	リウル、ザクワーン、ウサイヤの部族をそそのかしてクッラーを殺させたアーミル族の長。	スィーラ書；ブハーリーの伝承にも言及
アブー・バラー・アーミル・ブン・マーリク	マウーナの井戸の一行に保護を保証したが、その保証は甥のアーミル・ブン・アッ＝トゥファイルによって裏切られた。	スィーラ書
フヤイイ・ブン・アフタブ	裏切りを企てたナディール族の長（第 11 章）。	スィーラ書
アブドゥッラー・ブン・ウバイ	ナディール族に偽りの援助を約束した偽信者の頭目（第 14 章）。	集合章 59:11
ガウラス・ブン・アル＝ハーリス	ザート・アッ＝リカーウでアッラーの使徒 ﷺ に剣を抜いた男（第 20 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』 4136
アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ	バドルでの再会を約束したが来なかった（第 22 章）。後のマッカ征服の際にイスラームに入った。	スィーラ書

スィーラ書によれば、ザイド・ブン・アッ＝ダスィナが殺される前、アブー・スフヤーンが彼に尋ねました。「今ここにムハンマドがお前の代わりにいて、お前は家族と一緒にいられたらと願わないか？」ザイドは答えました。「アッラーにかけて、私が家族と座っている間に、ムハンマドが今いる場所で棘一本に刺されることさえ望まない。」アブー・スフヤーンは言いました。「ムハンマドの教友たちがムハンマドを愛するほど、誰かが誰かを愛するのを私は見たことがない。」この物語は**ス**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ィーラの伝承（イブン・イスハーク）で、広く知られていますが、真正の段階には達していません。

教訓

すべての出来事の陰には、それぞれの名前と選択を持つ人間がいます。最後の一滴の血まで忠実であることを選んだ者もいれば、約束しておきながら裏切りを選んだ者もいます。彼らの名前を知ることでスィーラはいっそう生き生きとし、歴史は最終的に一人ひとりの選択を記録するのだと思い出させてくれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

出来事の場所

本巻の出来事は、ヒジャーズとナジュド周辺のいくつかの場所で起こりました。今日でも知られている場所もあれば、ヤークート・アル＝ハマウィーの『諸国辞典（ムウジャム・アル＝ブルダーン）』のような古い歴史書や地理書から、おおよそしか分からない場所もあります。

場所	出来事	位置
ラジーウ	十人の宣教者への裏切り	ウスファーンとマッカの間、ハダアの地域にあるフザイル族の井戸。
タンイーム	フバイブとザイド・ブン・アッ＝ダスィナが殺された場所	マッカの聖域の外、北の方角。今日ここにはアーイシャ・モスクがあり、マッカの住民がウムラを行う際のミーカート（入域地点）となっている。
マウーナの井戸	七十人のクッラーの殺害	ナジュドの方面、アーミル族の土地とスライム族の溶岩台地の間にある井戸。
ナディール族の集落	包囲と追放	マディーナ南東部のアーリヤ地区、クバーの近く。
ブワイラ	切り倒されたナツメヤシ（第 13 章）	ナディール族のナツメヤシ園。この名は『サヒーフ・ブハーリー』4031 に出てくる。
ハイバルとシャーム	追放後のナディール族の行き先	その大部分はハイバルへ、一部はシャームへ移った。
ザート・アッ＝リカーウ	遠征と恐怖時の礼拝	ナジュドのナフル地域、ガタファーン族の土地。
	約束のバドル	バドル：年に一度の市が立つ場所で、ヒジュラ暦 2 年の戦場。

ラジーウとマウーナの井戸の正確な位置は、今日では確定できません。その位置を確認した考古学的調査がないため、本書には詳細な地図を載せていません。上の推定は古典的な地理書に基づいています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

アッラーの使徒 ﷺ の宣教はマディーナに限られませんでした。教友たちはクルアーンを伝えるために、砂漠や岩山、人里離れた井戸を越えて行きました。その痕跡が時とともに地上から消えてしまっても、これらの地名は彼らの犠牲の証人なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表：ヒジュラ暦 3 年ラマダーンから 4 年シャウワールまで

次の表は、本巻の出来事を時間の順に並べたものです。日付は信頼できるスィーラ書によるもので、見解の分かれる日付にはその旨を記しています。

時期	出来事	章
ヒジュラ暦 3 年ラマダーン月	ハサン・ブン・アリーの誕生	24
ヒジュラ暦 3 年シャウワール月	ウフドの戦いとハムラー・アル＝アサド（第 10 巻）	1
ウフドの後	酒の最終的な禁止（正確な日付は見解が分かれる）	10
ヒジュラ暦 4 年ムハッラム月	アブー・サラマのカタンへの遠征隊；アブドゥッラー・ブン・ウナイス	25
ヒジュラ暦 4 年サファル月	ラジーウの出来事	2〜5
ヒジュラ暦 4 年サファル月	マウーナの井戸の出来事	6〜7
ヒジュラ暦 4 年サファル月〜ラビーウ・アル＝アウワル月	一か月間のクヌート・ナーズィラ	8
ヒジュラ暦 4 年ラビーウ・アル＝アウワル月	ナディール族の包囲と追放；集合章の啓示	11〜16
ヒジュラ暦 4 年ジュマーダー・アル＝アーヒラ月	アブー・サラマの死去（イブン・サアドによる；別の見解もある）	17、25
ヒジュラ暦 4 年（見解が分かれる）	ザート・アッ＝リカーウと恐怖時の礼拝（ブハーリーはハイバルの後とする）	19〜21
ヒジュラ暦 4 年シャアバーン月	フサイン・ブン・アリーの誕生	24

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	章
ヒジュラ暦 4 年シャアバーン月	約束のバドル	22
ヒジュラ暦 4 年シャウワール月	アッラーの使徒 ﷺ がウンム・サラマと結婚	17

教訓

約一年の間に、マディーナの社会は敗北、宣教者たちの殺害、隣人の裏切り、そして戦争の脅威に直面しました。しかし同じ時期に、聖法は整えられ、アッラーの使徒 ﷺ の家族は増え、ムスリムは勇敢にバドルへと出陣しました。出来事を一本の年表で見ると、試練と勝利がしばしば並んで進むことが分かります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「試練に次ぐ試練」についてのよくある質問

1. なぜアッラーの使徒 ﷺ は、ラジーウの出来事の後も宣教者を送り続けられたのですか？

マウーナの井戸の出来事はラジーウの直後に起こりました。その一行は、保護を保証したアブー・バラーの求めに応じて派遣されたのです。一度の裏切りで宣教の責任がなくなるわけではありません。預言者は、ナジュドの諸部族がイスラームを受け入れることを願って、なおもクッラーを送られたのです。

2. フバイブが殺される前に二ラクアを礼拝した最初の人というのは本当ですか？

はい。ブハーリーのハディースは、捕らわれの身で殺されるすべてのムスリムのために二ラクアの礼拝をスンナとして始めたのはフバイブ رضي الله عنه だと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3045；第 4 章）。

3. クヌート・ナーズィラと夜明けの礼拝のクヌートの違いは何ですか？

クヌート・ナーズィラは、ウンマに大きな災難が降りかかったときに唱えるもので、アッラーの使徒 ﷺ がマウーナの井戸の後に一か月間行われたものです（『サヒーフ・ブハーリー』1003；第 8 章）。夜明けの礼拝で常にクヌートを行うことは別の法学上の問題で、シャーフィイー派では他の典拠に基づいてスンナとされています。本書ではそれを論じません。

4. 酒はいつ禁じられたのですか？

酒の禁止は段階的に行われました。雌牛章 2:219、次に女性章 4:43、そして最後に食卓章 5:90–91 です。ジャービル رضي الله عنه は、一部の教友がウフドの朝に酒を飲み、その日のうちに殉教したこと、そしてそれは酒が禁じられる前のことだったと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』4618）。これは、最終的な禁止がウフドの後であったことを示しています（第 10 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. ナディール族は殺されたのですか？

いいえ。彼らは追放され、武器を除いてラクダが運べる財産を持ち出すことを許されました。クルアーンは、彼らが自らの手で家を壊したと述べています（集合章 59:2；第 12 章）。

6. イスラームは破壊を禁じているのに、なぜナツメヤシが切り倒されたのですか？

それは特別な戦時の状況において、アッラーの許しによって行われました。集合章 59:5 でアッラーが仰せられているとおりです（第 13 章）。作物を損なうことの一般的な禁止はそのまま残ります。この例外は、その時の戦争上の必要に限られたものです。

7. ファイとガニーマの違いは何ですか？

ファイは、ナディール族の財産のように、戦闘なしに得た敵の財産です（集合章 59:6–7；第 15 章）。ガニーマは戦闘によって得た戦利品で、その分配は戦利品章 8:41 に述べられています。

8. なぜその遠征はザート・アッ＝リカーウと名づけられたのですか？

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضي الله عنه は、長い道のりを歩いたために足が傷つき、布切れ（リカーウ）で足を巻いたと語っています（『サヒーフ・ブハーリー』4128；第 19 章）。

9. ザート・アッ＝リカーウで剣を抜いた男は誰ですか？

ブハーリーの伝承では、その名はガウラス・ブン・アル＝ハーリスとされています（『サヒーフ・ブハーリー』4136）。ジブリールが彼の胸を突いて剣が落ちたという追加の話は一部のスィーラ書にありますが、その伝承経路は**弱い**ものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

10. なぜアブー・スフヤーンはバドルに来なかったのですか？

スィーラ書によれば、アブー・スフヤーンはクライシュ族の軍とともに出発しましたが、干ばつの季節を口実に引き返しました。クルアーンは、脅されても出陣したムスリムを称えています。「アッラーこそはわたしたちにとって万全であり、最も優れた守護者であられる」（イムラーン家章 3:173；第 22 章）。

11. アーミル・ブン・フハイラの遺体が天に上げられたというのは本当ですか？

アーミル・ブン・フハイラが殺された後に上げられたという伝承は、『サヒーフ・ブハーリー』4093 にあります。それは目に見えない世界の出来事であり、私たちは伝えられたとおりに受け入れ、ハディースに述べられていない詳細を付け加えません。

12. なぜ本巻は「試練に次ぐ試練」と名づけられたのですか？

ウフドの後の一年間に、試練が次々とやって来たからです。ラジーウとマウーナの井戸での裏切り、ナディール族の脅威、教友たちの死、そしてクライシュ族の脅威です。アッラーは仰せられます。「われは恐れや飢え、財産や生命や果実の損失で、必ずあなたがたを試みる」（雌牛章 2:155）。

教訓

これらの質問は、ヒジュラ暦 4 年のスィーラが、法学、信仰、品性の教訓にいかに富んでいるかを示しています。真正な伝承と弱い伝承を区別することで、確かでない物語に頼らずに、確信をもって教訓を得ることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

ウフドとハンダクの間の期間は、マディーナの社会にとって**最も困難な**年月でした。宣教者たちの喪失、隣人の裏切り、そして外からの脅威です。しかし同じ時期に、彼らの信仰はいっそう堅固になり、聖法はいっそう完成していきました。

教訓	本巻から
捕らわれの中での堅固さ	フバイブ：信義、ニラクアの礼拝、信仰の詩（3045）
真の勝利	「カアバの主にかけて、私は勝利した！」（4092）
悲しみを祈りの中へ	一か月のクヌート（1003）
すみやかな服従	マディーナの路地に流された酒（2464）
約束を裏切った結末	ナディール族の追放（59:2；4028）
財の公正	「富裕な者たちの間だけで財が回らないように」（59:7）
災難の時の祈り	ウンム・サラマはより良いもので代えられた（ムスリム 918）
タワックルと赦し	剣の切っ先で「アッラーだ」（2910）
礼拝は捨てられない	敵の前での恐怖時の礼拝（4:102；942）

私たちの人生における試練

すべての信仰者は「試練に次ぐ試練」を経験します。愛する人の喪失、裏切り、恐れ、そして生活の苦難です。本巻は、信仰者の答えが昔から変わらないことを教えています。「**まことに私たちはアッラーのものであり、彼のもとに帰る者です**」と唱え、それから努力し、祈り、忍耐し続けるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

インシャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**ハンダク（部族連合）の戦い**（第 12 巻）へと続きます。敵の連合軍全体がマディーナを包囲し、ムスリムが塹壕を掘った戦いです。アッラーこそが最もよくご存じです。

第 11 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの解釈（タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム）』（雌牛章 2:156、219；イムラーン家章 3:169–175；女性章 4:43、102；食卓章 5:11、90–93；集合章 59:1–21）。https://tafsir.app/ibn-katheer/59/2

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』942、1003、2464、2801、2904、2910、3015、3045、4028、4029、4031、4088、4090、4091、4092、4093、4095、4128、4136、4986。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』918、1731。https://sunnah.com/muslim

『スナン・アビー・ダーウード』3645；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2715。https://sunnah.com/abudawud:3645

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）— ラジーウ、マウーナの井戸、ナディール族、ザート・アッ＝リカーウ、後のバドルの章。

イブン・サアド『大伝記集（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』；イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『アル＝イサーバ』。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— ウフドの後の章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』——遠征の書。

Wikipedia「Expedition of Al Raji」。https://en.wikipedia.org/wiki/Expedition_of_Al_Raji

Wikipedia「Expedition of Bir Maona」。https://en.wikipedia.org/wiki/Expedition_of_Bir_Maona

Wikipedia「Invasion of Banu Nadir」。https://en.wikipedia.org/wiki/Invasion_of_Banu_Nadir

Wikipedia「Banu Nadir」。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Nadir

Wikipedia「Umm Salama」。https://en.wikipedia.org/wiki/Umm_Salama

Wikipedia「Zayd ibn Thabit」。https://en.wikipedia.org/wiki/Zayd_ibn_Thabit

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』3749（アッラーの使徒 ﷺ の肩の上のハサン）。https://sunnah.com/bukhari:3749

『サヒーフ・ブハーリー』3753（二輪のライハーン）。https://sunnah.com/bukhari:3753

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3768（天国の若者たちの長）。https://sunnah.com/tirmidhi:3768

『サヒーフ・ブハーリー』2704（二つの集団の和解者ハサン）。https://sunnah.com/bukhari:2704

『スナン・アビー・ダーウード』2841（ハサンとフサインのアキーカ）。https://sunnah.com/abudawud:2841

『スナン・アビー・ダーウード』1249（身ぶりで礼拝したアブドゥッラー・ブン・ウナイス）。https://sunnah.com/abudawud:1249

『サヒーフ・ブハーリー』4618（ウフドの朝の酒）。https://sunnah.com/bukhari:4618

『サヒーフ・ブハーリー』4136（ガウラス・ブン・アル＝ハーリス）。https://sunnah.com/bukhari:4136

Wikipedia「Masjid Aisha」（タンイーム）。https://en.wikipedia.org/wiki/Masjid_Aisha

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第六部

ハンダクの戦い

預言者伝（スィーラ）— 第 12 巻

部族連合：塹壕、忍耐、そしてアッラーの御助け — クルアーンと真正なハディースに基づいて

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハンダクの戦い

『預言者伝』第 11 巻は、クライシュ族が破ったバドルでの再会の約束で終わりました。しかし**ヒジュラ暦 5 年シャウワール月**、クライシュ族は再びやって来ます — 今度は単独ではありません。かれらは約一万の兵からなる**アラブ諸部族の同盟**（アル＝アフザーブ）を率いて来ました。ムスリム軍の三倍の兵力で、マディーナを永久に滅ぼそうとしたのです。

ムスリムたちは、バドルやウフドのように開けた戦場へ出て行きませんでした。その代わりに**塹壕を掘った**のです — アラブ人がそれまで見たことのないものでした。この物語は**部族連合章**（33:9–27）に記され、真正なハディースがその瞬間を伝えています。アッラーの使徒 ﷺ がお腹が土ぼこりで覆われるまで土を運ばれたこと、飢えのためにお腹に石を巻かれたこと、そしてアッラーの風が来た非常に寒い夜のことです。

ハンダクの戦いの年表（ヒジュラ暦5年シャウワール月）

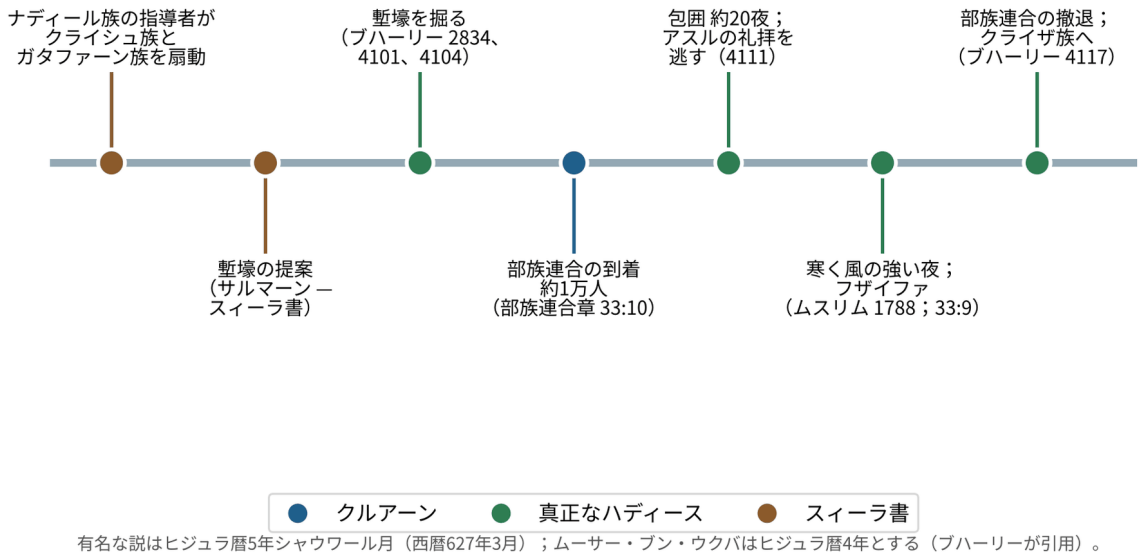


図 1：ハンダクの戦いの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

部族連合の同盟

マディーナから追放された後（第 11 巻）、ハイバルにいた**ナディール族**の指導者たちは黙っていませんでした。スィーラ書によると、**フヤイ・ブン・アフタブ**とユダヤ教徒の有力者たちはマッカへ行き、クライシュ族にもう一度マディーナと戦うよう扇動しました。その後ナジュドの**ガタファーン族**のもとへ行き、ハイバルのナツメヤシの収穫の半分を約束しました。

集団	役割（スィーラ書）
クライシュ族とその同盟者	アブー・スフヤーンが率いる；南西から来た
ガタファーン族（ファザーラ、ムッラ、アシュジャウ）	ウヤイナ・ブン・ヒスンが率いる；東（ナジュド）から来た
スライム族とアサド族	同盟した諸部族
ナディール族の指導者	扇動者・同盟の計画者

クルアーンは、かれらが四方から来たことを描いています：「**見るがいい。かれらは、あなたがたの上からまた下から襲って来た。その時目は霞み、心臓は喉もとまで届いて、あなたがたはアッラーに就いて、色々と（悪い）想像をした。**」『タフスィール・イブン・カスィール』33:10。

イブン・カスィールは、「上から」とは東から来た**ガタファーン族**、「下から」とは西から来た**クライシュ族**を指すと伝えています。教訓：虚偽は、利害が違っても真理と戦うためなら**団結**します。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

塹壕を掘る提案

部族連合軍の来襲の知らせがマディーナに届くと、アッラーの使徒 ﷺ は、いつものように教友たちと**協議（シューラー）**されました。敵はムスリム軍の三倍で、開けた戦場で迎え撃つのは非常に危険でした。

スィーラの注：サルマーン・アル＝ファーリスィーの提案

スィーラ書によると、**サルマーン・アル＝ファーリスィー** رضي الله عنه はこう提案しました。「アッラーの使徒よ、ペルシャでは包囲されると、私たちは周りに塹壕を掘ります。」アッラーの使徒 ﷺ はこの提案を受け入れられ、塹壕はマディーナの開けた**北側**に掘られました。他の部分は**溶岩地帯（ハッラ）**、家々、ナツメヤシ園によって守られていました。

スィーラ書はまた、十人ごとに**四十キュビット（腕尺）**を掘る分担が与えられたと伝えています。この詳細はスィーラの伝承では有名ですが、『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』には見られません。

参照：

イブン・サアド『タバカート』；アル＝ワーキディー『マガーズィー』；Wikipedia「Battle of the Trench」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_the_Trench

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

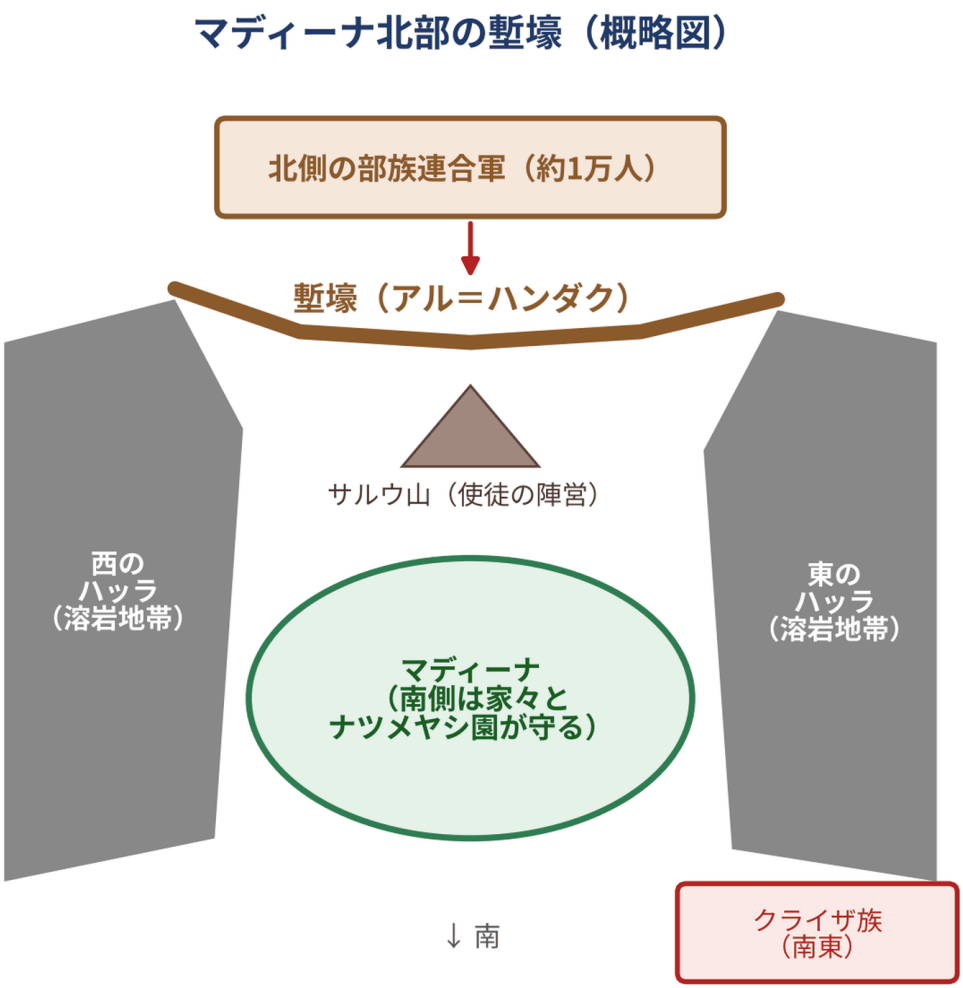


図 2：マディーナ北部の塹壕の位置（概略図）。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は、他の民族の慣習から来たものであっても**良い考え**を受け入れられました。知恵は、シャリーアに反しない限り、どこからでも取り入れることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

寒い朝の塹壕掘り

簡素な道具で、寒さと空腹の中、数キロメートルにわたる塹壕を掘るのは非常に重い仕事でした。アナス رضي الله عنه はその様子をこう描いています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2834 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا مُعَاوِيَةُ بْنُ عَمْرٍو، حَدَّثَنَا أَبُو إِسْحَاقَ، عَنْ حُمَيْدٍ، قَالَ سَمِعْتُ أَنَسًا ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ خَرَجَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى الْخَنْدَقِ فَإِذَا الْمُهَاجِرُونَ وَالأَنْصَارُ يَحْفِرُونَ فِي غَدَاةٍ بَارِدَةٍ، فَلَمْ يَكُنْ لَهُمْ عَبِيدٌ يَعْمَلُونَ ذَلِكَ لَهُمْ، فَلَمَّا رَأَى مَا بِهِمْ مِنَ النَّصَبِ وَالْجُوعِ قَالَ اللَّهُمَّ إِنَّ الْعَيْشَ عَيْشُ الآخِرَهْ فَاغْفِرْ لِلأَنْصَارِ وَالْمُهَاجِرَهْ. فَقَالُوا مُجِيبِينَ لَهُ نَحْنُ الَّذِينَ بَايَعُوا مُحَمَّدًا عَلَى الْجِهَادِ مَا بَقِينَا أَبَدًا

訳：

アナス رضي الله عنه は言った：**アッラーの使徒 ﷺ が塹壕へ出て行かれると、ムハージルーンとアンサールが非常に寒い朝に掘っているのをご覧になった。かれらには代わりにそれをしてくれる奴隷がいなかったのである。かれらの疲れと飢えをご覧になると、使徒は言われた。「アッラーよ、まことに（真の）生活は来世の生活です。どうかアンサールとムハージルーンをお赦しください。」** かれらは答えた。**「私たちこそ、生きている限りジハードのためにムハンマドに忠誠を誓った者たちです。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド ← ムアーウィヤ・ブン・アムル ← アブー・イスハーク（アル＝ファザーリー） ← フマイド ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、塹壕を掘る章、ハディース第 2834 番；第 4099 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2834

共に働く指導者

アッラーの使徒 ﷺ は遠くから眺めておられただけではありません。教友たちとともに**自ら掘り、土を運ばれた**のです（第 4 章）。そして使徒の祈りは、かれらの目を現世の苦労から真の**来世の生活**へと向けさせました。

教友たちの答えは、疲れの中にあっても**高い士気**を示しています。かれらはアッラーの使徒 ﷺ への忠誠の誓いを自らに思い起こさせたのです。教訓：指導者と従う者が**ともに**担えば重い仕事も軽くなり、その目標は来世です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

お腹を覆った土ぼこり — アッラーの使徒 ﷺ

アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ が塹壕で働かれるのを自ら目撃しました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4104 番

حَدَّثَنَا مُسْلِمُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الْبَرَاءِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَنْقُلُ التُّرَابَ يَوْمَ الْخَنْدَقِ حَتَّى أَغْمَرَ بَطْنَهُ أَوِ اغْبَرَّ بَطْنُهُ يَقُولُ وَاللَّهِ لَوْلاَ اللَّهُ مَا اهْتَدَيْنَا وَلاَ تَصَدَّقْنَا وَلاَ صَلَّيْنَا فَأَنْزِلَنْ سَكِينَةً عَلَيْنَا وَثَبِّتِ الأَقْدَامَ إِنْ لاَقَيْنَا إِنَّ الأُلَى قَدْ بَغَوْا عَلَيْنَا إِذَا أَرَادُوا فِتْنَةً أَبَيْنَا وَرَفَعَ بِهَا صَوْتَهُ أَبَيْنَا أَبَيْنَا.

訳：

アル＝バラーウ رضى الله عنه は言った：**預言者 ﷺ はハンダクの日、お腹が土ぼこりで覆われるまで土を運ばれ、こう詩を唱えておられた。「アッラーにかけて、アッラーがおられなければ、私たちは導かれず、施しもせず、礼拝もしなかったでしょう。どうか私たちに静穏を下し、（敵に）会うときには私たちの足を堅固にしてください。まことにかれらは私たちを不当に扱いました。かれらが騒乱（フィトナ）を望むなら、私たちは拒みます。」** 使徒は次の言葉で声を高められた。「**アバイナー、アバイナー！**」（私たちは拒む、私たちは拒む！）。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムスリム・ブン・イブラーヒーム ← シュウバ ← アブー・イスハーク ← アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、ハンダクの戦いの章、ハディース第 4104 番；第 4106 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4104

別の伝承でアル＝バラーウは、土ぼこりが使徒のお腹の皮膚を覆って見えなくなるほどだったと言い、使徒は土を運びながら**アブドゥッラー・ブン・ラワーハの詩**を唱えられたと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』4106）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：360 / 567

詩の言葉	その意味
「アッラーがおられなければ、私たちは導かれなかった」	導きはアッラーの恵みであり、私たちの努力だけによるのではない
「私たちに静穏を下してください」	脅威に直面したときに心の平安（サキーナ）を求める
「私たちの足を堅固にしてください」	戦場での堅固さを求める
「アバイナー、アバイナー！」	私たちは不正に屈することを拒む

教訓：良いズィクルや詩は、重労働のときに**士気を高めます**。民とともに土ぼこりにまみれる指導者は、命令を出すだけの指導者よりも愛されます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

砂に変わった大きな岩

掘っている最中、教友たちは割ることのできないほど硬い岩に突き当たりました。かれらはこの問題をアッラーの使徒 ﷺ のもとへ持って行きました。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は、その後かれの家で起きた出来事も含めて、何が起きたかを語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4101 番

حَدَّثَنَا خَلاَّدُ بْنُ يَحْيَى، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَاحِدِ بْنُ أَيْمَنَ، عَنْ أَبِيهِ، قَالَ أَتَيْتُ جَابِرًا ـ رضى الله عنه ـ فَقَالَ إِنَّا يَوْمَ الْخَنْدَقِ نَحْفِرُ فَعَرَضَتْ كُدْيَةٌ شَدِيدَةٌ، فَجَاءُوا النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَقَالُوا هَذِهِ كُدْيَةٌ عَرَضَتْ فِي الْخَنْدَقِ، فَقَالَ أَنَا نَازِلٌ. ثُمَّ قَامَ وَبَطْنُهُ مَعْصُوبٌ بِحَجَرٍ، وَلَبِثْنَا ثَلاَثَةَ أَيَّامٍ لاَ نَذُوقُ ذَوَاقًا، فَأَخَذَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم الْمِعْوَلَ فَضَرَبَ، فَعَادَ كَثِيبًا أَهْيَلَ أَوْ أَهْيَمَ، فَقُلْتُ يَا رَسُولَ اللَّهِ ائْذَنْ لِي إِلَى الْبَيْتِ. فَقُلْتُ لاِمْرَأَتِي رَأَيْتُ بِالنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم شَيْئًا، مَا كَانَ فِي ذَلِكَ صَبْرٌ، فَعِنْدَكِ شَىْءٌ قَالَتْ عِنْدِي شَعِيرٌ وَعَنَاقٌ. فَذَبَحْتُ الْعَنَاقَ وَطَحَنَتِ الشَّعِيرَ، حَتَّى جَعَلْنَا اللَّحْمَ فِي الْبُرْمَةِ، ثُمَّ جِئْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم وَالْعَجِينُ قَدِ انْكَسَرَ، وَالْبُرْمَةُ بَيْنَ الأَثَافِيِّ قَدْ كَادَتْ أَنْ تَنْضَجَ فَقُلْتُ طُعَيِّمٌ لِي، فَقُمْ أَنْتَ يَا رَسُولَ اللَّهِ وَرَجُلٌ أَوْ رَجُلاَنِ. قَالَ كَمْ هُوَ. فَذَكَرْتُ لَهُ، قَالَ كَثِيرٌ طَيِّبٌ. قَالَ قُلْ لَهَا لاَ تَنْزِعِ الْبُرْمَةَ وَلاَ الْخُبْزَ مِنَ التَّنُّورِ حَتَّى آتِيَ. فَقَالَ قُومُوا. فَقَامَ الْمُهَاجِرُونَ وَالأَنْصَارُ، فَلَمَّا دَخَلَ عَلَى امْرَأَتِهِ قَالَ وَيْحَكِ جَاءَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بِالْمُهَاجِرِينَ وَالأَنْصَارِ وَمَنْ مَعَهُمْ. قَالَتْ هَلْ سَأَلَكَ قُلْتُ نَعَمْ. فَقَالَ ادْخُلُوا وَلاَ تَضَاغَطُوا. فَجَعَلَ يَكْسِرُ الْخُبْزَ وَيَجْعَلُ عَلَيْهِ اللَّحْمَ، وَيُخَمِّرُ الْبُرْمَةَ وَالتَّنُّورَ إِذَا أَخَذَ مِنْهُ، وَيُقَرِّبُ إِلَى أَصْحَابِهِ ثُمَّ يَنْزِعُ، فَلَمْ يَزَلْ يَكْسِرُ الْخُبْزَ وَيَغْرِفُ حَتَّى شَبِعُوا وَبَقِيَ بَقِيَّةٌ قَالَ كُلِي هَذَا وَأَهْدِي، فَإِنَّ النَّاسَ أَصَابَتْهُمْ مَجَاعَةٌ.

訳：

ジャービル رضي الله عنه は言った：**ハンダクの日、私たちが塹壕を掘っていると、非常に硬い大きな岩に突き当たった。かれらは預言者 ﷺ のもとへ来て言った。「塹壕を妨げる硬い岩があります。」使徒は言われた。「私が降りよう。」使徒は立ち上がられたが、そのお腹には石が巻かれていた。私たちは三日間何も口にしていなかったのである。預言者 ﷺ はつるはしを取って岩を打たれると、岩は崩れた砂のようになった。** 私は言った。「アッラーの使徒よ、家に帰らせてください。」私は妻に言った。「私は預言者 ﷺ が、私には耐えられないような状態におられるのを見た。何かあるか。」妻は言った。「少しの大麦と子山羊が一頭あります。」私は子山羊を屠り、妻は大麦を挽いて、私たちは肉を鍋に入れた。それから私は預言者 ﷺ のもとへ行って言った。「少し食べ物があります。アッラーの使徒よ、一人か二人とともにお越しください。」使徒は「どれくらいか」と尋ねられ、私は伝えた。使徒は言われた。**「多くて良い。妻に言いなさい。私が来るまで鍋を下ろさず、パンをかまどから出さないようにと。」** それから使徒は「立ちなさい！」と言われ、ムハージルーンとアンサールが立ち上がった...使徒はパンをちぎって肉をのせ始め、何かを取るたびに鍋とかまどに覆いをされた。**使徒はパンをちぎり、すくい続けられ、ついに皆が満腹になったが、まだ残りがあった。** 使徒は言われた。「これを食べ、ほかの人にも贈りなさい。人々は飢えに苦しんでいるのだから。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ハッラード・ブン・ヤフヤー ← アブドゥル＝ワーヒド・ブン・アイマン ← その父アイマン・アル＝ハバシー ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、ハンダクの戦いの章、ハディース第 4101 番。訳文は一部要約。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4101

使徒のお腹の石

この小さな詳細に注目してください：**アッラーの使徒 ﷺ のお腹には石が巻かれていた**のです。三日間何も口にしていなかったからです。アラブ人は飢えをこらえ、背筋を伸ばすためにお腹に石を巻きました。このウンマの指導者は、従う者たちと同じように — いや、それ以上に — 飢えておられたのです。

スィーラの注：岩を打たれたときの吉報

『**スナン・アン＝ナサーイー**』**3176** の伝承（ハサンと評価）によると、アッラーの使徒 ﷺ が岩を打たれるたびに光がほとばしり、岩の三分の一が砕けました。使徒は「あなたの主の御言葉は、真実と公正において完成された」と唱えられ、ウンマが**ホスロー（ペルシャ）**と**カエサル（ローマ）**の国々を開くことを告げられました。アル＝バラーウからの『**ムスナド・アフマド**』の伝承では、**シャーム、ペルシャ、イエメン**の鍵が述べられています。

当時ムスリムたちは飢え、包囲されていました — それでもアッラーの使徒 ﷺ は遠い未来を見ておられたのです。数十年のうちに、その約束は現実となりました。

参照：

『スナン・アン＝ナサーイー』3176；『ムスナド・アフマド』。https://sunnah.com/nasai:3176

教訓：自分には重すぎる問題は、**指導者とアッラー**のもとへ持って行きます。そして信仰者の希望は、お腹が空っぽであっても消えることがありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの使徒 ﷺ と教友たちの飢え

お腹に石を巻くことは、まれな出来事ではありませんでした。アブー・フライラ رضى الله عنه は誓って言いました。「**アッラーにかけて…私は時に飢えのために地面に横たわり、時に飢えのためにお腹に石を巻いた。**」（『サヒーフ・ブハーリー』6452）。アーイシャ رضى الله عنها もこう言いました。「**ムハンマドの家族は、マディーナに来られてから亡くなられるまで、三日続けて小麦のパンで満腹になったことがなかった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』5416）。

アッラーの使徒 ﷺ は、国の指導者であったにもかかわらず**質素な**生活を選ばれました。ハンダクでの飢えは、マディーナが貧しかったからだけではありません。使徒が常に**他の人を優先された**からであり — また包囲が補給を妨げたからでもあります。教訓：贅沢は成功の尺度ではありません。世界の歴史を変えたのは、まさにこの飢えた教友たちだったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジャービルのもてなし

上のジャービルのハディースには、**奇跡（ムウジザ）**の一つが含まれています — アッラーの使徒 ﷺ の最も有名なものの一つです。別の伝承でジャービルは、食べ物はわずか**大麦一サーウ**と子山羊一頭だったと述べ、妻はささやきました。「アッラーの使徒 ﷺ と教友たちの前で私に恥をかかせないで！」しかし使徒は大きな声で呼びかけられました。「**ハンダクの人々よ！ジャービルが食事を用意した。さあ来なさい！**」（『サヒーフ・ブハーリー』4102）。

使徒は生地と鍋に少し唾をつけ、祝福を祈られました。ジャービルは誓って言いました。**かれらは千人であった**が、皆満腹になるまで食べて去って行った。それでも鍋は満ちたまま煮え立ち、生地は元のまま焼かれていた、と（『サヒーフ・ブハーリー』4102）。

教訓	ジャービルのもてなしから
教友の思いやり	ジャービルはアッラーの使徒 ﷺ が飢えておられるのを見るに忍びなかった
指導者の公正	使徒は独りで食べず、ハンダクの全員を招かれた
祝福（バラカ）	わずかな食べ物で千人が満腹になった
分かち合い	「食べて贈りなさい。人々は飢えに苦しんでいるのだから」

教訓：**祝福（バラカ）**は食べ物の多さにではなく、与える誠実さと聞き届けられる祈りにあります。アッラーの使徒 ﷺ は、指導者は民が満腹になった**後に**食べるものだと教えられました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

部族連合の到着

塹壕は短期間で掘り終えられました — スィーラ書と Wikipedia によると約**六日間**です。まもなく部族連合軍が到着しました。かれらは騎兵を阻む塹壕を見て驚きました。「これはアラブ人がしたことのない策略だ！」（スィーラ書）。

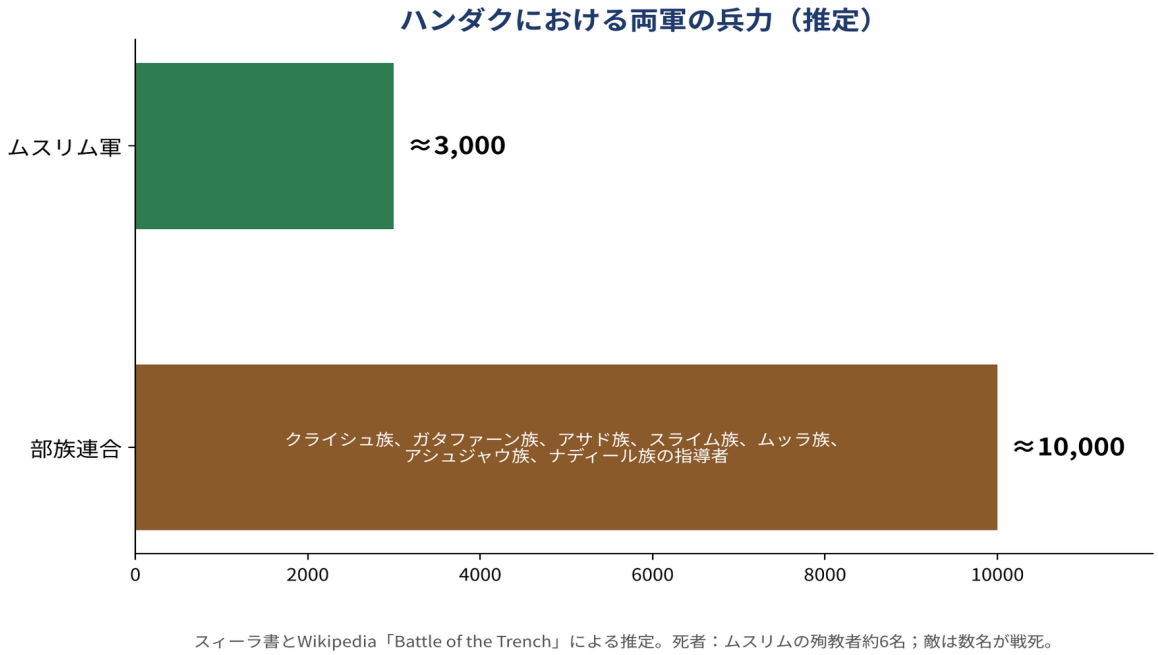


図 3：ハンダクにおける両軍の兵力（推定）。

スィーラの注：長い包囲

スィーラ書によると、約**三千**人のムスリムが**サルウ山**のふもとに陣を張り、山を背にして塹壕に向かいました。包囲は約**二十夜**続きました（ほぼ一か月とする伝承もあります）。大きな戦闘は起こらず、矢の撃ち合いと、塹壕を越えようとする数回の試みがあっただけでした。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；Wikipedia「Battle of the Trench」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_the_Trench

教訓：**賢明な備え**は数の不足を補うことができます。塹壕は、危険な野戦を、敵自身を弱らせる包囲戦へと変えたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

心臓は喉もとまで

この包囲は、ヒジュラ以来最も重い**信仰の試練**でした。前には敵、内には飢え、寒さ、そして背後からの裏切りの知らせ。アッラーはその状況を実に正確に描いておられます：

「その時目は霞み、心臓は喉もとまで届いて、あなたがたはアッラーに就いて、色々と（悪い）想像をした」『タフスィール・イブン・カスィール』33:10。

「こうして信者たちは試みられ、かれらは猛烈な動揺に播さぶられた。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:11。

クルアーンの表現	その意味
「目は霞み」	視線が定まらないほどの恐怖
「心臓は喉もとまで」	極限に達した恐れ（アラビア語の節の直訳）
「アッラーに就いて色々と想像した」	確信する者もいれば、疑う者もいた
「猛烈な動揺に揺さぶられた」	信仰をふるいにかける試練

クルアーンは教友たちの恐れを隠しません。かれらも恐れることのある**人間**であったと認めています。教訓：信仰とは恐れがないことではなく、心が揺れても**堅固であり続ける**ことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

偽信者たちの言い訳

重い試練は**心の中をあらわにします**。信仰者が持ちこたえる一方で、偽信者たちが声を上げ始めました。アッラーはかれらの言葉を記録されています：

「その時、偽信者や心に病の宿っている者たちは、『アッラーとその使徒は、只欺いてわたしたちに約束したのです。』と言った。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:12。

かれらの一部は、帰るための口実を探しました：**「またかれらの一団は言った。『ヤスリブ（アル・マディーナ）の民よ。あなたがたにはとても頑張れるものではない。引き返しなさい。』またかれらのある者は、預言者に（帰還の）許しを願って、『本当にわたしたちの家は（無防備で危険に）晒されています。』と言った。かれらは、晒されているのではない、只逃亡を望んだだけである。」**『タフスィール・イブン・カスィール』33:13。

スィーラの注：「ホスローの財宝を約束されたが…」

イブン・カスィールとスィーラ書によると、**ムアッティブ・ブン・クシャイル**という偽信者がこう嘲りました。「ムハンマドはホスローとカエサルの財宝を約束するのに、私たちの誰一人として用を足しに出ることもできない！」この嘲りは、使徒が岩を打たれたときの吉報（第 5 章）を指しています。

参照：

『タフスィール・イブン・カスィール』33:12；イブン・ヒシャーム『預言者伝』。
https://tafsir.app/ibn-katheer/33/12

教訓：偽信者はアッラーの約束を**目の前の状況**で判断し、信仰者は目の前の状況を**アッラーの約束**で判断します。その約束は真実でした。二十年もたたないうちに、ホスローとカエサルの財宝はマディーナへ運ばれたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「これはアッラーが約束されたもの」

同じ光景 — 塹壕の向こうの一万の兵 — が、信仰者の心にはまったく違う反応を生みました：

「信者たちは、部族連合の軍勢を見た時言った。『これはアッラーとかれの使徒が、わたしたちに約束されたものである。アッラーとかれの使徒は、真実を話された。』それは、かれらの信心と服従、帰依の念を、嫌が上にも深めた。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:22。

偽信者（33:12）	信仰者（33:22）
「アッラーとその使徒は、只欺いて約束した」	「これはアッラーとかれの使徒が約束されたもの」
帰る口実を探す	塹壕で持ちこたえる
試練が疑いを増す	「それはかれらの信心と服従を深めた」

約束とは何でしょうか。イブン・カスィールは、それは信仰者が勝利を与えられる前に必ず試みられるというアッラーの約束を指すと述べています。雌牛章（2:214）でアッラーはこう仰せられます。「それともあなたがたは、先に過ぎ去った者たちが出会ったような（試みが）まだ訪れない先に（至上の幸福の）園に入ろうと考えるのか。」

教訓：同じ試練が、ある人の**信仰を深め**、別の人の**疑いを深める**こともあります。その違いを生むのは、アッラーの約束への確信です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「アッラーの御助けは何時（来る）だろう」

イブン・カスィールが 33:22 の「約束」と解釈した節は、こうです：「**それともあなたがたは、先に過ぎ去った者たちが出会ったような（試みが）まだ訪れない先に（至上の幸福の）園に入ろうと考えるのか。かれらは災難や困窮に見舞われ、（不安の中に）動揺させられて、使徒も、一緒の信者たちも、『アッラーの御助けは、何時（来る）だろう。』 と叫んだ程であった。ああ、本当にアッラーの御助けは近付いている。**」『タフスィール・イブン・カスィール』2:214。

言葉の共通点に注目してください。この節は昔の人々が「**動揺させられた**」と述べ、部族連合章 33:11 はハンダクのムスリムたちが「**猛烈な動揺に揺さぶられた**」と述べています。ですから、その動揺が実際にやって来たとき、信仰者はそれをアッラーの御助けが近いという**しるし**として受け止めたのです — アッラーに見捨てられたしるしではなく。

教訓：クルアーンを理解することは、試練に備えて心を整えます。**スンナトゥッラー（アッラーの定め）** — 試練が勝利に先立つこと — を知る者は、たやすく絶望しません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族とハワーリー、アッ＝ズバイル

包囲のさなか、最も憂慮すべき知らせが届きました。マディーナに残った最後のユダヤ教徒の部族で、和平条約で結ばれていた**クライザ族**が、**約束を破り**、部族連合の側についたというのです。かれらの居住地はマディーナの南側 — ムスリム軍の背後で、女性や子どもたちの家の近くにありました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2846 番

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ الْمُنْكَدِرِ، عَنْ جَابِرٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مَنْ يَأْتِينِي بِخَبَرِ الْقَوْمِ يَوْمَ الأَحْزَابِ. قَالَ الزُّبَيْرُ أَنَا. ثُمَّ قَالَ مَنْ يَأْتِينِي بِخَبَرِ الْقَوْمِ. قَالَ الزُّبَيْرُ أَنَا. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِنَّ لِكُلِّ نَبِيٍّ حَوَارِيًّا، وَحَوَارِيَّ الزُّبَيْرُ.

訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った：**預言者 ﷺ は部族連合の日に言われた。「誰があの民の知らせを私にもたらすか。」アッ＝ズバイルが答えた。「私が。」使徒は再び尋ねられた。「誰があの民の知らせを私にもたらすか。」アッ＝ズバイルが答えた。「私が。」すると預言者 ﷺ は言われた。「まことにどの預言者にもハワーリー（忠実な助け手）がいる。私のハワーリーはアッ＝ズバイルである。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム ← スフヤーン（アッ＝サウリー） ← ムハンマド・ブン・アル＝ムンカディル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、ハディース第 2846 番；第 4113 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2846

スィーラの注：フヤイ・ブン・アフタブとカアブ・ブン・アサド

スィーラ書によると、ナディール族の指導者**フヤイ・ブン・アフタブ**は、クライザ族の長**カアブ・ブン・アサド**に会いに行き、説得を重ねて、ついにアッラーの使徒 ﷺ との条約を破ることに同意させました。使徒は**サアド・ブン・ムアーズ**と**サアド・ブン・ウバーダ**を遣わして知らせを確かめさせ、二人は裏切りが事実であることを知りました。

イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、上のハディースでアッ＝ズバイルが探った知らせとは**クライザ族**についての知らせであったと述べています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』ハディース 2846 の注釈。

教訓：危険なときにも、アッラーの使徒 ﷺ は行動する前に**正確な情報**を求められ、勇気をもって進み出た教友を称えられました — アッ＝ズバイルは「**ハワーリー**」（忠実な助け手）と呼ばれました。預言者イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ の弟子たち（ハワーリーユーン）のように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アリーとアムル・ブン・アブド・ウッド

塹壕は大きな攻撃を防ぎましたが、敵の騎兵の何人かは塹壕の狭い所を越えることに成功しました。スィーラ書は有名な出来事を記録しています：

スィーラの注：アリー・ブン・アビー・ターリブとアムル・ブン・アブド・ウッドの対決

アムル・ブン・アブド・ウッド — 勇猛で知られたクライシュ族の勇士 — が数人の騎兵とともに塹壕を越え、ムスリムたちに一騎打ちを挑みました。まだ若かった**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضي الله عنه がこの挑戦に応じました。アリーはまずかれをイスラームに招きましたが、アムルは拒みました。二人は戦い、アリーがかれを倒しました。他の騎兵たちは塹壕の向こうへ退きました。

この話はスィーラ書（イブン・イスハーク）や歴史書で有名ですが、**『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』には見られません**。長い対話など、細部の一部は研究者の間で見解が分かれています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』ハンダクの章。

一騎打ちの場でさえ、アリーが**まずイスラームに招いた**ことに注目してください — これは、アッラーの使徒 ﷺ がすべての部隊長に与えられた教え（『サヒーフ・ムスリム』1731；第 11 巻）に沿ったものです。教訓：ムスリムの目的は単なる勝利ではなく**導き**です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

逃した礼拝

包囲のある日、敵の攻撃と矢が絶え間なく続き、ムスリムたちは日が沈むまで**アスルの礼拝をする暇がありませんでした**。アリー رضى الله عنه はアッラーの使徒 ﷺ の言葉を伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4111 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ، حَدَّثَنَا رَوْحٌ، حَدَّثَنَا هِشَامٌ، عَنْ مُحَمَّدٍ، عَنْ عَبِيدَةَ، عَنْ عَلِيٍّ ـ رضى الله عنه ـ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم أَنَّهُ قَالَ يَوْمَ الْخَنْدَقِ مَلأَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ بُيُوتَهُمْ وَقُبُورَهُمْ نَارًا كَمَا شَغَلُونَا عَنْ صَلاَةِ الْوُسْطَى حَتَّى غَابَتِ الشَّمْسُ.

訳：

アリー رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がハンダクの日にこう言われたと伝えている：「**アッラーがかれらの家と墓を火で満たされますように。かれらは日が沈むまで、私たちを中間の礼拝（アスル）から妨げたのだから。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク（・ブン・マンスール） ← ラウフ（・ブン・ウバーダ） ← ヒシャーム（・ブン・ハッサーン） ← ムハンマド（・ブン・スィーリーン） ← アビーダ（・アッ＝サルマーニー） ← アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、ハンダクの戦いの章、ハディース第 4111 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4111

ジャービル رضى الله عنه はまた、日没後にウマルがクライシュ族の不信者をののしりながら来て、「アッラーの使徒よ、私は日が沈みかけるまでアスルの礼拝をすることができませんでした」と言ったと伝えています。使徒は言われました。「**アッラーにかけて、私もまだ礼拝していない。**」 そしてかれらは清めを行い、使徒は**日没後**

にアスルを礼拝され、その後マグリブを礼拝されました（『サヒーフ・ブハーリー』596）。

上のアリーのハディースは、次の節の**中間の礼拝**がアスルの礼拝であることの根拠にもなっています：「**各礼拝を、特に中間の礼拝を謹厳に守れ、敬虔にアッラーの御前に立て。**」『タフスィール・イブン・カスィール』2:238。

学者たちは、一説によればこの出来事は**恐怖時の礼拝の節が下される前**に起きた、あるいは攻撃が余地を与えなかったためだと述べています。教訓：礼拝の時を逃したことをアッラーの使徒 ﷺ が悲しまれたことは、**礼拝の地位がいかに大きいか**を示しています — そして逃した礼拝は、順序に従い、できるだけ早く補わなければなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

逃した礼拝の規定

ハンダクの出来事は、**礼拝の補い（カダー）**の規定の基礎となりました。アナス رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。「**礼拝を忘れた者は、思い出したときにそれを行いなさい。それ以外に償いはない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』597）。

項目	説明
補いの義務	逃した礼拝は補わなければならず、免除されない
速やかに	「思い出したときに」— 理由なく遅らせない
順序	使徒はまずアスルを、次にマグリブを礼拝された（ブハーリー 596）
集団で	補いの礼拝は、ハンダクのように集団で行うことができる

学者たちは、**正当な理由で逃した場合**（忘れた、眠り込んだ、ハンダクのように妨げられた）は罪にならず、**故意に礼拝を放棄すること**は大罪であると区別しています。教訓：戦時にあっても、アッラーの使徒 ﷺ は一つの礼拝も補わずに過ぎ去らせることはありませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：377 / 567

サアド・ブン・ムアーズの負傷

ハンダクで負傷した者の中に、**サアド・ブン・ムアーズ** رضي الله عنه がいました。アウス族の長で、アンサールの中でも最も尊敬された人物の一人です。アーイシャ رضي الله عنها は、**サアドはヒッバーン・ブン・アル＝アリカというクライシュ族の男に、腕の血管を正確に射抜かれた**と伝えています。アッラーの使徒 ﷺ は、近くから見舞えるように、かれのために**モスクの中に一張りのテント**を張られました（『サヒーフ・ブハーリー』4122）。

サアドの祈り

同じハディースで、サアドはこう祈りました。「**アッラーよ、あなたはご存知です。あなたの使徒を嘘つき呼ばわりし、追い出した民と、あなたの道において戦うこと以上に私が愛するものはありません。アッラーよ、もしクライシュ族との戦いがまだ残っているなら、かれらと戦うために私の命を延ばしてください。しかしもしあなたがそれを終わらせられたのなら、この傷を開き、それによって私を死なせてください。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4122）。

サアドについてのその後の物語 — クライザ族への裁定とかれの死 — は、イン・シャー・アッラー、第 13 巻で語ります。教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**負傷した教友をいたわられ**、愛情深く接されました。サアドは自らの寿命をすべてアッラーに委ねました。

サアドの死にアルシュ（玉座）が震えた

ハンダクでの傷は、サアドが祈ったとおり、まもなくかれの死をもたらしました。ジャービル رضى الله عنه は言いました。私は預言者 ﷺ がこう言われるのを聞いた。**「慈悲深き御方の玉座（アルシュ）は、サアド・ブン・ムアーズの死に震えた。」**（『サヒーフ・ブハーリー』3803）。

サアドは**ムスアブ・ブン・ウマイル**の手でイスラームに入り（第 10 巻）、その部族アブドゥル・アシュハル族も皆、かれとともにイスラームに入りました。イスラームに入ってわずか約六年で、かれは最も高い地位の教友の一人となりました。教訓：アッラーのもとでの人の価値は**寿命の長さ**ではなく、**真剣さと誠実さ**によって量られます。

ヌアイム・ブン・マスウード

部族連合の同盟は堅固に見えましたが、アッラーはそれを**内側から**崩されました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「**戦争とは策略である。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3030）。

スィーラの注：ヌアイム・ブン・マスウードの計略

スィーラ書によると、すべての側から尊敬されていたガタファーン族の指導者**ヌアイム・ブン・マスウード・アル＝アシュジャイー**は、ひそかにアッラーの使徒 ﷺ のもとへ来て、自分がムスリムになったことを告げました。かれの部族はまだそれを知りませんでした。使徒はかれに言われました。「あなたは一人だ。できる限りかれら（の同盟）を弱めなさい。」

ヌアイムは**クライザ族**のもとへ行き、クライシュ族がかれらを見捨てるかもしれないので、保証としてクライシュ族から人質を求めるよう忠告しました。次に**クライシュ族とガタファーン族**のもとへ行き、クライザ族は後悔していて、人質をアッラーの使徒 ﷺ に引き渡そうとしていると告げました。クライザ族が実際に人質を求めると、両者は**互いに疑い合い**、同盟にひびが入りました。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Battle of the Trench」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_the_Trench

学者たちは、**戦争における策略** — 計画を隠したり敵を惑わせたりすること — は許されるが、**条約を裏切ること**は依然として禁じられていると説明しています。教訓：誠実な者は、たとえ一人であっても、アッラーが状況を変えられる原因となりうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イスラームにおける「策略」の限界

イスラームは誠実さについて非常に厳格ですが、**限られた例外**を設けています。ウンム・クルスーム・ビント・ウクバ رضي الله عنها は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えています。「**人々の間を和解させ、良いことを伝えたり良いことを言ったりする者は、嘘つきではない。**」 イブン・シハーブは、その許しは三つの場合に限られると言いました。**戦争の中、人々の間の和解、そして夫婦の会話**です（『サヒーフ・ムスリム』2605）。

許されること	許されないこと
戦争の計画を隠す	結ばれた条約を裏切る
位置について敵を惑わす	安全を保証された者を殺す
敵の同盟を分裂させる	売買や預かり物で欺く

教訓：戦争における「策略」は**戦略**であって、**裏切り**ではありません。ヌアイムはいかなる条約も破っていません。知恵を用いて命を救い、戦いを止めたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

部族連合への祈り

塹壕、見張り、戦略といった努力に加えて、アッラーの使徒 ﷺ は**祈り**を止められませんでした。アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضى الله عنهما が使徒の祈りを伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2933 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مُحَمَّدٍ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، أَخْبَرَنَا إِسْمَاعِيلُ بْنُ أَبِي خَالِدٍ، أَنَّهُ سَمِعَ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ أَبِي أَوْفَى ـ رضى الله عنهما ـ يَقُولُ دَعَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الأَحْزَابِ عَلَى الْمُشْرِكِينَ فَقَالَ اللَّهُمَّ مُنْزِلَ الْكِتَابِ سَرِيعَ الْحِسَابِ، اللَّهُمَّ اهْزِمِ الأَحْزَابَ، اللَّهُمَّ اهْزِمْهُمْ وَزَلْزِلْهُمْ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضى الله عنهما は言った：**アッラーの使徒 ﷺ は部族連合の日、多神教徒たちに対してこう祈られた。「アッラーよ、啓典を下される御方、清算の速やかな御方よ、部族連合を打ち破ってください。アッラーよ、かれらを打ち破り、かれらを揺さぶってください。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ムハンマド ← アブドゥッラー（・ブン・アル＝ムバーラク） ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、多神教徒の敗北を祈る章、ハディース第 2933 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2933

祈りの中のアッラーの御名	状況との関わり
「啓典を下される御方」	啓示を下される御方は、その担い手を必ず助けられる

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

祈りの中のアッラーの御名	状況との関わり
「清算の速やかな御方」	アッラーは敵にすぐに報いることがおできになる
「かれらを打ち破り、揺さぶってください」	風と分裂によって聞き届けられた願い

この祈りは**聞き届けられました**。アッラーはかれらを打ち破り、揺さぶられたのです — 内部の分裂（第 15 章）と天からの風（第 18 章）によって。教訓：祈りは努力の代わりにならず、努力も祈りの代わりになりません。両者はともに進みます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フザイファの夜

包囲の終わり近く、非常に寒く風の強い夜が訪れました。アッラーの使徒 ﷺ は、敵の陣営へ渡って知らせを持ち帰る者を必要とされました。**フザイファ・ブン・アル＝ヤマーン** رضي الله عنه — その父はウフドで殉教しました（第 10 巻）— がその夜のことを語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1788 番

حَدَّثَنَا زُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ، وَإِسْحَاقُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، جَمِيعًا عَنْ جَرِيرٍ، قَالَ زُهَيْرٌ حَدَّثَنَا جَرِيرٌ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ التَّيْمِيِّ، عَنْ أَبِيهِ، قَالَ كُنَّا عِنْدَ حُذَيْفَةَ فَقَالَ رَجُلٌ لَوْ أَدْرَكْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَاتَلْتُ مَعَهُ وَأَبْلَيْتُ فَقَالَ حُذَيْفَةُ أَنْتَ كُنْتَ تَفْعَلُ ذَلِكَ لَقَدْ رَأَيْتُنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَيْلَةَ الأَحْزَابِ وَأَخَذَتْنَا رِيحٌ شَدِيدَةٌ وَقُرٌّ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَلاَ رَجُلٌ يَأْتِينِي بِخَبَرِ الْقَوْمِ جَعَلَهُ اللَّهُ مَعِي يَوْمَ الْقِيَامَةِ. فَسَكَتْنَا فَلَمْ يُجِبْهُ مِنَّا أَحَدٌ ثُمَّ قَالَ أَلاَ رَجُلٌ يَأْتِينَا بِخَبَرِ الْقَوْمِ جَعَلَهُ اللَّهُ مَعِي يَوْمَ الْقِيَامَةِ. فَسَكَتْنَا فَلَمْ يُجِبْهُ مِنَّا أَحَدٌ ثُمَّ قَالَ أَلاَ رَجُلٌ يَأْتِينَا بِخَبَرِ الْقَوْمِ جَعَلَهُ اللَّهُ مَعِي يَوْمَ الْقِيَامَةِ. فَسَكَتْنَا فَلَمْ يُجِبْهُ مِنَّا أَحَدٌ فَقَالَ قُمْ يَا حُذَيْفَةُ فَأْتِنَا بِخَبَرِ الْقَوْمِ. فَلَمْ أَجِدْ بُدًّا إِذْ دَعَانِي بِاسْمِي أَنْ أَقُومَ قَالَ اذْهَبْ فَأْتِنِي بِخَبَرِ الْقَوْمِ وَلاَ تَذْعَرْهُمْ عَلَىَّ. فَلَمَّا وَلَّيْتُ مِنْ عِنْدِهِ جَعَلْتُ كَأَنَّمَا أَمْشِي فِي حَمَّامٍ حَتَّى أَتَيْتُهُمْ فَرَأَيْتُ أَبَا سُفْيَانَ يَصْلِي ظَهْرَهُ بِالنَّارِ فَوَضَعْتُ سَهْمًا فِي كَبِدِ الْقَوْسِ فَأَرَدْتُ أَنْ أَرْمِيَهُ فَذَكَرْتُ قَوْلَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَلاَ تَذْعَرْهُمْ عَلَىَّ. وَلَوْ رَمَيْتُهُ لأَصَبْتُهُ فَرَجَعْتُ وَأَنَا أَمْشِي فِي مِثْلِ الْحَمَّامِ فَلَمَّا أَتَيْتُهُ فَأَخْبَرْتُهُ بِخَبَرِ الْقَوْمِ وَفَرَغْتُ قُرِرْتُ فَأَلْبَسَنِي رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنْ فَضْلِ عَبَاءَةٍ كَانَتْ عَلَيْهِ يُصَلِّي فِيهَا فَلَمْ أَزَلْ نَائِمًا حَتَّى أَصْبَحْتُ فَلَمَّا أَصْبَحْتُ قَالَ قُمْ يَا نَوْمَانُ.

訳：

イブラーヒーム・アッ＝タイミーはその父から伝えている。私たちがフザイファとともにいると、一人の男が言った。「もし私がアッラーの使徒 ﷺ にお会いできていたら、ともに懸命に戦っただろうに。」フザイファは言った。「あなたがそうしただろうか。

私は部族連合の夜、アッラーの使徒 ﷺ とともにいた。私たちは激しい風とひどい寒さに見舞われた。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。『あの民の知らせを私にもたらす者はいないか。アッラーはその者を審判の日に私とともにおられるようにされるだろう。』 私たちは皆黙り、誰一人答えなかった」— それが三度続いた。すると使徒は言われた。**「フザイファよ、立って、あの民の知らせを私にもたらしなさい。かれらを刺激してはならない。」** フザイファは言った。「使徒のもとを離れると、私はまるで熱い浴場の中を歩いているかのように感じ、ついにかれらのところに着いた。アブー・スフヤーンが火で背中を温めているのが見えた。私はかれを射ようと弓に矢をつがえたが、アッラーの使徒 ﷺ の言葉を思い出した。『かれらを刺激してはならない。』もし射ていたら、きっと当たっていただろう。私は戻ったが、まだ熱い浴場の中を歩いているようだった。使徒に知らせを伝え終えると、私は再び寒さを感じた。**アッラーの使徒 ﷺ は、礼拝のときに着ておられた外衣の余りで私をくるんでくださり、私は朝までぐっすり眠った。朝になると使徒は言われた。『起きなさい、よく眠る者よ！』」**

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ズハイル・ブン・ハルブ と イスハーク・ブン・イブラーヒーム ← ジャリール ← アル＝アアマシュ ← イブラーヒーム・アッ＝タイミー ← その父ヤズィード・ブン・シャリーク・アッ＝タイミー ← フザイファ・ブン・アル＝ヤマーン رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、部族連合の戦いの章、ハディース第 1788 番。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1788

従順の中のぬくもり

注目してください。名を呼ばれる前は、ひどい寒さと恐れのために誰一人応じませんでした。しかしアッラーの使徒 ﷺ が**かれの名を呼ばれる**と、フザイファは立ち上がりました — そしてその命令を果たす道のりの間ずっと、**熱い浴場にいるように暖かく**感じたのです。任務が終わるとすぐに、寒さが戻ってきました。

フザイファはまた、機会がありながらもアブー・スフヤーンを射ることを**自制しました**。「かれらを刺激してはならない」という命令に従ったからです。教訓：指導者の命令への従順は — 機会が魅力的に見えるときでさえ — 勝利の一部です。そしてアッラーは従う者の務めを**容易にされます**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フザイファ：秘密を託された者 — アッラーの使徒 ﷺ

ハンダクの夜にアッラーの使徒 ﷺ がフザイファに寄せた信頼は、偶然ではありませんでした。何年も後、アブー・アッ＝ダルダーウ رضى الله عنه はクーファから来た男に尋ねました。「**あなたがたの中に、他の誰も知らない秘密を託された者、フザイファがいるではないか。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3743）。

学者たちは、その秘密とは**偽信者たちの名前**に関するもので、アッラーの使徒 ﷺ がかれに告げられたものだと述べています。フザイファはそれを誠実に守りました。ハンダクの夜は、かれをそれにふさわしい者とした二つの資質を示しています。敵の陣営へ渡る**勇気**と、アブー・スフヤーンへの矢を控える**規律**です。

教訓：大きな信託は、小さく困難な信託において**実証された**者に与えられます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

風と目に見えぬ軍勢

その同じ夜、アッラーは部族連合の陣営に**非常に強く冷たい風**を遣わされました。アッラーはこう仰せられます：

「信仰する者よ、あなたがたに与えられたアッラーの恩恵を念え。大軍があなたがたに攻め寄せて来た時、われはかれらに対し大風と、目に見えぬ軍勢を遣わした。アッラーは、あなたがたの行うことを（明確に）御存知であられる。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:9。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。**「私はサバー（東風）によって勝利を与えられ、アード族はダブール（西風）によって滅ぼされた。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4105）。イマーム・ブハーリーはこのハディースをハンダクの戦いの章に置いています。

スィーラの注：敵陣での風の影響

スィーラ書によると、その風は**火を消し**、テントを吹き飛ばし、部族連合軍の鍋をひっくり返しましたが、ムスリムの陣営は守られていました。ついにアブー・スフヤーンは叫びました。「クライシュの者たちよ、お前たちはもう留まれる場所にいない…出発せよ。私も出発する。」

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Battle of the Trench」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_the_Trench

教訓：アッラーには**目に見えぬ軍勢**があります — 風、天使、そして敵の心の中の恐怖です。かつて背いたアード族を滅ぼしたのと同じ風が、今度は信仰者への助けとなったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

風と寒さ：科学の説明

フザイファのハディースは、ムスリムたちが**激しい風とひどい寒さに見舞われた**と述べています（『サヒーフ・ムスリム』1788）。現代科学は、風が寒い夜をはるかに厳しく感じさせる理由を説明しています。米国国立気象局（NWS）によると、**風が強く吹くほど体から熱を奪い、皮膚の温度を下げ**、ついには体の内部の温度も下げます — これは「**風冷え（ウインドチル）」効果**として知られています（NWS「Understanding Wind Chill」）。

気温	風速 → 体感温度（NWS の例）
0°F（約−18°C）	15 mph（約 24 km/h）→ −19°F（約−28°C）

身を守るもののない開けた平原に陣を張り、火も風に消された部族連合軍にとって、その影響はひどく苦しいものでした。一方ムスリムたちは、サルウ山のふもとでより守られていました。これも「**目に見えぬ軍勢**」（33:9）の一部です — アッラーが創られた自然の法則が、まさにその時に動かされたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーただ独りがかれらを打ち破られた

翌朝、部族連合の陣営は**空っぽ**でした。一万の兵の同盟は、何の勝利も得ずに引き揚げたのです。アッラーはこう仰せられます：

「アッラーは不信心な者たちを、怒りのうちに（アル・マディーナから）何ら益するところなく撤退なされた。戦いには、アッラーは、信者たちの戦闘を（強風や天使によって）凡てにわたって、守って下さる。アッラーは強大にして偉力ならびなき方であられる。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:25。

その後アッラーの使徒 ﷺ は、この出来事を思い起こさせるズィクルを繰り返し唱えておられました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4114 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ أَبِي سَعِيدٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم كَانَ يَقُولُ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ وَحْدَهُ، أَعَزَّ جُنْدَهُ، وَنَصَرَ عَبْدَهُ وَغَلَبَ الأَحْزَابَ وَحْدَهُ، فَلاَ شَىْءَ بَعْدَهُ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がいつもこう唱えておられたと伝えている：**「アッラーのほかに神はない。唯一の御方。かれはその軍勢に栄誉を与え、そのしもべを助け、ただ独りで部族連合を打ち破られた。かれの後には何ものもない。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← アッ＝ライス ← サイード・ブン・アビー・サイード（アル＝マクブリー） ← その父アブー・サイード・アル＝マクブリー ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、ハンダクの戦いの章、ハディース第 4114 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4114

このズィクルは「**ただ独りで部族連合を打ち破られた**」と述べています — 塹壕でも、軍勢でも、戦略でもありません。それらはすべて手段にすぎず、打ち破られたのはアッラーです。『サヒーフ・ブハーリー』の別の伝承によれば、使徒は旅、ハッジ、ウムラから帰るときにもこのズィクルを唱えられました。

教訓：力の限り努力した後、信仰者は自分ではなく**アッラーに勝利を帰します**。それが成功の中のタウヒードです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

旅から帰るときのズィクル

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضي الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ が戦い、ハッジ、ウムラから帰られるとき、高い所に来るたびに三度タクビールを唱え、それからこう唱えられたと伝えています。「**アッラーのほかに神はない。唯一の御方で、並ぶものはない。大権はかれに属し、讃美はかれに属する。かれはすべてのことに全能であられる。私たちは帰る者、悔い改める者、崇拝する者、サジダする者、私たちの主を讃える者である。アッラーはその約束を果たし、そのしもべを助け、ただ独りで部族連合を打ち破られた。**」（『サヒーフ・ブハーリー』1797）。

このズィクルは、今日でもハッジやウムラの巡礼者に唱えられています。それを唱えるたびに、かれらは**ハンダクの戦いを思い起こすのです** — アッラーが大きな戦闘なしにマディーナを救われたことを。教訓：勝利は高慢ではなく、**ズィクルと感謝**によって記念されます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「今度はわれらがかれらを攻める」

部族連合の敗北は、イスラームの歴史の**転換点**でした。アッラーの使徒 ﷺ はそれをはっきりと言明されました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4109 番

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ سُلَيْمَانَ بْنِ صُرَدٍ، قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الأَحْزَابِ نَغْزُوهُمْ وَلاَ يَغْزُونَنَا.

訳：

スライマーン・ブン・スラド رضى الله عنه は言った：**預言者 ﷺ は部族連合の日に言われた。「今度はわれらがかれらを攻める。かれらがわれらを攻めることはもうない。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム ← スフヤーン（アッ＝サウリー） ← アブー・イスハーク ← スライマーン・ブン・スラド رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、ハンダクの戦いの章、ハディース第 4109 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4109

ハンダク以前	ハンダク以後
クライシュ族がマディーナを攻めた（バドル、ウフド、ハンダク）	クライシュ族はもうマディーナを攻めなかった
ムスリムは防衛した	ムスリムが主導権を取った
諸部族がマディーナに対して同盟した	諸部族が和平とイスラームのために来始めた

この言葉は**現実となりました**。クライシュ族は二度とマディーナを攻めず、一年後には使徒の方がマッカへ向かわれました（フダイビヤ）。教訓：忍耐は**勝利の扉**です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：393 / 567

立派な模範

ハンダクの戦いについての節のただ中に、アッラーはすべてのムスリムの生活の**偉大な原則**となる一つの節を置かれました：

「本当にアッラーの使徒は、アッラーと終末の日を熱望する者、アッラーを多く唱念する者にとって、立派な模範であった。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:21。

イブン・カスィールは、この節が**偉大な基礎**であると述べています。言葉・行い・状態においてアッラーの使徒 ﷺ に従うことの基礎です。そしてこの節はハンダクの文脈で下されました — そこでこそ使徒の模範が最もはっきりと現れたからです：

ハンダクでの模範	根拠
協議し、良い考えを受け入れる	塹壕の提案（第 2 章）
教友とともに働く	使徒のお腹を土ぼこりが覆った（ブハーリー 4104）
同じ飢えを耐える	お腹に石を巻かれた（ブハーリー 4101）
他の人を優先する	千人が先に食べた（ブハーリー 4102）
祈り、アッラーに委ねる	部族連合への祈り（ブハーリー 2933）
勝利をアッラーに帰する	「ただ独りで部族連合を打ち破られた」（ブハーリー 4114）

この節はまた、その模範に倣う者が誰かも述べています。**アッラーと終末の日を熱望し、アッラーを多く唱念する者**です。教訓：スンナに従うことは外見をまねることだけではなく、来世への希望と絶え間ないズィクルから生まれるものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジブリールはまだ武器を置いていない

ムスリムたちは感謝と疲れに満ちて家に帰りました。しかし休む間もなく、天から新しい命令が来ました。アーイシャ رضى الله عنها は伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4117 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا ابْنُ نُمَيْرٍ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ لَمَّا رَجَعَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مِنَ الْخَنْدَقِ وَوَضَعَ السِّلاَحَ وَاغْتَسَلَ، أَتَاهُ جِبْرِيلُ ـ عَلَيْهِ السَّلاَمُ ـ فَقَالَ قَدْ وَضَعْتَ السِّلاَحَ وَاللَّهِ مَا وَضَعْنَاهُ، فَاخْرُجْ إِلَيْهِمْ. قَالَ فَإِلَى أَيْنَ. قَالَ هَا هُنَا، وَأَشَارَ إِلَى بَنِي قُرَيْظَةَ، فَخَرَجَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِلَيْهِمْ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った：**預言者 ﷺ がハンダクから帰られ、武器を置いて沐浴されると、ジブリールが来て言った。「あなたは武器を置いたのですか。アッラーにかけて、私たち（天使）はまだ置いていません。かれらのもとへ出て行きなさい。」** 預言者 ﷺ は「どこへ」と尋ねられた。ジブリールはクライザ族の方を指して「あちらへ」と言った。そこで預言者 ﷺ はかれらのもとへ出て行かれた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・アビー・シャイバ ← イブン・ヌマイル ← ヒシャーム（・ブン・ウルワ） ← その父ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ の部族連合からの帰還の章、ハディース第 4117 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4117

クルアーンは、条約を裏切ったその部族の結末をこう述べています：「**またかれは、かれら（連合軍）を後援した啓典の民を、それらの砦から追い、その心中に恐怖を投じられた。あなたがたは或る者を殺し、また或る者を捕虜とした。**」『タフスィール・イブン・カスィール』33:26。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：395 / 567

クライザ族の包囲、サアド・ブン・ムアーズの裁定、そしてかれの死の物語は、イン・シャー・アッラー、**第 13 巻**で語ります。ここでの教訓：人間が武器を置いたときも、天使たちは**なお備えを解いていなかった**のです — 裏切りに対して正義が打ち立てられるまで、アッラーの御業は終わりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「クライザ族のところ以外でアスルを礼拝してはならない」

イブン・ウマル رضى الله عنهما は、部族連合の日に預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。**「誰もクライザ族のところ以外でアスルを礼拝してはならない。」** 一部の者がまだ途中にいるうちにアスルの時刻が来ました。ある者は「そこに着くまで礼拝しない」と言い、別の者は「いや、礼拝しよう。使徒はそういう意味で言われたのではない」と言いました。このことが預言者 ﷺ に伝えられると、**使徒はどちらの集団も責められませんでした。**（『サヒーフ・ブハーリー』4119）。

第一の集団	第二の集団
使徒の言葉の文字どおりの意味に従った	意図に従った：急いでクライザ族のもとへ
着いてから礼拝した	途中で時間内に礼拝した
責められなかった	責められなかった

学者たちはこのハディースを、根拠と善い意図に基づく**イジュティハード（解釈）の違い**は分裂の原因となるべきではないことの証拠としています。教訓：見解が分かれうる事柄では、私たちは**寛容であるべきです。**アッラーの使徒 ﷺ が両方の集団に寛容であられたように。

ハンダクの物語の典拠

ハンダクの物語は、信頼度の異なる三種類の典拠を通して私たちに伝わっています。本書は、読者が**何が確実か**、**何が有名なだけか**を知ることができるよう、三つを区別しています：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハンダクの物語の典拠

クルアーン（6）

- 大風と目に見えぬ軍勢（33:9）
- 目は霞み、心臓は喉もとまで（33:10–11）
- 偽信者の言い訳（33:12–13）
- 立派な模範（33:21）
- 「これは約束されたもの」（33:22）
- アッラーがかれらを撤退させた（33:25）

真正なハディース（9）

- 塹壕掘りと詩
- 大きな岩；ジャービルのもてなし
- ハワーリー：アッ＝ズバイル
- 逃したアスルの礼拝
- 部族連合への祈り
- フザイファの夜
- 東風（サバー）
- 「今度はわれらがかれらを攻める」
- ジブリール：「まだ武器を置いていない」

スィーラ書（4）

- サルマーン・アル＝ファーリスィーの提案
- アリーとアムル・ブン・アブド・ウッド
- ヌアイム・ブン・マスウードの計略
- クライザ族の裏切りの詳細

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：本書におけるハンダクの物語の典拠の信頼度。

物語	典拠と等級
風と目に見えぬ軍勢；心臓は喉もとまで；偽信者；約束；模範	クルアーン（部族連合章 33:9–26）— 確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	典拠と等級
塹壕掘り；土ぼこり；大きな岩；ジャービルのもてなし	『サヒーフ・ブハーリー』2834、4104、4101、4102 — サヒーフ
アッ＝ズバイル；アスルの礼拝；サアドの負傷；祈り；東風	『サヒーフ・ブハーリー』2846、4111、596、4122、2933、4105 — サヒーフ
フザイファの夜	『サヒーフ・ムスリム』1788 — サヒーフ
岩を打ったときの光	『スナン・アン＝ナサーイー』3176 — ハサン
サルマーンと塹壕；アリーとアムル；ヌアイム；クライザ族の詳細	スィーラ書（イブン・イスハーク、アル＝ワーキディー）— 有名、伝承経路はさまざま
戦いの日付	有名な説はヒジュラ暦 5 年シャウワール月；ムーサー・ブン・ウクバは 4 年

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハンダクについての部族連合章の節

ハンダクの戦いは、クルアーンが最も詳しく語る戦いの一つです。部族連合章の十九の節（33:9–27）が、さまざまな角度からそれを描いています。敵の状況、信仰者の気持ち、偽信者の言い訳、アッラーの使徒 ﷺ の模範、そして戦いの結末です。下の表は、それらの節を本書の各章に対応させています。

節	目次	章
33:9	恩恵を思い起こせ：大風と目に見えぬ軍勢	18
33:10	敵が上から下から来る；目は霞み、心臓は喉もとまで	1、7、8
33:11	信者たちは試みられ、猛烈な動揺に揺さぶられた	8
33:12–13	偽信者：「欺きの約束」；「家が無防備だ」と帰還の許しを願う	9
33:14–17	偽信者の実態：逃げても死からは逃れられない	9
33:18–20	他人を引き止め、戦いの際に物惜しみする者たち	9
33:21	アッラーの使徒 ﷺ は立派な模範	21
33:22	信者たち：「これはアッラーとかれの使徒が約束されたもの」	10
33:23–24	アッラーとの約束を果たした男たち	24
33:25	アッラーは不信者を撤退させ、信者を戦いから守られた	19
33:26–27	敵を助けた啓典の民は砦から追い出された	22；第 13 巻

「信者の中には…人びとがいた」

ハンダクについての節のただ中で、アッラーは忠実な者たちを称えておられます。「信者の中には、アッラーと結んだ約束に忠実であった人びとが（多く）いたのである。或る者はその誓いを果し、また或る者は（なお）待っている。かれらは少しも（その信念を）変えなかった。」（部族連合章 33:23）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は、教友たちはこの節がウフドで殉教したかれのおじアナス・ブン・アン＝ナドルと、かれのような人々について下されたと考えていたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』2805；第 10 巻）。この節がハンダクの物語に置かれているのは、試練のときの信仰者の真の姿 — かれらは変わらない — を描いているからです。

ハディース：フザイマのもとで見つかった節

ザイド・ブン・サービト رضي الله عنه は言いました。私たちがムスハフを書き写していたとき、アッラーの使徒 ﷺ が読まれるのを聞いたことのある部族連合章の一節が見つからなかった。私はそれを、フザイマ・ブン・サービト・アル＝アンサーリー — アッラーの使徒 ﷺ がその証言を二人の男の証言と等しくされた人 — のもとでしか見つけられなかった。その節とは「信者の中には、アッラーと結んだ約束に忠実であった人びとがいた」である。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』4784。

このハディースは、クルアーンを集める際の教友たちの慎重さを示しています。その節はすでに暗記され、聞かれていましたが、ザイドはなお証人のついた書かれた写しを探しました。約束に忠実な人々についての節は、信託に忠実な人々によって守られたのです。

教訓

クルアーンはハンダクの歴史を記録するだけではなく、それぞれの集団の心を評価しています。部族連合章を読むとき、私たちは自問できます。人生の試練の中で、私たちは「これはアッラーが約束されたもの」と言う人々とともにいるのか、それとも「私たちの家は無防備だ」と言う人々とともにいるのか、と。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

女性、若者、負傷者

ハンダクの包囲には、塹壕のそばの戦士たちだけでなく、マディーナの全住民が関わりました。女性と子どもたちは町の中の砦（アータム）に置かれ、若者たちは志願し、負傷者はアッラーの使徒 ﷺ の近くで手当てを受けました。

十五歳で認められたイブン・ウマル

ハディース：ハンダクの日のイブン・ウマル

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言いました。ウフドの日、十四歳だった私をアッラーの使徒 ﷺ は検分され、許されなかった。その後ハンダクの日、十五歳だった私を検分され、許された。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』2664；『サヒーフ・ムスリム』1868。

ウマル・ブン・アブドゥル＝アズィーズをはじめとする学者たちは、このハディースを、責任の上で十五歳が子どもと大人の境目であることの根拠としています。ウフドで退けられた若者（第 10 巻）が、今やアッラーの使徒 ﷺ とともに塹壕のそばに立っていたのです。

モスクの中のテント

ハディース：サアド・ブン・ムアーズのためのテント

アーイシャ رضى الله عنها は言いました。サアド（・ブン・ムアーズ）はハンダクの日に腕の血管（アル＝アクハル）を負傷した。そこでアッラーの使徒 ﷺ は、近くから見舞えるように、モスクの中にテントを張られた。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』463。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

スィーラの注：ルファイダ・アル＝アスラミーヤ

イブン・イスハークは、そのテントはアスラム族のルファイダという女性のもので、彼女は報奨を願って負傷者の手当てをしていたと伝えています。ルファイダの名は『サヒーフ・ブハーリー』には出てきません。スィーラ書の伝承によるものです。

参考：イブン・ヒシャーム『預言者伝』ハンダクの章；Wikipedia「Rufaida Al-Aslamia」。

預言者のモスクは礼拝の場であるだけではなく、手当てと思いやりの場でもありました。アッラーの使徒 ﷺ は、負傷した教友を身近に置き、町の防衛を指揮する忙しさの中でも見舞えるようにされたのです。

砦のサフィーヤ・ビント・アブドゥル＝ムッタリブ

スィーラの注：サフィーヤの勇気

スィーラ書によると、サフィーヤ・ビント・アブドゥル＝ムッタリブ رضي الله عنها — アッラーの使徒 ﷺ のおばで、アッ＝ズバイルの母 — は、女性や子どもたちとともにある砦にいました。男たちが塹壕で忙しくしている間、一人のユダヤ教徒の男が偵察のために砦の周りをうろついているのが見えると、サフィーヤは自ら降りて行ってその男を倒し、中にいる女性たちを守りました。

この話は、イブン・イスハークがヒシャーム・ブン・ウルワからその父を経て伝えたものです（ムルサルの伝承経路）。ある版に見られる追加の細部の一部は学者たちから疑問視されています。本書はその要点だけを述べています。

参考：イブン・ヒシャーム『預言者伝』ハンダクの章；Wikipedia「Safiyya bint Abd al-Muttalib」。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

ハンダクの勝利は社会全体によって築かれました。戦士たちとともに、意気盛んな若者、勇敢な女性、誠実な看護者がいました。誰もが役割を持ち、アッラーのもとで小さな貢献というものはありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハンダクの人物とガタファーン族との交渉

ハンダクの物語には両陣営の多くの人物が関わっています。下の表は、クルアーン、ハディース、スィーラ書（特にイブン・ヒシャーム）に基づいてかれらの役割をまとめたものです。

ムスリム側の人物

人物	ハンダクでの役割	章
サルマーン・アル＝ファーリスィー	塹壕を提案した（スィーラの伝承）	2
サアド・ブン・ムアーズ	アウス族の長；負傷；ガタファーン族への提案を拒んだ	14、25、26
サアド・ブン・ウバーダ	ハズラジュ族の長；交渉でサアド・ブン・ムアーズとともにいた	26
アリー・ブン・アビー・ターリブ	アムル・ブン・アブド・ウッドと対決した（スィーラの伝承）	12
アッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワーム	アッラーの使徒 ﷺ のハワーリー；クライザ族を偵察した	11
フザイファ・ブン・アル＝ヤマーン	寒い夜に敵の陣営へ遣わされた	17
ジャービル・ブン・アブドゥッラー	祝福されたもてなし；ファトフ・モスクでの祈りの伝承者	6、27
ヌアイム・ブン・マスウード	部族連合の同盟を分裂させた（スィーラの伝承）	15
アブドゥッラー・ブン・ウンム・マクトゥーム	マディーナの留守を任された（イブン・ヒシャームによる）	—
アブドゥッラー・ブン・ウマル	十五歳で参加を認められた	25
サフィーヤ・ビント・アブドゥル＝ムッタリブ	女性たちの砦を守った（スィーラの伝承）	25

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

部族連合の指導者

人物	部族と役割	その後
アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ	クライシュ族の長、同盟の総大将	マッカ征服の際にイスラームに入った
ウヤイナ・ブン・ヒスン	ファザーラ族（ガタファーン）の長	後にイスラームに入った
アル＝ハーリス・ブン・アウフ	ムッラ族（ガタファーン）の長	後にイスラームに入った
トゥライハ・ブン・フワイリド	アサド族の長	背教して預言者を自称し、後に悔い改めた
フヤイ・ブン・アフタブ	ナディール族の指導者；同盟の扇動者	第 13 巻
カアブ・ブン・アサド	クライザ族の長；条約を破った	第 13 巻
アムル・ブン・アブド・ウッド	クライシュ族の勇士	塹壕のそばで倒された

最後の列に注目してください。イスラームを滅ぼすために来た指導者の多くが、最後には自らイスラームに入りました。命がある限り、導きの扉は誰に対しても閉ざされていません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナのナツメヤシの収穫の三分の一の提案

スィーラの注：ガタファーン族との交渉

イブン・イスハークによると、包囲がますます厳しくなったとき、アッラーの使徒 ﷺ は、ガタファーン族の二人の指導者ウヤイナ・ブン・ヒスンとアル＝ハーリス・ブン・アウフに、手を引かせるためマディーナのナツメヤシの収穫の三分の一を提案することを検討されました。合意が結ばれる前に、使徒はサアド・ブン・ムアーズとサアド・ブン・ウバーダに相談されました。

二人のサアドは尋ねました。「アッラーの使徒よ、これは私たちが従わなければならないアッラーの命令ですか。それともあなたが望まれることですか。それとも私たちのためになさることですか。」使徒は、かれらの負担を軽くするためだと答えられました。サアド・ブン・ムアーズは言いました。かれらがまだ多神教徒だったころでさえ、ガタファーン族は客として、あるいは買うのでなければ、マディーナのナツメヤシを一粒も食べたことがなかった。アッラーがイスラームによって私たちに栄誉を与えられた今、私たちの財産を差し出すことはない、と。アッラーの使徒 ﷺ はその意見を受け入れられ、提案は進められませんでした。

等級：スィーラ書の伝承（イブン・イスハークがアースィム・ブン・ウマル・ブン・カターダとアッ＝ズフリーから伝える）で、伝承経路はムルサル。有名だが、『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』には見られない。

参考：イブン・ヒシャーム『預言者伝』ハンダクの章；アル＝ムバーラクフーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』。

教訓

この伝承はスィーラ書からのものですが、真正なシューラー（協議）の原則に沿っています。アッラーの使徒 ﷺ は、従わなければならない啓示と、話し合うことのできる個人的な意見とを区別されました。良い指導者は、決定の影響を負う人々の意見に耳を傾けます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

今日のハンダクの戦場

ハンダクの塹壕はとうの昔に埋まり、その地域は今では近代都市マディーナの中心部にあります。それでも、マディーナの歴史書に基づいて、いくつかの地理的な目印を特定することができます。

場所	説明	情報の信頼度
サルウ山	預言者のモスクの北西にある小さな山；ムスリムはそのふもとに陣を張り、山を背にして塹壕に向かった	スィーラ書；位置は特定されている
塹壕の経路	マディーナの開けた北側、東のワーキム溶岩地帯と西のワブラ溶岩地帯の間；他の部分は溶岩地帯、果樹園、家々が守った	スィーラ書；正確な経路は推定
ファトフ・モスク	サルウ山の西斜面；ジャービルのハディースによれば、アッラーの使徒 ﷺ が祈られた場所	ハディース（『アル＝アダブ・アル＝ムフラド』704）
近くの小さなモスク群	サルマーン、アブー・バクル、ウマル、アリー、ファーティマにちなんで名付けられ、あわせて「七つのモスク（アル＝マサージド・アッ＝サブア）」と呼ばれる	地元の伝統；名称について真正な伝承はない
クライザ族の居住地	マディーナの南東、ムスリムの戦列の背後	スィーラ書；第 13 巻

ハディース：ファトフ・モスクでの祈り

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がこのモスク — ファトフ・モスク — で月曜、火曜、水曜に祈られ、水曜日の二つの礼拝（ズフルとアスル）の間にその祈りが聞き届けられたと述べています。ジャービルは言いました。「重く大切な用事が私に起きるたびに、私はその時刻を選んで祈り、祈りが聞き届けられるのを経験した。」

等級：アル＝アルバーニーによればハサン（『サヒーフ・アル＝アダブ・アル＝ムフラド』545）；一部の学者は伝承者カスィール・ブン・ザイドのために弱いとする — 『アル＝アダブ・アル＝ムフラド』704；『ムスナド・アフマド』14563。

学者たちは、それら「七つのモスク」での礼拝や訪問を独立した崇拝行為としてスンナとする特別な根拠はないと注意しています。教訓を得るために史跡を訪れることは許されますが、義務の行いや特定の儀式とはされません。参考：Wikipedia「The Seven Mosques」。

教訓

塹壕はもうありませんが、クルアーンとハディースは土や石よりも長くその物語を守っています。史跡は出来事を思い描く助けになりますが、本当の教訓は啓示から来ます。

ハンダクの戦いの年表

有名な日付はヒジュラ暦 5 年シャウワール月です（ムーサー・ブン・ウクバはヒジュラ暦 4 年としています）。下の順序はハディースとスィーラ書に基づくおおよそのものです。包囲の期間は約二十夜と推定され、一部の伝承はほぼ一か月としています。

時期	出来事	章
ヒジュラ暦 4 年ラビーウ・アル＝アウワル月	ナディール族がマディーナからハイバルへ追放された（第 11 巻）	1
ヒジュラ暦 5 年初め	フヤイ・ブン・アフタブとナディール族の指導者がクライシュ族とガタファーン族を扇動	1
ヒジュラ暦 5 年シャウワール月	部族連合来襲の知らせ；協議と塹壕の提案	2
ヒジュラ暦 5 年シャウワール月	寒さの中で塹壕を掘る；大きな岩とジャービルのもてなし	3–6
ヒジュラ暦 5 年シャウワール月	部族連合が到着し、マディーナを包囲	7–8
包囲中	クライザ族が条約を破る；アッ＝ズバイルが偵察	11
包囲中	塹壕のそばでの小競り合い；アムル・ブン・アブド・ウッドが倒される	12
包囲中	アスルの礼拝を逃す；サアド・ブン・ムアーズの負傷	13–14
包囲中	進められなかったガタファーン族との交渉（スィーラの伝承）	26
包囲中	ヌアイム・ブン・マスウードの計略	15
月曜〜水曜	アッラーの使徒 ﷺ の部族連合への祈り；水曜日に聞き届けられる	16、27
最後の夜	フザイファの派遣；嵐の風が敵の陣営を襲う	17–18

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	章
翌朝	部族連合の撤退；「今度はわれらがかれらを攻める」	19–20
同じ日	ジブリールが来る；クライザ族への命令（第 13 巻）	22

教訓

年表は、勝利が一日で来たのではないことを示しています。何週間にもわたる穴掘り、見張り、飢えと寒さ、そして繰り返される祈りの後に来たのです。アッラーの御助けは、努力と忍耐が尽くされた後、その時に来ます。

ハンダクの戦いについてのよくある質問

1. なぜこの戦いはハンダクとも、アル＝アフザーブ（部族連合）とも呼ばれるのですか。

「ハンダク」は塹壕という意味で、ムスリムの防衛戦略を指します。「アル＝アフザーブ」は同盟した諸集団、つまりクライシュ族、ガタファーン族、その他の部族を意味します。後者の名はクルアーン第 33 章の名でもあります。

2. 両軍の兵力はどれくらいでしたか。

スィーラ書によると、部族連合軍は約一万人、ムスリム軍は約三千人でした。この数字はスィーラでは有名ですが、クルアーンや真正なハディースには述べられていません。

3. 包囲はどれくらい続いたのですか。

スィーラの伝承は分かれています。約二十夜とするものも、ほぼ一か月とするものもあります。クルアーンは期間を述べていません。確かなのは、「心臓は喉もとまで届く」ほど長かったということです（部族連合章 33:10）。

4. 犠牲者は何人でしたか。

イブン・イスハークによると、後に傷がもとで亡くなったサアド・ブン・ムアーズを含め、六人のムスリムが殉教し、アムル・ブン・アブド・ウッドを含む三人の多神教徒が死にました。この数字はスィーラ書によるものです。犠牲者が少なかったことは、ハンダクが剣の戦いではなく忍耐の戦いであったことを示しています。

5. ハンダクの日に四つの礼拝を逃したというのは本当ですか。

『サヒーフ・ブハーリー』で真正とされているのは、日没までアスルの礼拝を逃したことです（『サヒーフ・ブハーリー』596；第 13 章）。四つの礼拝を逃したという伝承は『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』179 にあり、アブー・ウバイダがその

父イブン・マスウードから伝えたものですが、アブー・ウバイダは父から直接聞いていないため、その伝承経路は**途切れて（ムンカティウ）**います。一部の学者は、それぞれ別の日に起きたとして両者を調和させています。

6. 今日、忙しさのために礼拝を遅らせてもよいのですか。

いいえ。学者たちは、ハンダクの出来事は異常な戦時の状況で起きたものであり、多くの学者によれば恐怖時の礼拝の方法が完全に定められる前のことだったと説明しています。その後アッラーは、歩きながらでも乗り物の上でも、能力に応じてどんな状況でも礼拝するよう命じられました（雌牛章 2:239；第 11 巻）。礼拝を逃したことをアッラーの使徒 ﷺ が悲しまれたことは、その地位がいかに大きいかを示しています。

7. アッラーの使徒 ﷺ が岩を打たれたときの光の話は本当ですか。

大きな岩が砂になった話は『サヒーフ・ブハーリー』4101 にあります。光と、シャーム、ペルシャ、イエメンの征服の吉報についての追加は、ハサンと評価される『スナン・アン＝ナサーイー』3176 にあります（第 5 章）。その知らせは、使徒の後のカリフたちの時代に本当に実現しました。

8. ハンダクでは天使も戦ったのですか。

クルアーンは「目に見えぬ軍勢」と述べています（部族連合章 33:9）。イブン・カスィールは、それは敵を揺さぶり、その心に恐怖を投げ込んだ天使たちであると説明しています。バドルのように、ハンダクで天使が直接戦ったと述べる真正な伝承はありません。

9. アッラーの使徒 ﷺ は本当にマディーナのナツメヤシの三分の一をガタファーン族に提案されたのですか。

この話はムルサルの伝承経路によるスィーラ書の伝承です（第 26 章）。その伝承によれば、提案は検討されただけで結ばれませんでした。サアド・ブン・ムアーズと

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サアド・ブン・ウバーダがそれに反対し、アッラーの使徒 ﷺ がかれらの意見を受け入れられたからです。

10. マディーナの「七つのモスク」を訪れることはスンナですか。

それらのモスクへの訪問を独立した崇拝行為とする特別な根拠はありません。ファトフ・モスクでのアッラーの使徒 ﷺ の祈りについてのジャービルのハディース（第 27 章）は、アル＝アルバーニーがハサンと評価し、他の学者は見解を異にしています。それは祈りの時刻に関するもので、場所を訪れる義務に関するものではありません。教訓を得るために訪れることは許されます。

11. なぜクライザ族は別の巻で扱われるのですか。

クライザ族の裏切り、その包囲、サアド・ブン・ムアーズの裁定、そしてサアドの死は、独自の規定を含む長い物語だからです。イン・シャー・アッラー、部族連合章 33:26–27 と真正なハディースを参照しながら、第 13 巻で語ります。

12. なぜハンダクはスィーラの転換点とされるのですか。

ハンダクの後、アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「今度はわれらがかれらを攻める。かれらがわれらを攻めることはない」（『サヒーフ・ブハーリー』4109；第 20 章）。クライシュ族は二度とマディーナを攻めませんでした。その後フダイビヤの和約（第 15 巻）があり、続いてマッカ征服がありました。

教訓

これらの質問は、クルアーンと真正なハディースから確実なことと、スィーラ書で有名なこととを区別することの大切さを示しています。そうすることで、私たちは付け加えたり減らしたりせず、確信と誠実さをもってハンダクの教訓を受け取るのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

ハンダクの戦いは大きな剣の戦いではなく、**忍耐の戦い**でした。ムスリムたちが勝ったのは数や武器のためではなく、団結し、努力し、祈り、アッラーに委ねたからです — そしてアッラーご自身が敵を打ち破られたのです。

教訓	ハンダクから学ぶこと
協議と良い考え	塹壕の提案が受け入れられた
民とともにいる指導者	アッラーの使徒 ﷺ は掘り、土ぼこりにまみれ、飢えられた
分かち合いの祝福	ジャービルのもてなしが千人を満たした
試練が心を分ける	偽信者（33:12）と信仰者（33:22）
礼拝の地位	逃したアスルの礼拝への悲しみ
従順は容易さをもたらす	寒さの中で暖かかったフザイファ
目に見えぬアッラーの軍勢	風と天使（33:9）
勝利はアッラーのもの	「ただ独りで部族連合を打ち破られた」

私たちの生活の中のハンダク

私たちも時に、四方から — 「上からまた下から」 — 問題に囲まれることがあります。ハンダクは私たちに**自分自身の塹壕を掘る**ことを教えています。賢明に備え、善い人々と団結し、寒さと飢えの中で耐え、多く祈り — そしてその結果をアッラーに委ねることです。

イン・シャー・アッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 13 巻**へと続きます — クライザ族とハンダクの後の出来事です。アッラーが最もよくご存知です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 12 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（雌牛章 2:214、238；部族連合章 33:9–27）。https://tafsir.app/ibn-katheer/33/9

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』596、597、1797、2834、2846、2933、3030、3743、3803、4101、4102、4104、4105、4106、4109、4111、4114、4117、4119、4122、5416、6452。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1731、1788、2605。https://sunnah.com/muslim

『スナン・アン＝ナサーイー』3176。https://sunnah.com/nasai:3176

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— ハンダクの戦いの章。

イブン・サアド『タバカート』；アル＝ワーキディー『マガーズィー』。

サフィー・アッ＝ラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— 部族連合の戦いの章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』——遠征の書。

Wikipedia「Battle of the Trench」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_the_Trench

Wikipedia「Salman the Persian」。https://en.wikipedia.org/wiki/Salman_the_Persian

Wikipedia「Nu’aym ibn Mas’ud」。https://en.wikipedia.org/wiki/Nu%27aym_ibn_Mas%27ud

Wikipedia「Sa’d ibn Mu’adh」。https://en.wikipedia.org/wiki/Sa%27d_ibn_Mu%27adh

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4784（部族連合章 33:23 の節がフザイマのもとで見つかった）。https://sunnah.com/bukhari:4784

『サヒーフ・ブハーリー』2805（アナス・ブン・アン＝ナドルと部族連合章 33:23）。https://sunnah.com/bukhari:2805

『サヒーフ・ブハーリー』2664；『サヒーフ・ムスリム』1868（十五歳のイブン・ウマル）。https://sunnah.com/bukhari:2664

『サヒーフ・ブハーリー』463（モスクの中のサアドのテント）。https://sunnah.com/bukhari:463

『アル＝アダブ・アル＝ムフラド』704（ファトフ・モスクでの祈り）。https://sunnah.com/adab:704

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』179（四つの礼拝の伝承；伝承経路は途切れている）。https://sunnah.com/tirmidhi:179

Wikipedia「The Seven Mosques」。https://en.wikipedia.org/wiki/The_Seven_Mosques

Wikipedia「Safiyya bint Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Safiyya_bint_Abd_al-Muttalib

Wikipedia「Rufaida Al-Aslamia」。https://en.wikipedia.org/wiki/Rufaida_Al-Aslamia

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第七部

クライザ族

預言者伝（スィーラ）— 第 13 巻

盟約、裏切り、そしてアッラーの公正な裁き — クルアーンと真正なハディースに基づいて

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族

『預言者伝』第 12 巻は、目に見えない軍勢と風に打ち負かされ、失望のうちに撤退した部族連合で終わりました。しかし、ムスリムたちが休む間もなく、ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ が新たな命令を携えて来ました。マディーナの**背後**に、まだ片付いていない一つの問題が残っていたのです — **クライザ族**の問題です。

クライザ族は、ムスリムと**盟約**で結ばれたユダヤ教徒の部族でした。マディーナが一万の軍勢に包囲されたとき、かれらはその盟約を破り、敵の側につきました。その後に続いた出来事 — かれらの砦の包囲、**サアド・ブン・ムアーズ** رضى الله عنه の裁定、そして玉座を揺るがせたサアドの死 — は、**部族連合章**（33:26–27）と真正なハディースに記録されています。

この物語はしばしば誤解されます。本書は、それを**誠実かつ公平に**伝えようと努めます。クルアーンと真正なハディースから確かなこと、スィーラ書で有名なこと、そして学者たちが議論していることを区別して示します。

クライザ族の出来事の年表（ヒジュラ暦5年ズル・カアダ月）

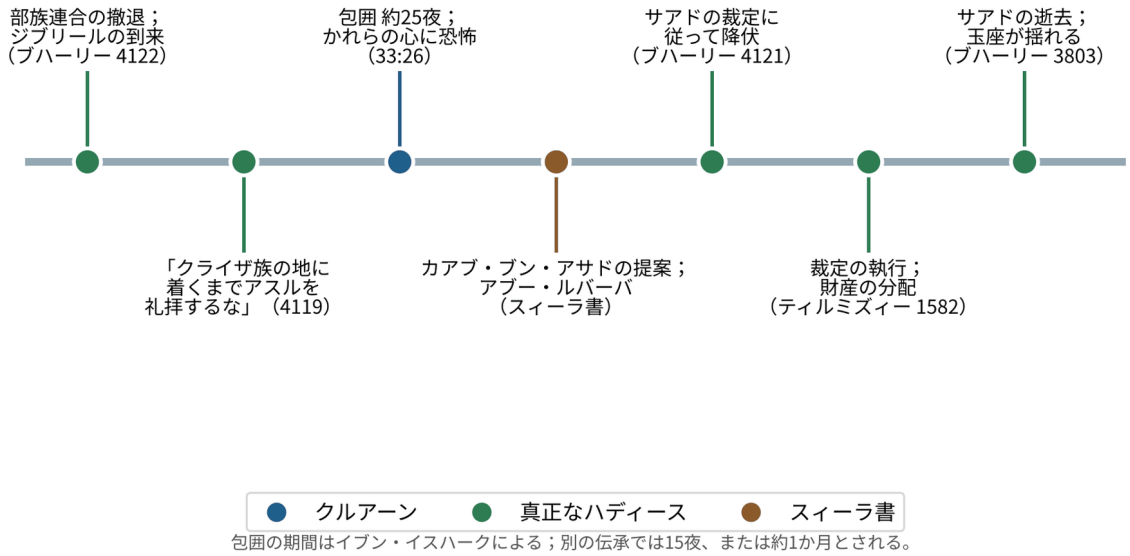


図 1：クライザ族の出来事の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

クライザ族とは誰か

イスラーム以前、ヤスリブ（マディーナ）には二つのアラブ部族 — **アウス族**と**ハズラジュ族** — と、いくつかのユダヤ教徒の部族が住んでいました。最大の三つは、**カイヌカーウ族**、**ナディール族**、**クライザ族**です。かれらは自らの啓典、礼拝所、市場、そして砦を持っていました。

ユダヤ教徒の部族	説明（スィーラ書）
カイヌカー族	金細工師と商人；ハズラジュ族の同盟者；町の中に住む
ナディール族	豊かなナツメヤシ園の所有者；南部（アワーリー）に住む
クライザ族	ナツメヤシ農家；アウス族の同盟者；南東（アワーリー）に砦

クライザ族は**アワーリー**、すなわちマディーナ南東の、ナツメヤシ園の豊かな高地に住んでいました。かれらは堅固な**石の砦**（アータム）を築き、ジャーヒリーヤ時代から**アウス族の同盟者**でした — これはこの物語において非常に重要な事実です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

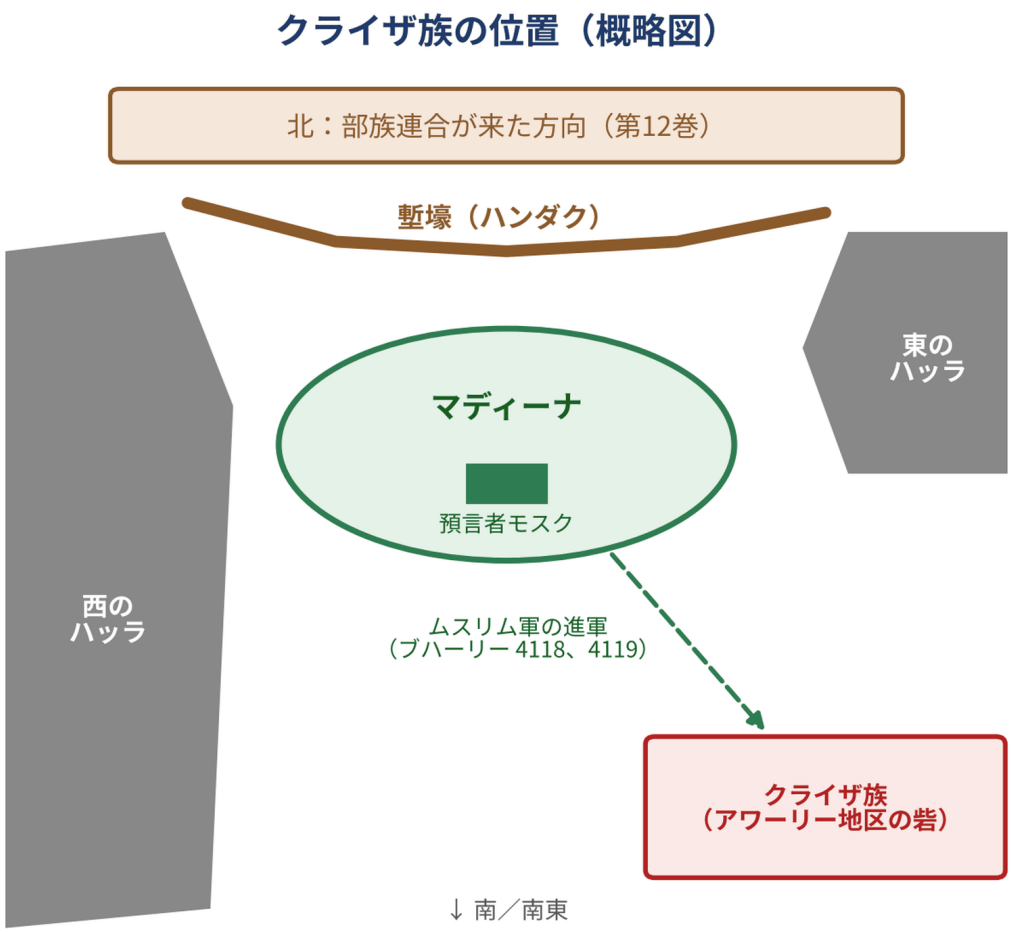


図 2：マディーナ南東のクライザ族の位置（概略図）。

スィーラの注：戦略上の位置

ハンダクの戦いのとき、塹壕はマディーナの**北側**に掘られました。ムスリムたちは北を向き、女性や子ども、家々はかれらの背後、**クライザ族の地域に隣接して**いました。クライザ族が盟約に忠実である限り、マディーナの背後は安全でした。

スィーラ書と現代の歴史家は、そのときのクライザ族の裏切りが、塹壕に守られていない方向から、敵をマディーナの中心へ直接通す道を開きかねなかったと説明しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Banu Qurayza」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Qurayza

教訓：歴史上の出来事を理解するには、その**位置と背景**を理解する必要があります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナ憲章と相互の約束

アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに到着されたとき（第 8 巻）、**マディーナ憲章**（アッ＝サヒーファ）として知られる文書を作られました。それはムハージルーン、アンサール、そしてかれらと共に住むユダヤ教徒の部族との関係を定めたものです。

スィーラの注：関連する憲章の条項

イブン・イスハークはマディーナ憲章の本文を伝えています。その条項の中には、「**ユダヤ教徒にはかれらの宗教があり、ムスリムにはかれらの宗教がある**」とあります。両者はこの憲章の当事者と戦う者に対して**互いに助け合い**、クライシュ族やかれらを助ける者を**助けてはならない**とされました。また、攻撃からヤスリブを**共に守る**義務がありました。

アブー・ウバイドの『**アル＝アムワール**』のように、一部の歴史家は、クライザ族とナディール族も**特別な盟約**をアッラーの使徒 ﷺ と結んでいたと述べています。その形がどうであれ、諸資料は、クライザ族が**和平と相互防衛の盟約に縛られていた**ことで一致しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；アブー・ウバイド『アル＝アムワール』；Wikipedia「Constitution of Medina」。https://en.wikipedia.org/wiki/Constitution_of_Medina

イスラームは約束を非常に重い信託と見なします。アッラーは仰せられます。「**あなたがた信仰する者よ、約束を守りなさい。**」食卓章 5:1（イブン・カスィール注釈）。

マディーナ憲章は、人類史上最も初期の成文憲法文書の一つです。それは、アッラーの使徒 ﷺ が敵意ではなく、**和平をもってユダヤ教徒の部族との関係を始められ**、信教の自由と協力を重んじられたことを証明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

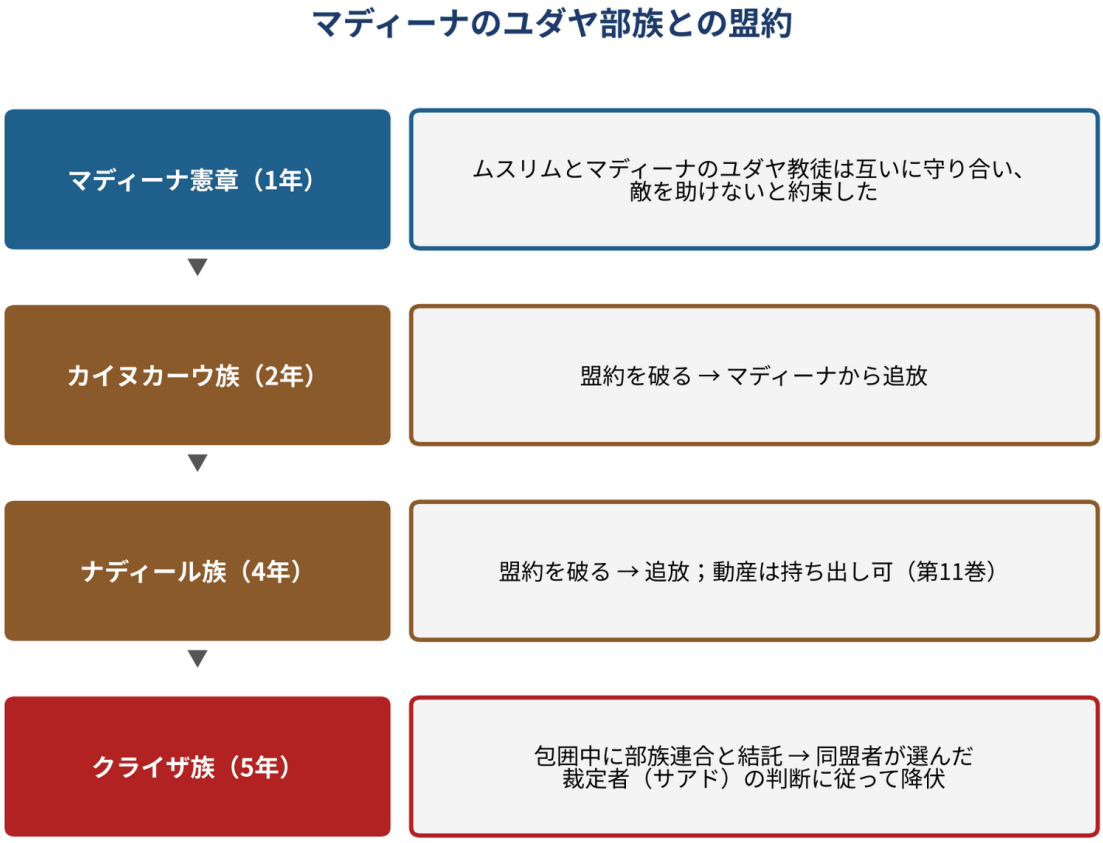


図 3：マディーナのユダヤ教徒の部族との盟約。

教訓：ムスリムは、相手が約束を守る限り**約束を守ります**。罰を受けたユダヤ教徒の部族 — カイヌカーウ族、ナディール族、クライザ族 — はそれぞれ、宗教のためではなく、盟約を破った**自らの行為**のために罰せられたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

引き裂かれた盟約

第 12 巻では、ハイバルに追放されたナディール族の指導者**フヤイ・ブン・アフタブ**が、部族連合の主な扇動者の一人であったと述べました。部族連合の軍が塹壕の前に到着して渡れなかったとき、フヤイは別の道を探しました。マディーナの背後の守りを開けるよう**クライザ族を説得する**ことです。

スィーラの注：ついに開かれた門

イブン・イスハークは、フヤイが**カアブ・ブン・アサド** — アッラーの使徒 ﷺ との盟約を担っていたクライザ族の指導者 — のもとへ行ったと伝えています。カアブは初め**砦の門を閉ざして**会おうとせず、こう言いました。「私はムハンマドから、誠実さと約束の履行しか見たことがない。」

しかしフヤイは迫り続け、部族連合の力を「**あふれる大海**」にたとえ、必ずムハンマドを滅ぼすと言いました。また、部族連合が勝利なしに帰ったなら、自分もかれらと共に砦に入ると約束しました。ついにカアブは同意し、**ムスリムとの盟約は引き裂かれました**。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ハンダクの戦いの章。

カアブ自身の告白に注目してください。かれは**裏切りを一度も見たことがなかった**のです — アッラーの使徒 ﷺ からは。これは、約束の破棄がムスリム側の不正によるものではなく、**力の誘惑**と、ムスリムが必ず敗れるという思い込みによるものであったことを示しています。

スィーラの注：砦の中の女性と子ども

スィーラ書は、ムスリムの女性と子どもがマディーナの砦に集められ、その中にはハッサーン・ブン・サービトの**ファーリウ**の砦もあったと述べています。イブン・イスハークは、一人のユダヤ教徒の男が偵察のためにその砦の周りをうろついたところ、**サフィ**

ーヤ・ビント・アブドゥルムッタリブ رضى الله عنها — アッラーの使徒 ﷺ のおば — が棒で打ってかれを殺したと伝えています。

この話はスィーラ書では有名ですが、ハディース学者の間では**その伝承経路が議論されています**（一部はムルサル）。ここでは確かな伝承としてではなく、マディーナの住民が感じた危険を示すものとして挙げています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』；アル＝ハイサミー『マジュマウ・アッ＝ザワーイド』。

教訓：平和なときに結んだ約束は、苦しいときに**試されます**。相手が強いときだけ忠実な者は、実は自らの約束に忠実ではないのです。

知らせを確かめる使者

クライザ族が盟約を破ったという知らせは、ハンダクの包囲が頂点に達していたとき、アッラーの使徒 ﷺ に届きました。使徒はうわさに基づいて行動されず、**まず確かめられました。**

真正なハディースによれば、部族連合の日、使徒は「誰があの人々の知らせを私に持って来るか」と尋ねられました。アッ＝ズバイル رضي الله عنه が応じると、使徒は仰せられました。「**どの預言者にもハワーリー（忠実な支援者）がいる。私のハワーリーはアッ＝ズバイルである**」（『サヒーフ・ブハーリー』2846）。アッ＝ズバイル自身も、クライザ族の日にアッラーの使徒 ﷺ が自分のために両親を併せて「**わが父母をあなたの身代わりに！**」と仰せられたと述べています（『ティルミズィー』3743、ハサン・サヒーフ）。

スィーラの注：二人のサアドと秘密の合図

イブン・イスハークは、アッラーの使徒 ﷺ が**サアド・ブン・ムアーズ**（クライザ族の同盟者アウス族の長）と**サアド・ブン・ウバーダ**（ハズラジュ族の長）を、アブドゥッラー・ブン・ラワーハとハウワート・ブン・ジュバイル رضي الله عنهما と共に遣わされたと伝えています。使徒は、もし知らせが本当なら、人々の士気がくじけないよう、使徒にだけ分かる**たとえ**で伝えるように、もし本当でないなら公に知らせるように、と命じられました。

かれらは、クライザ族が最悪の状態にあり、アッラーの使徒 ﷺ をののしってさえいるのを見ました。かれらは戻って言いました。「**アダルとカーラ！**」— ラジーウで教友たちを裏切った二つの部族の名です（第 11 巻）。使徒は仰せられました。「アッラーは偉大なり！ 喜びなさい、ムスリムたちよ。」

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

なぜ使徒は、これほど悪い知らせを受けたときに「喜びなさい」と仰せられたのでしょうか。学者たちはこう説明します。それは教友たちの**心を強める**ためであり、また試練が頂点に達することは**アッラーの助けが近い**しるしだと使徒が確信しておられたからです。

教訓：**行動する前に知らせを確かめなさい**。特に社会の安全を揺るがしかねない知らせについてはそうです。そして指導者は、知るべき人から真実を隠すことなく、従う者の士気を守ります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジブリールはまだ武器を置いていない

部族連合が撤退した後、アッラーの使徒 ﷺ はマディーナに戻り、武器を置いて沐浴されました。教友たちは戦いが終わったと思いました。しかしジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ がアッラーの命令を携えて来ました。アーイシャ رضى الله عنها はこう語っています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4122 番

حَدَّثَنَا زَكَرِيَّاءُ بْنُ يَحْيَى، حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ نُمَيْرٍ، حَدَّثَنَا هِشَامٌ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ أُصِيبَ سَعْدٌ يَوْمَ الْخَنْدَقِ، رَمَاهُ رَجُلٌ مِنْ قُرَيْشٍ يُقَالُ لَهُ حِبَّانُ ابْنُ الْعَرِقَةِ، رَمَاهُ فِي الأَكْحَلِ، فَضَرَبَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم خَيْمَةً فِي الْمَسْجِدِ لِيَعُودَهُ مِنْ قَرِيبٍ، فَلَمَّا رَجَعَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنَ الْخَنْدَقِ وَضَعَ السِّلاَحَ وَاغْتَسَلَ، فَأَتَاهُ جِبْرِيلُ ـ عَلَيْهِ السَّلاَمُ ـ وَهْوَ يَنْفُضُ رَأْسَهُ مِنَ الْغُبَارِ فَقَالَ قَدْ وَضَعْتَ السِّلاَحَ وَاللَّهِ مَا وَضَعْتُهُ، اخْرُجْ إِلَيْهِمْ. قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَأَيْنَ. فَأَشَارَ إِلَى بَنِي قُرَيْظَةَ، فَأَتَاهُمْ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَنَزَلُوا عَلَى حُكْمِهِ، فَرَدَّ الْحُكْمَ إِلَى سَعْدٍ، قَالَ فَإِنِّي أَحْكُمُ فِيهِمْ أَنْ تُقْتَلَ الْمُقَاتِلَةُ، وَأَنْ تُسْبَى النِّسَاءُ وَالذُّرِّيَّةُ، وَأَنْ تُقْسَمَ أَمْوَالُهُمْ. قَالَ هِشَامٌ فَأَخْبَرَنِي أَبِي عَنْ عَائِشَةَ أَنَّ سَعْدًا قَالَ اللَّهُمَّ إِنَّكَ تَعْلَمُ أَنَّهُ لَيْسَ أَحَدٌ أَحَبَّ إِلَىَّ أَنْ أُجَاهِدَهُمْ فِيكَ مِنْ قَوْمٍ كَذَّبُوا رَسُولَكَ صلى الله عليه وسلم وَأَخْرَجُوهُ، اللَّهُمَّ فَإِنِّي أَظُنُّ أَنَّكَ قَدْ وَضَعْتَ الْحَرْبَ بَيْنَنَا وَبَيْنَهُمْ، فَإِنْ كَانَ بَقِيَ مِنْ حَرْبِ قُرَيْشٍ شَىْءٌ، فَأَبْقِنِي لَهُ حَتَّى أُجَاهِدَهُمْ فِيكَ، وَإِنْ كُنْتَ وَضَعْتَ الْحَرْبَ فَافْجُرْهَا، وَاجْعَلْ مَوْتَتِي فِيهَا. فَانْفَجَرَتْ مِنْ لَبَّتِهِ، فَلَمْ يَرْعُهُمْ وَفِي الْمَسْجِدِ خَيْمَةٌ مِنْ بَنِي غِفَارٍ إِلاَّ الدَّمُ يَسِيلُ إِلَيْهِمْ فَقَالُوا يَا أَهْلَ الْخَيْمَةِ مَا هَذَا الَّذِي يَأْتِينَا مِنْ قِبَلِكُمْ فَإِذَا سَعْدٌ يَغْذُو جُرْحُهُ دَمًا، فَمَاتَ مِنْهَا رضى الله عنه.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った：**サアドはハンダクの日に矢に当たった。ヒッバーン・ブン・アル＝アリカというクライシュ族の男が、かれの腕の静脈（アル＝アクハル）を**

射たのである。そこで預言者 ﷺ は、近くから見舞えるようにモスクの中に天幕を張られた。アッラーの使徒 ﷺ がハンダクから戻られ、武器を置いて沐浴されると、ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ が頭の砂ぼこりを払いながら来て言った。「あなたは武器を置かれたのか？ アッラーにかけて、私はまだ置いていない。かれらのもとへ出て行きなさい。」 預言者 ﷺ は「どこへ？」と尋ねられた。ジブリールはクライザ族の方を指した。アッラーの使徒 ﷺ はかれらのもとへ行かれ、かれらは使徒の裁定に従って（砦から）降りて来た。使徒はその裁定をサアドに委ねられた。サアドは言った。**「私は、戦う者は殺され、女性と子どもは捕虜とされ、かれらの財産は分配されると裁定する。」** ヒシャームは言った：父がアーイシャから私に伝えたところでは、サアドはこう祈った。**「アッラーよ、あなたはご存じです。あなたの使徒 ﷺ を嘘つき呼ばわりし、追い出した民ほど、あなたのために戦いたいと私が望む民はいないことを。アッラーよ、あなたは私たちとかれらとの戦いを終わらせられたと思います。もしクライシュ族との戦いがまだ残っているなら、私を生かしてください。あなたのためにかれらと戦えるように。もしあなたがその戦いを終わらせられたのなら、この傷を開いてください。そしてそれによって私を死なせてください。」** すると傷が胸のあたりから噴き出した。モスクの中のギファール族の天幕の人々は、血が自分たちの方へ流れて来るのを見て驚き、「天幕の人々よ、あなた方の方から私たちのところへ来ているこれは何か」と言った。それはサアドの傷から流れ出る血であり、かれはそれによって亡くなった رضي الله عنه。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ザカリーヤー・ブン・ヤフヤー ← アブドゥッラー・ブン・ヌマイル ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← 父 ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ が部族連合から戻りクライザ族へ出発された章、ハディース第 4122 番；第 463 番、第 2813 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1769 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4122

「アッラーにかけて、私はまだ置いていない」

ジブリールの言葉に注目してください。「**あなたは武器を置かれたのか？ アッラーにかけて、私はまだ置いていない。**」 ハンダクで助けに降りた天使たち（部族連合章 33:9）は、なお備えていました。国が包囲されているときに盟約を裏切った者との問題は、**まだ終わっていなかった**のです。

この命令は、**アッラーから**来たものであり、アッラーの使徒 ﷺ の復讐心から来たものではありません。使徒は怒りにまかせて自ら進んでクライザ族のもとへ行かれたのではありません。ジブリールがかれらの方角を指したとき、行かれたのです。

ハディースの場面	その意味
モスクの中のサアドの天幕	使徒は傷ついた教友を近くから見舞われた
武器を置き、沐浴を終えたばかり	使徒もまた、包囲の後に疲れた人間であった
砂ぼこりにまみれたジブリール	天使たちもムスリムと共に戦った
「どこへ？」	使徒はアッラーの命令を待たれた

教訓：勝利は**油断**のときではありません。脅威が公正に解決されない限り、体が疲れていても仕事は終わっていないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジブリールの行軍の砂ぼこり

当時まだ若者だったアナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、生涯忘れられない光景を目撃しました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4118 番

حَدَّثَنَا مُوسَى، حَدَّثَنَا جَرِيرُ بْنُ حَازِمٍ، عَنْ حُمَيْدِ بْنِ هِلاَلٍ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ كَأَنِّي أَنْظُرُ إِلَى الْغُبَارِ سَاطِعًا فِي زُقَاقِ بَنِي غَنْمٍ مَوْكِبِ جِبْرِيلَ حِينَ سَارَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى بَنِي قُرَيْظَةَ.

訳：

アナス رضى الله عنه は言った：「**アッラーの使徒 ﷺ がクライザ族のもとへ出発されたとき、ガンム族の路地にもうもうと舞い上がった砂ぼこり — すなわちジブリールの行軍の砂ぼこり — を、私は今も見ているかのようだ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー・ブン・イスマーイール ← ジャリール・ブン・ハーズィム ← フマイド・ブン・ヒラール ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ が部族連合から戻りクライザ族へ出発された章、ハディース第 4118 番；第 3214 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4118

アナスはジブリールを見たのではありませんが、マディーナのアンサールの集落の一つであるガンム族の路地に**もうもうと舞い上がる砂ぼこり**を見て、それがジブリールの行軍の砂ぼこりであると知りました。何十年も後になっても、かれは**今も見ているかのように**それを語りました。

スィーラの注：アッラーの使徒 ﷺ の出発

スィーラ書は、アッラーの使徒ﷺが旗を**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه に渡し、軍の先に送られたと述べています。使徒は**イブン・ウンミ・マクトゥーム** رضى الله عنه をマディーナの臨時の長に任命されました。出発したムスリム軍は約**三千**人、馬は**三十**頭と推定されています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；イブン・サアド『大伝記集（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

ジブリールと天使たちの存在は、クライザ族の出来事がハンダクの戦いの**続き**であることを示しています。部族連合に風を送られたアッラーは、かれらと結託した者に立ち向かうことも命じられたのです。

教訓：これらの出来事についての教友たちの記憶は、非常に**鮮明で詳細**です。このようなハディースは後から作られた話ではなく、自分の目で見た人々の証言なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族の地でのアスルの礼拝

出発の前に、アッラーの使徒 ﷺ は一見簡単な指示を与えられましたが、それは後に**意見の違いの法学**において最も有名なハディースの一つとなりました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4119 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدِ بْنِ أَسْمَاءَ، حَدَّثَنَا جُوَيْرِيَةُ بْنُ أَسْمَاءَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الأَحْزَابِ لاَ يُصَلِّيَنَّ أَحَدٌ الْعَصْرَ إِلاَّ فِي بَنِي قُرَيْظَةَ. فَأَدْرَكَ بَعْضُهُمُ الْعَصْرَ فِي الطَّرِيقِ، فَقَالَ بَعْضُهُمْ لاَ نُصَلِّي حَتَّى نَأْتِيَهَا. وَقَالَ بَعْضُهُمْ بَلْ نُصَلِّي، لَمْ يُرِدْ مِنَّا ذَلِكَ، فَذُكِرَ ذَلِكَ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَلَمْ يُعَنِّفْ وَاحِدًا مِنْهُمْ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った：預言者 ﷺ は部族連合の日に仰せられた。「**誰も、クライザ族の（集落）以外でアスルの礼拝をしてはならない。**」 かれらの一部は、道中でアスルの時間を迎えた。ある者たちは「そこに着くまで礼拝しない」と言った。別の者たちは「いや、礼拝する。使徒は私たちにそういう意味で言われたのではない」と言った。そのことが預言者 ﷺ に伝えられると、**使徒はかれらの誰をも咎められなかった。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド・ブン・アスマー ← ジュワイリーヤ・ブン・アスマー ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ が部族連合から戻りクライザ族へ出発された章、ハディース第 4119 番；第 946 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4119

教友たちは急いで出発しました。道中、アスルの時間が入り、終わりかけました。そこで疑問が生じました。使徒の指示は、時間が過ぎても着くまで**まったく礼拝す**

るなという意味なのか。それとも、向こうで礼拝できるよう**急ぎなさい**という意味なのか。

集団	理解の仕方
第一のグループ	言葉の表面に従った：時間が過ぎても、クライザ族の地でのみ礼拝する
第二のグループ	指示の意図を理解した：急ぐこと；だから道中、時間内に礼拝する
アッラーの使徒 ﷺ	どちらのグループも咎められなかった

両グループとも**従う意図**を持っていました。第一のグループは指示の**言葉**を優先し、第二のグループは指示の**意図**を優先しました。そして、ご自身の言葉の意味を最もよく理解しておられたアッラーの使徒 ﷺ は、誰をも**責められませんでした**。

教訓：証拠と解釈の余地があるイジュティハードの問題では、意見の違いは**敵意の原因となってはなりません**。両者ともに善の中にいることができるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アスルかズフルか？ 意見の違いの作法

興味深いことに、イマーム・ムスリムはほぼ同じ伝承経路で同じハディースを伝えていますが、一つの違いがあります。言及されている礼拝が、アスルではなく**ズフル**なのです。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1770 番

وَحَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدِ بْنِ أَسْمَاءَ الضُّبَعِيُّ، حَدَّثَنَا جُوَيْرِيَةُ بْنُ أَسْمَاءَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ، قَالَ نَادَى فِينَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ انْصَرَفَ عَنِ الأَحْزَابِ أَنْ لاَ يُصَلِّيَنَّ أَحَدٌ الظُّهْرَ إِلاَّ فِي بَنِي قُرَيْظَةَ. فَتَخَوَّفَ نَاسٌ فَوْتَ الْوَقْتِ فَصَلُّوا دُونَ بَنِي قُرَيْظَةَ. وَقَالَ آخَرُونَ لاَ نُصَلِّي إِلاَّ حَيْثُ أَمَرَنَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَإِنْ فَاتَنَا الْوَقْتُ قَالَ فَمَا عَنَّفَ وَاحِدًا مِنَ الْفَرِيقَيْنِ.

訳：

アブドゥッラー（・ブン・ウマル）رضى الله عنهما は言った：アッラーの使徒 ﷺ は、部族連合から戻られた日に私たちに呼びかけられた。「**誰も、クライザ族の（集落）以外でズフルの礼拝をしてはならない。**」すると一部の人々は時間が過ぎるのを恐れ、クライザ族の地に着く前に礼拝した。他の人々は「時間が過ぎても、アッラーの使徒 ﷺ が命じられた場所以外では礼拝しない」と言った。**使徒は両グループの誰をも咎められなかった。**

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド・ブン・アスマー・アッ＝ドゥバイー ← ジュワイリーヤ・ブン・アスマー ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、戦いへ急ぎ、より重要なことを優先する章、ハディース第 1770 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1770

これは矛盾しているのでしょうか。『ファトフ・アル＝バーリー』の**イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー**のようなハディース学者は、これを丁寧に論じ、いくつかの妥当な説明を示しています：

説明	解説（『ファトフ・アル＝バーリー』）
二つの異なるグループ	まだズフルを礼拝していない者には「ズフル」と、すでに礼拝した者には「アスル」と告げられた
二つの出発時刻	ある者は早く、ある者は後から出発した
伝承者の違い	伝承者の一人が礼拝の名を言い間違えた
より有力な説	多くの学者は「アスル」の伝承（ブハーリー）を有力とする

このような小さな違いは、実は物語の真正さを**強める**ものです。ハディース学者はそれを隠さず、両方を正直に伝え、その上で解説しました。出来事の核心 — クライザ族のもとへ急げという命令と、使徒がどちらも咎められなかったこと — は**変わりません。**

意見の違いの作法

イマーム・アン＝ナワウィーは、このハディースを、真理に到達しようと懸命に努力した**イジュティハードを行う者は咎められない**ことの証拠として挙げています。それは法学派における意見の違いの作法の基礎となりました。**私たちは分裂することなく意見を異にすることができる**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

砦の包囲

ムスリム軍はクライザ族の集落に到着し、かれらの砦を包囲しました。クライザ族は堅固な石壁の陰に身を守り、長期間に十分な食料と水を蓄えていました。

スィーラの注：包囲の期間

イブン・イスハークは、包囲は**二十五夜**続いたと述べています。別の伝承では十五夜、または約一か月とされます。その間、矢の射ち合いはありましたが、大きな戦闘はありませんでした。

イブン・イスハークはまた、**フヤイ・ブン・アフタブ**がカアブへの約束を守り、部族連合が撤退した後にクライザ族の砦に入り、かれらと共に包囲されたと伝えています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Invasion of Banu Qurayza」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Invasion_of_Banu_Qurayza

クルアーンは、砦の中のかれらの様子をこう描いています。**「またかれは、かれら（連合軍）を後援した啓典の民を、それらの砦から追い、その心中に恐怖を投じられた……」**部族連合章 33:26（イブン・カスィール注釈）。

かれらの砦は堅固で、蓄えは十分でした — しかし**かれらの心は恐怖に満ちていました**。イブン・カスィールは、アッラーがかれらの心に恐れを投げ込まれたため、外見上は可能であっても、かれらは持ちこたえることができなかったと説明しています。

要因	クライザ族の状況
砦	堅固で、石造り
蓄え	長期間に十分（スィーラ書）
同盟者	部族連合はすでに帰った；助けは来ない
心	「恐怖が満たされた」（33:26）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓：真の強さは**壁と蓄え**にあるのではなく、心にあります。頼りにしていた同盟者が去り、心が恐怖で満たされたとき、最も堅固な砦も意味をなさないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアブ・ブン・アサドの三つの提案

包囲が長引き、望みが薄れていくと、クライザ族の長カアブ・ブン・アサドは部族を集めて協議しました。この出来事は『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』にはありませんが、イブン・イスハークが伝えており、スィーラ書では有名です。

スィーラの注：砦の中の協議

イブン・イスハークによれば、カアブは部族にこう言いました。「私はあなた方に**三つの選択肢**を示す。望むものを取りなさい。」

第一：「この人に従い、かれを信じよう。アッラーにかけて、かれが**遣わされた預言者**であり、あなた方が自分たちの啓典の中に（その特徴を）見いだしている者であることは、あなた方にとって明らかだ。」 かれらは答えました。「私たちは決してトーラーの律法を捨てない。」

第二： 外に出て死ぬまで戦うこと。**第三：** ユダヤ教徒は戦わないとムスリムが思っている安息日の前夜に、ムスリムを襲うこと。この二つの選択肢も拒まれました。するとカアブは言いました。「あなた方の誰一人として、生まれてこのかた、たった一晩でも**決断した**ことがない。」

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— クライザ族の章。

この伝承は、クルアーンが繰り返し述べていることを描いています。啓典の民の一部は**真実を知っていた**のです — アッラーの使徒 ﷺ について、「自分の子どもを知るように」（雌牛章 2:146）。それにもかかわらず、従うことを拒んだのです。

教訓：**真理を知ることは、それを受け入れることと同じではありません。**自我、部族への執着、地位を失う恐れは、証拠が目の前にあっても、人を導きから遠ざけることがあります。真理に従う心を授けてくださるよう、アッラーに祈りましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・ルバーバと悔悟の柱

クライザ族の出来事の中で最も心を打つ話の一つは、アウス族出身のアンサールの教友、**アブー・ルバーバ・ブン・アブドゥルムンズィル** رضي الله عنه の話です。この話はイブン・イスハークが伝え、クルアーン注釈書にも述べられています。

スィーラの注：悔やまれた身ぶり

イブン・イスハークによれば、クライザ族は、昔からの同盟者であるアブー・ルバーバを交渉のために遣わしてほしいとアッラーの使徒 ﷺ に頼みました。かれが入って行くと、男たちは立ち上がって迎え、女性と子どもたちはかれの前で泣きました。かれらは尋ねました。「アブー・ルバーバよ、私たちはムハンマドの裁定に従って降伏すべきだと思うか。」 かれは「そうだ」と答えながら — **手で自分の首を指し示しました**。つまり、殺されるということです。

アブー・ルバーバは言いました。「アッラーにかけて、私の足がその場を離れないうちに、私は自分が**アッラーとその使徒を裏切った**と悟った。」 かれはアッラーの使徒 ﷺ のもとへ戻らず、まっすぐモスクへ行き、**一本の柱に自分を縛りつけ**、アッラーが悔悟を受け入れてくださるまでそこを離れないと誓いました。

その知らせがアッラーの使徒 ﷺ に届くと、使徒は仰せられました。「もしかれが私のところに来ていたなら、私はかれのために赦しを請うたであろう。だが、かれがそうした以上、アッラーがかれの悔悟を受け入れられるまで、私はかれを解かない。」 数日後、かれの悔悟は受け入れられ、**アッラーの使徒 ﷺ ご自身がかれの縄を解かれました**。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・カスィール注釈（戦利品章 8:27）。
https://tafsir.app/ibn-katheer/8/27

一部の注釈学者は、次の節がアブー・ルバーバに関して啓示されたと述べています。

「あなたがた信仰する者よ、アッラーとその使徒を裏切ってはならない。また故意

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

に、あなたがたへの信頼を裏切ってはならない。」戦利品章 8:27（イブン・カスィール注釈）。

イブン・カスィールはこの説を、この節は一般的なものだという別の説と並べて伝えています。啓示の契機についての伝承は**サヒーフの等級に達していない**ため、注釈学者の説の一つとして挙げられています。今日、この話に結びつけられている預言者モスクの柱は、**ウスチュワーナ・アッ＝タウバ**（悔悟の柱）、またはアブー・ルバーバの柱として知られています。

教訓：誠実な信仰者の過ちには、**すぐさまの、心からの後悔**が続きます。アブー・ルバーバは言い訳を探さず、自分の過ちを認め、それをまっすぐアッラーのもとへ持って行きました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イスラームを選んだ人々

クライザ族の全員が裏切りに加担したわけではありません。真正なハディースは、かれらの中に**別の道を選んだ**人々がいたことを記録しています。アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は、マディーナのユダヤ教徒の部族の運命をこう要約しています：

「ナディール族とクライザ族は（預言者 ﷺ と）戦った。そこで使徒はナディール族を追放し、クライザ族はとどまらせて善く遇された。やがてクライザ族が使徒と戦うまでは……ただし、かれらの一部は預言者 ﷺ のもとに来たので、使徒はかれらに安全を与え、かれらはイスラームに入った。」（『サヒーフ・ブハーリー』4028；『サヒーフ・ムスリム』1766）。

「**クライザ族はとどまらせて善く遇された**」という言葉に注目してください。ナディール族が追放された後（第 11 巻）、クライザ族は手出しされませんでした。かれらは自分たちの土地に平和に住み続けました — ハンダクのときに、かれら自身が盟約を破るまでは。

スィーラの注：名前が挙げられた人々

イブン・イスハークは、三人の若者 — **サアラバ・ブン・サアヤ**、**ウサイド・ブン・サアヤ**、**アサド・ブン・ウバイド** — が、クライザ族が降伏する前夜にイスラームに入ったと述べています。かれらは家族や財産と共に救われました。

イブン・イスハークはまた、裏切りに加わることを拒んだクライザ族の男**アムル・ブン・スウダー**についても述べています。かれは「私は決してムハンマドを裏切らない」と言いました。かれは夜に砦を出て行き、どこへ行ったのかは知られていません。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）。

教訓：**イスラームと安全の門は、最後の瞬間まで常に開かれています。**後に下された罰は、かれらがユダヤ教徒であったからではありません。その証拠に、イスラームを選んだ者や裏切りに加わらなかった者は救われたのです。

「あなた方の長のために立ちなさい」

ついにクライザ族は砦から降り、**裁定に従って降伏しました** — アッラーの使徒 ﷺ の裁定です。クライザ族の昔からの同盟者であるアウス族がやって来て、ハズラジュ族の同盟者カイヌカーウ族に寛大であったように、かれらにも寛大であってほしいと願いました。

スィーラの注：かれらの同盟者の中からの裁定者

イブン・イスハークは、アッラーの使徒 ﷺ がアウス族に尋ねられたと伝えています。**「あなた方の中の一人がかれらを裁くなら、あなた方は満足するか。」** かれらは「はい」と答えました。使徒は仰せられました。「では、それは**サアド・ブン・ムアーズ**に委ねられる。」

サアドはアウス族の長その人 — ジャーヒリーヤ時代からのクライザ族の同盟者でした。クライザ族とアウス族は、かれが寛大であることを期待しました。また真正なハディースでは、**クライザ族自身**がサアドの裁定に従って降伏したと述べられています（『サヒーフ・ブハーリー』4121）。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『サヒーフ・ブハーリー』4121。https://sunnah.com/bukhari:4121

サアドはそのとき、ハンダクで受けた矢傷のためにモスクの天幕で横になっていました。かれはロバに乗せられて運ばれました。アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه が、起きたことを語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4121 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ سَعْدٍ، قَالَ سَمِعْتُ أَبَا أُمَامَةَ، قَالَ سَمِعْتُ أَبَا سَعِيدٍ الْخُدْرِيَّ ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ نَزَلَ أَهْلُ قُرَيْظَةَ عَلَى حُكْمِ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ، فَأَرْسَلَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِلَى سَعْدٍ، فَأَتَى عَلَى حِمَارٍ، فَلَمَّا دَنَا مِنَ الْمَسْجِدِ

قَالَ لِلأَنْصَارِ قُومُوا إِلَى سَيِّدِكُمْ ـ أَوْ ـ خَيْرِكُمْ. فَقَالَ هَؤُلاَءِ نَزَلُوا عَلَى حُكْمِكَ. فَقَالَ تَقْتُلُ مُقَاتِلَتَهُمْ وَتَسْبِي ذَرَارِيَّهُمْ. قَالَ قَضَيْتَ بِحُكْمِ اللَّهِ. وَرُبَّمَا قَالَ بِحُكْمِ الْمَلِكِ.

訳：

アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه は言った：**クライザの人々は、サアド・ブン・ムアーズの裁定に従って（砦から）降りて来た。そこで預言者 ﷺ はサアドのもとへ人を遣わされ、かれはロバに乗って来た。かれが（そこにあった礼拝所の）モスクに近づくと、使徒はアンサールに仰せられた。「あなた方の長のために立ちなさい」— または「あなた方の中の最も優れた者のために」。** 使徒は仰せられた。「この人々は、あなたの裁定に従って降りて来た。」 サアドは言った。「かれらのうち戦う者は殺され、かれらの子どもは捕虜とされる。」 使徒は仰せられた。**「あなたはアッラーの裁きによって裁いた。」** また時には、こう仰せられた。**「王（アッラー）の裁きによって。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← グンダル ← シュウバ ← サアド・ブン・イブラーヒーム ← アブー・ウマーマ・ブン・サフル ← アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ が部族連合から戻りクライザ族へ出発された章、ハディース第 4121 番；第 3043 番、第 6262 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1768 番。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4121

「あなた方の長のために立ちなさい」という使徒の言葉は、サアドへの敬意を示しています。アーイシャからの『**ムスナド・アフマド**』の伝承では、**「.....そしてかれを（ロバから）降ろしなさい」**と付け加えられています。サアドが負傷していたからです。学者たちはこれを、尊敬される人を**助け、迎える**ために立つことは良いことだという証拠としています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：447 / 567

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は、その権利がおありになったにもかかわらず、**自ら裁かれませんでした**。当事者が受け入れる裁定者に裁定を委ねられたのです — 公正な**仲裁**（タハキーム）の原則です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イスラームにおける仲裁（タハキーム）

双方が合意した裁定者に判断を委ねることは、**タハキーム**として知られています。クルアーンはそれを勧めており、たとえば夫婦の争いについて「夫の家族から一人、妻の家族から一人の調停者を立てなさい」（婦人章 4:35）とあります。またアッラーは、人々の間を裁くときは**公正に裁く**よう仰せられています（婦人章 4:58）。

クライザ族の出来事において、この原則は最も緊迫した状況 — 裏切りと包囲の後 — で実行されました。アッラーの使徒 ﷺ は**近道を取られず**、かれら自身の同盟者が受け入れる裁定者に判断を委ねられました。教訓：争いにおいては**公正な第三者**を求め、その判断を受け入れなさい。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サアド・ブン・ムアーズの裁定

道中、アウス族はサアドを取り囲んで説得しました。スィーラ書は、かれらが「アブー・アムルよ、あなたの同盟者たちに善くしてやってください」と言ったと述べています。サアドは有名な言葉で答えました。**「サアドにとって、アッラーのことにおいて誰の非難にも左右されない時が来たのだ。」**

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は、裁定の前後にサアドに起きたことを、非常に重要な一つの詳細と共に伝えています：

ハディース — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 1582 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ أَبِي الزُّبَيْرِ، عَنْ جَابِرٍ، أَنَّهُ قَالَ رُمِيَ يَوْمَ الأَحْزَابِ سَعْدُ بْنُ مُعَاذٍ فَقَطَعُوا أَكْحَلَهُ أَوْ أَبْجَلَهُ فَحَسَمَهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِالنَّارِ فَانْتَفَخَتْ يَدُهُ فَتَرَكَهُ فَنَزَفَهُ الدَّمُ فَحَسَمَهُ أُخْرَى فَانْتَفَخَتْ يَدُهُ فَلَمَّا رَأَى ذَلِكَ قَالَ اللَّهُمَّ لاَ تُخْرِجْ نَفْسِي حَتَّى تُقِرَّ عَيْنِي مِنْ بَنِي قُرَيْظَةَ. فَاسْتَمْسَكَ عِرْقُهُ فَمَا قَطَرَ قَطْرَةً حَتَّى نَزَلُوا عَلَى حُكْمِ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ فَأَرْسَلَ إِلَيْهِ فَحَكَمَ أَنْ يُقْتَلَ رِجَالُهُمْ وَيُسْتَحْيَى نِسَاؤُهُمْ يَسْتَعِينُ بِهِنَّ الْمُسْلِمُونَ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَصَبْتَ حُكْمَ اللَّهِ فِيهِمْ. وَكَانُوا أَرْبَعَمِائَةٍ فَلَمَّا فَرَغَ مِنْ قَتْلِهِمُ انْفَتَقَ عِرْقُهُ فَمَاتَ. قَالَ أَبُو عِيسَى هَذَا حَدِيثٌ حَسَنٌ صَحِيحٌ.

訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った：**サアド・ブン・ムアーズは部族連合の日に矢を受け、腕の静脈を断たれた。アッラーの使徒 ﷺ は火で焼いて（血を止め）られたが、手が腫れた。使徒がそのままにされると、また血が流れた。使徒はもう一度焼かれたが、手が腫れた。サアドはその様子を見て祈った。「アッラーよ、クライザ族のことで私の目を喜ばせてくださるまで、私の魂を取らないでください。」すると静脈は止まり、一滴も垂れなくなった。** やがてかれらはサアド・ブン・ムアーズの裁定に従って降伏した。使徒はかれのもとへ人を遣わし、かれは、かれらの男たちは殺され、女たちはムスリムに助けられるよう生かされると裁定した。アッラーの使徒 ﷺ は仰せられた。**「あなたはかれらについて、アッラーの裁きに適った。」** かれらは**四百人**であった。それが終わる

と、かれの静脈は再び開き、かれは亡くなった。アブー・イーサーは言った：このハディースはハサン・サヒーフである。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← アブー・アッ＝ズバイル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』遠征の書、裁定に従って降伏することについての章、ハディース第 1582 番。

等級： サヒーフ（真正）— イマーム・ティルミズィーはハサン・サヒーフとし、ダールッサラームとシャイフ・アル＝アルバーニーはサヒーフとしている。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:1582

なぜその裁定なのか

サアドの裁定は、**戦時の裏切り**に対する罰でした。クライザ族は単に助けを拒んだのではありません。ムスリムの女性と子どもがかれらのすぐ隣にいるときに、マディーナを**滅ぼす**ために来た一万の軍勢と結託したのです。もし部族連合が成功していたら、マディーナの住民全体が滅ぼされた可能性が高いのです。

項目	説明
裁定者を選んだのは誰か	クライザ族自身がサアドの裁定に従って降伏した（4121）
サアドとは誰か	アウス族の長、かれら自身の同盟者
どんな罪に対してか	国が包囲されているときの盟約の裏切り
誰に対してか	戦った男たちのみ（1584）、女性と子どもではない
アッラーの使徒 ﷺ	「あなたはアッラーの裁きに適った」

アッラーの使徒 ﷺ は、その裁定が**アッラーの裁きに適っている**と述べられました。サアド自身がかれらの昔からの同盟者だったのですから、それは個人的な復讐から生まれた裁定ではありません。教訓：裁定者は、人間関係や部族の圧力ではなく、**真実**に基づいて裁かなければなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

戦った者だけ

サアドの裁定は「**戦う者たち**」（アル＝ムカーティラ）と述べています。それはどのように実行されたのでしょうか。クライザ族出身で、後にイスラームに入った一人の証人がこう語っています：

ハディース — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 1584 番

حَدَّثَنَا هَنَّادٌ، حَدَّثَنَا وَكِيعٌ، عَنْ سُفْيَانَ، عَنْ عَبْدِ الْمَلِكِ بْنِ عُمَيْرٍ، عَنْ عَطِيَّةَ الْقُرَظِيِّ، قَالَ عُرِضْنَا عَلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ قُرَيْظَةَ فَكَانَ مَنْ أَنْبَتَ قُتِلَ وَمَنْ لَمْ يُنْبِتْ خُلِّيَ سَبِيلُهُ فَكُنْتُ مِمَّنْ لَمْ يُنْبِتْ فَخُلِّيَ سَبِيلِي. قَالَ أَبُو عِيسَى هَذَا حَدِيثٌ حَسَنٌ صَحِيحٌ.

訳：

アティーヤ・アル＝クラズィー رضى الله عنه は言った：「**私たちはクライザの日に預言者 ﷺ の前に連れて来られた。（成人のしるしの）毛が生えていた者は殺され、生えていなかった者は放された。私は生えていなかった者の一人で、放された。**」アブー・イーサー（ティルミズィー）は言った：このハディースはハサン・サヒーフである。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ハンナード・ブン・アッ＝サリー ← ワキーウ・ブン・アル＝ジャッラーフ ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← アブドゥルマリク・ブン・ウマイル ← アティーヤ・アル＝クラズィー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』遠征の書、裁定に従って降伏することについての章、ハディース第 1584 番；『スナン・アビー・ダーウード』第 4404 番、『スナン・アン＝ナサーイー』第 3430 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— イマーム・ティルミズィーはハサン・サヒーフとし、ダールッサラームとシャイフ・アル＝アルバーニーはサヒーフとしている。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:1584

アティーヤ・アル＝クラズィーは当時まだ子どもでした。成人していなかったため**放され**、後にイスラームに入り、ハディースを伝える教友となりました。かれの証言は、罰が戦うことのできる**成人男性に限られていた**ことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

これは、アッラーの使徒 ﷺ の厳格な禁止と一致しています。ある戦いで一人の女性が殺されているのが見つかったとき、**使徒は女性と子どもを殺すことを禁じられました**（『サヒーフ・ブハーリー』3015）。またアーイシャ رضي الله عنها からは、クライザ族の女性で殺されたのは、自ら人を殺した一人だけであったと伝えられています（『スナン・アビー・ダーウード』2671、ハサンと評価）。

集団	かれらの運命（典拠）
戦った成人男性	死刑（ブハーリー 4121、4122；ティルミズィー 1582）
男の子ども	放された（ティルミズィー 1584）
女性	殺されなかった。ただし、人を殺した一人を除く（アブー・ダーウード 2671）
イスラームに入った者	家族と財産と共に安全を与えられた（ブハーリー 4028）

教訓：重い罰の中にあっても、イスラームは戦闘員と非戦闘員を**区別します**。これがシャリーアにおける戦争法の基礎です — 現代の国際条約よりはるか以前のことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

軍の指揮官へのアッラーの使徒 ﷺ の訓示

戦闘員と非戦闘員を区別する原則は、孤立した出来事ではありません。ブライダ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ が部隊の長を任命されるとき、アッラーを畏れるよう諭してから、こう仰せられたと伝えています。「**アッラーの御名において、アッラーの道のために戦いなさい……戦利品を盗んではならない。約束を裏切ってはならない。遺体を損なってはならない。子どもを殺してはならない。**」（『サヒーフ・ムスリム』1731）。

この訓示の中の「**約束を裏切ってはならない**」という禁止に注目してください。ムスリム自身が、クライザ族が行ったことを固く禁じられているのです。裏切りを罰するのと同じシャリーアが、**ムスリムの手を縛り**、不正を行わないようにしています。

かれらの人数はどれほどか

罰せられたクライザ族の男たちは何人だったのでしょうか。この質問はしばしば提起されますが、その答えには**典拠を区別する**ことが必要です。

典拠	挙げられている人数
『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1582（ハサン・サヒーフ、ジャービルより）	四百人
イブン・イスハーク（イブン・ヒシャームの『預言者伝』）	六百人から七百人
他のスィーラの伝承の一部	最大で八百人または九百人
『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』	人数を述べていない

サヒーフと評価される伝承の中で唯一の人数は、ティルミズィーが伝えるジャービルのハディースにある**四百人**です。より大きな数はスィーラ書から来ており、その伝承経路は真正なハディースと同等ではありません。ムスリムと非ムスリムの一部の研究者も、それらの大きな数の正確さを論じています。

スィーラの注：研究者の議論

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニーは『ファトフ・アル＝バーリー』で、この人数についての異なる伝承を集めましたが、一つの数に確定していません。現代では、**W・N・アラファト**（1976 年）のような一部の著者がイブン・イスハークの伝承に疑問を呈し、他の人々はそれを擁護しています。

本書は、最も強い伝承が述べるもの以外、いずれの数にも肩入れしません。**確かな**ことは、罰が、戦時の裏切りのために、かれらが受け入れた裁定者によって、戦った男たちに下されたということです。

参照：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』；W・N・アラファト「New Light on the Story of Banu Qurayza and the Jews of Medina」JRAS（1976 年）。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Qurayza

教訓：ムスリムは**自らの歴史に誠実**です。人を怖がらせるために数を誇張する必要も、人を喜ばせるために出来事を否定する必要もありません。真正なものを伝え、その英知を説明するのです。

アッラーはかれらを砦から降ろされた

クルアーンは、アッラーが敵の軍勢をどのように追い払われたかを述べた後、部族連合の物語の終わりに、二つの短い節でこの出来事を記録しています：

「**……あなたがたは或る者を殺し、また或る者を捕虜とした。**」部族連合章 33:26（イブン・カスィール注釈）。

「**またかれは、かれら（啓典の民）の土地、住宅、財産またあなたがたの未踏の地を、あなたがたに継がせられた。アッラーは凡てのことに全能であられる。**」部族連合章 33:27（イブン・カスィール注釈）。

クルアーンの表現	解説（イブン・カスィール注釈）
「かれらを助けた者」	部族連合を支援したクライザ族
「かれらの砦から」	自分たちを守ってくれると思っていた石の要塞
「かれらの心に恐怖を投げ込まれた」	アッラーが投げ込まれた恐れ
「まだ足を踏み入れていない土地」	ハイバル、そして後に開かれた国々

この節が行為を**アッラー**に帰していることに注目してください。「かれは降ろされた……かれは投げ込まれた……かれは継がせられた。」ムスリムはアッラーの定めの道具にすぎません。そしてこの節は主な理由を名指ししています。かれらは攻めて来た敵を「**助けた**」のです。

イブン・カスィールは、「**まだ足を踏み入れていない土地**」とはハイバルを指すと説明し、一部の学者は後に開かれたペルシアとローマの国々も含めています — ハンダクで大きな岩を砕かれたときのアッラーの使徒ﷺの吉報（第 12 巻）と一致しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓：クルアーンはこの出来事を誇張することなく、**簡潔に、落ち着いて**語っています。それは裏切りの結末についての教訓であり、忍耐する者へのアッラーの約束についての教訓なのです。

アンサールのナツメヤシの返還

ヒジュラ以来、ムハージルーンはアンサールの寛大さに頼っていました。アンサールは家や果樹園、ナツメヤシの収穫を分かち合ったのです（第 8 巻）。ナディール族とクライザ族の出来事の後、この状況は変わりました。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه はこう語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4120 番

حَدَّثَنَا ابْنُ أَبِي الأَسْوَدِ، حَدَّثَنَا مُعْتَمِرٌ، وَحَدَّثَنِي خَلِيفَةُ، حَدَّثَنَا مُعْتَمِرٌ، قَالَ سَمِعْتُ أَبِي، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ كَانَ الرَّجُلُ يَجْعَلُ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم النَّخَلاَتِ حَتَّى افْتَتَحَ قُرَيْظَةَ وَالنَّضِيرَ، وَإِنَّ أَهْلِي أَمَرُونِي أَنْ آتِيَ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَأَسْأَلَهُ الَّذِينَ كَانُوا أَعْطَوْهُ أَوْ بَعْضَهُ. وَكَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم قَدْ أَعْطَاهُ أُمَّ أَيْمَنَ، فَجَاءَتْ أُمُّ أَيْمَنَ فَجَعَلَتِ الثَّوْبَ فِي عُنُقِي تَقُولُ كَلاَّ وَالَّذِي لاَ إِلَهَ إِلاَّ هُوَ لاَ يُعْطِيكَهُمْ وَقَدْ أَعْطَانِيهَا، أَوْ كَمَا قَالَتْ، وَالنَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ لَكِ كَذَا. وَتَقُولُ كَلاَّ وَاللَّهِ. حَتَّى أَعْطَاهَا، حَسِبْتُ أَنَّهُ قَالَ عَشَرَةَ أَمْثَالِهِ. أَوْ كَمَا قَالَ.

訳：

アナス رضى الله عنه は言った：**かつて（アンサールの）人は、預言者 ﷺ に何本かのナツメヤシの木を差し上げていた。使徒がクライザとナディールを開かれる（そしてそれを返される）までは。** 私の家族は、自分たちが差し上げたもの、またはその一部を（返してもらうよう）頼みに、私を預言者 ﷺ のもとへ行かせた。預言者 ﷺ はそれをウンム・アイマンに与えておられた。するとウンム・アイマンが来て、私の首に布をかけて言った。「いいえ！ かれのほかに神のないアッラーにかけて、使徒はそれをあなたに与えたりなさいません。私に与えてくださったのですから。」 預言者 ﷺ は仰せられた。「あなたにはこれこれを与えよう。」 彼女はなお「いいえ、アッラーにかけて」と言った。**ついに使徒は彼女に — 確か使徒はこう仰せられたと思うが — 十倍を与えられた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イブン・アビー・アル＝アスワド ← ムウタミル；またハリーファ・ブン・ハイヤート ← ムウタミル ← 父スライマーン・アッ＝タイミー ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ が部族連合から戻りクライザ族へ出発された章、ハディース第 4120 番；第 2630 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1771 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4120

このハディースには二つの話が含まれています。第一に、ナディール族とクライザ族の財産が分配されると、ムハージルーンはもはやアンサールに頼らなくなったので、アッラーの使徒 ﷺ はアンサールが差し出していた**ナツメヤシの木を持ち主に返されました。**第二に、**ウンム・アイマン** رضي الله عنها が受け取った贈り物を返すのを拒んだ話です。

スィーラの注：ウンム・アイマンとは？

ウンム・アイマン（バラカ） رضي الله عنها は、使徒の母アーミナが亡くなった後、幼い頃からアッラーの使徒 ﷺ を育てた人です。使徒は彼女を敬い、「**わが母の後のわが母**」と呼ばれたこともあります（スィーラ書）。彼女はウサーマ・ブン・ザイド رضي الله عنهما の母です。

使徒が彼女の拒否にどれほど**やさしく**接されたかを見てください。使徒は彼女を叱らず、彼女が満足するまで — およそ**十倍**になるまで — 埋め合わせを増やされました。アンサールの権利は返され、ウンム・アイマンの心は守られたのです。

参照：

Wikipedia「Umm Ayman (Baraka)」；『サヒーフ・ムスリム』1771。
https://en.wikipedia.org/wiki/Umm_Ayman_(Baraka)

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓：**苦しいときに貸された贈り物は、豊かなときに返されるべきです。**そして人の権利を返すときにも、英知と寛大さをもって、すべての人の気持ちを大切にするのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「ジブリールがあなたと共にいる」

戦いは剣と矢だけで行われるのではありません。当時、**詩**は非常に影響力のあるメディアでした。中傷の詩はアラビア半島全体に広まり、ある部族の名誉を崩すことができました。多神教徒たちは自分たちの詩人を使ってアッラーの使徒 ﷺ をののしりました。

アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضي الله عنه は、預言者 ﷺ がハッサーン・ブン・サービト رضي الله عنه にこう仰せられたと伝えています。**「かれらの中傷に応えなさい。ジブリールがあなたと共にいる。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4123）。続く伝承では、この言葉が**クライザの日に**語られたと述べられています（『サヒーフ・ブハーリー』4124）。

イマーム・ムスリムの伝承では、アッラーの使徒 ﷺ はイスラームを守る詩について仰せられました。**「それはかれらにとって、矢の雨よりも痛い」**（『サヒーフ・ムスリム』2490）。

項目	教訓
ハッサーン・ブン・サービト	芸術と言葉の才能が真理を守るために用いられた
「ジブリールがあなたと共にいる」	アッラーは、言葉でかれの宗教を守る者を助けられる
クライザの日に	情報の戦いは戦場の出来事と並行して進んだ
今日のメディア	文章、動画、SNS は私たちの時代の「詩」である

教訓：**真実で美しい言葉**で真理を守ることは、ジハードの一部です。しかしそれは真実に基づかなければなりません — 中傷でも、嘘でも、限度を超えたののしりでもなく。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サアドの祈りと逝去

第 5 章で示したアーイシャ رضى الله عنها のハディースに戻りましょう。裁定が実行された後、サアドは驚くべき祈りをささげました。クライシュ族との戦いがまだ残っているなら**自分を生かしてください**、戦いが終わったのなら**その傷によって自分を死なせてください**、と。

アッラーはかれの祈りに応えられました。血が止まっていた腕の静脈の傷が突然**再び噴き出し**、血は近くのギファール族の天幕にまで流れました。サアドはハンダクで受けた傷によって殉教者として亡くなりました。そしてかれの思ったとおり、ハンダクの後、**クライシュ族が再びマディーナを攻めることはありませんでした**。

スィーラの注：ルファイダと治療の天幕

イブン・イスハークは、サアドが預言者モスクの中にある**ルファイダ・アル＝アスラミーヤ**の天幕で手当てを受けたと伝えています。ルファイダは、負傷者や病人を誠実に看護した女性でした。多くの著者は彼女を**イスラーム史上最初の看護師の一人**と呼び、今日いくつかのイスラーム諸国では、彼女の名が看護の賞に冠されています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Rufaida Al-Aslamia」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Rufaida_Al-Aslamia

医学の注：アクハルの静脈と焼灼

ハディースは、サアドが**アル＝アクハル**、すなわち腕の中ほどの静脈を射られたと述べています。アラビア語の言語学者と医学者は、これを肘の内側の静脈 — 今日採血に使われる**肘正中皮静脈**（median cubital vein）とほぼ同じもの — と特定しています（Wikipedia「Median cubital vein」）。このような静脈の傷は、大量の、繰り返す出血を起こすことがあります。

アッラーの使徒 ﷺ はその傷を熱した鉄で**焼灼**されました（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1582；『サヒーフ・ムスリム』2208）。焼灼は熱によって出血を止め

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

る方法で、その原理は今も**電気メス（電気焼灼）**として現代の外科で使われています（Wikipedia「Cauterization」）。それでも使徒は、**「私は焼灼による治療を好まない」**（『サヒーフ・ブハーリー』5683）と仰せられました — つまり、必要なときにだけ用いられたのです。

教訓：サアドは自分のために長寿を求めたのではなく、**アッラーの道のために戦うために**それを求めました。かれの人生は、果たした信託によって測られたのです。

慈悲深き御方の玉座が揺れた

サアド・ブン・ムアーズの死は、普通の出来事ではありませんでした。アッラーの使徒 ﷺ は、他のどの教友についても述べられなかったことを告げられました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3803 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا فَضْلُ بْنُ مُسَاوِرٍ، خَتَنُ أَبِي عَوَانَةَ حَدَّثَنَا أَبُو عَوَانَةَ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ أَبِي سُفْيَانَ، عَنْ جَابِرٍ ـ رضى الله عنه ـ سَمِعْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ اهْتَزَّ الْعَرْشُ لِمَوْتِ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ. وَعَنِ الأَعْمَشِ حَدَّثَنَا أَبُو صَالِحٍ عَنْ جَابِرٍ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مِثْلَهُ. فَقَالَ رَجُلٌ لِجَابِرٍ فَإِنَّ الْبَرَاءَ يَقُولُ اهْتَزَّ السَّرِيرُ. فَقَالَ إِنَّهُ كَانَ بَيْنَ هَذَيْنِ الْحَيَّيْنِ ضَغَائِنُ، سَمِعْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ اهْتَزَّ عَرْشُ الرَّحْمَنِ لِمَوْتِ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ.

訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った：私は預言者 ﷺ がこう仰せられるのを聞いた。「**サアド・ブン・ムアーズの死によって玉座が揺れた。**」ある男がジャービルに言った。「アル＝バラーウは『揺れたのは棺台（アッ＝サリール）だ』と言っている。」ジャービルは答えた。「かつてこの二つの部族（アウス族とハズラジュ族）の間には確執があった。私は預言者 ﷺ がこう仰せられるのを聞いたのだ。**『サアド・ブン・ムアーズの死によって、慈悲深き御方の玉座が揺れた。』**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝ムサンナー ← ファドル・ブン・ムサーウィル ← アブー・アワーナ ← アル＝アアマシュ ← アブー・スフヤーン（タルハ・ブン・ナーフィウ） ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما；また、アル＝アアマシュ ← アブー・サーリフ ← ジャービル。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アンサールの美徳の書、サアド・ブン・ムアーズの美徳の章、ハディース第 3803 番；『サヒーフ・ムスリム』第 2466 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3803

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジャービルの毅然とした態度に注目してください。アル＝バラーウ（アウス族）が、揺れたのは**棺台**だと言ったと聞かされたとき、ジャービル（サアドとは別のハズラジュ族）はその解釈を退け、使徒の言葉をはっきりと述べました。**慈悲深き御方の玉座**です。かれは部族意識が伝承に影響することを許しませんでした。これが、ハディースを伝える教友たちの誠実さです。

イマーム・アン＝ナワウィーは、多くの学者が選んだ見解を挙げています。玉座は、サアドの魂の到来を**喜んで**本当に揺れたのです。これは目に見えない世界のことであるため、私たちは「どのように」と問うことなくそれを信じます。

スィーラの注：天使たちが担った遺体

アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は言いました。サアドの遺体が担がれたとき、偽信者たちは「なんと軽い遺体だろう！」と言った — クライザ族に対するかれの裁定を当てこすったのである。それが預言者 ﷺ に伝わると、使徒は仰せられた。**「まことに、それを担っていたのは天使たちである。」**（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3849、ハサン・サヒーフ）。

アン＝ナサーイーの伝承では、使徒はこう仰せられました。「これは、玉座がかれのために動き、天の門がかれのために開かれ、**七万の天使**が立ち会った者である。かれは（墓に）一度締めつけられ、それから広げられた。」（『スナン・アン＝ナサーイー』2055、アルバーニーはサヒーフとする）。サアドでさえ墓の締めつけを経験したのなら、私たちはなおさら備えなければなりません。

参照：

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3849；『スナン・アン＝ナサーイー』2055。
https://sunnah.com/nasai:2055

教訓：アッラーのもとでの地位は、**寿命の長さ**や**財産の多さ**で測られるのではありません。サアドは若くして亡くなりましたが、天と玉座がかれを迎えました。そして偽信者たちの非難は、かれの栄誉を少しも損なわなかったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

天国のサアドのハンカチ

アッラーの使徒 ﷺ はまた、美しく分かりやすいたとえで、天国におけるサアドの地位を描かれました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3802 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، قَالَ سَمِعْتُ الْبَرَاءَ ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ أُهْدِيَتْ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم حُلَّةُ حَرِيرٍ، فَجَعَلَ أَصْحَابُهُ يَمَسُّونَهَا وَيَعْجَبُونَ مِنْ لِينِهَا فَقَالَ أَتَعْجَبُونَ مِنْ لِينِ هَذِهِ لَمَنَادِيلُ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ خَيْرٌ مِنْهَا. أَوْ أَلْيَنُ. رَوَاهُ قَتَادَةُ وَالزُّهْرِيُّ سَمِعَا أَنَسًا عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم.

訳：

アル＝バラーウ رضى الله عنه は言った：**絹の衣が預言者 ﷺ に贈られた。教友たちはそれに触れ、その柔らかさに驚いた。使徒は仰せられた。「あなた方はこの柔らかさに驚いているのか。まことに、（天国での）サアド・ブン・ムアーズのハンカチは、これよりも優れている」** — または「より柔らかい」。カターダとアッ＝ズフリーはこれを伝え、二人ともアナスから、アナスは預言者 ﷺ から聞いた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← グンダル ← シュウバ ← アブー・イスハーク ← アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه；また カターダ と アッ＝ズフリー ← アナス。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アンサールの美徳の書、サアド・ブン・ムアーズの美徳の章、ハディース第 3802 番；『サヒーフ・ムスリム』第 2468 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3802

教友たちは、当時最も高価な衣であった絹の柔らかさに驚きました。使徒はかれらの目を別のところへ向けられました。天国のサアドの**ハンカチ** — 手をふくための、最もつまらない品 — でさえ、この世の最上の絹より優れているのです。ましてや、かれの衣や宮殿はどれほどでしょうか！

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：468 / 567

出来事	サアド・ブン・ムアーズの生涯（要約）
イスラームに入る	ヒジュラの前、マディーナでのムスアブ・ブン・ウマイルの呼びかけによって（スィーラ書）
かれの部族	アブドゥル・アシュハル族全体が同じ日にイスラームに入った（スィーラ書）
バドルとウフド	戦場でアッラーの使徒 ﷺ と共に（第 9 巻・第 10 巻）
	腕の静脈に矢を受ける（ブハーリー 4122）
クライザ族	アッラーの裁きによって裁定する（ブハーリー 4121）
逝去	ヒジュラ暦 5 年ズル・カアダ月、約 37 歳で（スィーラ書）

サアドがイスラームに入ってから亡くなるまで、わずか約**六年**でした。しかしその短い間に、かれは部族全体をイスラームに導き、すべての戦場で戦い、公正な裁定者となりました。教訓：寿命の長さよりも**人生の祝福**が大切なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

敵に対しても公正に

クライザ族の物語は、時に誤用されます — イスラームを暴力の宗教だと非難するために、あるいは無知な者がある民族への憎しみを正当化するために。どちらも**誤り**です。クルアーンは明確な原則を定めています：

「ある民への憎しみによって、あなたがたが公正を欠くようなことがあってはならない。公正であれ。それは最も篤信に近い。」食卓章 5:8（イブン・カスィール注釈）。

イスラームはまた、裏切りが恐れられる相手に対してさえ、不意打ちの裏切りを禁じています。**「同じように（公然と）かれらとの盟約を投げ返しなさい。まことにアッラーは裏切る者を愛されない。」**戦利品章 8:58（イブン・カスィール注釈）。

原則	根拠
約束を守る	食卓章 5:1；夜の旅章 17:34
敵であっても裏切らない	戦利品章 8:58
嫌う相手にも公正である	食卓章 5:8
女性と子どもを殺さない	『サヒーフ・ブハーリー』3015
和平の約束を結んだ非ムスリムを守る	『サヒーフ・ブハーリー』3166
戦わない者に善を尽くす	試問される女章 60:8

アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。**「ムアーハド（和平の約束を結んだ非ムスリム）を殺す者は、天国の香りをかぐことがない」**（『サヒーフ・ブハーリー』3166）。これは、和平にある非ムスリムの命がシャリーアによって**守られている**ことを示しています。

クライザ族の出来事は、正当な統治者が、双方が受け入れた裁定者を通じて、戦時に戦い盟約を裏切った集団に下した**特定の裁定**です。それを今日、いかなる個人や民族を傷つける**口実にしてはなりません。**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの中で敬われたユダヤ教徒

預言者伝はまた、**敬われた**ユダヤ教徒たち — アッラーの使徒 ﷺ に敬われた人々 — も記録しています。その中には、使徒が到着されるとすぐにイスラームに入ったマディーナのユダヤ教の学者**アブドゥッラー・ブン・サラーム** رضي الله عنه がおり、使徒はかれが天国の民であると告げられました（『サヒーフ・ブハーリー』3812）。

イブン・イスハークはまた、裕福なユダヤ教の学者**ムハイリーク**についても述べています。かれはウフドの日に自分の部族に「ムハンマドを助けることがあなた方の義務であると、あなた方は知っている」と言いました。かれはムスリムと共に戦いに出て戦死し、自分の財産をアッラーの使徒 ﷺ に渡すよう遺言していました。使徒はかれについて「**ムハイリークは最良のユダヤ教徒である**」と仰せられました（スィーラの伝承）。教訓：イスラームは人を、その民族ではなく**行いによって評価します**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族の物語の典拠

クライザ族の物語は、等級の異なる三種類の典拠を通じて私たちに伝わっています。本書は、読者が**何が確かか**と**何が有名か**を知ることができるよう、三つを区別しています：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族の物語の典拠

クルアーン（4）

- 砦から降ろされ、心に恐怖（33:26）
- 土地と財産を継がせた（33:27）
- 盟約を破る者（8:56–58）
- 敵に対しても公正であれ（5:8）

真正なハディース（9）

- ジブリール：「まだ武器を置いていない」
- ジブリールの行軍の砂ぼこり
- クライザ族の地でのアスル／ズフル
- 「あなた方の長のために立ちなさい」
- サアドの裁定：「アッラーの裁き」
- 成人のみ：アティーヤ・アル＝クラズィー
- イスラームに入った者は安全（4028）
- アンサールのナツメヤシの返還
- サアドの逝去；玉座が揺れる

スィーラ書（4）

- フヤイとカアブ・ブン・アサドの盟約破棄
- カアブ・ブン・アサドの三つの提案
- アブー・ルバーバとモスクの柱
- 600〜900人という数

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：本書におけるクライザ族の物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
砦から降ろされた；恐怖；殺害と捕虜；土地を継ぐ	クルアーン（部族連合章 33:26–27）— 確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	典拠と等級
ジブリール；砂ぼこり；アスルの礼拝；「あなた方の長のために立ちなさい」；サアドの裁定	『サヒーフ・ブハーリー』4118–4122 — サヒーフ
ズフルの礼拝（別の伝承）	『サヒーフ・ムスリム』1770 — サヒーフ
アティーヤ・アル＝クラズィー；400 人という数；天使が担った遺体	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1584、1582、3849 — ハサン・サヒーフ
玉座が揺れた；サアドのハンカチ	『サヒーフ・ブハーリー』3803、3802 — サヒーフ
殺された女性は一人だけ	『スナン・アビー・ダーウード』2671 — ハサン
フヤイとカアブ；三つの提案；アブー・ルバーバ；600〜900 人という数	スィーラ書（イブン・イスハーク）— 有名、伝承経路はさまざま

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：474 / 567

約束と裏切りについてのクルアーンの節

クライザ族の物語は、約束についての物語です。クルアーンは部族連合章 33:26–27（第 17 章）でかれらの結末を語る前に、盟約についての明確な原則をすでに定めていました。いつそれを守らなければならないか、そしてそれが破られたときに何が起こるか、です。

戦利品章 8:55–58

アッラーは仰せられます。「アッラーのみもとで最悪の生き物は、信じない不信心者である。あなたがかれらと盟約を結んでも、かれらはその度に盟約を破り、畏れることがない」（戦利品章 8:55–56）。

イブン・カスィールはこの節を一般的に、約束するたびにそれを破る者たちについてのものと説明しています。一部の注釈学者はこの節をクライザ族に関するものとしており、その中にはイブン・アッバースに帰せられる『タンウィール・アル＝ミクバース』があります（この書のイブン・アッバースへの帰属は、学者たちによって弱いとされています）。次の節は、このような者たちに対して戦いにおける断固たる態度を命じ（8:57）、第 58 節は重要な条件を定めています。裏切りが恐れられる場合は、不意に攻撃するのではなく、まず公然と盟約を破棄しなければならないのです（戦利品章 8:58）。

節	原則	この物語との関わり
食卓章 5:1	すべての盟約を果たしなさい	ムスリムはマディーナ憲章を守った（第 2 章）
夜の旅章 17:34	約束は問われる	各当事者は自らの約束に責任を負う
蜜蜂章 16:91–92	固めた誓いを破ってはならない	ハンダクのときに引き裂かれた盟約（第 3 章）
悔悟章 9:4	盟約を破らない者には約束を全うしなさい	忠実な部族は手出しされなかった

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

節	原則	この物語との関わり
戦利品章 8:72	和平の約束を結んだ民に対して誰かを助けてはならない	盟約は非ムスリムに対しても尊重される
戦利品章 8:58	盟約は公然と破棄し、裏切ってはならない	イスラームは盟約の相手への不意打ちを禁じる

ハディース：偽信者のしるし

アブドゥッラー・ブン・アムル رضى الله عنهما は、預言者 ﷺ がこう仰せられたと伝えています。「四つのことがある。そのすべてを持つ者は純然たる偽信者である……信託されれば裏切り、話せば嘘をつき、約束すれば破り（ガダル）、争えば度を越す。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』34。

ハディース：すべての裏切り者に旗がある

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう仰せられたと伝えています。「すべての裏切り者には、審判の日に一本の旗があり、それによってかれは見分けられる。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』3186；イブン・ウマルからも、『サヒーフ・ブハーリー』3187。

この二つのハディースは、ムスリム自身に向けられたものです。裏切りは他人にだけ当てはまる罪ではありません。それは最も嫌われる偽信者の性質であり、裏切り者は審判の日にすべての被造物の前でさらされるのです。

教訓

クルアーンは、ムスリムであれ非ムスリムであれ、誰との約束も守るよう求めています。相手が裏切っても、イスラームは裏切りで報いることを許しません。許されているのは、盟約を公然と公正に破棄することです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

三つの部族、三つの盟約、三つの結末

マディーナの三つの大きなユダヤ教徒の部族（第 1 章）は、マディーナ憲章に縛られていました。三つとも最終的にその盟約から離れましたが、状況は異なり、その結末も異なりました。この比較は、それぞれの判断が民族や宗教ではなく、行為に基づいて下されたことを理解する助けとなります。

項目	カイヌカー族	ナディール族	クライザ族
時期	バドルの後、ヒジュラ暦 2 年	ヒジュラ暦 4 年ラビー・アル＝アウワル月	ヒジュラ暦 5 年ズル・カアダ月
行為	敵意を表明し、市場でムスリム女性の尊厳を汚した（スィーラ書）	アッラーの使徒 ﷺ がかれらの壁の下に座っておられたとき、殺害を企てた（スィーラ書）	マディーナが包囲されているときに盟約を引き裂き、部族連合の側についた（第 3 章）
状況	平時	平時	戦時；マディーナが内側から脅かされた
その後	シャームへ追放、動産の持ち出しは許された（スィーラ書）	追放；一部はハイバルへ、一部はシャームへ；集合章が啓示された	サアド・ブン・ムアーズの裁定に従って降伏（第 13〜14 章）

ハディース：ナディール族とクライザ族の運命の違い

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った：ナディール族とクライザ族は（アッラーの使徒 ﷺ と）戦った。使徒はナディール族を追放し、クライザ族は（とどまらせて）善く遇された。やがてクライザ族のほうも使徒と戦うまでは。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』4028；『サヒーフ・ムスリム』1766。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：477 / 567

このハディースは重要です。ナディール族が追放されたとき、クライザ族は手出しされず、それどころか善く遇されました。かれらは他の部族の行為のために罰せられませんでした。かれら自身が最も危機的な時にムスリムと戦ったときになって初めて、かれらに対する措置が取られたのです。

罰の違いは、状況の違いとも関係しています。カイヌカーウ族とナディール族は平時に盟約を破り、追放されました。クライザ族は、マディーナ全体が一万の軍勢に包囲されているときにそれを破り、かれらの裏切りは前線の背後にいるムスリムの女性や子どもの殺害につながりかねませんでした（第 1 章）。また、かれら自身がサアドの裁定に従って降伏することを選んだのです（第 13 章）。

教訓

公正とは、それぞれの当事者をその行為によって評価することです。イスラームは、ある民を他の民の過ちのために罰することはなく、平時の裏切りと戦時の裏切りを同列に扱うこともありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族の出来事の人物

下の表は、本書で述べた主な人物とその役割をまとめたものです。読者が真正な伝承とスィーラ書の伝承を区別できるよう、各情報の典拠を示しています。

ムスリム側

人物	役割	典拠
サアド・ブン・ムアーズ رضی الله عنه	アウス族の長；選ばれた裁定者；ハンダクの傷により逝去	『サヒーフ・ブハーリー』4121、3803
アブー・ルバーバ رضی الله عنه	クライザ族の昔からの同盟者；身ぶりを誤り、悔悟した	スィーラ書（第 11 章）
サアド・ブン・ウバーダ رضی الله عنه	ハズラジュ族の長；裏切りの知らせを確かめる使者	スィーラ書（第 4 章）
アブドゥッラー・ブン・ラワーハ رضی الله عنه	同じく使者となった	スィーラ書
アリー・ブン・アビー・ターリブ رضی الله عنه	クライザ族への旗手	スィーラ書
ハッラード・ブン・スワイド رضی الله عنه	砦の上から落とされた石臼に当たり殉教	スィーラ書
サービト・ブン・カイス・ブン・シャンマース رضی الله عنه	かつて自分に善くしてくれたアッ＝ザビール・ブン・バーターの命乞いをした	スィーラ書
サルマー・ビント・カイス（ウンム・アル＝ムンズィル）رضی الله عنها	リファーア・ブン・サマウアルの命乞いをした	スィーラ書

クライザ族とその同盟者の側

人物	役割	典拠
カアブ・ブン・アサド	クライザ族の長；盟約の担い手；三つの提案をした	スィーラ書（第 3 章、第 10 章）
フヤイ・ブン・アフタブ	ナディール族の指導者；カアブを説得して盟約を裏切らせた	スィーラ書（第 3 章）
アムル・ブン・スウダー	裏切りへの加担を拒み、砦を出た	スィーラ書（第 12 章）
サアラバとウサイド・ブン・サアヤ；アサド・ブン・ウバイド	降伏の前夜にイスラームに入った	スィーラ書（第 12 章）
アティーヤ・アル＝クラズィー رضى الله عنه	放された子ども、後に教友となった	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1584
アッ＝ザビール・ブン・バーター	サービトの願いで命の保証を与えられたが、自分の部族と運命を共にすることを選んだ	スィーラ書
リファーア・ブン・サマウアル	ウンム・アル＝ムンズィルの願いで救われた；イスラームに入ったと言われる	スィーラ書
ライハーナ・ビント・ザイド	捕虜の一人；アッラーの使徒 ﷺ との結婚の位置づけについては見解が分かれる	スィーラ書（質問 9）

スィーラの注：サービト・ブン・カイスとアッ＝ザビール・ブン・バーター

イブン・イスハークは、アッ＝ザビール・ブン・バーターがジャーヒリーヤ時代にサービト・ブン・カイスを解放したことがあると伝えています。サービトは恩返しをしたいと思い、アッ＝ザビールを赦してくださるようアッラーの使徒 ﷺ に願い出て、その願いは家族と財産を含めて受け入れられました。しかしアッ＝ザビールは、自分の部族の指導者たちの運命を知ると、かれらなしで生きることを望みませんでした。

位置づけ：スィーラ書の伝承（イブン・ヒシャーム『預言者伝』クライザ族の章）；『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』にはない。

これらの話はスィーラ書からのものですが、とりなしと赦しの門が開かれていたことを示しています。教友たちは、かつて自分に善くしてくれた人のために願い出ることを許され、アッラーの使徒 ﷺ はその願いを受け入れられたのです。

教訓

重い出来事の陰には、さまざまな顔があります。裏切った者、裏切りを拒んだ者、イスラームを選んだ者、そして昔の敵の恩を忘れなかった教友。歴史は単なる数字ではなく、人間の選択の積み重ねなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族の子孫から生まれた学者

クライザ族の出来事は、かれらの子孫の物語を終わらせはしませんでした。その日に放された子どもたち（第 15 章）はマディーナの社会で成長し、その一部とその子どもたちは、尊敬される学問の担い手となりました。

アティーヤ・アル＝クラズィー رضي الله عنه

アティーヤ自身が、クライザの日に自分はまだ成人していない子どもの一人で、放されたと伝えています（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1584；第 15 章）。かれはその後イスラームに入り、アッラーの使徒 ﷺ の教友となりました。かれのハディースはスナン集に収録され、学者たちはそれを成人のしるしについての証拠としています。

ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィー

ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィーは、マディーナのタービウーン（教友の次の世代）の一人で、クルアーン注釈の学者として、また禁欲と敬虔さで知られていました。『ターリーフ・アル＝カビール』のブハーリーや『タフズィーブ・アッ＝タフズィーブ』のイブン・ハジャルのような伝承者の伝記の著者たちは、かれの父カアブが、その日に殺されなかったクライザ族の子どもの一人であったと述べています。かれの没年については、ヒジュラ暦 108 年頃から 120 年頃まで伝承が分かれています（sunnah.com、伝承者ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィー）。

ムハンマド・ブン・カアブの多くの解釈は、イマーム・アッ＝タバリーとイブン・カスィールの注釈書に引用されています。かつて盟約を裏切った部族の孫が、アッラーの書の意味をウンマに教える師となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

注：情報の位置づけ

アティーヤ・アル＝クラズィーの話は、ティルミズィーがハサン・サヒーフとしたハディースにあります。ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィーとその父についての情報は、『サヒーフ・ブハーリー』や『サヒーフ・ムスリム』ではなく、伝承者の伝記の書（リジャール）から取られています。

教訓

アッラーは死んだものから生きたものを出される。前の世代の過ちは、次の世代の導きの門を閉ざしません。イスラームは一人ひとりを自らの行いによって評価します。「重荷を負う者は、他人の重荷を負わない」（家畜章 6:164）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族の出来事の年表

下の表は、本書の出来事を順に並べたものです。日付はスィーラ書から取られており、いくつかの出来事の期間については伝承が分かれています。

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 1 年	マディーナ憲章がムスリムとユダヤ教徒の部族を結ぶ	スィーラ書（第 2 章）
ヒジュラ暦 4 年	ナディール族が追放される；クライザ族はとどまり、善く遇される	『サヒーフ・ブハーリー』4028
ヒジュラ暦 5 年シャウワール月	部族連合がマディーナを包囲；ハンダクの戦い	第 12 巻
包囲中	フヤイがカアブを説得；盟約が引き裂かれる	スィーラ書（第 3 章）
包囲中	サアド・ブン・ムアーズ、サアド・ブン・ウバーダらが知らせを確かめに遣わされる	スィーラ書（第 4 章）
包囲の終わり	アッラーの風と軍勢；部族連合が撤退	部族連合章 33:9、25
部族連合が撤退した日	ジブリールが来る：「あなたは武器を置かれたのか？」	『サヒーフ・ブハーリー』4122
同じ日	「誰も、クライザ族の地以外でアスルの礼拝をしてはならない」	『サヒーフ・ブハーリー』4119
ヒジュラ暦 5 年ズル・カアダ月	砦の包囲；イブン・イスハークによれば約 25 夜	スィーラ書（第 9 章）
包囲中	カアブの三つの提案；アブー・ルバーバの身ぶりと悔悟	スィーラ書（第 10〜11 章）
降伏の前夜	数人がイスラームに入る	スィーラ書（第 12 章）
降伏の日	サアドが裁定者として呼ばれる；「あなた方の長のために立ちなさい」	『サヒーフ・ブハーリー』4121

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
その後	裁定の執行；子どもと女性は殺されなかった	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1584
まもなく	サアドの傷が開く；かれの逝去；玉座が揺れる	『サヒーフ・ブハーリー』4122、3803

教訓

この年表は、クライザ族の出来事が突然の行動ではなかったことを示しています。それに先立って何年もの盟約があり、ナディール族の追放後の善い待遇があり、知らせの確認があり、そして合意された仲裁で終わりました。出来事の順序を理解することは、公正に評価する助けとなります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族についてのよくある質問

1. クライザ族は、ユダヤ教徒であったために罰せられたのですか？

いいえ。かれらはマディーナ憲章のもとで何年もマディーナで平和に暮らし、ナディール族が追放された後もとどまって善く遇されました（『サヒーフ・ブハーリー』4028；第 25 章）。措置が取られたのは、かれらが戦時に盟約を引き裂き、敵の側についたからです。生涯の終わりまで、アッラーの使徒 ﷺ はユダヤ教徒と取引を続けられました。使徒が亡くなられたとき、その鎧は大麦三十サーアと引き換えに一人のユダヤ教徒のもとに質入れされていました（『サヒーフ・ブハーリー』2916）。

2. 罰を下したのは誰ですか？

クライザ族自身が、かれらの昔からの同盟者であるアウス族の長サアド・ブン・ムアーズの裁定に従って砦から降りることに同意しました（『サヒーフ・ブハーリー』4121；第 13〜14 章）。その後、アッラーの使徒 ﷺ は、サアドがアッラーの裁きによって裁いたと仰せられました。

3. なぜナディール族のように単に追放されなかったのですか？

状況が異なっていたからです（第 25 章）。ナディール族は平時に盟約を破りましたが、クライザ族はマディーナが包囲され、ムスリムの女性と子どもの命が脅かされているときにそれを行いました。さらに、以前ナディール族と共に追放されたフヤイ・ブン・アフタブが戻って来て、マディーナを攻めるよう諸部族を扇動したことは、追放によって脅威が終わらなかったことを示しています。

4. 女性と子どもは殺されたのですか？

いいえ。成人していない子どもは放され（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1584）、女性は、ムスリムを殺した一人の女性を除いて殺されませんでした（『スナン・アビー・ダーウード』2671、ハサン；第 15 章）。これは、戦争において女性

と子どもを殺すことを禁じたアッラーの使徒 ﷺ の命令と一致しています（『サヒーフ・ブハーリー』3015）。

5. 罰せられたのは何人ですか？

サヒーフと評価される伝承の中で唯一の人数は四百人です（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1582）。六百人から九百人という数はスィーラ書から来ており、一部の現代の研究者はそれに疑問を呈しています（第 16 章）。本書は最も強い伝承に従い、出来事を誇張することも否定することもしません。

6. 砦の包囲はどれくらい続きましたか？

イブン・イスハークは二十五夜としています。別の伝承では十五夜、または約一か月とされます（第 9 章）。クルアーンと真正なハディースはその期間を述べていません。

7. アブー・ルバーバがモスクの柱に自分を縛りつけたというのは本当ですか？

この話はスィーラ書とクルアーン注釈書で有名です（第 11 章）。イブン・イスハークがそれを伝えており、一部の注釈学者はそれを戦利品章 8:27 または悔悟章 9:102 と結びつけています。『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』にはないため、スィーラの伝承として挙げています。預言者モスクでかれに帰せられる柱は、アブー・ルバーバの柱、または悔悟の柱として知られています。

8. クライザ族の地でのアスルの礼拝の出来事は、礼拝を遅らせることを許しているのですか？

いいえ。このハディースは、指示を理解する際のイジュティハードと意見の違いの作法について教えているのであって（第 7〜8 章）、理由なく礼拝を遅らせる許可ではありません。アッラーの使徒 ﷺ がどちらのグループも責められなかったのは、両者ともに使徒に従おうと努めていたからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

9. ライハーナ・ビント・ザイドはアッラーの使徒 ﷺ の妻だったのですか？

スィーラの学者たちの意見は分かれています。イブン・イスハークによれば、ライハーナはアッラーの使徒 ﷺ が亡くなられるまで使徒に属する女奴隷のままでした。イブン・サアドや他の伝承によれば、使徒は彼女を解放して結婚されました。この問題を決定する真正なハディースはないため、見解の分かれる問題として残されています（Wikipedia「Rayhana bint Zayd」）。

10. この出来事は「宗教に強制はない」に反するのではありませんか？

いいえ。「宗教に強制はない」（雌牛章 2:256）という節は、宗教を受け入れることについてのものです。クライザ族はイスラームを拒んだために罰せられたのではありません。かれらは何年も自分たちの宗教のままで暮らしていました。罰は戦時の裏切りに関するものです。それどころか、イスラームに入った者や、アムル・ブン・スウダーのように裏切りへの加担を拒んだ者は救われました（第 12 章）。

11. この出来事を、今日非ムスリムに敵対する口実にしてよいのですか？

いいえ。この出来事は、正当な統治者が、合意された裁定者を通じて、戦時にムスリムと戦った集団に下した特定の裁定です（第 22 章）。戦わない非ムスリムに対するイスラームの一般原則は、善を尽くし公正であることです（試問される女章 60:8）。そして、和平の約束を結んだ非ムスリムを殺す者は天国の香りをかぐことがありません（『サヒーフ・ブハーリー』3166）。

12. この物語の最大の教訓は何ですか？

約束を守り、公正であることです。ムスリムは相手が破るまで盟約を守りました。行動する前に知らせを確かめました。仲裁を受け入れました。そして戦闘員と女性・子どもを区別しました。同時にイスラームは、私たちに歴史に誠実であること — 確かなことと見解の分かれることを区別すること — を教えています。

教訓

クライザ族についての質問は、時には善意から、時には非難のために、しばしば尋ねられます。最良の答えは、クルアーン、真正なハディース、そして等級を区別したスィーラの伝承に立ち返り、落ち着いて、公正に、誠実に説明することです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

クライザ族の出来事は、ハンダクの戦いの章を閉じるものです。それは**約束と裏切り**の物語であり、**公正と仲裁**の物語であり、そして生涯は短くとも、その死が玉座を揺るがせた一人の教友の物語です。

教訓	クライザ族の出来事から
約束を守る	ムスリムは相手が破るまで盟約に忠実であった
知らせを確かめる	知らせを確かめるために使者が遣わされた
分裂せずに意見を異にする	クライザ族の地でのアスルの礼拝
すぐさまの悔悟	アブー・ルバーバと悔悟の柱
イスラームの門は開かれている	イスラームに入った者は安全を与えられた
公正な裁定者	サアドは部族の圧力に屈しなかった
戦闘員を区別する	子どもと女性は殺されなかった
歴史に誠実である	真正な伝承とスィーラの伝承を区別する
人生の祝福	サアドのために玉座が揺れた

私たちの生活の中のクライザ族の物語

私たちは砦の包囲に直面することはないかもしれませんが、いつも**約束**によって試されています。アッラーへの約束、家族への約束、雇い主への約束、隣人への約束、そして社会への約束です。この物語は、**苦しいときにも約束を守り**、嫌いな人にさえ公正であり、アブー・ルバーバのように、過ちを犯したらすぐに悔悟することを教えています。

インシャーアッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**第 14 巻** — クライザ族の後の出来事 — へと続きます。アッラーこそが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 13 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:146；食卓章 5:1、8；戦利品章 8:27、56–58；部族連合章 33:26–27）。https://tafsir.app/ibn-katheer/33/26

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』2846、3015、3166、3802、3803、4028、4118、4119、4120、4121、4122、4123、4124、5683。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1766、1768、1769、1770、1771、2208、2466、2468、2490。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1582、1584、3743、3849；『スナン・アビー・ダーウード』2671；『スナン・アン＝ナサーイー』2055。https://sunnah.com

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— クライザ族の章。

イブン・サアド『タバカート』；アブー・ウバイド『アル＝アムワール』。

サフィーウッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— クライザ族の戦いの章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』（サヒーフ・ブハーリー注釈）— マガーズィーの書；アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』。

W・N・アラファト「New Light on the Story of Banu Qurayza and the Jews of Medina」Journal of the Royal Asiatic Society（1976 年）。

Wikipedia「Banu Qurayza」。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Qurayza

Wikipedia「Invasion of Banu Qurayza」。https://en.wikipedia.org/wiki/Invasion_of_Banu_Qurayza

ウィキペディア「Constitution of Medina」。https://en.wikipedia.org/wiki/Constitution_of_Medina

Wikipedia「Sa’d ibn Mu’adh」。https://en.wikipedia.org/wiki/Sa%27d_ibn_Mu%27adh

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

Wikipedia「Rufaida Al-Aslamia」。https://en.wikipedia.org/wiki/Rufaida_Al-Aslamia

Wikipedia「Cauterization」。https://en.wikipedia.org/wiki/Cauterization

Wikipedia「Median cubital vein」。https://en.wikipedia.org/wiki/Median_cubital_vein

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』34（偽信者の四つのしるし）。https://sunnah.com/bukhari:34

『サヒーフ・ブハーリー』3186、3187（すべての裏切り者の旗）。https://sunnah.com/bukhari:3186

『サヒーフ・ブハーリー』4028；『サヒーフ・ムスリム』1766（ナディール族とクライザ族）。https://sunnah.com/bukhari:4028

『サヒーフ・ブハーリー』2916（ユダヤ教徒のもとに質入れされた鎧）。https://sunnah.com/bukhari:2916

『サヒーフ・ブハーリー』3015（女性と子どもを殺すことの禁止）。https://sunnah.com/bukhari:3015

『サヒーフ・ブハーリー』3166（ムアーハドを殺すこと）。https://sunnah.com/bukhari:3166

イブン・カスィール注釈と『タンウィール・アル＝ミクバース』、戦利品章 8:56。https://surahquran.com/tafsir-english-aya-56-sora-8.html

sunnah.com、伝承者ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィーの略歴。https://sunnah.com/narrator/7252

Wikipedia「Rayhana bint Zayd」。https://en.wikipedia.org/wiki/Rayhana_bint_Zayd

第八部

イフク（中傷）事件

預言者伝（スィーラ）— 第 14 巻

ムスタリク族の遠征とアーイシャの潔白 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

イフク（中傷）事件

これまでの巻は、剣と矢による戦いを語ってきました。『預言者伝』第 14 巻は、別の種類の戦いを語ります — その武器は**舌**でした。それは砂漠で失われた一つの首飾りから始まり、審判の日まで読誦される**光章の十の節**で終わります。

この出来事は**イフク** — 「大きな偽り」 — として知られています。**ムスタリク族**との戦いの後、偽信者たちは、**アーイシャ** رضى الله عنها、すなわちアッラーの使徒 ﷺ の妻に対して偽りの告発を広めました。一か月の間、アッラーの使徒 ﷺ の家は悲しみに包まれ、ついにアッラーご自身が天からアーイシャの潔白を下されたのです。

この物語は、アーイシャ自身によって、『サヒーフ・ブハーリー』の中で最も長いハディースの一つとして伝えられています（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。本書はその伝承を一歩ずつたどり、**ソーシャルメディア**の時代にこそ必要とされる教訓、すなわち中傷から舌をどう守るかで締めくくります。

ムスタリク族の遠征とイフク事件の年表

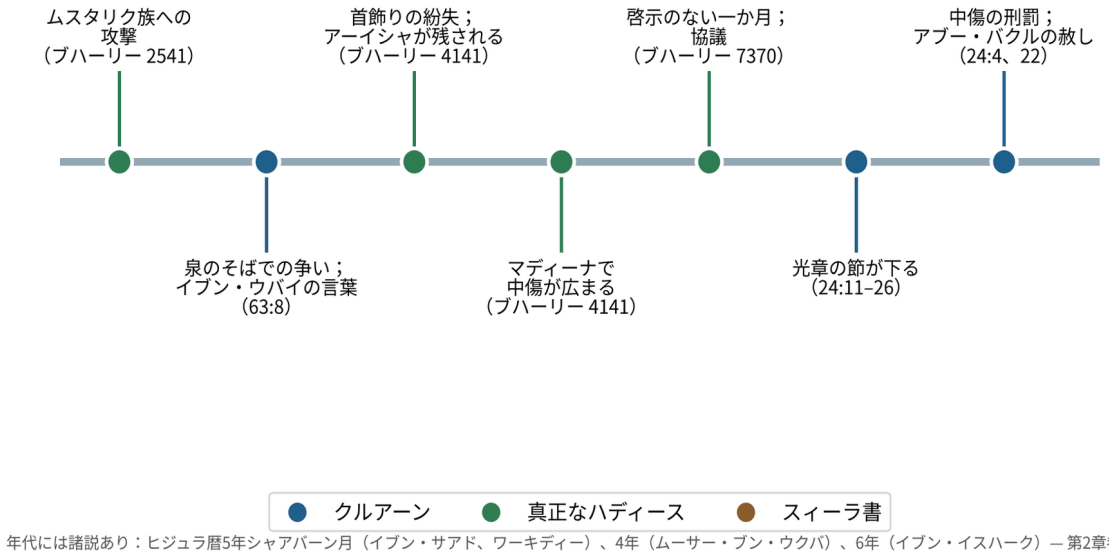


図 1：ムスタリク族の遠征とイフク事件の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

ムスタリク族とアル＝ムライスィーウの泉

ムスタリク族は、マッカとマディーナの間の沿岸地域に住んでいた**フザーア族**の一支族です。かれらの水場は**アル＝ムライスィーウ**と呼ばれ、そのためこの戦いは**ムライスィーウの遠征**とも呼ばれます。スィーラ書は、かれらの指導者**アル＝ハーリス・ブン・アビー・ディラール**がマディーナを攻撃するために軍勢を集めていたと述べています。

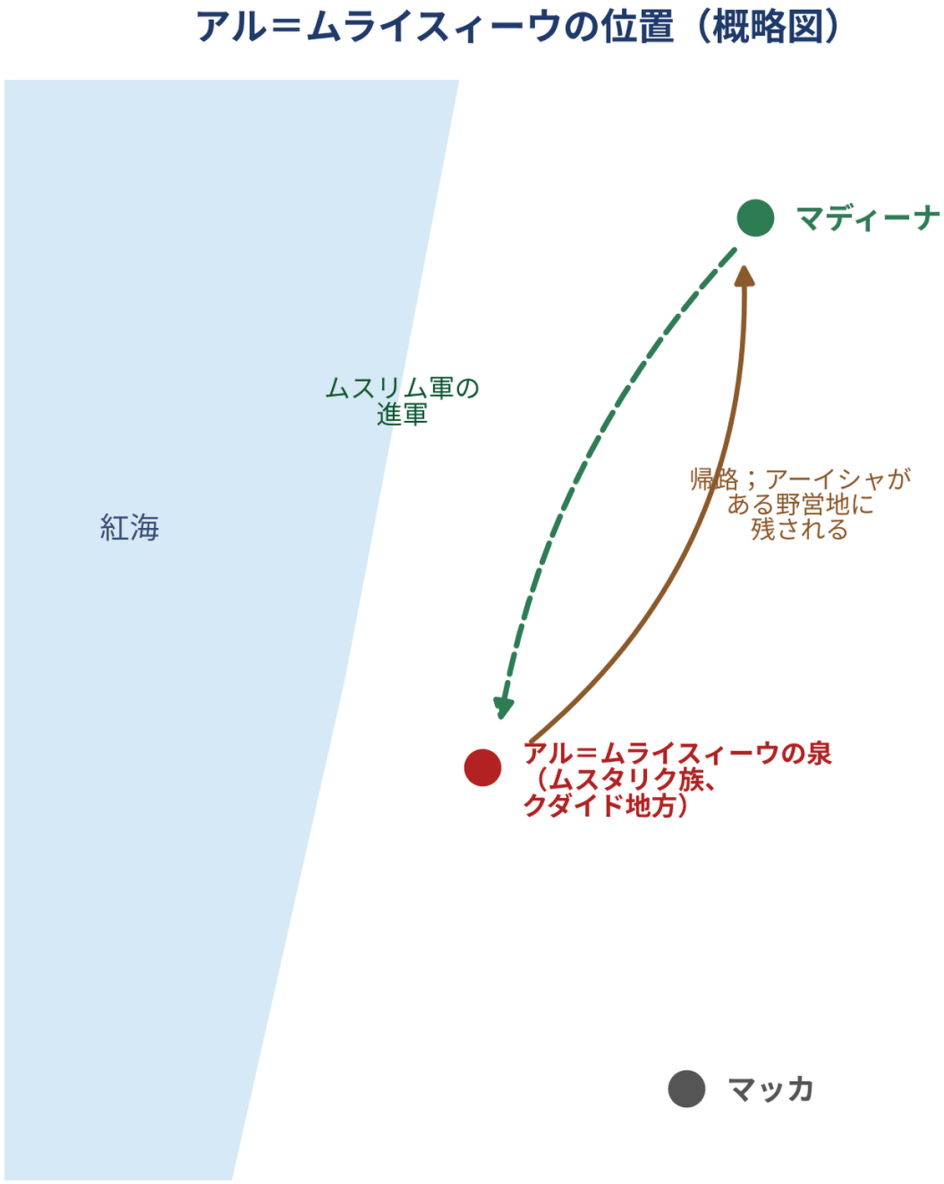


図 2：マッカとマディーナの間のアル＝ムライスィーウの位置（概略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの使徒 ﷺ は、かれらが攻撃する前に先に動かれました。その軍に加わっていたアブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما はこう語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2541 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ الْحَسَنِ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، أَخْبَرَنَا ابْنُ عَوْنٍ، قَالَ كَتَبْتُ إِلَى نَافِعٍ فَكَتَبَ إِلَىَّ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم أَغَارَ عَلَى بَنِي الْمُصْطَلِقِ وَهُمْ غَارُّونَ وَأَنْعَامُهُمْ تُسْقَى عَلَى الْمَاءِ، فَقَتَلَ مُقَاتِلَتَهُمْ، وَسَبَى ذَرَارِيَّهُمْ، وَأَصَابَ يَوْمَئِذٍ جُوَيْرِيَةَ. حَدَّثَنِي بِهِ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ عُمَرَ، وَكَانَ فِي ذَلِكَ الْجَيْشِ.

訳：

イブン・アウンは言った：私がナーフィウに手紙を書くと、かれはこう返事をくれた。**預言者 ﷺ は、ムスタリク族がまだ油断しており、家畜が水場で水を飲まされているところを襲われた。使徒はかれらのうち戦う者を殺し、子ども（と女性）を捕虜とされ、その日ジュワイリーヤを得られた。 アブドゥッラー・ブン・ウマルがそれを私に語ったのであり、かれはその軍の中にいた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アル＝ハサン ← アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← イブン・アウン ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』奴隷解放の書、アラブの奴隷を所有した者の章、ハディース第 2541 番；『サヒーフ・ムスリム』第 1730 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2541

学者たちはこのハディースを、ムスタリク族にはそれ以前に**すでに呼びかけ（ダアワ）が届いていた**ため、攻撃の前にあらためて呼びかける必要はなかったことの証拠としています。イマーム・アン＝ナワウィーとイブン・ハジャルは、イスラームへの呼びかけが義務となるのは、まだそれを聞いたことのない民に対してであると説明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：497 / 567

スィーラの注：短い戦い

スィーラ書は、戦闘は短時間で終わったと述べています。ムスタリク族は敗れ、その多くが財産とともに捕虜となりました。ムスリム軍の人数は真正なハディースには記されていません。スィーラ書は、道のりが近く、戦利品を期待したため、多くの偽信者もこの戦いに出陣したと述べています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Invasion of Banu Mustaliq」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Invasion_of_Banu_Mustaliq

教訓：偽信者たちの存在が、続いて起こる二つの試練の**背景**となりました。

この出来事はいつ起きたのか

本書は主題に沿って第 13 巻（クライザ族）の後に置かれています。しかし、ムスタリク族の遠征の実際の年代については、学者たちの間で**意見が分かれています**。イマーム・ブハーリー自身が、この戦いの章の冒頭にこう書いています：

「フザーア族のムスタリク族の遠征、すなわちムライスィーウの遠征の章。イブン・イスハークは言った：それは 6 年に起きた。ムーサー・ブン・ウクバは言った：4 年である。」（『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書）。

学者	挙げられている年代
ムーサー・ブン・ウクバ	ヒジュラ暦 4 年
イブン・サアドとアル＝ワーキディー	ヒジュラ暦 5 年シャアバーン月
イブン・イスハーク	ヒジュラ暦 6 年シャアバーン月
イブン・ハジャル（『ファトフ・アル＝バーリー』）	ハディースの手がかりに基づき 5 年を支持

重要な手がかりの一つは、イフクのハディースに**サアド・ブン・ムアーズ** رضي الله عنه が登場することです（第 12 章）。サアドはクライザ族の出来事の後、ヒジュラ暦 5 年ズル・カアダ月に亡くなりました（第 13 巻）。そこでイブン・ハジャルを含む多くの学者は、ムスタリク族の遠征は**ヒジュラ暦 5 年シャアバーン月**、すなわちハンダクの戦いの**前**に起きたと考えています。他の学者たちは別の説明を示しており、この議論は『ファトフ・アル＝バーリー』で詳しく扱われています。

教訓：ハディース学者たちは非常に**緻密で誠実**でした。かれらは意見の違いを隠さず、むしろそれを集め、証拠によって比較しました。私たちにとって大切なのはこの出来事の**教訓**であり、それは年代がどうであれ変わりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジュワイリーヤ：一族を解放した花嫁

ムスタリク族の捕虜の中に、かれらの指導者の娘**ジュワイリーヤ・ビント・アル＝ハーリス**がいました。第 1 章のアブドゥッラー・ブン・ウマルのハディースは、使徒がその日「ジュワイリーヤを得られた」と述べています。アーイシャ رضي الله عنها は、その後に起きたことをこう語っています：

ジュワイリーヤはサービト・ブン・カイス・ブン・シャンマース رضي الله عنه の取り分となり、かの女は自らを買い戻す契約を結びました。かの女は身代金の助けを求めてアッラーの使徒 ﷺ のもとに来ました。使徒は仰せられました。「**それよりも良いものを望まないか。私があなたの身代金を払い、あなたと結婚しよう。**」 かの女は同意しました。アッラーの使徒 ﷺ がかの女と結婚されたと聞くと、人々は手元の捕虜を解放し、こう言いました。「**かれらはアッラーの使徒 ﷺ の姻戚である。**」 アーイシャは言いました。「**自分の民にとって、かの女ほど大きな祝福をもたらした女性を私は知らない。かの女のためにムスタリク族の百の家族が解放されたのだ。**」（『スナン・アビー・ダーウード』3931、アル＝アルバーニーはハサンと評価）。

イマーム・ムスリムも、かの女の元の名は**バッラ**であったが、アッラーの使徒 ﷺ がそれを**ジュワイリーヤ**に改められたと伝えています（『サヒーフ・ムスリム』2140）。かの女は**信者たちの母（ウンマハート・アル＝ムウミニーン）**の一人となり、多くのズィクル（唱念）で知られました。

結婚がもたらしたもの	説明
捕虜の解放	約百の家族が自由を得た
敵対の終わり	ムスタリク族は敵ではなく姻戚となった
ジュワイリーヤの栄誉	捕虜から信者たちの母へ
呼びかけの英知	かの女の部族はのちにイスラームに入った（スィーラ書）

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**敗北を慈悲に**変えられました。一つの賢明な決断が敵意を消し、一つの民全体を解放したのです。

ジュワイリーヤのズィクル

ジュワイリーヤ رضى الله عنها は、その崇拝で知られていました。かの女は、アッラーの使徒 ﷺ が夜明けの礼拝の頃、礼拝の場にいるかの女のもとを出て行かれ、日が高くなった頃に戻られると、かの女がまだ同じ場所に座っていたと伝えています。使徒は仰せられました。「**私はあなたの後で四つの言葉を三度唱えた。もしそれを、あなたが朝から唱えてきたものと量り比べるならば、それの方が重いであろう。スブハーナッラーヒ・ワ・ビハムディヒ、アダダ・ハルキヒ、ワ・リダー・ナフスィヒ、ワ・ズィナタ・アルシヒ、ワ・ミダーダ・カリマーティヒ。**」（『サヒーフ・ムスリム』2726）。

その意味は：「**アッラーに讃えあれ、かれを称えて。その被造物の数ほど、かれご自身が満足されるほど、かれの玉座の重さほど、かれの御言葉のインクの量ほど。**」

このズィクルは、かつて戦争の捕虜であった一人の女性に教えられました — そしてかの女は今や、ウンマ全体のズィクルの師となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

泉のそばのジャーヒリーヤの呼びかけ

勝利の後、ムスリム軍がアル＝ムライスィーウの泉のそばで休んでいたとき、小さな争いが起こり、大きな分裂を引き起こしかけました。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما はこう語っています：

ハディース — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 3315 番

حَدَّثَنَا ابْنُ أَبِي عُمَرَ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ عَمْرِو بْنِ دِينَارٍ، سَمِعَ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ، يَقُولُ كُنَّا فِي غَزَاةٍ قَالَ سُفْيَانُ يَرَوْنَ أَنَّهَا غَزْوَةُ بَنِي الْمُصْطَلِقِ فَكَسَعَ رَجُلٌ مِنَ الْمُهَاجِرِينَ رَجُلاً مِنَ الأَنْصَارِ فَقَالَ الْمُهَاجِرِيُّ يَا لَلْمُهَاجِرِينَ وَقَالَ الأَنْصَارِيُّ يَا لَلأَنْصَارِ فَسَمِعَ ذَلِكَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ مَا بَالُ دَعْوَى الْجَاهِلِيَّةِ. قَالُوا رَجُلٌ مِنَ الْمُهَاجِرِينَ كَسَعَ رَجُلاً مِنَ الأَنْصَارِ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم دَعُوهَا فَإِنَّهَا مُنْتِنَةٌ. فَسَمِعَ ذَلِكَ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أُبَيٍّ ابْنُ سَلُولَ فَقَالَ أَوَقَدْ فَعَلُوهَا وَاللَّهِ (لَئِنْ رَجَعْنَا إِلَى الْمَدِينَةِ لَيُخْرِجَنَّ الأَعَزُّ مِنْهَا الأَذَلَّ) فَقَالَ عُمَرُ يَا رَسُولَ اللَّهِ دَعْنِي أَضْرِبْ عُنُقَ هَذَا الْمُنَافِقِ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم دَعْهُ لاَ يَتَحَدَّثُ النَّاسُ أَنَّ مُحَمَّدًا يَقْتُلُ أَصْحَابَهُ. وَقَالَ غَيْرُ عَمْرٍو فَقَالَ لَهُ ابْنُهُ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ وَاللَّهِ لاَ تَنْقَلِبُ حَتَّى تُقِرَّ أَنَّكَ الذَّلِيلُ وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْعَزِيزُ. فَفَعَلَ. قَالَ أَبُو عِيسَى هَذَا حَدِيثٌ حَسَنٌ صَحِيحٌ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は言った：私たちはある遠征に出ていた — スフヤーンは言った：人々はそれを**ムスタリク族の遠征**だと考えている — すると**ムハージルーンの一人の男が、アンサールの一人の男の尻を打った。ムハージルの男は「ムハージルーンよ！」と叫び、アンサールの男は「アンサールよ！」と叫んだ。預言者 ﷺ はそれを聞かれて仰せられた。「なぜジャーヒリーヤの呼びかけがあるのか。」** 人々は言った。「ムハージルーンの一人の男がアンサールの一人の男を打ったのです。」アッラーの使徒 ﷺ は仰せられた。**「それをやめなさい。それは腐ったものである。」** アブドゥッラー・ブン・ウバイ・ブン・サルールはそれを聞いて言った。「かれ

らはそんなことをしたのか。アッラーにかけて、私たちがマディーナに戻れば、**力ある者が卑しい者をそこから追い出すであろう。**」ウマルは言った。「アッラーの使徒よ、この偽信者の首を打たせてください。」預言者 ﷺ は仰せられた。「**放っておきなさい。人々が、ムハンマドは自分の仲間を殺すと言わないように。**」アムル以外の者はこう伝えている：かれの息子**アブドゥッラー・ブン・アブドゥッラー**が父に言った。「アッラーにかけて、あなたが卑しい者であり、アッラーの使徒 ﷺ が力ある方であると認めるまで、あなたは帰れない。」そこでかれはそうした。アブー・イーサーは言った：このハディースはハサン・サヒーフである。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イブン・アビー・ウマル ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』クルアーン注釈の書、偽信者章の章、ハディース第 3315 番；元は『サヒーフ・ブハーリー』第 4905 番と『サヒーフ・ムスリム』第 2584 番。

等級： ハサン・サヒーフ — イマーム・ティルミズィーはハサン・サヒーフと評価；ダールッサラームはハサンと評価。この争いの話は『サヒーフ・ブハーリー』4905 にもある。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:3315

「それをやめなさい、それは腐っている！」

「**ムハージルーンよ！**」と「**アンサールよ！**」という呼びかけは普通に見えます — どちらもクルアーンの中の尊い名です。しかしそれが**派閥を作り敵対する**ための呼びかけになると、ジャーヒリーヤの呼びかけになります。アッラーの使徒 ﷺ はそれを**腐ったもの**と表現されました。

同じハディースはブハーリーによっても伝えられています（『サヒーフ・ブハーリー』4905）。ウマルへの使徒の答えにも注目してください。「**放っておきなさい。人々が、ムハンマドは自分の仲間を殺すと言わないように。**」 使徒は**呼びかけの評判**を守られたのです。外部の人々には、誰が偽信者で誰が信者かがわからないからです。

教訓：**アサビーヤ** — 派閥、民族、集団への偏った執着 — は、勝利の後でさえウンマを分裂させることがあります。イスラームは血筋や集団ではなく、信仰の上に私たちを一つにします。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーに正しさを認められたザイド・ブン・アルカム

アブドゥッラー・ブン・ウバイの言葉 — 「**力ある者が卑しい者を追い出すであろう**」 — を、アンサールの一人の少年**ザイド・ブン・アルカム** رضى الله عنه が聞いていました。かれはそれを報告し、その後かれの身に起きたことは、**試される真実**についての教えとなりました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4900 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ رَجَاءٍ، حَدَّثَنَا إِسْرَائِيلُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ زَيْدِ بْنِ أَرْقَمَ، قَالَ كُنْتُ فِي غَزَاةٍ فَسَمِعْتُ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ أُبَيٍّ، يَقُولُ لاَ تُنْفِقُوا عَلَى مَنْ عِنْدَ رَسُولِ اللَّهِ حَتَّى يَنْفَضُّوا مِنْ حَوْلِهِ وَلَوْ رَجَعْنَا مِنْ عِنْدِهِ لَيُخْرِجَنَّ الأَعَزُّ مِنْهَا الأَذَلَّ فَذَكَرْتُ ذَلِكَ لِعَمِّي أَوْ لِعُمَرَ فَذَكَرَهُ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَدَعَانِي فَحَدَّثْتُهُ فَأَرْسَلَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أُبَيٍّ وَأَصْحَابِهِ فَحَلَفُوا مَا قَالُوا فَكَذَّبَنِي رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَصَدَّقَهُ فَأَصَابَنِي هَمٌّ لَمْ يُصِبْنِي مِثْلُهُ قَطُّ، فَجَلَسْتُ فِي الْبَيْتِ فَقَالَ لِي عَمِّي مَا أَرَدْتَ إِلَى أَنْ كَذَّبَكَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَمَقَتَكَ. فَأَنْزَلَ اللَّهُ تَعَالَى {إِذَا جَاءَكَ الْمُنَافِقُونَ} فَبَعَثَ إِلَىَّ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَقَرَأَ فَقَالَ إِنَّ اللَّهَ قَدْ صَدَّقَكَ يَا زَيْدُ.

訳：

ザイド・ブン・アルカム رضى الله عنه は言った：**私はある遠征に出ていたとき、アブドゥッラー・ブン・ウバイがこう言うのを聞いた。「アッラーの使徒のもとにいる者たちに金を使ってはならない。そうすればかれらはかれのまわりから散って行くだろう。そしてもし私たちが（マディーナに）戻れば、力ある者が卑しい者をそこから追い出すであろう。」** 私はそれをおじに — あるいはウマルに — 話し、かれがそれを預言者 ﷺ に伝えた。使徒は私を呼ばれ、私はそれをお話しした。それからアッラーの使徒 ﷺ はアブドゥッラー・ブン・ウバイとその仲間を呼ばれたが、かれらはそんなことは言っていないと誓った。そこでアッラーの使徒 ﷺ は私を信じず、かれを信じられた。**私はそれまでに経験したことのない悲しみに襲われた。** 私は家に座っていた……するとアッラーは「偽信者たちがあなたのもとに来るとき……」を下された。預言者 ﷺ は私のもとに人を

遣わしてそれを読み聞かせ、こう仰せられた。「**まことにアッラーはあなたの正しさを認められた、ザイドよ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ラジャー ← イスラーイール ← アブー・イスハーク ← ザイド・ブン・アルカム رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン注釈の書、偽信者章、ハディース第 4900 番；第 4901〜4904 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 2772 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4900

アッラーは偽信者章で、イブン・ウバイの言葉を暴かれました。「**だが栄誉は、アッラーとその使徒と信者たちに属する。しかし偽信者たちは（それを）知らない。**」偽信者章 63:8（イブン・カスィール注釈）。

ザイドの気持ちを想像してください。真実を語った一人の少年が、大人たちがそれを否定して誓ったために信じてもらえなかったのです。かれは**自分を弁護するために嘘をつくこともなく**、仕返しもしませんでした。ただ悲しみの中で家に座っていたのです — するとアッラーご自身が啓示によってかれの正しさを認められました。

教訓：真実を語る者は**しばらくの間信じてもらえない**ことがあるかもしれませんが、アッラーは真実を無駄にはされません。ザイドの物語はアーイシャの物語への序章です。二人とも中傷され、二人とも耐え、二人ともクルアーンによって正しさを認められたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

真実を選んだ息子

第 4 章のジャービルのハディースは、心を打つ一つの細部で終わります。アブドゥッラー・ブン・ウバイ自身の息子で、同じく**アブドゥッラー** رضي الله عنه という名の者が父の前に立ちはだかり、こう言ったのです。「**アッラーにかけて、あなたが卑しい者であり、アッラーの使徒 ﷺ が力ある方であると認めるまで、あなたは帰れない。**」

> **スィーラの注：マディーナの門で**
>
> スィーラ書は、アブドゥッラーがマディーナの入り口に立って父を阻み、アッラーの使徒 ﷺ が許可されるまで父を中に入れなかったと述べています。イブン・イスハークはまた、アブドゥッラーがアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て、もし父を罰することを望まれるなら自分の手で行わせてほしいと願ったと伝えています。父を殺した他の人に対して、自分の心が復讐心を抑えられないことを恐れたからです。
>
> アッラーの使徒 ﷺ は答えられました。「**いや、かれが私たちと共にいる限り、私たちはかれに優しくし、良く接しよう。**」 この話はスィーラ書で有名ですが、マディーナの門での細部は『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』にはありません。
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3315。https://sunnah.com/tirmidhi:3315

教訓：信仰は、一人の息子を、自分の父に対してさえ**真実**の側に立たせることができます — しかし作法をもって、そして最終的な判断をアッラーの使徒 ﷺ に委ねて。そしてアッラーの使徒 ﷺ は、罰ではなく**優しさ**を選ばれたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

失われた首飾り

いよいよこの物語の核心に入ります。アーイシャ رضى الله عنها は自らそれを詳しく語っています（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。アッラーの使徒 ﷺ は旅に出ようとされるとき、妻たちの間で**くじを引かれ**ました。くじの当たった者が使徒に同行したのです。この遠征では、アーイシャのくじが当たりました。

そのときにはすでにヒジャーブの節が下っていたため、アーイシャは**ハウダジュ** — ラクダの背に載せる屋根付きの輿 — の中で旅をしていました。帰路、マディーナに近づいたところで、一行は夜に宿営しました。出発が告げられたとき、アーイシャは用を足すために少し離れた所へ出て行きました。

戻ってくると、かの女は胸に手をやり、**ザファールの玉の首飾り**（イエメン産のオニキス）が切れてなくなっているのに気づきました。**かの女はそれを探しに引き返し**、その捜索には時間がかかりました。

細部	その意味
妻たちの間のくじ	妻たちに対するアッラーの使徒 ﷺ の公平さ
ハウダジュ	預言者の妻の身体と名誉を守る
安価な首飾り	ザファールの玉であり、高価な宝石ではない
探しに引き返す	たとえ小さな物でも、物に対する誠実さ

教訓：歴史を変える出来事は、時に**ごく小さなこと**から始まります。一つの安価な首飾りが、光章の大きな法規定が下る原因となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

砂漠に残されて

アーイシャが首飾りを探している間に、かの女のハウダジュを運ぶ係の者たちが来て、それをラクダに載せました。かれらは**アーイシャが中にいると思った**のです。アーイシャはこう説明しています。「当時の女性は軽く、太ってはいなかった。わずかしか食べなかったからだ……そして私はそのときまだ若かった。」かれらはハウダジュの重さの違いに気づかなかったのです。

アーイシャが首飾りを見つけて戻ると、**野営地はもう空っぽ**でした。そこには誰もいませんでした。かの女がしたことは、その落ち着きと賢さを示しています。かの女は暗闇の中を一行の後を**追って走ることなく**、**その場に座り**、皆が自分のいないことに気づいて探しに戻ってくるだろうと考えたのです。そしてかの女は眠り込んでしまいました。

状況	アーイシャの行動
首飾りの紛失	探しに引き返す
空っぽの野営地	慌てず、暗闇の中をさまよわない
誰もいない	見つけてもらいやすいように元の場所に座る
待つ	眠り込むまでアッラーに身を委ねる

教訓：危機のときには、**安全な場所にとどまり**、助けを待つことが賢明な行動です。今日の安全の専門家も、道に迷った人に同じ助言をしています。「**立ち止まり、その場で待ちなさい**」。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サフワーン・ブン・アル＝ムアッタル

サフワーン・ブン・アル＝ムアッタル・アッ＝スラミー رضي الله عنه という一人の教友が、軍の後ろを歩いて取り残された物を確かめる役目を負っていました。かれは朝方その場所に着き、誰かが眠っているのを見ました。かれはアーイシャだとわかりました。ヒジャーブの節が下る前にかの女を見たことがあったからです。

アーイシャは言いました。「**私が目を覚ましたのは、かれが私に気づいて『インナー・リッラーヒ・ワ・インナー・イライヒ・ラージウーン（まことに私たちはアッラーのものであり、かれのもとに帰る）』と唱えるのを聞いたからだ。私はすぐにジルバーブで顔を覆った。アッラーにかけて、かれは私に一言も話しかけず、私はかれの口から、そのイスティルジャーウ以外の一言も聞かなかった。**」 サフワーンは自分のラクダをひざまずかせ、アーイシャがそれに乗ると、サフワーンは歩いてそのラクダを引き、昼の暑さの中で休んでいた軍に追いつきました（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

サフワーンの完璧な作法を見てください。かれは**言葉を交わさず**、一緒に乗ることもせず、皆の前で公然とアーイシャを一行のもとへ連れて行きました。ところが、本来なら誉れの証であるはずのことが、心に病のある者たちによって**ねじ曲げられ**たのです。

中傷が広まり始める

人々がアーイシャがサフワーンのラクダに乗って着いたのを見ると、心に病のある者たちが**ひそひそと噂し始めました。**アーイシャは言いました。「**そして（この出来事のために）滅びる者は滅びた。**」 中傷を広めることで最も大きな役割を担ったのは、偽信者たちの頭**アブドゥッラー・ブン・ウバイ・ブン・サルール**でした（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

クルアーンはかれらを小さな一団と呼んでいます。「**本当にあの虚偽を言い触らした者は、あなたがたの中の一団である**」光章 24:11（イブン・カスィール注釈）。

「**ウスバ**」（一団）という言葉は、中傷を広めた者が**少数**であったことを示しています。しかしその声は、他の人々がよく考えもせずに繰り返したために響き渡ったのです。残念なことに、何人かの善良な信者もそれに影響されました — その中には**ミスタフ・ブン・ウサーサ**、**ハッサーン・ブン・サービト**、**ハムナ・ビント・ジャフシュ**がいました。

集団	中傷における役割
アブドゥッラー・ブン・ウバイ	火付け役であり主な拡散者（「その大部分を引き受けた者」）
何人かの信者	影響されて繰り返した（ミスタフ、ハッサーン、ハムナ）
教友の大多数	沈黙するか、それを退けた
アーイシャ	何週間も何も知らなかった

教訓：中傷が始まるのに大勢は要りません — **一人の火付け役と大勢の繰り返す者**がいれば足りるのです。確かめもせずに知らせを繰り返す人は誰でも、その連鎖の一部となります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

陰口（ギーバ）、虚偽の中傷（ブフターン）、そしてフィトナ

アッラーの使徒 ﷺ は、舌による二つの罪の違いを説明されました。**「陰口とは何か知っているか。」** 人々は答えた。「アッラーとその使徒が最もよくご存じです。」使徒は仰せられた。**「あなたの兄弟について、かれの嫌がることを言うことである。」** 尋ねられた。「もし私の言うことが本当にかれにあるとしたら？」使徒は仰せられた。**「もしあなたの言うことがかれにあるなら、あなたはかれの陰口を言ったのであり、もしかれにないなら、あなたはかれに対してブフターン（大きな偽り）を犯したのである。」**（『サヒーフ・ムスリム』2589）。

イフクは最も重い部類に入ります。**ブフターン** — ありもしない悪事をでっち上げることです。クルアーン自身がそれを**「ブフターヌン・アズィーム」**（大きな虚偽、24:16）と呼んでいます。教訓：たとえ本当のことであっても、必要もないのに広めることは罪です。ましてやそれが偽りであればなおさらです。

病の中の一か月

マディーナに着くとすぐ、アーイシャは**一か月**病に伏しました。その間ずっと人々は中傷について語り合っていましたが、アーイシャは**何も知りません**でした。それでも、かの女は何か奇妙なものを感じていました：

「病の間に私を不安にさせたのは、病気のときにいつもアッラーの使徒 ﷺ から感じていた優しさを感じなかったことだった。使徒はただ入って来て挨拶をされ、それから『その人の具合はどうか』（カイファ・ティークム）と尋ねて、出て行かれるだけだった。」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

アッラーの使徒 ﷺ もまた傷ついた一人の人間でした。使徒は中傷を信じてはおられませんでしたが、**啓示はまだ下っていなかった**のであり、アッラーからの確証なしに罰することも無実とすることも望まれませんでした。その悲しみと戸惑いが、使徒の態度にはっきりと表れていたのです。

スィーラの注：なぜ啓示は遅れたのか

学者たちは、一か月にわたる啓示の遅れの背後にあるいくつかの英知を説明しています。その中には次のものがあります。信者たちのうち誰が良い推測をするかを**試す**ため。そして**証明する**ため — アッラーの使徒 ﷺ は思うままに啓示を下すことはできず、もしクルアーンが使徒の作り事であったなら、すぐに妻を弁護したはずです。そして、その忍耐によってアーイシャの**位階を高める**ためです。

参照：

イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』ハディース 4141 の注釈；イブン・カスィール注釈（光章 24:11）。https://tafsir.app/ibn-katheer/24/11

教訓：啓示の遅れそのものが**預言者であることの証拠**です。嘘つきなら、問題を解決するために節をでっち上げることができるのに、一か月も悲しみの中で待つことはしないでしょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

知らせがアーイシャに届く

アーイシャはついに、思いがけずその中傷を知ることになりました。ある夜、**ウンム・ミスタフ**と一緒に用を足す場所へ出かけたとき、その女性は自分の衣につまずいて言いました。「ミスタフなんか滅びてしまえ！」アーイシャはたしなめました。「なんとひどいことを！ あなたはバドルの戦いに参加した人をののしるのですか。」するとウンム・ミスタフは、人々が言っていることを語ったのです（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

ミスタフの母親自身が、中傷を広めた息子をののしったことに注目してください — そして被害者であるアーイシャは、ミスタフがバドルの戦士であるからと、なおもかれを**かばった**のです。アーイシャの母**ウンム・ルーマーン** رضى الله عنها も、同じ瞬間を自分の側から語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4143 番

حَدَّثَنَا مُوسَى بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا أَبُو عَوَانَةَ، عَنْ حُصَيْنٍ، عَنْ أَبِي وَائِلٍ، قَالَ حَدَّثَنِي مَسْرُوقُ بْنُ الأَجْدَعِ، قَالَ حَدَّثَتْنِي أُمُّ رُومَانَ ـ وَهْىَ أُمُّ عَائِشَةَ رضى الله عنها ـ قَالَتْ بَيْنَا أَنَا قَاعِدَةٌ أَنَا وَعَائِشَةُ إِذْ وَلَجَتِ امْرَأَةٌ مِنَ الأَنْصَارِ فَقَالَتْ فَعَلَ اللَّهُ بِفُلاَنٍ وَفَعَلَ. فَقَالَتْ أُمُّ رُومَانَ وَمَا ذَاكَ قَالَتِ ابْنِي فِيمَنْ حَدَّثَ الْحَدِيثَ. قَالَتْ وَمَا ذَاكَ قَالَتْ كَذَا وَكَذَا. قَالَتْ عَائِشَةُ سَمِعَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَتْ نَعَمْ. قَالَتْ وَأَبُو بَكْرٍ قَالَتْ نَعَمْ. فَخَرَّتْ مَغْشِيًّا عَلَيْهَا، فَمَا أَفَاقَتْ إِلاَّ وَعَلَيْهَا حُمَّى بِنَافِضٍ، فَطَرَحْتُ عَلَيْهَا ثِيَابَهَا فَغَطَّيْتُهَا. فَجَاءَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ مَا شَأْنُ هَذِهِ. قُلْتُ يَا رَسُولَ اللَّهِ أَخَذَتْهَا الْحُمَّى بِنَافِضٍ. قَالَ فَلَعَلَّ فِي حَدِيثٍ تُحُدِّثَ بِهِ. قَالَتْ نَعَمْ. فَقَعَدَتْ عَائِشَةُ فَقَالَتْ وَاللَّهِ لَئِنْ حَلَفْتُ لاَ تُصَدِّقُونِي، وَلَئِنْ قُلْتُ لاَ تَعْذِرُونِي، مَثَلِي وَمَثَلُكُمْ كَيَعْقُوبَ وَبَنِيهِ، وَاللَّهُ الْمُسْتَعَانُ عَلَى مَا تَصِفُونَ، قَالَتْ وَانْصَرَفَ وَلَمْ يَقُلْ شَيْئًا، فَأَنْزَلَ اللَّهُ عُذْرَهَا ـ قَالَتْ ـ بِحَمْدِ اللَّهِ لاَ بِحَمْدِ أَحَدٍ وَلاَ بِحَمْدِكَ.

訳：

アーイシャの母ウンム・ルーマーン رضي الله عنها は言った：**私がアーイシャと一緒に座っていたとき、アンサールの一人の女性が入って来て言った。「アッラーがあの人に報いを与えられますように！」私が「何があったのですか」と尋ねると、かの女は言った。「私の息子が、あの話を広めた者たちの中にいるのです。」** アーイシャは尋ねた。「アッラーの使徒 ﷺ はそれをお聞きになったのですか。」かの女は答えた。「はい。」「アブー・バクルも？」「はい。」**するとアーイシャは気を失って倒れ、意識が戻ると震えを伴う熱に襲われた。** 私はかの女に衣服をかけた。預言者 ﷺ が来られて「この人はどうしたのか」と尋ねられた。私は答えた。「アッラーの使徒よ、震えを伴う熱に襲われたのです。」使徒は仰せられた。「おそらく、人々が話しているあの話のためか。」私は答えた。「はい。」するとアーイシャは座り直してこう言った。**「アッラーにかけて、もし私が誓っても、あなた方は私を信じないでしょう。もし言い訳をしても、あなた方は受け入れないでしょう。私とあなた方のたとえは、ヤアクーブ عَلَيْهِ السَّلَامُ とその息子たちのようです。『あなたがたの言うことに対しては、アッラーにこそ助けを求めます。』」** 使徒は何も言わずに去って行かれた。それからアッラーはかの女の潔白を下された。アーイシャは言った。**「アッラーを讃えてのことであり、誰を讃えるのでもなく、あなたを讃えるのでもありません。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー・ブン・イスマーイール ← アブー・アワーナ ← フサイン・ブン・アブドゥッラフマーン ← アブー・ワーイル ← マスルーク・ブン・アル＝アジュダウ ← ウンム・ルーマーン رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、イフクのハディースの章、ハディース第 4143 番；第 3388 番、第 4691 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4143

アーイシャは、知らせを確かめるために両親の家に帰る許しを求めました。母はかの女をなだめようとしました。「娘よ、この事を軽く受け止めなさい。夫に愛される美しい女性で、ほかにも妻がいる場合、人々があれこれと噂しないことはめった

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：516 / 567

にないのです。」アーイシャは言いました。「**私はその夜、一晩中泣き続けた。涙は止まらず、眠ることもできなかった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

アッラーの使徒 ﷺ の協議

啓示がまだ下らない間、アッラーの使徒 ﷺ は**協議されました** — 大きな事柄におけるいつもの習慣のとおりです。使徒は説教をして人々の意見を求め、また身近な人々を呼んで個別に尋ねられました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 7370 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَبِي زَكَرِيَّاءَ الْغَسَّانِيُّ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ عُرْوَةَ، عَنْ عَائِشَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَطَبَ النَّاسَ فَحَمِدَ اللَّهَ وَأَثْنَى عَلَيْهِ وَقَالَ مَا تُشِيرُونَ عَلَيَّ فِي قَوْمٍ يَسُبُّونَ أَهْلِي مَا عَلِمْتُ عَلَيْهِمْ مِنْ سُوءٍ قَطُّ. وَعَنْ عُرْوَةَ قَالَ لَمَّا أُخْبِرَتْ عَائِشَةُ بِالأَمْرِ قَالَتْ يَا رَسُولَ اللَّهِ أَتَأْذَنُ لِي أَنْ أَنْطَلِقَ إِلَى أَهْلِي. فَأَذِنَ لَهَا وَأَرْسَلَ مَعَهَا الْغُلاَمَ. وَقَالَ رَجُلٌ مِنَ الأَنْصَارِ سُبْحَانَكَ مَا يَكُونُ لَنَا أَنْ نَتَكَلَّمَ بِهَذَا، سُبْحَانَكَ هَذَا بُهْتَانٌ عَظِيمٌ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は、**アッラーの使徒 ﷺ が人々に説教をされたと伝えている。使徒はアッラーを讃え、称えてから仰せられた。「私の家族を非難する者たちについて、あなた方はどう考えるか。私はかれらについて何一つ悪いことを知らないのに。」** またウルワから：アーイシャはその事を知らされると言った。「アッラーの使徒よ、私の家族のもとに帰らせてください。」使徒はそれを許し、一人の少年をかの女に付き添わせられた。そしてアンサールの一人の男が言った。**「あなたに讃えあれ！ このことを口にするのは私たちにふさわしくない。あなたに讃えあれ、これは大きな虚偽である。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ハルブ ← ヤフヤー・ブン・アビー・ザカリーヤー・アル＝ガッサーニー ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アッラーの書とスンナを堅持する書、「かれらの事は互いの協議による」というアッラーの御言葉の章、ハディース第 7370 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:7370

この伝承に出てくるアンサールの男は、**のちにクルアーンの中に下された**言葉を口にしました（光章 24:16）。スィーラ書は、このような態度をとった人の中に**アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー** رضي الله عنه とその妻がいたと述べています（第 15 章）。

尋ねられた人	答え（『サヒーフ・ブハーリー』4141）
ウサーマ・ブン・ザイド	「かの女はあなたの家族です。私たちは良いこと以外何も知りません。」
アリー・ブン・アビー・ターリブ	「アッラーはあなたを窮地に置かれてはいません……あの召使いの娘に尋ねてください。かの女は本当のことを言うでしょう。」
バリーラ（家の召使い）	「私はかの女に何も見たことがありません。ただ、パン生地を置いたまま眠ってしまい、それをヤギが食べてしまうような、若い娘だというだけです。」
ザイナブ・ビント・ジャフシュ	「私は自分の耳と目を守っています。アッラーにかけて、私は良いこと以外何も知りません。」

ザイナブ・ビント・ジャフシュ رضي الله عنها の証言は、とても心を打つものです。アーイシャは言いました。「かの女こそ（アッラーの使徒 ﷺ のもとで）私と張り合っていた人でした。しかしアッラーはその敬虔さによってかの女を守られたのです。」アーイシャを陥れる機会を最も持っていた共妻が、反対に**真実を語った**のです。教訓：敬虔さは、競争相手に対してさえ舌を守ります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

モスクでの緊張

その後、アッラーの使徒 ﷺ は説教壇に立って仰せられました。「**ムスリムたちよ、私の家族のことで私を傷つけた一人の男から、誰が私を弁護してくれるか。アッラーにかけて、私は自分の家族について良いこと以外何も知らない。またかれらは、私が良いこと以外何も知らない一人の男のことを口にしている。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

サアド・ブン・ムアーズ、アウス族の長が立ち上がって言いました。「アッラーの使徒よ、私があなたを弁護いたします。もしその者がアウス族なら、私たちがその首を打ちます。もし私たちの兄弟ハズラジュ族なら、ご命令ください。」すると**サアド・ブン・ウバーダ**、ハズラジュ族の長が — アーイシャはかれを善良な人であったが、そのときは**部族意識**に支配されてしまったと述べています — 反論しました。**ウサイド・ブン・フダイル**が言い返し、モスクの中で**アウス族とハズラジュ族の二つの部族は殺し合う寸前**になりました。そのときアッラーの使徒 ﷺ はまだ説教壇の上におられました。使徒はかれらが静まるまで、なだめ続けられました。

中傷がいかに危険かを見てください。それは一人の女性への告発から始まりましたが、イスラームが何十年もの敵対の後に和解させたアウス族とハズラジュ族の間に、**内戦**を引き起こしかけたのです。これこそが偽信者たちの狙いでした。イスラーム社会を内側から**分裂させる**ことです。

教訓：緊張した状況では、善良な人々の間でさえ、**部族意識**が容易に支配します。指導者は、アッラーの使徒 ﷺ がなだめ続けられたように、自ら落ち着き、人々を落ち着かせる必要があります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「美しい忍耐」

アーイシャは二晩と一日泣き続け、泣くことで心臓が張り裂けてしまうのではないかと思うほどでした。そのときアッラーの使徒 ﷺ が来られ、**かの女のそばに座られました** — 一か月ぶりのことでした。使徒は信仰告白を唱えてから仰せられました。**「アーイシャよ、あなたについてこれこれのことが私の耳に入った。もしあなたが潔白なら、アッラーがあなたの潔白を明らかにされるであろう。もしあなたが罪を犯したのなら、アッラーに赦しを請い、かれに悔い改めなさい。しもべが自分の罪を認めて悔い改めれば、アッラーはその悔悟を受け入れられるのだから。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

アーイシャの涙は止まりました。かの女は父に、それから母に、自分の代わりに答えてくれるよう頼みました — しかし二人とも言いました。「アッラーにかけて、アッラーの使徒 ﷺ に何と申し上げればよいのか、わからない。」そこで若い女性であったアーイシャは、信仰に満ちた言葉で自ら答えたのです：

「アッラーにかけて、もし私が自分は潔白だと言っても — アッラーは私が潔白であることをご存じです — あなた方は私を信じないでしょう。もし私が、アッラーが私のしていないことをご存じであることを認めれば、あなた方は私を信じるでしょう。アッラーにかけて、私と皆さんのたとえとしては、ユースフ عَلَيْهِ السَّلَامُ の父の言葉しか見つかりません：」

「わたしは、只耐え忍ぶのが最善である。あなたがたが述べることに就いては、アッラーこそ御助けを求められる方である」ユースフ章 12:18（イブン・カスィール注釈）。

アーイシャは、あまりの悲しみのために、そのとき預言者ヤアクーブ عَلَيْهِ السَّلَامُ の名前を思い出せず、「ユースフの父」と言ったのだと述べています。それからかの女は横になり、**アッラーが自分の潔白を明らかにされると確信していました。**ただし、

アッラーが自分についてクルアーンの節を下されるとは思っておらず — アッラーの使徒 ﷺ が何かの夢を見られることを望んでいただけでした。

教訓：**美しい忍耐**（サブルン・ジャミール）とは、人々に不平を言わず、事をアッラーに委ねる忍耐です。誰も自分を信じてくれないときの、不当に扱われた者の武器なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

信者の事柄のすばらしさ

アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。「**信者の事柄はなんとすばらしいことか。そのすべての事柄がかれにとって善いのである。そしてそれは信者以外の誰にも当てはまらない。もし良いことがあれば感謝し、それがかれにとって善い。もし災難に遭えば忍耐し、それがかれにとって善いのである。**」（『サヒーフ・ムスリム』2999）。

アーイシャはイフクの試練の間ずっと、このハディースを生きました。中傷されたときには忍耐し、潔白が下されたときには**ただアッラーだけに感謝しました**。これこそがアッラーの御言葉の秘密です。「それをあなたがたにとって悪いことだと思ってはならない。いや、それはあなたがたにとって善いことなのである」（24:11）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

啓示が下る：天からの潔白

アッラーの使徒 ﷺ がまだ座った場所から立ち上がらず、家の中の誰もまだ出て行かないうちに、**啓示が下りました**。アーイシャはこう描いています。使徒は啓示を受けるときのいつもの重い状態に包まれ、寒い日であったのに**真珠のような汗の玉**が流れ落ちたのです。

啓示が終わると、使徒は微笑まれ、最初に口にされた言葉はこうでした。「**アーイシャよ、アッラーがあなたの潔白を明らかにされた。**」 母は言いました。「立って使徒のところへ行き（感謝し）なさい。」アーイシャは答えました。「**アッラーにかけて、私は使徒のところへ立って行きはしません。私はアッラー以外の誰も讃えません。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

アッラーは光章の十の節（24:11–20）を下されました。その始まりは：「**それをあなたがたにとって悪いことだと思ってはならない。いや、それはあなたがたにとって善いことなのである**」光章 24:11（イブン・カスィール注釈）。

これほど辛い中傷が、どうして「**あなたがたにとって善いこと**」になり得るのでしょうか。イブン・カスィールは説明します。それはアーイシャとその家族に**大きな報奨**をもたらし、審判の日まで読誦されるクルアーンの中に**永遠の潔白**を記し、そして時の終わりまでウンマの名誉を守る**法規定**をもたらしたからです。

節	主な内容
24:11	中傷を広めたのは小さな一団；それはあなたがたにとって善いこと
24:12–13	良い推測；四人の証人を求める
24:14–15	舌で受け取る；小さなことだと思う
24:16–18	「このことを口にするのは私たちにふさわしくない」；繰り返すなとの警告
24:19–20	醜聞を広めることを好む者への警告

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

良い推測と四人の証人

潔白の後の最初の節は、信者たちの知らせの受け取り方を戒めています。「**あなたがたがそれを聞いた時、なぜ信者の男も女も、自分たち自身について良く思わなかったのか**」光章 24:12（イブン・カスィール注釈）。

「**自分たち自身について**」という表現に注目してください。クルアーンは、信仰の兄弟は**私たち自身**のようなものだと教えています。他の人に自分のことをどう思ってほしいか — そのように私たちも他の人のことを思うべきなのです。

スィーラの注：アブー・アイユーブとウンム・アイユーブ

イブン・イスハークは、ウンム・アイユーブが夫の**アブー・アイユーブ・アル＝アンサーリー** رضي الله عنه にこう尋ねたと伝えています。「人々がアーイシャについて言っていることを聞きましたか。」かれは答えました。「ああ、そしてそれは嘘だ。ウンム・アイユーブよ、あなた自身ならそんなことをするか。」かの女は答えました。「いいえ、アッラーにかけて。」アブー・アイユーブは言いました。「**それならアーイシャは、アッラーにかけて、あなたよりもすぐれている。**」

これは 24:12 の節の生きた手本です — 他の人を自分自身で量り、良く推測するのです。この話はスィーラ書と注釈書で有名ですが、『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』にはありません。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・カスィール注釈（光章 24:12）。https://tafsir.app/ibn-katheer/24/12

次の節（24:13）は問いかけます。なぜかれらは**四人の証人**を連れて来なかったのか。姦通の告発は名誉に対する最も重い告発であり、だからこそイスラームは最も厳しい証拠の条件を定めたのです。その証拠がなければ、告発した者自身が、アッラーのもとで**嘘つきとみなされます**。

教訓：**良い推測**は中傷を止める第一歩であり、**証拠**は第二歩です。証拠なしに告発する者こそが罪を負うのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

知らせを受け取る舌

クルアーンは、中傷がどのように広まるかを、きわめて的確な描写で示しています。**「見なさい。あなたがたは舌先でそれを受け止め、またあなたがたの口は、自分の知らないことを言った。そしてアッラーの御目には重大なことを、軽く考えていた。」**光章 24:15（イブン・カスィール注釈）。

注目してください。その知らせは耳ではなく**舌で受け取られた**のです。まるで**理性を通らずに**舌から舌へと移って行ったかのようです。アーイシャ自身はこの節を**「ティリクーナフ」**という読み方で読み、その意味は**「あなたがたが偽りを言う」**だと言いました（『サヒーフ・ブハーリー』4144）。

「あなたがたはそれを聞いた時、何故こう言わなかったのか。『これはわたしたちの口にすべきことではない。アッラーに讃えあれ。これは大変な中傷である。』」光章 24:16（イブン・カスィール注釈）。

過ち	24:15 の節による
舌で受け取る	考えずに繰り返す
知識なしに話す	真偽のわからないことを広める
小さなことだと思う	「人の言ったことを繰り返しただけだ」
アッラーのもとでは大きなこと	非常に重い罪

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

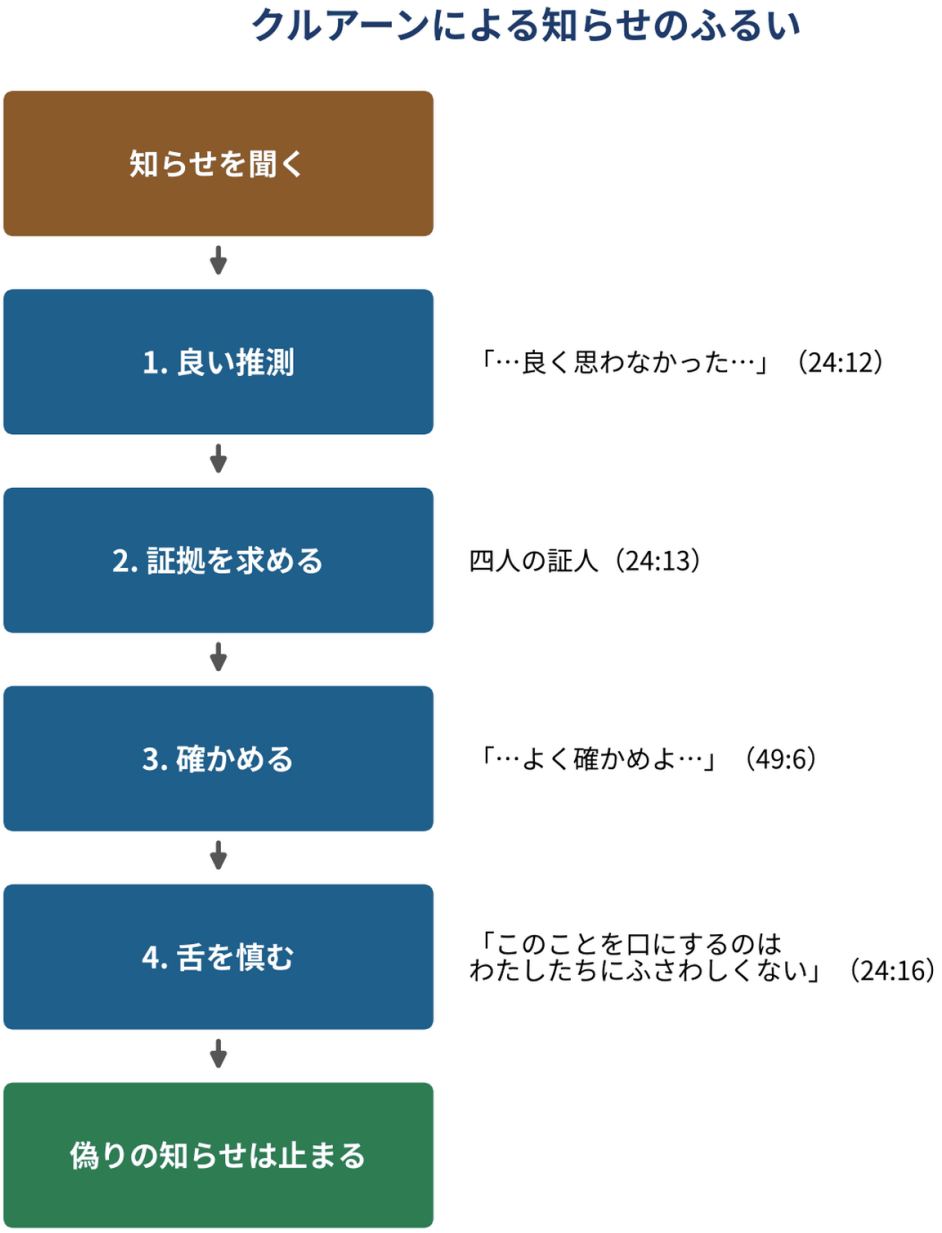


図 3：クルアーンによる知らせのふるい。

教訓：証拠もなく兄弟の悪い話を聞いたとき、クルアーンが教える態度は**自分のところでそれを止める**ことです — たとえ一人の友人にでも、それを広めないことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

中傷（カザフ）の刑罰

イフク事件はまた、**カザフの刑罰** — 名誉を守っている女性（または男性）を十分な証拠なしに姦通で告発した者への刑罰 — が執行されるきっかけともなりました。アッラーは光章の初めで仰せられます：

「貞節な女を非難して 4 名の証人を上げられない者には、80 回の鞭打ちを加えなさい。決してこんな者の証言を受け入れてはならない。かれらは主の掟に背く者たちである。」光章 24:4（イブン・カスィール注釈）。

アーイシャ رضي الله عنها は言いました。**「私の潔白が下ったとき、預言者 ﷺ は説教壇に上り、そのことを述べてクルアーンを読誦された。説教壇から降りると、二人の男と一人の女に刑罰（ハッド）を科すよう命じられた。」**（『スナン・アビー・ダーウード』4474、アル＝アルバーニーはハサンと評価）。スィーラ書はかれらの名を挙げています。**ミスタフ・ブン・ウサーサ、ハッサーン・ブン・サービト、ハムナ・ビント・ジャフシュ**です。

スィーラの注：イブン・ウバイはどうなったのか

学者たちは、アブドゥッラー・ブン・ウバイにも刑罰が科されたかどうかについて意見が分かれています。一部の伝承はかれが鞭打たれたと述べ、別の伝承はそうではないとしています。イブン・カスィールやその他の学者は、かれに約束された**大きな懲罰**（24:11）は来世でのものであると述べています。かれこそが中傷において**「その大部分を引き受けた者」**だったからです。

参照：

イブン・カスィール注釈（光章 24:4、11）；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』。https://tafsir.app/ibn-katheer/24/4

カザフの刑罰	その英知
八十回の鞭打ち	根拠のない告発から人々の名誉を守る
証言が退けられる	告発者は社会の信頼を失う

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カザフの刑罰	その英知
放埒な者とみなされる	証拠なしの告発は大罪
悔悟は受け入れられる（24:5）	アッラーへの帰り道は開かれたまま

教訓：イスラームは人間の**名誉**を、生命や財産と同じように重く見ています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクルとミスタフ：赦し

ミスタフ・ブン・ウサーサはアブー・バクル رضى الله عنه の貧しい親族で、アブー・バクルはいつもかれの**生活を支えて**いました。そのミスタフがアブー・バクル自身の娘に対する中傷を広めるのに加わったとき、アブー・バクルは誓いました。「アッラーにかけて、もう二度とミスタフに何も与えない。」そこでアッラーは次の節を下されました（『サヒーフ・ブハーリー』4141）：

「かれらを許し、大目に見てやれ。あなたがたは、アッラーがあなたがたを御赦し下さることを望まないのか。本当にアッラーは寛容にして慈悲深い方であられる」 光章 24:22（イブン・カスィール注釈）。

アブー・バクルはすぐに答えました。**「いや、アッラーにかけて、私はアッラーが私を赦してくださることを望みます。」** そしてかれは以前のようにミスタフへの援助を再開し、こう言いました。「アッラーにかけて、私はもう決してこれをやめない。」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。

想像してみてください。自分の娘が最も醜い告発で中傷された父親、しかもそれが自分の援助していた親族によってだったのです。それでもアッラーが**「あなたがたは、アッラーがあなたがたを赦されることを望まないのか」**と問われたとき、かれはためらいませんでした。だからこそアブー・バクルは**アッ＝スィッディーク（真実の人）**と呼ばれるのです。

教訓	24:22 の節から
過ちのために善行をやめない	過ちを犯した親族でも援助を続ける
許し、大目に見る	「かれらを許し、大目に見てやれ」
ふさわしい報い	人を赦す者は、アッラーに赦される
ミスタフはバドルの戦士	過ちが善行のすべてを消し去るわけではない

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓：**自分を傷つけた人を赦すこと**は、アッラーの赦しへの道です。学者たちはこの節を、クルアーンの中で最も希望を与える節の一つとしてしばしば挙げています。

ハッサーン・ブン・サービトとアーイシャ

ハッサーン・ブン・サービト رضى الله عنه は、詩によってイスラームを擁護したアッラーの使徒ﷺの詩人でした（第 13 巻）。残念ながら、かれはイフクの中傷に影響された者の一人でした。その後、アーイシャはかれに対してどのような態度をとったのでしょうか。マスルークはこう語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4146 番

حَدَّثَنِي بِشْرُ بْنُ خَالِدٍ، أَخْبَرَنَا مُحَمَّدُ بْنُ جَعْفَرٍ، عَنْ شُعْبَةَ، عَنْ سُلَيْمَانَ، عَنْ أَبِي الضُّحَى، عَنْ مَسْرُوقٍ، قَالَ دَخَلْنَا عَلَى عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ وَعِنْدَهَا حَسَّانُ بْنُ ثَابِتٍ يُنْشِدُهَا شِعْرًا، يُشَبِّبُ بِأَبْيَاتٍ لَهُ وَقَالَ: حَصَانٌ رَزَانٌ مَا تُزَنُّ بِرِيبَةٍ وَتُصْبِحُ غَرْثَى مِنْ لُحُومِ الْغَوَافِلِ فَقَالَتْ لَهُ عَائِشَةُ لَكِنَّكَ لَسْتَ كَذَلِكَ. قَالَ مَسْرُوقٌ فَقُلْتُ لَهَا لِمَ تَأْذَنِينَ لَهُ أَنْ يَدْخُلَ عَلَيْكِ. وَقَدْ قَالَ اللَّهُ تَعَالَى {وَالَّذِي تَوَلَّى كِبْرَهُ مِنْهُمْ لَهُ عَذَابٌ عَظِيمٌ}. فَقَالَتْ وَأَىُّ عَذَابٍ أَشَدُّ مِنَ الْعَمَى. قَالَتْ لَهُ إِنَّهُ كَانَ يُنَافِحُ ـ أَوْ يُهَاجِي ـ عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم.

訳：

マスルークは言った：**私たちがアーイシャ** رضى الله عنها **のもとを訪ねると、そのそばにハッサーン・ブン・サービトがいて、かの女のために詩を吟じ、その詩句でかの女を称えていた。「慎み深く落ち着いた女性、いかなる疑いもかけられず、朝には油断した女たちの肉に飢えている（陰口を言わない）。」** アーイシャはかれに言った。**「でもあなたはそうではありませんでした。」** マスルークは言った：私はかの女に尋ねた。「アッラーが『その大部分を引き受けた者には、大きな懲罰がある』と仰せられたのに、なぜかれがあなたのもとに入るのを許すのですか。」かの女は答えた。「盲目になること以上に重い懲罰があるでしょうか。」そしてこう言った。**「まことにかれは、かつて（詩によって）アッラーの使徒ﷺを擁護していたのです。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ビシュル・ブン・ハーリド ← ムハンマド・ブン・ジャアファル（グンダル） ← シュウバ ← スライマーン・アル＝アアマシュ ← アブー・アッ＝ドゥハー ← マスルーク ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、イフクのハディースの章、ハディース第 4146 番；第 4755〜4756 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 2488 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4146

ハッサーンはアーイシャを、油断した女たちの**肉を食べない** — すなわち陰口を言わない — 女性として称えました。アーイシャは穏やかに答えました。「**でもあなたはそうではありませんでした**」 — かれの以前の過ちを思い出させたのです。それでもかの女はかれを**受け入れ**、かばいました。アッラーの使徒 ﷺ を擁護したハッサーンの功績のためです。

別の伝承でウルワは言いました。「私がアーイシャの前でハッサーンをののしろうとすると、かの女は言った。『**かれをののしってはいけません。かれはかつてアッラーの使徒 ﷺ を擁護していたのですから。**』」（『サヒーフ・ブハーリー』4145）。

教訓：アーイシャは中傷の被害者でしたが、**恨みを抱きません**でした。かの女はハッサーンを公平に評価しました — その過ちを認めつつ、その功績を忘れなかったのです。これこそ心の清らかな人の品性です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

二度目の首飾りとタヤンムムの節

アーイシャの首飾りは、今度は別の旅において、再びアッラーの法規定が下る原因となりました。学者たちは、この出来事が同じ旅で起きたのか別の旅で起きたのかについて意見が分かれていますが、どちらも**アブー・バクルの家族の祝福**を示しています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 334 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، قَالَ أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ الْقَاسِمِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ، زَوْجِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَتْ خَرَجْنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي بَعْضِ أَسْفَارِهِ، حَتَّى إِذَا كُنَّا بِالْبَيْدَاءِ ـ أَوْ بِذَاتِ الْجَيْشِ ـ انْقَطَعَ عِقْدٌ لِي، فَأَقَامَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى الْتِمَاسِهِ، وَأَقَامَ النَّاسُ مَعَهُ، وَلَيْسُوا عَلَى مَاءٍ، فَأَتَى النَّاسُ إِلَى أَبِي بَكْرٍ الصِّدِّيقِ فَقَالُوا أَلاَ تَرَى مَا صَنَعَتْ عَائِشَةُ أَقَامَتْ بِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَالنَّاسِ، وَلَيْسُوا عَلَى مَاءٍ، وَلَيْسَ مَعَهُمْ مَاءٌ. فَجَاءَ أَبُو بَكْرٍ وَرَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَاضِعٌ رَأْسَهُ عَلَى فَخِذِي قَدْ نَامَ فَقَالَ حَبَسْتِ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَالنَّاسَ، وَلَيْسُوا عَلَى مَاءٍ، وَلَيْسَ مَعَهُمْ مَاءٌ. فَقَالَتْ عَائِشَةُ فَعَاتَبَنِي أَبُو بَكْرٍ، وَقَالَ مَا شَاءَ اللَّهُ أَنْ يَقُولَ، وَجَعَلَ يَطْعُنُنِي بِيَدِهِ فِي خَاصِرَتِي، فَلاَ يَمْنَعُنِي مِنَ التَّحَرُّكِ إِلاَّ مَكَانُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عَلَى فَخِذِي، فَقَامَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم حِينَ أَصْبَحَ عَلَى غَيْرِ مَاءٍ، فَأَنْزَلَ اللَّهُ آيَةَ التَّيَمُّمِ فَتَيَمَّمُوا. فَقَالَ أُسَيْدُ بْنُ الْحُضَيْرِ مَا هِيَ بِأَوَّلِ بَرَكَتِكُمْ يَا آلَ أَبِي بَكْرٍ. قَالَتْ فَبَعَثْنَا الْبَعِيرَ الَّذِي كُنْتُ عَلَيْهِ، فَأَصَبْنَا الْعِقْدَ تَحْتَهُ.

訳：

預言者 رضى الله عنها の妻アーイシャ ﷺ は言った：**私たちはアッラーの使徒 ﷺ のある旅にお供して出かけた。アル＝バイダー — あるいはザート・アル＝ジャイシュ — に着いたとき、私の首飾りが切れてしまった。アッラーの使徒 ﷺ はそれを探すために止まられ、人々も使徒と共に止まったが、そこは水場ではなかった。** 人々はアブー・バクル・アッ＝スィッディークのもとに来て言った。「アーイシャのしたことを見ないのですか

.....」アブー・バクルは、アッラーの使徒 ﷺ が私の太ももに頭を載せて眠っておられるところに来て、私を叱り、手で私の脇腹をつついた。アッラーの使徒 ﷺ の頭が私の太ももの上にあったから、私は身動きしなかったのである。アッラーの使徒 ﷺ は水のないまま朝を迎えられた。**するとアッラーはタヤンムムの節を下され**、人々はタヤンムムを行った。ウサイド・ブン・フダイルは言った。「**アブー・バクルの家族よ、これはあなた方の最初の祝福ではない。**」 アーイシャは言った：私たちが私の乗っていたラクダを立たせると、その下に首飾りがあった。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← マーリク・ブン・アナス ← アブドゥッラフマーン・ブン・アル＝カースィム ← 父 アル＝カースィム・ブン・ムハンマド ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』タヤンムムの書、ハディース第 334 番；第 4607 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 367 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:334

下された節は食卓章（および女性章 4:43）のタヤンムムの節です。「**水を見つけられない場合は、清い土で（タヤンムムして）**」食卓章 5:6（イブン・カスィール注釈）。

ウサイド・ブン・フダイルの言葉 — 「**アブー・バクルの家族よ、これはあなた方の最初の祝福ではない**」 — は、教友たちがアーイシャの出来事をどう見ていたかを示しています。個人的な苦労から、**ウンマ全体のための容易さ**が生まれたのです。今日に至るまで、病気のムスリムや水を見つけられないムスリムは、アーイシャの首飾りのおかげでタヤンムムを行っているのです。

教訓：アッラーは**困難を容易さへの道**とされます。「それをあなたがたにとって悪いことだと思ってはならない。いや、それはあなたがたにとって善いことなのである」（24:11）。

アーイシャの栄誉

これほど重い中傷の後、アッラーとその使徒 ﷺ は、さまざまな形で**アーイシャの栄誉**を明らかにされました。その一つが、ジブリールご自身からの挨拶です：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3768 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ يُونُسَ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ أَبُو سَلَمَةَ إِنَّ عَائِشَةَ رضى الله عنها ـ قَالَتْ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمًا يَا عَائِشُ، هَذَا جِبْرِيلُ يُقْرِئُكِ السَّلاَمَ. فَقُلْتُ وَعَلَيْهِ السَّلاَمُ وَرَحْمَةُ اللَّهِ وَبَرَكَاتُهُ، تَرَى مَا لاَ أَرَى. تُرِيدُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った：**ある日、アッラーの使徒 ﷺ は仰せられた。「アーイシュよ、こちらはジブリールで、あなたに挨拶（サラーム）を送っている。」** 私は答えた。「**ワ・アライヒッ・サラーム・ワ・ラフマトゥッラーヒ・ワ・バラカートゥフ（かれの上にも平安とアッラーの慈悲と祝福がありますように）。」** あなたは私の見ないものを見ておられます — アッラーの使徒 ﷺ のことである。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アル＝ライス・ブン・サアド ← ユーヌス・ブン・ヤズィード ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アブー・サラマ ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友たちの美徳の書、アーイシャの美徳の章、ハディース第 3768 番；『サヒーフ・ムスリム』第 2447 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3768

アッラーの使徒 ﷺ はまた仰せられました。**「他の女性たちに対するアーイシャのすぐれた点は、他の食べ物に対するサリードのすぐれた点のようである」**（『サヒーフ・ブハーリー』3770）。サリードとは、パンを肉のスープに浸した料理で、当時のアラブ人に最も好まれたものです。

「私は、忘れ去られたものであればよかった」

しかしアーイシャ自身はいつも**謙虚**でした。何十年も後、かの女が死を目前にしていたとき、イブン・アッバースが見舞いに訪れました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4753 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا يَحْيَى، عَنْ عُمَرَ بْنِ سَعِيدِ بْنِ أَبِي حُسَيْنٍ، قَالَ حَدَّثَنِي ابْنُ أَبِي مُلَيْكَةَ، قَالَ اسْتَأْذَنَ ابْنُ عَبَّاسٍ قَبْلَ مَوْتِهَا عَلَى عَائِشَةَ، وَهْىَ مَغْلُوبَةٌ قَالَتْ أَخْشَى أَنْ يُثْنِيَ عَلَىَّ. فَقِيلَ ابْنُ عَمِّ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَمِنْ وُجُوهِ الْمُسْلِمِينَ. قَالَتِ ائْذَنُوا لَهُ. فَقَالَ كَيْفَ تَجِدِينَكِ قَالَتْ بِخَيْرٍ إِنِ اتَّقَيْتُ. قَالَ فَأَنْتِ بِخَيْرٍ ـ إِنْ شَاءَ اللَّهُ ـ زَوْجَةُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَلَمْ يَنْكِحْ بِكْرًا غَيْرَكِ، وَنَزَلَ عُذْرُكِ مِنَ السَّمَاءِ. وَدَخَلَ ابْنُ الزُّبَيْرِ خِلاَفَهُ فَقَالَتْ دَخَلَ ابْنُ عَبَّاسٍ فَأَثْنَى عَلَىَّ وَوَدِدْتُ أَنِّي كُنْتُ نِسْيًا مَنْسِيًّا.

訳：

イブン・アビー・ムライカは言った：**イブン・アッバースは、アーイシャが亡くなる前、病が重かったときに、見舞いのための許しを求めた。アーイシャは言った。「かれが私を褒めるのではないかと心配です。」** かの女にこう言われた。「かれはアッラーの使徒 ﷺ のいとこで、ムスリムの重鎮の一人です。」かの女は言った。「では入れてあげなさい。」イブン・アッバースは尋ねた。「ご気分はいかがですか。」かの女は答えた。「良いです、もし私が敬虔であるならば。」イブン・アッバースは言った。**「あなたは善い状態にあります、イン・シャー・アッラー — アッラーの使徒 ﷺ の妻であり、使徒はあなた以外に処女と結婚されたことはなく、**そしてあなたの潔白は天から下されたのです。」 その後イブン・アッ＝ズバイルが入ってくると、アーイシャは言った。「イブン・アッバースが入って来て私を褒めました。でも**私は、すっかり忘れ去られたものであればよかったのに。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝ムサンナー ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝カッターン ← ウマル・ブン・サイード・ブン・アビー・フサイン ← イブン・アビー・ムライカ ← アブドゥッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン注釈の書、光章、ハディース第 4753 番；第 3771 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4753

イブン・アッバースはアーイシャの最大の栄誉を挙げました。「**あなたの潔白は天から下されたのです**」。しかしアーイシャの答えは、かの女の敬虔さを示しています。称賛が誠実さを損なうことを恐れて、褒められるよりも**忘れ去られること**を望んだのです。

アーイシャの栄誉	典拠
天からの潔白	光章 24:11–26
ジブリールからの挨拶	『サヒーフ・ブハーリー』3768
他の食べ物に対するサリードのように	『サヒーフ・ブハーリー』3770
タヤンムムの節が下った原因	『サヒーフ・ブハーリー』334
ハディースを最も多く伝えた人の一人	2,000 以上のハディース（ハディース学の書）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ソーシャルメディア時代の舌

イフクの中傷は、一つの小さな町で口から口へと広まりました。今日、中傷は WhatsApp、Facebook、TikTok を通じて、**数分のうちに何百万人もの人々**に広まり得ます。光章の教えは、かつてないほど重要になっています。アッラーの使徒 ﷺ は、一つの言葉がいかに重いかを思い起こさせてくださいました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 6478 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُنِيرٍ، سَمِعَ أَبَا النَّضْرِ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ - يَعْنِي ابْنَ دِينَارٍ - عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي صَالِحٍ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ إِنَّ الْعَبْدَ لَيَتَكَلَّمُ بِالْكَلِمَةِ مِنْ رِضْوَانِ اللَّهِ لاَ يُلْقِي لَهَا بَالاً، يَرْفَعُ اللَّهُ بِهَا دَرَجَاتٍ، وَإِنَّ الْعَبْدَ لَيَتَكَلَّمُ بِالْكَلِمَةِ مِنْ سَخَطِ اللَّهِ لاَ يُلْقِي لَهَا بَالاً يَهْوِي بِهَا فِي جَهَنَّمَ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう仰せられたと伝えている。「**まことに、しもべはアッラーのお気に召す一つの言葉を、気にも留めずに口にすることがある。するとアッラーはそれによってかれの位階をいくつも高められる。また、しもべはアッラーのお怒りを招く一つの言葉を、気にも留めずに口にすることがある。**するとかれはそれによって地獄に落ちてしまうのである。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムニール ← アブー・アン＝ナドル ← アブドゥッラフマーン・ブン・アブドゥッラー・ブン・ディーナール ← 父 アブドゥッラー・ブン・ディーナール ← アブー・サーリフ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』心を和らげるものの書、舌を守る章、ハディース第 6478 番；『サヒーフ・ムスリム』第 2988 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:6478

アッラーは、あらゆる知らせを確かめるよう命じておられます。**「信仰する者よ、もし邪な者が情報をもたらしたならば、慎重に確かめよ」**部屋章 49:6（イブン・カスィール注釈）。

科学の注：偽りの知らせはより速く広まる

2018 年に学術誌『**サイエンス**』に発表された大規模な研究は、300 万人以上が共有したツイッター上の約 **12 万 6,000 件の情報の連鎖**を分析しました。MIT の研究者たちは、**偽りの知らせは本当の知らせよりも遠くへ、速く、広く広まる**ことを発見しました。偽りの知らせは**再共有される可能性が 70％高く**、本当の知らせが 1,500 人に届くには約 **6 倍の時間**がかかりました（Vosoughi, Roy & Aral, "The spread of true and false news online", Science 359, 2018）。

その研究はまた、偽りの知らせには**驚きと感情**の要素が多く含まれ、それが人々に考えずに共有させることも見いだしました — まさにクルアーンの描写のとおりです。**「あなたがたはそれを自分の舌で受け取り……それを些細なことと思っていた」**（24:15）。クルアーンは 1,400 年前にその治療法を示していました。**良い推測、証拠を求めること、確かめること、そして沈黙**です。

共有する前に	自分に問う
それは本当か	確かな証拠があるか（24:13；49:6）
それは良いことか	誰かの恥をさらすことにならないか（24:19）
それは必要か	「このことを口にするのは私たちにふさわしくない」（24:16）
もしそれが自分のことだったら	「自分たち自身について」良く推測する（24:12）

アッラーの使徒 ﷺ はまた仰せられました。**「聞いたことをすべて話すことは、人が嘘つきであるのに十分である」**（『サヒーフ・ムスリム』序論 5）。教訓：「シェア」ボタンは**現代の舌**であり、私たちはそれについて問われることになるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イフク事件の物語の典拠

イフク事件の物語は、等級の異なる三種類の典拠を通じて私たちに伝わっています。本書は、読者が**何が確かか**と**何が有名か**を知ることができるよう、三つを区別しています：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イフク事件の物語の典拠

クルアーン（6）

- 「力ある者が卑しい者を追い出す」（63:8）
- 偽りの話はあなたがたにとって善いこと（24:11）
- 良い推測と四人の証人（24:12–13）
- 舌と口（24:15–16）
- 中傷の刑罰（24:4）
- ミスタフを赦す（24:22）

真正なハディース（9）

- ムスタリク族への攻撃
- 泉のそばのジャーヒリーヤの呼びかけ
- ザイド・ブン・アルカムの正しさ
- 首飾りの紛失；サフワーン；中傷の拡大
- ウンム・ルーマーン；協議；バリーラ
- ハッサーンとアーイシャ
- タヤンムムの節
- ジブリールの挨拶；イブン・アッバースの称賛
- 中傷の刑罰（アブー・ダーウード — ハサン）

スィーラ書（3）

- 遠征の年代
- マディーナの門でのイブン・ウバイの息子
- アブー・アイユーブとウンム・アイユーブ

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：本書におけるイフク事件の物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
イブン・ウバイの言葉；アーイシャの潔白；カザフ；ミスタフへの赦し	クルアーン（偽信者章 63:8；光章 24:4–26）— 確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	典拠と等級
攻撃；首飾り；サフワーン；中傷；協議；啓示	『サヒーフ・ブハーリー』2541、4141、4143、7370 — サヒーフ
ザイド・ブン・アルカム；ハッサーン；タヤンムム；アーイシャの栄誉	『サヒーフ・ブハーリー』4900、4146、334、3768、3770、4753 — サヒーフ
ジャーヒリーヤの呼びかけ；イブン・ウバイの息子	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3315 — ハサン・サヒーフ；『サヒーフ・ブハーリー』4905
ジュワイリーヤ；三人への刑罰	『スナン・アビー・ダーウード』3931、4474 — ハサン
年代；マディーナの門でのイブン・ウバイの息子；アブー・アイユーブ	スィーラ書（イブン・イスハーク、アル＝ワーキディー）— 有名、伝承経路はさまざま

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

潔白の節：光章 24:11–26

イフクのハディースの中で、アーイシャ رضی الله عنها は、アッラーが「本当にあの虚偽を言い触らした者は……」で始まる十の節を下されたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。そして注釈学者たちは、光章の第 11 節から第 26 節までを、この出来事についての一続きとして論じています。前の章ではその一部を説明しました。下の表は十六の節すべてをまとめ、読者が全体を見渡せるようにしたものです。

節	簡単な意味	本書での箇所
24:11	虚偽を広めたのは小さな一団にすぎない；この出来事は悪いことではなく、むしろあなたがたにとって善いこと	第 8 章、第 14 章
24:12	信者たちは良く推測すべきであった	第 15 章
24:13	なぜ四人の証人を連れて来なかったのか	第 15 章
24:14	もしアッラーの恩恵がなかったなら、あなたがたは大きな懲罰に遭っていた	本章
24:15	知らせを舌で受け取り、それを些細なことと思う	第 16 章
24:16	「このことを口にするのは私たちにふさわしくない」	第 16 章
24:17	アッラーは、二度とこのようなことを繰り返さないよう諭される	本章
24:18	アッラーはご自分の節を明らかにされる	本章
24:19	信者の間に醜い行いが広まることを好む者には痛ましい懲罰	第 22 章、本章
24:20	懲罰を防ぐアッラーの慈悲	本章
24:21	悪魔の足跡に従うな；アッラーの恩恵なしには誰も清くなれない	本章
24:22	許し、心を広く持つ	第 18 章
24:23	身持ちの正しい、何も知らない信者の女性を告発する者は、現世と来世で呪われる	本章、質問 9〜10

節	簡単な意味	本書での箇所
24:24	舌も手も足も証言する	本章
24:25	アッラーは公正に報いを全うされる	本章
24:26	善い者は善い者に；かれらは告発から潔白である	質問 6

悪魔の足跡

第 21 節は警告します。「あなたがた信仰する者よ、悪魔の足跡に従ってはならない」（光章 24:21）。中傷が大きな嘘から始まることはまれです。それは小さな一歩から始まります。ささやき、「本当なの？」と尋ね、それから他の人に繰り返すのです。一歩一歩は取るに足らないように見えますが、最後には大きな罪へと導きます。同じ節は、アッラーの恩恵なしには誰一人清くなれないことも思い起こさせます。ですから、つまずいた人よりも自分の方が清いと思う余地はないのです。

身体が証人となる

第 23 節から第 25 節は、最も重い警告でこの一続きを締めくくります。名誉を守り、その醜い行いが心をよぎることさえない信者の女性を告発する者は、現世でも来世でも呪われます。審判の日には、告発したその舌そのものが、持ち主に不利な証人となるのです（光章 24:23–25）。

ハディース：人を滅ぼす七つの罪

アブー・フライラ رضي الله عنه は、預言者 ﷺ がこう仰せられたと伝えています。「人を滅ぼす七つのことを避けなさい。」教友たちは尋ねました。「アッラーの使徒よ、それは何ですか。」使徒は、多神崇拝、魔術、アッラーが禁じた命を殺すこと、利息を食らうこと、孤児の財産を食らうこと、戦場から逃げること、そして「身持ちの正しい、何も知らない信者の女性たちを（姦通で）告発すること」を挙げられました。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』2766；『サヒーフ・ムスリム』89 にも。

教訓

これら十六の節は、一人の尊い女性の名を清めるだけのものではありません。それはウンマ全体のための舌の法を示しています。良く推測すること、証拠を求めること、悪い知らせを自分のところで止めること、恥がさらされるのを好まないこと、赦すこと、そして自分の舌が自分に不利な証人となることを常に忘れないことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

光章：社会の名誉を守る砦

イフクの節は、名誉を守るための法規定に満ちた光章のちょうど中ほどにあります。この出来事の後、クルアーンは中傷を広めた者を罰するだけでなく、中傷が起こりにくくなるよう垣根を築きました。原則は簡単です。泥棒が入る前に戸を閉めることです。

節	規定	築かれた砦
24:2	姦通の刑罰	醜い行いそのものを厳しく防ぐ
24:4–5	カザフの刑罰（第 17 章）	証拠のない告発は罰せられる
24:27–29	他人の家に入る前に許しを求め、挨拶する	家庭のプライバシーを守る
24:30	男性は視線を下げる	中傷への最初の扉を閉じる
24:31	女性は視線を下げ、身体を覆う	自らの名誉を守る
24:32	結婚の奨励	自然な欲求を正しく満たす
24:58–59	自宅の中でも、身体を覆わない三つの時間には許しを求める	家族の中の作法

ハディース：許しを求めるのは視線のため

サフル・ブン・サアド رضي الله عنه は、ある男が預言者 ﷺ の家の戸の穴から中をのぞいたと伝えています。使徒は仰せられました。「もしあなたがのぞいているとわかっていたら、これであなたの目を突いていたであろう。許しを求めることは、まさに視線のために定められたのである。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』6241。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：547 / 567

ハディース：三度許しを求める

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه はウマル رضى الله عنه の家に来て三度挨拶をしましたが、返事がなかったので帰りました。ウマルがなぜ帰ったのかと尋ねると、アブー・ムーサーは、アッラーの使徒 ﷺ がこう仰せられたと言いました。「あなた方の誰かが三度許しを求めて許されなければ、帰りなさい。」ウマルは証拠を求め、別の教友がそのハディースを確認しました。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』6245；『サヒーフ・ムスリム』2153 にも。

ウマルの態度に注目してください。かれは、偉大な教友からの知らせであっても、確かめられるまで受け入れませんでした。これは光章と同じ精神です — あらゆる知らせは確かめられるべきであり、あらゆる家は尊重されるべきなのです。

教訓

イスラームは中傷が起きるのを待ってから動くのではありません。初めから作法を築くのです。許しを求めること、視線を下げること、身体を覆うこと、そして結婚を容易にすることです。これらの作法を守る社会は、イフクのような中傷からよりよく守られます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イフク事件の人物

イフクのハディースには、それぞれ異なる役割を持つ多くの人物が登場します。下の表は、かれらをその部族と典拠とともにまとめたものです。主な人物の部族を理解することは大切です。モスクでの緊張（第 12 章）はアウス族とハズラジュ族の間で起きたからです。

人物	部族／関係	役割	典拠
アーイシャ・ビント・アビー・バクル رضی الله عنها	クライシュ族（タイム家）；その夫は預言者 ﷺ	中傷の被害者；クルアーンによって潔白とされた	ブハーリー 4141；光章 24:11–26
アブー・バクル・アッ＝スィッディーク رضی الله عنه	クライシュ族（タイム家）；アーイシャの父	耐え忍び、のちにミスタフを赦した	ブハーリー 4141；光章 24:22
ウンム・ルーマーン رضی الله عنها	アーイシャの母	娘をなだめた	ブハーリー 4143
サフワーン・ブン・アル＝ムアッタル رضی الله عنه	スライム族（アッ＝ザクワーニー）	軍の後方の見回り役；アーイシャを連れ帰った；のちにアッラーの道で殉教	ブハーリー 4141
アリー・ブン・アビー・ターリブ رضی الله عنه	クライシュ族（ハーシム家）	相談を受け、家の召使いに尋ねるよう勧めた	ブハーリー 4141
ウサーマ・ブン・ザイド رضی الله عنهما	ザイド・ブン・ハーリサの息子	相談を受け、「私たちは良いこと以外何も知りません」	ブハーリー 4141
バリーラ رضی الله عنها	家の召使い	アーイシャの善良さを証言した	ブハーリー 4141（その名についてはイブン・ハジャルが論じている）

人物	部族／関係	役割	典拠
ザイナブ・ビント・ジャフシュ رضی الله عنها	信者たちの母；アサド・ブン・フザイマ族；そのいとこは預言者 ﷺ	共妻に対してさえ舌を慎んだ	ブハーリー 4141
ハムナ・ビント・ジャフシュ	ザイナブの姉妹	姉妹をかばおうとして影響された	ブハーリー 4141
サアド・ブン・ムアーズ رضی الله عنه	アウス族の長（アブドゥルアシュハル家）	モスクで弁護を申し出た	ブハーリー 4141（イブン・イスハークはウサイドとする；第 2 章参照）
サアド・ブン・ウバーダ رضی الله عنه	ハズラジュ族の長（サーイダ家）	部族意識に流されて反論した	ブハーリー 4141
ウサイド・ブン・フダイル رضی الله عنه	アウス族（アブドゥルアシュハル家）；サアド・ブン・ムアーズのいとこ	サアド・ブン・ウバーダに言い返した	ブハーリー 4141
ウンム・ミスタフ	クライシュ族；その母はアブー・バクルのおば	思いがけずアーイシャに知らせた；息子をののしった	ブハーリー 4141
ミスタフ・ブン・ウサーサ	クライシュ族（アブドゥ・マナーフの子ムッタリブ家）；バドルの戦士	影響された；刑罰を受けた；アブー・バクルに赦された	ブハーリー 4141；アブー・ダーウード 4474
ハッサーン・ブン・サービト رضی الله عنه	ハズラジュ族（ナッジャール家）；詩人として仕えたのはアッラーの使徒 ﷺ	影響された；のちにアーイシャを称えた	ブハーリー 4141、4146

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	部族／関係	役割	典拠
アブドゥッラー・ブン・ウバイ・ブン・サルール	ハズラジュ族（アウフ家）；偽信者たちの頭	火付け役であり主な拡散者	ブハーリー 4141；光章 24:11

スィーラの注：サアド・ブン・ムアーズか、ウサイド・ブン・フダイルか

ブハーリーの伝承では、最初に立ち上がって弁護を申し出たのはサアド・ブン・ムアーズです。一方イブン・イスハークの伝承では、それはウサイド・ブン・フダイルです。この違いは遠征の年代をめぐる議論（第 2 章）と密接に関係しています。サアド・ブン・ムアーズはクライザ族の出来事の後に亡くなったからです。イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』でこれを論じ、ブハーリーの伝承を支持しています。二人ともアウス族です。

参照：イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』（ハディース第 4141 番）；イブン・ヒシャーム『預言者伝』。

サフワーン：「私は一人の女性の衣も開いたことがない」

イフクのハディースの終わりで、アーイシャは、告発されたその男サフワーンがこう言ったと述べています。「スブハーナッラー！ 私の魂をその御手に握られる方にかけて、私は一人の女性の衣も開いたことがない。」アーイシャは言いました。「その後、かれはアッラーの道で殺された」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。こうして、かつて名を汚されたサフワーンは、殉教者としてその生涯を閉じたのです。

教訓

この出来事には、善良な人々、つまずいた人々、そして一人の偽信者が関わっています。クルアーンとハディースは、部族や地位によってではなく、その行いによっ

て一人ひとりを評価します。バドルの戦士でさえ過ちを犯すことがあり、悔悟の門は常に開かれているのです。

試練の後のアーイシャ：ウンマの師

イフクの中傷は、アーイシャ رضی الله عنها の光を消しはしませんでした。むしろその試練の後、かの女は半世紀近くにわたって、ウンマの師として生き続けたのです。偉大な教友たちがかの女に教えを求め、タービウーン（教友の次の世代）はかの女から学びました。

ハディース：かの女の掛け布の中で下った啓示

ウンム・サラマ رضی الله عنها は、使徒の妻たちからの一つの願いをアッラーの使徒 ﷺ に伝えました。使徒は仰せられました。「アーイシャのことで私を苦しめてはならない。アッラーにかけて、あなた方のうち、かの女以外の女性の掛け布の中にいるときに、啓示が私に下ったことはないのだ。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』3775。

ハディース：現世でも来世でも預言者の妻

アンマール・ブン・ヤースィル رضی الله عنهما はアーイシャについてこう言いました。「まことにかの女は、現世でも来世でも、あなた方の預言者の妻である。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』3772。

ハディース：教友たちはアーイシャに尋ねた

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضی الله عنه は言いました。「私たちアッラーの使徒 ﷺ の教友たちが、あるハディースについてわからないことがあってアーイシャに尋ねると、必ずかの女のもとにそれについての知識を見いだしたものだ。」

等級：アッ＝ティルミズィーによればハサン・サヒーフ・ガリーブ — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3883。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

分野	アーイシャの貢献	典拠
ハディース	ハディースを最も多く伝えた人の一人（第 21 章）	ハディース学の書
フィクフ（法学）	法規定、特に家庭と女性の事柄における教友たちの拠り所	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3883
クルアーン注釈	節の意味を説明した。「ティリクーナフ」の読み方を含む（第 16 章）	『サヒーフ・ブハーリー』4144
歴史と詩	ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルは、クルアーン、遺産分割、合法と禁止、詩、アラブの歴史についてのかの女の知識を称えた	伝記の書（アッ＝ザハビー『スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー』）
逝去	ヒジュラ暦 57 年または 58 年のラマダーン月、マディーナにて；アル＝バキーウに埋葬	伝記の書；年代には諸説あり

教訓

最も苦い試練が、必ずしも終わりになるわけではありません。アーイシャはアッラーによって潔白とされ、その生涯を教えることに捧げました。今日中傷を受けている人は誰でも、ここから手本を得ることができます。自分の名の弁護をアッラーに委ね、善い行いを続けることです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イフク事件の年表

ムスタリク族の遠征の年代には諸説あります（第 2 章）。イブン・サアドによればヒジュラ暦 5 年シャアバーン月で、イブン・ハジャルもこれを支持しています。あるいはイブン・イスハークによれば 6 年シャアバーン月です。下の出来事の順序は真正なハディースに基づいています。ハディースに記されていない期間は、スィーラ書の伝承として示しています。

番号	出来事	典拠
1	アッラーの使徒 ﷺ がムスタリク族に向けて出発；くじによりアーイシャが同行	ブハーリー 4141
2	アル＝ムライスィーウでの攻撃；ムスタリク族の敗北	ブハーリー 2541
3	ジュワイリーヤが解放され結婚；その一族の捕虜が解放される	アブー・ダーウード 3931
4	泉のそばでの争い；ジャーヒリーヤの呼びかけ	ブハーリー 4905；ティルミズィー 3315
5	イブン・ウバイの言葉；ザイド・ブン・アルカムの報告；偽信者章が下る	ブハーリー 4900
6	帰路；マディーナの近くで夜営；首飾りの紛失	ブハーリー 4141
7	朝、サフワーンがアーイシャを見つけ、一行のもとへ連れて行く	ブハーリー 4141
8	マディーナに到着；中傷が広まり始める；アーイシャが一か月病に伏す	ブハーリー 4141
9	アーイシャがウンム・ミスタフから中傷を知る	ブハーリー 4141
10	アーイシャが両親の家に帰る；それを許されたのはアッラーの使徒 ﷺ	ブハーリー 4141
11	アッラーの使徒 ﷺ がアリーとウサーマに相談；バリーラとザイナブに尋ねる	ブハーリー 4141
12	モスクでの説教；アウス族とハズラジュ族の間の緊張	ブハーリー 4141

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

番号	出来事	典拠
13	啓示のない一か月；アーイシャが二晩と一日泣き続ける	ブハーリー 4141
14	アーイシャの潔白を明らかにする啓示が下る（光章 24:11–26）	ブハーリー 4141
15	カザフの刑罰が執行される	アブー・ダーウード 4474
16	アブー・バクルがミスタフへの援助を再開	ブハーリー 4141；光章 24:22

教訓

年表は、中傷が一か月以上続き、その間ずっとアッラーの使徒 ﷺ が証拠なしには行動されなかったことを示しています。使徒は尋ね、協議し、アッラーの裁定を待たれました。真実を求める忍耐は、急いで裁くことよりもすぐれているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イフク事件についてのよくある質問

1. なぜ啓示は一か月も遅れたのですか。

ハディースはその理由をはっきりとは述べていません。イブン・アル＝カイイムが『ザード・アル＝マアード』で述べているように、学者たちはいくつかの英知を挙げています。信者たちを試すこと、偽信者が誰かを明らかにすること、アッラーの使徒 ﷺ が私欲から語るのではないことを示すこと、そして潔白が天から完全な形で下るためです。これは学者たちの見解であり、聖典の明文ではありません。

2. アッラーの使徒 ﷺ はアーイシャを疑われたのですか。

使徒は説教壇の上で仰せられました。「アッラーにかけて、私は自分の家族について良いこと以外何も知らない」（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。使徒は、啓示されたこと以外の見えない事柄を知らない一人の人間であったため、証拠なしには何も決められず、アッラーの裁定を待たれたのです。

3. なぜアーイシャは「私はアッラー以外の誰も讃えません」と言ったのですか。

啓示が下ったとき、母はかの女に、立ってアッラーの使徒 ﷺ に感謝するよう言いました。アーイシャは、自分の潔白を下されたアッラー以外の誰も讃えないと言いました（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。これは敬意が足りないしるしではなく、タウヒード（唯一神信仰）に対する誠実さです。弁護はただアッラーからのみ来たのです。

4. 刑罰を受けたのは誰ですか。

『スナン・アビー・ダーウード』は、節が下った後に二人の男と一人の女が刑罰を受けたと述べています（『スナン・アビー・ダーウード』4474）。スィーラの伝承はかれらの名をミスタフ、ハッサーン、ハムナとしています。イブン・ウバイも鞭打たれたかどうかについては意見が分かれています（第 17 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. サフワーン・ブン・アル＝ムアッタルはその後どうなったのですか。

かれは一人の女性の衣も開いたことがないと誓い、アーイシャは、かれがその後アッラーの道で殺されたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』4141）。殉教の場所と年については、伝記の書の間で意見が分かれています。

6. 「善い女は善い男に」（24:26）とはどういう意味ですか。

イブン・カスィールはイブン・アッバースから、悪い言葉は悪い人にふさわしく、善い言葉は善い人にふさわしいという解釈を引いています。この節はまた、アッラーが、最も善い人であるアッラーの使徒 ﷺ の妻に、善い女性以外の者を置かれることはないことを示しています（イブン・カスィール注釈 24:26）。

7. リアーンの節（24:6–9）はイフク事件のために下ったのですか。

いいえ。リアーンの節は、自分の妻を告発した夫について下ったもので、ヒラール・ブン・ウマイヤの話（『サヒーフ・ブハーリー』4747）とウワイミル・アル＝アジュラーニーの話に関わります。イフクの節は 24:11–26 です。

8. なぜミスタフやハッサーンのような善良な教友までが影響されたのですか。

教友たちも過ちを犯すことのある人間でした。かれらは罰を受け、悔い改め、その過ちがかれらの美徳を消し去ることはありませんでした。預言者 ﷺ は、罪を犯して現世で罰を受けた者には、その罰が償いになると仰せられました（『サヒーフ・ブハーリー』18）。

9. 今日アーイシャを告発する者について、アフル・アッ＝スンナの立場は何ですか。

イブン・カスィールは、これらの節が下った後にアーイシャをその告発で非難する者は、クルアーンに背くことになるため不信仰者であると学者たちが一致していると述べています（イブン・カスィール注釈 24:23）。これは啓示を否定することにつ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

いての学問的な立場です。他の人々に対する私たちの態度は、あくまで呼びかけと英知と作法によるものです。

10. この告発の禁止はアーイシャだけに限られるのですか。

いいえ。24:23 の節は、名誉を守っているすべての信者の女性に対する一般的なものであり、かの女たちを告発することは人を滅ぼす七つの罪の一つです（『サヒーフ・ブハーリー』2766）。イブン・カスィールは、アーイシャは節が下った原因であり、その規定は同じようなすべての人に及ぶと述べています。

11. 関わった教友たちについて、私たちはどのような作法で語るべきですか。

敬意をもって語ります。ミスタフはバドルの戦士、ハッサーンはアッラーの使徒 ﷺ を擁護した詩人、ハムナは信者たちの母の姉妹です。アーイシャ自身が、人々がハッサーンをののしることを禁じました（第 19 章）。私たちはかれらの過ちを、かれらをおとしめるためではなく、教訓として語るのです。

12. 私たち自身が中傷されたら、どうすべきですか。

アーイシャのように「美しい忍耐」で耐えること（第 13 章）、中傷に中傷で返さないこと、必要なら落ち着いて真実を説明すること、そして弁護をアッラーに委ねることです。アッラーは仰せられます。「それをあなたがたにとって悪いことだと思ってはならない。いや、それはあなたがたにとって善いことなのである」（光章 24:11）。

教訓

イフク事件は多くの問いを生みますが、その答えはクルアーン、真正なハディース、そして学者たちの説明に帰ります。聖典の明文と学者たちの見解を区別することで、私たちはこの出来事を、落ち着いて、公正に、そしてアッラーの使徒 ﷺ の家族と教友たちに対する作法をもって理解することができるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

イフク事件は、アッラーの使徒 ﷺ の生涯の中で最も個人的な試練でした — 使徒の**家庭**に触れる試練だったのです。しかしそこから、審判の日までウンマの名誉を守る節々が生まれました。

教訓	イフク事件から
勝利の中の慈悲	ジュワイリーヤと百の家族の解放
アサビーヤを退ける	「それをやめなさい、それは腐っている」
アッラーは正しい者を弁護される	ザイド・ブン・アルカムとアーイシャの正しさが認められた
試練に向き合う作法	アーイシャは座って待ち、サフワーンは沈黙した
良い推測と証拠	光章 24:12–13
舌を慎む	光章 24:15–16；ブハーリー 6478
美しい忍耐	「ファサブルン・ジャミール」（12:18）
赦すこと	アブー・バクルとミスタフ（24:22）
困難が善をもたらす	「いや、それはあなたがたにとって善いことなのである」（24:11）

私たちの生活の中のイフク

私たちは毎日、他人についての知らせを受け取っています — コーヒーショップで、礼拝所で、携帯電話で。この物語は私たちに、良く推測した**アブー・アイユーブ**、競争相手に対してさえ舌を慎んだ**ザイナブ**、赦した**アブー・バクル**、そしてアッラーに頼りながら耐え忍んだ**アーイシャ**のようになることを教えています — **知らせを舌で受け取る**人々のようにではなく。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イン・シャー・アッラー、『**預言者伝**』シリーズは**第 15 巻 —** アッラーの使徒 ﷺ の呼びかけの旅の、続く出来事 — へと続きます。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存じです）。

第 14 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『クルアーン大注釈（タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム）』（食卓章 5:6；ユースフ章 12:18；光章 24:4–26；部屋章 49:6；偽信者章 63:1–8）。https://tafsir.app/ibn-katheer/24/11

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』334、2541、3768、3770、4141、4143、4144、4145、4146、4753、4900、4905、6478、7370。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』序論 5；1730、2140、2447、2770、2772、2988。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3315；『スナン・アビー・ダーウード』3931、4474。https://sunnah.com

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— ムスタリク族とイフクの章。

イブン・サアド『タバカート』；アル＝ワーキディー『マガーズィー』。

サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム』— ムスタリク族の章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー：サヒーフ・ブハーリー注釈』— イフクのハディース（第 4141 番）。

科学

Vosoughi, S., Roy, D. & Aral, S. (2018). The spread of true and false news online. Science, 359(6380), 1146–1151. https://doi.org/10.1126/science.aap9559

Wikipedia「Invasion of Banu Mustaliq」。https://en.wikipedia.org/wiki/Invasion_of_Banu_Mustaliq

Wikipedia「Aisha」。https://en.wikipedia.org/wiki/Aisha

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4750；『サヒーフ・ムスリム』2770（イフクのハディースの別の伝承）。https://sunnah.com/bukhari:4750

『サヒーフ・ブハーリー』2766（人を滅ぼす七つの罪）。https://sunnah.com/bukhari:2766

『サヒーフ・ブハーリー』6241（視線のために許しを求めること）。https://sunnah.com/bukhari:6241

『サヒーフ・ブハーリー』6245（三度許しを求めること）。https://sunnah.com/bukhari:6245

『サヒーフ・ブハーリー』3772、3775（アーイシャの美徳）。https://sunnah.com/bukhari:3775

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3883（教友たちはアーイシャに尋ねた）。https://sunnah.com/tirmidhi:3883

『サヒーフ・ブハーリー』4747（リアーンの節、ヒラール・ブン・ウマイヤの話）。https://sunnah.com/bukhari:4747

『サヒーフ・ブハーリー』18（現世の罰は償いとなる）。https://sunnah.com/bukhari:18

イブン・カスィール注釈、光章 24:23 と 24:26。https://tafsir.app/ibn-katheer/24/23

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

支援と寄付

この電子書籍は、ムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売されるものではありません。**研究、ウェブサイト quranscience.my の運営、今後の電子書籍の出版の費用のためのご寄付を心より歓迎いたします。ただし寄付は**義務ではありません。**アッラーがすべてのご寄付を、絶えることのない施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば，ちょうど 1 粒が 7 穂を付け，1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に，倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

日本語訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。「本当にわたしの主は，そのしもべの中から御心に適う者に，御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。」

日本語訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。アッラーは、赦す僕に尊厳しか増し加えられない。そして、アッラーのためにへりくだる者は誰であれ、アッラーがその位を高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・礼儀の書（キターブ・ル＝ビッル・ワ・ッ＝スィラ・ワ・ル＝アダブ）、赦しと謙虚さの奨励の章、ハディース第 2588 番。

判定： サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは途絶える。ただし三つを除いて。絶えることのない施し、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書（キターブ・ル＝ワスィーヤ）、死後に人に届く報いの章、ハディース第 1631 番。

判定： サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：https://sunnah.com/muslim:1631

Jazakumullahu Khairan Kathira



上の QR コード（DuitNow、マレーシア）を読み取ってご寄付ください。

海外からのご寄付：上の PayPal QR コードを読み取るかクリックするか、次をご覧ください
paypal.me/quranscience

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |